

— 嘉瀬川ダム建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 5 —

小ヶ倉遺跡 入道遺跡 九郎遺跡



平成 23 (2011) 年 3 月

佐賀県教育委員会

— 嘉瀬川ダム建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 5 —

小ヶ倉遺跡
入道遺跡
九郎遺跡

小ヶ倉遺跡 入道遺跡 1 区 九郎遺跡 1 ～ 3 区

平成 23（2011）年 3 月

佐賀県教育委員会

序

本書は、国土交通省九州地方整備局による嘉瀬川ダム建設事業に伴い、佐賀県教育委員会が実施している埋蔵文化財発掘調査の記録をまとめたものです。

今回の報告は、小ヶ倉遺跡、入道遺跡と九郎遺跡に関するもので、縄文時代の集落跡、中世の集落跡等を調査しました。いずれも地域の歴史を物語る貴重な資料であり、先人の生活や文化を偲ばせるものです。

本書が学術文化の向上に幾分なりとも寄与し、併せて地域の歴史を学ぶ資料のひとつとして生涯教育や学校教育の場で活用されるものになれば幸いに存じます。

発刊にあたり、埋蔵文化財の保護に深い御理解と多大な御協力を賜った国土交通省嘉瀬川ダム工事事務所並びに関係各位に対し衷心より厚くお礼申し上げ、御挨拶といたします。

平成23年3月

佐賀県教育委員会
教育長 川崎俊広

例 言

- 1 本書は、嘉瀬川ダム建設事業に伴い佐賀県教育委員会が平成 18・19 年度に実施した佐賀市富士町所在の小ヶ倉遺跡・入道遺跡 1 区・九郎遺跡 1～3 区の発掘調査報告書で、嘉瀬川ダム建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書の第 5 冊である。
- 2 発掘調査は、佐賀県教育委員会が主体となり、国土交通省九州地方整備局嘉瀬川ダム工事事務所の委託を受けて実施した。
- 3 発掘調査にあたっては、国土交通省九州地方整備局嘉瀬川ダム工事事務所、佐賀県土木部ダム対策課・河川砂防課ダム対策室（現・佐賀県県土づくり本部水資源対策課）、富士町教育委員会（現・佐賀市教育委員会）、富士町ダム対策課（現・佐賀市富士支所嘉瀬川ダム対策課）、並びに地元各位の協力を得た。
- 4 本書の表紙と写真図版の一部に用いた平成 4 年撮影の航空写真は、嘉瀬川ダム工事事務所から提供を受けた。
- 5 九郎遺跡 1 区については、平成 7 年度当時の富士町教育委員会により一部発掘調査が行われたが、同じ嘉瀬川ダム建設に伴う調査であり、隣接する調査区と一連の内容であるため、嘉瀬川ダム工事事務所・佐賀市教育委員会と協議のうえ併せて報告することとし、富士町教育委員会調査分を 1A 区とした。
- 6 小ヶ倉遺跡・入道遺跡 1 区・九郎遺跡 1～3 区の現地調査から報告書作成までの作業に従事したものは下記のとおりである。

発掘作業：	嬉野サツキ	岡本和子	岡本君子	小副川千代恵	貝野啓子
	嘉村末人	坂口久江	佐保マリ子	下津浦理恵	庄島信子
	園田公子	時松紗喜子	中田政信	納富弘子	東川福代
	藤田一雄	豆田正秀	丸山民江	吉原俊輔	吉原文代
	吉原松美	吉原美智子	糸山禎一	岩熊素子	内川さつき
	嬉野みつ代	遠藤啓輔	川原トシ子	北島裕司	坂井和子
	坂井義人	實松政秀	澤田健吉	重松敏行	千綿一夫
	千綿伸義	野田恵美子	真崎政嗣	丸内隆康	三角憲一郎
	光武宣子	藤井千枝子	古川 勲	杠 義臣	横尾和夫
	新井英雄	荒木聖剛	井手口 昇	江口敏郎	江 崙 章
	柿本由紀子	古賀芳子	幸山 巖	末次貞亮	副島正義
	下川利信	下村静雄	竹下政征	長 清一	鶴丸仁之
	長倉眞美子	中山隼人	野口節子	野中賢之	野中静枝
	松藤孝幸	諸角敏子	山口道雄	山口裕二	山口榮次
	吉岡泰士	吉成哲夫			
遺構実測：	市田佳奈子	内田真一郎	嬉野サツキ	嬉野みつ代	加藤吾郎
	柿本由紀子	渋谷 格	下津浦理恵	白木原 宜	時松紗喜子
	戸塚洋輔	長倉眞美子	野田美恵子	森幸一郎	
	(株)埋蔵文化財サポートシステム				
遺構写真撮影：	井上倫生	内田真一郎	加藤吾郎	渋谷 格	白木原 宜
	戸塚洋輔	森幸一郎			
遺跡空中写真撮影：	(有)空中写真企画		九州航空(株)		
遺物整理：	植木玲子	坂本明子	佐保敦子	重田正子	柴村悦子

	谷澤裕美	堀田香澄	松尾三枝子		
遺物実測：	一番ヶ瀬富士子	江島美恵子	江副朋子	桑原廣子	指山美江子
	渋谷 格	上瀧光子	鶴田啓子	徳永智恵子	兵動美紀
	村里育子	山浦美香	渡部芳久	(株)埋蔵文化財サポートシステム	
整図（デジタルトレース）：		藤井菜穂子	(株)とっぺん	(株)埋蔵文化財サポートシステム	
遺物写真撮影：	渋谷 格				
写真整理・編集：	市田佳奈子	江副朋子	奥 知恵子	藤井菜穂子	村里育子
調査記録整理：	小ヶ倉遺跡）遺構：市田佳奈子				
	遺物：市田佳奈子・渋谷 格・徳永貞紹				
	入道遺跡）遺構：市田佳奈子				
	遺物：市田佳奈子・渋谷 格				
	九郎遺跡）遺構：内田真一郎・白木原 宜・渋谷 格・戸塚洋輔・森幸一郎				
	遺物：市田佳奈子・渋谷 格				

7 本書の編集は藤井菜穂子の協力を得て渋谷 格が行った。執筆分担は下記のとおりである。

第1章、第2章：徳永貞紹・渋谷 格

第3章、第4章、第5章：渋谷 格

第6章：パレオ・ラボ AMS 年代測定グループ

8 小ヶ倉遺跡・入道遺跡1区・九郎遺跡1～3区の整理・報告にあたって、下記の方々から御教示・御協力をいただいた。

家田淳一	大橋康二	小松 譲	徳永貞紹	西田和己	東中川忠美
廣瀬雄一	藤原友子	宮武正登	森田孝志	(五十音順)	

本書の記載方法

1 嘉瀬川ダム建設に伴う埋蔵文化財発掘調査の対象遺跡には英大文字 3 文字の略号を与え、実測図・写真等の記録類や出土遺物の注記等に使用している。本書で報告する小ヶ倉遺跡は K K A、入道遺跡は N Y D、九郎遺跡は K R O の略号で示される。

2 個々の遺構名は、遺構の種別を表す英大文字 2 文字の分類記号（下記参照）と 4 桁の遺構番号の組み合わせで示す。遺構番号の千の位には、各遺跡の地区名を示す数字を付けている。

なお、小穴・柱穴は遺物の出土したものに限り、P の略号を用いて他の遺構とは別個の遺構番号を与えている。このうち掘立柱建物や柵列などの遺構を構成するものについては英大文字を用いて P A、P B、... の要領で示し、それ以外の柱穴・小穴については算用数字 4 桁の一連番号を付け、千の位で地区名を示す。

S A：柵列・堀・土塁・石塁	S B：掘立柱建物・礎石建物	S C：石棺墓・石蓋土坑墓
S D：堀・溝・流路	S E：井戸	S F：道路
S H：竪穴住居・竪穴建物	S J：甕棺墓・土器棺墓	S K：土坑
S P：土坑墓・木棺墓	S T：古墳・その他の墳墓	S X：その他・不明遺構

3 出土遺物の〇〇形土器は、〇〇とのみ表現する。例）甕形土器→甕

4 実測した出土遺物には 8 桁の遺物登録番号を 1 点ずつ付し、挿図中には各章ごとでの通し番号を付した。

5 表で示した出土遺物の計測値は、復元値に *、残存値に + を付けて表現する。表中の MF は微細剥離痕ある剥片、RF は二次加工ある剥片を意味する。

6 平成 14 年 4 月に改正測量法が施行されたが、調査時の記録類は全て日本測地系による旧国土座標であることから、混乱を回避するため、嘉瀬川ダム建設事業に伴う文化財発掘調査では今のところ世界測地系による座標を使用していない。

本書で示す方位は旧国土座標第Ⅱ系の座標北で、磁北はこれより西偏約 6° 30' である。

7 出土遺物に関して、本文・表中で記述の煩雑さを避けるため下記の分類・編年を使用・参照したものがある。

また、近世陶磁に関して佐賀県立九州陶磁文化館の家田淳一氏より多くのご教示を賜った。

・中世前期の中国陶磁：

太宰府市教育委員会（2000）『大宰府条坊跡 X V—陶磁器分類編—』太宰府市の文化財第 49 集

・中世後期の中国陶磁：

森田 勉（1982）「14～16 世紀の白磁の型式分類と編年」『貿易陶磁研究』No. 2 日本貿易陶磁研究会

上田秀夫（1982）「14～16 世紀の青磁碗の分類」『貿易陶磁研究』No. 2 日本貿易陶磁研究会

小野正敏（1982）「15、16 世紀の染付碗、皿の分類とその年代」『貿易陶磁研究』No. 2 日本貿易陶磁研究会

・中世の土器鍋：

徳永貞紹（1990）「肥前における中世後期の在地土器」『中近世土器の基礎研究 VI』日本中世土器研究会

目次

本文目次

第1章 調査の経過	1
1 調査の経緯	1
2 調査組織	1
3 発掘調査の経過	2
第2章 位置と環境	7
1 地理的環境	7
2 歴史的環境	8
第3章 小ヶ倉遺跡	14
1 小ヶ倉遺跡の概要	14
2 旧石器～縄文時代の遺物	18
1) A区旧石器～縄文時代の遺物	25
2) E区旧石器～縄文時代の遺物	26
3) F区縄文時代の遺物	30
4) B区縄文時代の遺物	30
5) C区縄文時代の遺物	35
6) G区縄文時代の遺物	46
3 古墳時代以降の遺物	59
4 まとめ	63
1) 出土遺物について	63
2) 縄文時代の集落について	64
第4章 入道遺跡1区	68
1 入道遺跡1区の概要	68
2 1区の遺構と遺物	73
1) 遺構	73
2) 遺物	73
3 まとめ	83

第5章 九郎遺跡1～3区	86
1 九郎遺跡1～3区の概要	86
2 1区の遺構と遺物	89
1) 1区の概要	89
2) 1A区縄文時代の遺構と遺物	91
3) 1B区縄文時代の遺構と遺物	114
4) 1C区縄文時代の遺構と遺物	170
5) 1区中世～近世の遺物	196
3 2区の遺構と遺物	198
1) 2区の概要	198
2) 2a・b区の遺構と遺物	198
3) 2c区の遺構と遺物	204
4) 2区その他の遺構と遺物	210
4 3区の遺構と遺物	216
1) 3区の概要	216
2) 3区縄文時代の遺物	216
3) 3区中世の遺構と遺物	230
4) 3区近世の遺構と遺物	241
5 まとめ	252
1) 1区縄文時代について	252
2) 2区中世～近世について	253
3) 3区中世～近世について	253
第6章 自然科学分析	256
1 九郎遺跡・小ヶ倉遺跡・入道遺跡出土縄文時代資料の放射性炭素年代測定	256
1) はじめに	256
2) 試料と方法	256
3) 結果	256
4) 考察	257

挿図目次

図 1	嘉瀬川ダム水没地区周辺と埋蔵文化財調査地区 (1/25,000)	3
図 2	入道遺跡・小ヶ倉遺跡・九郎遺跡の位置 (1/600,000)	9
図 3	嘉瀬川ダム建設予定地周辺の遺跡 (1/100,000)	10
図 4	小ヶ倉遺跡周辺の地形 (1/5,000)	15
図 5	小ヶ倉遺跡主要部の地形 (1/1,500)	16
図 6	小ヶ倉遺跡調査区の位置 (1/1,000)	17
図 7	A・E・F区旧石器・縄文時代遺物の平面分布 (1/250)	19
図 8	F区の土層 (1/60)	20
図 9	E区の土層 (1/60)	21
図 10	A区・試掘坑 13 の土層 (1/60)	22
図 11	A・E・F区縄文時代土器の平面分布 (1/250)	23
図 12	A・E・F区旧石器・縄文時代石器の平面分布 (1/250)	24
図 13	A区出土縄文時代の土器 (1/3)	25
図 14	A区出土旧石器・縄文時代の石器 (8～17 は 2/3、18・19 は 1/2、20・21 は 1/3)	27
図 15	E区出土縄文時代の土器 (1/3)、旧石器・縄文時代の石器 (24～39 は 2/3、40～45 は 1/2)	28
図 16	E区出土縄文時代の石器 (1/2)	29
図 17	F区出土縄文時代の土器 (1/3)、旧石器・縄文時代の石器 (60～70 は 2/3、71～74 は 1/2)	31
図 18	F区出土縄文時代の石器 (75～80 は 1/2、81 は 1/3)	32
図 19	B区縄文時代遺物の平面分布 (1/200)、土層 (1/60)	33
図 20	B区縄文時代土器・石器の平面分布 (1/200)	34
図 21	B区出土縄文時代の土器 (1/3)	35
図 22	B区出土縄文時代の石器 1 (87～96 は 2/3、97～101 は 1/2)	36
図 23	B区出土縄文時代の石器 2 (102～104 は 1/3、105・106 は 1/4)	37
図 24	C区縄文時代遺物の平面分布 (1/200)、土層 (1/60)	38
図 25	C区縄文時代土器の平面分布 (1/200)、土器・石器の垂直分布 (1/60)	39
図 26	C区縄文時代石器の平面分布 (1/200)	40
図 27	C区下層縄文時代石核・剥片の平面分布 (1/200)	41
図 28	C区出土縄文時代の土器 (1/3)・石器 1 (110～114 は 2/3、115～117 は 1/2)	42
図 29	C区出土縄文時代の石器 2 (1/2)	43
図 30	C区出土縄文時代の石器 3 (2/3・1/2)	44
図 31	C区出土縄文時代の石器 4 (147 は 1/3、他は 1/2)	45
図 32	G区縄文時代遺物の平面分布 (1/250)	47
図 33	G区の土層 (1/60)	48
図 34	G区縄文時代土器の平面分布 (1/250)	49
図 35	G区縄文時代石器の平面分布 (1/250)	50
図 36	G区出土縄文時代の土器 (1/3)・石器 1 (162～171 は 2/3、172・173 は 1/2)	51
図 37	G区出土縄文時代の石器 2 (174～176 は 1/2、177 は 1/5)	52
図 38	古墳時代～近世の出土遺物 (1/3)	60

図 39	近世以降の遺物（190～207 は 1/3、208 は 1/2）	61
図 40	盗入岩洞穴遺跡出土 1 類土器（1/3）	63
図 41	入道遺跡周辺の地形（1/5,000）	69
図 42	入道遺跡 1 区の位置（1/2,000）	70
図 43	1 区遺構・遺物の平面分布（1/125）	71
図 44	1 区の土層（1/60）・土器類の垂直分布（1/80）	72
図 45	SX1001（1/20）	73
図 46	1 区縄文時代土器の分布（1/125）	75
図 47	1 区旧石器・縄文時代石器の平面分布（1/125）	76
図 48	1 区縄文時代石核・剥片の平面分布（1/125）	77
図 49	1 区出土縄文時代の土器（1/3）・石器 1（2/3）	78
図 50	1 区出土縄文時代の石器 2（23～28 は 2/3、29～36 は 1/2）	79
図 51	1 区出土旧石器・縄文時代の石器（37～54 は 2/3、55 は 1/2）、近世の陶器（1/3）	80
図 52	九郎遺跡周辺の地形（1/5,000）	87
図 53	九郎遺跡 1・2 区の位置（1/2,000）	88
図 54	1A・B 区縄文時代遺構の分布（1/300）	90
図 55	1A 区縄文時代遺構の分布（1/150）	91
図 56	1A 区の土層（1/60）	92
図 57	1A 区縄文時代の遺構（1/20・1/30・1/60）	94
図 58	1A 区縄文時代遺物の平面分布（1/250）	95
図 59	1A 区縄文時代土器・定形石器の平面分布（1/250）	96
図 60	1A 区出土縄文時代の土器 1（1/3）	98
図 61	1A 区出土縄文時代の土器 2（1/3）	99
図 62	1A 区出土縄文時代の土器 3（1/3）	100
図 63	1A 区出土縄文時代の土器 4（1/3）	101
図 64	1A 区出土縄文時代の石器 1（2/3）	103
図 65	1A 区出土縄文時代の石器 2（2/3）	104
図 66	1A 区出土縄文時代の石器 3（132～136 は 2/3、137～145 は 1/2）	105
図 67	1A 区出土縄文時代の石器 4（1/2）	106
図 68	1A 区出土縄文時代の石器 5（156～163 は 1/2、164～166 は 1/3）	107
図 69	1B 区縄文時代遺構の分布（1/150）	115
図 70	1B 区の土層（1/60）	116
図 71	1B 区縄文時代の遺構 1（1/20・1/30）	117
図 72	1B 区縄文時代の遺構 2（1/20）	118
図 73	1B 区縄文時代の遺構 3（1/20）	120
図 74	1B 区縄文時代の遺構 4（1/20）	121
図 75	1B 区縄文時代の遺構 5（1/20）	122
図 76	1B 区縄文時代の遺構 6（1/20）	124
図 77	1B 区縄文時代の遺構 7（1/20）	125
図 78	1B 区縄文時代土器の平面分布（1/250）	127

図 79	1B 区縄文時代土器類別の平面分布 (1/250)	128
図 80	1B 区出土縄文時代の土器 1 (1/3)	129
図 81	1B 区出土縄文時代の土器 2 (1/3)	130
図 82	1B 区出土縄文時代の土器 3 (1/3)	131
図 83	1B 区出土縄文時代の土器 4 (1/3)	132
図 84	1B 区出土縄文時代の土器 5 (1/3)	133
図 85	1B 区出土縄文時代の土器 6 (1/3)	134
図 86	1B 区出土縄文時代の土器 7 (1/3)	135
図 87	1B 区出土縄文時代の土器 8 (1/3)	136
図 88	1B 区縄文時代石器の平面分布 (1/250)	137
図 89	1B 区縄文時代定形石器の平面分布 1 (1/250)	138
図 90	1B 区縄文時代定形石器の平面分布 2 (1/250)	139
図 91	1B 区出土縄文時代の石器 1 (2/3)	141
図 92	1B 区出土縄文時代の石器 2 (2/3)	142
図 93	1B 区出土縄文時代の石器 3 (2/3)	143
図 94	1B 区出土縄文時代の石器 4 (2/3)	144
図 95	1B 区出土縄文時代の石器 5 (2/3)	145
図 96	1B 区出土縄文時代の石器 6 (2/3)	146
図 97	1B 区出土縄文時代の石器 7 (2/3)	147
図 98	1B 区出土縄文時代の石器 8 (477 ~ 482 は 2/3、483 ~ 491 は 1/2)	148
図 99	1B 区出土縄文時代の石器 9 (1/2)	149
図 100	1B 区出土縄文時代の石器 10 (1/2)	150
図 101	1B 区出土縄文時代の石器 11 (1/2)	151
図 102	1B 区出土縄文時代の石器 12 (1/2)	152
図 103	1B 区出土縄文時代の石器 13 (1/2)	153
図 104	1B 区出土縄文時代の石器 14 (538 ~ 540 は 1/2、541 ~ 545 は 1/3)	154
図 105	1B 区出土縄文時代の石器 15 (1/3)	155
図 106	1B 区出土縄文時代の石器 16 (552 は 1/1、他 1/3)	156
図 107	1B 区出土縄文時代の石器 17 (1/3)	157
図 108	1C 区の土層 (1/60)	171
図 109	1C 区縄文時代の遺構 (1/20)	172
図 110	1C 区縄文時代土器の平面分布 (1/250)	173
図 111	1C 区縄文時代土器類別の平面分布 (1/250)	174
図 112	1C 区出土縄文時代の土器 1 (1/3)	175
図 113	1C 区出土縄文時代の土器 2 (1/3)	176
図 114	1C 区出土縄文時代の土器 3 (1/3)	177
図 115	1C 区出土縄文時代の土器 4 (1/3)	178
図 116	1C 区出土縄文時代の土器 5 (1/3)	179
図 117	1C 区縄文時代石器の平面分布 (1/250)	180
図 118	1C 区縄文時代定形石器の平面分布 (1/250)	181

図 119	1C 区出土縄文時代の石器 1 (2/3)	183
図 120	1C 区出土縄文時代の石器 2 (2/3)	184
図 121	1C 区出土縄文時代の石器 3 (2/3)	185
図 122	1C 区出土縄文時代の石器 4 (1/2)	186
図 123	1C 区出土縄文時代の石器 5 (715 ~ 717 は 1/2、718 ~ 720 は 1/3)	187
図 124	1C 区出土縄文時代の石器 6 (721 ~ 724 は 1/2、725・726 は 1/3、727・728 は 1/1)	188
図 125	1C 区出土縄文時代の石器 7 (729 は 1/2、730 ~ 733 は 1/3)	189
図 126	1 区出土中世～近世の遺物 (1/3)	196
図 127	2 区の調査範囲 (1/1,000)	199
図 128	2 a・b 区遺構の分布 (1/200)	200
図 129	2 a・b 区の完掘状況 (1/200)	201
図 130	2 a・b 区の土層 (1/60)	202
図 131	2 a 区の遺構 (1/60)	203
図 132	2 a・b 区出土の遺物 (1/3)	205
図 133	2 c 区遺構の分布 (1/150)	206
図 134	2 c 区の遺構 1 (1/40)	207
図 135	2 c 区の遺構 2 (1/60)	208
図 136	2 c 区出土の遺物 1 (1/3)	209
図 137	2 c 区出土の遺物 2 (1/3)	210
図 138	試掘坑 5・6 (1/60)	211
図 139	2 区出土の遺物 (1/3・2/3)	212
図 140	九郎遺跡 3 区の位置 (1/2,000)	217
図 141	3 区出土縄文時代の土器 (1/3)	218
図 142	3 区出土縄文時代の石器 1 (1/2)	219
図 143	3 区出土縄文時代の石器 2 (1/2)	220
図 144	3 区中世～近世遺構の分布 (1/800)	223
図 145	3 区中世～近世遺構の分布詳細 1 (1/300)	224
図 146	3 区中世～近世遺構の分布詳細 2 (1/300)	225
図 147	3 区中世～近世遺構の分布詳細 3 (1/300)	226
図 148	3 区中世～近世遺構の分布詳細 4 (1/300)	227
図 149	3 区中世～近世遺構の分布詳細 5 (1/300)	228
図 150	3 区中世～近世遺構の分布詳細 6 (1/200)	229
図 151	3 区中世の鍛冶関連遺構 1 (1/30)	231
図 152	3 区中世の鍛冶関連遺構 2 (1/20・1/40)	232
図 153	3 区中世の掘立柱建物 (1/60)	234
図 154	3 区中世の掘立柱建物・柵列 (1/60)	235
図 155	3 区中世の土坑墓 (1/20)	236
図 156	3 区出土中世の遺物 1 (1/3)	237
図 157	3 区出土中世の遺物 2 (1/3)	238
図 158	3 区近世の遺構 (1/40・1/80)	242

図 159	3区出土近世の遺物 1 (1/3)	244
図 160	3区出土近世の遺物 2 (1/3)	245
図 161	3区出土近世の遺物 3 (1/3)	246
図 162	3区出土近世の遺物 4 (1/3)	247
図 163	3区出土近世の遺物 5、石製品 (1009 ~ 1021 は 1/3、1022 ~ 1026 は 1/2、1027 は 1/5)	248
図 164	暦年較正結果	259
図 165	放射性炭素年代測定資料を採集した土器 (1/4)	260

表目次

表 1	嘉瀬川ダム建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査	2
表 2	小ヶ倉遺跡縄文時代の出土土器	53
表 3	小ヶ倉遺跡旧石器・縄文時代の出土石器	54
表 4	小ヶ倉遺跡古墳時代以降の出土遺物	62
表 5	入道遺跡 1区縄文時代・近世の出土土器・陶器	81
表 6	入道遺跡 1区旧石器・縄文時代の出土石器	81
表 7	九郎遺跡 1A区縄文時代の出土土器	108
表 8	九郎遺跡 1A区縄文時代の出土石器	111
表 9	九郎遺跡 1B区縄文時代の出土土器	158
表 10	九郎遺跡 1B区縄文時代の出土石器	161
表 11	九郎遺跡 1C区縄文時代の出土土器	190
表 12	九郎遺跡 1C区縄文時代の出土石器	192
表 13	九郎遺跡 1区中世～近世の出土遺物	197
表 14	九郎遺跡 2区の出土遺物	213
表 15	九郎遺跡 3区縄文時代の出土土器	221
表 16	九郎遺跡 3区縄文時代の出土石器	221
表 17	九郎遺跡 3区中世の出土遺物	239
表 18	九郎遺跡 3区近世の出土遺物	249
表 19	測定試料及び処理	256
表 20	放射性炭素年代測定及び暦年較正の結果	257

写真図版目次

写真図版 1	嘉瀬川ダム予定地周辺（真俯瞰合成）	263
写真図版 2	小ヶ倉遺跡遠景（東から）	264
写真図版 3	調査前風景（西から）	265
	調査前風景（南西から）	
写真図版 4	A区 円筒形刺突文土器出土状況（北東から）	266
	C区 石槨出土状況（南から）	
	C区 完掘状況（西から）	
写真図版 5	A区 円筒形刺突文土器出土状況（南西から）	267
	A区 押型文土器出土状況	
	A区 円筒形刺突文土器出土状況（北東から）	
	A区 完掘状況（北西から）	
	A区 b層検出状況（北西から）	
	E区 土層（北西から）	
	A区 土層（北西から）	
	E区 土層（西から）	
写真図版 6	E区 完掘状況（北西から）	268
	F区 土層（北から）	
	E区 作業状況（東から）	
	B区 異形石器出土状況	
	F区 東半部完掘状況（南西から）	
	B区 土層（北西から）	
	F区 完掘状況（南東から）	
	B区 完掘状況（南東から）	
写真図版 7	C区 石槨出土状況と土層（南から）	269
	C区 土層（西から）	
	C区 完掘状況（南から）	
	G区 土層（北から）	
	G区 全景（東から）	
	G区 台石出土状況	
	C区 石槨・石鏃出土状況	
	G区 石斧出土状況	
写真図版 8	出土遺物 1	270
写真図版 9	出土遺物 2	271
写真図版 10	出土遺物 3	272
写真図版 11	出土遺物 4	273
写真図版 12	出土遺物 5	274
写真図版 13	出土遺物 6	275
写真図版 14	出土遺物 7	276
写真図版 15	出土遺物 8	277
写真図版 16	入道遺跡遠景（南から）	279
写真図版 17	1区 遠景（南西から）	280
	1区 完掘状況（北から）	
	1区 SX1011 検出状況（南から）	
写真図版 18	1区 遠景（北東から）	281
	1区 SX1011（南から）	
	1区 土層（北西から）	
	1区 SX1011（北から）	
	1区 遺物出土状況（北東から）	
	1区 SX1011 完掘状況（北から）	
	1区 石鏃出土状況	
	1区 作業風景（西から）	
写真図版 19	1区 出土遺物 1	282
写真図版 20	1区 出土遺物 2	283
写真図版 21	九郎遺跡遠景（東から）	285
写真図版 22	1区 全景（北東から）	286
	1B区 全景（南から）	

写真図版 23	1A 区 SX1001 土器出土状況（南東から） 1A 区 SX1004 完掘状況（西から） 1A 区 SX1004 検出状況（北東から） 1A 区 SX1001（南西から）	1A 区 C-D 土層（東から） 1A 区 遠景（南西から） 1A 区 全景（南西から） 1A 区 SX1005（北東から）	287
写真図版 24	1A 区出土縄文時代の遺物 1		288
写真図版 25	1A 区出土縄文時代の遺物 2		289
写真図版 26	1A 区出土縄文時代の遺物 3		290
写真図版 27	1A 区出土縄文時代の遺物 4		291
写真図版 28	1B 区 完掘状況（西から） 1B 区 SX1117 検出状況（東から） 1B 区 SX1120 検出状況（南から）		292
写真図版 29	1B 区 SX1101 検出状況（南西から） 1B 区 北東部完掘状況（西から） 1B 区 SX1105 検出状況（南東から） 1B 区 SX1101 完掘状況（南から）	1B 区 SX1104 検出状況（南東から） 1B 区 SX1106（北から） 1B 区 A-B 土層東部（北から） 1B 区 SX1107（南西から）	293
写真図版 30	1B 区 SX1108（北西から） 1B 区 SX1110（東から） 1B 区 SX1111 検出状況（北から） 1B 区 SX1112 下層（北西から）	1B 区 SX1111 下層（南から） 1B 区 SX1115（東から） 1B 区 SX1109（北東から） 1B 区 SX1116（南東から）	294
写真図版 31	1B 区 SX1117 下層（西から） 1B 区 異形石器出土状況 1B 区 SX1120 完掘状況（西から） 1B 区 押型文土器出土状況	1B 北区 完掘状況（北東から） 1B 区 SX1119（西から） 1B 区 土器出土状況 1B 区 SX1118（西から）	295
写真図版 32	1B 区出土縄文時代の遺物 1		296
写真図版 33	1B 区出土縄文時代の遺物 2		297
写真図版 34	1B 区出土縄文時代の遺物 3		298
写真図版 35	1B 区出土縄文時代の遺物 4		299
写真図版 36	1B 区出土縄文時代の遺物 5		300
写真図版 37	1B 区出土縄文時代の遺物 6		301
写真図版 38	1B 区出土縄文時代の遺物 7		302
写真図版 39	1B 区出土縄文時代の遺物 8		303
写真図版 40	1B 区出土縄文時代の遺物 9		304
写真図版 41	1B 区出土縄文時代の遺物 10		305
写真図版 42	1B 区出土縄文時代の遺物 11		306
写真図版 43	1B 区出土縄文時代の遺物 12		307
写真図版 44	1C 区 全景（北から） 1C 区 遠景（北から） 1C 区 全景（南西から）		308
写真図版 45	1C 区 A-B 土層（北西から） 1C 区 SX1201（西から） 1C 区 C-D 土層（南から）		309
写真図版 46	1C 区出土縄文時代の遺物 1		310
写真図版 47	1C 区出土縄文時代の遺物 2		311

第1章 調査の経過

1 調査の経緯

嘉瀬川ダムは、嘉瀬川水系嘉瀬川の総合開発の一環として佐賀県佐賀市富士町（平成17年10月1日に佐賀市、佐賀郡富士町、同郡大和町、同郡諸富町、神埼郡三瀬村が対等合併した）で建設が進められており、洪水調節をはじめ、流水の正常な機能の維持、灌漑用水及び都市用水の補給、及び水力発電に供される多目的ダムである。

嘉瀬川ダム建設事業とこれに伴う文化財調査の詳しい経緯については既刊の『東畑瀬遺跡1・大野遺跡1』に記しているので参照されたい。平成22年度は、垣ノ内遺跡4区、地蔵平遺跡3区、音無瓦窯跡の発掘調査を実施して、本書の作成を行い、更に1冊報告書を刊行する予定である。

本書は、嘉瀬川ダム建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書の第5冊目となるもので、小ヶ倉遺跡・入道遺跡1区、九郎遺跡1～3区の3地区を収録した。

2 調査組織

調査主体 佐賀県教育委員会

調査協力 国土交通省九州地方整備局嘉瀬川ダム工事事務所
富士町教育委員会（現・佐賀市教育委員会）
佐賀県土木部ダム対策課・河川砂防課ダム対策室（現・佐賀県県土づくり本部水資源対策課）
富士町ダム対策課（現・佐賀市富士支所嘉瀬川ダム対策課）
地元各位

調査組織（平成22年度）

総括	佐賀県教育委員会教育長	川崎俊広
	佐賀県教育庁社会教育・文化財課長	江島秋人
	佐賀県教育庁社会教育・文化財課参事	七田忠昭
	佐賀県教育庁社会教育・文化財課副課長	森田孝志
調査総括	佐賀県教育庁社会教育・文化財課主幹	樋口秀信
調査員	佐賀県教育庁社会教育・文化財課主査	白木原 宜
	佐賀県教育庁社会教育・文化財課主査	梶山裕史
	佐賀県教育庁社会教育・文化財課主査	今泉好孝
	佐賀県教育庁社会教育・文化財課主査	渋谷 格
	佐賀県教育庁社会教育・文化財課嘱託	市田佳奈子
	佐賀県教育庁社会教育・文化財課嘱託	渡部芳久
	佐賀県教育庁社会教育・文化財課嘱託	吉田大輔
	佐賀県教育庁社会教育・文化財課嘱託	西野元勝
	佐賀県教育庁社会教育・文化財課嘱託	藤井菜穂子

事務局	佐賀県教育庁社会教育・文化財課副課長	古川英生
	佐賀県教育庁社会教育・文化財課主査	宮本宏之
	佐賀県教育庁社会教育・文化財課主査	井手弘幸
	佐賀県教育庁社会教育・文化財課主事	黒田康裕

調査指導・助言 文化庁記念物課 佐賀県文化財保護審議会

3 発掘調査の経過

嘉瀬川ダム建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査は、関連工事に伴って富士町教育委員会（当時）により平成7～9年度に断続的に行われたが、平成11～12年度の水没地区内確認調査の結果を踏まえ、平成12年度以降は佐賀県教育委員会が継続して実施している。水没地区内及び付替国道・付替市道など嘉瀬川ダム工事事務所所管工事に伴って発掘調査が必要な遺跡は、13遺跡にのぼり（図1、表1）、平成22年度前半までに東畑瀬遺跡1～9区、畑瀬城跡2・3区、西畑瀬遺跡1～9区、垣ノ内遺跡、小ヶ倉遺跡、入道遺跡1区、音無瓦窯跡、地藏平遺跡1～3区、九郎遺跡1～3区、大串遺跡1区、平島遺跡、フルタ遺跡、大野遺跡1～8区のすべての本調査対象地区で発掘作業を終了しており、調査報告書を4集刊行している。

表1 嘉瀬川ダム建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査

番号	遺跡名	略号	対象面積（㎡）	遺跡の時代	遺跡の種類	番号	遺跡名	略号	対象面積（㎡）	遺跡の時代	遺跡の種類
①	東畑瀬遺跡	HHT	121,300	縄文～近世	集落・城館 神社・墓地	⑧	フルタ遺跡	FRT	26,600	縄文～近世	集落
②	畑瀬城跡	HTJ	12,800	中世～近世	城郭・墓地	⑨	小ヶ倉遺跡	KKA	47,000	旧石器～近世	集落
③	西畑瀬遺跡	NHT	58,800	縄文～近世	集落	⑩	地藏平遺跡	JZD	20,000	旧石器～縄文	集落
④	垣ノ内遺跡	KNU	21,000	弥生～古墳	集落	⑪	平島遺跡	HBT	13,000	縄文～近世	集落
⑤	九郎遺跡	KRO	17,950	旧石器～近世	集落	⑫	音無瓦窯跡	OTN	1,500	近世	生産遺跡
⑥	大串遺跡	OOK	3,000	中世	集落	⑬	入道遺跡	NYD	400	旧石器～縄文	集落
⑦	大野遺跡	OON	35,200	縄文～近世	集落・官衙						

本書で報告する小ヶ倉遺跡の発掘調査は、平成18年度に実施した。調査は、まず屋敷地や田畑として利用されていた平坦面を掘削機で表土を除去し、中・近世の遺構の確認を行ったが、明確な遺構面などは確認できなかった。その後、調査対象地区全域に試掘坑を設定して、遺物包含層の確認を行い、縄文時代の包含層が良好に残存していた7地区について面的に掘り下げた。その結果、明確な遺構は確認できなかったが、縄文時代早期を中心とする遺物が出土した。

小ヶ倉遺跡

略号：KK A

所在地：佐賀県佐賀市富士町大字大野字古賀

調査対象面積：47,000㎡

調査担当：加藤吾郎・市田佳奈子（平成18年度）

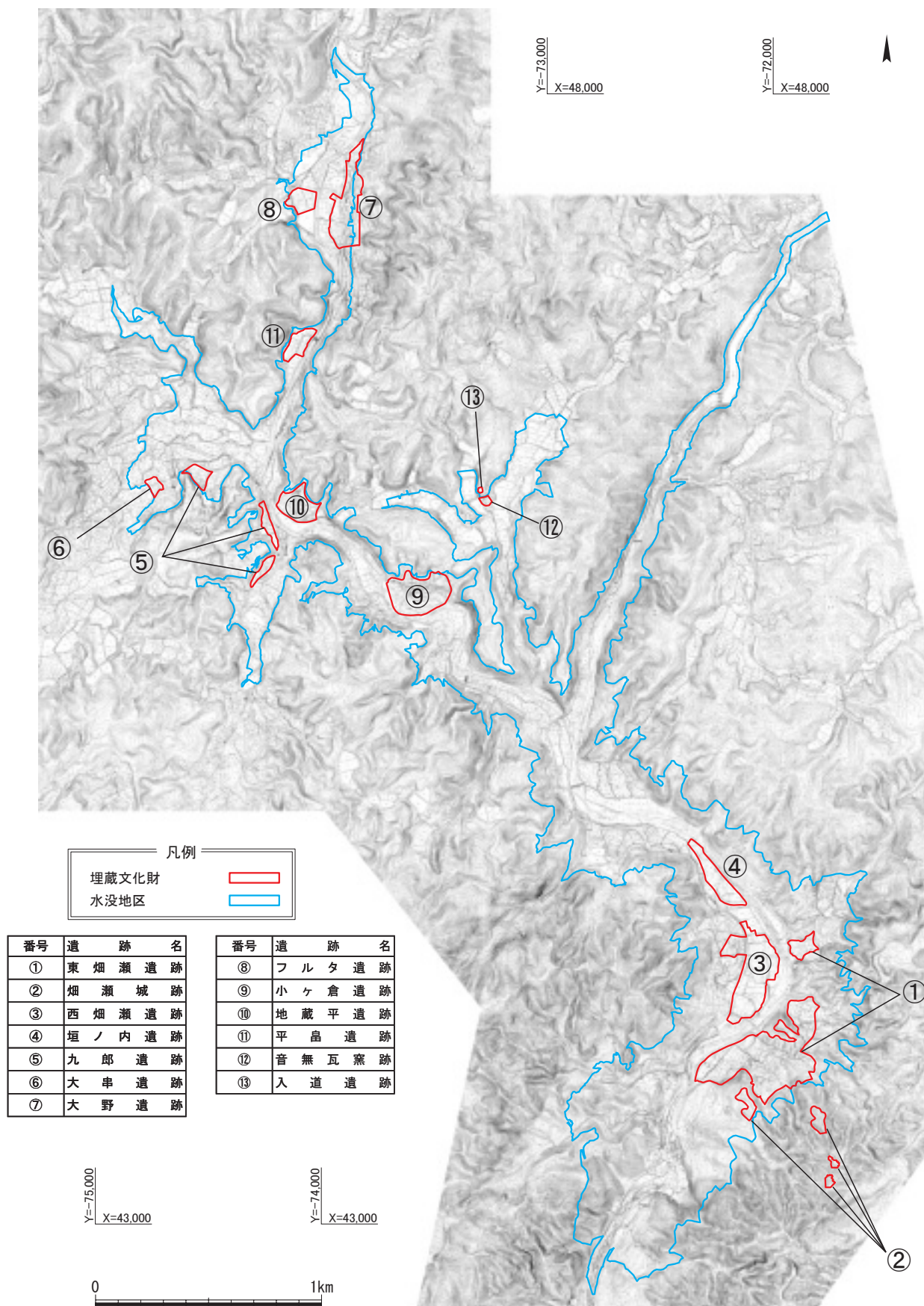


図1 嘉瀬川ダム水没地区周辺と埋蔵文化財調査地区 (1/25,000)

入道遺跡は、当初水没地区外であったため、調査対象ではなかったが、嘉瀬川ダム工事事務所所管工事である付替市道小ヶ倉音無線の建設に伴う事前の踏査で、路線内から細石刃核が採集されたことから、平成 18 年度に確認調査を行い、旧石器～縄文時代の遺物包含層が検出されたため、本調査の対象となり、発掘調査を平成 19 年度に実施した。入道遺跡での本調査は初めてであり、今回の調査区を 1 区とした。

1 区の調査は人力で表土掘削から行い、主に縄文時代早期の遺構・遺物を確認した。

入道遺跡 1 区

略号：N Y D 1

所在地：佐賀県佐賀市富士町大字大野字^{にゅうどう}入道

調査対象面積：400m²

調査担当：井上倫生・市田佳奈子（平成 19 年度）

九郎遺跡 1～3 区は、平成 18 年度に 1B・2・3 区、平成 19 年度に 1C 区の発掘調査を行った。また、1A 区の調査は平成 7 年度に富士町教育委員会（当時）が実施している。

1B 区の調査は、縄文時代前期前半の遺物がまとまって出土した 1A 区の隣接地について、人力で表土掘削から行い、縄文時代早期～中期の遺構・遺物が数多く出土した。1C 区では、遺跡の内容の把握するため、試掘坑を設定して掘り下げたところ、縄文時代早期を中心とする遺物包含層が確認されたことから、ほぼ全面を人力で掘り下げた。調査の結果、1 区では縄文時代早期～前期を主体とする集落跡などを確認した。

2・3 区の調査は、掘削機により表土などを除去した後、遺構の検出、遺構や包含層の掘削などを行い、中世～近世の集落跡などを確認した。なお、2 区の調査は、本調査を開始する時点で調査区内における付替国道の橋脚工事が終了しており、調査対象範囲全域で詳細な調査を行うことができず、部分的な調査となっている。

九郎遺跡 1A 区

略号：K R O 1 A

所在地：佐賀県佐賀市富士町大字栗並字^{くりなみ}九郎^{くろう}

調査対象面積：550m²

調査担当：宗像剛（富士町教育委員会：平成 7 年度）

九郎遺跡 1B 区

略号：K R O 1 B

所在地：佐賀県佐賀市富士町大字栗並字九郎

調査対象面積：4,400m²

調査担当：渋谷格・内田真一郎（平成 18 年度）

九郎遺跡 1C 区

略号：K R O 1 C

所在地：佐賀県佐賀市富士町大字栗並字九郎

調査対象面積：1,500m²

調査担当：白木原宜・内田真一郎（平成 19 年度）

九郎遺跡 2 区

略号：K R O 2

所在地：佐賀県佐賀市富士町大字栗並字九郎

調査対象面積：4,500m²

調査担当：渋谷格・内田真一郎・森幸一郎（平成 18 年度）

九郎遺跡 3 区

略号：K R O 3

所在地：佐賀県佐賀市富士町大字栗並字九郎

調査対象面積：7,000m²

調査担当：戸塚洋輔・森幸一郎（平成 18 年度）

調査記録や出土遺物の整理は発掘作業と並行して順次進めたが、本格的な報告書作成作業は平成 21 年度から着手し、平成 22 年度に本書を作成刊行した。

第 1 章 参考・引用文献

嘉瀬川ダム環境検討委員会・国土交通省嘉瀬川ダム工事事務所（2003）『嘉瀬川ダム事業における環境保全への取り組み』国土交通省嘉瀬川ダム工事事務所
嘉瀬川ダム建設に伴う学術調査委員会（2000）『嘉瀬川ダム建設に伴う学術調査報告書』 富士町教育委員会
佐賀県教育委員会（2008）『佐賀県内遺跡確認調査報告書』26 佐賀県文化財調査報告書第 174 集
佐賀県教育庁文化財課（1997）「九郎遺跡 1 区」『佐賀県文化財年報 2』
富士町史編さん委員会（2000）『富士町史』上・下巻 富士町

第2章 位置と環境

1 地理的環境

嘉瀬川は、佐賀県と福岡県の分水嶺をなす脊振山地の金山に源を発し、山間部を流下して神水川、天河川、名尾川などの支流を合わせ、肥前国府や肥前国一宮河上神社のあたりで山地を抜け、佐賀平野のほぼ中央を貫流して有明海に注ぐ、幹線流路延長 57km、流域面積 368km²の一級河川である。上流部には灌漑用水を主な目的とする北山ダムが昭和 32（1957）年に完成しているが、すぐ下流にあたる佐賀市富士町の中央部に多目的ダムとして建設中なのが、嘉瀬川ダムである。ダム予定地の下流には古湯温泉と熊の川温泉があり、県内外から多くの人が訪れている。

佐賀市富士町（旧佐賀郡富士町）は、佐賀県の北端部に位置し、北は県境の分水嶺を境に福岡県前原市・福岡市早良区と、東は佐賀市三瀬村（旧神埼郡三瀬村）・佐賀市大和町（旧佐賀郡大和町）と、西は唐津市七山・厳木町（旧東松浦郡七山村・厳木町）と、南は天山山地の尾根筋で小城市小城町・多久市とそれぞれ接している。旧富士町役場、現在の佐賀市役所富士支所の位置で言うと、東経 130° 12′ 03″、北緯 33° 22′ 58″に位置し、東西 10 km、南北 17 km、面積 143.25 km²である。気候は、温暖湿潤な佐賀県内の中でも平均気温が低く、降水量は多い。山間部特有の日照時間の短さともあいまって冬季の寒さが厳しい地域である。

地勢は、福岡県との県境をなす脊振山地の東西脊梁のうち羽金山・雷山・井原山・金山の峰々を北に仰ぎ、南に脊振山地の一部でもある天山山地がそびえ、両山地の間は高原状の丘陵地・山地とその間を流れる河川により開析された谷底平野・河岸段丘などからなる。西側には羽金山から亀岳を経て天山に連なる南北方向の分水界峰があり、これより東側が有明海に注ぐ嘉瀬川水系、西側が玄界灘に注ぐ玉島川・松浦川水系となっている。佐賀市富士町地域は、東側の佐賀市三瀬村や更に東側の神埼市脊振町（旧神埼郡脊振村）と大小の谷や峠を介して連続しており、このような一体的な地勢の特徴が、「山内」という独自の地域圏を育んできた。

表層地質は中世代白亜紀に生成した花崗岩類を主体とし、雷山や天山周辺に局地的に三郡変成岩の塩基性深成岩類及び蛇紋岩と結晶片岩類が分布する。土壌は、南北の大起伏山地は礫質・粗砂質であるが、中央部の小起伏山地・丘陵地では風化が進んでやや粘土質の土壌に覆われている。山麓部や斜面には礫質・中粗粒の黄色土壌、河川沿いの谷底平野に中粗粒の黄色土壌や礫質・中粗粒・細粒の灰色低地土壌などが分布する。また、嘉瀬川上流域の北山ダム（北山湖）を中心とする一帯には北山層と名付けられた泥炭層を挟む湖成層が分布していて、第四期更新世末期頃に存在した「古北山湖」の湖底に堆積したものと考えられている。

旧富士町域の 8 割以上が森林で、更にその 8 割以上がスギ・ヒノキの人工林である。人工林以外の植生は、ほとんど常緑広葉樹林帯に属するが、標高 900 m 級の南北山地の山頂部近くには夏緑広葉樹林帯が僅かに認められる。動物相は、大型哺乳類ではイノシシ、キツネ、ニホンザル、タヌキ、アナグマ、イタチ、ノウサギ、テンなどが生息し、ニホンザルやキツネは減少傾向にあるが、イノシシは近年急増しており、発掘調査中にも遭遇することがある。鳥類では主な留鳥として大小のサギ類、キジ、コジュケイ、キジバト、カワセミ、ヤマセミなどが見られ、国指定天然記念物のカササギ（カチガラス）は古湯地区より上流部には生息しておらず、嘉瀬川ダム地区内では確認されない。

2 歴史的環境

本地域の歴史的環境全般については、『富士町史』などを参照していただくとして、ここでは近年の遺跡調査により急速に充実してきた考古学的な所見を中心に概述する。

旧石器時代の遺跡は、地蔵平遺跡（10）、小ヶ倉遺跡（9）、九郎遺跡（5）などでナイフ形石器などの示準石器が出土している。特に地蔵平遺跡では以前から旧石器～縄文時代の遺物が多く採集されており、この地域の拠点的な遺跡と目されていたが、平成18年度から着手した発掘調査で始良T n テフラ（AT）の堆積層が部分的に良好な状態で検出され、その堆積層の上下から多様な石器が出土しており、今後の調査成果が期待される。周辺地域まで目を向けると、唐津市七山の馬川谷口遺跡ではナイフ形石器文化期から細石刃文化期の多数の遺物が、佐賀市三瀬村田ノ宇曾（床並）遺跡でもナイフ形石器・彫器が出土しており、旧石器時代の遺跡は脊振山地山間部一帯に広く分布するものと思われる。

縄文時代の遺跡として知られる箇所は非常に多く、近年の発掘調査で縄文時代各時期の遺物が竪穴住居や炉跡などの遺構と共に検出され、遺跡の内容が明らかになりつつある。早期前葉の資料としては、小ヶ倉遺跡で円筒形刺突文土器や石槍が出土しているほか、入道遺跡（13）で刺突文土器を検出している。早期中葉では、入道遺跡で当該時期と推定される集石炉が確認され、貝野遺跡、中原遺跡、九郎遺跡、平昌遺跡（11）、垣ノ内遺跡（4）などで稲荷山式～田村式期の遺物が出土している。早期後葉では、九郎遺跡や西畑瀬遺跡（3）で塞ノ神A式・B式・轟A式系土器などが出土しており、西畑瀬遺跡では地床炉と思われる焼土遺構と焼礫集積遺構が検出されている。前期では九郎遺跡や小ヶ倉遺跡、西畑瀬遺跡で轟B式・西唐津式・曾畑式土器があり、西畑瀬遺跡では鬼界アカホヤテフラ（K-Ah）を含む層が部分的にはあるが広がっていて、下層から塞ノ神B式・轟A式期、上層から轟B式・曾畑式期の遺構・遺物が確認されている（小ヶ倉・入道・九郎遺跡については本書）。早期～前期の資料は、採集品も含めて山間部各地で比較的多く知られ、佐賀市三瀬村天塘遺跡で集石遺構や土坑と共に早期～前期の資料が出土しているほか、同村狂言平遺跡などで押型文土器、同村宿北方遺跡では1個体分の曾畑式土器が採集されている。中期の資料はやや少ないが、九郎遺跡、西畑瀬遺跡で船元式・春日式・阿高式系土器が出土している。後期初頭では東畑瀬遺跡（1）で坂ノ下式土器、西畑瀬遺跡から中津式系土器が出土している。後期中葉～末では、西畑瀬遺跡で鐘崎式～広田式土器が確認され、鐘崎式期頃の遺物集中部から石製垂飾が出土している。また、大野遺跡（7）で三万田式期の集落で竪穴住居などの遺構が確認され、三瀬村吉野山遺跡では北久根山式～太郎迫式期頃の遺物が多数採集されている。晩期では、東畑瀬遺跡で黒川式期～弥生時代前期まで集落が断続的に営まれているほか、西畑瀬遺跡でも黒川式期の遺物群が出土している。

縄文時代と比べると、当地域における弥生時代から平安時代までの様相を知る手がかりは非常に少ない。標高が高く寒冷地であるこの地域では水稲耕作を基盤とする生活が成り立ちにくかったようで、弥生時代の遺跡数は極端に減少している。それでも、近年の埋蔵文化財調査の進展によって、これまで不明であった山間部の弥生時代～古代の様相が少しずつ知られるようになってきた。

弥生時代では、東畑瀬遺跡で弥生時代前期の竪穴住居らしき遺構が検出されているが、弥生時代特有の大陸系磨製石器は検出されておらず、縄文時代的な生活が続いていたようである。西畑瀬遺跡では中期の土器埋納遺構や後期の小児甕棺墓が検出されており、1点ずつではあるが石包丁（磨製穂摘具）・磨製石斧も見つかっている。

古墳時代では、古墳はもちろん竪穴住居などを伴う集落の広がりも確認されていないが、同時代の土器は発掘調査や採集資料で散見され、西畑瀬遺跡では完形の土師器甕と土師器高杯の杯部2点を埋納した何らかの祭祀に関わる小穴が発見され、大野遺跡でも土坑が確認されている。

律令制下の当地域は肥前国佐嘉郡の範囲であったと思われる、嘉瀬川沿いの脊振山間部と佐賀平野部との結節点に肥前国府が置かれていることを考えると、嘉瀬川上流域も律令国家の関心外であったとは思えないが、具体的な様

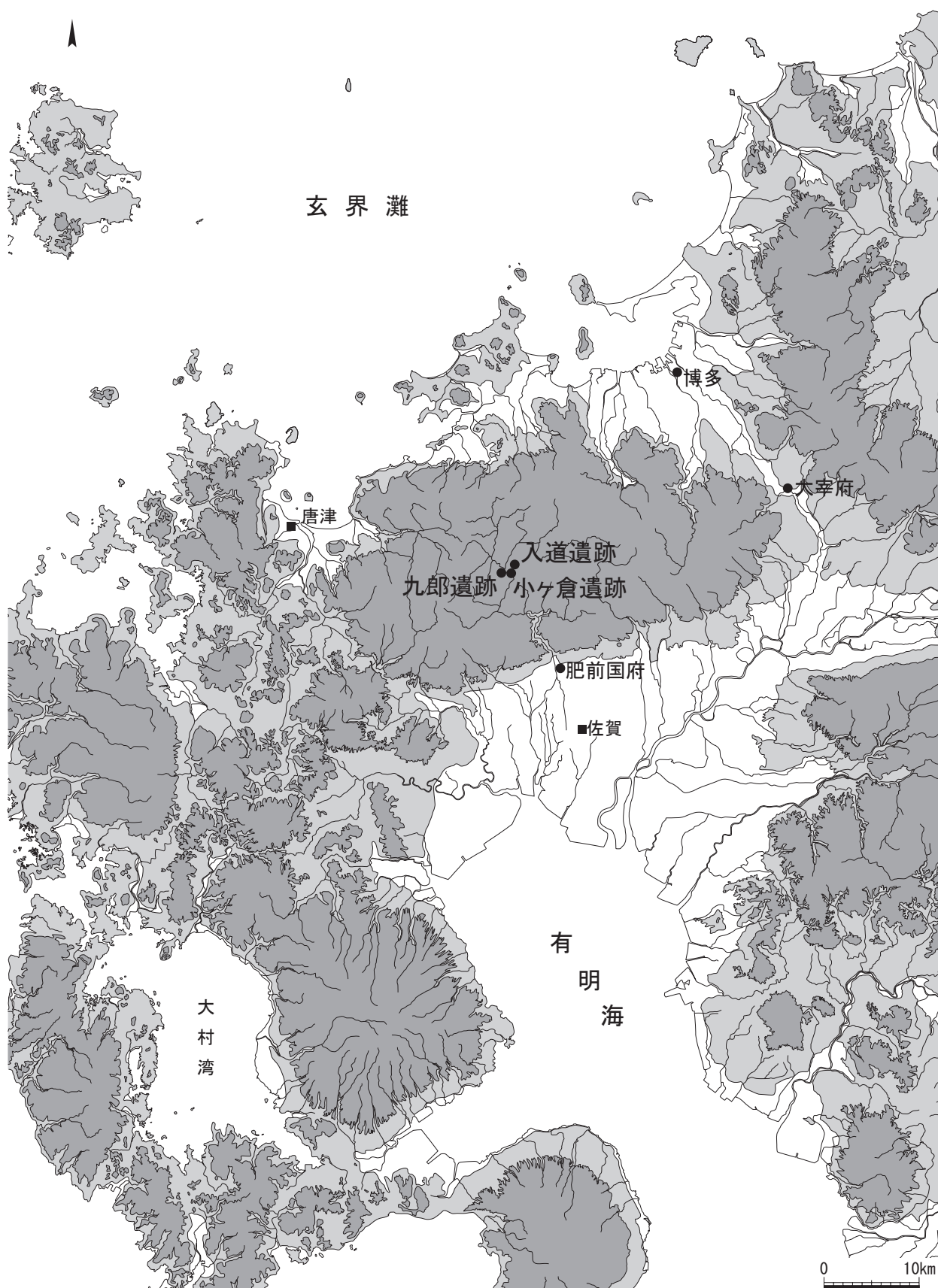


図2 入道遺跡・小ヶ倉遺跡・九郎遺跡の位置 (1/600,000)



図3 嘉瀬川ダム建設予定地周辺の遺跡 (1/100,000)

国土地理院の数値地図 50,000 (地図画像)『佐賀・長崎』を使用

相を知る史料はなく、遺跡にしても^{うちの}内野遺跡で平安時代前期頃の土師器、西畑瀬遺跡で越州窯系青磁碗や須恵器等の平安時代前半期に遡る遺物が数点出土している程度である。

古代末以降においても、富士町域の各所がどの荘園公領に含まれていたかを示すことが難しいが、少なくとも肥前安富荘領があったことは史料上で確認できる。南北朝初期の暦応2（1339）年4月25日石志定阿護状案（石志氏家文書）は中世前期の富士町域を知る貴重な史料で、松浦党一族の石志氏が恩賞として配分された所領を子孫に伝えたものであるが、その中に「安富庄内畑瀬村、同村内火桶」と「安富庄畑瀬村内上於副河」が記されている。肥前安富荘に関しては宮武（1991）に詳しいが、佐賀郡一帯に散在的に散らばる荘領のうち、富士^{はたせ}町畑瀬・上小^{かみお}副川、佐賀市大和町^{そえがわ}東山田^{ひがしやまだ}・佐保^{さほ}・久留間^{くるとま}、佐賀市久保田町北部で確認される遺称地については嘉瀬川流域に分布している点が注目される。古代末～中世前期の遺跡としては、東畑瀬遺跡、西畑瀬遺跡、九郎遺跡、大野遺跡、中原遺跡で屋敷地などの遺構が見つかっていて、特に東畑瀬・西畑瀬遺跡の屋敷地は安富荘畑瀬村との関連で重要である。また、中原遺跡では土師器杯・皿を40点ほど集積した遺構が検出されている。

安富畑瀬の名は、近世初期まで鍋島直茂所領目録（枉家文書）の「安富畑瀬山」や東畑瀬宗源院半鐘銘の「佐賀郡安富庄畑瀬山」などで確認できるが、中世後期には畑瀬、栗並、藤瀬、菖蒲、等々の山内の各地を名字とする在地勢力の台頭によって荘園としては実態の伴わないものへ変化していったものと思われる。大串遺跡（6）では14～15世紀代の在地有力層に関わると思われる遺構群が見つかっており、平島遺跡でも中世後期の屋敷地と考えられる建物群が検出されている。

戦国期に至ると、^{くましろうかつとし}神代勝利が各地に割拠した小領主をまとめあげて山内を統一し、佐賀市三瀬村三瀬城を本城として佐賀の^{りゅうぞうじ}龍造寺隆信と覇を競った。富士町域にも畑瀬城、熊川城、谷田城などを構えたとされる。戦国期の城館については近年の中近世城館跡分布調査によって、山内では三瀬城の規模が際立って大きく、それ以外の在地領主のものと考えられる山城は規模・構造とも簡素なものが多いこと、個々の集落単位で領主居館跡、詰城、領主の墓址、菩提寺、氏神がセットで残っている例が数多く確認できることなど、この地域の独自性が徐々に明らかになりつつある。東畑瀬遺跡・畑瀬城跡（2）では、畑瀬城に関連すると考えられる城郭遺構が数多く確認され、総体としての畑瀬城の実態がかなり把握できるようになってきている。

勝利の嫡子^{ながよし}長良は龍造寺氏と和睦し、龍造寺氏の重臣で鍋島藩祖となる鍋島直茂^{なべしまなおしげ}の甥を養子に迎えた。神代氏は^{おぎあしかり}小城芦刈、更に佐嘉川久保へと転封されたが、川久保邑主として1万石の大名を保持した。山内は鍋島氏の所管となったが、元和3（1617）年の小城鍋島家（小城支藩）創設にあたって嘉瀬川以西の地域が分け与えられた。これ以降、明治維新を迎えるまで、それぞれ佐賀山内、小城山内として郷村支配が続いた。佐賀山内郷では松瀬三反^{まつせみたん}田に、小城山内郷では大野に代官所が設置された。このうち大野地区に現存する大野代官所の遺構は江戸時代後期のものであるが、その設置時期や詳しい経緯についてはよく判っていない。城郭を思わせる本格的な石垣造りの遺構であり、単に一支藩が山間部の経営のために設けた代官所としては破格の規模であり、隣藩との国境に近い軍事上の重要地であることが、その背景として想定される。隣接する大野遺跡では近世初期の役所的施設と見られる建物群が検出されており、これが大野代官所の前身のような施設であった可能性がある。東畑瀬遺跡では神代勝利の菩提寺である宗源院跡で近世から現代までの寺院跡が4面重複して確認され、付属する墓地では多数の近世墓が調査されている。また、集落部の調査によって近世の開発の様相が明らかになりつつある。

明治維新の後、伊万里県の設置や長崎県への統合などの紆余曲折を経て、明治16（1883）年に現在の佐賀県が成立した。これに先立つ明治11（1878）年の郡区町村編成法により、富士町域にあたる範囲では、佐賀郡小副川^{おそえがわ}村、関屋村の2ヶ村、小城郡鎌原村^{かまのはる}、苅木村^{ちやのき}、市川村^{いちかわ}、杉山村^{すぎやま}、大串村^{おおくし}、栗並村^{くりなみ}、大野村^{おおの}、中原村^{なかばる}、麻那古村^{まなこ}、上無津呂村^{かみむつろ}、下無津呂村^{しもむつろ}、上合瀬村^{かみおうせ}、下合瀬村^{しもおうせ}、古場村^{こば}、藤瀬村^{ふじせ}、畑瀬村^{はたせ}、古湯村^{ふるゆ}、上熊川村^{かみくまのかわ}、内野村^{うちの}、下熊川村^{しもくまのかわ}の20ヶ村が行政単位となっていたが、明治22（1889）年の市制町村制により上記の各村は佐賀郡小関村と小城郡北山村・南山村の3村に統合され、旧村名は大字として残ることになった。

昭和 31（1956）年には佐賀郡小関村と小城郡北山村・南山村の 3 村が対等合併して富士村となり、昭和 41（1966）年 10 月 1 日の町制施行により佐賀郡富士町となった。その 39 年後にあたる平成 17（2005）年 10 月 1 日に、佐賀市・佐賀郡大和町・同郡諸富町・神埼郡三瀬村と対等合併して佐賀市富士町となった。なお、佐賀市は平成 19 年 10 月 1 日に、佐賀郡川副町・東与賀町・久保田町を編入合併している。

第 2 章 参考・引用文献

- 嘉瀬川ダム建設に伴う学術調査委員会（2000）『嘉瀬川ダム建設に伴う学術調査報告書』富士町教育委員会
- 佐賀県企画室（1979）『土地分類基本調査浜崎』
- 佐賀県教育委員会（1997）『佐賀県の地質鉱物』佐賀県文化財調査報告書第 134 集
- 佐賀県教育委員会（1964）『佐賀県の遺跡』佐賀県文化財調査報告書第 13 集
- 佐賀県教育委員会（2007）『東畑瀬遺跡 1・大野遺跡 1』佐賀県文化財調査報告書第 170 集
- 佐賀県教育委員会（2008）『西畑瀬遺跡 1』佐賀県文化財調査報告書第 176 集
- 佐賀県教育委員会（2009）『西畑瀬遺跡 2・大串遺跡』佐賀県文化財調査報告書第 180 集
- 佐賀県教育委員会（2010）『東畑瀬遺跡 2・畑瀬城跡』佐賀県文化財調査報告書第 185 集
- 佐賀県教育庁文化財課（1997）「九郎遺跡 1 区」『佐賀県文化財年報 2』
- 佐賀県教育庁文化財課（1998）「大野遺跡（1 区）」『佐賀県文化財年報 3』
- 佐賀県教育庁文化課（2008a）「地藏平遺跡（1 区）」『佐賀県文化財年報 13』
- 佐賀県教育庁文化課（2008b）「小ヶ倉遺跡」『佐賀県文化財年報 13』
- 佐賀県教育庁文化課（2008c）「九郎遺跡（1 B 区）」『佐賀県文化財年報 13』
- 佐賀県教育庁文化課（2008d）「九郎遺跡（2 区）」『佐賀県文化財年報 13』
- 佐賀県教育庁文化課（2008e）「九郎遺跡（3 区）」『佐賀県文化財年報 13』
- 佐賀県立図書館（1986）『佐賀県史料集成古文書編』第 27 巻
- 佐賀市教育委員会（2007a）『大串遺跡』佐賀市埋蔵文化財調査報告書第 16 集
- 佐賀市教育委員会（2007b）『中原遺跡—2・3 区の調査—』佐賀市埋蔵文化財調査報告書第 19 集
- 七田忠志（1949）「三瀬村出土の縄文式土器」『佐賀県史蹟名勝天然記念物調査報告』第 8 輯佐賀県教育委員会
- 全国神代ゆかりの会（1980）「神代家伝記」『神代家とその一族』1 号
- 富士町教育委員会（1999）『貝野遺跡 1 区』富士町文化財調査報告書第 1 集
- 富士町教育委員会（2003a）『富士町内遺跡発掘調査報告書平成 7 年度～13 年度』富士町文化財調査報告書第 2 集
- 富士町教育委員会（2003b）『中原遺跡 1 区』富士町文化財調査報告書第 3 集
- 富士町教育委員会（2005）『畑瀬城跡』富士町文化財調査報告書第 4 集
- 富士町誌編さん委員会（1968）『富士町誌』富士町教育委員会
- 富士町史編さん委員会（2000）『富士町史』上巻・下巻富士町
- 三瀬村誌編纂委員会（1977）『三瀬村誌』三瀬村
- 宮武正登（1991）「本村遺跡をめぐる中世世界—安富荘内村落としての位置付け—」『本村遺跡』佐賀県文化財調査報告書第 102 集佐賀県教育委員会

第3章 小ヶ倉遺跡

第3章 小ヶ倉遺跡

1 小ヶ倉遺跡の概要

小ヶ倉遺跡は、佐賀県佐賀市富士町大字大野字古賀に所在する（図4）。

小ヶ倉地区は、嘉瀬川の支流である神水川の左岸に位置し、ダム建設に伴い全戸移転するまで南向きの山麓部斜面に集落が展開していた。大野地区の中では、大野本村から1.5kmほど離れた飛び地となっている。藩政期には小城鍋島家（小城支藩）領の山内郷に属しており、大野代官所の支配下にあった。江戸時代後期の「小城郡山内郷」絵図には十数戸の民家が描かれており、「天明郷村帳」に小鹿蔵村がみられることから、近世後期には集落が成立していたことが確認できる。

小ヶ倉遺跡は、標高347.6mを頂上とする山塊から神水川沿いの河岸段丘上までの範囲で、旧石器～縄文時代、中近世の遺跡として周知化されている。遺跡の約500m北東側には入道遺跡（旧石器時代の散布地・縄文時代の集落跡）・音無瓦窯跡（近世～近代の窯跡）、神水川沿いの約600m北西側には北部九州有数の旧石器時代の遺跡である地蔵平遺跡が所在している。

小ヶ倉遺跡では、嘉瀬川ダム建設事業に伴い平成18年度に発掘調査を実施し、縄文時代の遺物包含層、近世の集落跡などを確認した。調査では、調査範囲全域に試掘坑を設定し、縄文時代の遺物包含層が良好に確認できた地区について調査区を拡張した結果、標高274～286mの斜面地に遺物が集中しており、それ以外は密度が薄いことが判明した。

旧石器時代の遺物としてはナイフ形石器などが出土し、当該期の遺物包含層は確認できなかったが、当時の人々の活動範囲を示す遺物であると考えられる。

縄文時代については、明確な遺構は確認できなかったが、遺物包含層から早期～前期の土器・石器などが出土した。調査対象地区西部の舌状の台地状になった部分（A～C・E・F区）で早期、その南東側のやや標高が低い部分（G区）で前期の遺物集中部が検出された。早期の遺物の広がり確認できた部分では、4層の遺物包含層が認められ、最上層には縄文時代以降の遺物が少量混入しているが、下層は安定した堆積層である。出土土器は、それぞれ出土量は多くないが、早期前葉～前期後葉まで各時期のものがみられる。石器は、石鏃・削器などの剥片石器類がほとんどを占め、磨製石器・礫石器はわずかである。出土遺物の中では、円筒形刺突文土器、石槍、異形石器などが特徴的である。円筒形刺突文土器は、器形や文様から早期前葉のものとみられるが、刺突の原体に特徴がある。付着した炭化物から放射性炭素年代も得られており、類例の少ない早期前葉の状況を知る上で重要である。C区下層では、石槍が数点まとまって出土しており、明確な時期は不明であるが、石鏃などとともに1時期の石器の様相をうかがえる資料である。異形石器は、平面がY字形の黒曜岩製で、祭祀的な要素が強いものであろう。石器の中では石鏃や石槍など狩猟具の比率が高いことから、狩猟の拠点であったことが推測される。

縄文時代以降では、古墳時代の遺物がわずかに出土しただけで、周辺の遺跡で確認される中世の遺物も確実なものとは出土していない。

近世については、現代の攪乱などが著しく、明確な遺構面や遺構などを確認することはできなかった。しかしながら、出土遺物から17世紀代には開発が始まっていた可能性が考えられるなど、集落の展開を知る上でいくらかの知見を得ることができた。ただ、開発が盛んになるのは、遺物の出土量からみて、18世紀後半以降であろうと思われる。嘉瀬川ダム事業で調査した他の遺跡よりはかなり遅れて開発の手が入るようで、生活・農業用水が確保しにくいという立地条件などがその原因かもしれない。

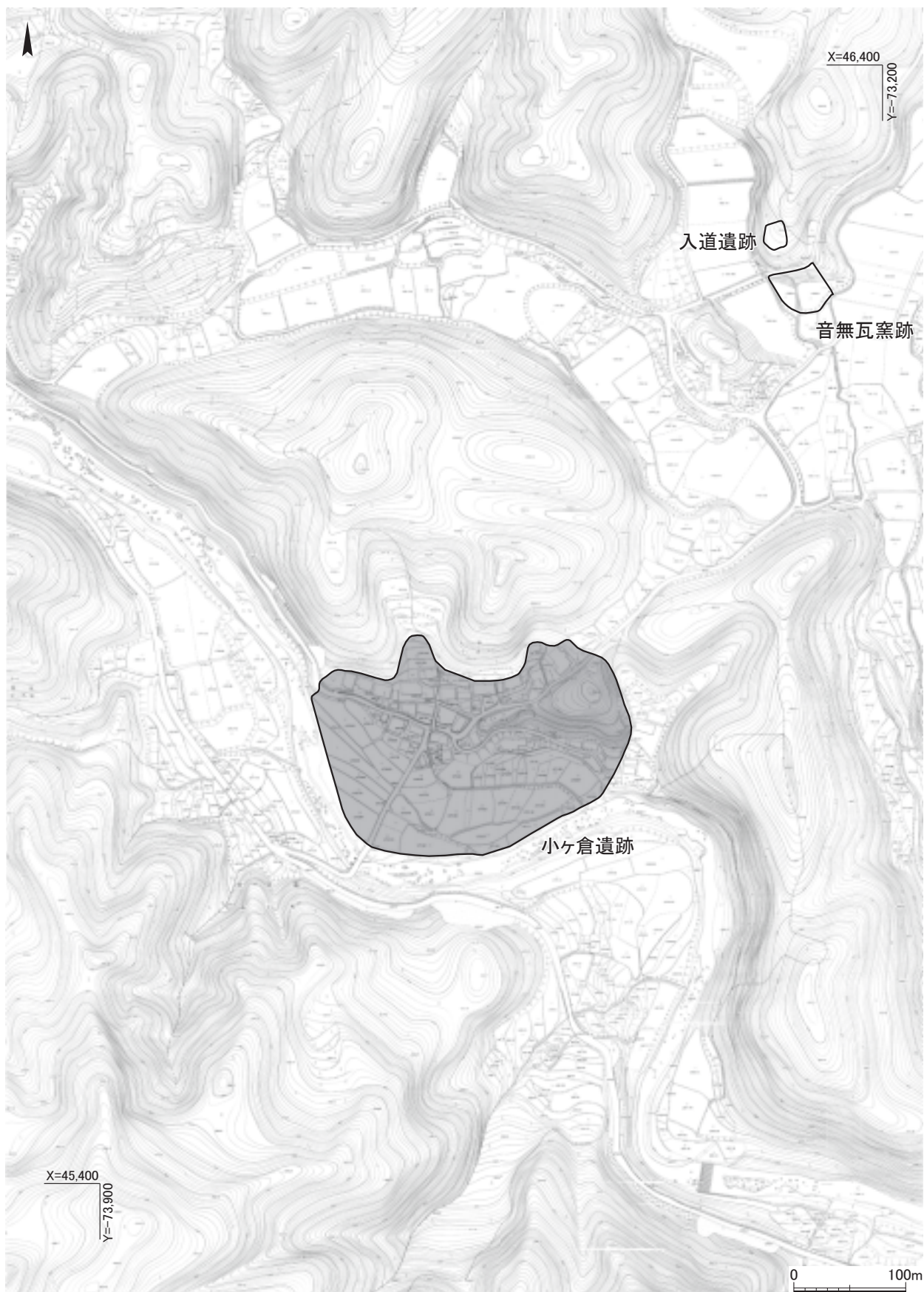
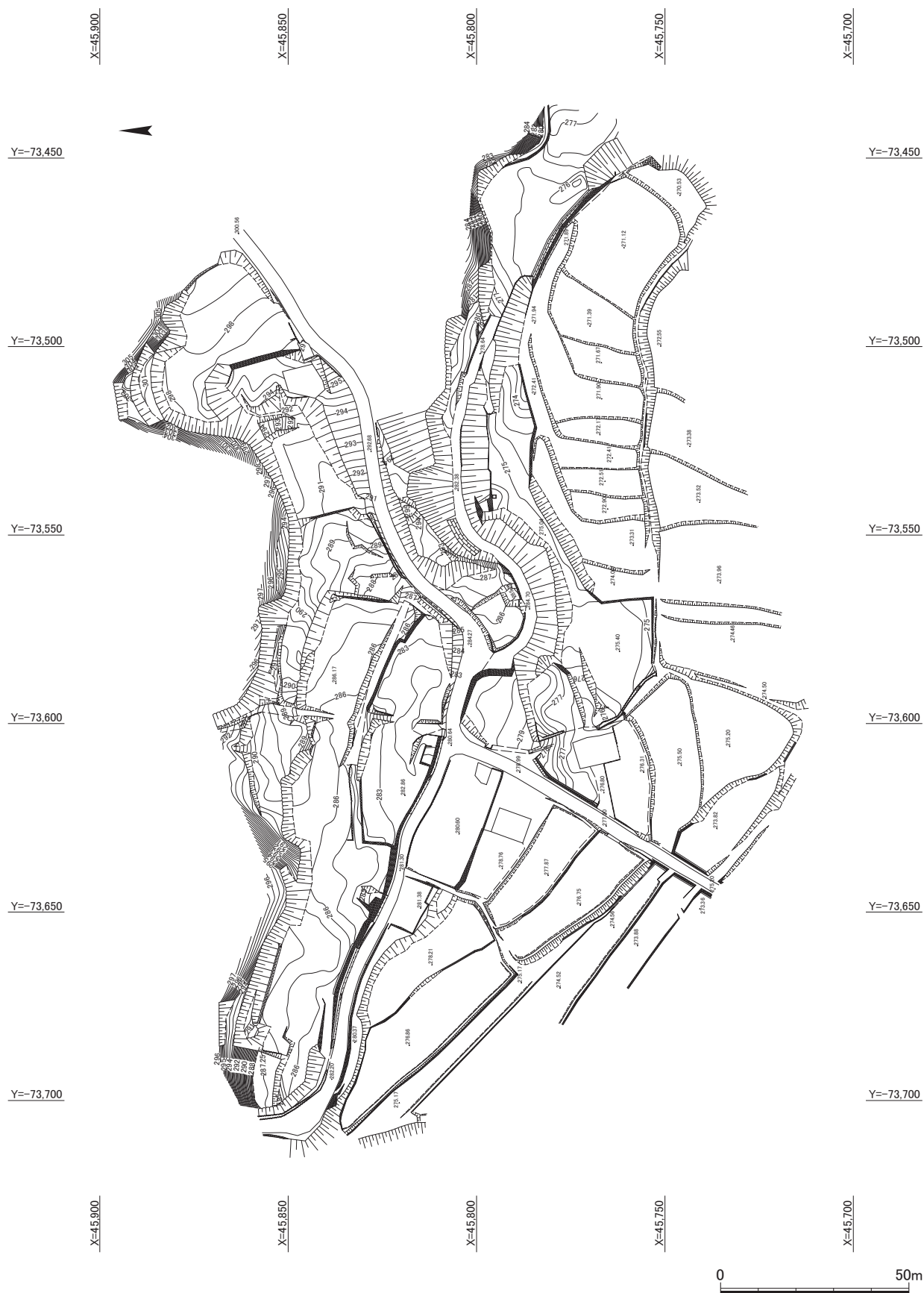


図4 小ヶ倉遺跡周辺の地形 (1/5,000)



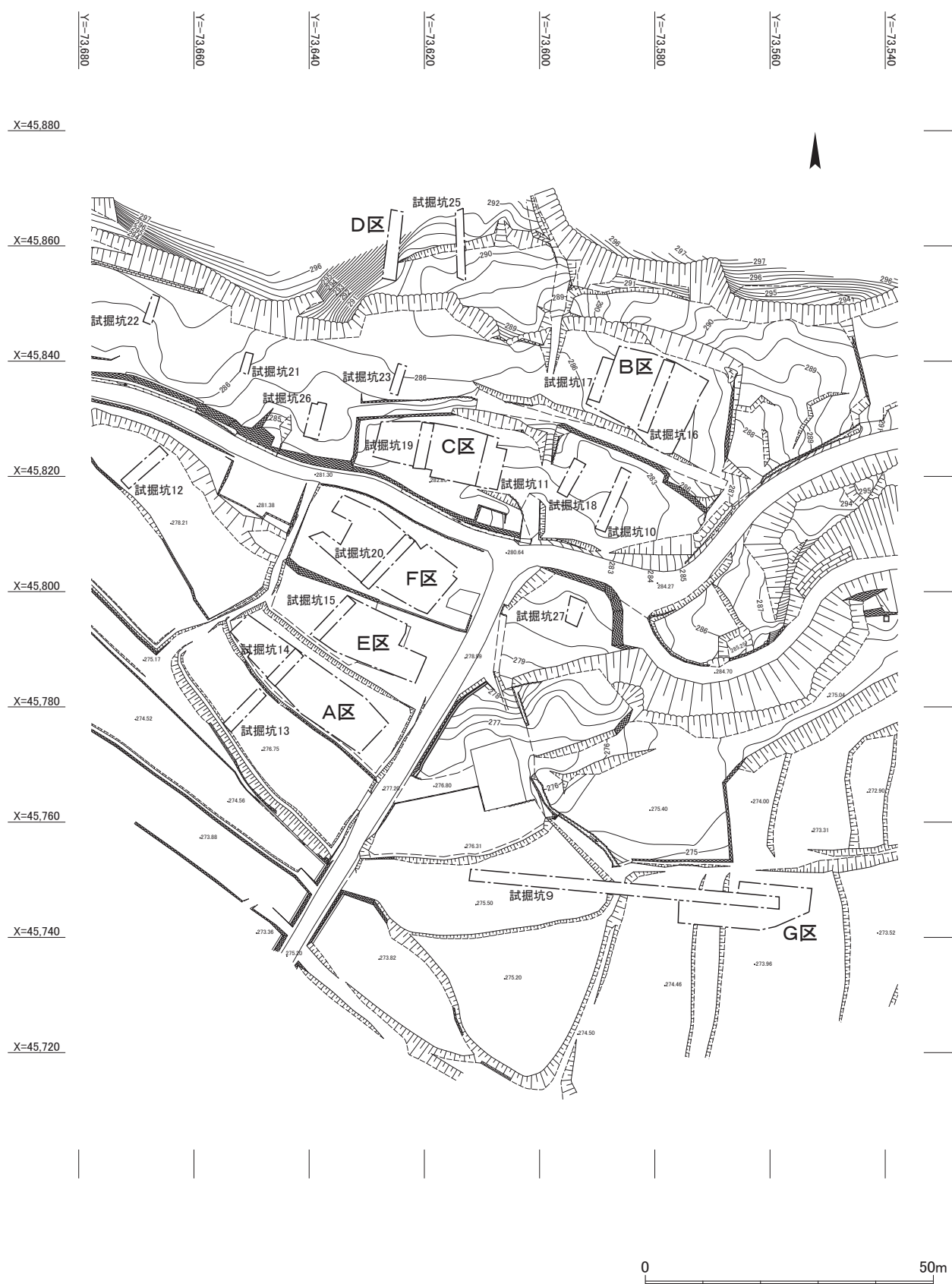


図6 小ヶ倉遺跡調査区の位置 (1/1,000)

2 旧石器～縄文時代の遺物

小ヶ倉遺跡の調査では、旧石器～縄文時代の明確な遺構は確認できなかったが、遺物包含層から縄文時代早期を中心とした遺物が出土した。ほとんどの出土遺物については、トータルステーションを用いて3次元で出土位置を記録して取り上げた。

遺物包含層について、縄文時代早期を中心とした遺物が出土したA～C・E・F区は、A・E・F区で対応が明確な遺物包含層が確認され（図8～10）、B・C区についても、これに対応する可能性が高い層位がみられるため、統一してa～d層として報告する。a層中には喜界アカホヤテフラのブロックが、少量ではあるが検出でき、縄文時代前期を含む層であるが、その下層のb～d層については、早期以前の遺物包含層と認められる。また、前期を中心とするG区の層位は他の地区との対応が難しいため、a～d層とは区別して報告する。なお、D区は少量の遺物が出土したため、拡張して調査したが遺物集中部はみられなかった。

遺物の出土状況を詳しくみると、それぞれの地区で遺物の時期が異なっており、やや複雑な様相を見せる。A区では、a層で早期中葉の押型文土器が、b層では押型文土器もあるが、主体となるのは早期前葉の円筒形刺突文土器であり、層位的に時間差を認めることができる。F区ではa層から早期後葉～末、C区ではa層を中心に早期後葉～末の土器が出土しており、おおそa層下層が早期中葉～末、b層が早期前葉を中心とする時期であることはいえよう。これに対しE区では、土器がほとんど出土せず、石器はb層を中心に出土しているが、黒曜岩の占める割合が高く、隣接する地区と異なっている。c・d層からはC区で石槍や石鏃などの石器が集中して出土しているが、土器がほとんどないため、時期を明確にするのは困難である。B区ではd層から円筒形刺突文土器が出土しているが、B区は河岸段丘面が異なる部分であるため、d層全体を早期前葉と確定するのには根拠が不足しているものと思われる。E区については、b層出土遺物が主体を占めるが、遺物の様相はc・d層に近いように思われる。石器からみると、c・d層では旧石器時代にさかのぼるような遺物は出土していないので、縄文時代の中には収まる資料である。なお、旧石器時代の石器が数点出土しているが、いずれもb層以上から出土しており、2次的に混在したものである。

縄文土器については、説明の都合上、以下の9類に分類して報告する。

1 類：円筒形刺突文土器

円筒形の器形で、口縁部外面に横位の数段の連続刺突文を施している。

2 類：撚糸文土器

3 類：押型文土器

4 類：沈線・刺突文土器（天道ヶ尾式系統か）

5 類：平椀式系

6 類：塞ノ神B式系

7 類：轟A式系

8 類：無文土器

9 類：前期土器

9A 類：轟B式系

9B 類：西唐津式系

9C 類：曾畑式系

9D 類：粗製土器

また、剥片類のうち便宜的に1g以下のものを微細剥片とした。

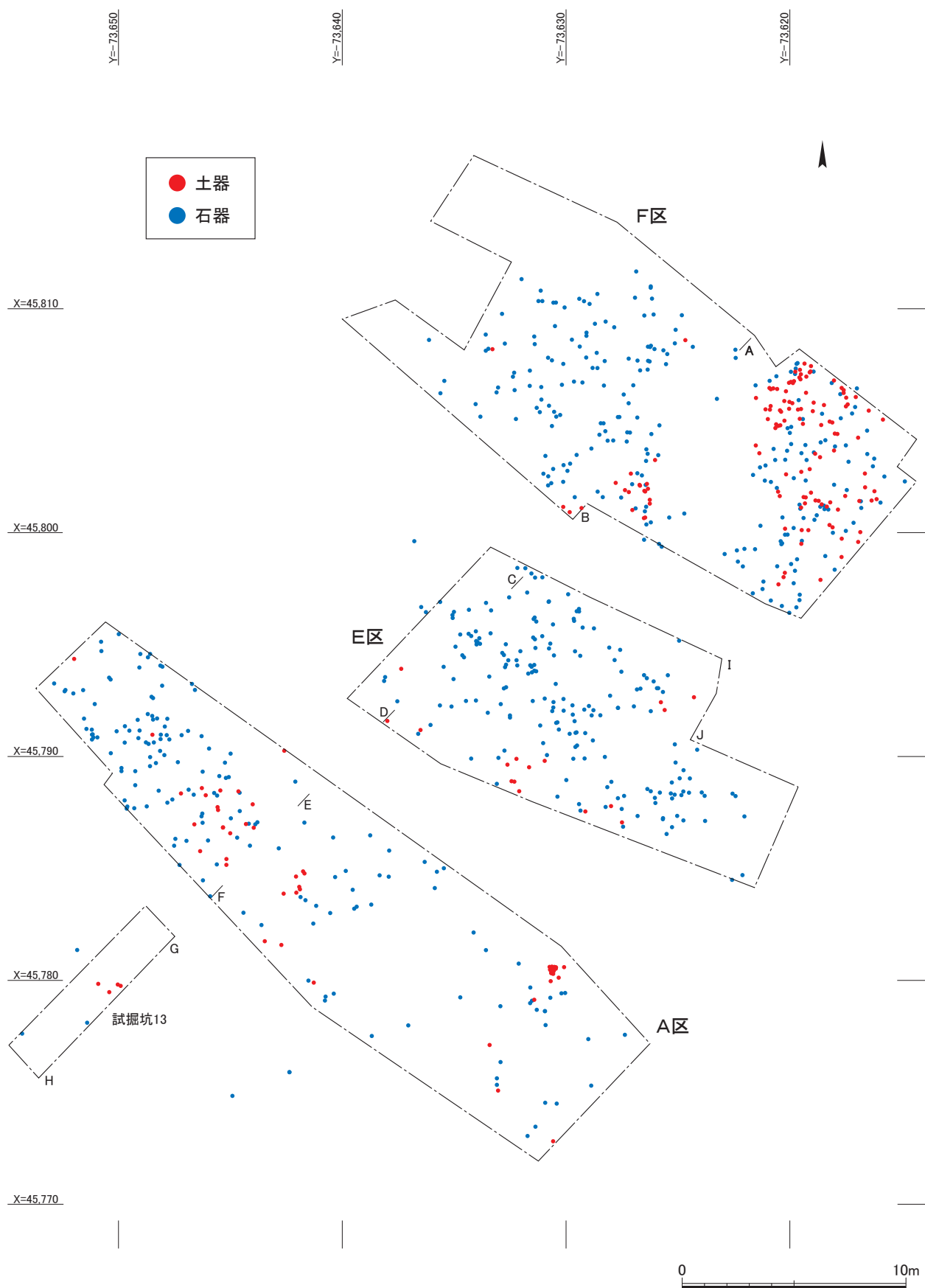
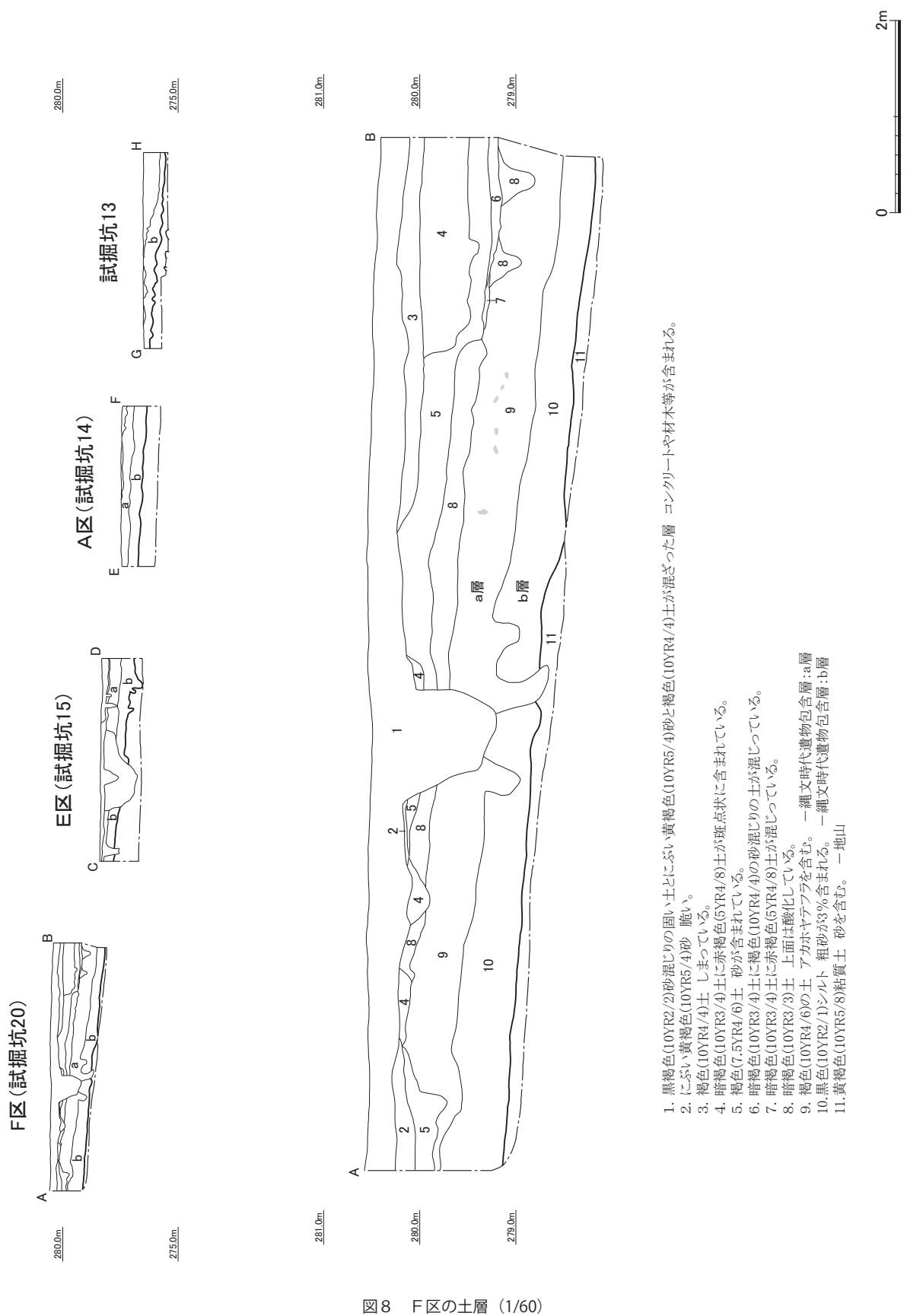
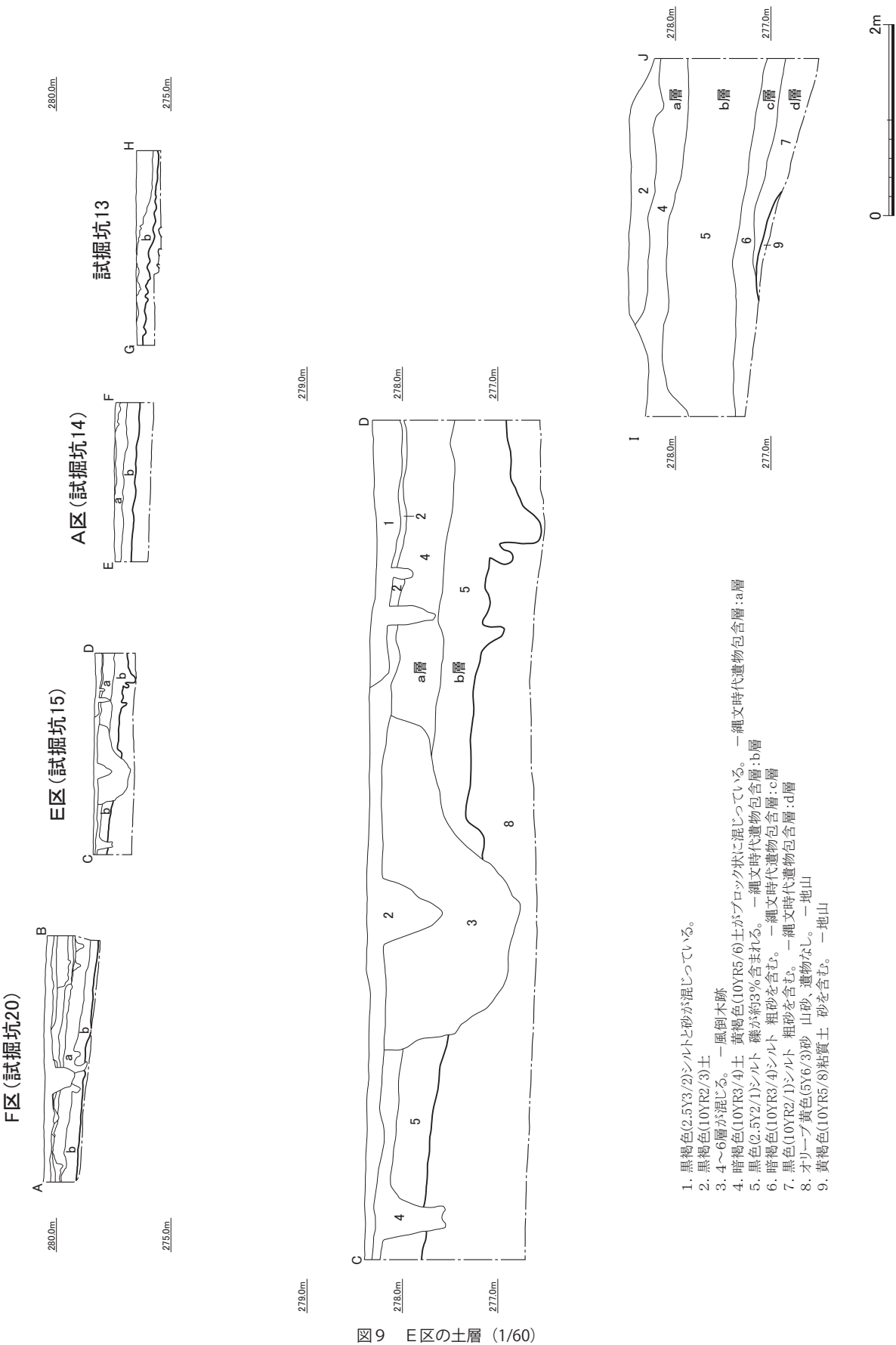


図7 A・E・F区旧石器・縄文時代遺物の平面分布 (1/250)





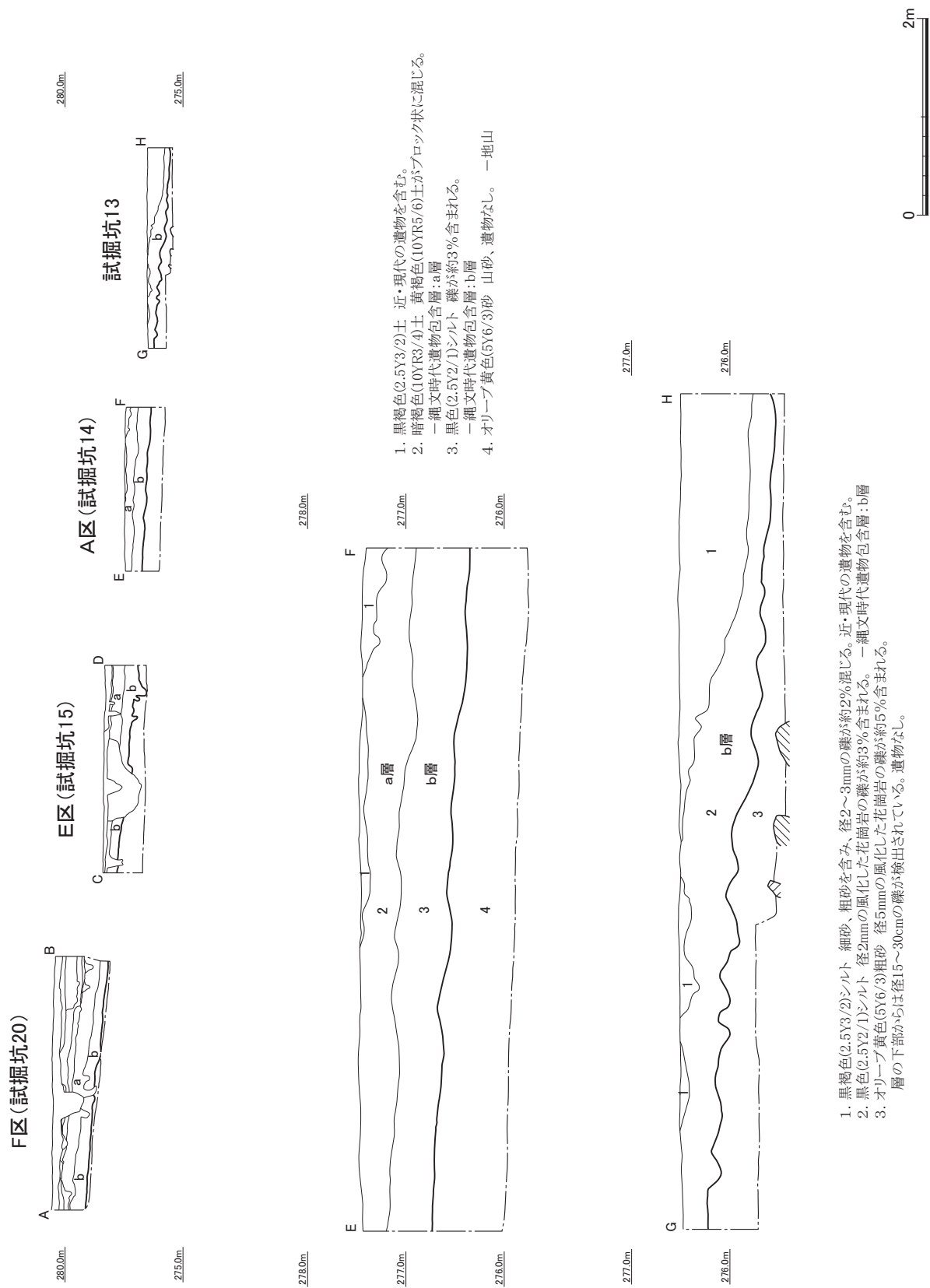


図 10 A区・試掘坑 13 の土層 (1/60)

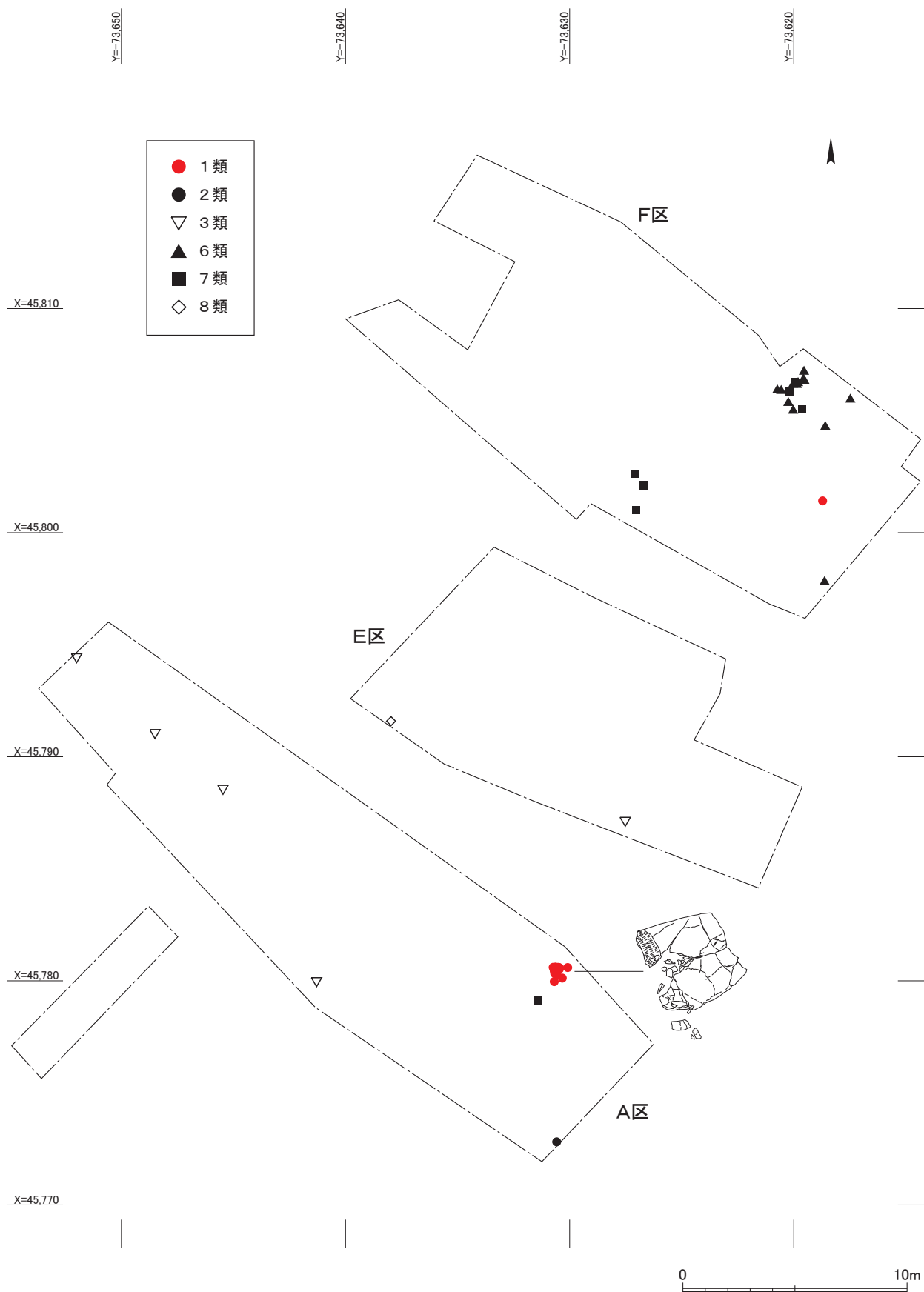


図 11 A・E・F区縄文時代土器の平面分布 (1/250)

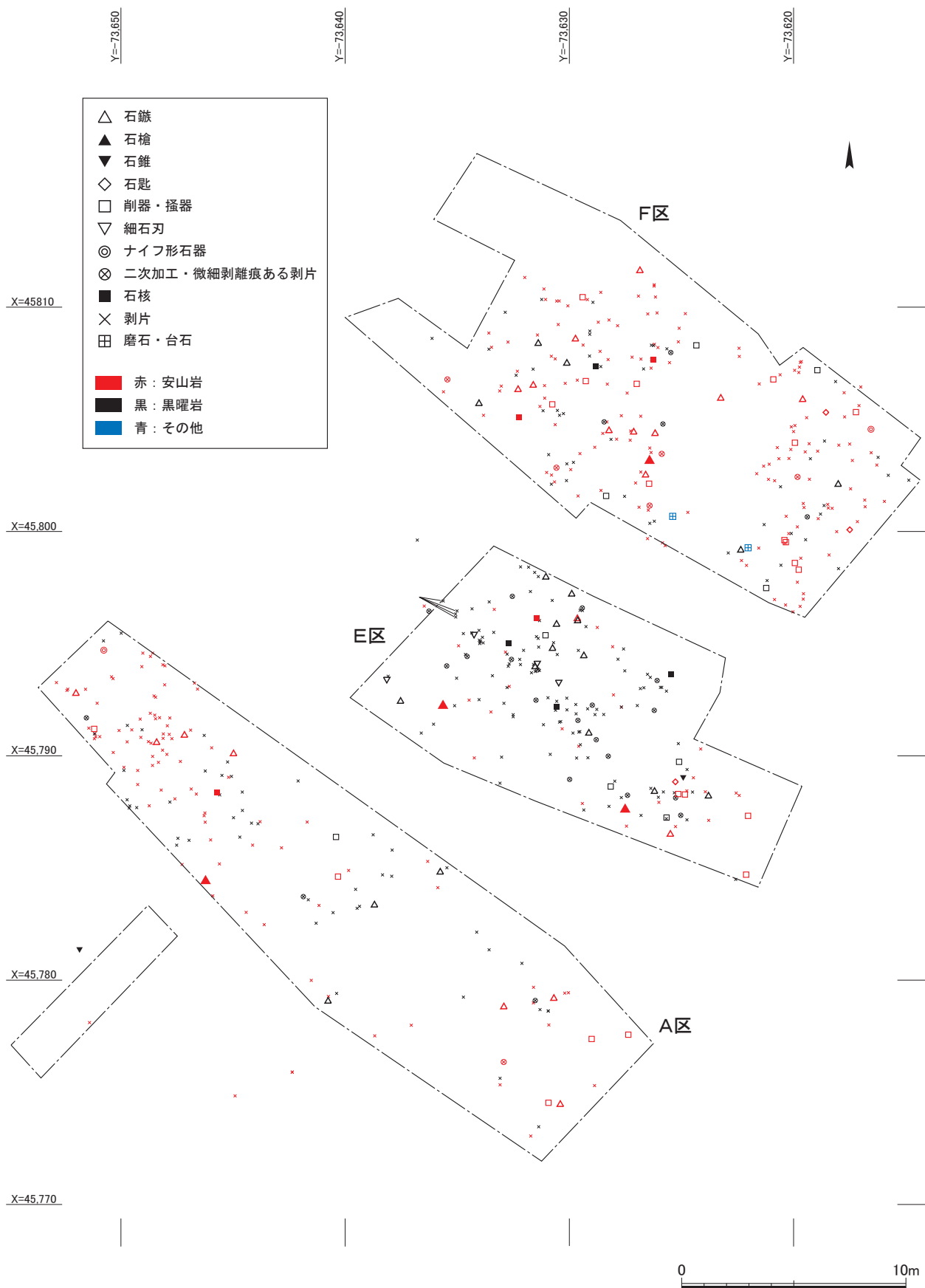


図 12 A・E・F区旧石器・縄文時代石器の平面分布 (1/250)

1) A区旧石器～縄文時代の遺物

縄文土器 (図 13)

1は1類で、底部は確認できなかったものの、A区東部でほぼ1個体分が押しつぶされた状態で出土した。口縁部はわずかに内傾する部分もあるが、ほぼ直立する円筒形の器形で、口縁端部は丁寧に面取りされている。口縁部外面に櫛状工具で横位に数段の刺突文を施すが、何段になるのかは確認できない。施文具の幅は約0.2cmであるが、原体については不明である。器面調整は、ハケメ状の痕跡を残す板状の工具によるものと思われる縦あるいは斜め方向のナデで、内面は更に平滑に仕上げる丁寧なナデがみられる。口縁部から胴部上半部の外面には煤が付着している。2は外面に網目状の撚糸文が施された2類で、器面調整は外面がナデ、内面が条痕のちナデである。3～5は3類で、3・4は縦走する山形押型文、5は粗大な楕円押型文が施され、内面に原体条痕がみられる。6は平楯式系の5類で、口縁端部に刻みが施され、外面は沈線と連点により施文される。7は7類に含めたが、前期の可能性もある。外面は縦方向の沈線文で、器面調整はナデである。

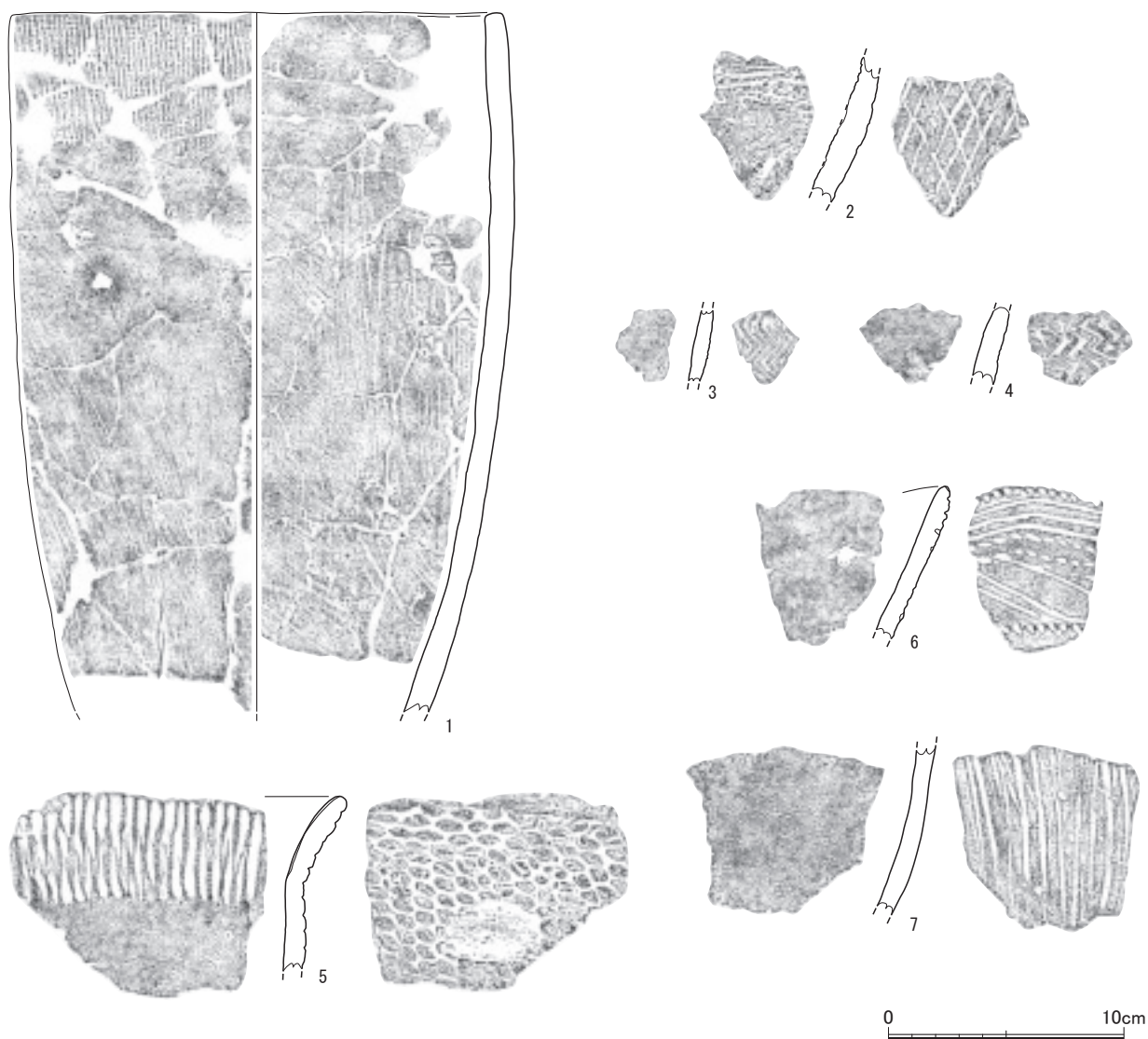


図 13 A区出土縄文時代の土器 (1/3)

石器（図 14）

A 区から出土した石器は、159 点の出土位置を 3 次元で計測して取り上げたが、礫石器（磨石）が 1 点あるのみで、他はすべて剥片石器とその石核・剥片である。

剥片石器類を器種・石材別にみると、石槍が 1 点（無斑晶質安山岩）、石鏃が 10 点（うち黒曜岩 3 点、無斑晶質安山岩 7 点）、削器・搔器が 6 点（うち黒曜岩 1 点、無斑晶質安山岩 5 点）、ナイフ形石器が 1 点（無斑晶質安山岩）で、定形石器の中では 6 割以上を狩猟具が占める。このほか、二次加工剥片・微細剥離痕ある剥片が 4 点（うち黒曜岩 3 点、無斑晶質安山岩 1 点）、剥片が 76 点（うち黒曜岩 20 点、無斑晶質安山岩 56 点）、微細剥片が 59 点（うち黒曜岩 28 点、無斑晶質安山岩 31 点）、石核が 1 点（無斑晶質安山岩）であり、剥片石器類の 8 割以上が剥片・石核類である。剥片石器に用いられた石材は黒曜岩と無斑晶質安山岩で、その比率は約 1 : 2 と無斑晶質安山岩が多い。

8～14 は石鏃で、8 が平基、9・13・14 が凹基のもの、10～12 が鍬形鏃である。15 は石鏃の未製品とみられる。16 は横長の剥片を素材とする大型のナイフ形石器で、1 側縁にのみ急角度調整を施している。17 は試掘坑 13 周辺で出土した黒曜岩製の石錐で、縁部にのみ調整加工を施している。18 は柳葉形の石槍で、側縁に両面から調整加工を施すが、両面に素材面を残している。基部は茎を意識している可能性がある。19 は削器で、縁部にのみ調整加工を施している。20 は無斑晶質安山岩製の石核である。21 は磨石で、表裏両面に使用によると思われる磨減がみられる。

2) E 区旧石器～縄文時代の遺物

縄文土器（図 15）

22 は無文の 8 類で、口縁端部に刻みが施される。器面調整はナデで、補修孔と思われる穿孔がある。23 は b 層から出土しているが、縄文土器かどうかは不明である。

石器（図 15・16）

E 区から出土した石器は、182 点の出土位置を 3 次元で計測して取り上げたが、すべて剥片石器とその石核・剥片である。

剥片石器類を器種・石材別にみると、石槍が 2 点（無斑晶質安山岩）、石鏃が 13 点（うち黒曜岩 11 点、無斑晶質安山岩 2 点）、石錐が 1 点（黒曜岩）、石匙が 1 点（無斑晶質安山岩）、削器が 8 点（うち黒曜岩 1 点、無斑晶質安山岩 5 点）、細石刃が 4 点（黒曜岩）で、定形石器の中では狩猟具が多い。このほか、二次加工剥片・微細剥離痕ある剥片が 18 点（黒曜岩）、剥片が 48 点（うち黒曜岩 29 点、無斑晶質安山岩 19 点）、微細剥片が 83 点（うち黒曜岩 77 点、無斑晶質安山岩 6 点）、石核が 4 点（うち黒曜岩 3 点、無斑晶質安山岩 1 点）であり、剥片石器類の 8 割以上は剥片・石核類である。剥片石器に用いられた石材は黒曜岩が約 8 割を占め、無斑晶質安山岩の比率が低いことが特徴である。

24～27 は細石刃とみられ、縁辺部に微細剥離痕が認められる。28 は黒曜岩を素材とする楔形の細石刃核である。29～38 は石鏃で、長さ 2 cm 以下の小型のものが多い。29・30 は平面がいびつな三角形に近い平基のもので、左右非対称である。31 は円基のもので、周辺の遺跡でもあまり類例がない。32～34 は微凹基のもの、35 は小型の鍬形鏃である。36 は未製品である。37・38 は凹基のものである。39 は黒曜岩製の小型のラウンド・スクレーパーの類である。40・41 は柳葉形の石槍で、両面に丁寧な調整剥離を施している。42 は横型の石匙で、縁部にのみ調整加工を施している。43～47 は削器で、いずれも縁部にのみ調整を施して刃部を作出している。48～51 は黒曜岩の接合資料で、小型の円礫から剥片を剥離していることがうかがえる。52 は無斑晶質安山岩製の石核である。

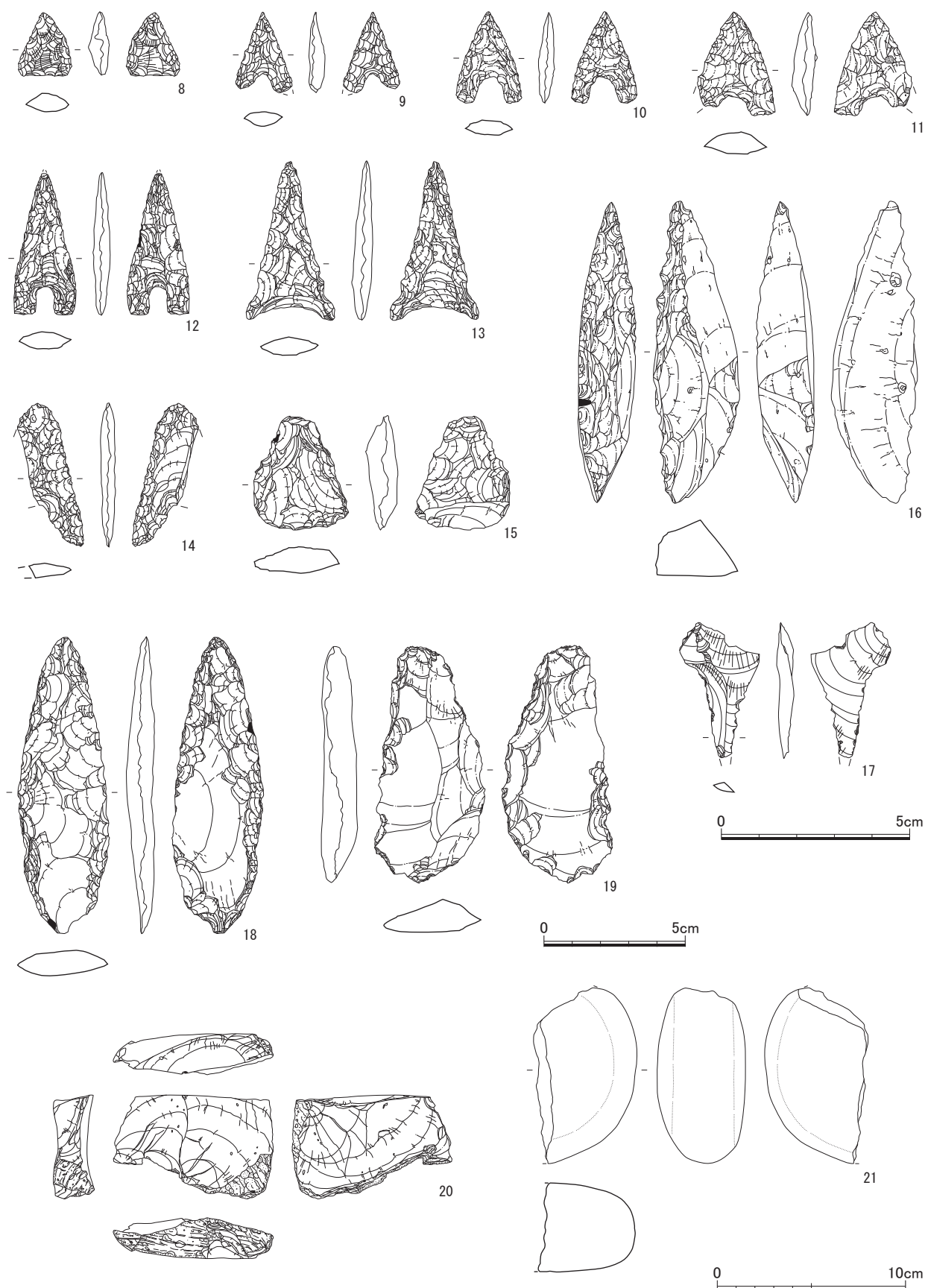


図14 A区出土旧石器・縄文時代の石器（8～17は2/3、18・19は1/2、20・21は1/3）

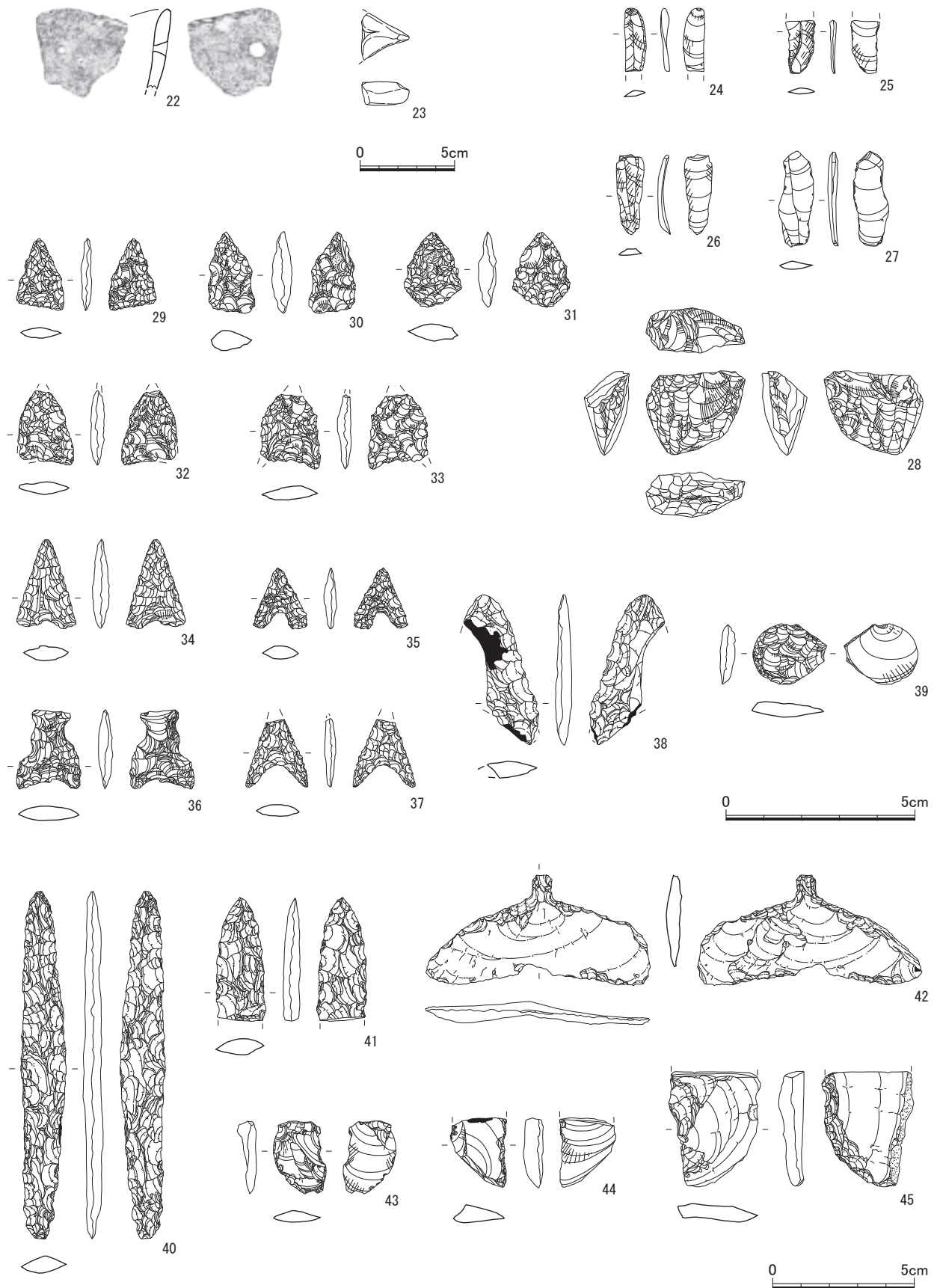


図 15 E 区出土縄文時代の土器 (1/3)、旧石器・縄文時代の石器 (24 ~ 39 は 2/3、40 ~ 45 は 1/2)



図 16 E区出土縄文時代の石器 (1/2)

3) F区縄文時代の遺物

縄文土器 (図 17)

53は1類で、横位に3段の貝殻腹縁による刺突文を施している。口縁端部は面取りされ、器面調整はナデである。54～56は塞ノ神B式系の6類で、刺突文や沈線文で施文される。内面の器面調整は54がナデ、55・56は条痕のちナデである。57～59は轟A式系の7類で、57は斜位の条痕文、59はやや雑な山形の条痕文が外面に施される。

石器 (図 17・18)

F区から出土した石器は、231点の出土位置を3次元で計測して取り上げたが、礫石器は2点のみで、他はすべて剥片石器とその石核・剥片である。

剥片石器類を器種・石材別にみると、石槍が1点（無斑晶質安山岩）、石鏃が15点（うち黒曜岩5点、無斑晶質安山岩10点）、石匙が2点（無斑晶質安山岩）、削器が16点（うち黒曜岩4点、無斑晶質安山岩12点）、ナイフ形石器が1点（無斑晶質安山岩）である。このほか、二次加工剥片・微細剥離痕ある剥片が9点（うち黒曜岩4点、無斑晶質安山岩5点）、剥片が102点（うち黒曜岩16点、無斑晶質安山岩86点）、微細剥片が80点（うち黒曜岩28点、無斑晶質安山岩52点）、石核が3点（うち黒曜岩1点、無斑晶質安山岩2点）であり、剥片石器類の8割以上を剥片・石核類が占める。剥片石器に用いられた石材は黒曜岩と無斑晶質安山岩で、その比率は約1：3と無斑晶質安山岩が多い。

60はナイフ形石器で、1側縁にのみ急角度調整を施している。61～68は石鏃で、61～63は鍬形鏃、64～68は平面二等辺三角形の凹基のものである。64は自然面を、65は素材面をそれぞれ片面に残している。69は製作途中に放棄された石鏃の未製品であろう。70は黒曜岩製の小型のラウンド・スクレーパーの類である。71・72は横型の石匙で、縁部に丁寧な調整加工を施し、刃部とつまみ部を作り出している。73～78は削器で、大小さまざまな形態の剥片を用いて刃部にのみ丁寧な調整加工を施したものであるが、75は無斑晶質安山岩の残核を利用している。78は試掘坑12a層から出土した。79は黒曜岩製の石核で、打面転移を繰り返した残核である。80は磨石で、両面に使用による磨滅がみられるが、片面の側面に近い部分には特に顕著に認められる。81はやや小型の台石で、両面に使用によるものと思われる磨滅がみられる。80・81とも岩石鑑定は行っていないが、花崗岩類であろう。

4) B区縄文時代の遺物

縄文土器 (図 21)

82～84は1類である。82はへら状工具と思われる原体で横位に2段の刺突文が施され、口縁端部は面取りされている。器面調整は、外面がハケメ状の痕跡を残す板状の工具によるものと思われる斜め方向のナデで、内面は条痕のちナデである。83はへら状工具と思われる原体で横位に3段の刺突文が施され、器面調整はナデである。84は貝殻腹縁で3段の刺突文が施され、口縁端部は丸く仕上げている。器面調整は外面がナデ、内面が条痕のちナデである。85は撚糸文が施された2類で、器面調整はナデである。86は塞ノ神B式系統の6類と思われ、器面調整は条痕のちナデである。

石器 (図 22・23)

B区から出土した石器は、233点の出土位置を3次元で計測して取り上げたが、礫石器は5点で、他はすべて剥片石器とその石核・剥片である。

剥片石器類を器種・石材別にみると、石槍が4点（無斑晶質安山岩）、石鏃が9点（うち黒曜岩6点、無斑晶質安山岩3点）、石錐が2点（無斑晶質安山岩）、削器が18点（無斑晶質安山岩）、異形石器が1点（黒曜岩）である。



図 17 F区出土縄文時代の土器 (1/3)、旧石器・縄文時代の石器 (60～70は2/3、71～74は1/2)

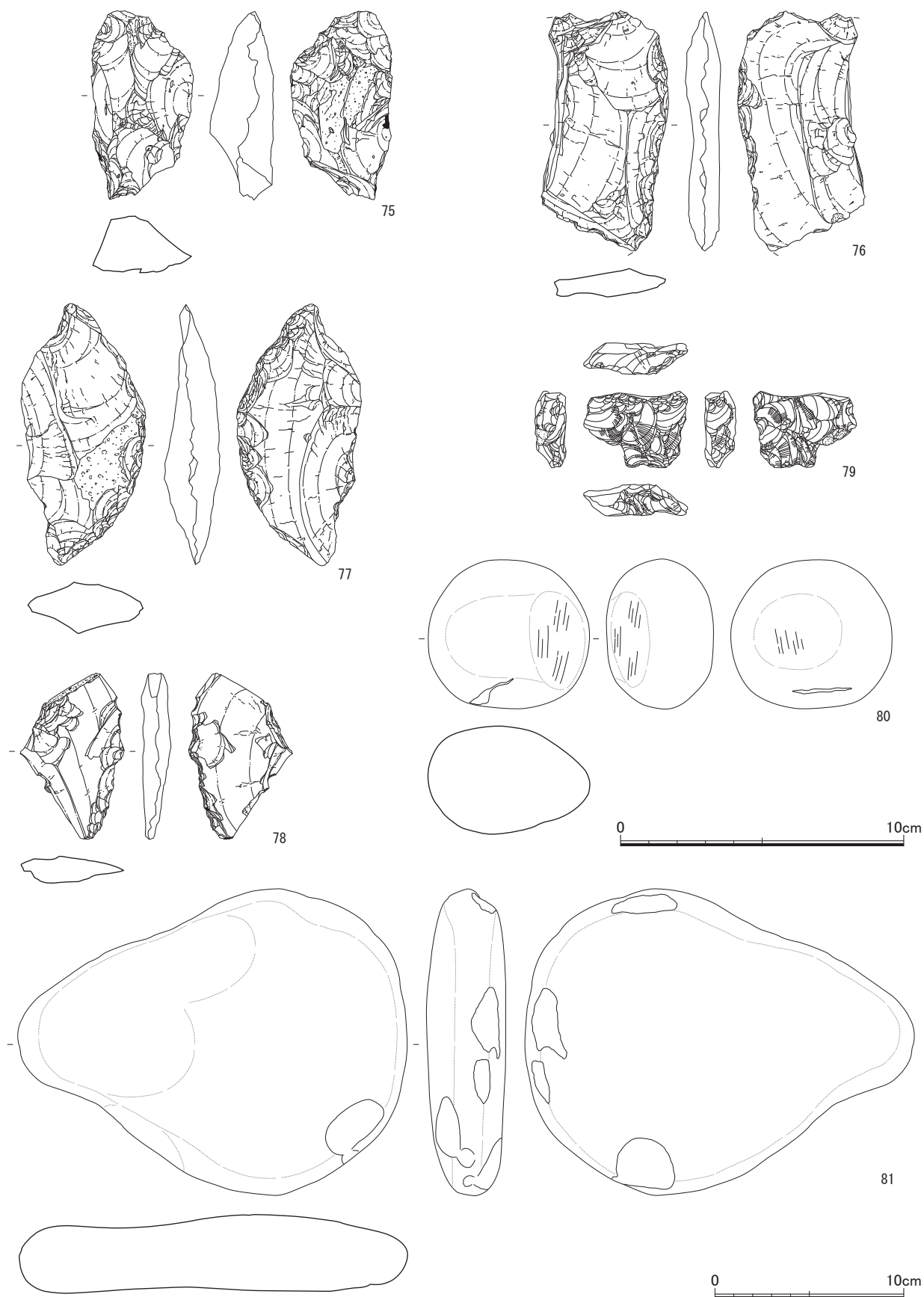


図 18 F区出土縄文時代の石器 (75～80は1/2、81は1/3)

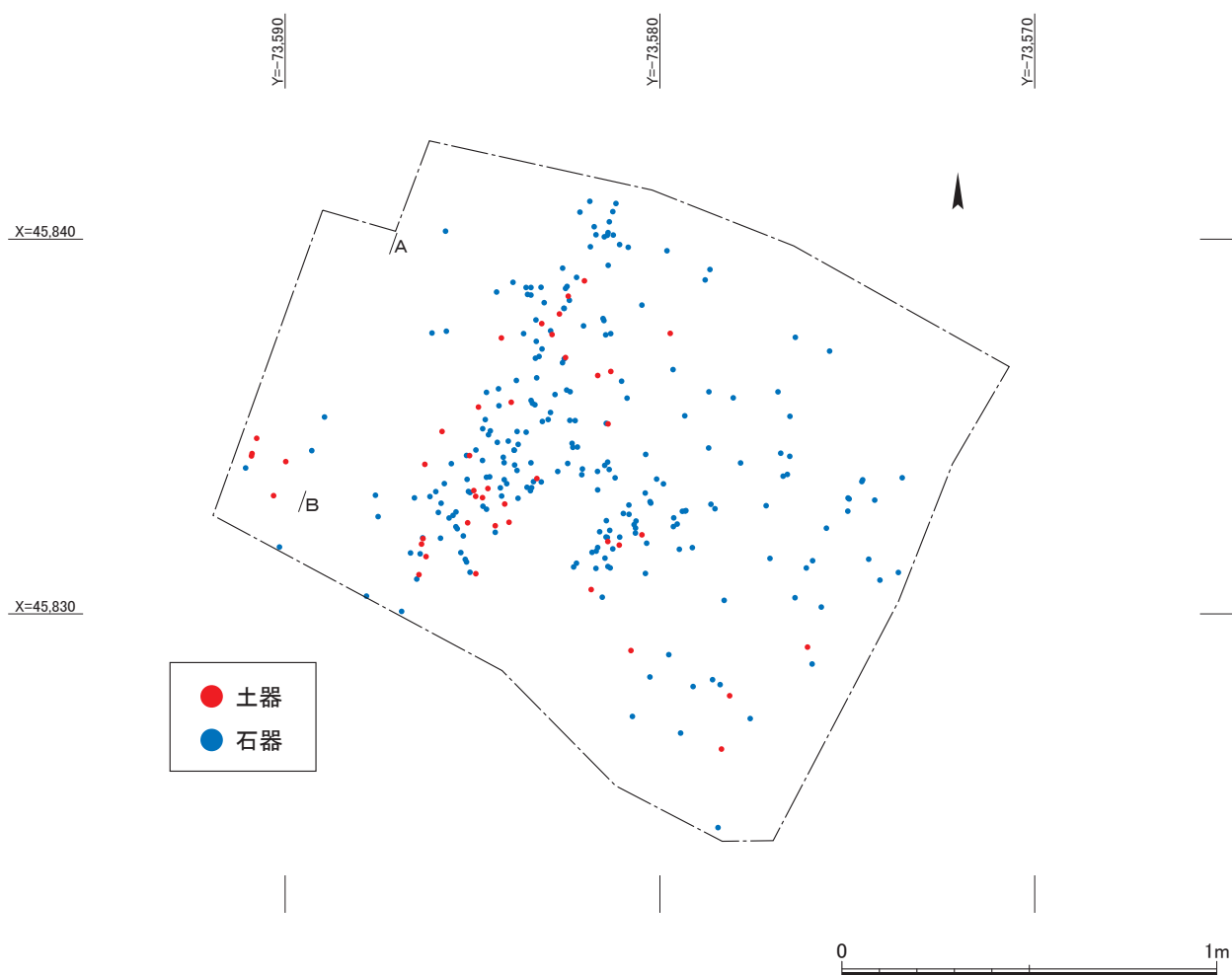


図 19 B区縄文時代遺物の平面分布 (1/200)、土層 (1/60)

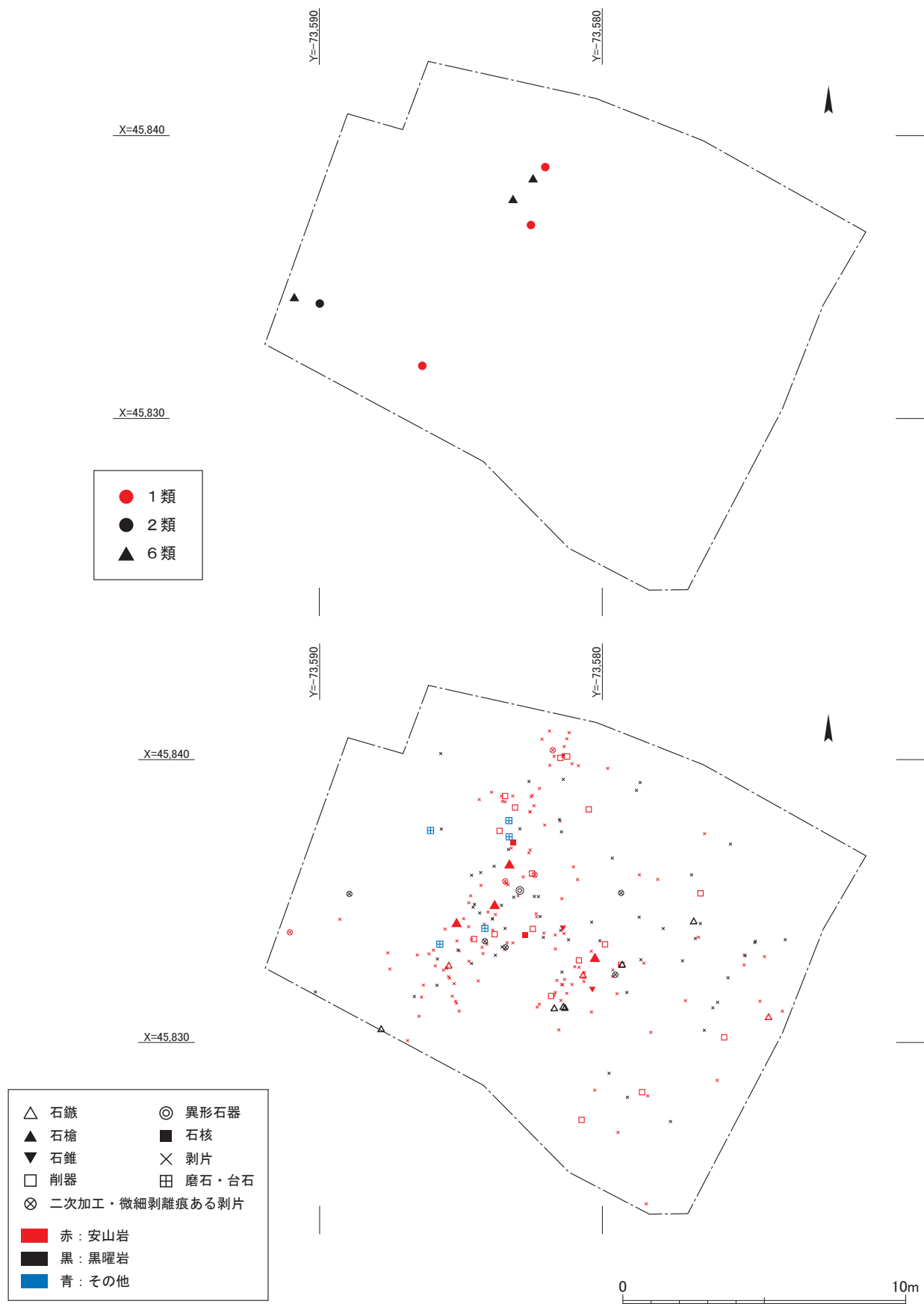


図 20 B 区縄文時代土器・石器の平面分布 (1/200)

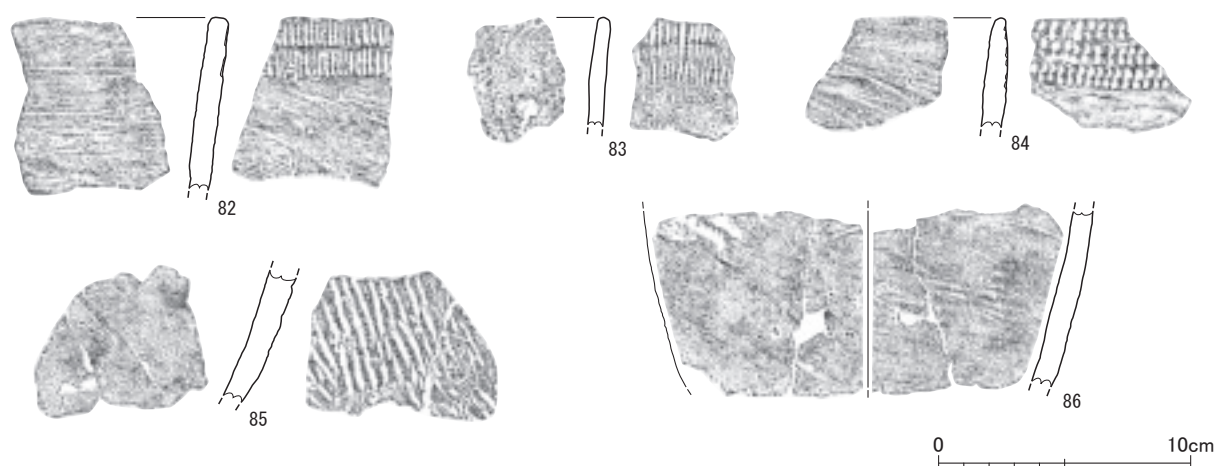


図 21 B区出土縄文時代の土器 (1/3)

このほか、二次加工剥片・微細剥離痕ある剥片が9点（うち黒曜岩5点、無斑晶質安山岩4点）、剥片が95点（うち黒曜岩11点、無斑晶質安山岩84点）、微細剥片が88点（うち黒曜岩50点、無斑晶質安山岩38点）、石核が2点（無斑晶質安山岩）であり、剥片石器類の8割以上を剥片・石核類が占める。剥片石器に用いられた石材は黒曜岩と無斑晶質安山岩で、その比率は約1：2と無斑晶質安山岩が多い。

87～91は石鏃で、平面が二等辺三角形で、凹基のものであるが、87・88はかなり歪な形態である。92～94は石鏃の未製品である。95は柳葉形の石槍で、両面に丁寧な調整剥離が施される。96は黒曜岩製の異形石器で、丁寧な調整剥離を施し、平面Y字形に成形している。97は無斑晶質安山岩の残核を利用したと思われる搔器である。98～101は大小さまざまな形態の剥片を用いて刃部にのみ調整を施した削器で、調整剥離の程度はさまざまである。102～104は磨石で、使用によるものと思われる磨滅が102は両面に、103・104は片面から側面にかけてみられる。105・106は台石である。105は両面に使用によるものと思われる磨滅がみられ、片面は非熱のためか赤化している。106は表面の自然の窪みを安定して利用するためか、その裏面を敲打によって平坦にしているようである。礫石器は石材鑑定をしていないが、花崗岩類がほとんどである。

5) C区縄文時代の遺物

縄文土器（図28）

107は4類で、外面は沈線文と刺突文を施した後、縦方向の突帯を貼り付け、その上に刺突文を施している。内面の器面調整はナデである。108・109は7類で、外面に条痕文が施される。

石器（図28～31）

C区から出土した石器は、2,770点の出土位置を3次元で計測して取り上げた。C区では、上層（a・b層）と下層（c・d層）で様相が異なるため、別々に説明する。

上層では62点の石器が出土したが、礫石器は2点のみで、他はすべて剥片石器とその石核・剥片である。剥片石器類を器種・石材別にみると、石鏃が5点（うち黒曜岩4点、無斑晶質安山岩1点）、石匙が1点（無斑晶質安山岩）、削器・搔器が2点（無斑晶質安山岩）で、石鏃の比率が高い。このほか、二次加工剥片・微細剥離痕ある剥片が4点（うち黒曜岩2点、無斑晶質安山岩2点）、剥片が29点（うち黒曜岩4点、無斑晶質安山岩25点）、微細剥片が15点（うち黒曜岩4点、無斑晶質安山岩11点）、石核が4点（無斑晶質安山岩）であり、剥片石器類の約8割を剥片・石核類が占める。剥片石器に用いられた石材は黒曜岩と無斑晶質安山岩で、その比率は約1：3と無斑晶

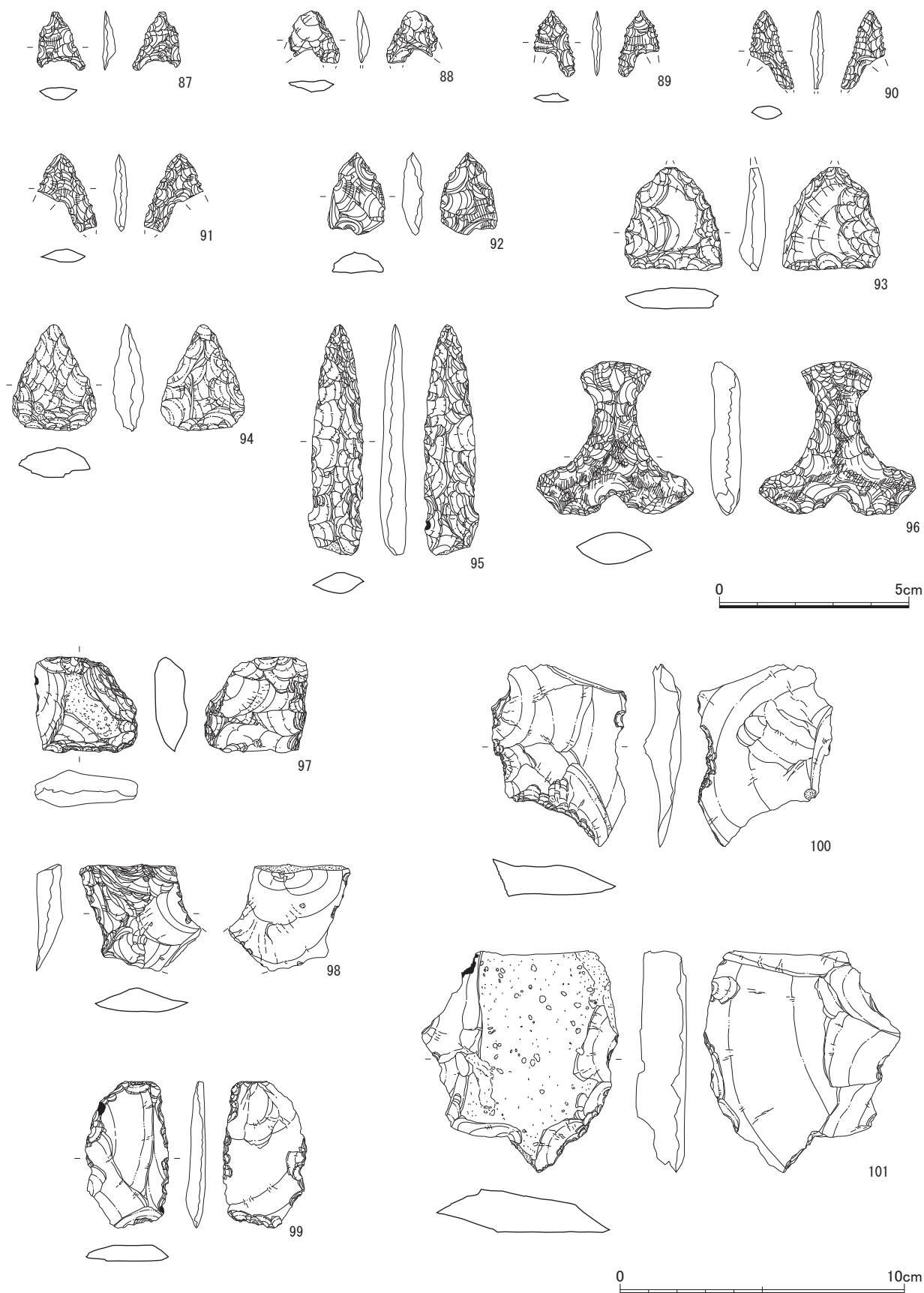


図 22 B区出土縄文時代の石器 1 (87～96は 2/3、97～101は 1/2)

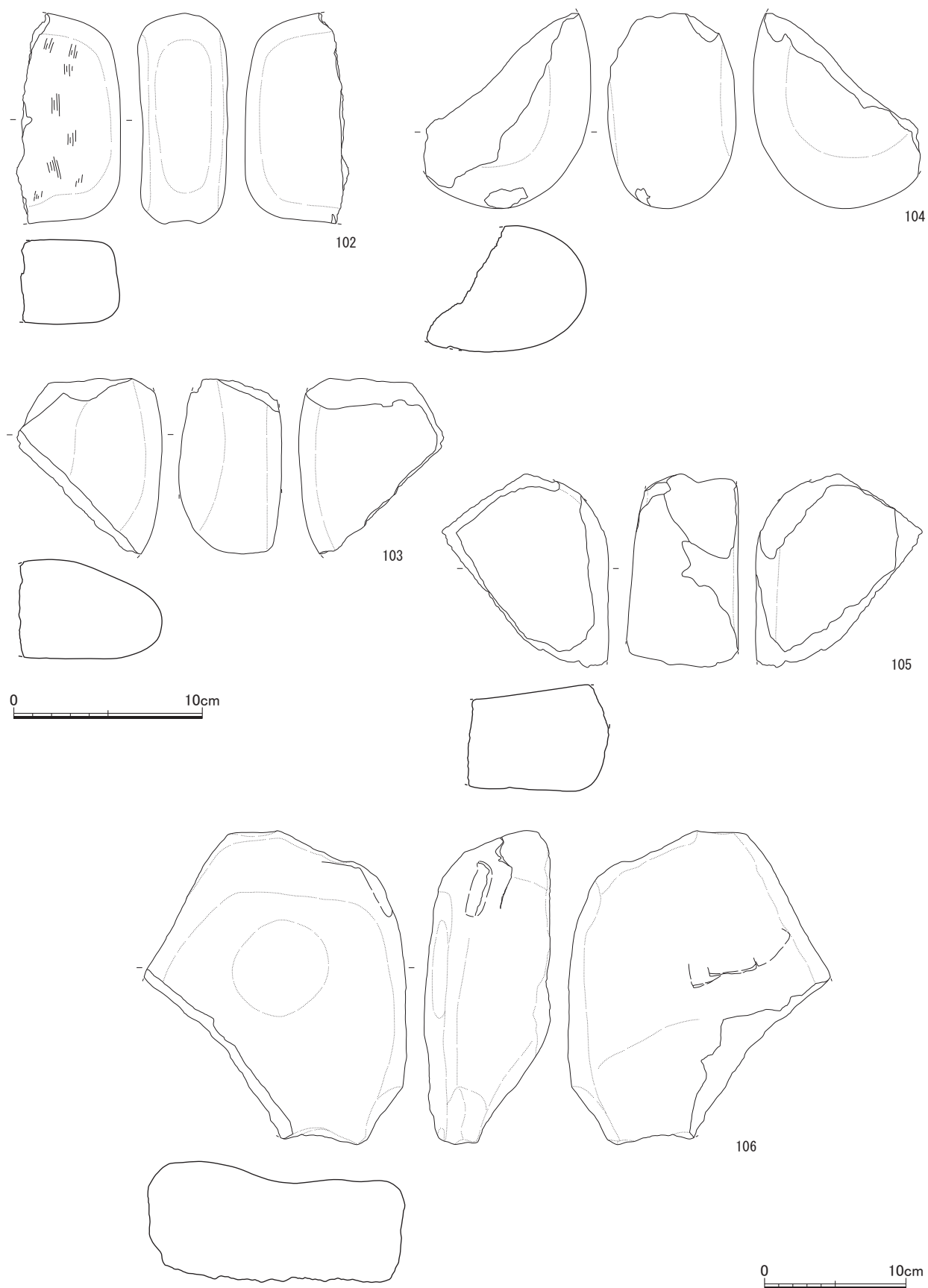


図 23 B区出土縄文時代の石器 2 (102～104は 1/3、105・106は 1/4)

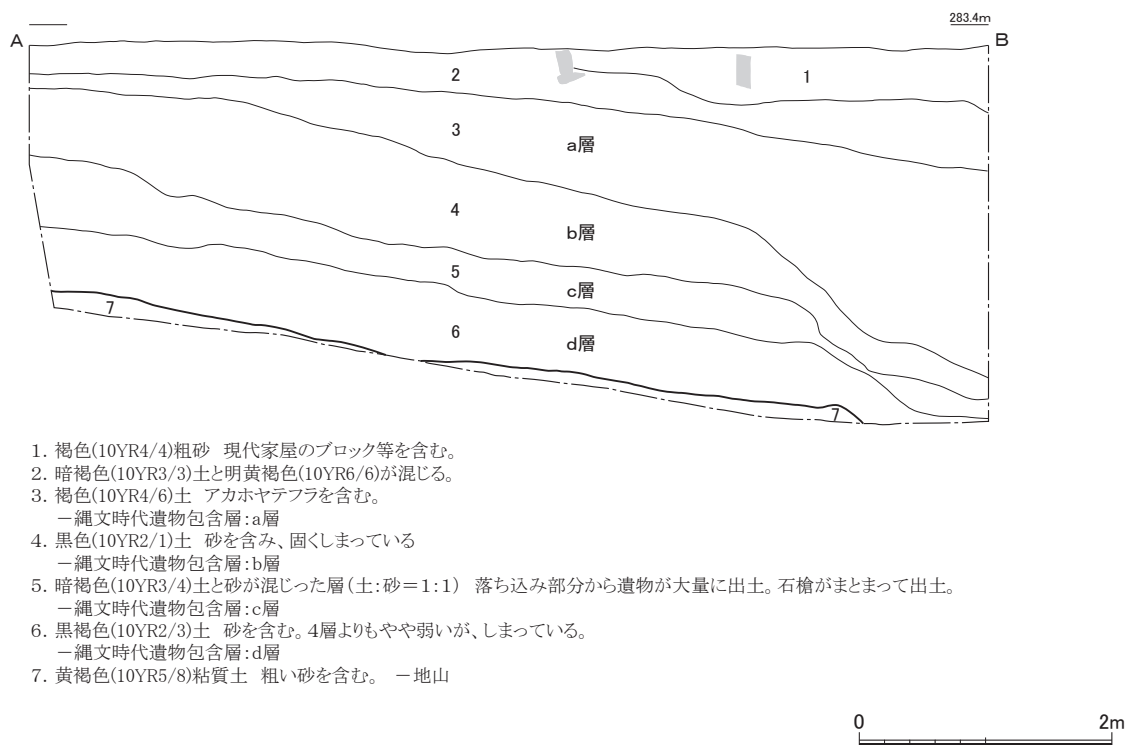
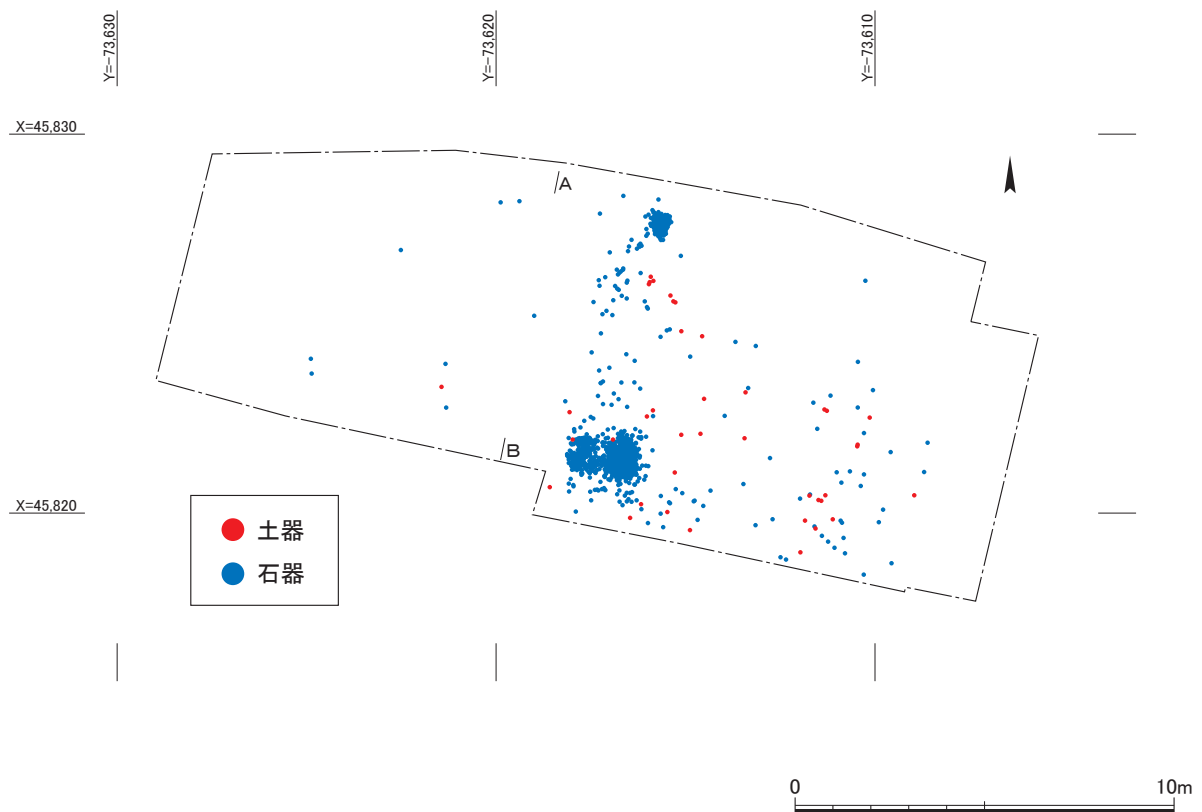


図 24 C区縄文時代遺物の平面分布 (1/200)、土層 (1/60)

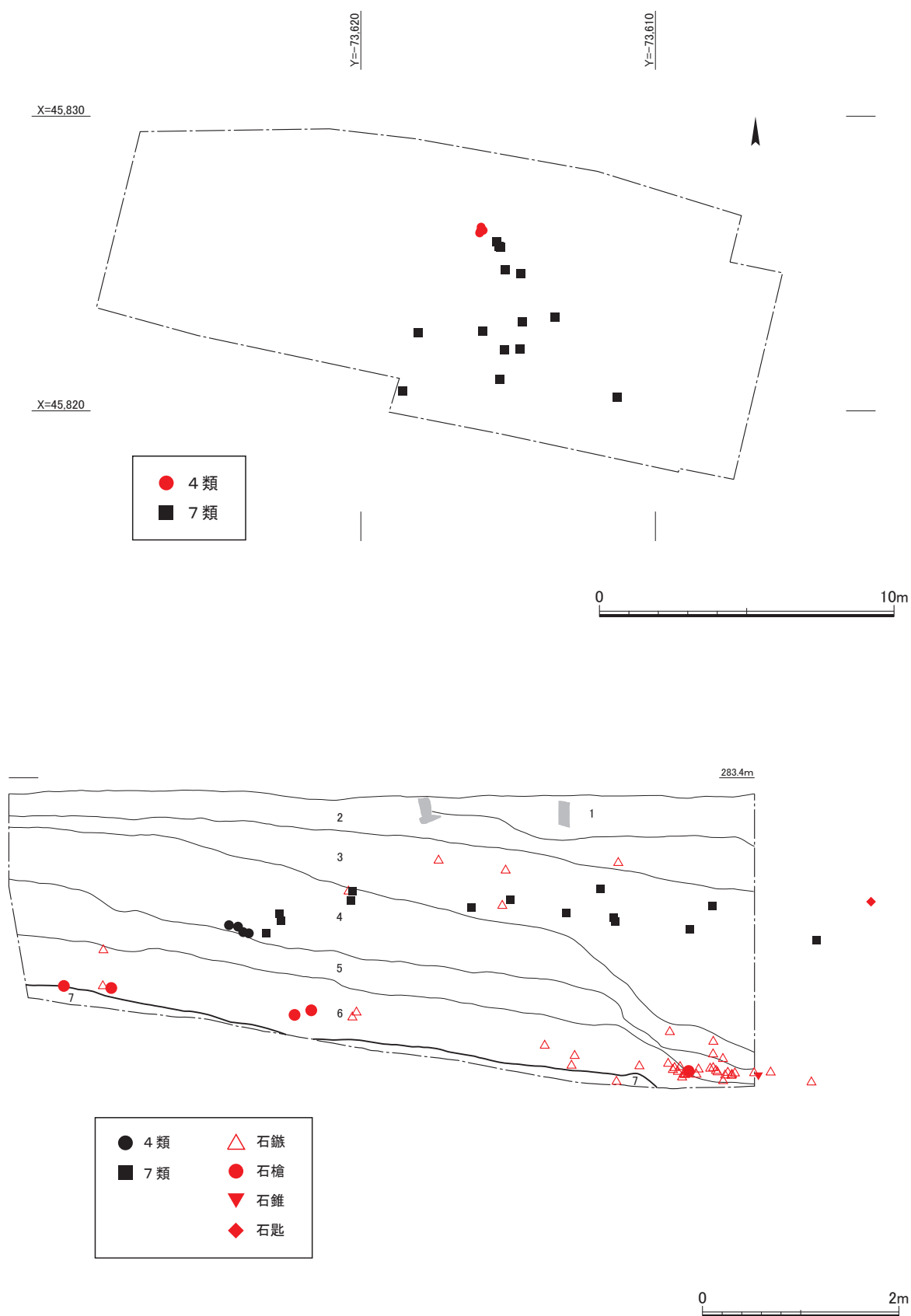


図 25 C 区縄文時代土器の平面分布 (1/200)、土器・石器の垂直分布 (1/60)

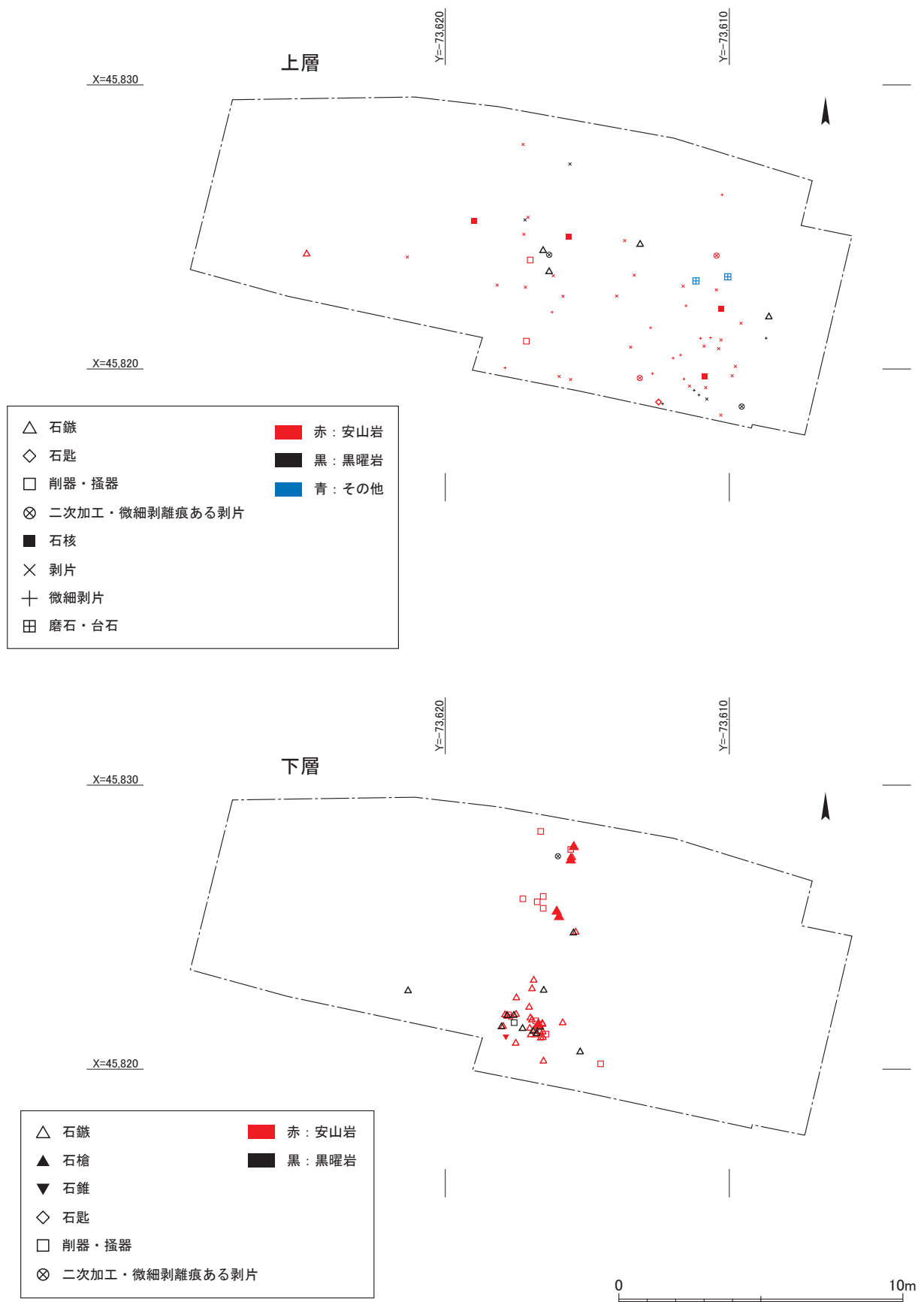


図 26 C区縄文時代石器の平面分布 (1/200)

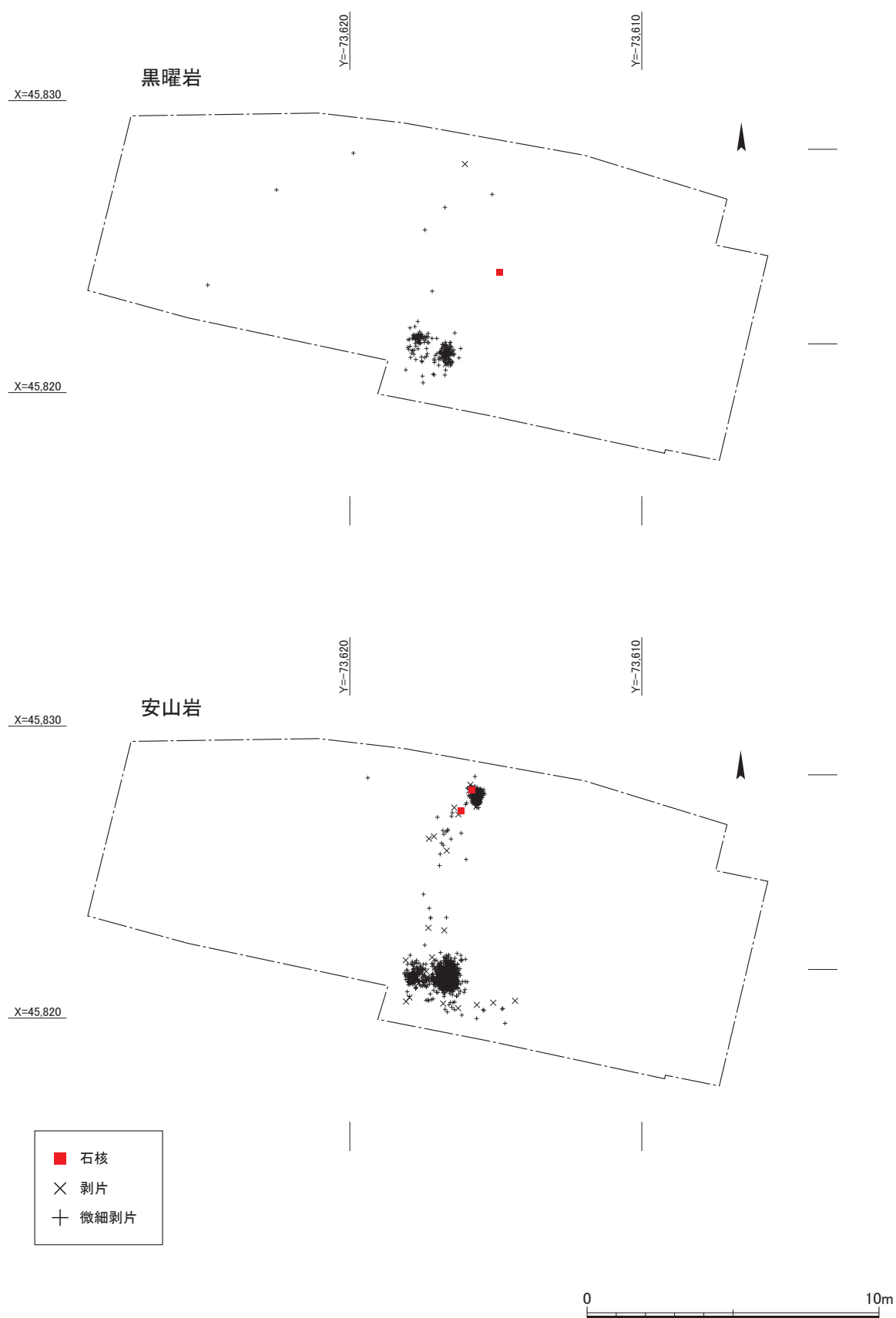


図 27 C 区下層縄文時代石核・剥片の平面分布 (1/200)

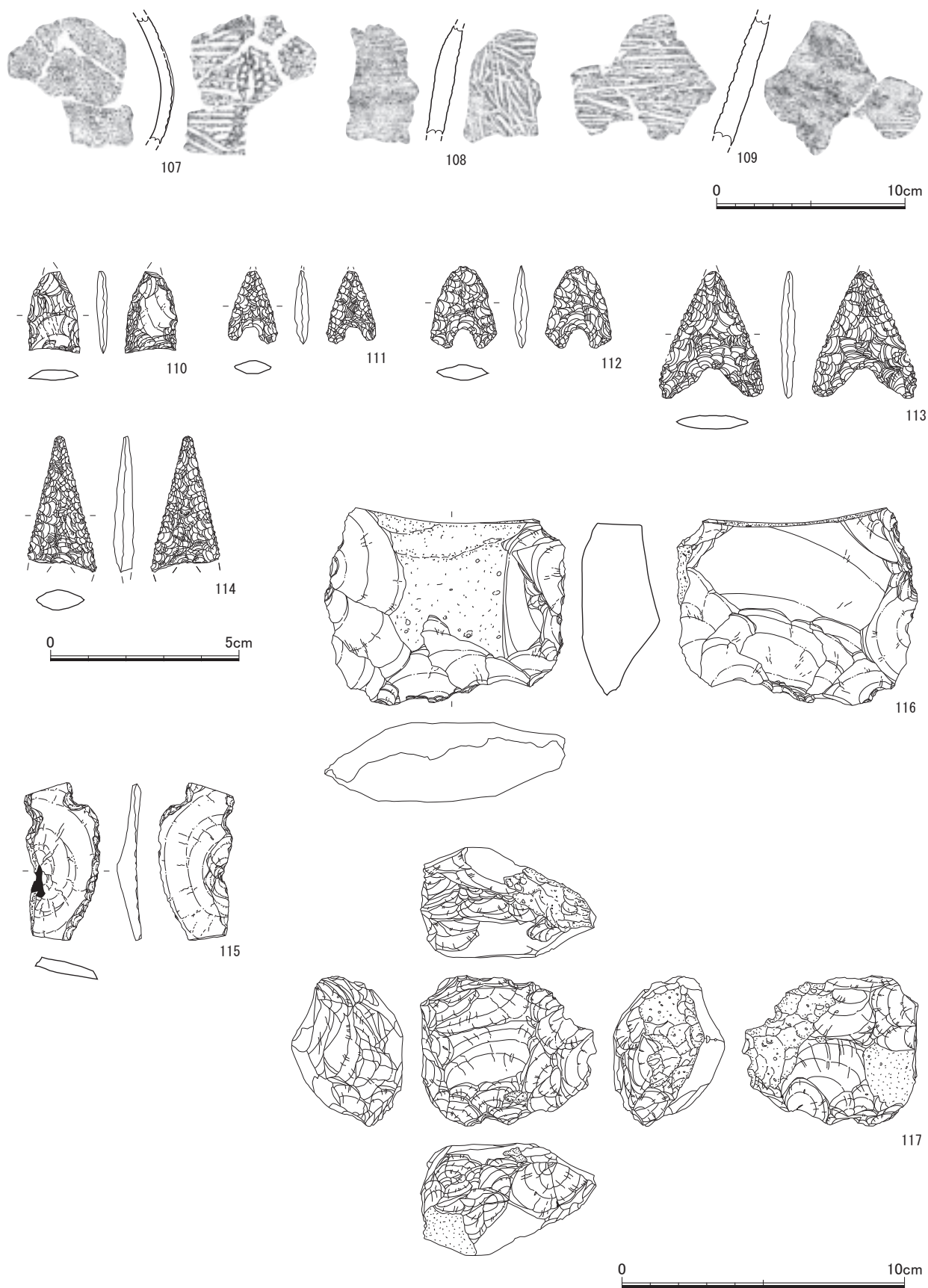


図 28 C区出土縄文時代の土器 (1/3)・石器 1 (110～114は 2/3、115～117は 1/2)

質安山岩が多い。

110～114は石鏃で、110は平面五角形に近い微凹基、111・112は鋏形鏃、113・114は平面二等辺三角形の凹基のものである。115は縦型の石匙で、縁部に調整加工を施し、刃部とつまみ部を作り出している。116は搔器で、無斑晶質安山岩の残核を利用したものと思われる。117・118は無斑晶質安山岩製の石核である。119は凹石で、磨滅がみられることから、磨石としても使用しているものと考えられる。120は磨石で、両面に使用によるものと思われる磨滅がみられる。

下層では2,708点の石器が出土したが、すべて剥片石器とその石核・剥片であり、調査区中央のやや落ち込んだ部分から集中して出土した（図26・27）。剥片石器類を器種・石材別にみると、石槍が5点（無斑晶質安山岩）、石鏃が38点（うち黒曜岩11点、無斑晶質安山岩27点）、石錐が1点（無斑晶質安山岩）、削器・搔器が10点（無斑晶質安山岩）で、狩猟具が定形石器の約8割を占める。このほか、二次加工剥片・微細剥離痕ある剥片が2点（うち黒曜岩1点、無斑晶質安山岩1点）、剥片が59点（うち黒曜岩4点、無斑晶質安山岩55点）、微細剥片が2,589

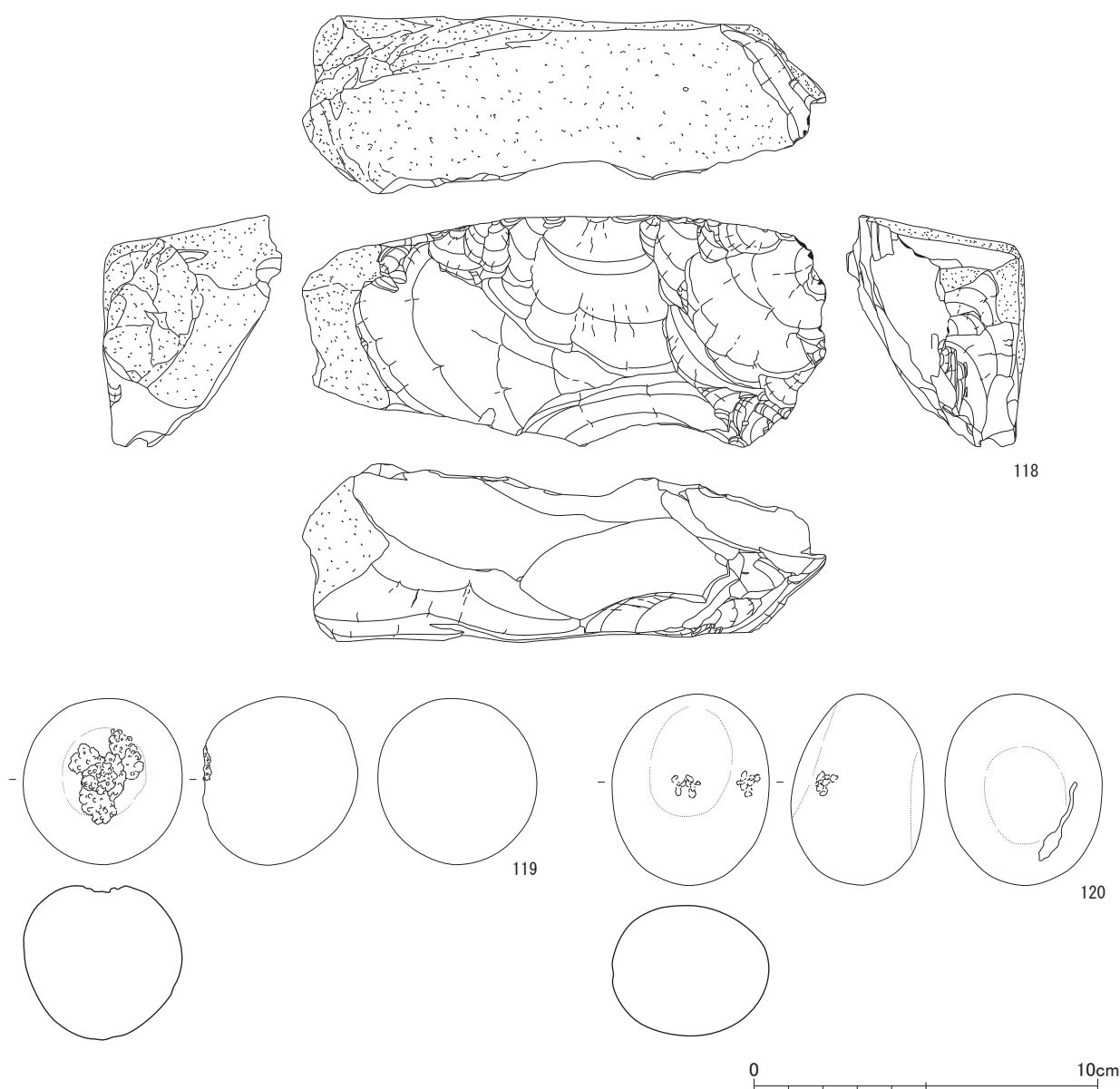


図29 C区出土縄文時代の石器2（1/2）

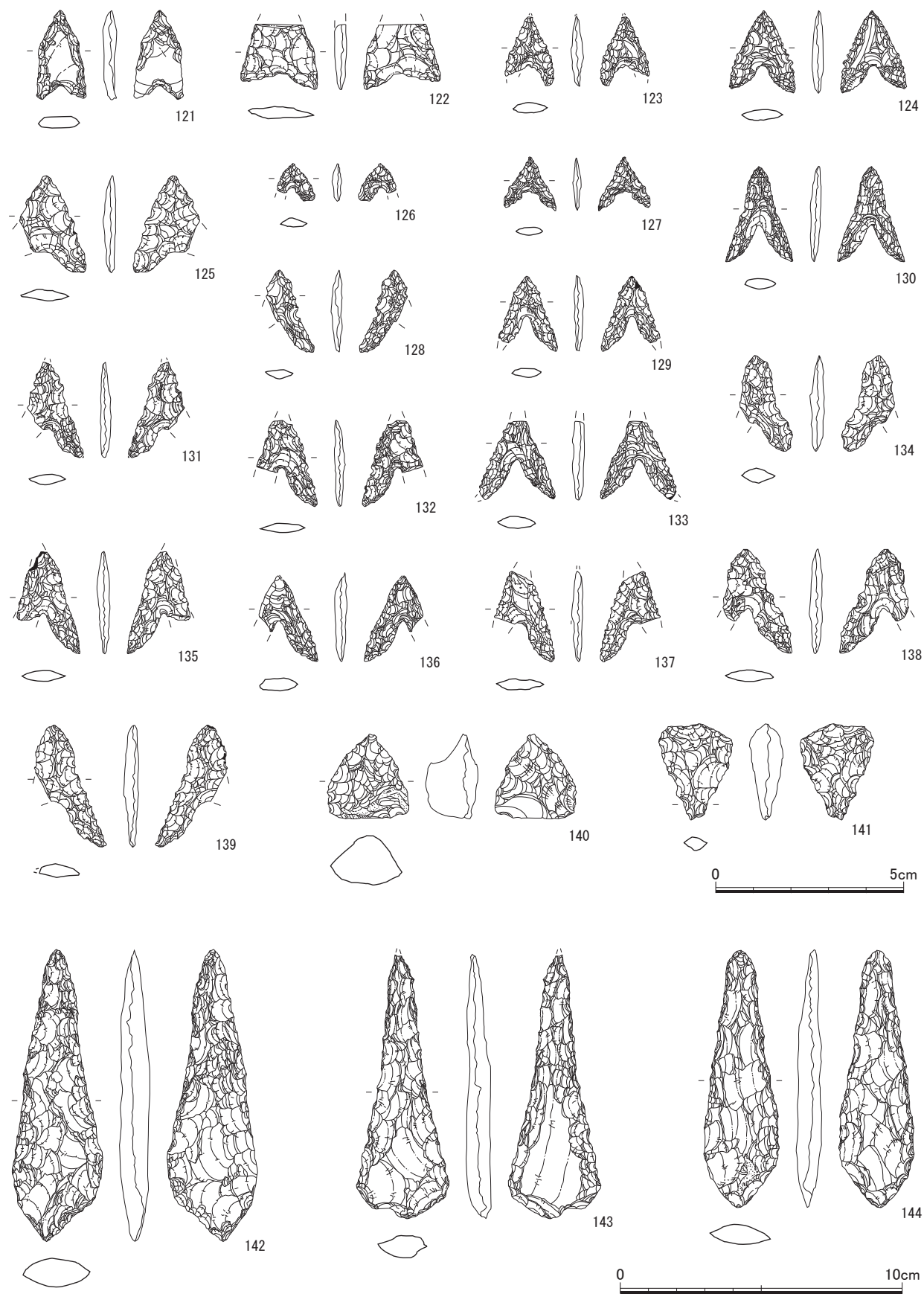


図 30 C区出土縄文時代の石器 3 (2/3・1/2)

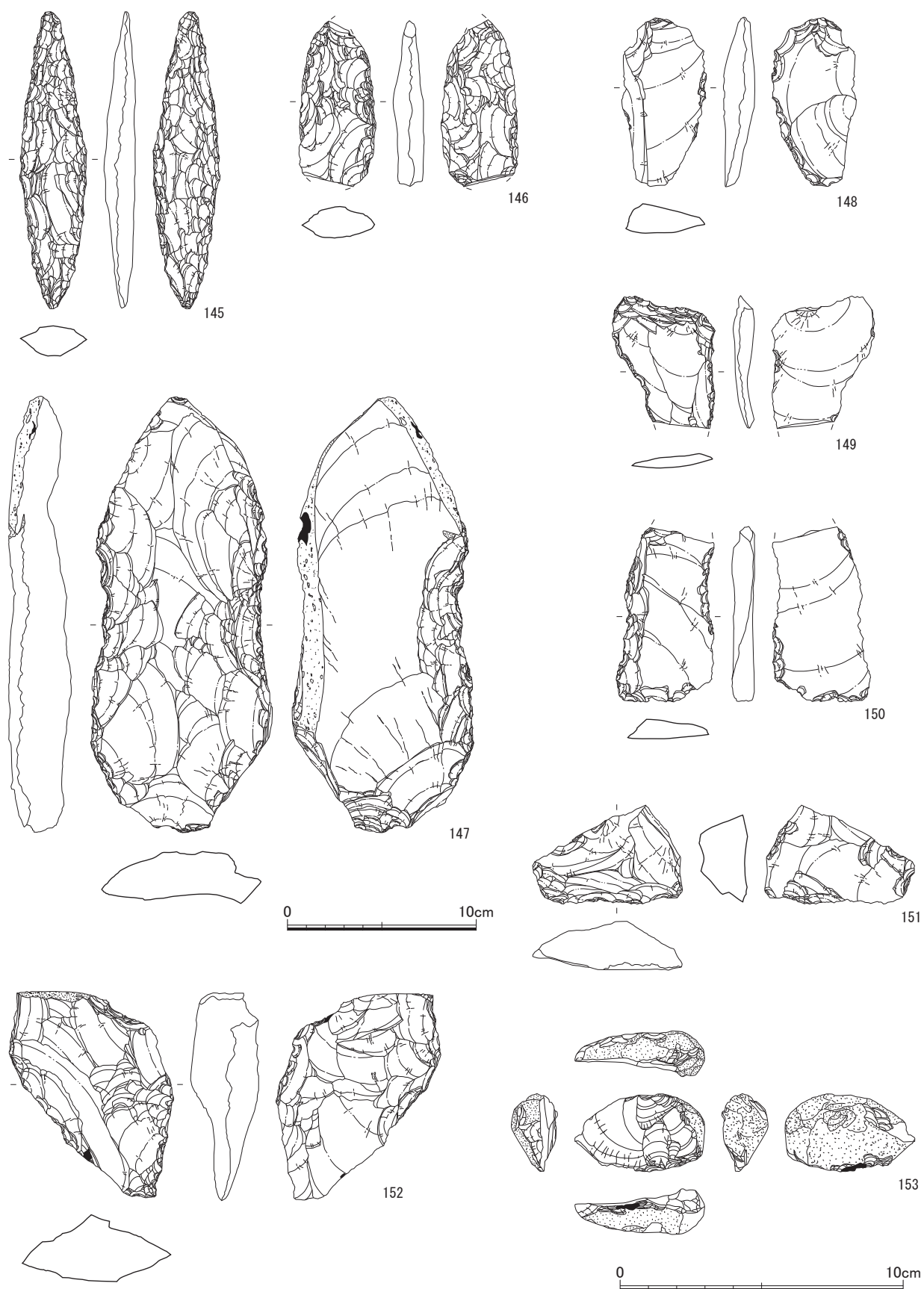


図 31 C区出土縄文時代の石器4 (147は1/3、他は1/2)

点（うち黒曜岩 224 点、無斑晶質安山岩 2,365 点）、石核が 2 点（無斑晶質安山岩）であり、剥片石器類のほとんどが剥片・石核類である。剥片石器に用いられた石材は無斑晶質安山岩が 9 割以上を占め、黒曜岩は 1 割に満たない。

121 ～ 139 は石鏃である。121 は平面五角形に近い凹基のもので、素材面を残している。122 ～ 125 は平面二等辺三角形の凹基のものである。126 ～ 139 は挟りの深い凹基のもので、平面は二等辺三角形であるが、130・134 は側縁が内湾する。140 は石鏃の未製品である。141 は石錐で、両面に丁寧な調整加工が施されており、石鏃の未製品である可能性も残る。142 ～ 146 は石槍である。142 ～ 144 は最大幅が基部付近にある形態で、側縁に両面から調整加工が施されている。142 は比較的丁寧に基部を作り出しており、有茎としてもよいかもしれない。145 は柳葉形で、側縁に両面から調整加工が丁寧に施されている。147 は石槍未製品の可能性があり、無斑晶質安山岩製である。148 ～ 150 は削器で、縁部に片面から調整加工を施し、刃部を作出している。151 は残核を利用した搔器である。152 は削器としたが、石槍の未製品の可能性もある。153 は無斑晶質安山岩製の石核である。

6) G 区縄文時代の遺物

縄文土器（図 36）

154 は轟 B 式系の 9A 類で、高い突帯を巡らせる。155 ～ 157 は西唐津式系の 9B 類で、いずれも沈線文が施される。158・159 は曾畑式の 9C 類で、158 は沈線文、159 は刺突文と沈線文が施される。158 は胎土に滑石を含む。160 は底部で、9B 類か 9C 類であろう。161 は 9D 類とした粗製土器で、外面は条痕文、内面は沈線文が施されている。

石器（図 36・37）

G 区から出土した石器は、347 点の出土位置を 3 次元で計測して取り上げたが、磨製石器・礫石器は 2 点のみで、他はすべて剥片石器とその石核・剥片である。

剥片石器類を器種・石材別にみると、石鏃が 15 点（うち黒曜岩 9 点、無斑晶質安山岩 6 点）、削器が 11 点（うち黒曜岩 1 点、無斑晶質安山岩 10 点）で、石鏃がやや多い。このほか、二次加工剥片・微細剥離痕ある剥片が 5 点（うち黒曜岩 2 点、無斑晶質安山岩 3 点）、剥片が 106 点（うち黒曜岩 56 点、無斑晶質安山岩 50 点）、微細剥片が 197 点（うち黒曜岩 140 点、無斑晶質安山岩 57 点）、石核・原石が 11 点（うち黒曜岩 9 点、無斑晶質安山岩 2 点）であり、剥片石器類の 9 割以上を剥片・石核類が占める。剥片石器に用いられた石材は、黒曜岩が約 6 割、無斑晶質安山岩が約 4 割で、黒曜岩がやや多い。

162 ～ 171 は石鏃で、162 ～ 167 は鋏形鏃、168 は平基、169 ～ 171 は凹基のものである。172 は黒曜岩の原石である。173 は無斑晶質安山岩製、174・175 は黒曜岩製の石核である。176 は蛇紋岩製の磨製石斧で、定角的な扁平両刃である。刃部の平面形はわずかに偏刃で、縦断面は表が弱凸状の非対称をなす。両側縁は丁寧に研磨されるが、面取りは左側縁のみである。177 は台石で、石材は花崗岩類とみられる。

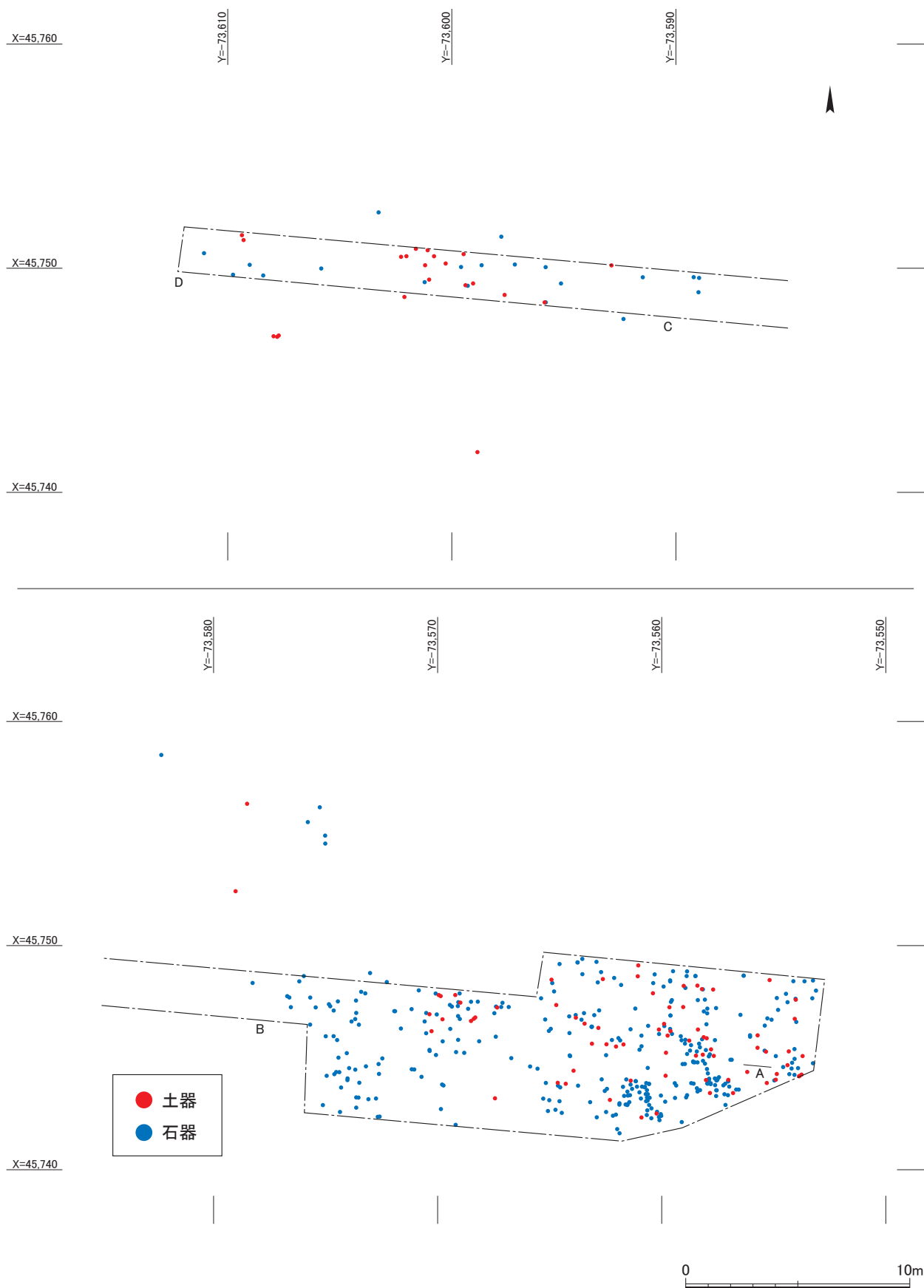


図 32 G区縄文時代遺物の平面分布 (1/250)

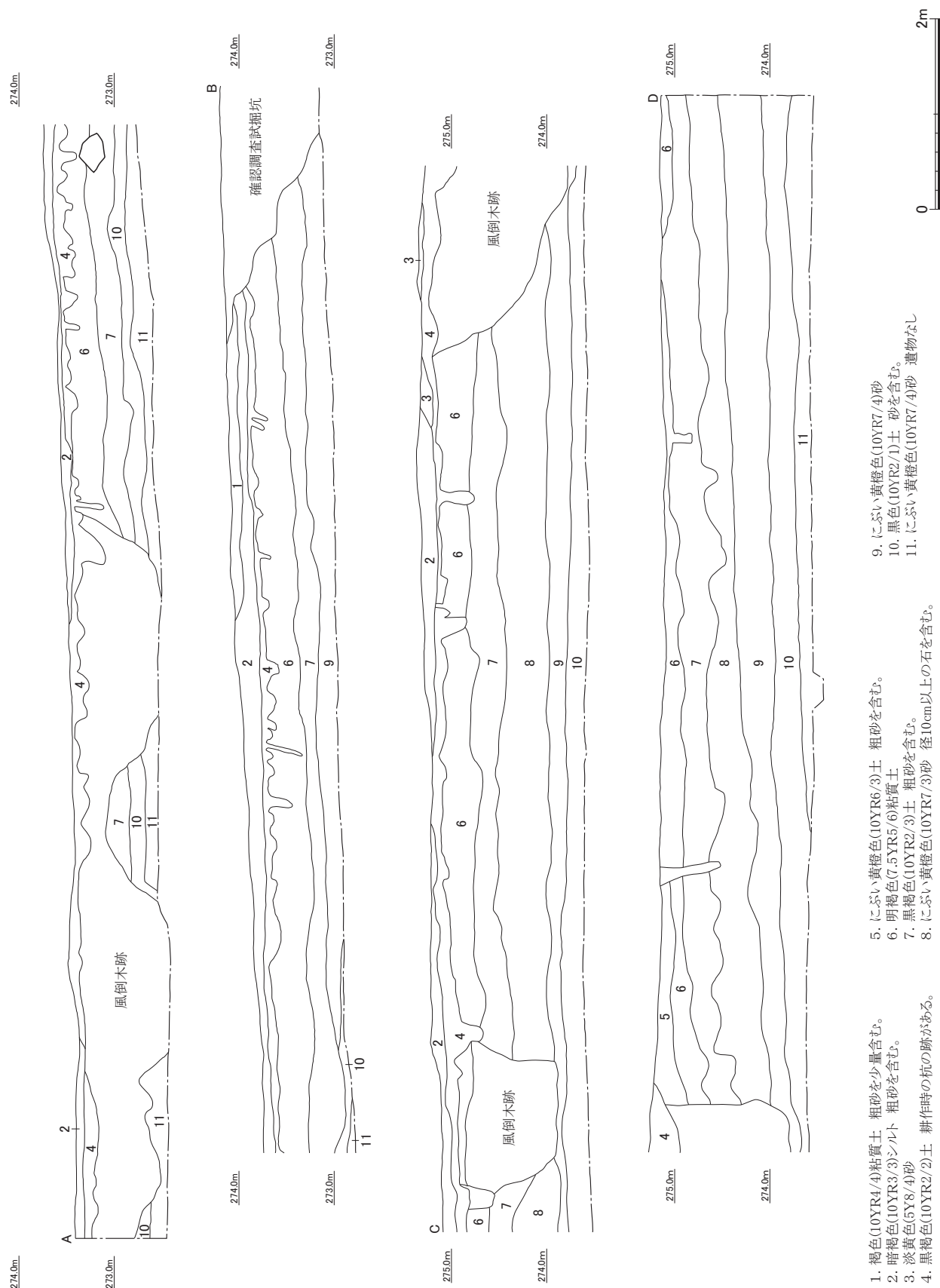


図 33 G区の土層 (1/60)

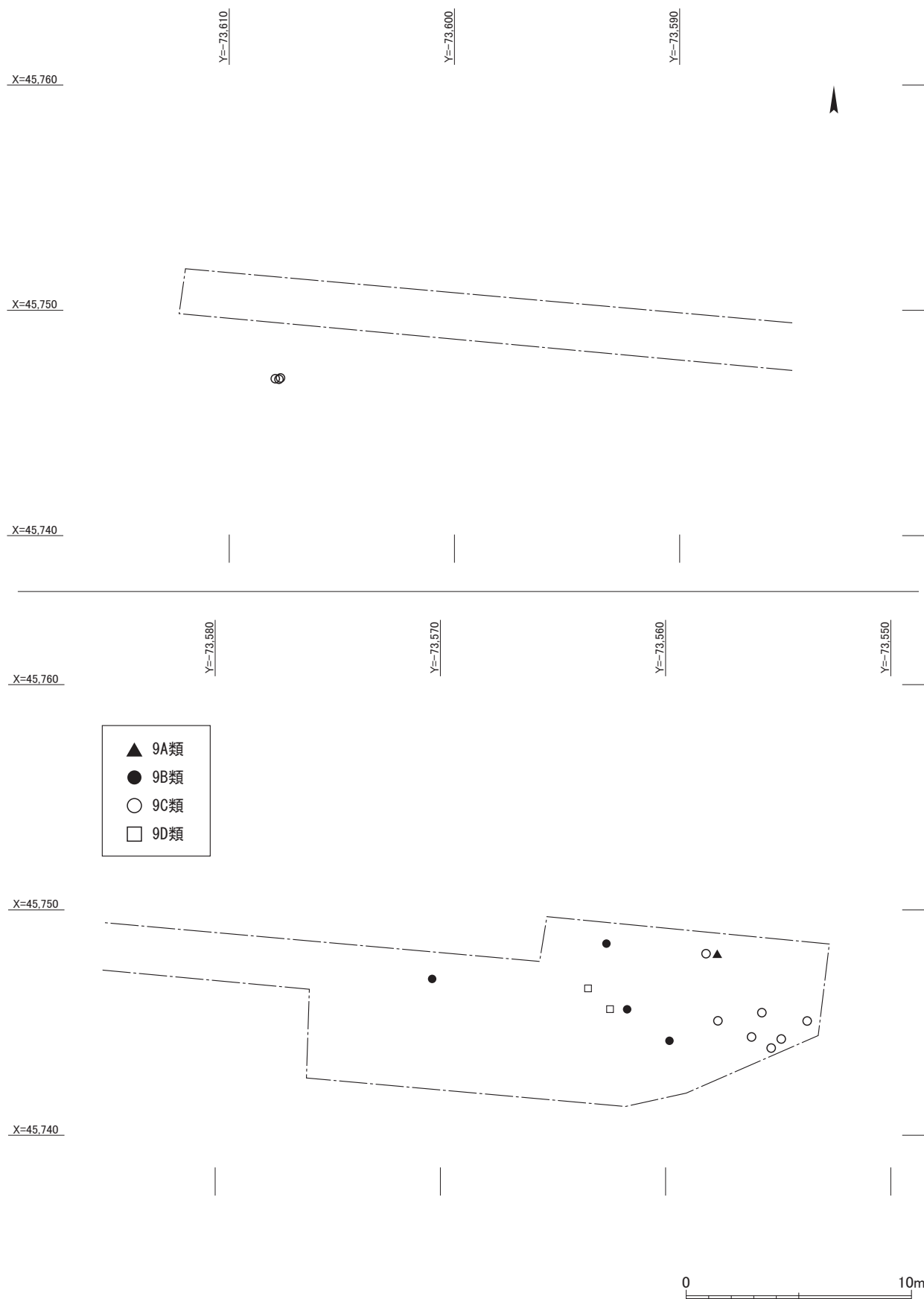


図 34 G区縄文時代土器の平面分布 (1/250)

小ヶ倉遺跡

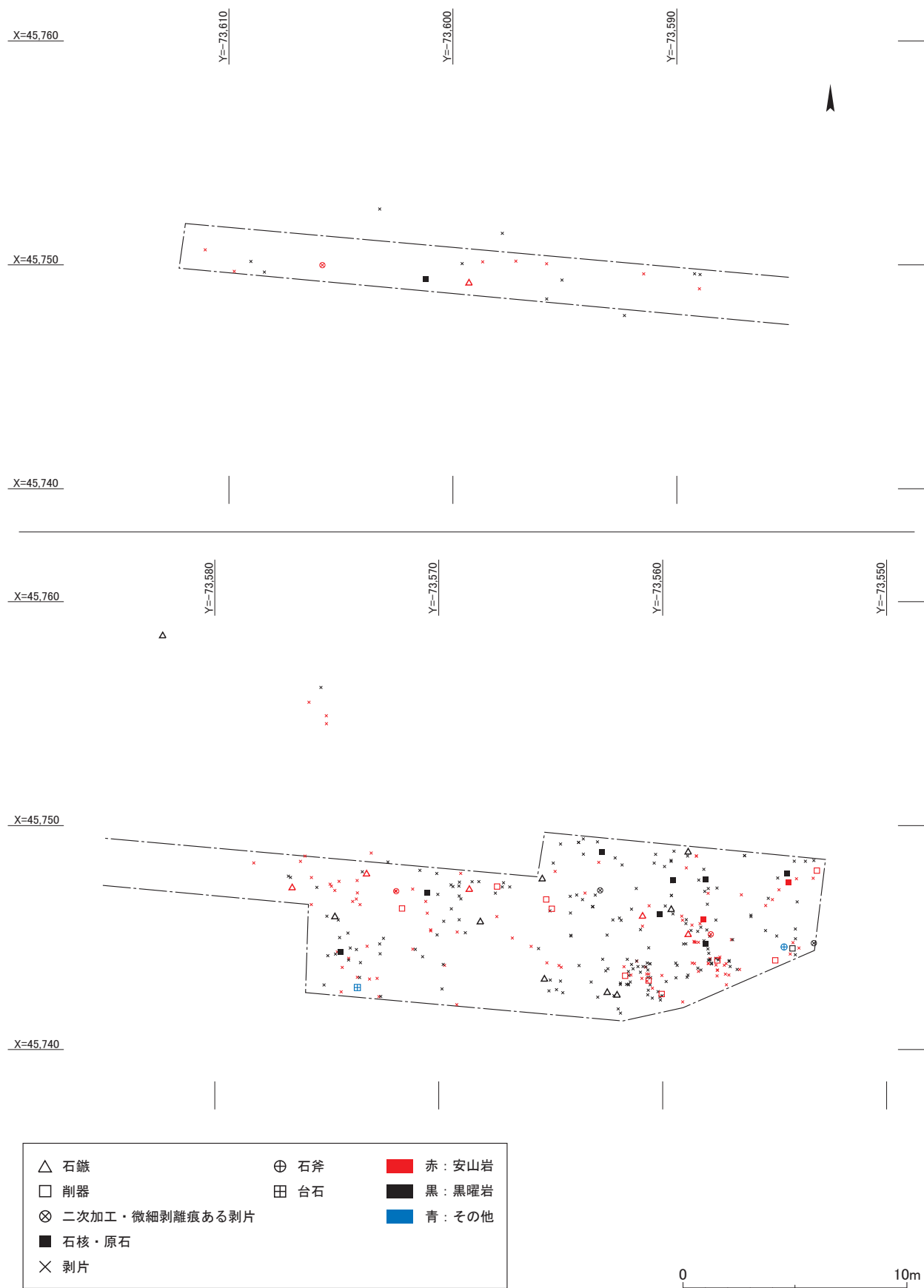


図 35 G区縄文時代石器の平面分布 (1/250)

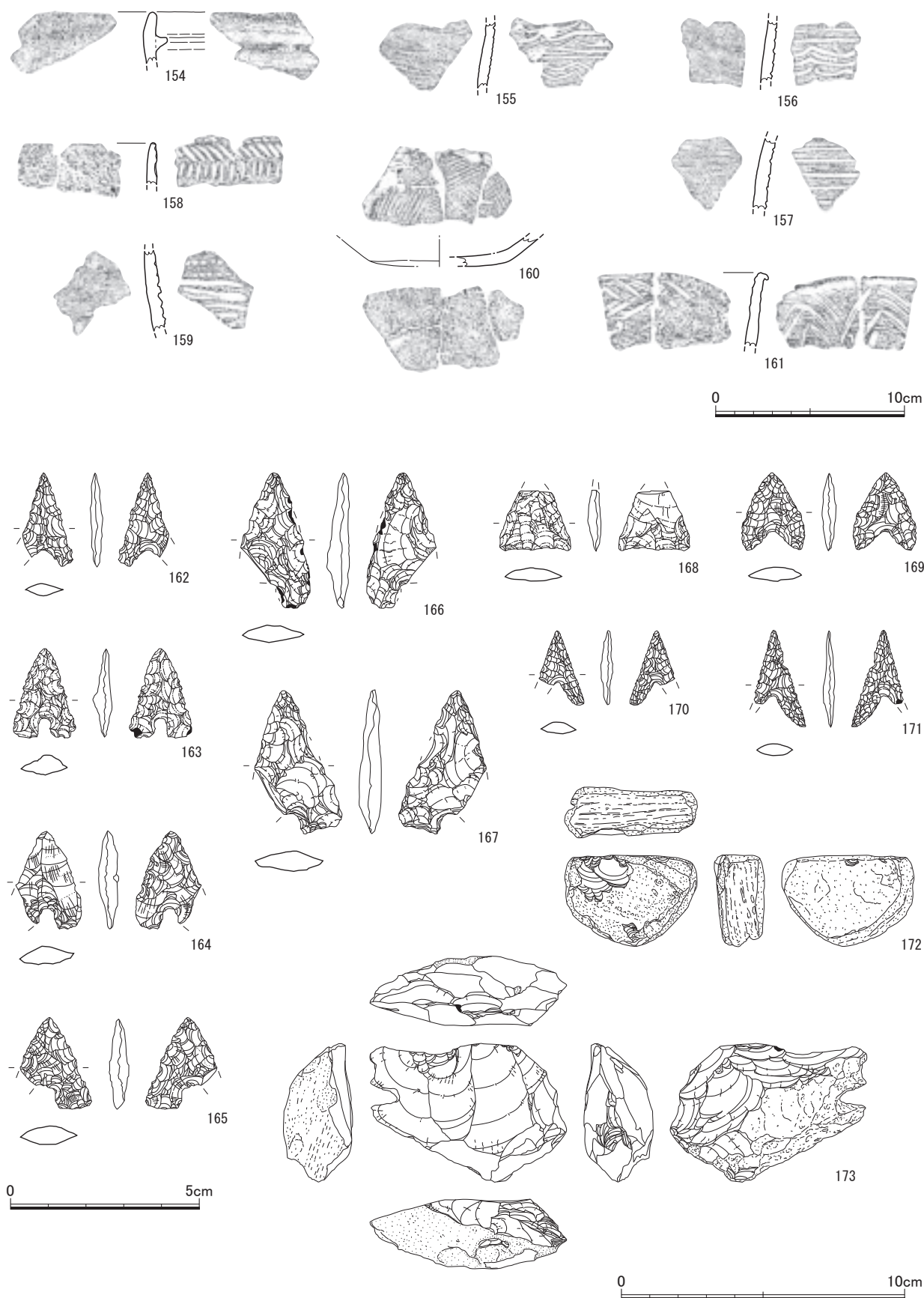


図 36 G区出土縄文時代の土器 (1/3)・石器 1 (162～171 は 2/3、172・173 は 1/2)

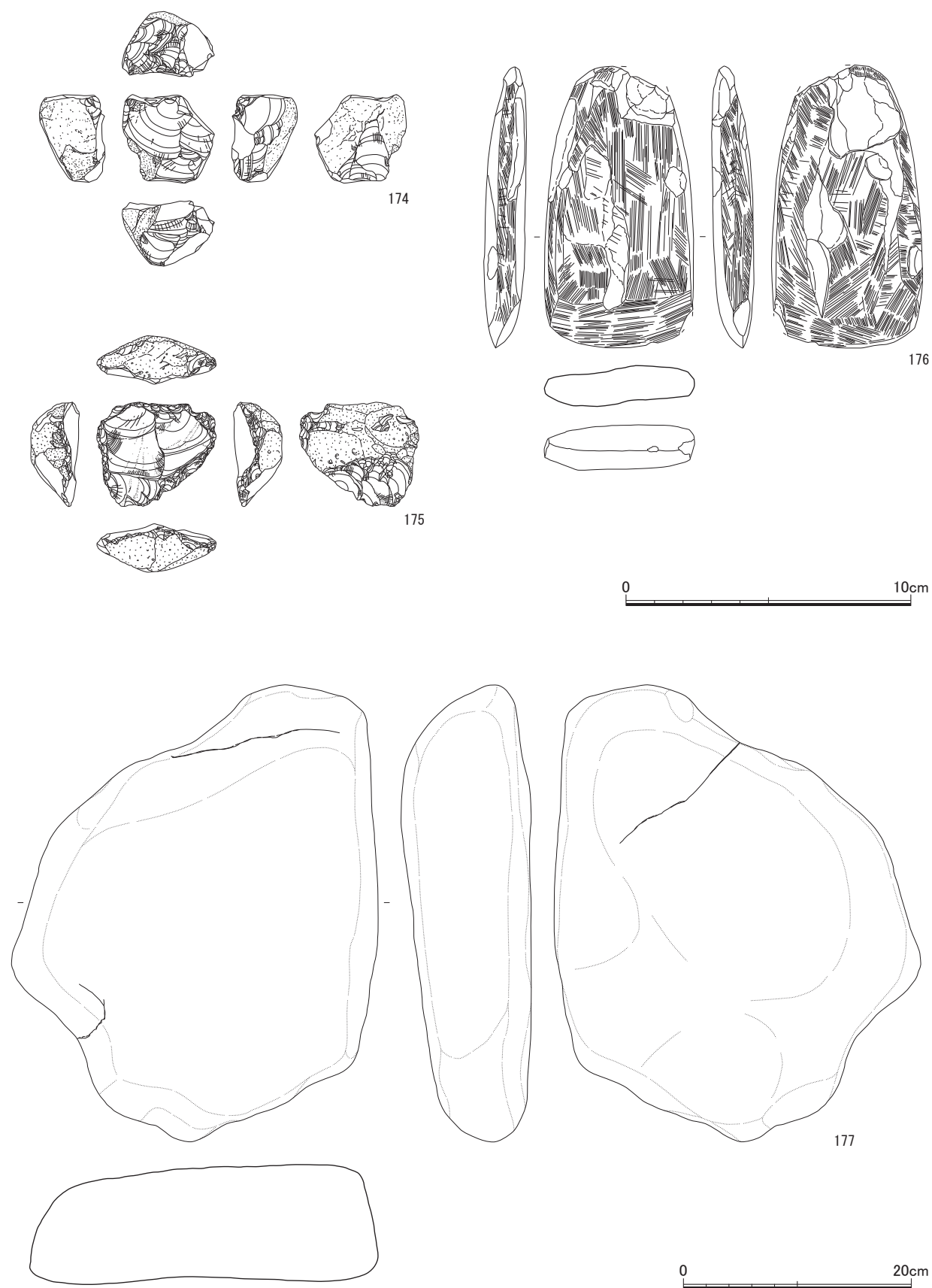


図 37 G区出土縄文時代の石器 2 (174～176 は 1/2、177 は 1/5)

表2 小ヶ倉遺跡縄文時代の出土土器

挿図・番号 登録番号	出土位置	種別 器種	寸法 cm			色調	備考	写真図版 写真登録番号
			口径	底径	器高			
図 13-1 09003534	A 区 b 層	縄文土器 深鉢	20.9	-	29.7	外：黒褐・にぶい黄橙 内：灰黄褐・褐灰	外面煤付着	写真図版 8-1 20102642・2643
図 13-2 09003544	A 区 b 層	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：にぶい黄橙 内：褐灰・黒褐		写真図版 8-2 20102593
図 13-3 09003554	A 区 a 層	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：にぶい赤褐 内：灰黄褐・にぶい黄褐		写真図版 8-3 20102583
図 13-4 09003541	A 区 b 層	縄文土器 深鉢	-	-	-	にぶい黄橙		写真図版 8-4 20102579
図 13-5 09003553	A 区 b 層	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：浅黄 内：にぶい黄橙・灰黄褐		写真図版 8-5 20102600・2601
図 13-6 09003536	A 区	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：にぶい黄橙 内：褐灰・灰黄褐		写真図版 8-6 20102591
図 13-7 09003546	A 区 a 層	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：にぶい黄橙 内：にぶい黄橙・黒褐		写真図版 8-7 20102595
図 15-22 09003550	E 区 b 層	縄文土器 深鉢	-	-	-	にぶい黄橙	外面煤付着	写真図版 9-22 20102582
図 15-23 09003565	E 区 b 層	縄文土器 不明	-	-	-	橙	縄文土器かどうか不明	写真図版 9-23 20102624
図 17-53 09003537	F 区 b 層	縄文土器 深鉢	-	-	-	灰黄褐・黒褐		写真図版 10-53 20102576
図 17-54 09003540	F 区 a 層	縄文土器 深鉢	-	-	-	にぶい黄橙	外面煤付着	写真図版 10-54 20102578
図 17-55 09003543	F 区 a 層	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：橙 内：にぶい黄橙		写真図版 10-55 20102581
図 17-56 09003542	F 区 a 層	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：黒褐 内：橙・にぶい橙	外面煤付着 実測図天地逆力	写真図版 10-56 20102580
図 17-57 09003559	F 区 a 層	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：灰黄褐 内：にぶい黄橙	外面煤付着	写真図版 10-57 20102588
図 17-58 09003561	F 区 a 層	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：にぶい赤褐・灰褐 内：にぶい黄橙・橙	外面煤付着	写真図版 10-58 20102604
図 17-59 09003547	F 区 a 層	縄文土器 深鉢	-	-	-	にぶい黄橙・灰黄褐・黒褐	外面煤付着	写真図版 10-59 20102596
図 21-82 09003538	B 区 b 層	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：にぶい黄橙・にぶい橙 内：灰黄褐・にぶい黄橙		写真図版 11-82 20102592
図 21-83 09003539	B 区 d 層	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：にぶい褐 内：橙・にぶい黄橙		写真図版 11-83 20102577
図 21-84 09003535	B 区 b 層	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：灰黄褐・黒褐 内：にぶい黄橙・灰黄褐		写真図版 11-84 20102575
図 21-85 09003545	B 区	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：にぶい黄橙・にぶい橙 内：灰黄褐・灰黄		写真図版 11-85 20102594
図 21-86 09003552	B 区 b 層	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：にぶい黄褐・にぶい黄橙 内：黒褐・灰黄褐		写真図版 11-86 20102599
図 28-107 09003551	C 区 a 層	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：にぶい黄橙・灰黄 内：淡黄・にぶい黄橙		写真図版 12-107 20102598
図 28-108 09003560	C 区 a 層	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：にぶい橙 内：灰黄褐	外面煤付着	写真図版 12-108 20102603
図 28-109 09003548	C 区 a 層	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：橙・にぶい橙 内：にぶい橙・にぶい褐		写真図版 12-109 20102597
図 36-154 09003562	G 区 4 層	縄文土器 深鉢	-	-	-	褐灰・黒褐		写真図版 14-154 20102589
図 36-155 09003558	G 区 6 層	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：にぶい橙 内：にぶい黄橙・橙		写真図版 14-155 20102587
図 36-156 09003557	G 区 6 層	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：黒褐 内：黄褐		写真図版 14-156 20102586
図 36-157 09003556	G 区 6 層	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：にぶい黄褐 内：黒褐	外面煤付着	写真図版 14-157 20102585
図 36-158 09003563	G 区 6 層	縄文土器 深鉢	-	-	-	にぶい橙・にぶい黄橙	滑石を含む	写真図版 14-158 20102590
図 36-159 09003555	G 区 6 層	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：にぶい黄橙・灰黄褐 内：黒褐・明褐		写真図版 14-159 20102584
図 36-160 09003564	G 区 6 層	縄文土器 深鉢	-	7.4*	-	明褐		写真図版 14-160 20102605
図 36-161 09003549	G 区 6 層	縄文土器 深鉢	-	-	-	にぶい黄褐		写真図版 14-161 20102602

表3 小ヶ倉遺跡旧石器・縄文時代の出土石器

挿図・番号 登録番号	出土位置	種別 器種	寸法 cm			重量 g	石材	備考	写真図版 写真登録番号
			長さ	幅	厚さ				
図 14-8 09002512	A 区 a 層	打製石器 石鏃	1.7	1.4	0.5	1.0	黒曜岩	完形	写真図版 8-8 20102440
図 14-9 09002515	A 区 b 層	打製石器 石鏃	2.1	1.5	0.4	0.8	黒曜岩	脚部先端欠損	写真図版 8-9 20102443
図 14-10 09002513	A 区 b 層	打製石器 石鏃	2.4	1.7	0.4	1.2	無斑品質安山岩	完形	写真図版 8-10 20102441
図 14-11 09002514	A 区 b 層	打製石器 石鏃	2.7	2.1	0.6	2.6	無斑品質安山岩	脚部一部欠損	写真図版 8-11 20102442
図 14-12 09002494	A 区 b 層	打製石器 石鏃	3.8	1.6	0.5	2.0	無斑品質安山岩	先端部欠損	写真図版 8-12 20102506
図 14-13 09002492	A 区 a 層	打製石器 石鏃	4.2	2.4	0.5	2.8	無斑品質安山岩	完形	写真図版 8-13 20102504
図 14-14 09002495	A 区 b 層	打製石器 石鏃	3.8	1.8	0.4	1.8	無斑品質安山岩	1/2 強残存	写真図版 8-14 20102507
図 14-15 09002493	A 区 a 層	打製石器 石鏃	3.0	2.5	0.9	5.2	無斑品質安山岩	完形 未製品	写真図版 8-15 20102505
図 14-16 09002580	A 区	打製石器 ナイフ形石器	8.0	2.2	1.5	23.2	無斑品質安山岩	完形	写真図版 8-16 20102559
図 14-17 09002582	試掘坑 13 周辺	打製石器 石錐	3.6	2.1	4.0	1.4	黒曜岩	錐端部欠損	写真図版 8-17 20102535
図 14-18 09002479	A 区 b 層	打製石器 石槍	10.5	3.3	1.0	30.2	無斑品質安山岩	完形	写真図版 8-18 20102545
図 14-19 09002565	A 区 b 層	打製石器 削器	8.4	3.9	1.3	38.8	無斑品質安山岩	完形	写真図版 8-19 20102552
図 14-20 09002602	A 区 a 層	打製石器 石核	5.5	8.5	2.2	88.2	無斑品質安山岩	完形	写真図版 8-20 20102561
図 14-21 09002619	A 区 b 層	礫石器 磨石	9.3	5.5	4.7	309.4		1/2 弱残存	写真図版 8-21 20102564
図 15-24 09002600	E 区 b 層	打製石器 細石刃	1.7	0.5	0.2	0.2	黒曜岩	一部残存	写真図版 9-24 20102494
図 15-25 09002599	E 区 b 層	打製石器 細石刃	1.4	0.8	0.2	0.2	黒曜岩	一部残存	写真図版 9-25 20102493
図 15-26 09002597	E 区 b 層	打製石器 細石刃	2.1	0.7	0.3	0.4	黒曜岩	完形	写真図版 9-26 20102492
図 15-27 09002598	E 区	打製石器 細石刃	2.5	0.9	0.3	0.4	黒曜岩	完形	写真図版 9-27 20102491
図 15-28 09002611	E 区 b 層	打製石器 石核	2.2	2.6	1.2	5.2	黒曜岩	完形	写真図版 9-28 20102521
図 15-29 09002546	E 区 b 層	打製石器 石鏃	1.9	1.3	0.3	0.6	黒曜岩	完形	写真図版 9-29 20102474
図 15-30 09002552	E 区 b 層	打製石器 石鏃	2.1	1.2	0.5	1.2	黒曜岩	完形	写真図版 9-30 20102482
図 15-31 09002554	E 区 c 層	打製石器 石鏃	2.0	1.5	0.5	1.0	黒曜岩	完形	写真図版 9-31 20102485
図 15-32 09002547	E 区 b 層	打製石器 石鏃	2.0	1.5	0.3	1.0	黒曜岩	先端部と片脚部欠損	写真図版 9-32 20102476
図 15-33 09002553	E 区 c 層	打製石器 石鏃	2.0	1.6	0.4	1.0	黒曜岩	先端部と片脚部先欠損	写真図版 9-33 20102483
図 15-34 09002511	E 区 b 層	打製石器 石鏃	2.3	1.6	0.4	1.0	黒曜岩	完形	写真図版 9-34 20102439
図 15-35 09002545	E 区 b 層	打製石器 石鏃	1.6	1.4	0.3	0.4	黒曜岩	完形	写真図版 9-35 20102473
図 15-36 09002543	E 区 b 層	打製石器 石鏃	2.1	1.7	0.4	1.2	黒曜岩	完形 未製品	写真図版 9-36 20102471
図 15-37 09002544	E 区 b 層	打製石器 石鏃	1.8	1.7	0.3	0.6	無斑品質安山岩	片脚部欠損	写真図版 9-37 20102472
図 15-38 09002500	E 区 a 層	打製石器 石鏃	4.0	2.0	0.4	2.2	無斑品質安山岩	1/2 欠損	写真図版 9-38 20102512
図 15-39 09002591	E 区 d 層	打製石器 削器	1.6	1.9	0.4	1.2	黒曜岩	完形	写真図版 9-39 20102495
図 15-40 09002485	E 区 c 層	打製石器 石槍	12.3	1.6	0.7	12.4	無斑品質安山岩	ほぼ完形	写真図版 9-40 20102550
図 15-41 09002488	E 区	打製石器 石槍	4.4	1.8	0.6	5.0	無斑品質安山岩	下半欠損	写真図版 9-41 20102499

表3 小ヶ倉遺跡旧石器・縄文時代の出土石器

挿図・番号 登録番号	出土位置	種別 器種	寸法 cm			重量 g	石材	備考	写真図版 写真登録番号
			長さ	幅	厚さ				
図 15-42 09002561	E 区 a 層	打製石器 石匙	3.9	7.9	0.5	10.6	無斑品質安山岩	完形	写真図版 9-42 20102524
図 15-43 09002586	E 区 c 層	打製石器 削器	2.6	1.8	0.7	2.0	黒曜岩	完形	写真図版 9-43 20102542
図 15-44 09002585	E 区 b 層	打製石器 削器	2.5	2.0	0.7	2.8	黒曜岩	上部欠損	写真図版 9-44 20102541
図 15-45 09002584	E 区 a 層	打製石器 削器	4.0	3.3	0.9	12.4	無斑品質安山岩	上部欠損	写真図版 9-45 20102537
図 16-46 09002575	E 区 b 層	打製石器 削器	5.3	2.3	1.0	12.6	無斑品質安山岩	一部欠損	写真図版 9-46 20102533
図 16-47 09002579	E 区 表採	打製石器 削器	9.1	4.7	1.5	52.2	無斑品質安山岩	一部欠損	写真図版 9-47 20102558
図 16-48 09002596	E 区 b 層	打製石器 剥片	2.0	2.4	0.4	1.4	黒曜岩	完形	写真図版 9-48 20102626
図 16-49 09002593	E 区 b 層	打製石器 剥片	2.6	5.1	1.3	17.0	黒曜岩	完形	写真図版 9-49 20102626
図 16-50 09002594	E 区 b 層	打製石器 剥片	3.7	1.7	1.3	5.8	黒曜岩	完形	写真図版 9-50 20102626
図 16-51 09002595	E 区 b 層	打製石器 剥片	4.9	2.2	2.4	13.4	黒曜岩	完形	写真図版 9-51 20102626
図 16-52 09002604	E 区 b 層	打製石器 石核	7.0	5.7	1.9	50.8	無斑品質安山岩	完形	写真図版 9-52 20102563
図 17-60 09002590	F 区 a 層	打製石器 ナイフ形石器	2.9	1.4	0.8	3.0	無斑品質安山岩	完形	写真図版 10-60 20102544
図 17-61 09002501	F 区 b 層	打製石器 石鏃	4.1	2.1	0.5	2.2	黒曜岩	先端と片脚端部側縁一部を欠損	写真図版 10-61 20102513
図 17-62 09002556	F 区 b 層	打製石器 石鏃	2.2	1.8	0.5	1.4	黒曜岩	完形	写真図版 10-62 20102487
図 17-63 09002551	F 区 a 層	打製石器 石鏃	2.1	1.8	0.4	1.4	無斑品質安山岩	完形	写真図版 10-63 20102481
図 17-64 09002549	F 区 a 層	打製石器 石鏃	1.3	1.3	0.3	0.4	黒曜岩	先端部欠損	写真図版 10-64 20102478
図 17-65 09002519	F 区 a 層	打製石器 石鏃	2.3	1.2	0.3	0.4	無斑品質安山岩	脚部一部欠損	写真図版 10-65 20102447
図 17-66 09002555	F 区 b 層	打製石器 石鏃	2.0	1.4	0.3	0.6	黒曜岩	先端部と片脚部先欠損	写真図版 10-66 20102486
図 17-67 09002550	F 区 a 層	打製石器 石鏃	2.4	1.7	0.3	0.6	無斑品質安山岩	完形	写真図版 10-67 20102480
図 17-68 09002557	F 区 b 層	打製石器 石鏃	2.7	1.1	0.4	0.8	無斑品質安山岩	全体の約 1/2 残存	写真図版 10-68 20102488
図 17-69 09002558	F 区 b 層	打製石器 石鏃	2.8	2.3	0.6	3.2	無斑品質安山岩	一部欠損 未製品	写真図版 10-69 20102489
図 17-70 09002592	F 区 c 層	打製石器 削器	1.7	1.8	0.6	1.4	黒曜岩	完形	写真図版 10-70 20102497
図 17-71 09002563	F 区 a 層	打製石器 石匙	4.9	6.1	0.8	14.6	無斑品質安山岩	1/2 弱欠損	写真図版 10-71 20102525
図 17-72 09002562	F 区 a 層	打製石器 石匙	4.0	9.8	1.0	28.6	無斑品質安山岩	完形	写真図版 10-72 20102551
図 17-73 09002588	F 区 b 層	打製石器 削器	2.6	3.5	0.6	4.0	黒曜岩	完形力	写真図版 10-73 20102625
図 17-74 09002587	F 区 a 層	打製石器 削器	3.9	3.7	0.9	10.6	無斑品質安山岩	完形	写真図版 10-74 20102538
図 18-75 09002576	F 区 b 層	打製石器 削器	6.6	3.6	2.2	44.8	無斑品質安山岩	完形	写真図版 10-75 20102534
図 18-76 09002577	F 区 a 層	打製石器 削器	8.4	4.5	1.2	46.0	無斑品質安山岩	一部欠損	写真図版 10-76 20102556
図 18-77 09002578	F 区 a 層	打製石器 削器	9.2	4.4	1.9	55.0	無斑品質安山岩	完形	写真図版 10-77 20102557
図 18-78 09002564	試掘坑 12 a 層	打製石器 削器	5.9	3.7	1.0	19.6	無斑品質安山岩	ほぼ完形	写真図版 10-78 20102526
図 18-79 09002610	F 区 a 層	打製石器 石核	2.7	3.7	1.1	9.4	黒曜岩	完形	写真図版 10-79 20102519
図 18-80 09002622	F 区 a 層	礫石器 磨石	5.3	5.7	3.8	-		ほぼ完形	写真図版 11-80 20102567

表3 小ヶ倉遺跡旧石器・縄文時代の出土石器

挿図・番号 登録番号	出土位置	種別 器種	寸法 cm			重量 g	石材	備考	写真図版 写真登録番号
			長さ	幅	厚さ				
図 18-81 09002617	F 区 b 層	礫石器 台石	16.2	20.6	4.2	1795.0		一部欠損	写真図版 11-81 20102569
図 22-87 09002518	B 区 d 層	打製石器 石鏃	1.5	1.3	0.3	0.4	黒曜岩	完形	写真図版 11-87 20102446
図 22-88 09002523	B 区 d 層	打製石器 石鏃	1.4	1.3	0.3	0.4	無斑品質安山岩	片脚と脚部先端欠損	写真図版 11-88 20102451
図 22-89 09002520	B 区 b 層	打製石器 石鏃	1.7	1.1	0.2	0.2	黒曜岩	片脚部欠損	写真図版 11-89 20102448
図 22-90 09002516	B 区 b 層	打製石器 石鏃	2.1	1.2	0.3	0.4	黒曜岩	片脚部と他方先端部欠損	写真図版 11-90 20102444
図 22-91 09002517	B 区 c 層	打製石器 石鏃	2.1	1.6	0.3	0.6	黒曜岩	片脚部と他方先端部欠損	写真図版 11-91 20102445
図 22-92 09002521	B 区 b 層	打製石器 石鏃	2.2	1.0	0.5	1.6	黒曜岩	完形 未製品	写真図版 11-92 20102449
図 22-93 09002496	B 区 b 層	打製石器 石鏃	2.7	2.6	0.7	4.6	無斑品質安山岩	頭部先端欠損 未製品	写真図版 11-93 20102508
図 22-94 09002522	B 区	打製石器 石鏃	2.8	2.2	0.8	3.4	無斑品質安山岩	完形 未製品	写真図版 11-94 20102450
図 22-95 09002480	B 区 b 層	打製石器 石槍	6.1	1.4	0.7	6.0	無斑品質安山岩	完形	写真図版 11-95 20102503
図 22-96 09002502	B 区 b 層	打製石器 異形石器	4.0	4.1	0.8	8.2	黒曜岩	完形	写真図版 11-96 20102514
図 22-97 09002589	B 区	打製石器 搔器	3.4	3.6	1.3	16.2	無斑品質安山岩	完形	写真図版 11-97 20102539
図 22-98 09002583	B 区 d 層	打製石器 削器	3.7	4.3	0.9	11.2	無斑品質安山岩	一部欠損	写真図版 11-98 20102536
図 22-99 09002568	B 区 c 層	打製石器 削器	5.2	2.9	0.7	10.4	無斑品質安山岩	一部欠損	写真図版 11-99 20102528
図 22-100 09002566	B 区 b 層	打製石器 削器	6.4	4.7	1.3	28.4	無斑品質安山岩	完形	写真図版 12-100 20102527
図 22-101 09002567	B 区	打製石器 削器	7.8	6.9	1.3	87.8	無斑品質安山岩	一部欠損	写真図版 12-101 20102553
図 23-102 09002612	B 区 b 層	礫石器 磨石	11.2	5.5	4.8	468.8		1/2 程残存	写真図版 12-102 20102571
図 23-103 09002620	B 区 b 層	礫石器 磨石	9.4	7.7	5.5	438.0		1/4 程残存	写真図版 12-103 20102565
図 23-104 09002613	B 区 b 層	礫石器 磨石	10.4	8.9	6.8	597.4		1/3 程残存	写真図版 12-104 20102572
図 23-105 09002616	B 区 b 層	礫石器 台石	13.7	11.8	7.9	1540.0		一部残存	写真図版 12-105 20102570
図 23-106 09002615	B 区 b 層	礫石器 台石	22.2	18.6	8.9	-		1/4 程度欠損	写真図版 12-106 20102640
図 28-110 09002581	C 区 a 層	打製石器 石鏃	2.2	1.4	0.3	1.0	無斑品質安山岩	先端部欠損	写真図版 12-110 20102540
図 28-111 09002525	C 区 a 層	打製石器 石鏃	1.9	1.3	0.4	0.6	黒曜岩	頭部先端欠損	写真図版 12-111 20102453
図 28-112 09002524	C 区 a 層	打製石器 石鏃	2.2	1.8	0.4	1.0	黒曜岩	完形	写真図版 12-112 20102452
図 28-113 09002489	C 区 a 層	打製石器 石鏃	3.4	2.7	0.4	2.4	黒曜岩	先端と側縁一部欠損	写真図版 12-113 20102500
図 28-114 09002497	C 区 a 層	打製石器 石鏃	3.6	1.8	0.6	2.2	黒曜岩	脚部欠損	写真図版 12-114 20102509
図 28-115 09002560	C 区 a 層	打製石器 石匙	5.6	2.6	0.5	8.6	無斑品質安山岩	完形	写真図版 12-115 20102523
図 28-116 09002569	C 区 a 層	打製石器 搔器	7.0	8.5	2.8	192.2	無斑品質安山岩	完形	写真図版 12-116 20102554
図 28-117 09002603	C 区 a 層	打製石器 石核	5.3	6.2	4.0	124.8	無斑品質安山岩	完形	写真図版 12-117 20102562
図 29-118 09002605	C 区 a 層	打製石器 石核	6.7	15.2	5.2	562.0	無斑品質安山岩	完形	写真図版 12-118 20102573
図 29-119 09002623	C 区 a 層	礫石器 凹石	4.9	4.6	4.5	129.2		完形	写真図版 12-119 20102627
図 29-120 09002621	C 区 b 層	礫石器 磨石	5.6	4.6	3.9	128.2		ほぼ完形	写真図版 12-120 20102566

表3 小ヶ倉遺跡旧石器・縄文時代の出土石器

挿図・番号 登録番号	出土位置	種別 器種	寸法 cm			重量 g	石材	備考	写真図版 写真登録番号
			長さ	幅	厚さ				
図 30-121 09002530	C 区 c 層	打製石器 石鏃	2.4	1.3	0.4	1.0	無斑晶質安山岩	完形	写真図版 13-121 20102458
図 30-122 09002527	C 区 c 層	打製石器 石鏃	1.8	2.0	0.3	1.0	無斑晶質安山岩	頭部欠損	写真図版 13-122 20102455
図 30-123 09002526	C 区 d 層	打製石器 石鏃	1.8	1.3	0.3	0.4	黒曜岩	頭部先端と片脚部欠損	写真図版 13-123 20102454
図 30-124 09002528	C 区 c 層	打製石器 石鏃	2.2	1.7	0.3	0.8	黒曜岩	完形	写真図版 13-124 20102456
図 30-125 09002533	C 区 c 層	打製石器 石鏃	2.6	1.8	0.3	1.0	無斑晶質安山岩	片脚部欠損	写真図版 13-125 20102461
図 30-126 09002537	C 区 c 層	打製石器 石鏃	1.0	1.0	0.2	0.2	黒曜岩	片脚部欠損	写真図版 13-126 20102465
図 30-127 09002539	C 区 c 層	打製石器 石鏃	1.4	1.4	0.2	0.2	黒曜岩	完形	写真図版 13-127 20102467
図 30-128 09002536	C 区 c 層	打製石器 石鏃	2.2	1.3	0.3	0.4	黒曜岩	片脚部欠損	写真図版 13-128 20102464
図 30-129 09002535	C 区 c 層	打製石器 石鏃	2.0	1.6	0.2	0.4	無斑晶質安山岩	片脚部欠損	写真図版 13-129 20102463
図 30-130 09002542	C 区 c 層	打製石器 石鏃	2.5	1.8	0.3	0.8	無斑晶質安山岩	完形	写真図版 13-130 20102470
図 30-131 09002541	C 区 c 層	打製石器 石鏃	2.5	1.5	0.3	0.6	無斑晶質安山岩	片脚と端部 2 ヶ所僅かに欠損	写真図版 13-131 20102469
図 30-132 09002540	C 区 c 層	打製石器 石鏃	2.3	1.6	0.3	0.6	無斑晶質安山岩	先端部と片脚部欠損	写真図版 13-132 20102468
図 30-133 09002531	C 区 c 層	打製石器 石鏃	2.1	2.0	0.3	0.8	無斑晶質安山岩	先端部欠損	写真図版 13-133 20102459
図 30-134 09002534	C 区 c 層	打製石器 石鏃	2.5	1.4	0.4	0.8	無斑晶質安山岩	片脚部欠損	写真図版 13-134 20102462
図 30-135 09002548	C 区 c 層	打製石器 石鏃	2.7	1.7	0.3	0.8	無斑晶質安山岩	先端部と片脚部欠損	写真図版 13-135 20102477
図 30-136 09002529	C 区 c 層	打製石器 石鏃	2.3	1.6	0.3	0.6	黒曜岩	一側縁から片脚欠損	写真図版 13-136 20102457
図 30-137 09002538	C 区 c 層	打製石器 石鏃	2.4	1.6	0.3	0.6	無斑晶質安山岩	頭部先端と片脚部欠損	写真図版 13-137 20102466
図 30-138 09002532	C 区 c 層	打製石器 石鏃	2.8	1.8	0.3	0.8	無斑晶質安山岩	片脚部欠損	写真図版 13-138 20102460
図 30-139 09002499	C 区 c 層	打製石器 石鏃	3.2	1.9	0.4	1.2	無斑晶質安山岩	片脚部欠損	写真図版 13-139 20102510
図 30-140 09002498	C 区 c 層	打製石器 石鏃	2.3	2.2	1.4	5.0	無斑晶質安山岩	完形 未製品	写真図版 13-140 20102511
図 30-141 09002559	C 区 c 層	打製石器 石錐	2.5	2.0	0.9	3.2	無斑晶質安山岩	ほぼ完形 石鏃未製品の可能性あり	写真図版 13-141 20102490
図 30-142 09002481	C 区 c 層	打製石器 石槍	10.4	3.2	1.1	28.0	無斑晶質安山岩	完形	写真図版 13-142 20102546
図 30-143 09002484	C 区 c 層	打製石器 石槍	9.4	3.3	0.9	20.2	無斑晶質安山岩	先端部欠損	写真図版 13-143 20102549
図 30-144 09002483	C 区 c 層	打製石器 石槍	9.1	2.7	0.9	20.0	無斑晶質安山岩	完形	写真図版 13-144 20102548
図 31-145 09002482	C 区 c 層	打製石器 石槍	10.5	2.4	1.1	22.2	無斑晶質安山岩	完形	写真図版 13-145 20102547
図 31-146 09002487	C 区 c 層	打製石器 石槍	5.9	2.7	1.1	17.6	無斑晶質安山岩	上下両端の一部欠損	写真図版 13-146 20102498
図 31-147 09002486	C 区確認 調査 tr	打製石器 石槍	23.1	9.6	3.3	710.0	無斑晶質安山岩	完形 未製品	写真図版 13-147 20102574
図 31-148 09002574	C 区 c 層	打製石器 削器	6.0	3.0	1.1	17.6	無斑晶質安山岩	完形	写真図版 13-148 20102532
図 31-149 09002573	C 区 c 層	打製石器 削器	4.7	3.6	0.8	10.6	無斑晶質安山岩	下部欠損	写真図版 13-149 20102531
図 31-150 09002571	C 区 c 層	打製石器 削器	6.2	3.5	0.8	17.6	無斑晶質安山岩	上部一部欠損	写真図版 13-150 20102529
図 31-151 09002572	C 区 c 層	打製石器 搔器	3.5	5.3	1.7	27.4	無斑晶質安山岩	完形	写真図版 13-151 20102530
図 31-152 09002570	C 区 c 層	打製石器 削器	7.3	5.8	2.4	82.0	無斑晶質安山岩	ほぼ完形	写真図版 13-152 20102555

表3 小ヶ倉遺跡旧石器・縄文時代の出土石器

挿図・番号 登録番号	出土位置	種別 器種	寸法 cm			重量 g	石材	備考	写真図版 写真登録番号
			長さ	幅	厚さ				
図 31-153 09002609	C区 c層	打製石器 石核	2.8	4.6	1.6	16.4	無斑品質安山岩	完形	写真図版 13-153 20102518
図 36-162 09002510	C区 6層	打製石器 石鏃	2.5	1.3	0.3	0.6	黒曜岩	脚部一部欠損	写真図版 14-162 20102438
図 36-163 09002505	C区 6層	打製石器 石鏃	2.4	1.7	0.5	1.0	無斑品質安山岩	完形	写真図版 14-163 20102433
図 36-164 09002503	G区 6層	打製石器 石鏃	2.6	1.7	0.5	1.4	黒曜岩	脚部一部欠損 未製品	写真図版 14-164 20102431
図 36-165 09002509	C区 4層	打製石器 石鏃	2.4	1.9	0.5	1.2	黒曜岩	片脚部欠損	写真図版 14-165 20102437
図 36-166 09002490	C区 2層	打製石器 石鏃	3.6	1.8	0.6	2.6	無斑品質安山岩	片脚欠損	写真図版 14-166 20102501
図 36-167 09002491	G区 6層	打製石器 石鏃	3.8	2.3	0.6	3.4	無斑品質安山岩	片脚と側縁一部欠損	写真図版 14-167 20102502
図 36-168 09002507	C区 6層	打製石器 石鏃	1.6	1.9	0.4	1.0	無斑品質安山岩	先端部欠損	写真図版 14-168 20102435
図 36-169 09002508	C区 6層	打製石器 石鏃	2.0	1.7	0.4	0.8	黒曜岩	完形	写真図版 14-169 20102436
図 36-170 09002504	G区 6層	打製石器 石鏃	2.0	1.2	0.3	0.4	黒曜岩	片脚部欠損	写真図版 14-170 20102432
図 36-171 09002506	C区 10層	打製石器 石鏃	2.6	1.4	0.3	0.4	黒曜岩	脚部一部欠損	写真図版 14-171 20102434
図 36-172 09002606	C区 6層	打製石器 原石	3.3	4.7	1.8	31.6	黒曜岩	完形	写真図版 14-172 20102515
図 36-173 09002601	G区 10層	打製石器 石核	4.9	6.9	2.4	71.0	無斑品質安山岩	完形	写真図版 14-173 20102560
図 37-174 09002607	G区 4層	打製石器 石核	3.1	3.2	2.3	22.0	黒曜岩	完形	写真図版 14-174 20102516
図 37-175 09002608	G区 6層	打製石器 石核	3.7	4.2	1.7	20.0	黒曜岩	完形	写真図版 14-175 20102517
図 37-176 09002618	C区 2層	磨製石器 石斧	10.0	5.3	1.4	107.8	蛇紋岩	基部の一部欠損	写真図版 14-176 20102645
図 37-177 09002614	C区 6層	礫石器 台石	40.1	32.2	11.5	-		完形	写真図版 14-177 20102641

3 古墳時代以降の遺物

縄文時代以降については、古墳時代と近世の遺物が遺物包含層上部などから出土したが、遺構は検出できず、中世に遡る遺物も明確なものは確認できなかった。出土量は少なく、その大部分が肥前陶磁器を中心とする近世以降のものである。

古墳時代の遺物（図 38）

178 は土師器甕で、器面調整はナデである。179 は古墳時代のもと思われる土師器鉢で、内面の器面調整はナデである。

近世以降の遺物（図 38・39）

180 は福岡産とみられる陶器小碗で、鉄釉の上に藁灰釉を掛けている。181 は肥前陶器小碗で、内外面の一部に銅緑釉が施され、内面に三足付ハマの目跡がみられる。182 は肥前京焼風陶器碗で、内面に鉄絵が施され、高台内に円圈がみられる。183 は肥前陶器碗で、いわゆる献上唐津である。外面に黒象嵌で文様が施され、内面見込みに目跡と思われる痕跡がある。184・185 は内野山窯産とみられる陶器皿で、184 は溝縁のもの、185 は外面透明釉、内面銅緑釉が施される。186 は肥前陶器灯明皿である。187～189 は肥前陶器播鉢で、187・189 は高台が付き、全面施釉のもの、188 は平底で、口縁部のみ施釉されるものである。

190～194 は肥前染付磁器碗である。190 は端反形になるものと思われ、蓋の可能性もある。191 は小広東形、192・193 は丸形、194 は明治前半の型紙刷りのものである。195 は肥前染付磁器小碗である。196 は肥前染付磁器瓶で、特異な器形である。197～199 は肥前染付磁器蓋で、197 は望料形碗に付くものと思われ、198 は明治以降のものである。200～202 は肥前染付磁器皿である。200 は口鏝で、型打成形を併用しており、201・202 は内面見込みを蛇の目釉剥ぎしている。203・204 は肥前染付磁器鉢で、203 は内面見込みを蛇の目釉剥ぎしており、204 は平面が八角形である。205 は昭和前半の「防衛食」缶詰用のもので、「大日本防空食糧株式」「社長小澤」が読み取れる。

206 は瓦質土器鍋である。207 は用途不明の土製品で、208 は銅銭の文久永寶である。

出土した陶磁器では、17 世紀のもの（184・185・188・200・201）もみられるが、大多数は 18 世紀後半代以降のものである。

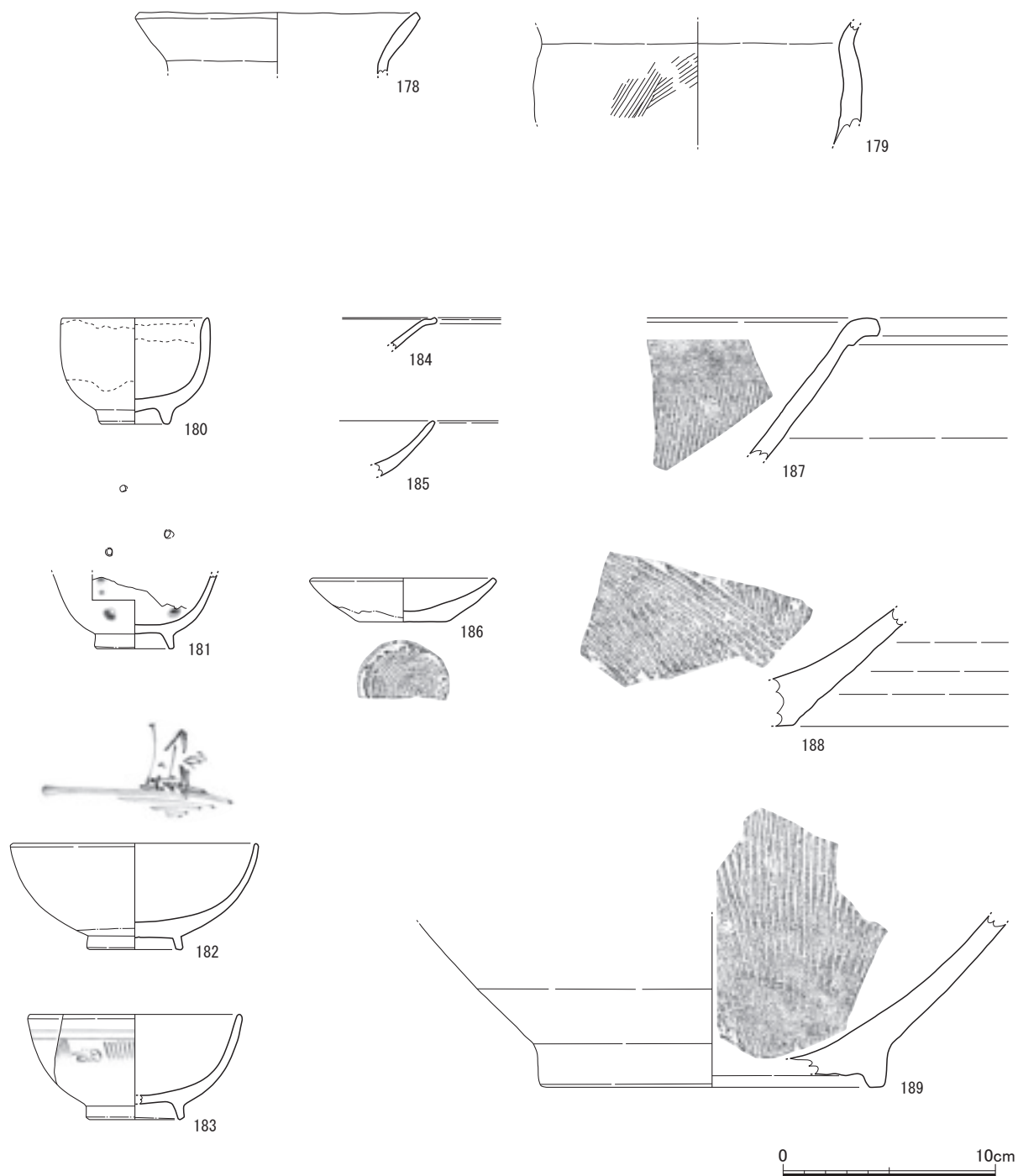


図 38 古墳時代～近世の出土遺物 (1/3)

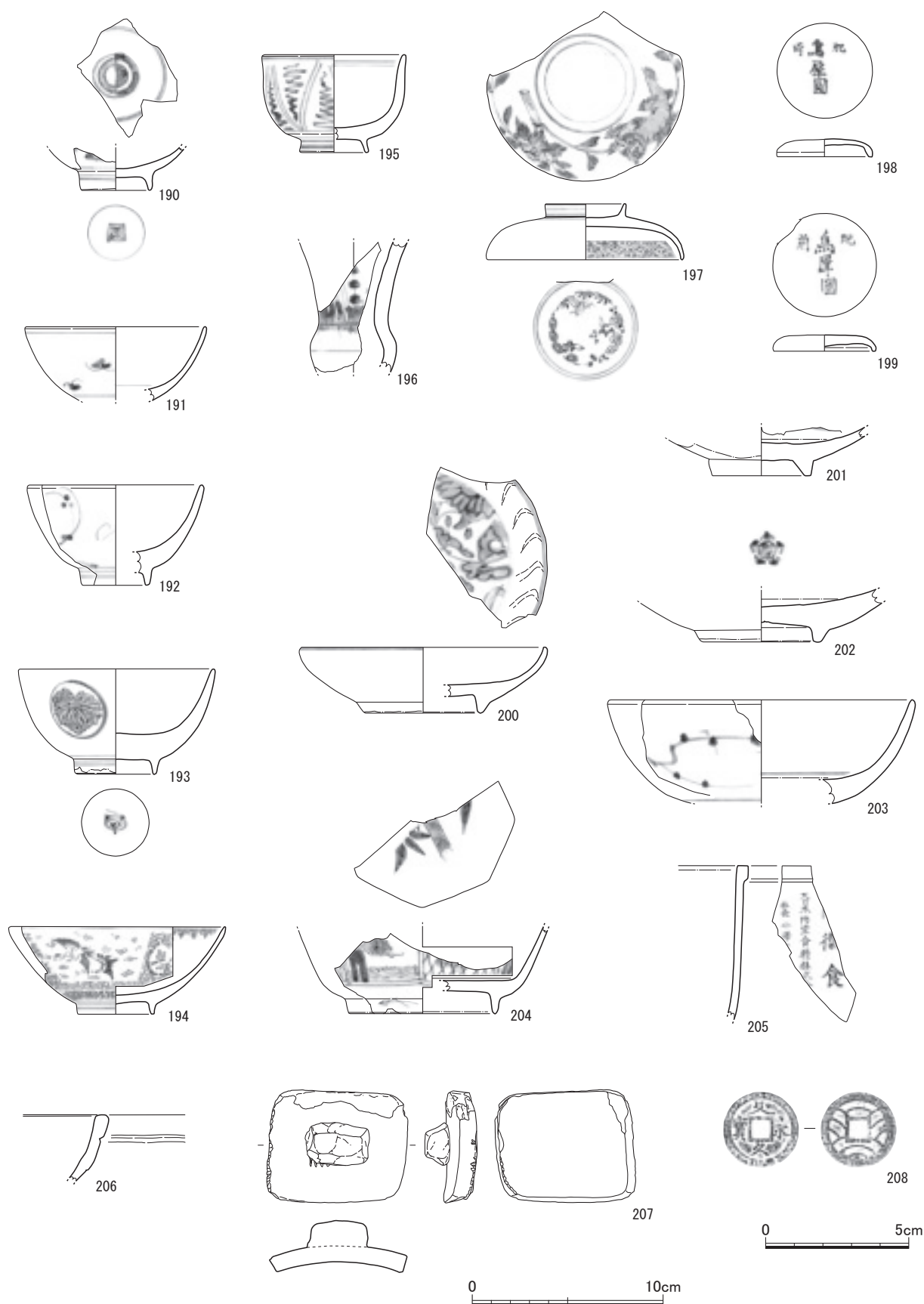


図 39 近世以降の遺物（190～207 は 1/3、208 は 1/2）

表4 小ヶ倉遺跡古墳時代以降の出土遺物

挿図・番号 登録番号	出土位置	種別 器種	寸法 cm			色調	備考	写真図版 写真登録番号
			口径	底径	器高			
図 38-178 09003566	A 区 a 層	土師器 甕	13.4*	-	-	外：にぶい黄橙・灰黄褐 内：黒褐・灰黄褐	外面煤付着	写真図版 15-178 20102606
図 38-179 09003567	F 区 b 層	土師器 鉢	-	-	-	橙		写真図版 15-179 20102607
図 38-180 10001241	G 区 表採	陶器 小碗	7.0	3.4	5.0	胎土：褐灰	福岡（高取力） 18c（～19c）	写真図版 15-180 20102634
図 38-181 10001240	表採	陶器 小碗	-	3.8	-	胎土：淡黄	肥前（伊万里） 18c 末～19c	写真図版 15-181 20102633
図 38-182 10001238	B 区	陶器 碗	10.7	4.5	5.0	胎土：灰白	肥前 17c 末～18c 前半	写真図版 15-182 20102619・2639
図 38-183 10001239	C 区 表採	陶器 碗	10.1*	4.6*	5.0	胎土：淡黄	唐津 18c 末～19c 前半	写真図版 15-183 20102632
図 38-184 10001242	A 区	陶器 皿	-	-	-	胎土：灰白	内野山窯 1610～30 年代	写真図版 15-184 20102615
図 38-185 10001243	G 区 表採	陶器 皿	-	-	-	胎土：灰白	内野山窯 17c 後半～18c 前半	写真図版 15-185 20102616
図 38-186 10001246	表採	陶器 灯火具	8.8*	4.4*	2.1	胎土：橙	肥前 18～19c	写真図版 15-186 20102618
図 38-187 10001247	G 区 表採	陶器 播鉢	-	-	-	胎土：灰赤	肥前 18c 前半～19c 力	写真図版 15-187 20102620
図 38-188 10001248	G 区 表採	陶器 播鉢	-	-	-	胎土：灰赤	肥前 17c 中頃～後半	写真図版 15-188 20102621
図 38-189 10001249	G 区 表採	陶器 播鉢	-	16.2*	-	胎土：橙	肥前 18c 前半～19c 力	写真図版 15-189 20102622
図 39-190 10001233	表採	染付磁器 碗	-	3.6	-	胎土：灰白	肥前 1820～60 年代 蓋の可能性あり	写真図版 15-190 20102637
図 39-191 10001229	B 区	染付磁器 碗	9.4*	-	-	胎土：灰白	肥前 18c 末～19c 初	写真図版 15-191 20102611
図 39-192 10001228	B 区	染付磁器 碗	9.2*	3.4*	5.3	胎土：灰白	波佐見系 18c 後半	写真図版 15-192 20102610
図 39-193 10001225	C 区 表採	染付磁器 碗	10.3*	4.2	5.0	胎土：灰白	波佐見系 18c 中頃～後半	写真図版 15-193 20102629
図 39-194 10001224	G 区 表採	染付磁器 碗	11.3*	4.0	4.6	胎土：灰白	肥前 明治前半	写真図版 15-194 20102628
図 39-195 10001226	表採	染付磁器 小碗	7.5*	3.6*	5.1	胎土：灰白	肥前（嬉野力） 1820～60 年代	写真図版 15-195 20102608
図 39-196 10001234	B 区	染付磁器 瓶	-	-	-	胎土：灰白	肥前 18c 力	写真図版 15-196 20102612
図 39-197 10001223	試掘坑 11 1～5 層	染付磁器 蓋	10.2*	-	3.0	胎土：灰白	有田 18c 後半	写真図版 15-197 20102635
図 39-198 10001235	表採	染付磁器 蓋	5.0	-	0.9	胎土：灰白	肥前 明治	写真図版 15-198 20102613
図 39-199 10001236	C 区 表採	染付磁器 蓋	5.4	-	0.8	胎土：灰白	肥前 19c	写真図版 15-199 20102614
図 39-200 10001237	表採	染付磁器 皿	13.0*	6.3*	3.5	胎土：灰白	肥前 17c 中頃	写真図版 15-200 20102638
図 39-201 10001232	B 区	染付磁器 皿	-	5.2	-	胎土：灰白	肥前 17c 後半	写真図版 15-201 20102631
図 39-202 10001231	G 区 表採	染付磁器 皿	-	6.1*	-	胎土：灰白	波佐見系 18c 後半	写真図版 15-202 20102636
図 39-203 10001227	G 区 表採	染付磁器 鉢	16.0*	-	-	胎土：灰白	波佐見系 18c 後半	写真図版 15-203 20102609
図 39-204 10001230	F 区 表採	染付磁器 鉢	-	7.8*	-	胎土：灰白	有田 1820～60 年代	写真図版 15-204 20102630
図 39-205 10001245	表採	陶器 瓶	-	-	-	胎土：灰白		写真図版 15-205 20102623
図 39-206 10001244	表採	瓦質土器 鍋	-	-	-	外：黒褐 内：にぶい黄褐	外面煤付着	写真図版 15-206 20102617
図 39-207 10000199	B 区	土製品 不明	-	-	2.7	にぶい橙		写真図版 15-207 20103748
図 39-208 10000200	表採	銭貨 銅銭	-	径 2.6	-	-	文久永寶 3.6g	写真図版 15-208 20103751

4 まとめ

小ヶ倉遺跡では、縄文時代早期を主体として、旧石器時代～縄文時代・古墳時代・近世などの遺跡を調査した。このうち、貴重な調査成果が得られた縄文時代早期を中心とした時期の様相について、簡単にまとめておきたい。

1) 出土遺物について

出土土器の中で、もっとも特徴的なものは1類とした円筒形刺突文土器で、口縁外面に連続する刺突文を数段横位に施すもので、A区出土の1は器形が分かる貴重な例である。詳しく見ると、施文位置など文様のモチーフは同一であるが、施文具に違いがあり、櫛状工具（1）、貝殻（53・84）、ヘラ状工具（82・83）の3種類ほどがある。器面調整はナデが基本であるが、一見ケズリのようにみえる工具を使用したナデがみられる。佐賀県内では有田町盗人岩洞穴遺跡（佐賀県教委 1969）、伊万里市白蛇山岩陰遺跡（佐賀県立博物館 1974）で類似した土器が出土している。この中で盗人岩洞穴遺跡のものをみると（図40）、施文具にはやはりヘラ状工具とおもわれるものと貝殻によるものの2種類が認められる¹⁾。県外で対比できるものとして、熊本県熊本市塚原遺跡出土土器（熊本県教委 1975）があるが、大きさなどは類似するものの、口縁部がやや外反する点、施文具や施文方法などの点では違いがある。

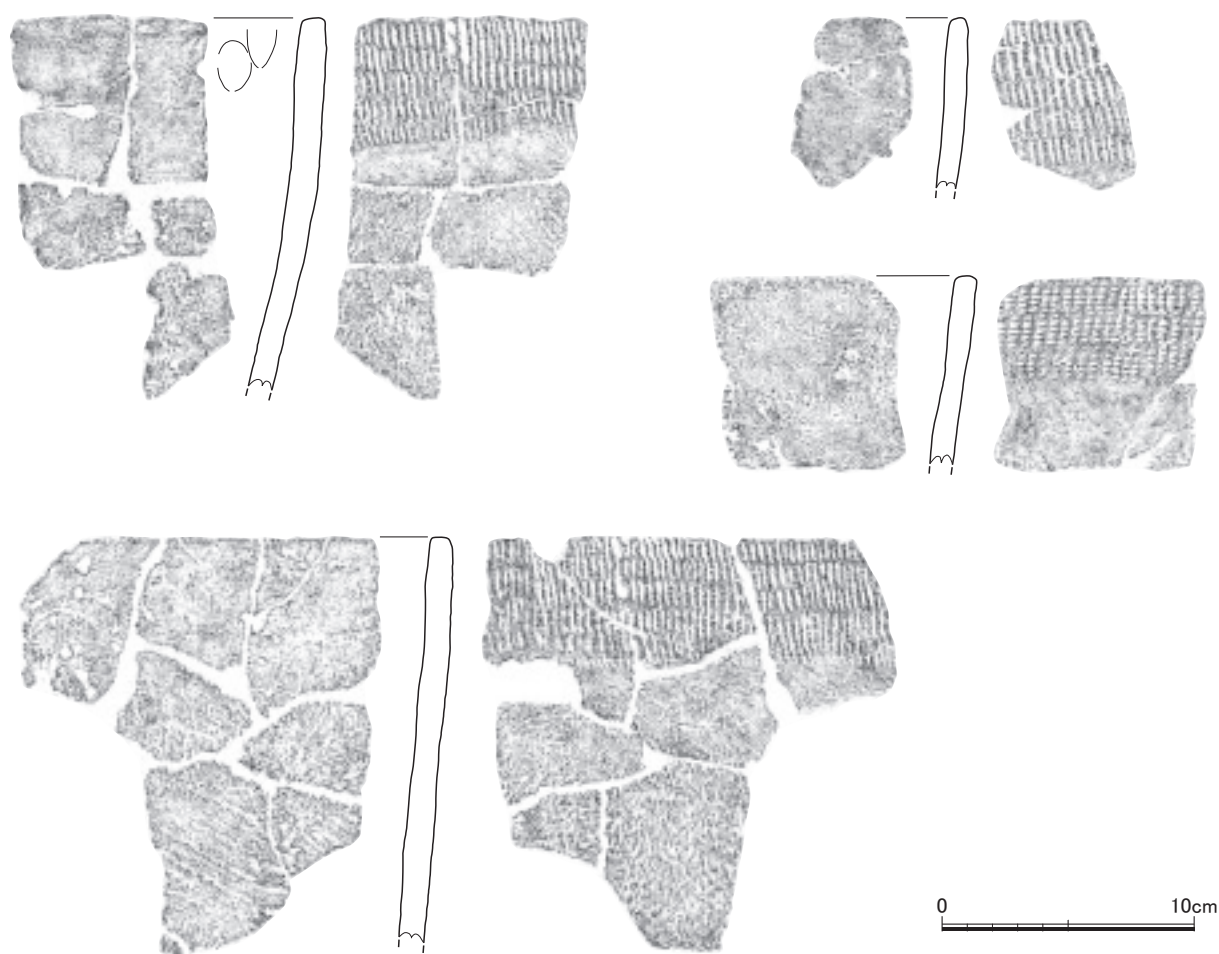


図40 盗人岩洞穴遺跡出土1類土器（1/3）

いずれにせよ、円筒形の器形で、口縁外面に横位の連続刺突文を施すものが、1型式として存在したことが認められよう。このような土器は、近年押型文土器に先行する早期前葉に位置づけられ、西北九州を中心に分布していたことが指摘されている（水ノ江1998）。1の外面に付着した炭化物から $9565 \pm 30 \text{yrBP}$ という放射性炭素年代が測定されており（第6章参照）、これらの土器群の編年を考える上で貴重な資料が得られたことになる。

土器では、4類も県内ではあまり類例がないものである。文様の特徵から、熊本県人吉市天道ヶ尾遺跡（熊本県教委 1990）で設定された天道ヶ尾式の系統のものと思われ、鹿児島県霧島市上野原遺跡第10地点（鹿児島県教委 2001）に類似したものがある。小ヶ倉遺跡全体では、早期前葉から前期にかけての土器が、少量ながら各時期のものが出土している。

出土石器では、C区下層の一群が目される。石槍や石鏃などの剥片石器類がかなり集中して出土しており、微細剥片の多さから、石器製作の場であったことが推定される。石槍がまとまって出土した例は珍しく、共伴する基部の挟りが深い長脚の石鏃とともに1時期の石器の様相を示す資料と考えられる。ただ、共伴する土器は非常に小さい破片しかなく、層位的にも上層から早期後葉の土器が出土しているので、それ以前としか確実なことはいえず、明確に時期を認定できないのが残念である。ただ、周辺の遺跡を含め、草創期の遺物は出土していないことから、早期前葉の中でとらえることができる石器群と思われる。

B区出土の異形石器は、平面Y字形のもので、石鏃と同じような調整剥離が施されている。平面形は鹿児島県始良市供養之元遺跡（鹿児島県教委 2002）・霧島市上野原遺跡第10地点（鹿児島県教委 2001）などから出土しているものに近いが、やや厚みがあり、素材が黒曜岩であるという違いがある。形態から実用品とは考えにくいので、縄文時代早期を中心とする時期に拠点的な集落から出土する各種の異形石器と同様に、祭祀具であろう。

また、石鏃の形態の変遷を考える上で、C区下層の石槍と共伴する挟りが深い長脚のもの、E区の小型三角形のものは示唆的な資料である。C区下層は時期決定に難があるが、E区の石鏃は第4章で報告する入道遺跡で主体を占めるものに類似しており、入道遺跡では刺突文土器が出土していることから、早期前葉の1時期の資料とみてよいであろう。これらに続いて、早期中葉の押型文土器に共伴することが多い鏃形鏃が出現してくるものと思われる。早期後葉には、西畑瀬遺跡 5N区下層にみられるように、鏃形鏃を残しつつも、平面二等辺三角形で凹基のものが主体を占めるようになり、以後の主流の形態となるものと考えられる。C区下層のものとE区などのものの先後関係は、長脚の石鏃と61のような挟りの深い鏃形鏃との形態的な類似性からすると、C区下層のものが後出する可能性があるが、早期前葉以前の石鏃の形態の変遷については今後の検討課題である。

2) 縄文時代の集落について

小ヶ倉遺跡では、縄文時代の明確な遺構は検出されなかったが、遺物の面から当時の様相を簡単に述べておく。発掘現場において、石器の製品の比率が高いという印象があったが、数値化すると剥片類の多さが目立つ。しかし、剥片類が集中して出土したC区下層の状況と、その他の地区の違いは確認できる。C区下層以外では、石器の分布状況は比較的まばらで、定形石器の比率も1割ほど高くなり、剥片類の中でもやや大きいものが多くなるなどの特徴がある。これらのことから、C区下層は石器製作が盛んに行われていたが、それ以外では必要に応じて石器を製作していたことがうかがえる。

定形石器の中では、石槍や石鏃などの狩猟具がかなりの比率を占めており、狩猟の拠点であったことが推測される。削器・搔器も解体具などとして使用されたものであろう。また、早期後葉以降、磨石や台石などが増加していることも指摘できる。遺物の出土量からみると、1時期の遺物量は少なく、住居跡なども確認できないため、長期間の定住は考えにくい。これらの特徴は、西畑瀬遺跡を代表として嘉瀬川ダム区域内で調査された多くの縄文時代の遺跡にみられるもので、狩猟を主な目的として拠点となる集落から移動して、一時的に居住したことを示しているものと思われる。小ヶ倉遺跡では、集石遺構などの遺構が確認されず、土器が少なく、定形石器の比率がやや高

いことから、このような性格が顕著に表れているようである。

以上のように、小ヶ倉遺跡の調査によって、嘉瀬川中流域の縄文時代早期の様相を知る上で、貴重な成果が得られた。今後、早期前葉の円筒形刺突文土器の検討、周辺の遺跡との比較などを通じて、当時の社会の状況などが明らかになることが期待される。

注

- 1) 佐賀県立博物館のご好意により、主な土器を再接合した後、実測と写真撮影を行った。

第3章 参考・引用文献

- 鹿児島県立埋蔵文化財センター（2001）『上野原遺跡（第10地点）』鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書（28）
 鹿児島県立埋蔵文化財センター（2002）『九日田遺跡・供養之元遺跡・前原和田遺跡』鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書（36）
 嘉瀬川ダム建設に伴う学術調査委員会（2000）『嘉瀬川ダム建設に伴う学術調査報告書』 富士町教育委員会
 九州近世陶磁学会（2000）『九州陶磁の編年』
 熊本県教育委員会（1975）『塚原』熊本県文化財調査報告第16集
 熊本県教育委員会（1990）『天道ヶ尾遺跡（Ⅱ）』熊本県文化財調査報告第111集
 佐賀県教育委員会（1969）『西有田町縄文遺跡』佐賀県文化財調査報告書第18集
 佐賀県教育委員会（2009）『西畑瀬遺跡2・大串遺跡』佐賀県文化財調査報告書第180集
 佐賀県立博物館（1974）『白蛇山岩陰遺跡』佐賀県立博物館調査研究書第1集
 杉原敏之（2008）「九州の槍先形尖頭器と有茎尖頭器」『旧石器考古学』70 旧石器文化談話会
 水ノ江和同（1998）「九州における押型文土器の地域性」『九州の押型文土器』九州縄文研究会

第 4 章 入道遺跡 1 区

第 4 章 入道遺跡 1 区

1 入道遺跡 1 区の概要

入道遺跡は、佐賀県佐賀市富士町大字大野字入道に所在する（図 41）。

入道地区は、嘉瀬川と神水川が合流する地点よりやや北西側で神水川に流れ込む小河川により形成された小盆地とその背後の山塊がその範囲となる。小盆地は音無と呼ばれており、山間部では比較的広く水田が確保できる地形であり、米がよく取れる地区であった。藩政期には小城鍋島家（小城支藩）領の山内郷に属していたが、集落は展開していなかったようで、古くから田畑など生産地として利用されていたことが考えられる。

入道遺跡は、標高約 380 m の尾根部から標高約 300 m の南に開く小さな谷部にかけて立地しており、旧石器時代の散布地、縄文時代の集落跡として周知化されている。遺跡の東に大野古賀遺跡（縄文時代の散布地）、西に地藏平遺跡（旧石器～縄文時代の集落跡）、南に音無瓦窯跡（近世～近代の窯跡）が隣接し、谷を挟んで南側に小ヶ倉遺跡が位置している。入道遺跡では、これまでに嘉瀬川ダム建設事業に伴い 1 区の発掘調査を実施し、縄文時代の集落跡などを確認している。

入道遺跡 1 区は、北から南に延びる尾根の先端にあたる標高 310 ～ 315 m の狭小な平坦部に位置し、周囲の谷部との比高差は約 10 ～ 15 m である（図 42）。調査の結果、縄文時代の遺構や遺物包含層を確認し、旧石器時代～近世の遺物が出土した。調査区の土層はおおよそ 1 ～ 7 層に区分でき（図 44）、1 ・ 2 層は表土層、4 層以下が縄文時代の遺物包含層である。縄文時代の遺物は主に 2 ～ 4 層上位と 7 層から出土しており、5 ・ 6 層は無遺物層であるが、4 ・ 7 層とも早期の包含層と認識できることから、4 層は 2 次的な堆積層の可能性がある。7 層下位は花崗岩バイラン土の基盤面となり、調査区の中心から南西方向と北東方向に傾斜していることが確認できた。

旧石器時代の遺物としては、2 層から角錐状石器が出土した。調査前の踏査の際、細石刃核を表採していることから、周辺に旧石器時代の遺物包含層が存在している可能性がある。北部九州有数の旧石器時代の遺跡である地藏平遺跡が隣接していることから、当時の人間の活動範囲がうかがえる資料である。

縄文時代では、遺構として焼礫集石遺構 1 基を検出し、遺物包含層から早期前葉～中葉の土器・石器が出土した。遺物の出土状況は、7 層が厚く堆積する調査区北東部にかなりまとまって出土しており、集石遺構もこの部分で確認される。7 層は上層に無遺物層が認められることから、遺構や遺物は時期がある程度限定できる。2 ～ 4 層では、調査区南部を中心に遺物が出土しているが、7 層に比べ散漫に分布しており、原位置を保っていないものと思われる。出土土器は少量であるが、刺突文土器、条痕文土器、押型文土器があり、早期の中ではやや時期幅がみられるようである。石器は、石鏃を主体として削器などの刃器類や磨石などがあるが、打製石器がほとんどで、石鏃は小型のものが多くという特徴がある。打製石器の中では剥片類が大部分を占めることから、石器製作の場であったことが考えられる。焼礫集石遺構は、屋外の調理用の炉として使用された可能性があり、縄文時代早期の集石炉の実態を示す好例である。このように、1 区では縄文時代早期の遺構と遺物を確認したが、谷部に張り出す非常に狭い尾根先端部で、音無地区を一望できる位置にあるという立地や石器の組成などから、狩猟時の野営地としての性格が推測される。

縄文時代以降では、2 層からごく少量ではあるが、土師器・陶器が出土した。土師器は中世に遡る可能性はあるが、大部分は近世のものと考えられる。調査区周辺において、江戸時代から何らかの土地利用があったことを示す資料である。



図 41 入道遺跡周辺の地形 (1/5,000)



図 42 入道遺跡 1 区的位置 (1/2,000)

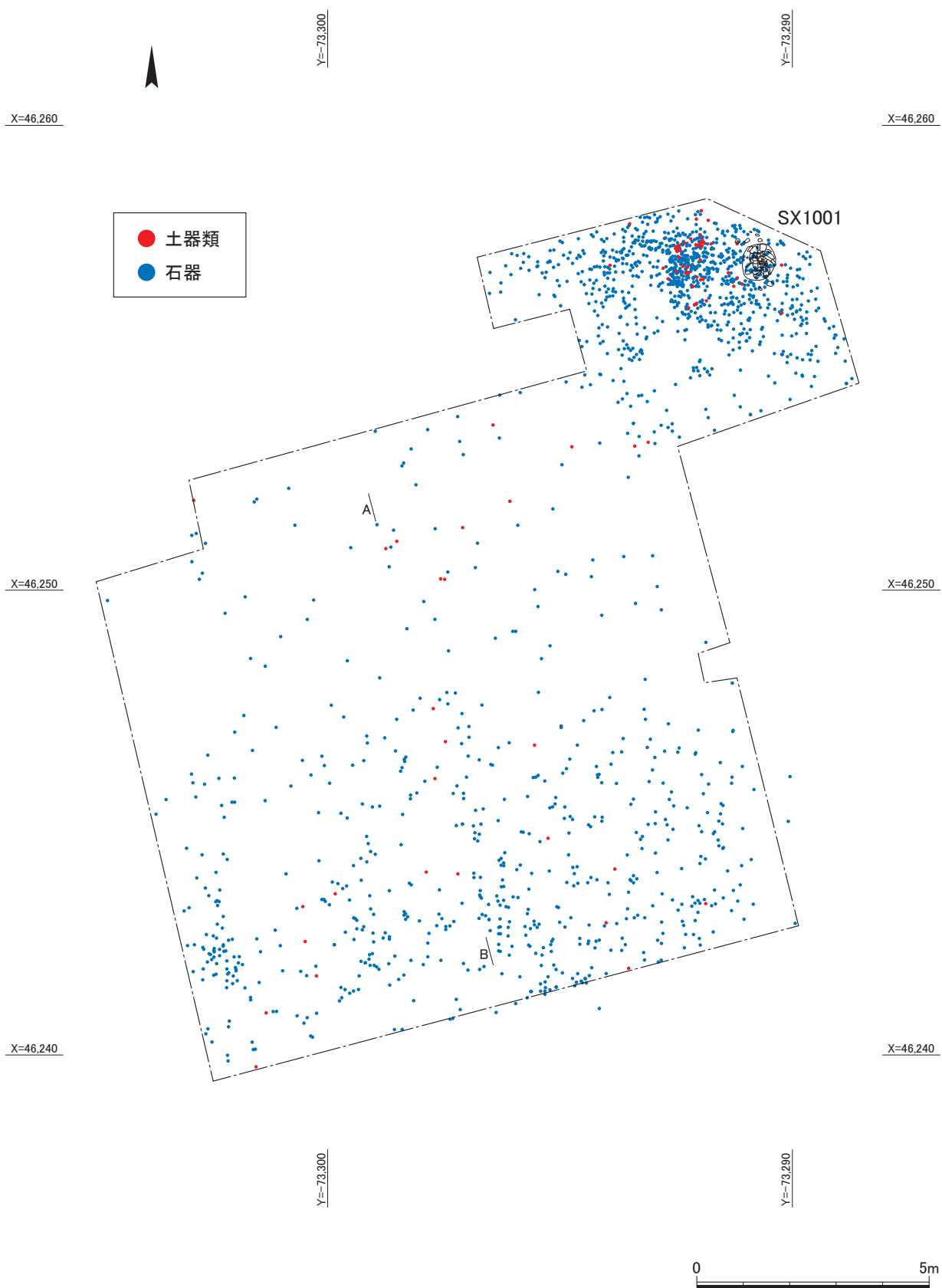


図 43 1区遺構・遺物の平面分布 (1/125)



図 44 1 区の土層 (1/60)・土器類の垂直分布 (1/80)

2 1区の遺構と遺物

1) 遺構

1区で検出した遺構は、焼礫集石遺構1基である。

SX1001 (図45)

1区北東隅に位置し、7層中で確認した。長軸0.85 m、短軸0.72 m、深さ0.22 mの平面楕円形の土坑内に、礫が径約0.7 mの範囲に集中している。礫は、下方にやや大形の扁平な角礫を花卉状に配し、その上に小礫を積み上げた状態である。

総礫数107点、総重量52,433.7 g、平均重量490.0 gで、最大のものは4.5kg、1 kgを超えるものが15個、100 g以下のものが48個である。礫の破損状態は、完形礫20点、破損礫87点で、破損率は81.3%である。礫の赤化状態は、赤化完形礫18点、割れ面赤化礫83点、割れ面非赤化礫2点、非赤化礫4点である。礫の形状は大部分が角礫で、石質は107点すべて花崗岩類である。礫の接合は16例47点で、一部を図示している。

時期は、層位や周辺の出土遺物から縄文時代早期前葉～中葉と考えられるが、さらに時期を絞り込むのは難しい。なお、SX1001から出土した炭化材の年代測定は、14 C年代が8450 ± 30yrBP、1 σ 暦年代範囲が7569-7512calBC (68.2%)、2 σ 暦年代範囲が7577-7487calBC (95.4%) という結果が出ている (第6章参照)。

2) 遺物

1区では、出土遺物について1,666点の出土位置を3次元で記録して取り上げた。ほとんどが縄文時代の遺物

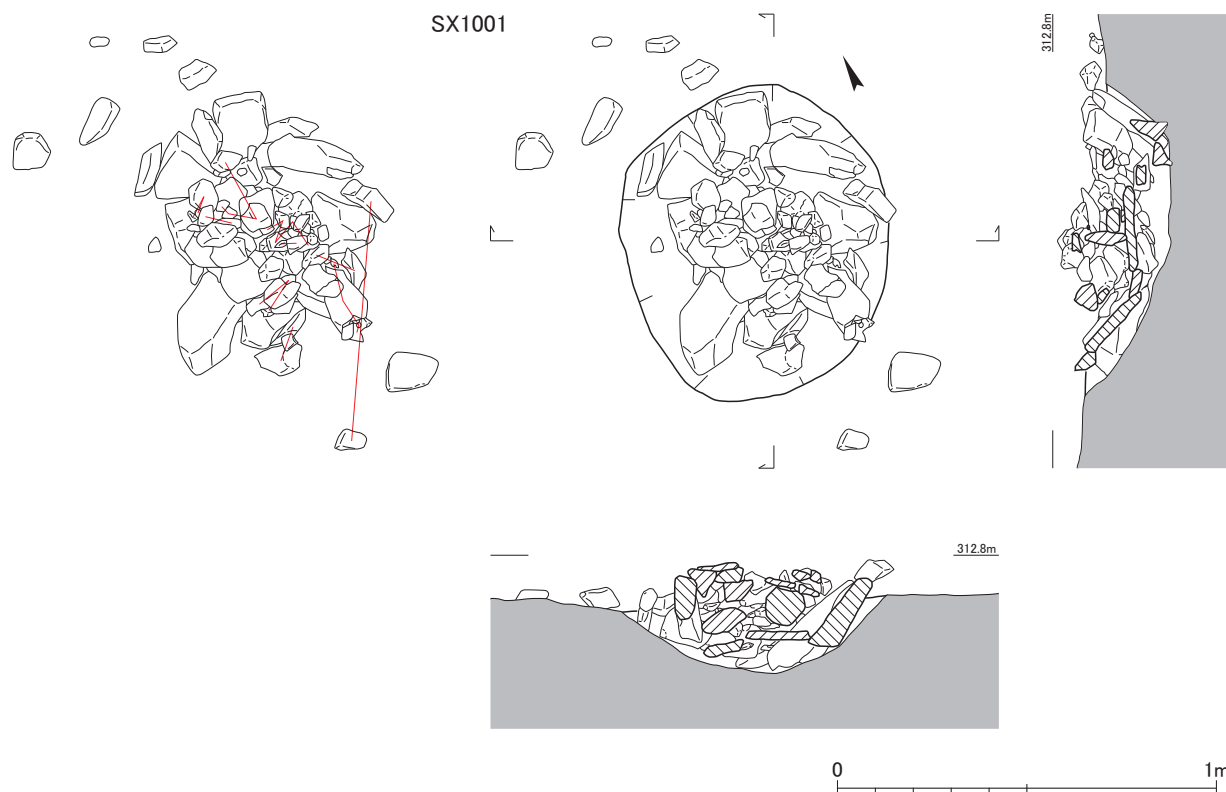


図45 SX1001 (1/20)

であるが、2 層からは近世と思われる土師器、陶器などもわずかに出土している。

縄文土器（図 49）

1 区からは、主に調査区北東隅の 7 層から早期前葉～中葉の土器が出土しているが、点数は少ない。

1～5 はいずれも 7 層から出土した。1～3 は同一個体と考えられる土器で、口縁部に径 2～3 mm の貫通する円孔を約 10mm の間隔で横位に配している。ほぼ直立する口縁となる器形で、器面調整は内外面ナデである。4 は器面調整が外面横方向の条痕、内面ナデの薄手の土器である。5 は外面に楕円押型文が施され、内面の器面調整はナデである。このほか図示していないが、外面に山形押型文を施したと思われる小破片が 4 層から出土している。

石器（図 49～51）

1 区から出土した石器は、ほとんどが縄文時代のものであるが、わずかに旧石器時代に遡るものがある。1,584 点の出土位置を 3 次元で計測して取り上げたが、礫石器（磨石）が 2 点あるのみで、他はすべて剥片石器とその石核・剥片である。

剥片石器類を器種・石材別にみると、石鏃が 33 点（うち黒曜岩 16 点、無斑晶質安山岩 17 点）、石槍が 1 点（無斑晶質安山岩）、石錐が 1 点（無斑晶質安山岩）、削器・搔器が 15 点（うち黒曜岩 4 点、無斑晶質安山岩 11 点）、角錐状石器が 1 点（黒曜岩）で、定形石器の中では石鏃が約 2/3 を占める。このほか、二次加工剥片・微細剥離痕ある剥片が 13 点（うち黒曜岩 8 点、無斑晶質安山岩 5 点）、剥片が 359 点（うち黒曜岩 97 点、無斑晶質安山岩 262 点）、微細剥片（ここでは便宜的に 1 g 以下の剥片を指す）が 1,156 点（うち黒曜岩 596 点、無斑晶質安山岩 560 点）、石核が 2 点（黒曜岩）であり、剥片石器類のほとんどを剥片・石核類が占める。剥片石器に用いられた石材は、無斑晶質安山岩がやや多い程度で、黒曜岩とほぼ拮抗する。

早期前葉～中葉に時期が限定できる 7 層出土の 921 点に限ると、石鏃が 19 点（うち黒曜岩 6 点、無斑晶質安山岩 13 点）、石錐が 1 点（無斑晶質安山岩）、削器・搔器が 10 点（うち黒曜岩 1 点、無斑晶質安山岩 9 点）、石核が 2 点（黒曜岩）、磨石が 1 点である。剥片石器に用いられた石材は、黒曜岩が約 3 割、無斑晶質安山岩が約 7 割と安山岩の比率がやや高くなる。

6～36 は 7 層から出土した。6～23 は石鏃で、平面の形状が二等辺三角形、正三角形、扁平な二等辺三角形、側縁が膨らむ二等辺三角形のもの、基部が平基、微凹基、挟りが深い長脚のもの、鏃形鏃などと、形態はかなり多様であるが、全体的に長さ 2.5cm 以下の小型のものが多いという特徴がある。6・7・14 は非常に小型の石鏃で、両面に素材面を残している。17 は両面のごく一部を研磨する黒曜岩製の石鏃である。24～26 は石鏃の未製品と思われる。

27 は小型の石錐である。28 は小型の削器としたが、石鏃の未製品である可能性がある。29～33 は削器で、32 は両面に丁寧な調整加工を施しているが、他は側縁にのみ調整加工を施し、刃部を形成している。29 はつまみを意識している可能性があり、石匙とすべきかもしれない。34 は縦長の剥片を剥離した痕跡を残す黒曜岩製の剥片である。35 は黒曜岩製の石核で、2 方向から主に縦長の剥片を剥離したものであろう。

36 は磨石で、両面に使用によると思われる磨滅がみられ、石材は花崗岩と思われる。

37～55 は 7 層以外から出土した。37～48 は石鏃で、2 cm 以下の小型のものが多い。37～45 は平面の形状が直線的な側縁の二等辺三角形、基部が平基のもので、左右がやや非対称なもの（40・44）がみられる。46 は凹基のもので、両面を研磨している。47・48 は挟りが深い長脚のものである。49 は無斑晶質安山岩製の石槍であるが、先端か基部かは不明である。50・51 は削器、52 は搔器で、いずれも側縁にのみ調整加工を施し、刃部を作出している。53 は踏査時に採集した舟底形の細石刃核で、黒曜岩製である。54 は黒曜岩製の角錐状石器である。基部に自然面を残しており、基部と 1 側縁に調整加工を施している。55 は磨石で、両面に使用によると思わ

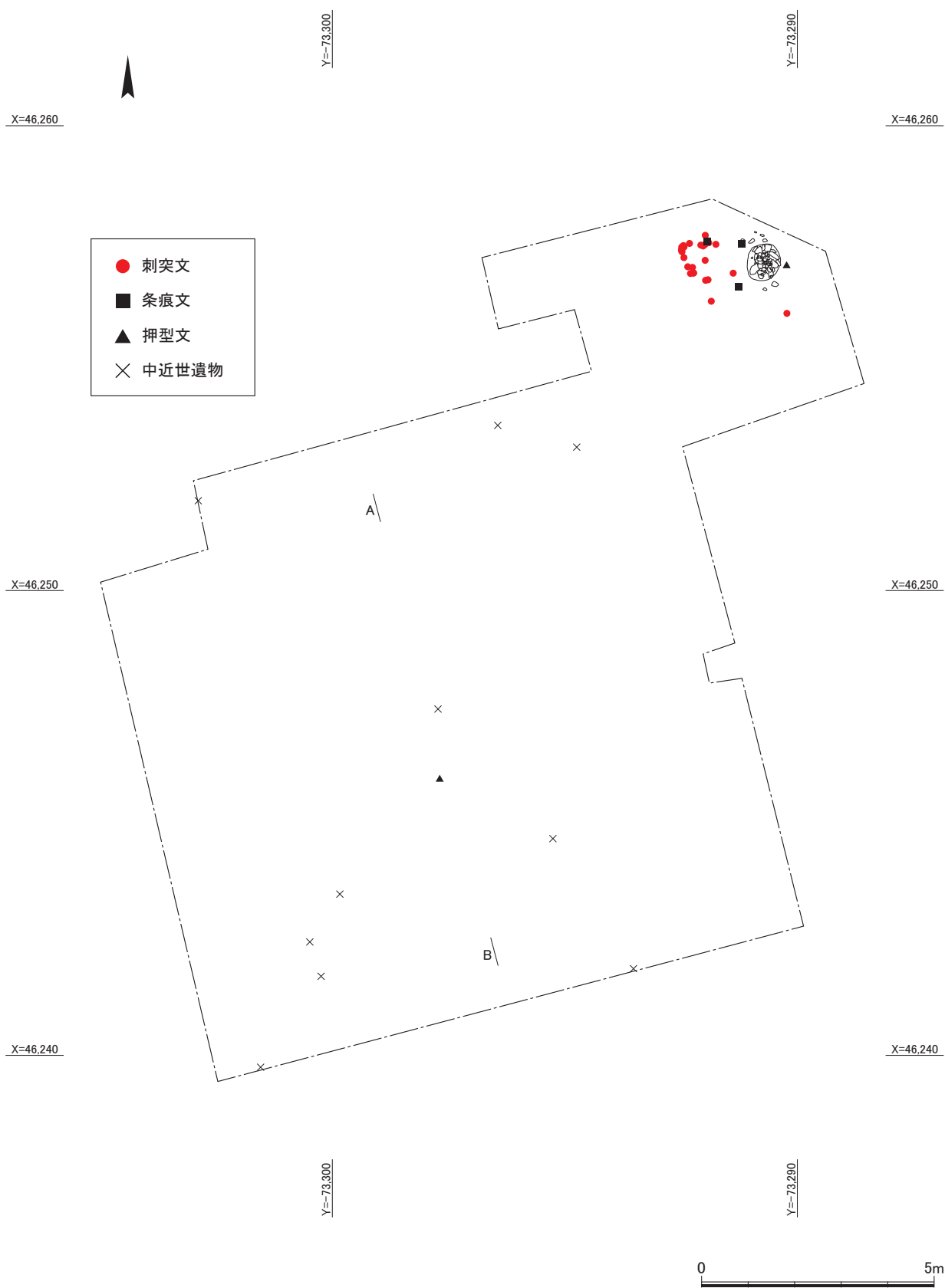


図46 1区縄文時代土器の分布 (1/125)

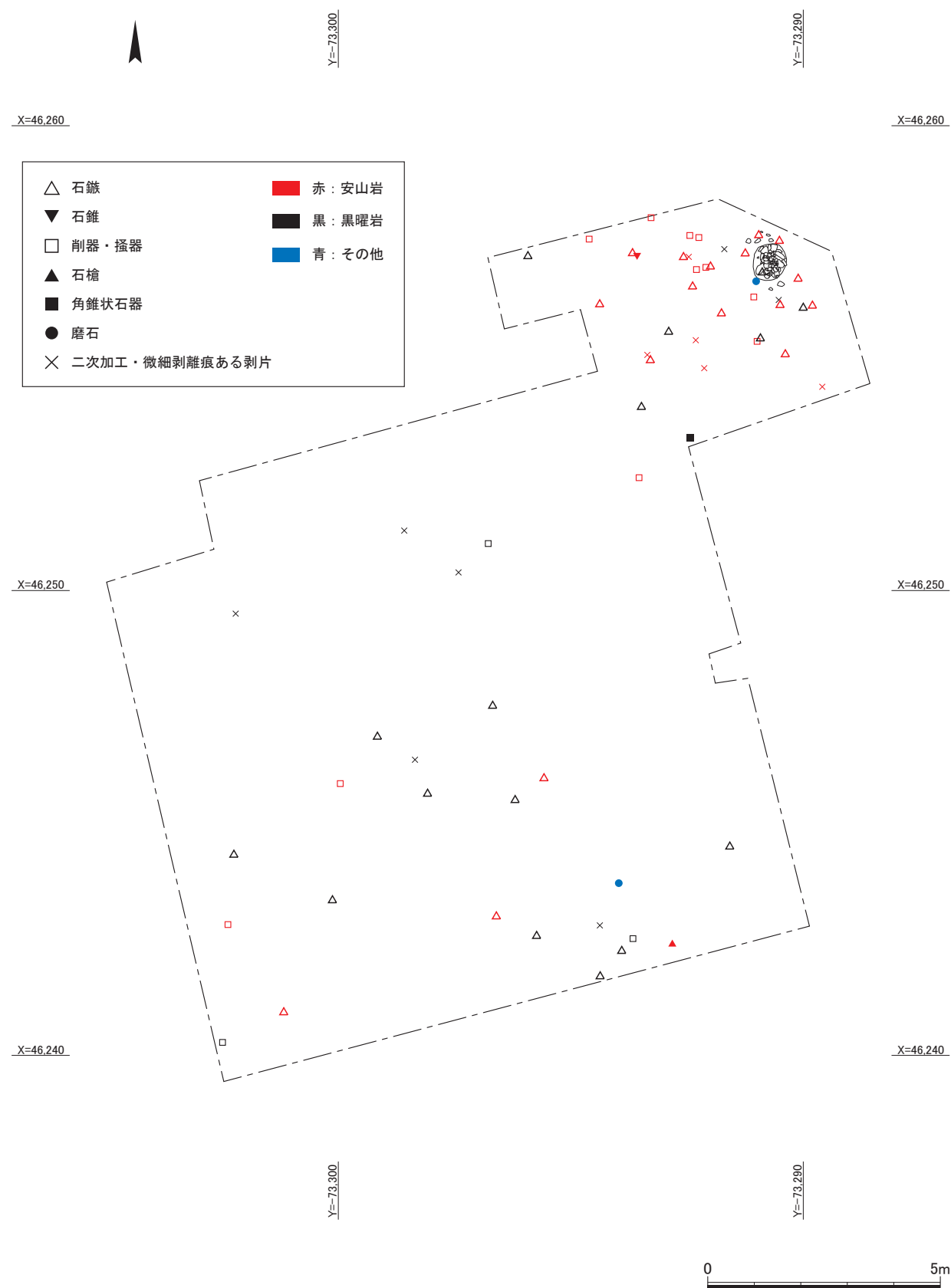


図 47 1 区旧石器・縄文時代石器の平面分布 (1/125)

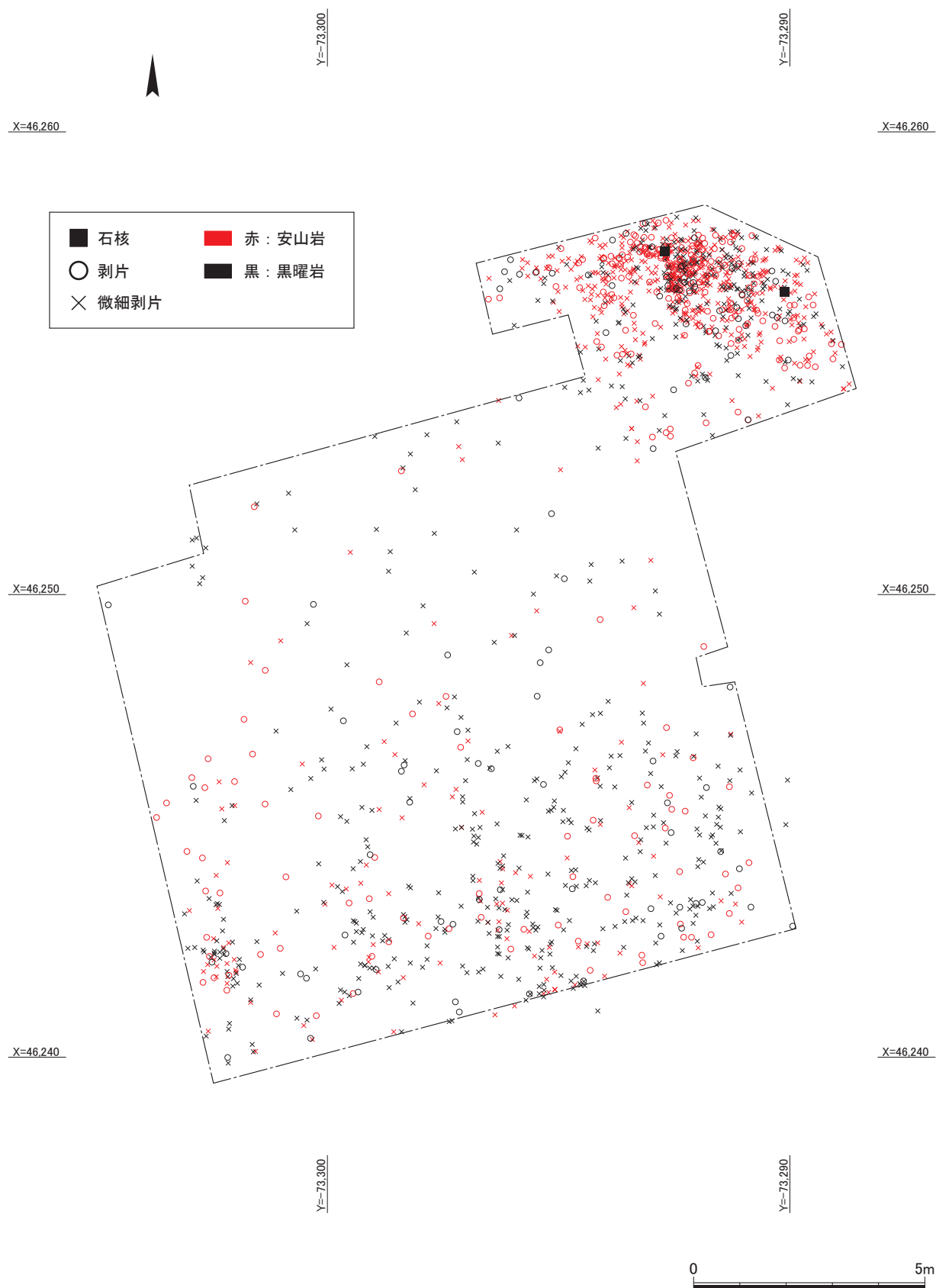


図 48 1区縄文時代石核・剥片の平面分布 (1/125)

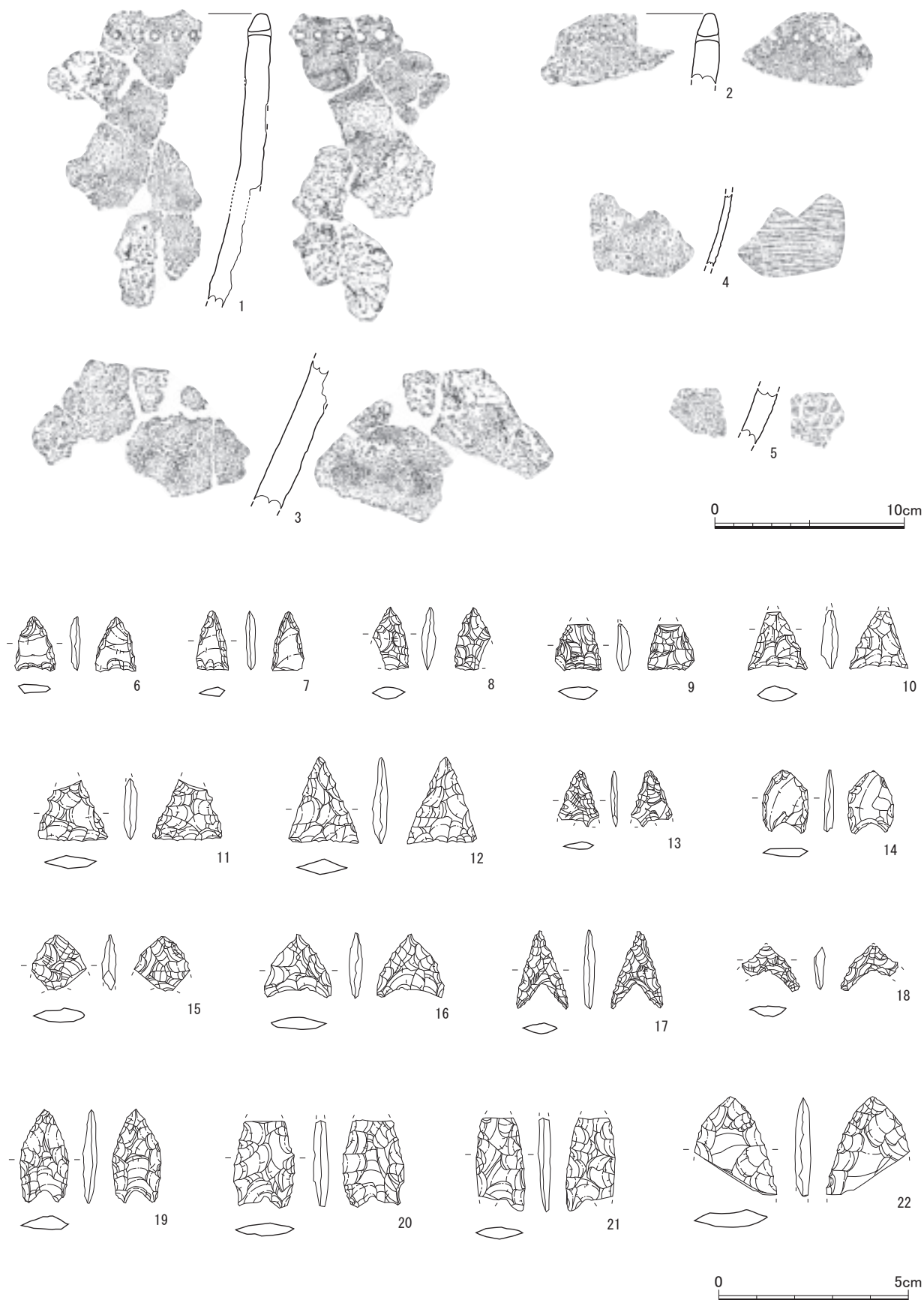


図 49 1 区出土縄文時代の土器 (1/3)・石器 1 (2/3)



図50 1区出土縄文時代の石器2 (23～28は2/3、29～36は1/2)

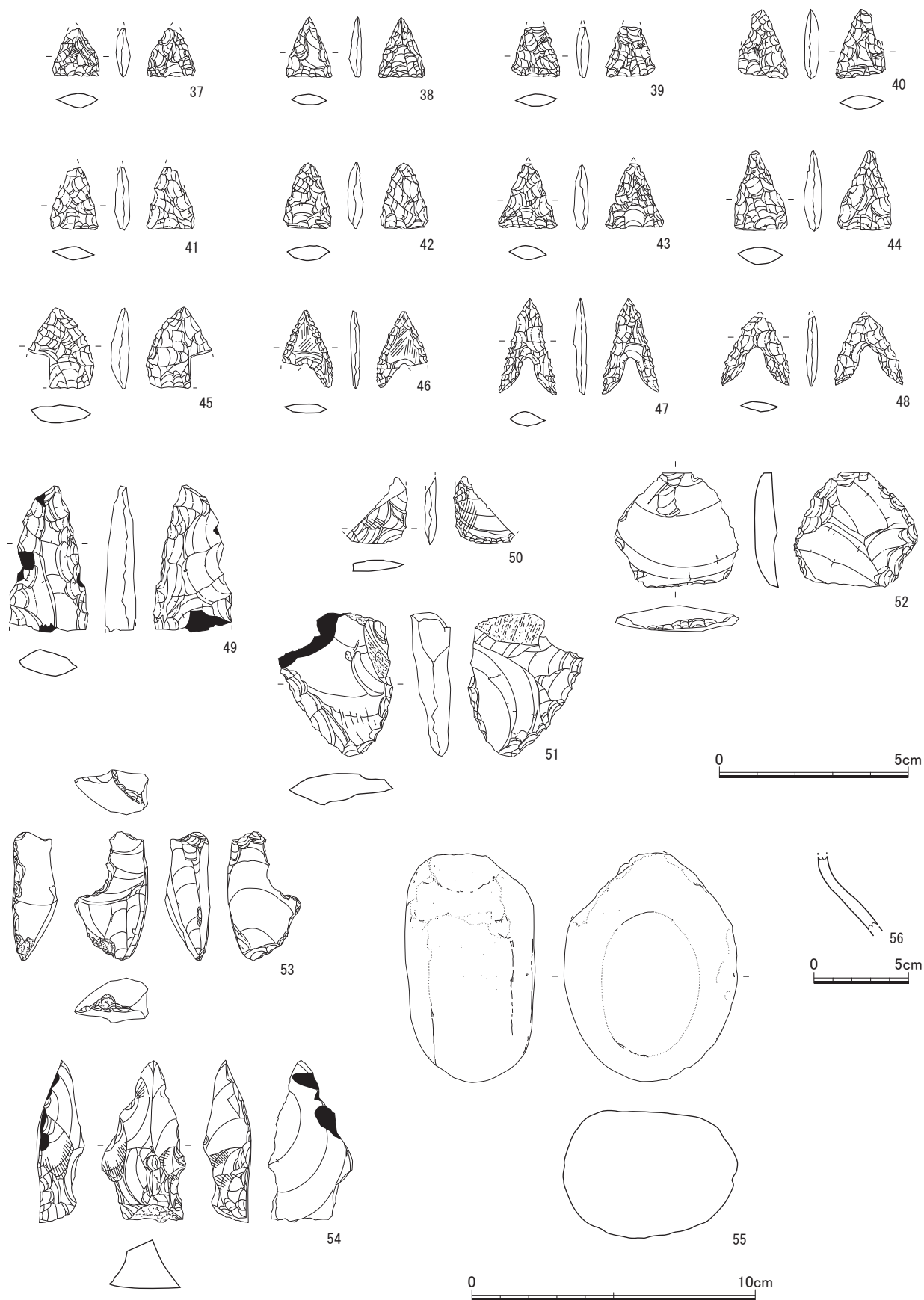


図 51 1 区出土旧石器・縄文時代の石器 (37～54 は 2/3、55 は 1/2)、近世の陶器 (1/3)

れる磨滅がみられ、石材は花崗岩と思われる。

近世の陶器（図51）

56 は陶器瓶で、外面に灰釉を施している。

表5 入道遺跡1区縄文時代・近世の出土土器・陶器

挿図・番号 登録番号	出土位置	種別 器種	寸法 cm			色調	備考	写真図版 写真登録番号
			口径	底径	器高			
図 49-1 09003570	7 層	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：にぶい黄橙・黒褐 内：にぶい黄橙	外面煤付着	写真図版 19-1 20102374・2375
図 49-2 09003569	7 層	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：にぶい黄橙・灰黄褐 内：にぶい黄橙		写真図版 19-2 20102378
図 49-3 09003571	7 層	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：褐灰・にぶい黄橙 内：淡黄・にぶい黄橙	外面煤付着	写真図版 19-3 20102376
図 49-4 10001250	7 層	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：にぶい黄橙 内：橙		写真図版 19-4 20102380
図 49-5 09003568	7 層	縄文土器 深鉢	-	-	-	にぶい黄橙・橙		写真図版 19-5 20102377
図 51-56 09003572	表採	陶器 瓶	-	-	-	胎土：灰・にぶい黄橙	肥前 17c 代	写真図版 20-56 20102379

表6 入道遺跡1区旧石器・縄文時代の出土石器

挿図・番号 登録番号	出土位置	種別 器種	寸法 cm			重量 g	石材	備考	写真図版 写真登録番号
			長さ	幅	厚さ				
図 49-6 09000468	7 層	打製石器 石鏃	1.4	1.1	0.3	0.3	無斑晶質安山岩	完形	写真図版 19-6 20102386
図 49-7 09000470	7 層	打製石器 石鏃	1.6	0.8	0.3	1.2	無斑晶質安山岩	完形	写真図版 19-7 20102388
図 49-8 09000474	7 層	打製石器 石鏃	1.7	0.9	0.4	0.4	黒曜岩	1/4 程欠損	写真図版 19-8 20102392
図 49-9 09000472	7 層	打製石器 石鏃	1.2	1.2	0.4	0.5	黒曜岩	先端部欠損	写真図版 19-9 20102390
図 49-10 09000460	7 層	打製石器 石鏃	1.5	1.6	0.4	0.7	無斑晶質安山岩	先端部欠損	写真図版 19-10 20102399
図 49-11 09000463	7 層	打製石器 石鏃	1.6	1.8	0.3	0.9	無斑晶質安山岩	先端部欠損	写真図版 19-11 20102381
図 49-12 09000459	7 層	打製石器 石鏃	2.3	1.8	0.4	1.0	無斑晶質安山岩	完形	写真図版 19-12 20102398
図 49-13 09000475	7 層	打製石器 石鏃	1.5	1.1	0.2	0.1	黒曜岩	基部欠損	写真図版 19-13 20102393
図 49-14 09000467	7 層	打製石器 石鏃	1.6	1.2	0.2	0.5	無斑晶質安山岩	完形	写真図版 19-14 20102385
図 49-15 09000473	7 層	打製石器 石鏃	1.5	1.5	0.3	0.6	黒曜岩	基部欠損	写真図版 19-15 20102391
図 49-16 09000465	7 層	打製石器 石鏃	1.7	1.7	0.3	0.7	無斑晶質安山岩	完形	写真図版 19-16 20102383
図 49-17 09000471	7 層	打製石器 石鏃	2.1	1.4	0.3	0.3	黒曜岩	完形 局部磨製	写真図版 19-17 20102389
図 49-18 09000476	7 層	打製石器 石鏃	1.2	1.5	0.2	0.2	黒曜岩	先端部と基部片方が欠損	写真図版 19-18 20102394
図 49-19 09000458	7 層	打製石器 石鏃	2.5	1.3	0.3	0.9	無斑晶質安山岩	完形	写真図版 19-19 20102397
図 49-20 09000464	7 層	打製石器 石鏃	2.3	1.6	0.4	1.4	無斑晶質安山岩	先端部欠損	写真図版 19-20 20102382
図 49-21 09000461	7 層	打製石器 石鏃	2.5	1.3	0.3	1.0	無斑晶質安山岩	先端部と基部片方が欠損	写真図版 19-21 20102400
図 49-22 09000462	7 層	打製石器 石鏃	2.6	2.2	0.4	2.1	無斑晶質安山岩	基部欠損	写真図版 19-22 20102401
図 50-23 09000457	7 層	打製石器 石鏃	5.3	2.5	0.6	4.8	無斑晶質安山岩	先端部欠損	写真図版 19-23 20102423
図 50-24 09000469	7 層	打製石器 石鏃	2.5	1.9	0.3	1.2	無斑晶質安山岩	基部欠損 未製品	写真図版 19-24 20102387

表6 入道遺跡1区旧石器・縄文時代の出土石器

挿図・番号 登録番号	出土位置	種別 器種	寸法 cm			重量 g	石材	備考	写真図版 写真登録番号
			長さ	幅	厚さ				
図 50-25 09000466	7 層	打製石器 石鏃	2.9	2.0	0.4	2.1	無斑晶質安山岩	先端部と基部片方が欠損 未製品	写真図版 19-25 20102384
図 50-26 09000477	7 層	打製石器 石鏃	2.4	1.7	0.6	1.9	黒曜岩	先端部欠損 未製品	写真図版 19-26 20102395
図 50-27 09000478	7 層	打製石器 石鏃	2.3	1.8	0.4	1.1	無斑晶質安山岩	ほぼ完形	写真図版 19-27 20102396
図 50-28 09000482	7 層	打製石器 削器	2.3	1.5	0.4	1.4	無斑晶質安山岩	完形	写真図版 19-28 20102402
図 50-29 09000483	7 層	打製石器 削器	2.9	3.2	0.5	4.5	無斑晶質安山岩	完形	写真図版 19-29 20102403
図 50-30 09000484	7 層	打製石器 削器	2.8	2.6	1.2	8.4	黒曜岩	完形	写真図版 19-30 20102426
図 50-31 09000480	7 層	打製石器 削器	6.0	3.3	1.1	20.5	無斑晶質安山岩	完形	写真図版 20-31 20102424
図 50-32 09000479	7 層	打製石器 削器	8.3	3.4	0.9	24.6	無斑晶質安山岩	完形	写真図版 20-32 20102422
図 50-33 09000481	7 層	打製石器 削器	4.5	4.8	1.1	19.9	無斑晶質安山岩	完形	写真図版 20-33 20102425
図 50-34 09000501	7 層	打製石器 剥片	4.1	3.6	0.9	11.5	黒曜岩	完形	写真図版 20-34 20102427
図 50-35 09000502	7 層	打製石器 石核	4.7	2.0	1.5	13.7	黒曜岩	完形	写真図版 20-35 20102428
図 50-36 09000497	7 層	礫石器 磨石	13.0	10.1	4.5	859.3		完形	写真図版 20-36 20102429
図 51-37 09000487	2 層	打製石器 石鏃	1.3	1.3	0.4	0.5	黒曜岩		写真図版 20-37 20102406
図 51-38 09000495	4 層	打製石器 石鏃	1.6	1.2	0.3	0.4	黒曜岩	完形	写真図版 20-38 20102414
図 51-39 09000486	2 層	打製石器 石鏃	1.3	1.3	0.3	0.5	黒曜岩	先端部欠損	写真図版 20-39 20102405
図 51-40 09000488	2 層	打製石器 石鏃	1.8	1.3	0.3	0.8	黒曜岩	一部欠損	写真図版 20-40 20102407
図 51-41 09000490	2 層	打製石器 石鏃	1.7	1.3	0.4	0.6	黒曜岩	先端部欠損	写真図版 20-41 20102409
図 51-42 09000489	2 層	打製石器 石鏃	1.8	1.3	0.4	0.7	黒曜岩	ほぼ完形	写真図版 20-42 20102408
図 51-43 09000496	4 層	打製石器 石鏃	1.7	1.6	0.4	0.7	黒曜岩	先端部欠損	写真図版 20-43 20102415
図 51-44 09000493	2 層	打製石器 石鏃	2.1	1.4	0.5	1.1	無斑晶質安山岩	ほぼ完形	写真図版 20-44 20102412
図 51-45 09000491	2 層	打製石器 石鏃	2.2	1.7	0.5	1.4	黒曜岩	片方の基部欠損	写真図版 20-45 20102410
図 51-46 09000485	2 層	打製石器 石鏃	2.0	1.3	0.3	0.5	黒曜岩	片方の基部欠損 局部磨製	写真図版 20-46 20102404
図 51-47 09000492	2 層	打製石器 石鏃	2.6	1.5	0.3	0.6	無斑晶質安山岩	完形	写真図版 20-47 20102411
図 51-48 09000494	3 層	打製石器 石鏃	1.8	1.8	0.3	0.5	無斑晶質安山岩	先端部欠損	写真図版 20-48 20102413
図 51-49 09000499	2 層	打製石器 石槍	3.9	2.1	0.8	6.1	無斑晶質安山岩	基部欠損カ	写真図版 20-49 20102416
図 51-50 09000504	2 層	打製石器 削器	1.7	1.4	-	0.6	黒曜岩	一部残存	写真図版 20-50 20102418
図 51-51 09000505	2 層	打製石器 削器	3.8	3.0	1.0	8.7	無斑晶質安山岩	一部欠損	写真図版 20-51 20102419
図 51-52 09000503	2 層	打製石器 搔器	3.0	3.2	0.6	6.6	無斑晶質安山岩	完形	写真図版 20-52 20102417
図 51-53 10000207	表採	打製石器 石核	3.4	2.0	1.2	4.6	黒曜岩	完形	写真図版 20-53 20102420
図 51-54 09000500	2 層	打製石器 角錐状石器	4.3	2.2	0.8	8.5	黒曜岩	完形	写真図版 20-54 20102421
図 51-55 09000498	4 層	礫石器 磨石	8.1	6.1	4.5	290.2		一部欠損	写真図版 20-55 20102430

3 まとめ

入道遺跡1区では、旧石器時代の遺物、縄文時代早期の遺構・遺物などを調査した。ここでは、県内でも調査例の少ない縄文時代早期の遺構・遺物について簡単にまとめておきたい。

1区で確認された縄文時代の遺構は、SX1001 集石遺構1基だけであるが、ほとんどの礫に焼けた痕跡が明瞭であることから、炉として使用されたものと考えられ、当時の形態を良好に残しているものと思われる。時期は、出土遺物から早期前葉～中葉までは絞り込むことができ、出土した炭化材の放射性炭素年代では早期中葉の年代が得られている。嘉瀬川ダム建設事業に伴う発掘調査では、縄文時代の各遺跡で前期を主体として多数の集石遺構が確認されているが、大部分は掘り込みが認められず、どの範囲を遺構と認識してよいか迷うような散漫に石材が分布するものがほとんどで、SX1001のように明確な掘り込みを持ち、礫が集中しているものは少ない。類似する集石遺構として、西畑瀬遺跡5S区SX5134があるが、周辺からは曽畑式土器などが出土しており、前期に属するものと思われる。SX1001のような形態の集石遺構が早期の典型例である可能性もあるが、掘り込みをもたない集石遺構が炉として使用後に人為的に壊しているものであれば、使用時にはSX1001のような形態であったことも考えられ、また炉の機能差も考慮する必要がある、今後の資料の蓄積により研究していく課題であろう。

出土土器の中では、刺突文土器が注目される。同様の土器が県内では、神崎市吉野ヶ里遺跡志波屋三の坪乙地区、鳥栖市今町共同山遺跡などから出土しているが、すべての刺突が貫通するという点で入道遺跡出土土器はやや趣を異にする。口縁の一部しか確認できないが、観察できるものは結果として貫通したというよりは、最初から貫通させる意図があったようにみえる。このような特徴が、時期差か地域差かは今後の検討課題である。また、条痕文土器は、非常に器壁が薄いという特徴を持っている。

出土石器では、石鏃の比率が高く、狩猟時の拠点であったことを示唆している。剥片類が多く出土していることから、この場所で石鏃などを製作していたことが考えられる。石鏃は、押型文土器に伴うことが多い鍬形鏃を除けば、小型のものが多くという特徴があり、特に二等辺三角形で平基式のものに顕著にみられる。また、局部磨製石鏃も少量あり、早期前葉の特徴をもつものが多くと考えられ、この時期の石器の特徴を知る上で貴重な資料である。

遺跡の性格としては、尾根先端部のごく狭い平坦地であるという立地や石器組成などからみて、狩猟を行う際の一時的な野営地であることが推定される。嘉瀬川ダム事業に伴う発掘調査では、縄文時代早期の拠点的な集落は発見されておらず、この地区にやってきて、狩猟を行った人々がどこから来たのかは興味深い問題である。

第4章 参考・引用文献

- 嘉瀬川ダム建設に伴う学術調査委員会（2000）『嘉瀬川ダム建設に伴う学術調査報告書一佐賀県佐賀郡富士町一』 富士町教育委員会
 佐賀県教育委員会（1992）『吉野ヶ里』佐賀県文化財調査報告書第113集
 佐賀県教育委員会（2002）『今町共同山遺跡』『柚比遺跡群2』佐賀県文化財調査報告書第150集
 佐賀県教育委員会（2009）『西畑瀬遺跡2・大串遺跡』佐賀県文化財調査報告書第180集
 福岡市教育委員会（2003）『大原D遺跡群4』福岡市埋蔵文化財調査報告書第741集

第 5 章 九郎遺跡 1 ～ 3 区

第 5 章 九郎遺跡 1～3 区

1 九郎遺跡 1～3 区の概要

九郎遺跡は、佐賀県佐賀市富士町大字栗並字九郎に所在する（図 52）。

九郎地区は、嘉瀬川の支流である神水川右岸に位置し、神水川に流れ込む大串川・栗並川に挟まれた丘陵の裾部に集落が、その周辺の斜面地から河岸段丘上にかけて耕地が展開していた。栗並の地名は、天文 18（1549）年に杠主馬允にあてた「千葉胤連知行安堵状」（杠家文書）に「肥前国小城郡栗並山之内両門之事」とあるのが初見であり、山内を代表する戦国武将である神代勝利の有力家臣に「栗並伊賀守」の名がみえる。藩政期には小城鍋島家（小城支藩）領の山内郷に属しており、大野代官所の支配下にあった。

九郎遺跡は、標高約 360 m を頂点とする丘陵上から谷部にかけて立地しており、縄文時代・中世の集落跡として周知されている。丘陵西側には大串川が北流し、丘陵に沿うように東に屈曲して神水川に合流しており、丘陵東側には栗並川が北流し、神水川に合流している。丘陵のいたる所に小規模な開析谷が入り込んでおり、非常に入り組んだ地形を形成している。遺跡の東側に地蔵平遺跡、北西側に大串遺跡がそれぞれ神水川、大串川を挟んで隣接しており、栗並川を挟んだ東側の山塊には宮ノ馬場出城跡が所在している。

九郎遺跡では、嘉瀬川ダム建設事業に伴い 1～3 区の発掘調査を実施し、縄文時代の集落跡・遺物包含層、中世～近世の集落跡などを確認している。平成 7 年度に当時の富士町教育委員会が調査をした範囲は、佐賀県教育委員会の調査区（1B 区）に挟まれており、一連の遺跡であることから、1A 区として本書で報告する。

1 区は、遺跡東部にあたる神水川右岸の小規模な河岸段丘上（標高約 285～287 m）に位置し、西側には山裾が迫っている。調査区北端と中央部に開析谷が入り込んでいるため、1A・B 区と 1C 区は立地する段丘が異なっている。1 区では、主に縄文時代早期～前期の遺構・遺物が多数確認され、中世～近世の遺物も少量出土した。なお、1B 区南部の開析谷の部分には、遺構や遺物包含層などは確認されなかった。

1A 区で確認された縄文時代の遺構は集石遺構・土坑で、遺物包含層から縄文時代前期前半の遺物が比較的まとまって出土した。1B 区の縄文時代では、集石遺構が検出され、遺物包含層から早期中葉～前期前半・中期前葉の遺物が出土した。1A・1B 区とも安定した堆積層を確認できるが、層位的に時期を細分することはできなかった。1C 区では、縄文時代の集石遺構を確認し、主に早期中葉～後葉の遺物が出土した。1 区の出土土器は、早期中葉の押型文土器、早期後葉の塞ノ神 B 式系土器、前期前半の轟 B 式系土器が主体を占め、他に早期後葉の塞ノ神 A 式系土器、中期前葉の船元式系土器などがある。石器は、石鏃が非常に多く、石匙・削器も多数出土していることから、狩猟基地であったことが考えられる。

2 区は、遺跡南東部にあたる栗並川が形成する小規模な河岸段丘上（標高 285～292 m）に位置しており、栗並川をさかのぼると、栗並本村に至る。調査の結果、近世の遺構を検出し、縄文時代～近世の遺物が出土した。

3 区は、遺跡北西部にあたる大串川に面した標高 298～301 m の緩斜面上に位置する集落・水田一帯で、大串川を挟んだ西側には中世後期の屋敷地が確認された大串遺跡 1 区が所在している。3 区では、中世～近世の集落跡を確認し、縄文時代・中世～近世の遺物が出土した。縄文時代の遺構や遺物包含層は確認できなかったが、石鏃を中心に多数の石器が出土しており、周辺に遺跡の存在をうかがわせる。中世前期の遺構は、掘立柱建物・鍛冶関連遺構・土坑墓などがあり、掘立柱建物や鍛冶工房と考えられる竪穴遺構などの鍛冶関連遺構は調査区東部、中国磁器 6 点を副葬した土坑墓は西部に分布している。近世の遺構は、土坑・石列・護岸状遺構・溝などがあり、集落縁辺部の土地開発や水田・畑経営に伴うものが多い。

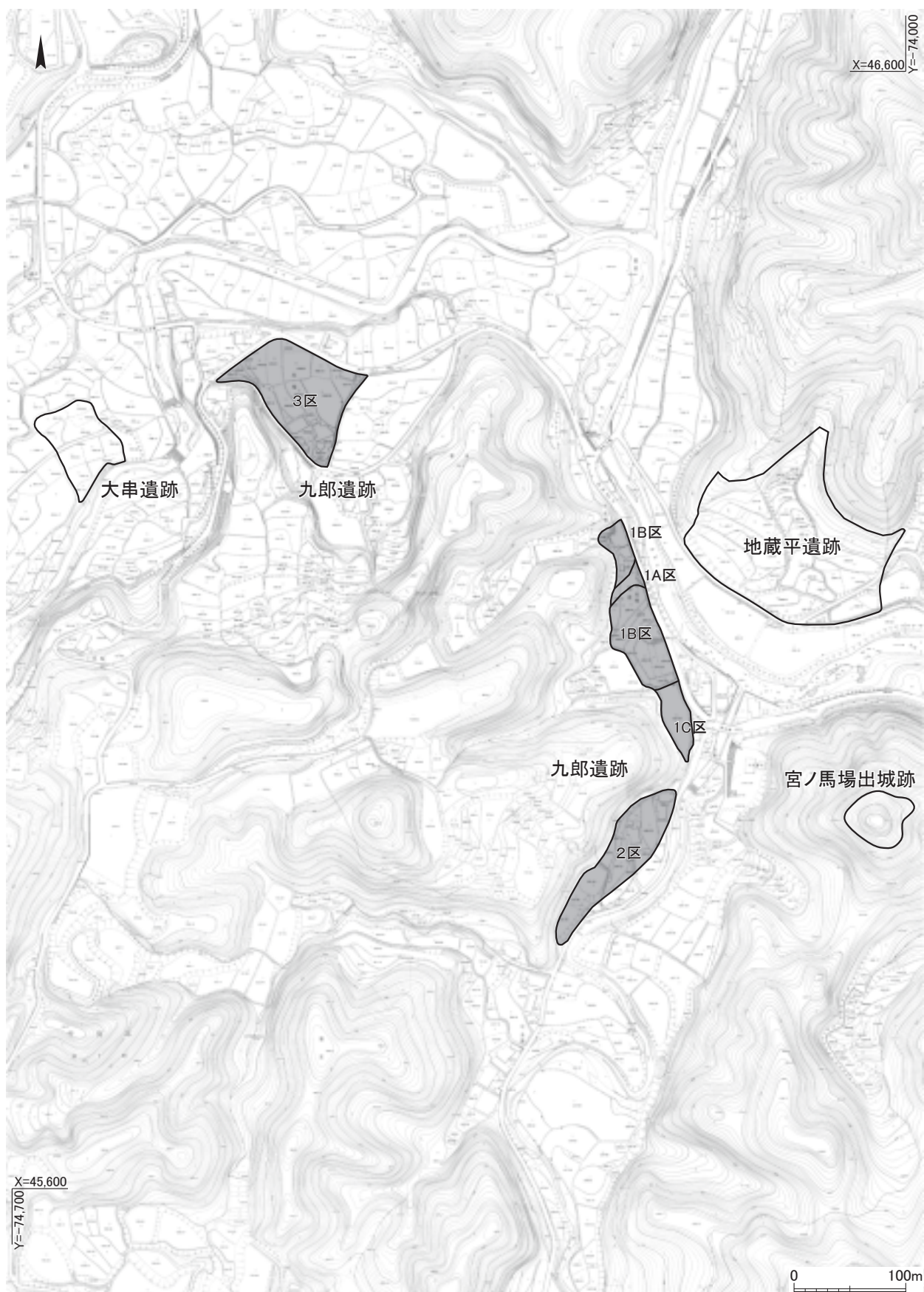


図 52 九郎遺跡周辺の地形 (1/5,000)



図 53 九郎遺跡 1・2区の位置 (1/2,000)

2 1 区の遺構と遺物

1) 1 区の概要

1 区は、神水川右岸の河岸段丘上に位置する（図 53）。1 区の調査については、開析谷を挟んで異なる小規模な河岸段丘上に位置する 1A・1B 区と 1C 区に小地区を分けており、それぞれ調査年度や調査主体が異なるため、別々に報告する。なお、1B 区は 1A 区を挟んで南北に分かれており、非常に狭い調査区である北側の部分を 1B 北区と呼ぶことにするが、出土遺物に大きな差異がないことなどから、遺物の出土位置などについては区分していない。また、1B 区のうち、開析谷にあたる南部については、試掘坑を設定して掘り下げたが、遺物包含層などは確認できなかった。

調査の結果、縄文時代の遺構、遺物包含層を確認し、中世～近世の遺物も少量ながら出土した。縄文時代の遺構としては、集石遺構と土坑があり、遺物包含層から縄文時代早期～中期の土器・石器などが出土しており、早期中葉～前期前半のものが主体を占める。

1A・1B 区は標高約 256 m の同じ河岸段丘上にあり、1A 区の 7 層と 1B 区の 6 層が同一層とみられ、安定した堆積層が河床礫を多く含む層の上位に広がっている。この層位が縄文時代の主たる遺物包含層であり、遺構もほとんどがこの層中から検出され、早期～前期の遺物が出土しているが、層位的に時期を区分できるほど堆積は厚くない。平面分布でも、各時期の遺物が調査区内で重複しながら分布しており、時期ごとに遺物群を明確に分離できる状況ではない。ただ、1A 区では前期前半の轟 B 式土器の比率が高く、比較的まとまった資料といえる。

1C 区は標高約 287 m の河岸段丘上に位置している。縄文時代の遺物包含層がほぼ全域にわたって確認されるが、堆積環境の変化が繰り返し起こっているようで、やや安定性に欠ける。早期～前期の遺物が出土しており、早期中葉～後葉のものが主体を占める。なお、1B・1C 区では遺物包含層中に喜界アカホヤテフラが確認できるが、これを鍵として層位的に時期を区分することはできなかった。

出土した縄文土器については、説明の都合上、以下の 10 類に分類して報告する。

1 類：押型文土器

2 類：平楕式系

3 類：塞ノ神 A 式系

4 類：塞ノ神 B 式系

5 類：轟 A 式系

6 類：轟 B 式系

7 類：曾畑式系

8 類：船元式系

9 類：無文土器

10 類：数が少なく、型式的位置付けも不明なもの。

10A 類：条痕地に撚糸文が施されたもの

10B 類：撚糸文と思われる文様が施されたもの

10C 類：条痕文（轟式系とは異なるとされるもの）

10D 類：貝殻文

10E 類：内外面に縄文が施されたもの

10F 類：口縁外面に粘土紐を利用したと思われる段が付くもの

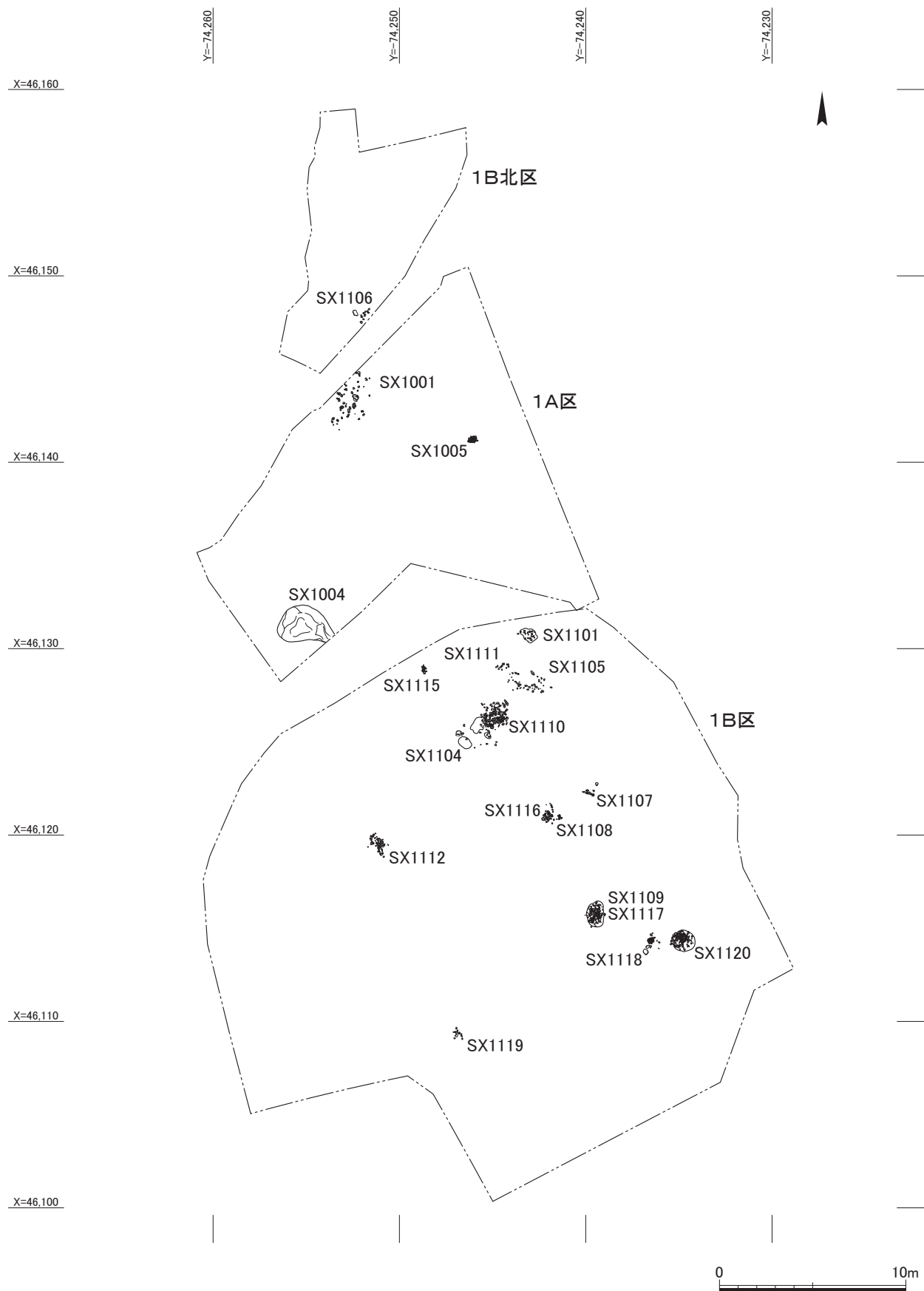


図 54 1A・B 区縄文時代遺構の分布 (1/300)

2) 1A区縄文時代の遺構と遺物

1A区では、縄文時代の遺構として集石遺構と土坑を検出し、遺物包含層から縄文時代前期前半を主体とする遺物が出土した。堆積状況を見ると（図56）、記録として残されていないが、写真や1B区との対比などから6層がある時期の表土層である可能性が高いものと思われる。5層からはほとんど遺物が出土していないため、正確な時期は不明であるが、土砂崩れなどで短時間に堆積した層位と考えられ、5層上面が現代の水田面である。縄文時代の遺物は6層以下から出土しており、9層上位までが遺物包含層と認められる。隣接する1B区とは、5層が1B区の3層、7層が1B区の6層、8・9層が1B区の7層に対応するものとみられる。

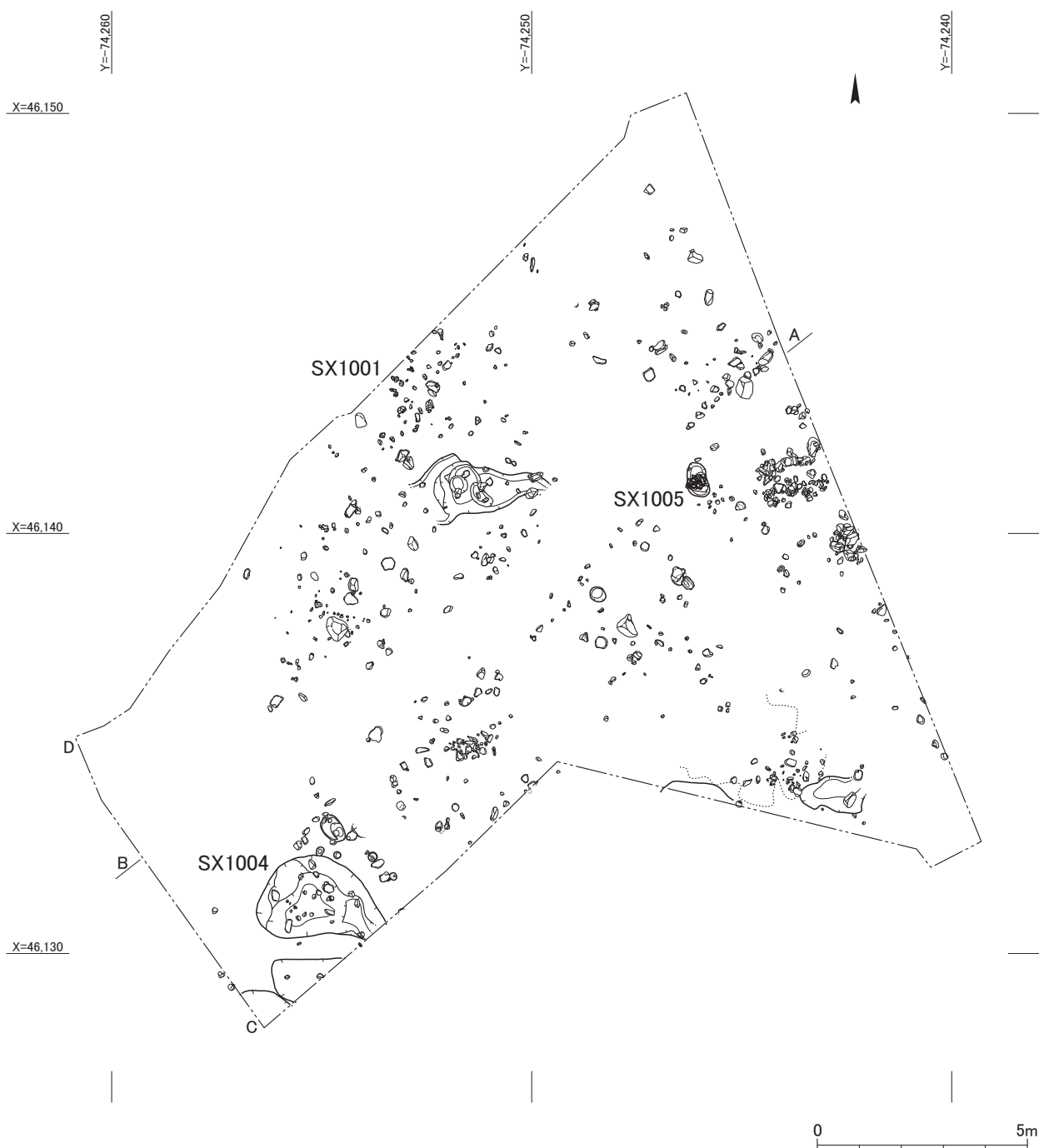


図55 1A区縄文時代遺構の分布 (1/150)

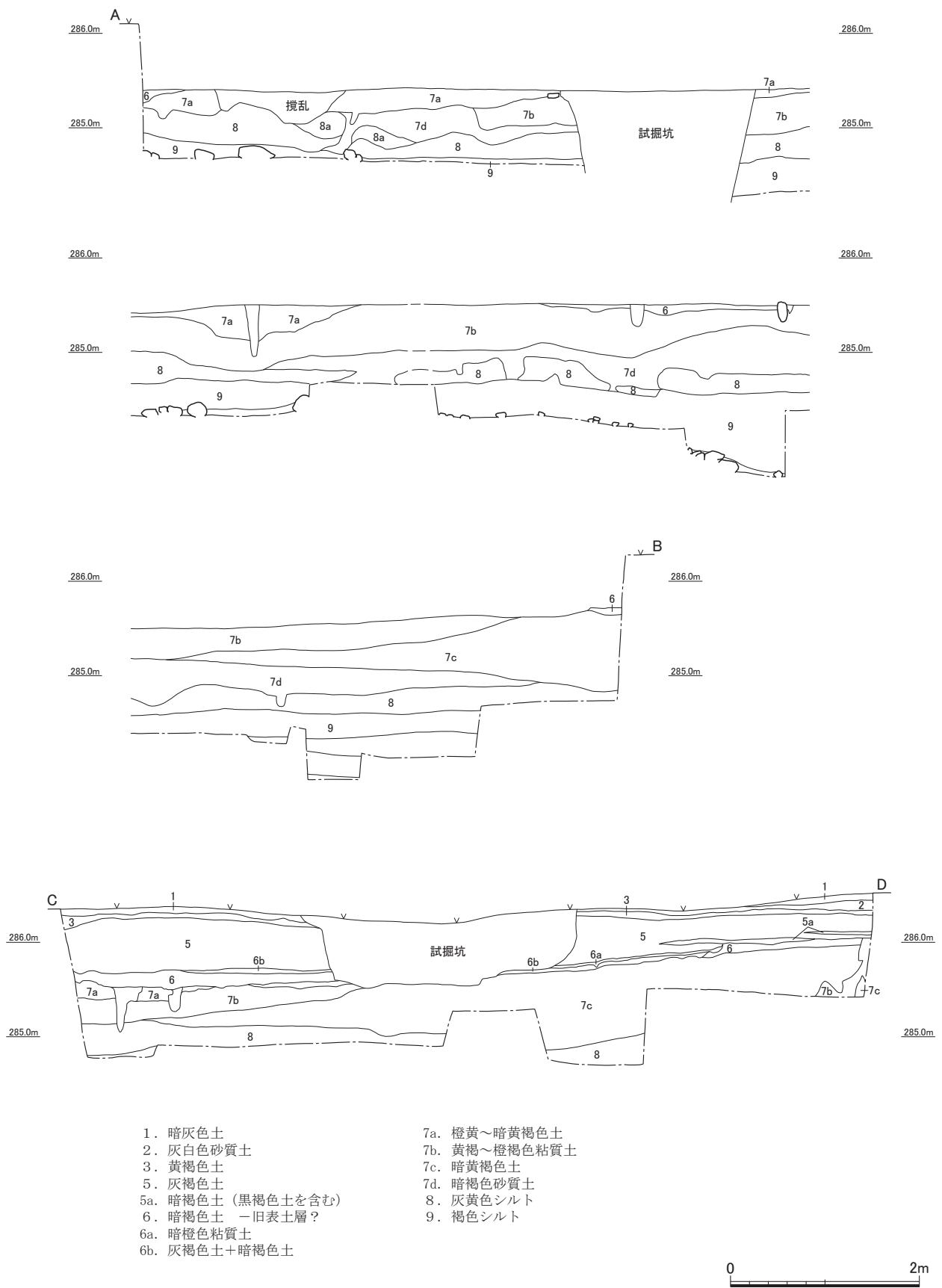


図 56 1A 区の土層 (1/60)

遺構について、遺構番号が判明するものは、集石遺構がSX1001・1005、土坑がSX1004である。遺構配置図をみると、2基以外にも集石遺構と認められる礫の集中がみられるが、図面・写真等の記録類がないため、発掘現場で遺構として認定していたかどうか不明である。本来ならば、これらについて検討して報告すべきであるが、整理期間の都合上、省略した。検出された遺構は、標高から7層中で確認されたもので、1A区でもっとも出土量の多い縄文時代前期前半のものと考えてるのが妥当であろう。

出土土器には、早期中葉の押型文土器、早期後葉～末の塞ノ神A式・塞ノ神B式・轟A式系土器、前期前半の轟B式系土器があるが、主体となるのは轟B式のうち「屈曲形」のものである。

遺構

ここでは、集石遺構2基と土坑1基を報告する。

SX1001 (図 57)

1A区北西部に位置する集石遺構である。長軸3.3 m、短軸1.8 mの範囲に礫が広がり、下部に掘り込み等は確認できなかった。

総礫数36点、総重量21,938.7 g、平均重量609.4 gである。礫の破損状態は、完形礫16点、破損礫20点で、破損率は55.6%である。礫の赤化状態は、赤化完形礫6点、割れ面赤化礫15点、割れ面非赤化礫15点で、28点に黒色付着物がみられる。礫の形状は約75%が角礫で、石質は花崗岩類が26点、非花崗岩類が10点である。礫の接合例はない。集石遺構内から縄文土器(64)が出土した。

SX1005 (図 57)

1A区東部に位置する集石遺構である。長軸0.5 m、短軸0.4 mの範囲に礫が集中する。図面を合成すると、下部に小規模な土坑が検出されていることになるが、集石との関連は不明である。

総礫数33点、総重量14,873.4 g、平均重量450.7 gである。礫の破損状態は、完形礫4点、破損礫27点で、破損率は87.1%である。礫の赤化状態は、赤化完形礫2点、割れ面赤化礫27点、割れ面非赤化礫2点で、29点に黒色付着物がみられる。礫の形状は大部分が角礫で、石質はすべて花崗岩類である。礫の接合例はない。

SX1004 (図 57)

1A区南部に位置する土坑である。長軸2.8 m、短軸1.9 m、深さ0.95 mで、平面は楕円形を基調とするが、一部調査区外に広がっている。縄文時代の土器・石器が多数出土しているが、出土位置などの詳細な分析は行っていない。

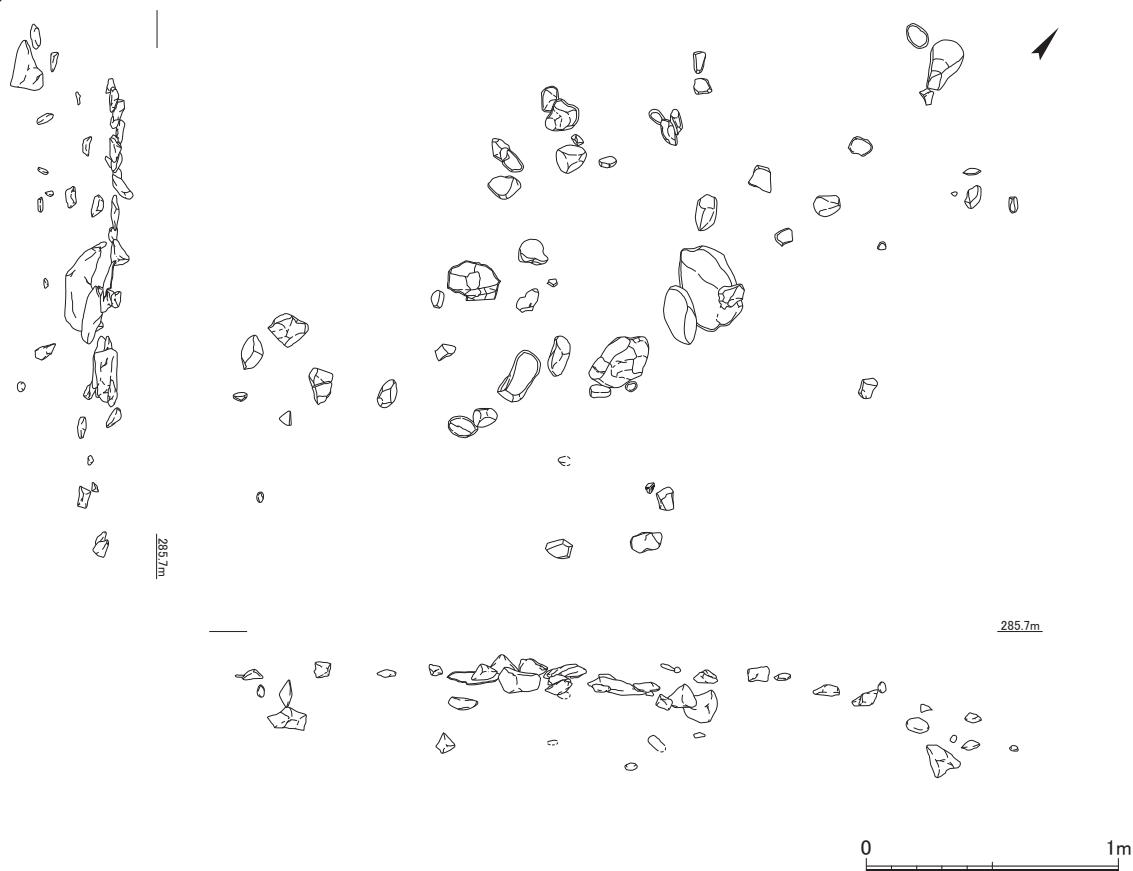
遺物

1A区では、縄文時代の遺物包含層から出土した遺物について、集石遺構の可能性がある礫石を含め約4,200点の出土位置を3次元で記録して取り上げた。内容は、土器と石器が大部分を占める。

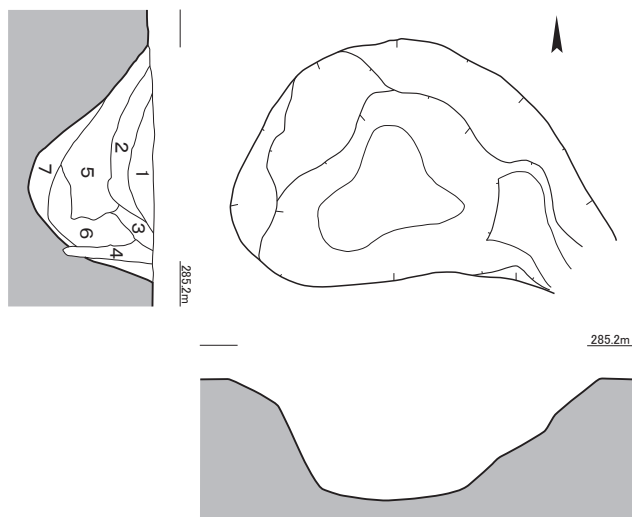
土器 (図 58・59)

1A区からは、1・3～6・9・10類土器が出土したが、6類とした轟B式系のうち「屈曲形」のものが主体を占める。調査区北西部とSX1004周辺に遺物集中部が認められる。

SX1001
(S=1/30)



SX1004
(S=1/60)



1. 黄褐色土 ー7b層
2. 黄褐色土 (1よりやや暗い)
3. 暗～黒黄褐色土 (黄褐色粘質土を含む)
4. 攪乱
5. 暗褐色土 (黄褐色粘質土を含む)
6. 黄褐色土
7. 暗褐色砂質土

SX1005
(S=1/20)

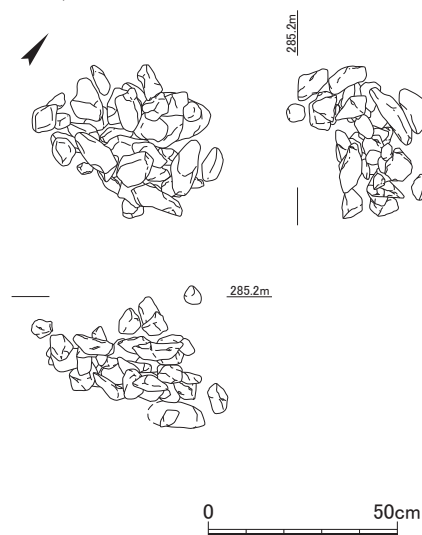


図 57 1A 区縄文時代の遺構 (1/20・1/30・1/60)

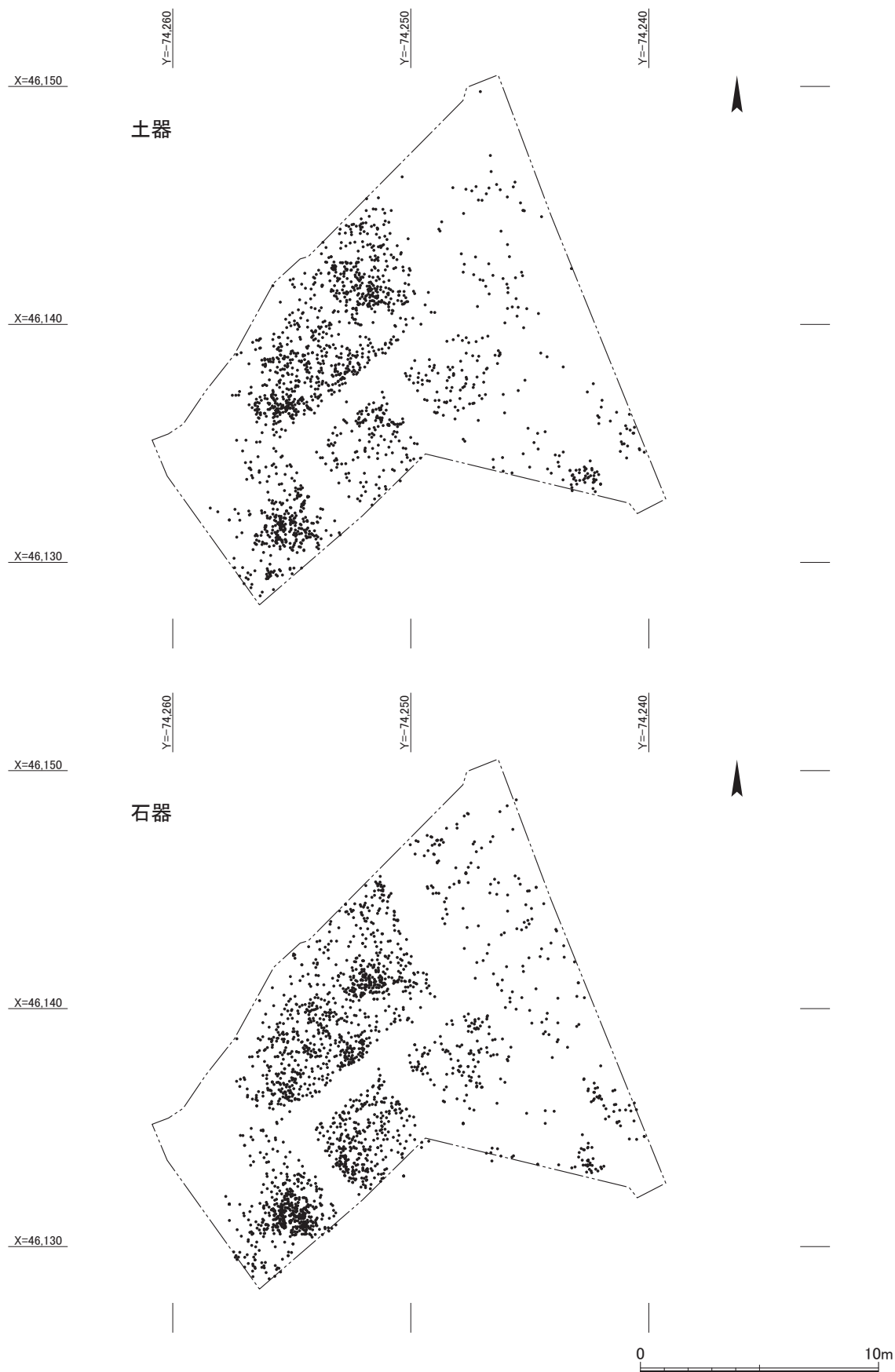


図 58 1A 区縄文時代遺物の平面分布 (1/250)

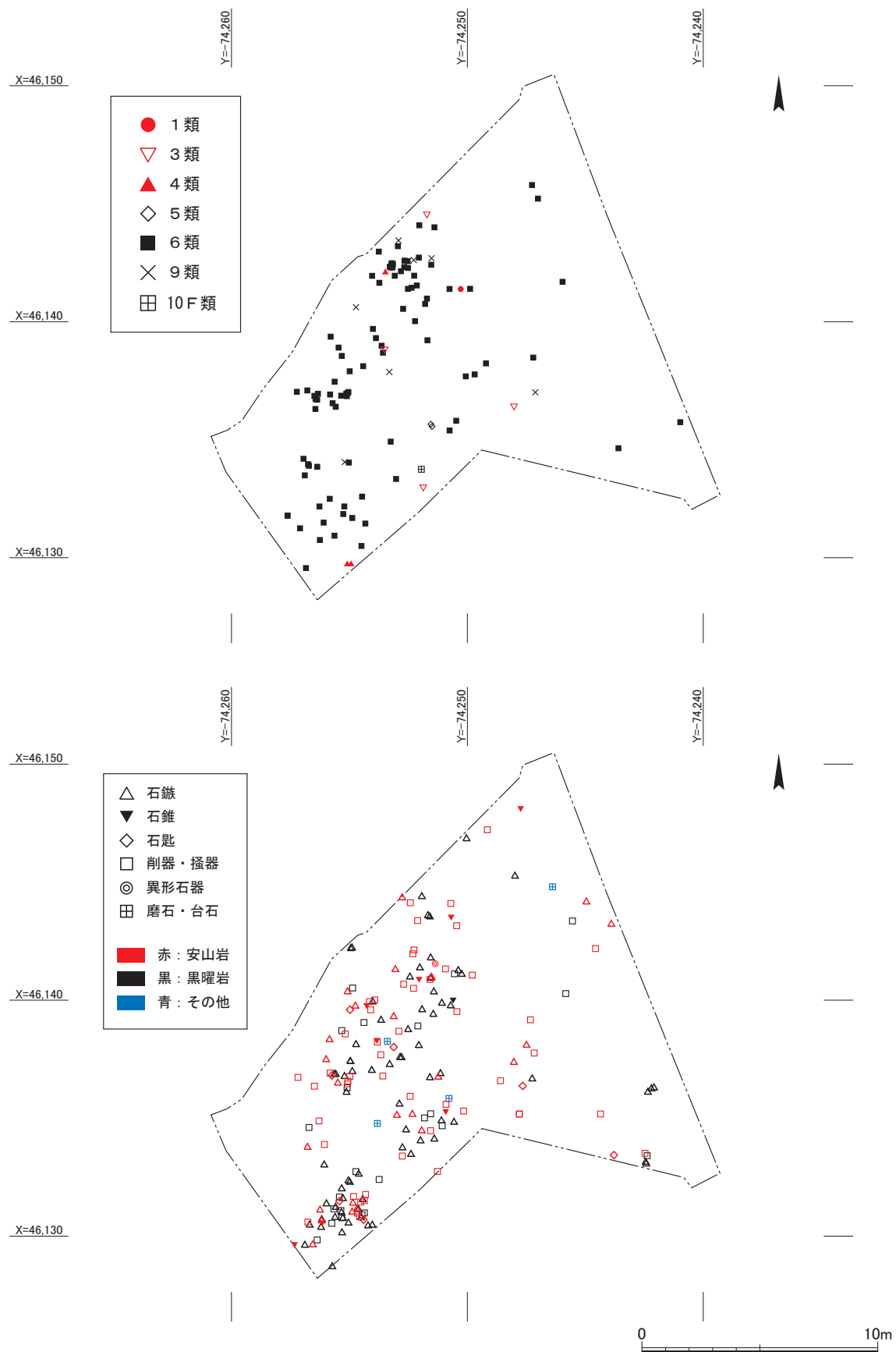


図 59 1A 区縄文時代土器・定形石器の平面分布 (1/250)

1 類土器 (図 60)

1 は、粗大な楕円押型文が斜位に施され、内面の器面調整はナデである。

3 類土器 (図 60)

2～5 は塞ノ神 A 式系の 3 類で、2・4 は網目撚糸文、3 は沈線文、5 は撚糸文が縦位方向に施される。2 は更に、横位の沈線文を施文している。器面調整はいずれもナデである。3・5 は 1B 区出土土器と接合している。

4 類土器 (図 60)

6・7 は器壁の厚さや器面調整などから、塞ノ神 B 式系の 4 類とした。6 の外面には沈線文と思われる文様が施されているようで、器面調整は 6・7 とともにナデである。

5 類土器 (図 60)

8・9 は轟 A 式系の 5 類で、同一個体と思われる。外面に 8 は縦位、9 は縦位と斜位方向の条痕文が施される。

6 類土器 (図 60～63)

10～64 は轟 B 式系の 6 類で、「屈曲形」がその大多数を占める。器面調整はほとんどのものが条痕である。

10～15 は押引文が施される一群で、10～12・14 には刻目をもつ縦位の突帯が付く。10・11 は同一個体であろう。15 は横位の押引文の間に沈線文が施される。16～30 は沈線文が施される一群である。16～18 は口縁外面に細い沈線文が施される。19・20 は円弧状の突帯をもち、21 は円弧状に沈線文を施す。22～24 は胴部外面に斜位あるいは横位の沈線文が施される。25・26 は連続刺突文の間に縦位の突帯をもつ。27～30 は連続刺突文あるいは刻目をもつ突帯と縦位方向の沈線文を組み合わせた文様をもつ。31・32 は沈線状に細かい連続刺突文を施すもので、32 には円形浮文が付く。33～44 は連続刺突文を主たる文様とする一群である。38～40・44 には円形浮文が付き、41～44 は縦位の突帯をもつ。35・37・39・40 は器面調整がナデである。45 は把手で、連続刺突文が施される。46～57 は突帯文のみが付くか、条痕地以外に文様をもたない一群である。46・47 は縦位の、49・50 は円弧状の、51 は波状の突帯が付く。48 は外面条痕のちナデ、内面は条痕で、文様を意識している可能性がある。52～54・57 には文様がみられない。55・56 は同一個体と思われ、円弧状の突帯が付き、外面下位の器面調整は不明である。58・59 は底部に近い胴部下位で、文様はみられない。60・61 は粗製の深鉢とすべきものであるか、あるいは 6 群に含まれないものかもしれない。61 には補修孔と思われる穿孔がある。62 は平面方形で、鉢になる可能性がある。外面に突帯文をもち、外面の一部に赤色顔料が付着している。63・64 は鉢で、突帯が付き、外面には煤が付着している。63 は口縁部の器面調整がナデである。64 は SX1001 出土である。65 はミミズバレ状の突帯が 3 条巡る「単純形」のものである。

9 類土器 (図 63)

66～71 は無文の 9 類で、器面調整はナデである。66 は鉢で、口縁外面に突出部を作り出している。71 は 1B 区出土土器と接合している。

10 類土器 (図 63)

72 は 10F 類で、口縁外面に粘土紐を利用したと思われる段を形成している。器面調整は外面がナデ、内面が条痕である。



図 60 1A 区出土縄文時代の土器 1 (1/3)



図 61 1A 区出土縄文時代の土器 2 (1/3)

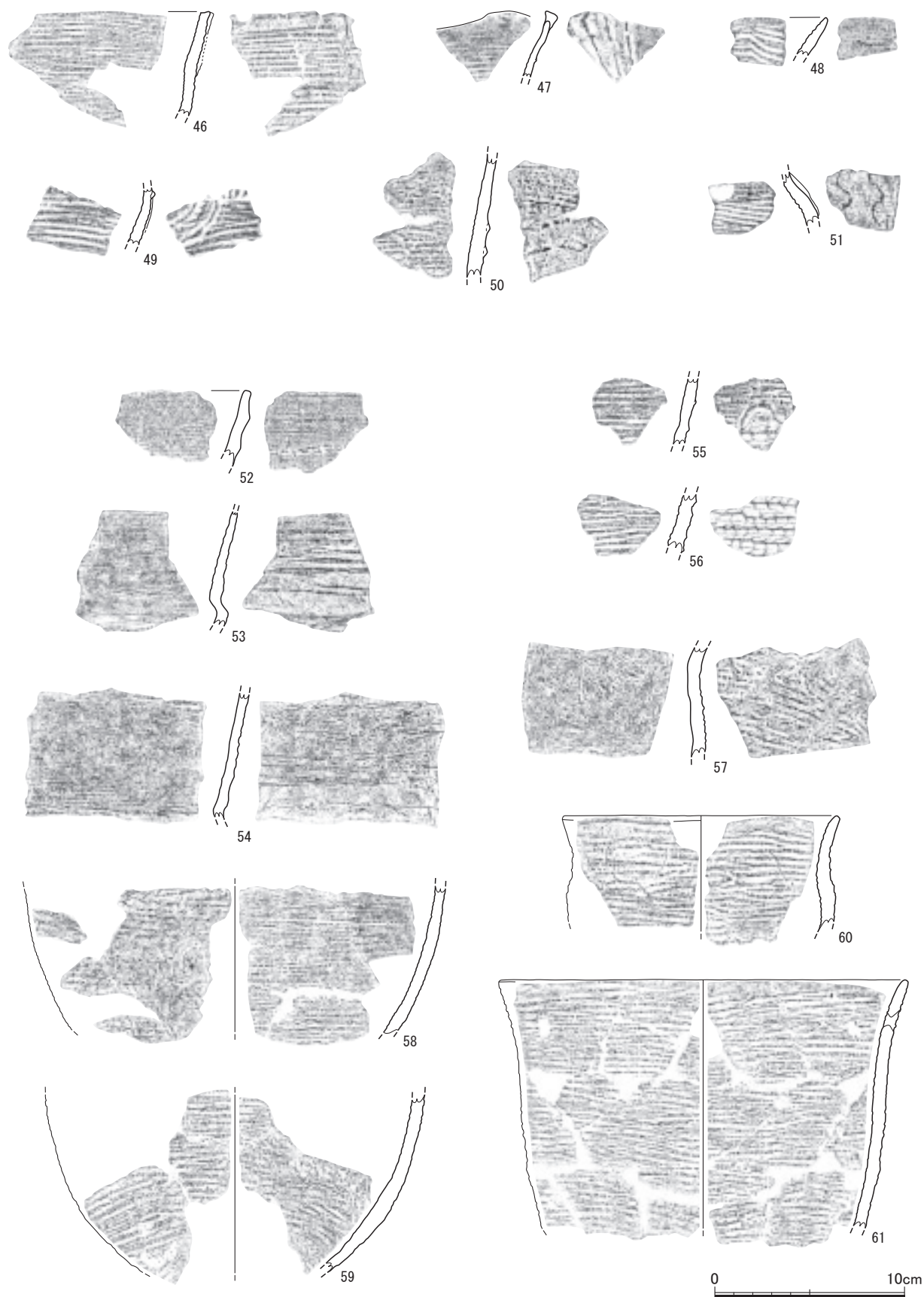


図 62 1A 区出土縄文時代の土器 3 (1/3)



図 63 1A 区出土縄文時代の土器 4 (1/3)

石器 (図 58・59)

1A 区から出土した石器は、2,178 点の出土位置を 3 次元で計測して取り上げたが、このうち剥片石器とその石核・剥片が 2,173 点とほとんどを占め、礫石器は 5 点と非常に少ない。土器からみて、前期前半を主体とするものと考えられる。

剥片石器類を器種・石材別にみると、石鏃が 97 点（うち黒曜岩 73 点、無斑晶質安山岩 24 点）、石錐が 9 点（うち黒曜岩 1 点、無斑晶質安山岩 8 点）、石匙が 7 点（無斑晶質安山岩）、削器・搔器が 75 点（うち黒曜岩 23 点、無斑晶質安山岩 52 点）、異形石器が 1 点（無斑晶質安山岩）、細石刃と思われるものが 1 点（黒曜岩）である。このほか、二次加工剥片・微細剥離痕ある剥片が 42 点（うち黒曜岩 31 点、無斑晶質安山岩 11 点）、剥片が 1,921 点（うち黒曜岩 1,469 点、無斑晶質安山岩 452 点）、石核が 20 点（うち黒曜岩 16 点、無斑晶質安山岩 4 点）であり、剥片石器類の約 9 割は剥片・石核類である。剥片石器に用いられた石材は黒曜岩が約 3/4 を占め、無斑晶質安山岩が約 1/4 である。

礫石器は、磨石 4 点、敲石 1 点である。

打製石器 (図 64～68)

73～131 は石鏃である。73～123 は平面の形状がおおよそ直線的な側縁の二等辺三角形、基部が凹基のもので、長さは 2.0～2.5cm のものが多い。ややいびつな形状のもの、正三角形にちかいもの、側縁がやや内湾するもの、五角形に近いものなどもみられる。調整は丁寧なものが多いが、119 は自然面、120 は素材面を残している。124 は石槍状の形状で、サイズから石鏃とした。125～129 は鍬形鏃で、脚部の形状はさまざまであるが、挟りの深いものが多い。130 は基部が平基のもの、131 は石鏃先端である。132～134 は石鏃の未製品とみられる。

135 は無斑晶質安山岩製の異形石器で、両面に自然面をわずかに残しており、調整剥離はやや雑である。136 は細石刃と思われ、微細剥離痕がみられる。

137～141 は石錐である。137 は両面剥離が施されているが、縁部にのみ調整加工を施して錐部を作り出しているものがほとんどで、大きさはさまざまである。

142・143 は縦型、144・145 は横型の石匙で、刃部は主に片面から調整加工を施して作出しており、つまみの作り出しは丁寧なものから粗雑なものまでである。

146～155 は無斑晶質安山岩の大小の剥片を用いて刃部にのみ調整を施した削器で、調整剥離の程度はさまざまである。156 は黒曜岩の縦長剥片を利用した削器で、刃部の調整は粗雑である。157 は削器としたが、石鏃未製品の可能性がある。

158～160 は黒曜岩製の微細剥離痕がみられる剥片である。161～163 は黒曜岩製、164 は無斑晶質安山岩製の石核である。

礫石器 (図 68)

165 は磨石で、両面に使用によるものと思われる磨滅痕がみられ、岩石鑑定は行っていないが、玄武岩質である。166 は敲打痕が側面の一部にみられ、敲石であろう。

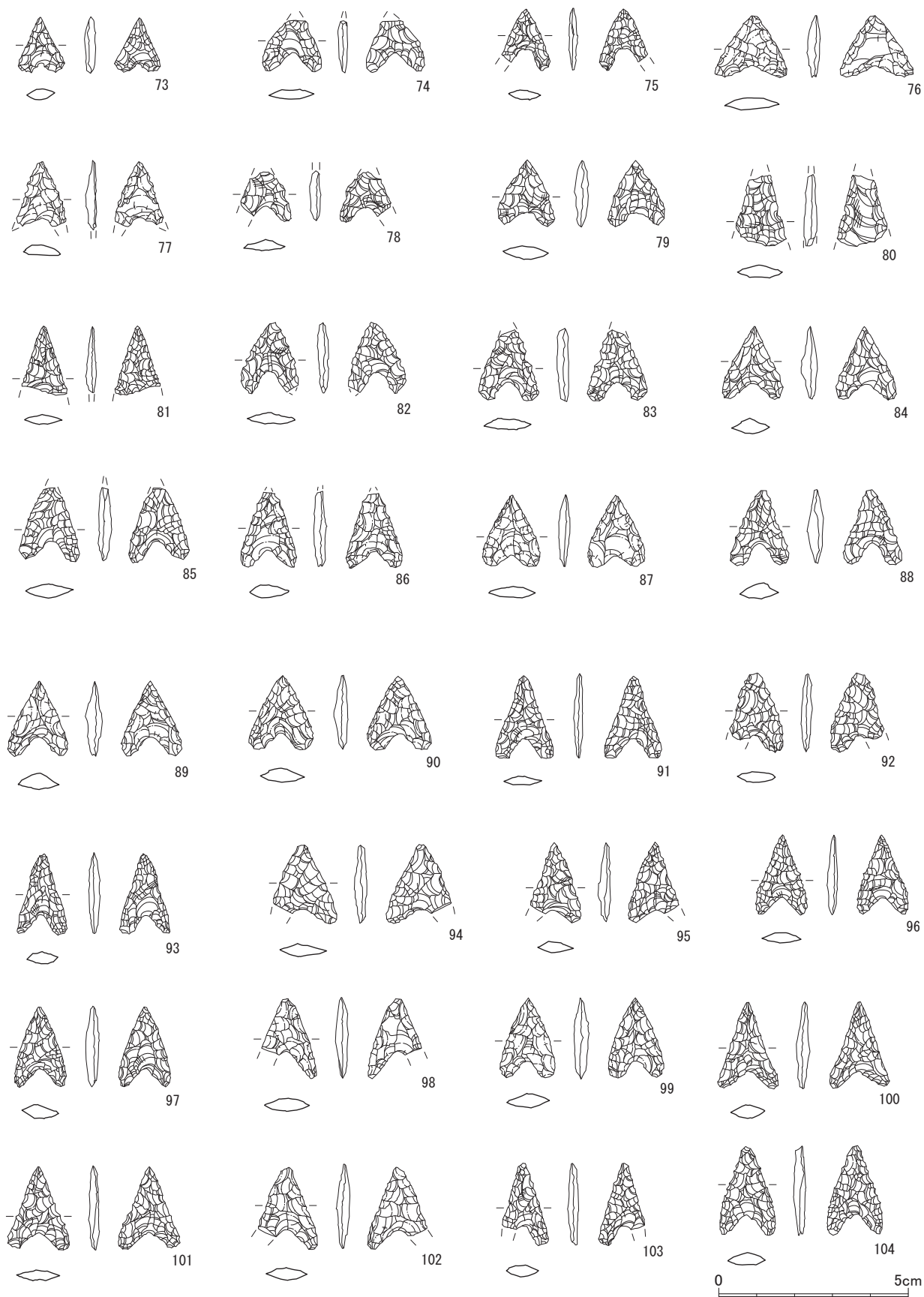


図 64 1A 区出土縄文時代の石器 1 (2/3)

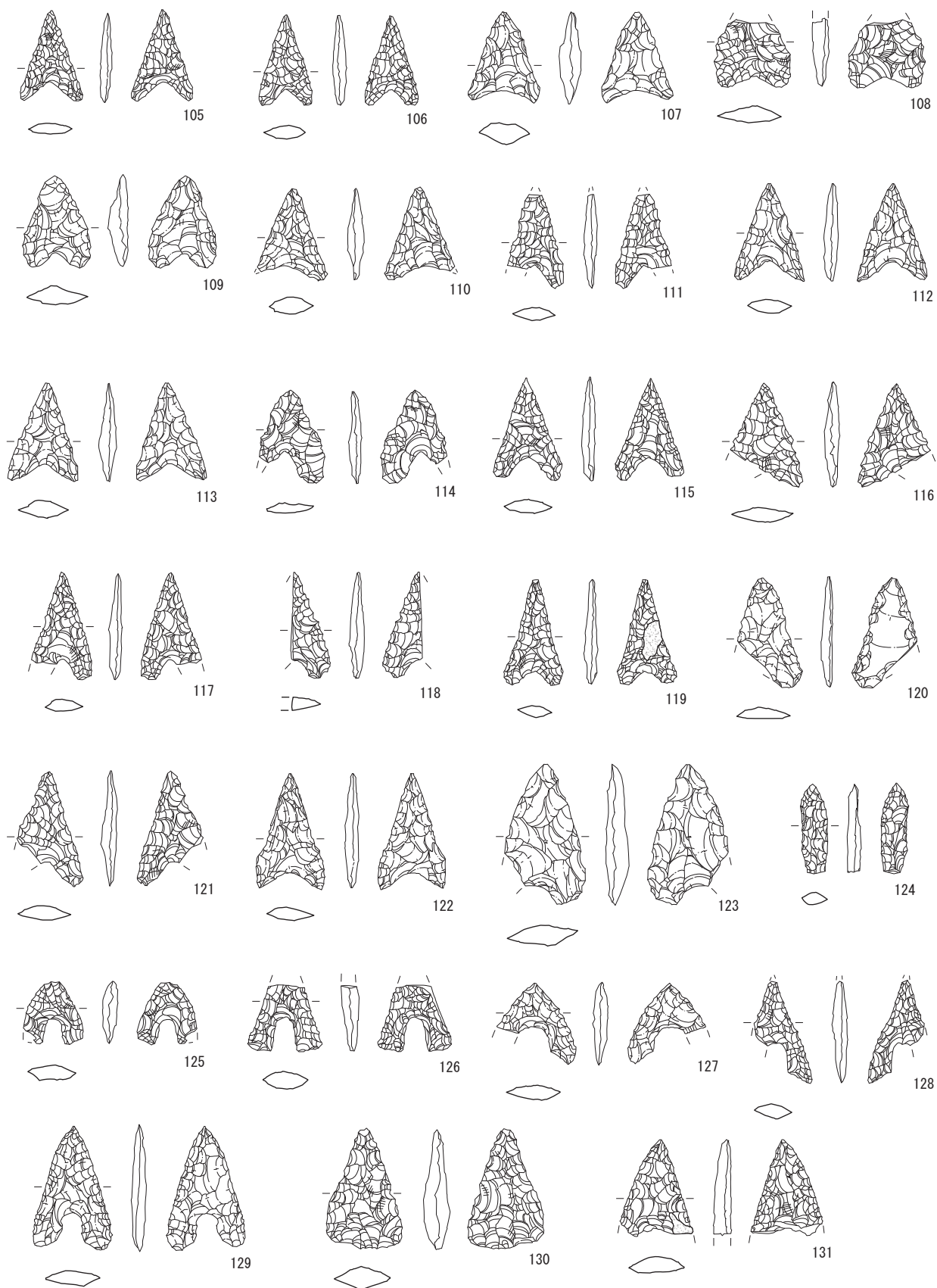


図 65 1A 区出土縄文時代の石器 2 (2/3)

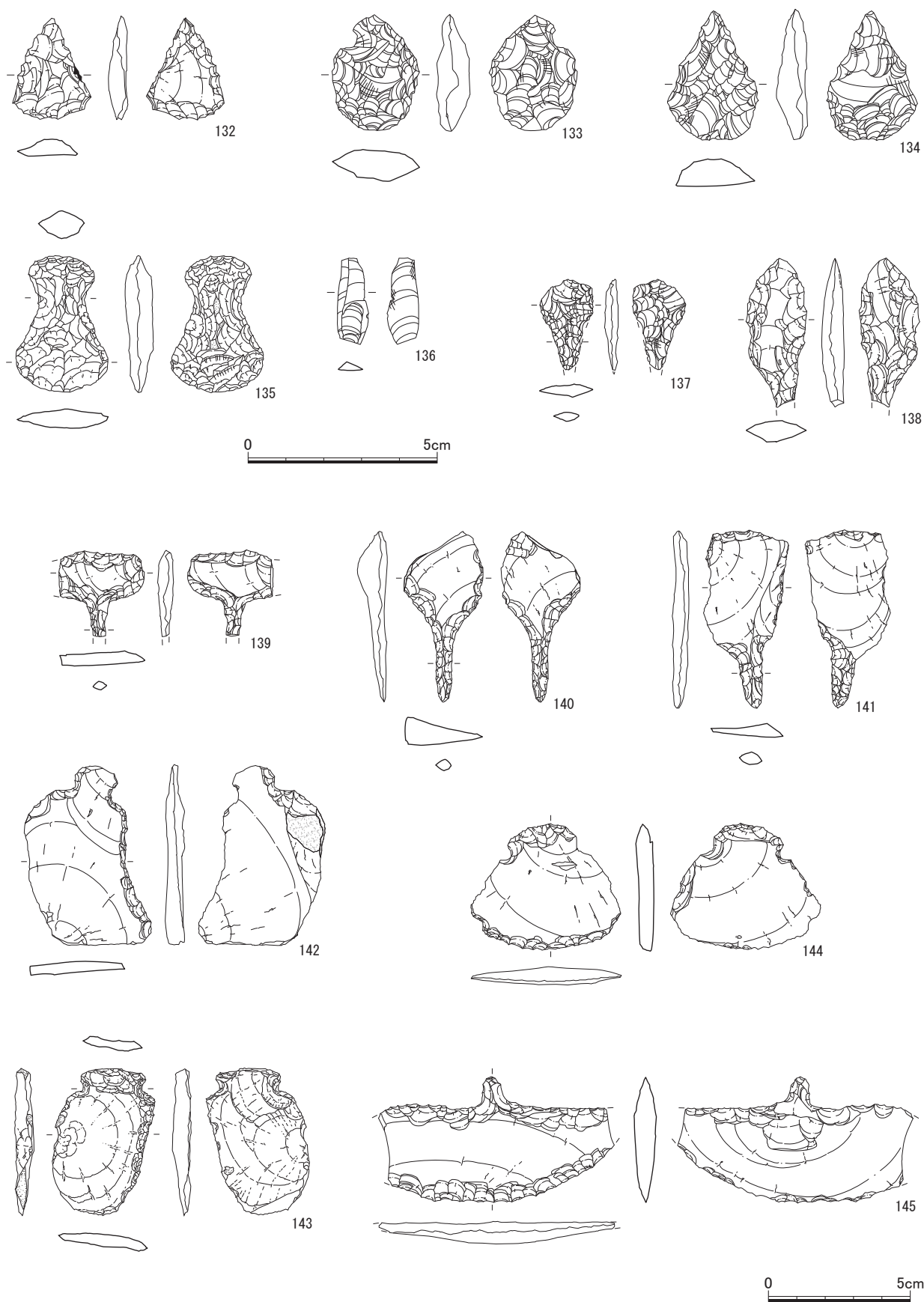


図 66 1A 区出土縄文時代の石器 3 (132 ~ 136 は 2/3、137 ~ 145 は 1/2)

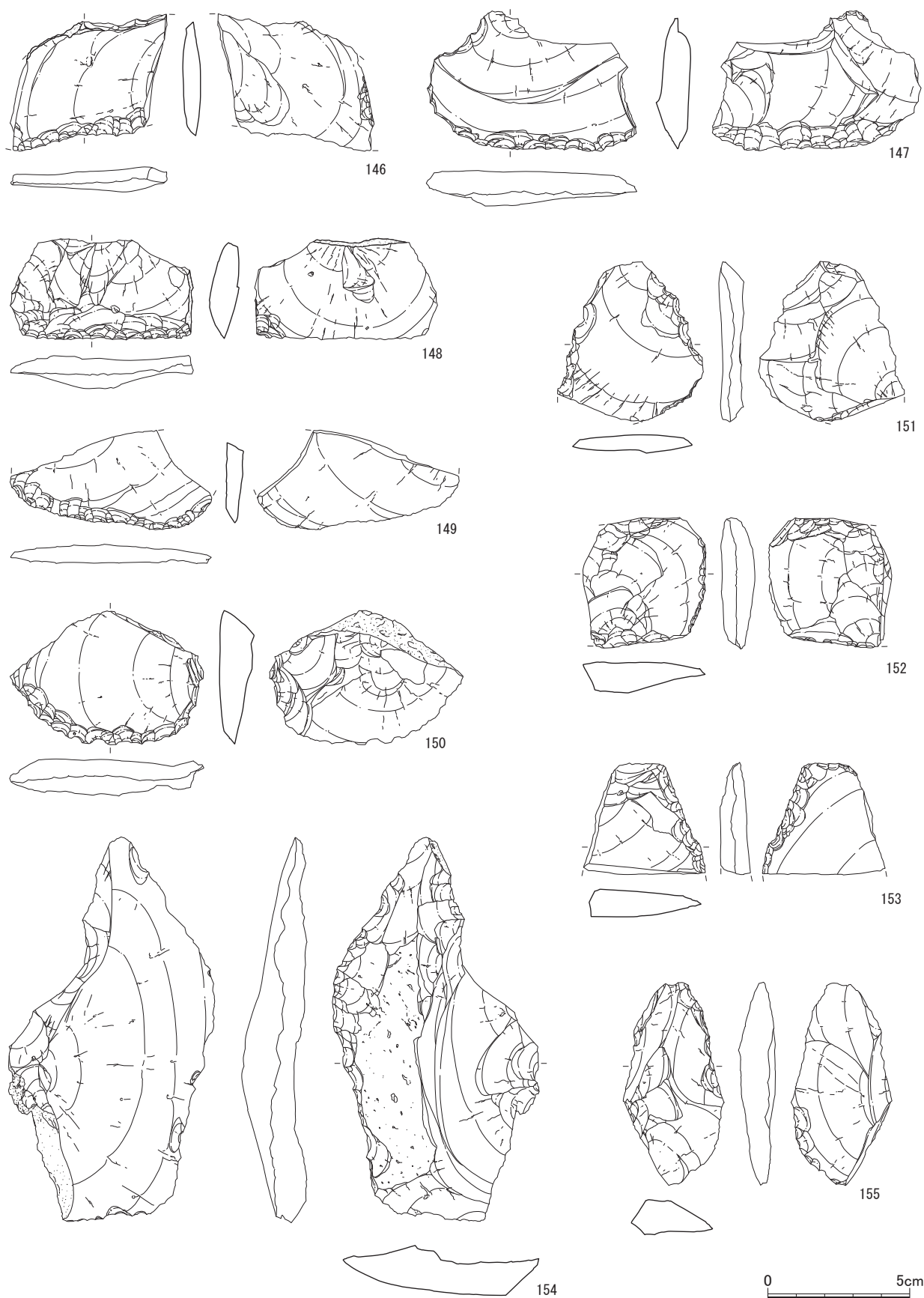


図 67 1A 区出土縄文時代の石器 4 (1/2)

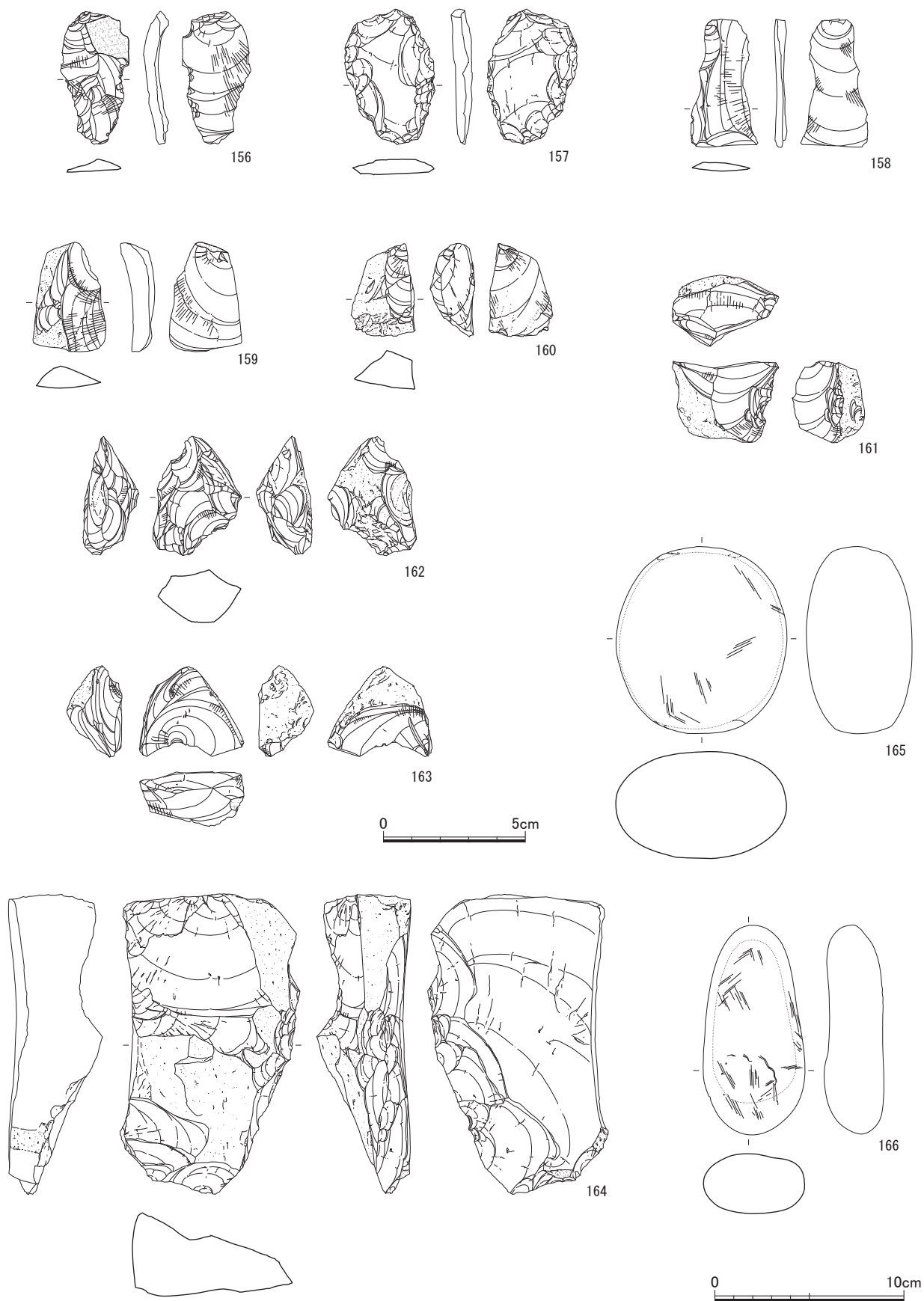


図 68 1A 区出土縄文時代の石器 5 (156～163 は 1/2、164～166 は 1/3)

表 7 九郎遺跡 1A 区縄文時代の出土土器

挿図・番号 登録番号	出土位置	種別 器種	寸法 cm			色調	備考	写真図版 写真登録番号
			口径	底径	器高			
図 60-1 03000515	7 層	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：にぶい橙 内：にぶい黄橙		写真図版 24-1 20102695
図 60-2 03000600	7 層	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：にぶい黄橙 内：褐灰	外面煤付着	写真図版 24-2 20102702
図 60-3 10002421	1A 7 層 1B 6 層	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：にぶい黄橙・橙 内：黄灰		写真図版 24-3 20102815
図 60-4 03000557	7 層	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：橙・明赤褐 内：橙・にぶい黄橙		写真図版 24-4 20102700
図 60-5 10002422	1A 7 層 1B 6 層下位	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：にぶい黄橙・灰黄褐 内：灰黄褐		写真図版 24-5 20102816
図 60-6 98000950	7 層	縄文土器 深鉢	-	-	-	にぶい橙		写真図版 24-6 20102680
図 60-7 98000910	9 層	縄文土器 深鉢	-	-	-	にぶい赤褐		写真図版 24-7 20102659
図 60-8 03000468	7 層	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：にぶい黄橙 内：淡黄	外面煤付着	写真図版 24-8 20102688
図 60-9 03000469	7 層	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：黒褐 内：浅黄橙		写真図版 24-9 20103759
図 60-10 98000912	6 層 7 層下位	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：橙・黒褐 内：橙	外面煤付着	写真図版 24-10 20102661
図 60-11 98000935	6・7・8 層	縄文土器 深鉢	19.8*	-	-	外：褐 内：橙		写真図版 24-11 20102718
図 60-12 98000907	7 層	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：褐 内：橙		写真図版 24-12 20102657
図 60-13 98000918	7 層下位	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：褐 内：橙		写真図版 24-13 20102663
図 60-14 98000941	7 層	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：灰黄褐 内：にぶい黄橙	外面煤付着	写真図版 24-14 20102671
図 60-15 98000915	7 層	縄文土器 深鉢	-	-	-	にぶい黄橙	外面煤付着	写真図版 24-15 20102686
図 60-16 98000942	9 層	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：黒褐 内：にぶい褐	外面煤付着	写真図版 24-16 20102672
図 60-17 03000566	7 層	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：にぶい橙 内：橙		写真図版 24-17 20102701
図 60-18 98000945	7 層	縄文土器 深鉢	-	-	-	明赤褐	外面煤付着	写真図版 24-18 20102674・2675
図 61-19 03000452	7 層	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：にぶい黄橙・黒褐 内：にぶい黄橙		写真図版 24-19 20102687
図 61-20 98000948	7 層	縄文土器 深鉢	-	-	-	橙		写真図版 24-20 20102678
図 61-21 98000949	7 層	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：黒褐・にぶい黄橙 内：黒褐		写真図版 24-21 20102679
図 61-22 03000521	7 層	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：灰黄褐 内：黒褐	外面煤付着	写真図版 24-22 20102697
図 61-23 03000481	7 層	縄文土器 深鉢	-	-	-	橙	外面煤付着	写真図版 24-23 20102692
図 61-24 03000619	7 層	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：にぶい褐・橙 内：橙		写真図版 24-24 20102705
図 61-25 03000522	7 層	縄文土器 深鉢	-	-	-	黒褐	外面煤付着	写真図版 24-25 20102698
図 61-26 98000925	7 層	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：灰黄褐 内：明黄褐		写真図版 24-26 20102667
図 61-27 98000895	7 層	縄文土器 深鉢	10.4*	-	-	橙		写真図版 24-27 20102648・2649
図 61-28 03000490	7 層	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：黒褐 内：にぶい黄橙	外面煤付着	写真図版 24-28 20102693

表7 九郎遺跡 1A 区縄文時代の出土土器

挿図・番号 登録番号	出土位置	種別 器種	寸法 cm			色調	備考	写真図版 写真登録番号
			口径	底径	器高			
図 61-29 98000911	6・7 層	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：黒褐 内：にぶい黄橙・灰黄褐		写真図版 24-29 20102660
図 61-30 98000934	8 層	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：にぶい橙・黒褐 内：にぶい黄橙・灰黄褐	外面煤・内面炭化物付着	写真図版 24-30 20102717
図 61-31 98000923	7 層	縄文土器 深鉢	-	-	-	にぶい黄橙・灰黄褐		写真図版 24-31 20102665
図 61-32 98000924	7 層	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：にぶい黄褐 内：にぶい黄橙		写真図版 24-32 20102666
図 61-33 98000898	7 層	縄文土器 深鉢	-	-	-	浅黄橙		写真図版 24-33 20102650
図 61-34 98000905	7 層	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：暗褐 内：にぶい橙		写真図版 24-34 20102655
図 61-35 98000958	7 層下位	縄文土器 深鉢	-	-	-	黒褐	外面煤付着	写真図版 24-35 20102684
図 61-36 03000605	8 層	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：灰黄褐・にぶい黄褐 内：暗灰黄	外面煤付着	写真図版 24-36 20102703
図 61-37 98000946	6 層	縄文土器 深鉢	-	-	-	にぶい褐		写真図版 24-37 20102676
図 61-38 03000680	7 層	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：にぶい黄褐 内：褐灰		写真図版 24-38 20102708
図 61-39 98000944	7 層	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：褐灰 内：橙	外面煤付着	写真図版 24-39 20102673
図 61-40 03000491	7 層	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：褐灰 内：橙		写真図版 24-40 20102694
図 61-41 98000929	7 層下位	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：にぶい橙・にぶい黄褐 内：にぶい橙		写真図版 24-41 20102668
図 61-42 03000472	7 層	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：にぶい黄褐 内：明黄褐	外面煤付着	写真図版 24-42 20102690
図 61-43 98000906	7 層	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：黒褐 内：橙	外面煤付着	写真図版 24-43 20102656
図 61-44 03000470	7 層	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：にぶい黄橙 内：明黄褐	外面煤付着	写真図版 24-44 20102689
図 61-45 98000939	7 層	縄文土器 把手	-	-	-	橙		写真図版 25-45 20102669
図 62-46 98000903	6・7 層	縄文土器 深鉢	-	-	-	黒褐	外面煤・内面炭化物付着	写真図版 25-46 20102653
図 62-47 03000553	6 層	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：にぶい褐 内：橙	外面煤付着	写真図版 25-47 20102699
図 62-48 03000606	6 層	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：橙 内：にぶい黄橙		写真図版 25-48 20102704
図 62-49 03000518	7 層	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：にぶい橙 内：灰黄褐	外面煤付着	写真図版 25-49 20102696
図 62-50 98000902	8 層	縄文土器 深鉢	-	-	-	黒褐		写真図版 25-50 20102652
図 62-51 03000667	7 層	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：にぶい黄褐 内：褐灰・黒褐	外面煤付着	写真図版 25-51 20102707
図 62-52 98000947	7 層	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：黒褐 内：にぶい黄橙	外面煤付着	写真図版 25-52 20102677
図 62-53 98000904	7 層下位	縄文土器 深鉢	-	-	-	にぶい黄橙		写真図版 25-53 20102654
図 62-54 98000921	7 層	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：暗褐 内：にぶい黄橙	外面煤付着	写真図版 25-54 20102664
図 62-55 03000474	7 層	縄文土器 深鉢	-	-	-	橙	外面煤付着	写真図版 25-55 20102691
図 62-56 98000940	7 層	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：にぶい褐 内：橙		写真図版 25-56 20102670

表 7 九郎遺跡 1A 区縄文時代の出土土器

挿図・番号 登録番号	出土位置	種別 器種	寸法 cm			色調	備考	写真図版 写真登録番号
			口径	底径	器高			
図 62-57 98000917	SX001	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：にぶい褐 内：橙	外面煤付着	写真図版 25-57 20102662
図 62-58 98000922	7 層	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：黒褐 内：にぶい橙	外面煤付着	写真図版 25-58 20102713
図 62-59 98000908	7 層 上位・下位	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：にぶい黄褐 内：黒褐	外面煤付着	写真図版 25-59 20102712
図 62-60 98000901	8 層	縄文土器 深鉢	14.6*	-	-	にぶい黄橙		写真図版 25-60 20102651
図 62-61 98000916	6・7 層	縄文土器 深鉢	21.6*	-	-	黒褐	外面煤・内面炭化物付着	写真図版 25-61 20102710
図 63-62 98000928	7 層	縄文土器 鉢	-	-	-	外：にぶい黄橙・黒褐 内：にぶい黄橙	平面方形 外面一部に赤色顔料	写真図版 25-62 20102714
図 63-63 98000927	7・8 層	縄文土器 鉢	16.5*	-	-	外：明黄褐・黒褐 内：明黄褐	外面煤付着	写真図版 25-63 20102711
図 63-64 98000933	SX001	縄文土器 鉢	31.6*	-	-	外：黒・灰黄褐 内：にぶい黄橙	外面煤付着	写真図版 25-64 20102716
図 63-65 98000936	6・7 層	縄文土器 深鉢	23.4*	-	-	外：にぶい黄橙・黒褐 内：にぶい黄橙・暗褐		写真図版 25-65 20102715
図 63-66 98000964	7 層	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：にぶい黄橙・褐 内：にぶい黄橙・にぶい黄褐	外面煤付着	写真図版 25-66 20102685
図 63-67 98000909	7 層	縄文土器 深鉢	-	-	-	灰褐・にぶい褐		写真図版 25-67 20102658
図 63-68 98000952	7 層	縄文土器 深鉢	-	-	-	灰黄褐		写真図版 25-68 20102681
図 63-69 98000954	7 層	縄文土器 深鉢	-	-	-	褐灰		写真図版 25-69 20102683
図 63-70 03000628	8 層	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：橙 内：灰黄褐	外面煤付着	写真図版 25-70 20102706
図 63-71 10002423	1A 7 層 1B 6 層下位	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：にぶい黄橙・にぶい橙 内：灰褐・にぶい黄橙	外面煤付着	写真図版 25-71 20102817
図 63-72 98000953	7 層	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：にぶい褐 内：にぶい黄橙		写真図版 25-72 20102682

表8 九郎遺跡 1A 区縄文時代の出土石器

挿図・番号 登録番号	出土位置	種別 器種	寸法 cm			重量 g	石材	備考	写真図版 写真登録番号
			長さ	幅	厚さ				
図 64-73 98000875	7 層	打製石器 石鏃	1.4	1.2	0.3	0.3	黒曜岩	完形	写真図版 26-73 20102767
図 64-74 98000825	7 層下位	打製石器 石鏃	1.3	1.5	0.3	0.4	黒曜岩	先端部欠損	写真図版 26-74 20102743
図 64-75 98000881	7 層	打製石器 石鏃	1.6	1.3	0.2	0.2	黒曜岩	片脚部欠損	写真図版 26-75 20102773
図 64-76 98000889	7 層	打製石器 石鏃	1.6	1.9	0.4	0.7	無班品質安山岩	完形	写真図版 26-76 20102781
図 64-77 98000847	7 層	打製石器 石鏃	1.7	1.3	1.3	0.5	無班品質安山岩	両脚部欠損	写真図版 26-77 20102765
図 64-78 98000819	7 層	打製石器 石鏃	1.3	1.3	0.3	0.3	黒曜岩	先端部・片脚部欠損	写真図版 26-78 20102737
図 64-79 98000818	7 層	打製石器 石鏃	1.8	1.5	0.4	0.5	黒曜岩	完形	写真図版 26-79 20102736
図 64-80 98000808	6 層	打製石器 石鏃	1.9	1.3	0.4	0.6	黒曜岩	先端部・両脚部欠損	写真図版 26-80 20102726
図 64-81 98000810	7 層	打製石器 石鏃	1.8	1.2	0.3	0.3	黒曜岩	両脚部欠損	写真図版 26-81 20102728
図 64-82 98000821	7 層下位	打製石器 石鏃	1.9	1.5	0.3	0.4	黒曜岩	完形	写真図版 26-82 20102739
図 64-83 98000822	7 層下位	打製石器 石鏃	1.9	1.6	0.3	0.5	黒曜岩	先端部欠損	写真図版 26-83 20102740
図 64-84 98000823	7 層下位	打製石器 石鏃	1.9	1.6	0.4	0.6	黒曜岩	完形	写真図版 26-84 20102741
図 64-85 98000839	7 層	打製石器 石鏃	1.9	1.6	0.4	0.7	黒曜岩	先端部欠損	写真図版 26-85 20102757
図 64-86 98000844	7 層	打製石器 石鏃	1.9	1.5	0.3	0.7	無班品質安山岩	先端部欠損	写真図版 26-86 20102762
図 64-87 98000887	7 層	打製石器 石鏃	1.9	1.5	0.3	0.6	無班品質安山岩	完形	写真図版 26-87 20102779
図 64-88 98000824	7 層	打製石器 石鏃	2.0	1.5	0.4	0.7	黒曜岩	完形	写真図版 26-88 20102742
図 64-89 98000842	7 層下位	打製石器 石鏃	2.0	1.6	0.4	0.7	無班品質安山岩	完形	写真図版 26-89 20102760
図 64-90 98000843	7 層下位	打製石器 石鏃	2.0	1.7	0.4	0.7	無班品質安山岩	完形	写真図版 26-90 20102761
図 64-91 98000804	6 層	打製石器 石鏃	2.1	1.5	0.2	0.5	黒曜岩	完形	写真図版 26-91 20102722
図 64-92 98000805	8 層	打製石器 石鏃	2.1	1.4	0.3		黒曜岩	片脚部欠損	写真図版 26-92 20102723
図 64-93 98000814	7 層	打製石器 石鏃	2.1	1.3	0.3	0.5	黒曜岩	完形	写真図版 26-93 20102732
図 64-94 98000815	7 層	打製石器 石鏃	2.1	1.7	0.4	0.7	黒曜岩	片脚部欠損	写真図版 26-94 20102733
図 64-95 98000826	7 層	打製石器 石鏃	2.1	1.3	0.3	0.4	黒曜岩	片脚部欠損	写真図版 26-95 20102744
図 64-96 98000830	7 層	打製石器 石鏃	2.1	1.4	0.3	0.4	黒曜岩	完形	写真図版 26-96 20102748
図 64-97 98000832	7 層	打製石器 石鏃	2.1	1.4	0.4	0.6	黒曜岩	完形	写真図版 26-97 20102750
図 64-98 98000836	7 層	打製石器 石鏃	2.1	1.4	0.4	0.6	無班品質安山岩	片脚部欠損	写真図版 26-98 20102754
図 64-99 98000846	7 層	打製石器 石鏃	2.1	1.4	0.4	0.8	無班品質安山岩	完形	写真図版 26-99 20102764
図 64-100 98000803	8 層	打製石器 石鏃	2.2	1.6	0.4	0.6	黒曜岩	完形	写真図版 26-100 20102721
図 64-101 98000820	7 層	打製石器 石鏃	2.2	1.6	0.3	0.5	黒曜岩	完形	写真図版 26-101 20102738
図 64-102 98000841	7 層	打製石器 石鏃	2.2	1.5	0.4	0.6	無班品質安山岩	片脚部欠損	写真図版 26-102 20102759
図 64-103 98000882	AH20 区画	打製石器 石鏃	2.2	1.2	0.3	0.4	黒曜岩	片脚部欠損	写真図版 26-103 20102774
図 64-104 98000802	7 層	打製石器 石鏃	2.3	1.5	0.3	0.7	黒曜岩	完形	写真図版 26-104 20102720

表 8 九郎遺跡 1A 区縄文時代の出土石器

挿図・番号 登録番号	出土位置	種別 器種	寸法 cm			重量 g	石材	備考	写真図版 写真登録番号
			長さ	幅	厚さ				
図 65-105 98000811	7 層	打製石器 石鏃	2.3	1.6	0.3	0.6	黒曜岩	完形	写真図版 26-105 20102729
図 65-106 98000827	7 層	打製石器 石鏃	2.4	1.4	0.4	0.7	黒曜岩	完形	写真図版 26-106 20102745
図 65-107 98000837	7 層	打製石器 石鏃	2.4	1.9	0.6	1.5	無班晶質安山岩	完形	写真図版 26-107 20102755
図 65-108 98000813	7 層	打製石器 石鏃	1.8	2.0	0.4	1.3	黒曜岩	先端部欠損	写真図版 26-108 20102731
図 65-109 98000838	6 層	打製石器 石鏃	2.4	1.8	0.5	1.4	無班晶質安山岩	完形	写真図版 26-109 20102756
図 65-110 98000840	7 層	打製石器 石鏃	2.4	1.8	0.5	1.1	無班晶質安山岩	片脚部欠損	写真図版 26-110 20102758
図 65-111 98000812	6 層	打製石器 石鏃	2.5	1.4	0.3	0.7	黒曜岩	先端部・片脚部欠損	写真図版 26-111 20102730
図 65-112 98000834	6 層	打製石器 石鏃	2.5	1.8	0.4	1.0	無班晶質安山岩	完形	写真図版 26-112 20102752
図 65-113 98000835	7 層	打製石器 石鏃	2.5	1.8	0.5	1.1	無班晶質安山岩	完形	写真図版 26-113 20102753
図 65-114 98000879	7 層	打製石器 石鏃	2.5	1.7	0.3	0.7	黒曜岩	片脚部欠損	写真図版 26-114 20102771
図 65-115 98000801	7 層	打製石器 石鏃	2.7	1.8	0.4	0.9	黒曜岩	完形	写真図版 26-115 20102719
図 65-116 98000817	7 層	打製石器 石鏃	2.7	1.9	0.4	1.2	黒曜岩	片脚部欠損	写真図版 26-116 20102735
図 65-117 98000829	7 層	打製石器 石鏃	2.8	1.6	0.3	0.8	黒曜岩	片脚部欠損	写真図版 26-117 20102747
図 65-118 98000876	7 層下位	打製石器 石鏃	2.8	1.0	0.4	0.6	黒曜岩	一部欠損	写真図版 26-118 20102768
図 65-119 98000877	7 層	打製石器 石鏃	2.8	1.6	0.4	0.7	黒曜岩	完形	写真図版 26-119 20102769
図 65-120 98000888	7 層	打製石器 石鏃	2.9	1.7	0.3	1.0	無班晶質安山岩	片脚部欠損	写真図版 26-120 20102780
図 65-121 98000831	7 層	打製石器 石鏃	3.0	1.7	0.4	0.9	黒曜岩	片脚部欠損	写真図版 26-121 20102749
図 65-122 98000848	7 層	打製石器 石鏃	3.0	1.8	0.4	1.2	無班晶質安山岩	完形	写真図版 26-122 20102766
図 65-123 98000845	6 層	打製石器 石鏃	3.7	2.1	0.6	3.5	無班晶質安山岩	片脚部欠損	写真図版 26-123 20102763
図 65-124 98000878	7 層	打製石器 石鏃	2.4	0.7	0.4	0.4	黒曜岩	完形	写真図版 26-124 20102770
図 65-125 98000828	7 層	打製石器 石鏃	1.6	1.5	0.4	0.7	黒曜岩	片脚部欠損	写真図版 26-125 20102746
図 65-126 98000809	7 層	打製石器 石鏃	1.7	2.0	0.5	0.9		先端部欠損	写真図版 26-126 20102727
図 65-127 98000884	7 層	打製石器 石鏃	2.1	2.0	0.4	0.8	無班晶質安山岩	片脚部欠損	写真図版 26-127 20102776
図 65-128 98000816	8 層	打製石器 石鏃	2.7	1.5	0.4	0.7	黒曜岩	片脚部欠損	写真図版 26-128 20102734
図 65-129 98000886	7 層	打製石器 石鏃	3.1	2.1	0.4	1.6	無班晶質安山岩	完形	写真図版 26-129 20102778
図 65-130 98000807	7 層	打製石器 石鏃	3.1	2.0	0.7	2.7	黒曜岩	完形	写真図版 26-130 20102725
図 65-131 98000880	7 層	打製石器 石鏃	2.6	1.9	0.5	1.5	黒曜岩	両脚部欠損	写真図版 26-131 20102772
図 66-132 98000883	7 層	打製石器 石鏃	2.7	2.0	0.5	2.0	無班晶質安山岩	ほぼ完形 未製品	写真図版 26-132 20102775
図 66-133 98000833	8 層	打製石器 石鏃	3.1	2.3	0.9	5.5	黒曜岩	完形 未製品	写真図版 26-133 20102751
図 66-134 98000806	7 層	打製石器 石鏃	3.4	2.4	0.8	4.7	黒曜岩	完形 未製品	写真図版 26-134 20102724
図 66-135 10002801	7 層	打製石器 異形石器	3.6	2.4	0.7		無班晶質安山岩	ほぼ完形	写真図版 27-135 20102785
図 66-136 98000868	7 層	打製石器 剥片	2.3	0.8	0.3	0.3	黒曜岩	ほぼ完形	写真図版 27-136 20102782・2783

表8 九郎遺跡 1A 区縄文時代の出土石器

挿図・番号 登録番号	出土位置	種別 器種	寸法 cm			重量 g	石材	備考	写真図版 写真登録番号
			長さ	幅	厚さ				
図 66-137 98000857	7 層下位	打製石器 石錐	3.2	1.9	1.5	1.9	黒曜岩	一部欠損	写真図版 27-137 20102787
図 66-138 98000885	7 層	打製石器 石錐	5.3	2.1	0.8	8.1	無班晶質安山岩	一部欠損	写真図版 27-138 20102777
図 66-139 98000854	7 層	打製石器 石錐	3.0	3.0	0.6	4.0	無班晶質安山岩	一部欠損	写真図版 27-139 20102786
図 66-140 98000855	7 層	打製石器 石錐	6.3	2.8	0.6	7.4	無班晶質安山岩	ほぼ完形	写真図版 27-140 20102793
図 66-141 98000856	7 層下位	打製石器 石錐	6.0	2.7	1.0	7.9	無班晶質安山岩	ほぼ完形	写真図版 27-141 20103760
図 66-142 98000849	8 層	打製石器 石匙	6.3	3.6	0.6	15.6	無班晶質安山岩	ほぼ完形	写真図版 27-142 20102788
図 66-143 10002017	7 層	打製石器 石匙	5.2	3.6	0.7		無班晶質安山岩	ほぼ完形	写真図版 27-143 20102810
図 66-144 98000852	7 層下位	打製石器 石匙	4.5	5.3	0.6	14.5	無班晶質安山岩	ほぼ完形	写真図版 27-144 20102791
図 66-145 98000850	7 層	打製石器 石匙	4.4	8.2	0.8	21.1	無班晶質安山岩	一部欠損	写真図版 27-145 20102789
図 67-146 98000853	8 層	打製石器 削器	4.0	5.5	0.6	20.0	無班晶質安山岩	一部欠損	写真図版 27-146 20102792
図 67-147 98000851	8 層	打製石器 削器	4.8	7.4	1.2	34.6	無班晶質安山岩	ほぼ完形	写真図版 27-147 20102790
図 67-148 98000860	6 層	打製石器 削器	3.6	6.4	1.1	25.2	無班晶質安山岩	ほぼ完形	写真図版 27-148 20102796
図 67-149 98000858	7 層	打製石器 削器	3.5	7.1	0.7	13.7	無班晶質安山岩	一部欠損	写真図版 27-149 20102794
図 67-150 98000859	7 層	打製石器 削器	4.7	6.8	1.3	39.9	無班晶質安山岩	ほぼ完形	写真図版 27-150 20102795
図 67-151 98000892	7 層	打製石器 削器	5.6	5.1	0.9	22.1	無班晶質安山岩	一部欠損	写真図版 27-151 20102809
図 67-152 98000891	7 層	打製石器 削器	4.5	4.3	1.2	26.3	無班晶質安山岩	一部欠損	写真図版 27-152 20102808
図 67-153 98000872	8 層	打製石器 削器	4.0	4.3	1.0	18.6	無班晶質安山岩	一部欠損	写真図版 27-153 20102807
図 67-154 98000874	7 層	打製石器 削器	13.6	6.9	1.8	138.0	無班晶質安山岩	ほぼ完形	写真図版 27-154 20102811
図 67-155 98000864	8 層	打製石器 削器	7.1	3.6	1.3	24.0	無班晶質安山岩	ほぼ完形	写真図版 27-155 20102800
図 68-156 98000862	8 層	打製石器 削器	4.7	2.4	0.6	5.1	黒曜岩	ほぼ完形	写真図版 27-156 20102798
図 68-157 98000861	7 層	打製石器 削器	4.8	3.1	0.7	10.8	無班晶質安山岩	ほぼ完形	写真図版 27-157 20102797
図 68-158 98000863	7 層	打製石器 MF	4.5	2.4	0.4	3.3	黒曜岩	ほぼ完形	写真図版 27-158 20102799
図 68-159 98000866	7 層	打製石器 MF	3.9	2.5	0.9	7.8	黒曜岩	ほぼ完形	写真図版 27-159 20102802
図 68-160 98000867	8 層	打製石器 MF	3.2	2.2	1.6	8.8	黒曜岩	ほぼ完形	写真図版 27-160 20102803
図 68-161 98000870	8 層	打製石器 石核	2.8	3.7	2.5	14.8	黒曜岩	ほぼ完形	写真図版 27-161 20102804
図 68-162 98000871	8 層	打製石器 石核	4.2	2.9	1.8	17.5	黒曜岩	ほぼ完形	写真図版 27-162 20102805
図 68-163 98000873	8 層	打製石器 石核	3.2	3.7	1.9	24.2	黒曜岩	ほぼ完形	写真図版 27-163 20102806
図 68-164 98000890	7 層下位	打製石器 石核	15.9	8.9	4.6	678.0		ほぼ完形	写真図版 27-164 20102812
図 68-165 98000893	7 層	礫石器 磨石	9.9	9.0	5.6	763.0		ほぼ完形	写真図版 27-165 20102813
図 68-166 98000894	7 層	礫石器 磨石	11.1	5.4	3.1	325.0		ほぼ完形	写真図版 27-166 20102814

3) 1B 区縄文時代の遺構と遺物

1B 区では、縄文時代の遺構として集石遺構 16 基を検出し、遺物包含層から縄文時代早期～中期の遺物が出土しており、早期中葉～前期前半のものが大部分を占める。堆積状況をみると（図 70）、縄文時代の遺物包含層である 5～7 層が調査区内に安定して広がっており、後世の土地利用による影響をほとんど受けていない。また、6 層中には喜界アカホヤテフラがブロック状に少量確認できる。

出土土器には、早期中葉の押型文土器、早期後葉～末の塞ノ神 A 式・塞ノ神 B 式・轟 A 式系土器、前期前半の轟 B 式系土器、中期前葉の船元式系土器などがあるが、これらを層位的に、あるいは平面的に分離するのは難しい。

遺構

1B 区で検出した縄文時代の遺構は、6 層中から検出された集石遺構 16 基である。ただ、下層の河床礫と集石の判別が難しい部分があり、人為的な集石遺構を確実に認定できているかは不明である。掘り込みを確認できないものが多いが、土坑内から多数の礫が出土した形態のものも検出された。掘り込みをもたず、赤化した礫が多いものについては、集石炉であった可能性がある。

SX1101（図 71）

1B 区北部に位置する。長軸 1.0 m、短軸 0.6 m の範囲に礫が広がり、下部に長軸 1.0 m、短軸 0.76 m、深さ 0.23 m の平面不整形の土坑を検出した。土坑の埋土は黒褐色砂質土で、炭化物を多く含んでいる。

総礫数 24 点、総重量 5,711.6 g、平均重量 238.0 g である。礫の破損状態は、完形礫 16 点、破損礫 8 点で、破損率は 33.4% である。礫の赤化状態は、非赤化礫 24 点である。礫の形状は約 60% が角礫で、石質は花崗岩類が 20 点、非花崗岩類が 4 点である。礫の接合例はない。

SX1104（図 71）

1B 区北部に位置する。2.2 m 四方の範囲に礫が広がり、下部に掘り込みは確認できなかったが、炭化物を多く含んだ部分を 3 箇所検出した。

総礫数 24 点、総重量 14,344.2 g、平均重量 597.7 g である。礫の破損状態は、完形礫 7 点、破損礫 17 点で、破損率は 70.8% である。礫の赤化状態は、赤化完形礫 7 点、割れ面赤化礫 15 点、割れ面非赤化礫 2 点である。礫の形状は大部分が角礫で、石質は花崗岩類が 22 点、非花崗岩類が 2 点である。礫の接合は 2 例である。

SX1105（図 72）

1B 区北部に位置する。長軸 2.9 m、短軸 1.5 m の範囲に礫が広がり、下部に掘り込みは確認できなかったが、炭化物を多く含む部分を 2 箇所検出した。

総礫数 210 点、総重量 72,962 g、平均重量 347.4 g である。礫の破損状態は、完形礫 157 点、破損礫 53 点で、破損率は 25.2% である。礫の赤化状態は、赤化完形礫 130 点、割れ面赤化礫 43 点、割れ面非赤化礫 2 点、非赤化礫 35 点である。礫の形状は約 80% が角礫で、石質は花崗岩類が 152 点、非花崗岩類が 58 点である。礫の接合は 3 例である。

SX1106（図 73）

1B 北区に位置する（図 54）。1.0 m 四方の範囲に礫が広がる。下部に掘り込み等は確認できなかった。

総礫数 16 点、総重量 16,056.9 g、平均重量 1,003.6 g である。礫の破損状態は、完形礫 9 点、破損礫 7 点で、破損率は 43.8% である。礫の赤化状態は、赤化完形礫 9 点、割れ面赤化礫 7 点である。礫の形状は大部分が角礫で、

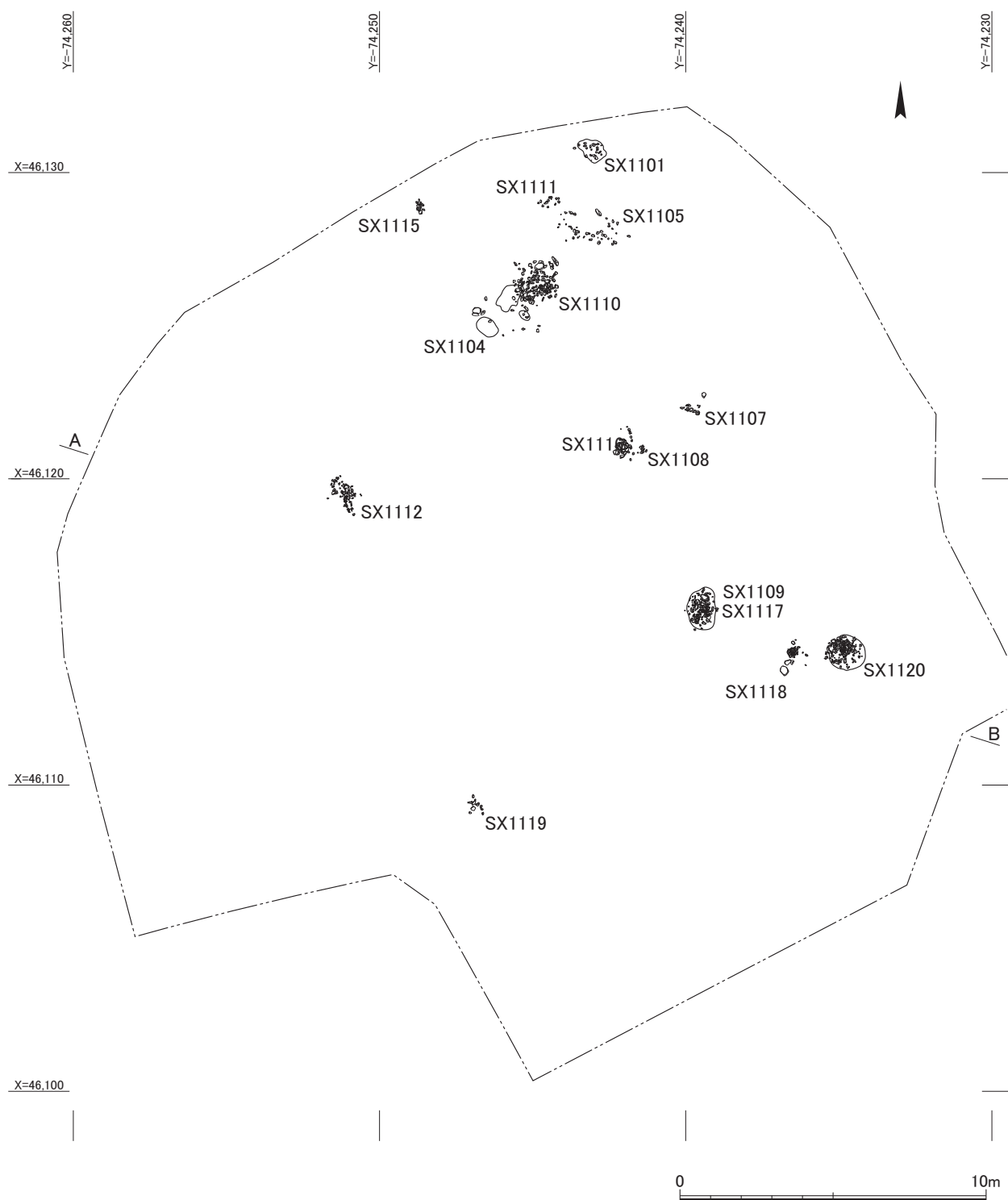


図 69 1B 区縄文時代遺構の分布 (1/150)

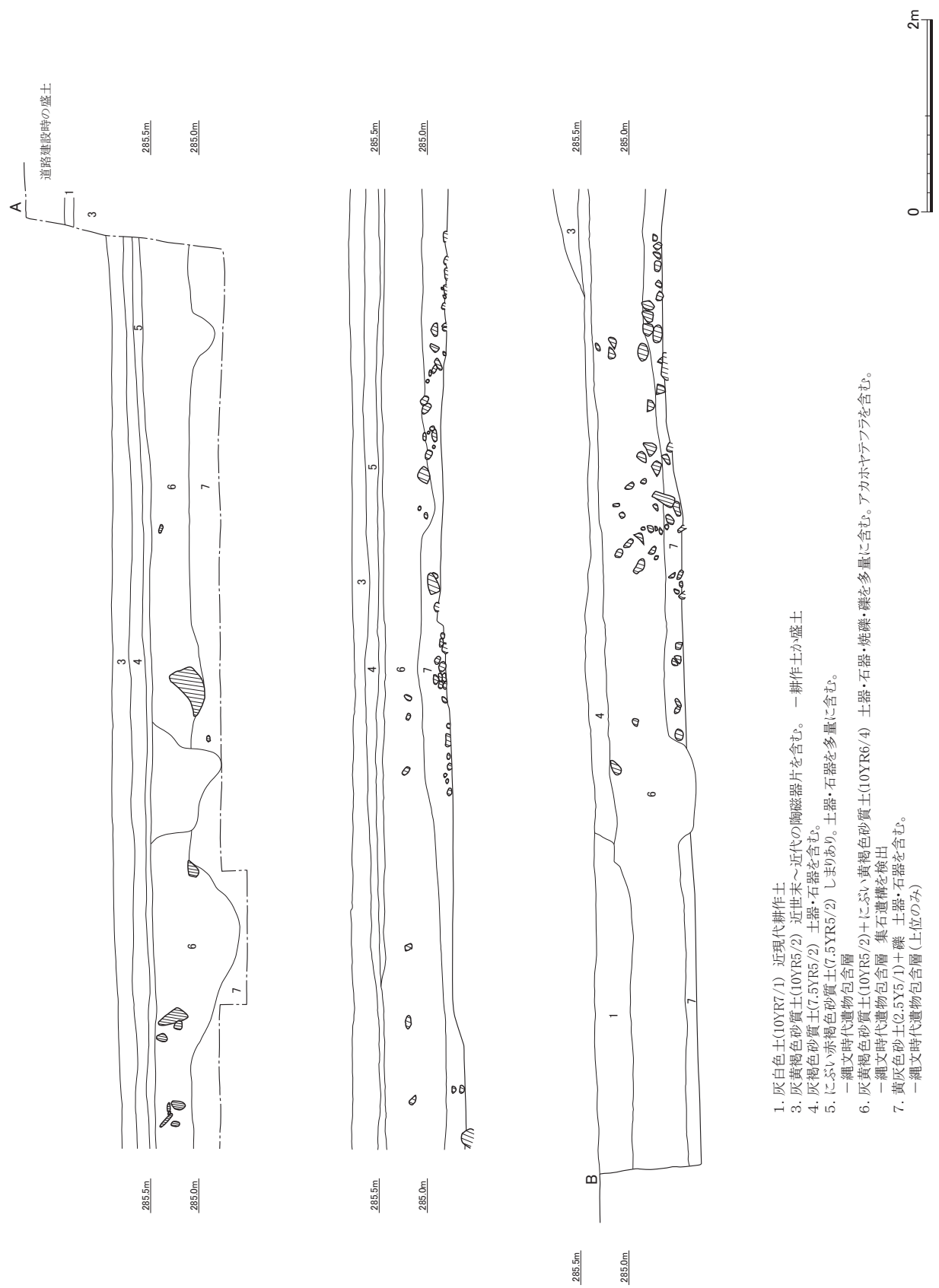
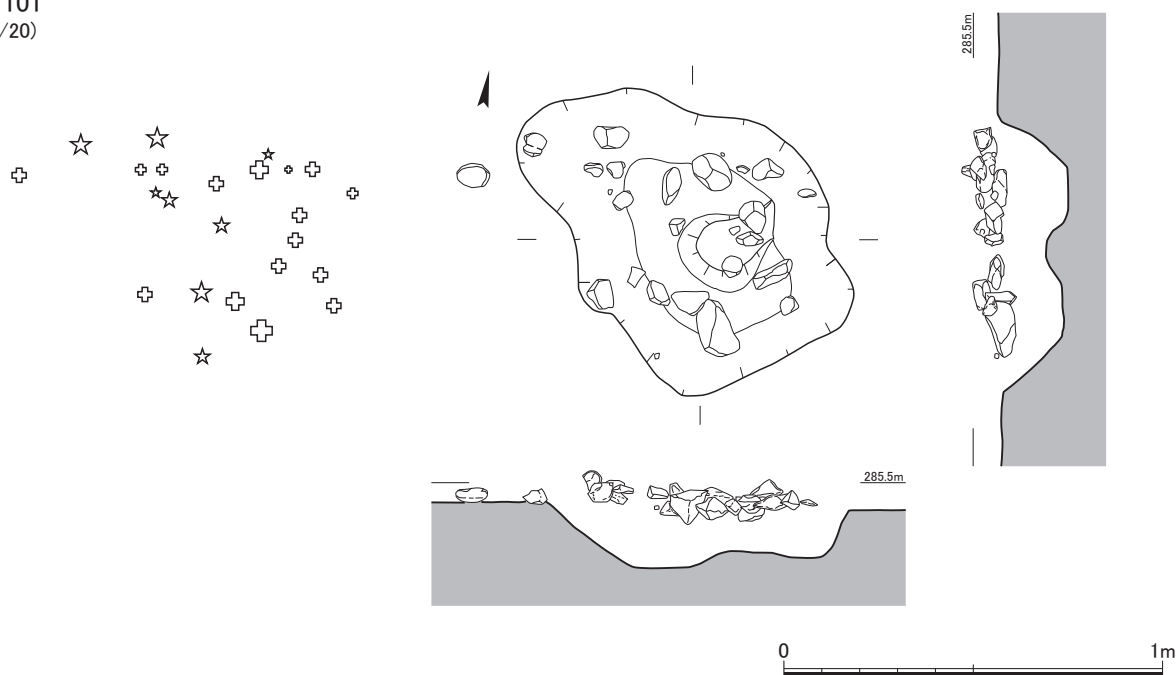


図 70 1B 区の土層 (1/60)

SX1101
(S=1/20)



SX1104
(S=1/30)

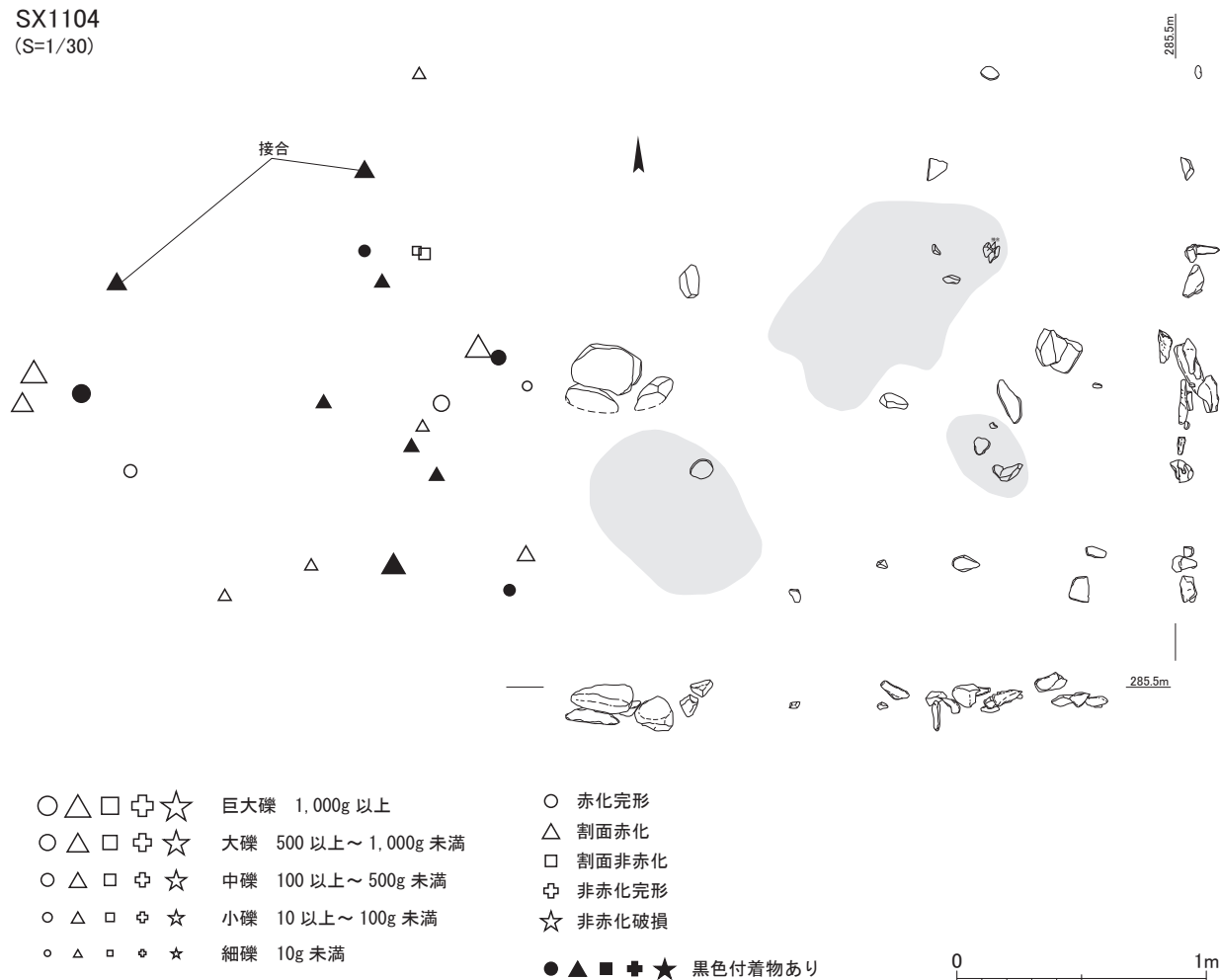


図 71 1B 区縄文時代の遺構 1 (1/20・1/30)

SX1105



図 72 1B 区縄文時代の遺構 2 (1/20)

石質は花崗岩類が13点、非花崗岩類が3点である。礫の接合は1例である。

SX1107 (図73)

1B区中央北寄りに位置する。長軸0.8m、短軸0.7mの範囲に礫が広がる。下部に掘り込み等は確認できなかった。

総礫数21点、総重量11,848.2g、平均重量564.2gである。礫の破損状態は、完形礫11点、破損礫10点で、破損率は47.6%である。礫の赤化状態は、赤化完形礫11点、割れ面赤化礫10点である。礫の形状は大部分が角礫で、石質は花崗岩類が15点、非花崗岩類が6点である。礫の接合例はない。

SX1108 (図73)

1B区中央北寄りに位置する。長軸0.65m、短軸0.35mの範囲に礫が広がる。下部に掘り込み等は確認できなかった。

総礫数17点、総重量7,119.6g、平均重量418.8gである。礫の破損状態は、完形礫9点、破損礫8点で、破損率は47.1%である。礫の赤化状態は、赤化完形礫9点、割れ面赤化礫8点である。礫の形状は大部分が角礫で、石質は花崗岩類が15点、非花崗岩類が2点である。礫の接合例はない。

SX1109 (図73)

1B区東部に位置する。長軸0.9m、短軸0.7mの範囲に礫が広がる。下部にSX1117があるが、現地で別遺構としているため、それぞれ報告する。

総礫数41点、総重量7,227.1g、平均重量176.3gである。礫の破損状態は、完形礫26点、破損礫15点で、破損率は36.6%である。礫の赤化状態は、赤化完形礫26点、割れ面赤化礫15点である。礫の形状は大部分が角礫で、石質は花崗岩類が27点、非花崗岩類が14点である。礫の接合例はない。

SX1110 (図74)

1B区北部に位置する。長軸2.05m、短軸1.7mの範囲に礫が集中する。下部に掘り込み等は確認できなかった。

総礫数196点、総重量131,708.7g、平均重量672.0gである。礫の破損状態は、完形礫113点、破損礫83点で、破損率は42.3%である。礫の赤化状態は、赤化完形礫112点、割れ面赤化礫83点、非赤化礫1点である。礫の形状は約70%が角礫で、石質は花崗岩類が175点、非花崗岩類が21点である。礫の接合は13例31点である。

SX1111 (図75)

1B区北部に位置する。長軸0.8m、短軸0.4mの範囲に礫が広がる。下部に掘り込み等は確認できなかった。

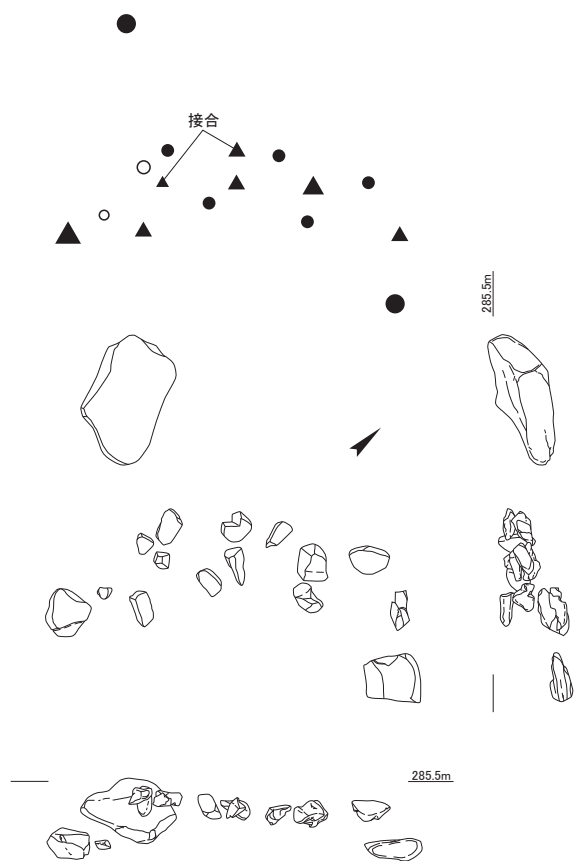
総礫数20点、総重量13,404.5g、平均重量670.2gである。礫の破損状態は、完形礫14点、破損礫6点で、破損率は30.0%である。礫の赤化状態は、赤化完形礫13点、割れ面赤化礫6点、非赤化礫1点である。礫の形状は大部分が角礫で、石質は花崗岩類が15点、非花崗岩類が5点である。礫の接合例はない。

SX1112 (図75)

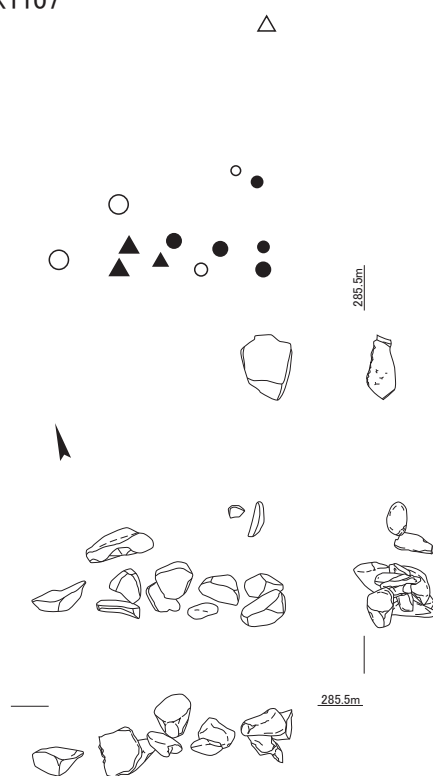
1B区中央西寄りに位置する。長軸1.7m、短軸1.2mの範囲に礫が集中する。下部に掘り込み等は確認できなかった。

総礫数250点、総重量44,113.8g、平均重量176.5gである。礫の破損状態は、完形礫160点、破損礫89点で、破損率は35.7%である。礫の赤化状態は、赤化完形礫97点、割れ面赤化礫56点、非赤化礫96点である。礫の形状はほとんどが角礫で、石質は花崗岩類が198点、非花崗岩類が52点である。礫の接合例はない。

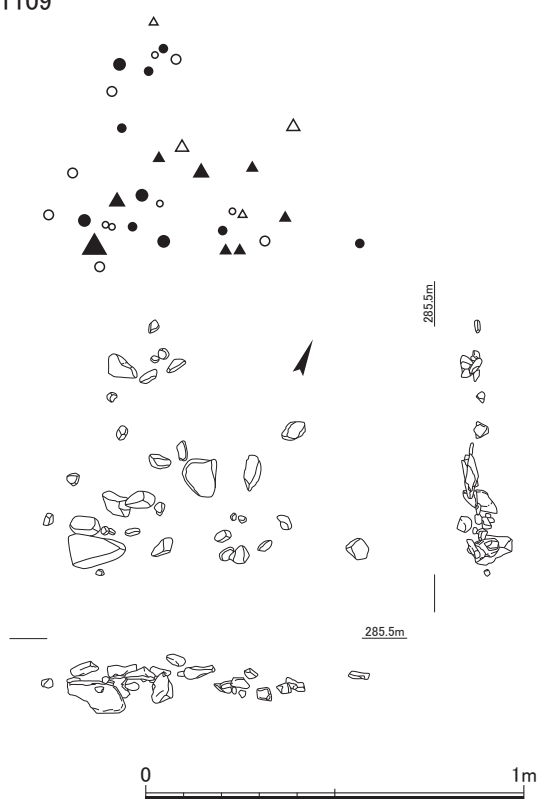
SX1106



SX1107



SX1109



SX1108

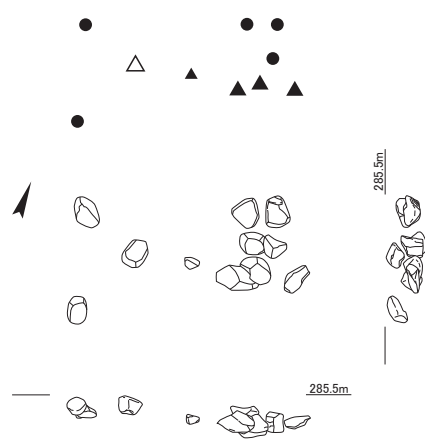


図 73 1B 区縄文時代の遺構 3 (1/20)

SX1110

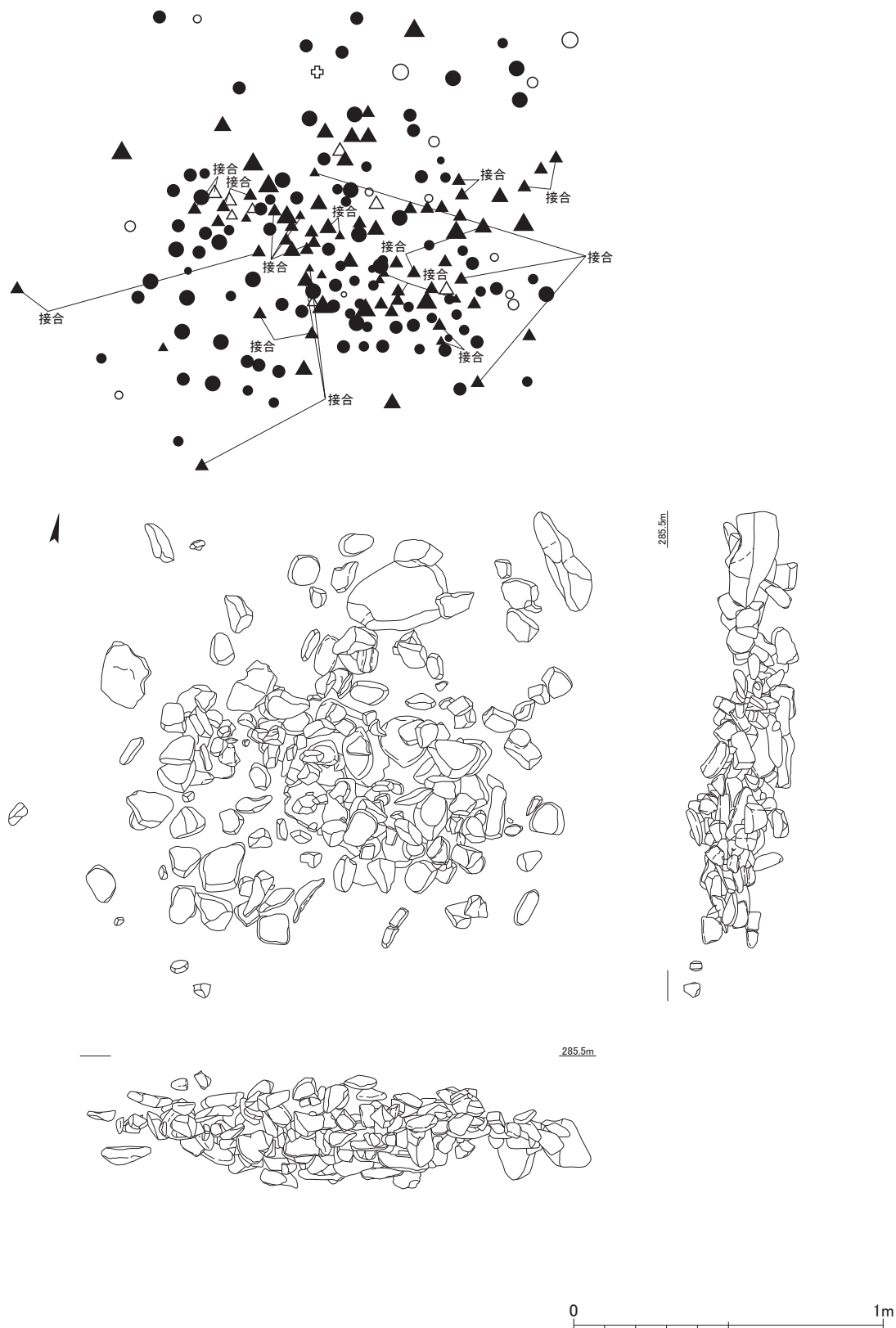


図 74 1B 区縄文時代の遺構 4 (1/20)

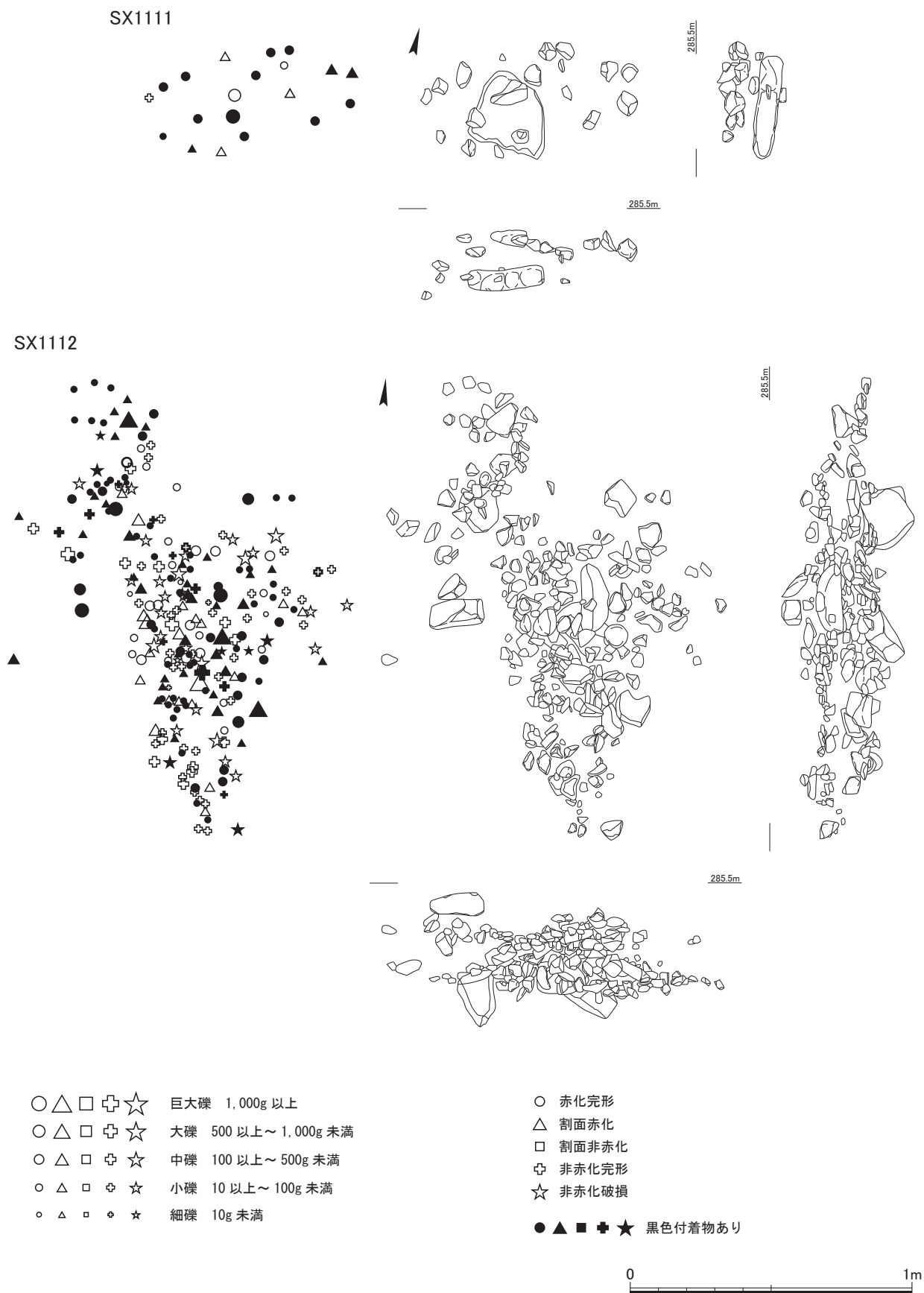


図 75 1B 区縄文時代の遺構 5 (1/20)

SX1115 (図 76)

1B 区北西部に位置する。長軸 0.5 m、短軸 0.3 m の範囲に礫が集中する。下部に掘り込み等は確認できなかった。

総礫数 12 点、総重量 7,580.7 g、平均重量 631.7 g である。礫の破損状態は、完形礫 10 点、破損礫 2 点で、破損率は 16.7% である。礫の赤化状態は、赤化完形礫 10 点、割れ面赤化礫 2 点である。礫の形状は大部分が角礫で、石質はすべて花崗岩類である。礫の接合例はない。

SX1116 (図 76)

1B 区中央北寄りに位置する。長軸 1.0 m、短軸 0.5 m の範囲に礫が広がり、径 0.6 m の部分に集中する。下部に掘り込み等は確認できなかった。

総礫数 30 点、総重量 21,486.1 g、平均重量 716.2 g である。礫の破損状態は、完形礫 18 点、破損礫 12 点で、破損率は 40.0% である。礫の赤化状態は、赤化完形礫 17 点、割れ面赤化礫 12 点、非赤化礫 1 点である。礫の形状は約 60% が角礫で、石質は花崗岩類が 24 点、非花崗岩類が 6 点である。礫の接合例はない。

SX1117 (図 76)

1B 区東部に位置する。長軸 1.4 m、短軸 0.94 m、深さ 0.32 m の平面不整楕円形の土坑内に、礫が集中する。

総礫数 128 点、総重量 60,023.5 g、平均重量 468.9 g である。礫の破損状態は、完形礫 89 点、破損礫 39 点で、破損率は 30.5% である。礫の赤化状態は、赤化完形礫 27 点、割れ面赤化礫 21 点、非赤化礫 78 点である。礫の形状は約 60% が角礫で、石質は花崗岩類が 95 点、非花崗岩類が 33 点である。礫の接合は 1 例 4 点である。

SX1118 (図 76)

1B 区東部に位置する。長軸 0.9 m、短軸 0.7 m の範囲に礫が広がり、径 0.4 m の部分に集中する。下部に掘り込み等は確認できなかったが、集石周辺に灰色に変色した土質が認められる。

総礫数 58 点、総重量 14,777.1 g、平均重量 254.8 g である。礫の破損状態は、完形礫 31 点、破損礫 27 点で、破損率は 46.6% である。礫の赤化状態は、赤化完形礫 25 点、割れ面赤化礫 24 点、非赤化礫 8 点である。礫の形状は約 60% が円礫で、石質は花崗岩類が 30 点、非花崗岩類が 28 点である。礫の接合例はない。

SX1119 (図 77)

1B 区南部に位置する。長軸 0.8 m、短軸 0.5 m の範囲に礫が広がる。下部に掘り込み等は確認できなかったが、集石周辺に被熱のためか、やや変色した土質が認められる。

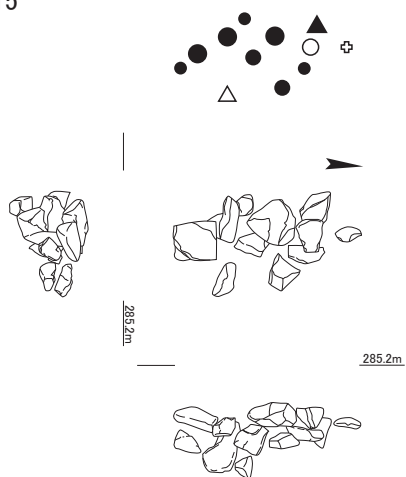
総礫数 13 点、総重量 5,544.7 g、平均重量 670.2 g である。礫の破損状態は、完形礫 3 点、破損礫 10 点で、破損率は 76.9% である。礫の赤化状態は、赤化完形礫 3 点、割れ面赤化礫 8 点、割れ面非赤化礫 1 点、非赤化礫 1 点である。礫の形状は大部分が角礫で、石質は花崗岩類が 9 点、非花崗岩類が 4 点である。礫の接合例はない。

SX1120 (図 77)

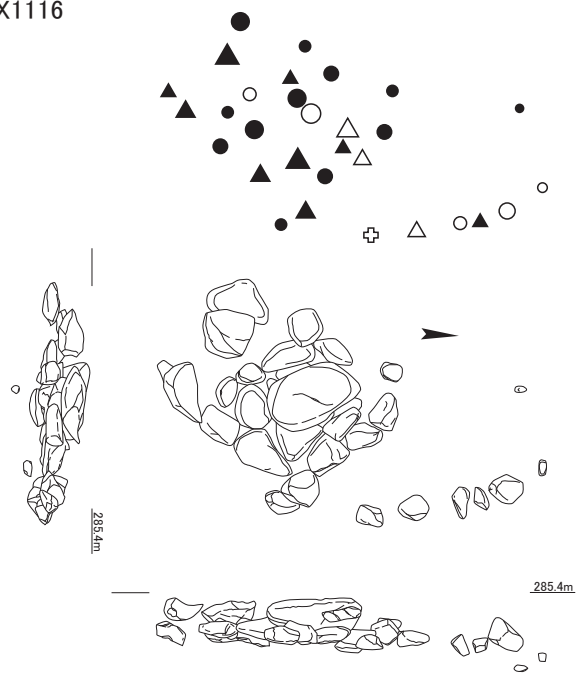
1B 区東部に位置する。長軸 1.3 m、短軸 1.1 m、深さ 0.36 m の平面楕円形の土坑内に、礫が集中する。

総礫数 233 点、総重量 38,229.9 g、平均重量 164.1 g である。礫の破損状態は、完形礫 153 点、破損礫 80 点で、破損率は 34.3% である。礫の赤化状態は、赤化完形礫 85 点、割れ面赤化礫 65 点、割れ面非赤化礫 2 点、非赤化礫 81 点である。礫の形状は約 85% が角礫で、石質は花崗岩類が 185 点、非花崗岩類が 48 点である。礫の接合は 10 例 21 点である。

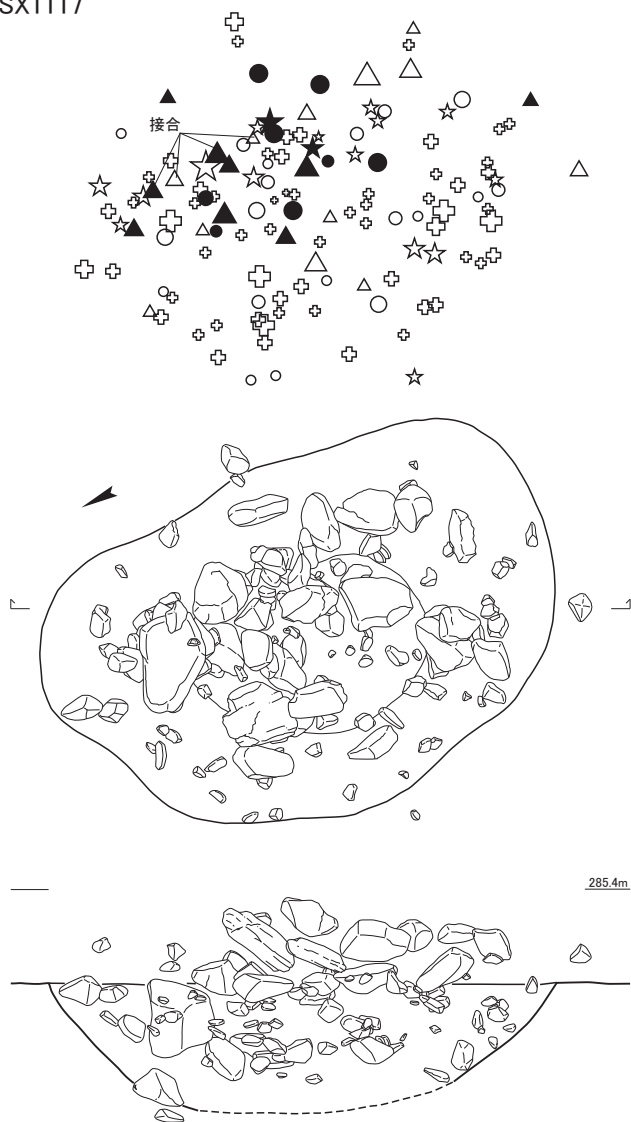
SX1115



SX1116



SX1117



SX1118

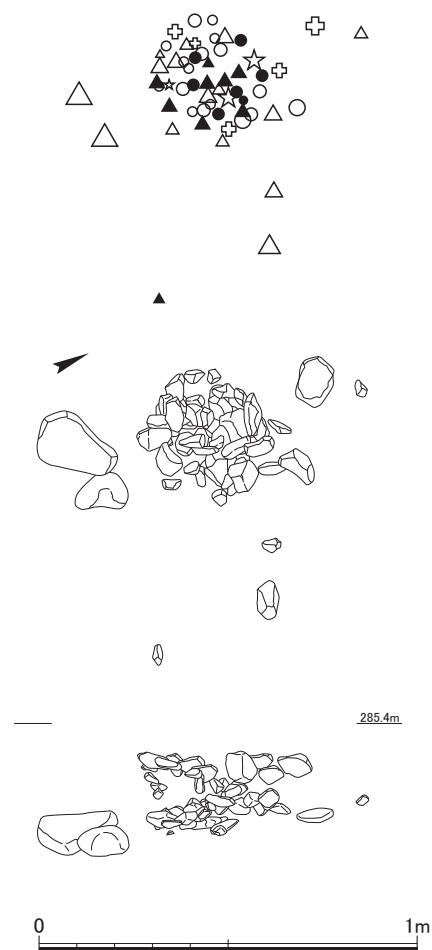
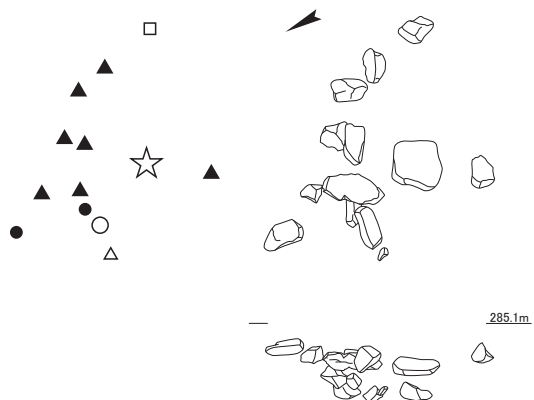
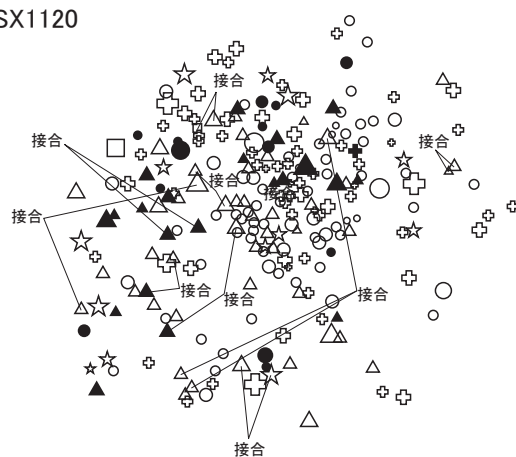


図 76 1B 区縄文時代の遺構 6 (1/20)

SX1119



SX1120



- | | |
|-----------|---------------------|
| ○ △ □ ⊕ ☆ | 巨大礫 1,000g 以上 |
| ○ △ □ ⊕ ☆ | 大礫 500 以上～1,000g 未満 |
| ○ △ □ ⊕ ☆ | 中礫 100 以上～500g 未満 |
| ○ △ □ ⊕ ☆ | 小礫 10 以上～100g 未満 |
| ○ △ □ ⊕ ☆ | 細礫 10g 未満 |

- | | |
|---|-------|
| ○ | 赤化完形 |
| △ | 剖面赤化 |
| □ | 剖面非赤化 |
| ⊕ | 非赤化完形 |
| ☆ | 非赤化破損 |

- | | |
|-----------|---------|
| ● ▲ ■ ⊕ ★ | 黒色付着物あり |
|-----------|---------|

0 1m

図 77 1B 区縄文時代の遺構 7 (1/20)

遺物

1B 区では、縄文時代の遺物包含層から出土した遺物について、集石遺構の可能性がある礫石を含め約 22,900 点の出土位置を 3 次元で記録して取り上げた。内容は、土器と石器が大部分を占める。

土器（図 78・79）

1B 区からは、1・3～6・8～10 類土器が出土したが、1・4・6 類の出土量が多い。いずれの類も小さなまとまりはあるものの、調査区内で全体的に出土している。

1 類土器（図 80・81）

167～177 は横走する山形押型文が施されたもので、器面調整はナデである。167・168・170・174 には口縁内面にも山形押型文が施される。167 は口縁外面に器面の凹凸のためか文様が施されていない部分があり、168 は外面に押型文が施されていない部分がある。175 は内面にも不規則ながらほぼ全面に山形押型文が施される。178～185 は楕円押型文が施されたもので、器面調整はナデである。178～180 は連珠状の楕円押型文が施される。178・179 は同一個体と思われ、口縁外面に無文帯があり、口縁内面には原体条痕と押型文が施される。181 は縦走する押型文が施され、面取りされた口縁端部にも押型文が施される。182・183 は口縁内面に押型文が施される。185 は縦走あるいは斜走する粗大な楕円押型文が施される。

3 類土器（図 82）

186～193 は塞ノ神 A 式系の 3 類で、器面調整はナデである。186・187 は撚糸文、188～191 は網目撚糸文が縦位方向に施される。192・193 は底部で、網目撚糸文を縦位方向に施したのち、沈線文を施している。

4 類土器（図 83）

194～210 は塞ノ神 B 式系の 4 類で、器面調整は基本的にナデである。194 は横位方向に刺突文が施される。195・196 は同一個体と思われ、口縁外面に貝殻腹縁による刺突文、胴部に波状の沈線文が施される。197～199 は波状の条痕文あるいは沈線文が施される。200 は横位方向の条痕文が施される。201 は 3 類とすべきものかもしれない。202 は細い沈線文が、203 は横位方向に押引文が施される。204～210 は斜格子状に条痕文あるいは沈線文を施すもので、横位方向の沈線文や刺突文が組み合わさる。

5 類土器（図 83）

211 は轟 A 式系の 5 類で、外面に波状の条痕文が施され、内面の器面調整は条痕である。

6 類土器（図 84・85）

212～246 は轟 B 式系の 6 類で、器面調整は基本的に条痕である。212 は口縁外面に沈線文を、その下位に横位方向と斜位方向の押引文を施す。213 は横位方向の押引文が施される。214～224 は沈線文が施される一群である。214・215 は同一個体と思われ、口縁外面に弧状の突帯文、その下位に数条の刺突文、その下位に斜位方向の沈線文を施す。216 は突帯の上位に縦位方向の沈線文が施される。217・218 は円弧状の突帯、219 は縦位の刻目をもつ突帯と円形浮文が付く。220 は頸部に縦位の突帯、胴部に小さな円形浮文が付く。221～223 は刻目をもつ突帯の間をナデ消す区画と沈線文を施す区画に区分している。224 は頸部に横位方向の刺突文、胴部にやや細い沈線文が施され、縦位の突帯が付く。225～232 は刺突文が施される一群である。225～230 は横位方向の刺突文が施され、227 には円形浮文、228 には縦位の刻目をもつ突帯、229 には縦位の突帯が付く。231・232

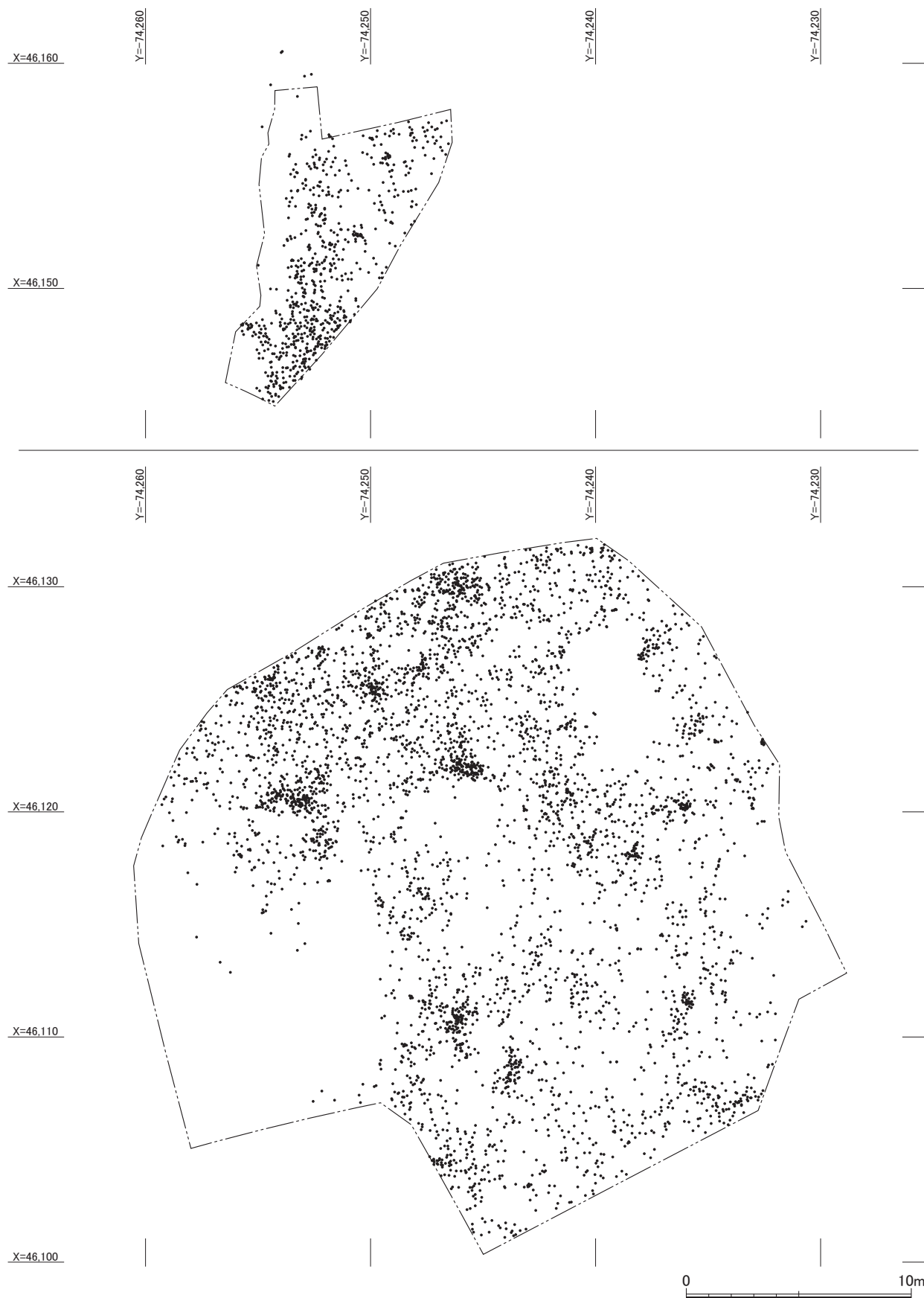


図78 1B区縄文時代土器の平面分布 (1/250)

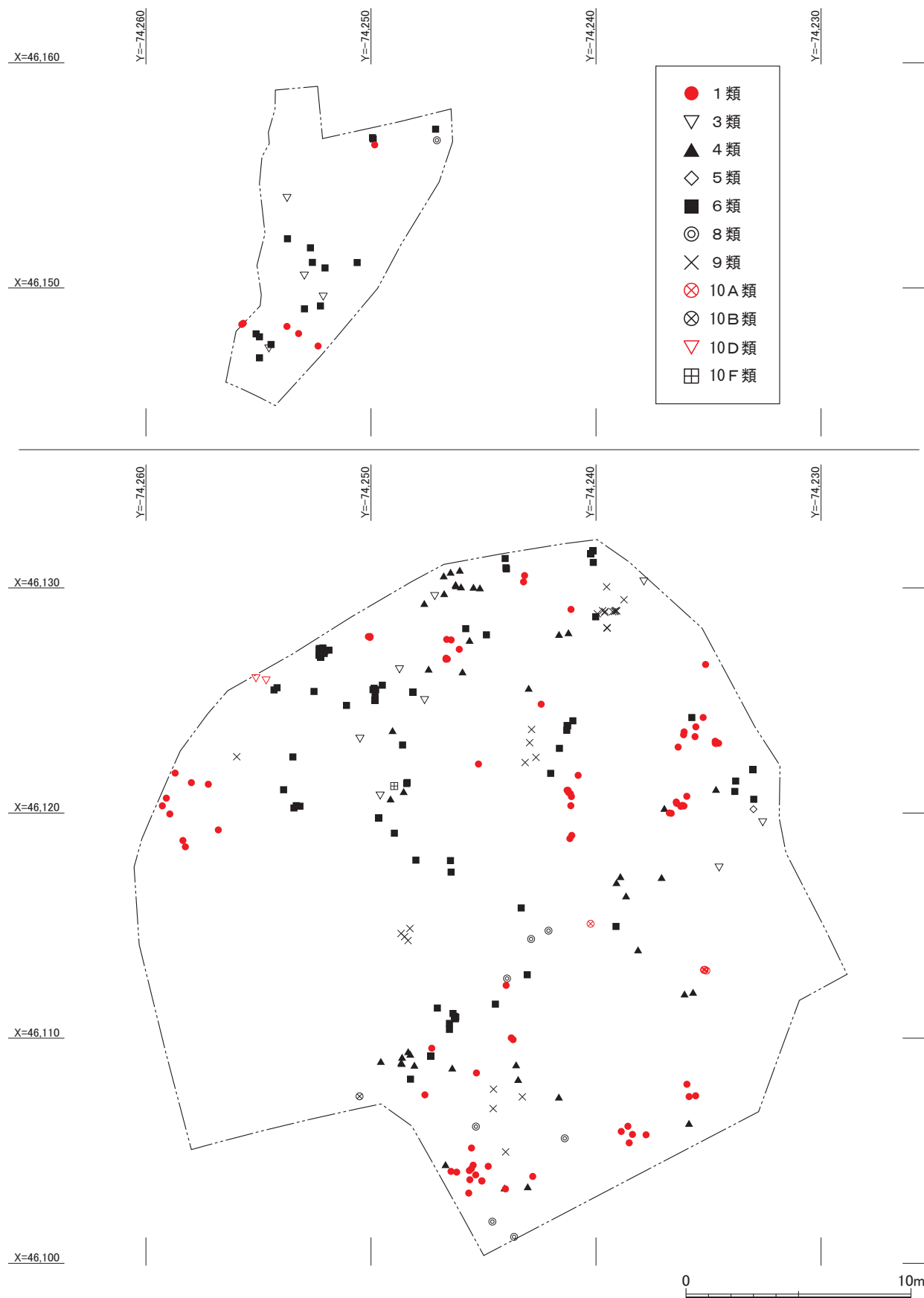


図 79 1B 区縄文時代土器類別の平面分布 (1/250)

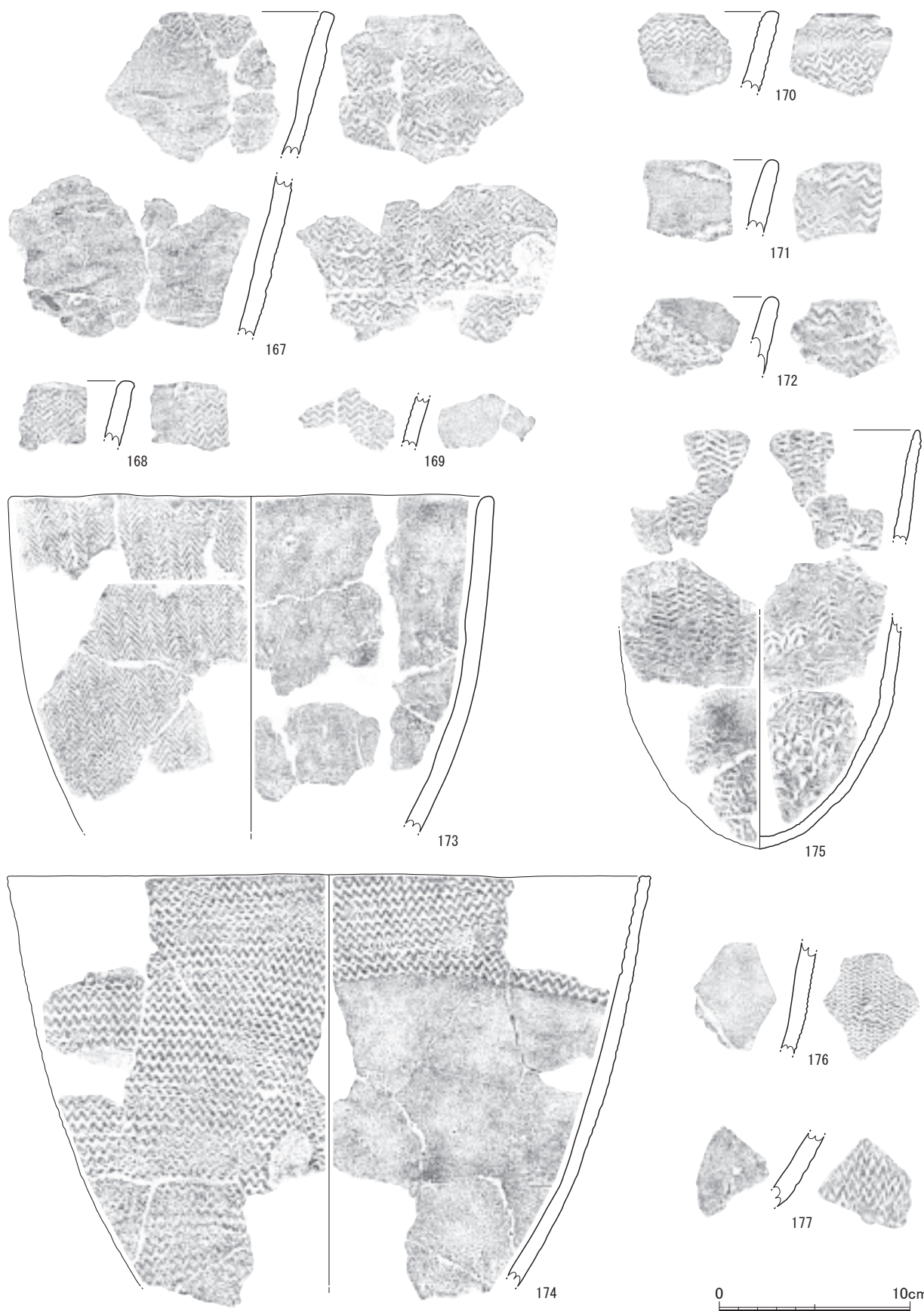


図 80 1B 区出土縄文時代の土器 1 (1/3)

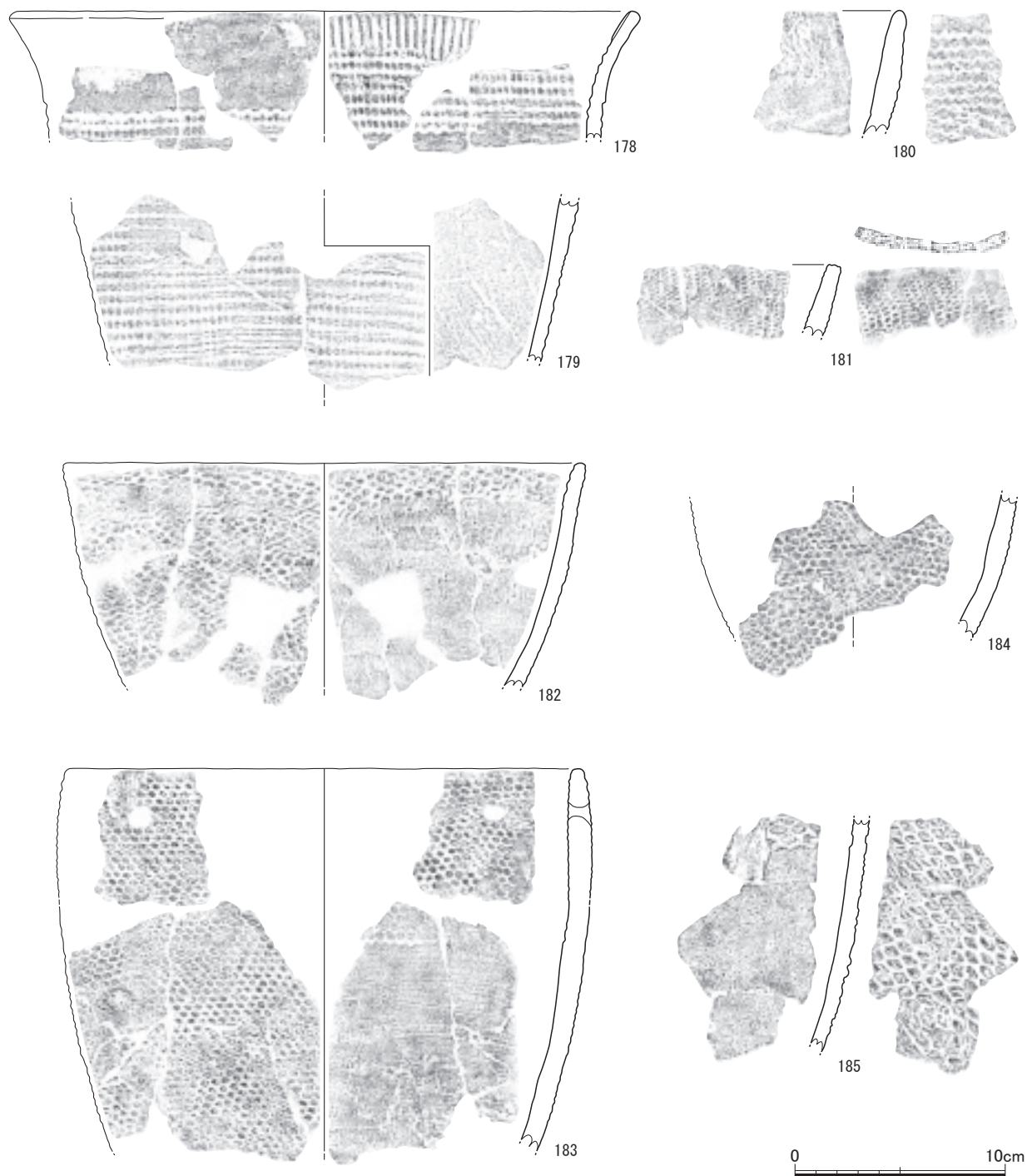


図 81 1B 区出土縄文時代の土器 2 (1/3)

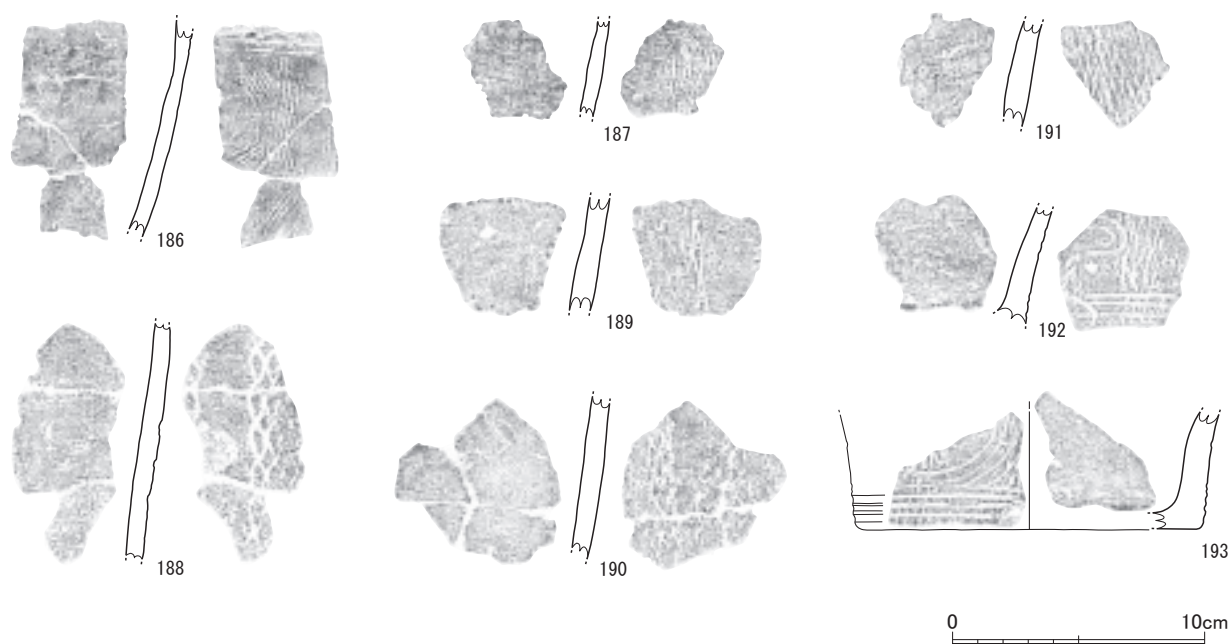


図 82 1B 区出土縄文時代の土器 3 (1/3)

は横位あるいは斜位方向の刺突文が密に施され、231 は刻目をもつ突帯、232 は突帯が縦位に付く。233 は沈線状の細かな連続刺突文が施される。224 ～ 241 は突帯以外に文様がみられない一群である。237 は口縁部に方形の突起が付き、238 は波状口縁になる。239・241 は突帯文、240 は横位の刻目をもつ突帯が付く。242・243 は小型のもので、突起が付く。244・245 は同一個体と思われ、口縁外面に 1 条ミミズバレ状の突帯が巡る「単純形」の器形である。246 はミミズバレ状の突帯が数条巡る。247 ～ 249 は底部付近である。

8 類土器 (図 86)

250 ～ 253 は船元式系の 8 類である。250 は外面に縄文を施し、内面の器面調整はナデである。251 は外面に縄文を施したのち、沈線状の刺突文が施され、内面の器面調整は条痕である。252 は波状口縁で、内面に縄文が施される。253 は同一個体と思われる破片群で、器形は頸部が屈曲するキャリパー形である。口縁端部に爪形文が施され、外面に爪形文をもつ突帯が付き、口縁内面には帯状に縄文を施している。

9 類土器 (図 87)

254 ～ 256 は無文の 9 類で、器面調整はナデである。254 は大きくおよそ直線的に開く口縁部で、255 は波状口縁になる。

10 類土器 (図 87)

257・258 は条痕地に撚糸文を施す 10A 類である。259 は撚糸文と思われる横位の文様が施された 10B 類で、内面の器面調整はナデである。260 は貝殻腹縁による縦位方向の刺突が施された 10D 類で、器面調整はナデである。261 は口縁外面に粘土紐を利用した段を形成する 10F 類である。

底部 (図 87)

262 ～ 264 は底部である。262 は器面調整が外面条痕、内面ナデである。263・264 は外面に沈線文が施され、

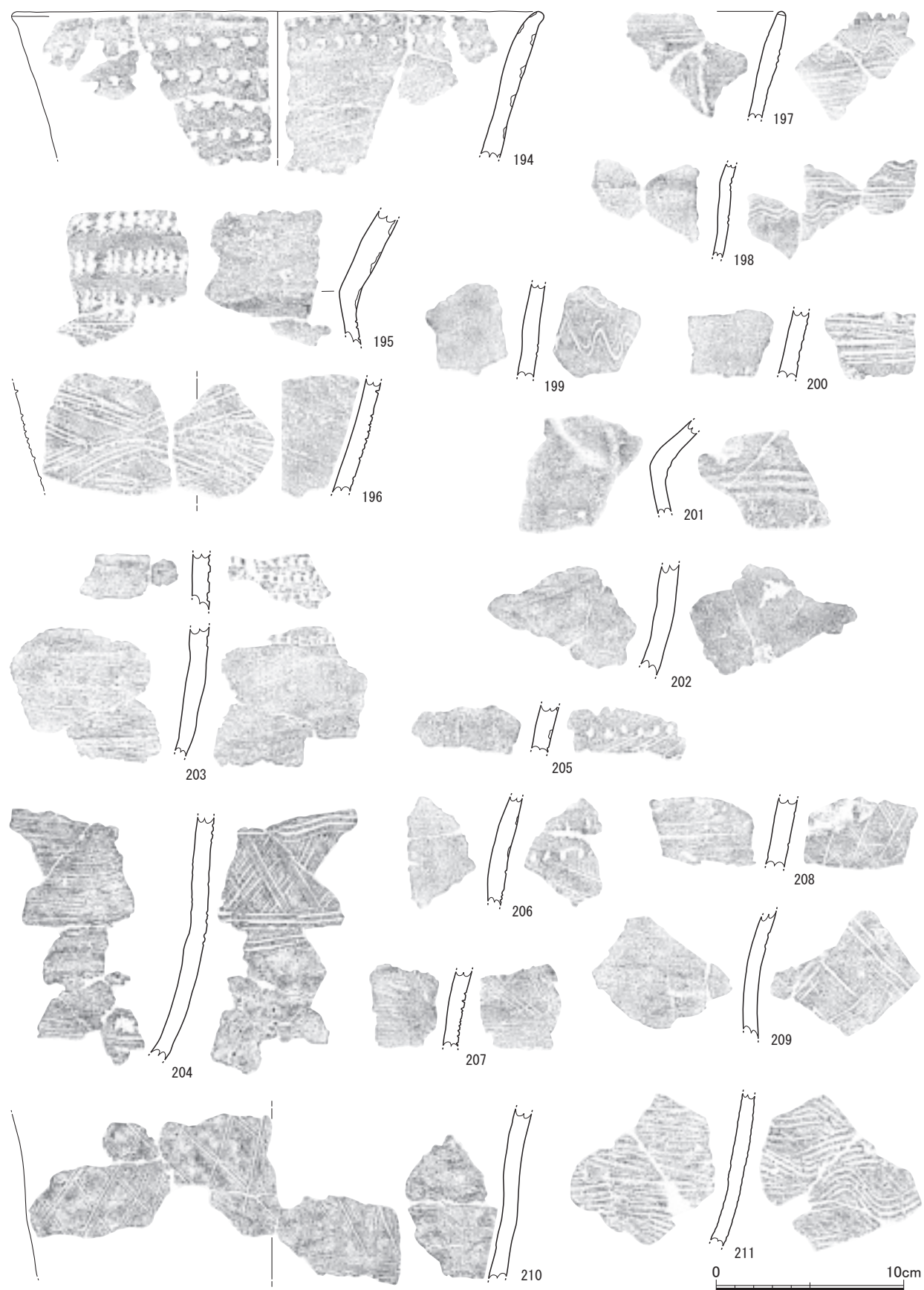


図 83 1B 区出土縄文時代の土器 4 (1/3)



図 84 1B 区出土縄文時代の土器 5 (1/3)

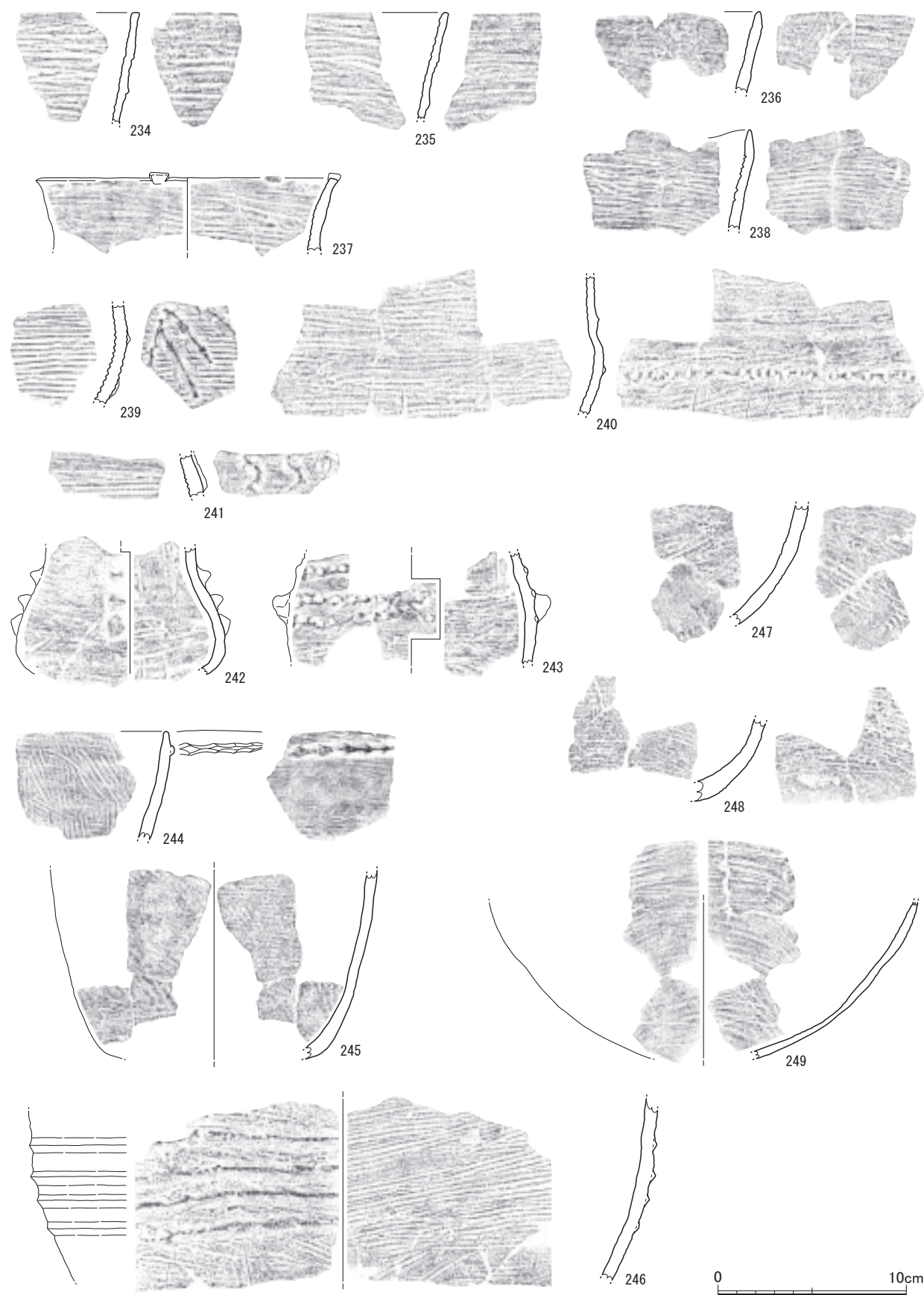


図 85 1B 区出土縄文時代の土器 6 (1/3)

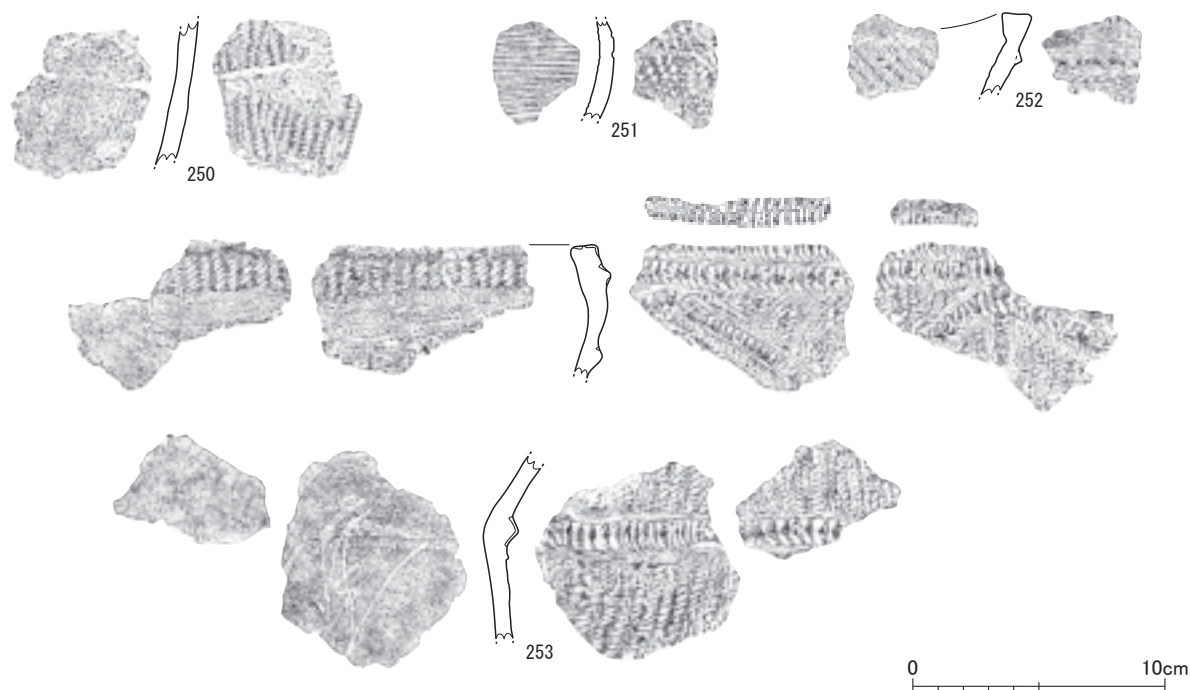


図 86 1B 区出土縄文時代の土器 7 (1/3)

器面調整はナデで、6 類土器の可能性はある。

石器 (図 89・90)

1B 区から出土した石器は、17,014 点の出土位置を 3 次元で計測して取り上げたが、このうち剥片石器とその石核・剥片が 16,994 点とほとんどを占め、礫石器は 20 点と非常に少ない。土器からみて、早期中葉～前期前半を主体とするものと考えられる。

剥片石器類を器種・石材別にみると、石鏃が 517 点（うち黒曜岩 335 点、無斑晶質安山岩 182 点）、石錐が 13 点（うち黒曜岩 4 点、無斑晶質安山岩 9 点）、石匙が 38 点（無斑晶質安山岩）、削器・搔器が 190 点（うち黒曜岩 28 点、無斑晶質安山岩 162 点）、異形石器が 3 点（うち黒曜岩 1 点、無斑晶質安山岩 2 点）、細石刃が 2 点（黒曜岩）で、石鏃が定形石器の約 2/3 を占める。このほか、二次加工剥片・微細剥離痕ある剥片が 30 点（うち黒曜岩 12 点、無斑晶質安山岩 18 点）、剥片が 16,149 点（うち黒曜岩 11,542 点、無斑晶質安山岩 4,606 点、チャート 1 点）、石核・原石が 52 点（うち黒曜岩 21 点、無斑晶質安山岩 31 点）であり、剥片石器類の 9 割以上は剥片・石核類である。剥片石器に用いられた石材は黒曜岩が約 7 割を占め、無斑晶質安山岩が約 3 割で、1 点チャートと思われるものがある。

礫石器は、磨石 12 点、敲石 2 点、凹石 3 点、槌石 3 点である。

打製石器 (図 91～106)

265～465 は石鏃である。265～309 は長さ 2 cm 未満で、基部が凹基のものである。平面の形状は側縁が直線的な二等辺三角形のものがほとんどであるが、五角形に近いもの、側縁がやや内湾するもの、正三角形に近いものなどもみられる。305 は側縁を鋸歯状に作り出している。両面の調整剥離は丁寧なものが多いが、素材面を残すものもみられる。309～315 は長脚のものである。316・317 は平面がやや左右非対称の二等辺三角形のもので、基部は平基である。318～359 は鍬形鏃で、大きさや脚部の形状、基部の挟りの深さなどで細分が可能である。

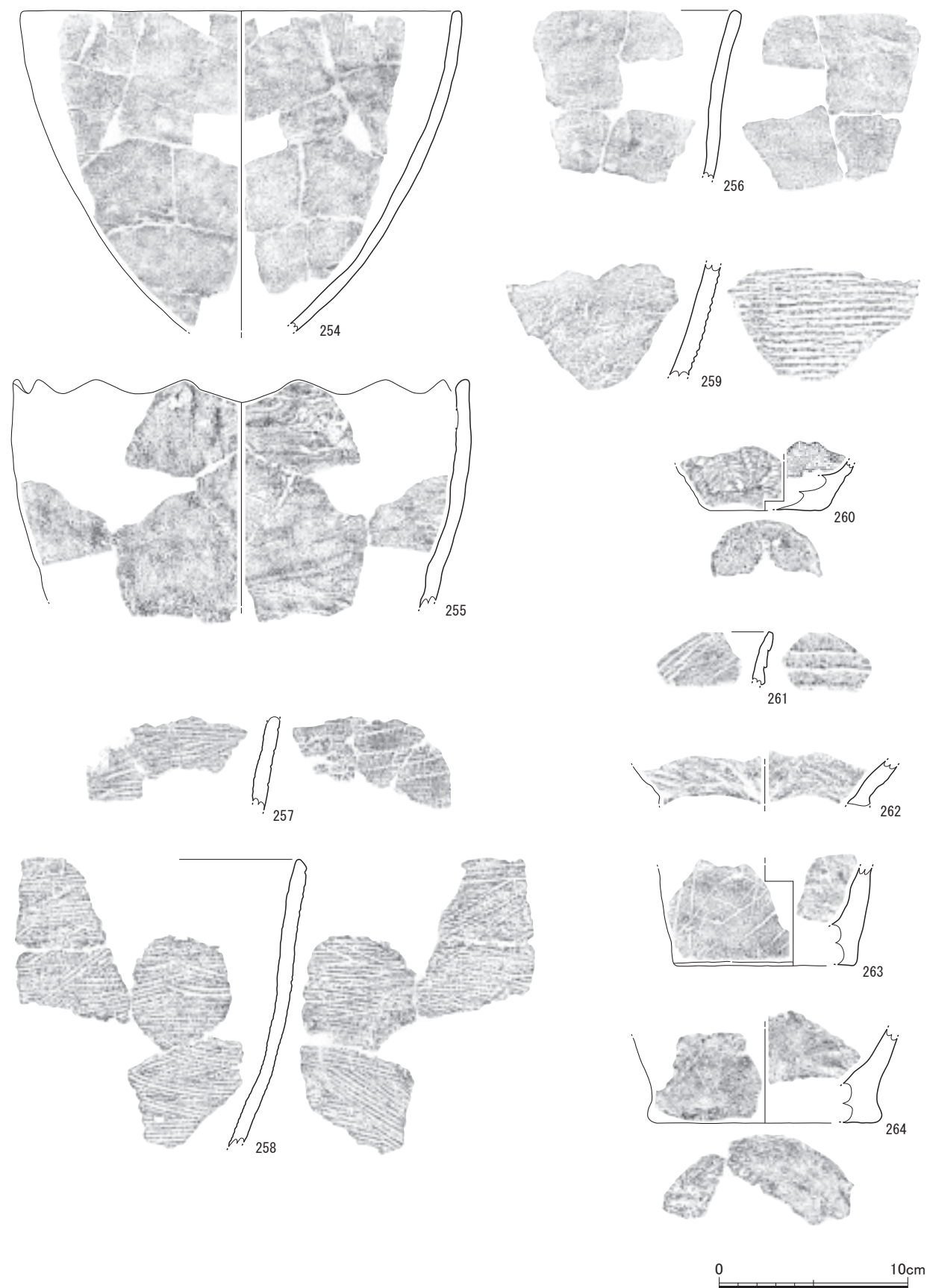


図 87 1B 区出土縄文時代の土器 8 (1/3)

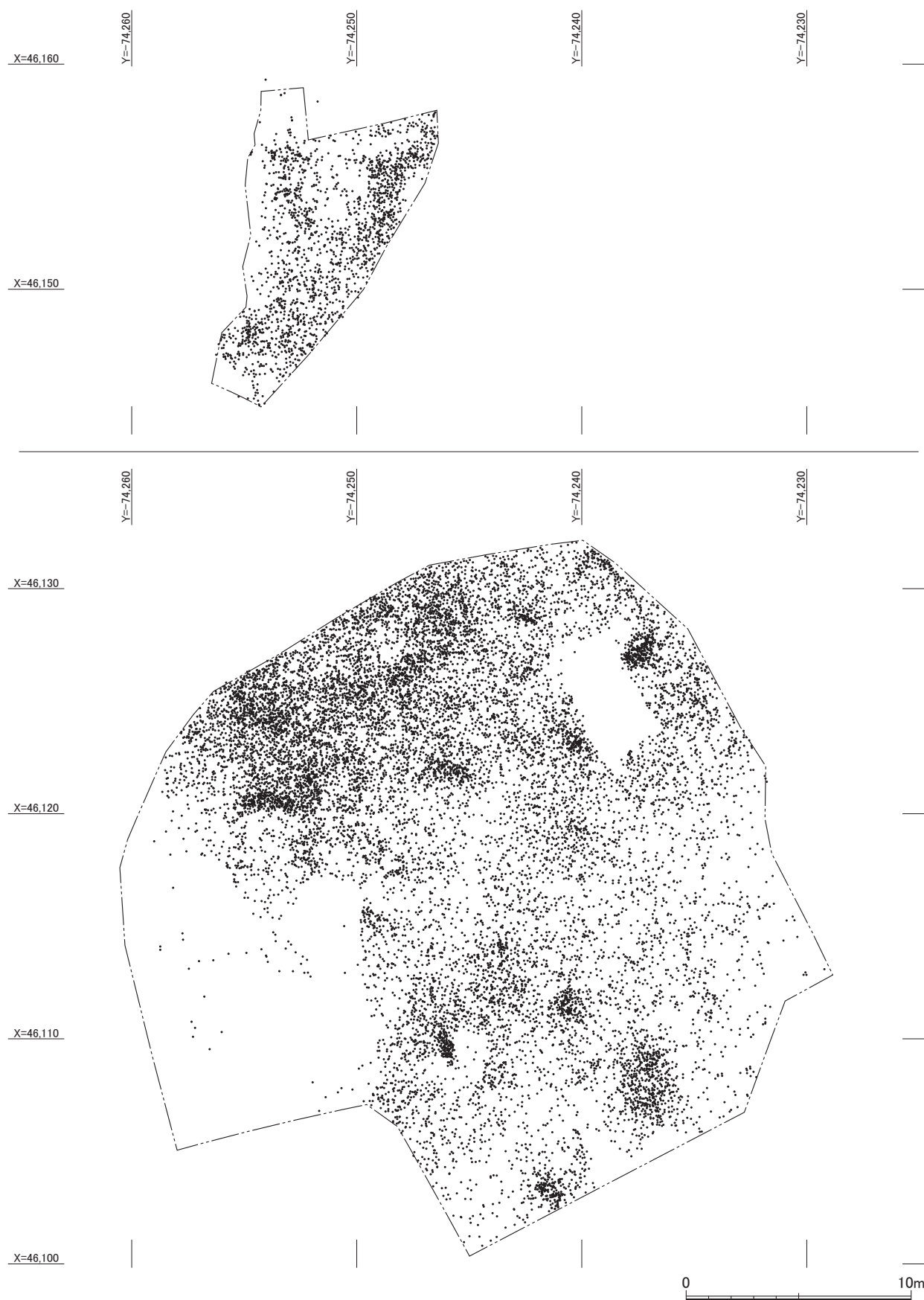


図 88 1B 区縄文時代石器の平面分布 (1/250)

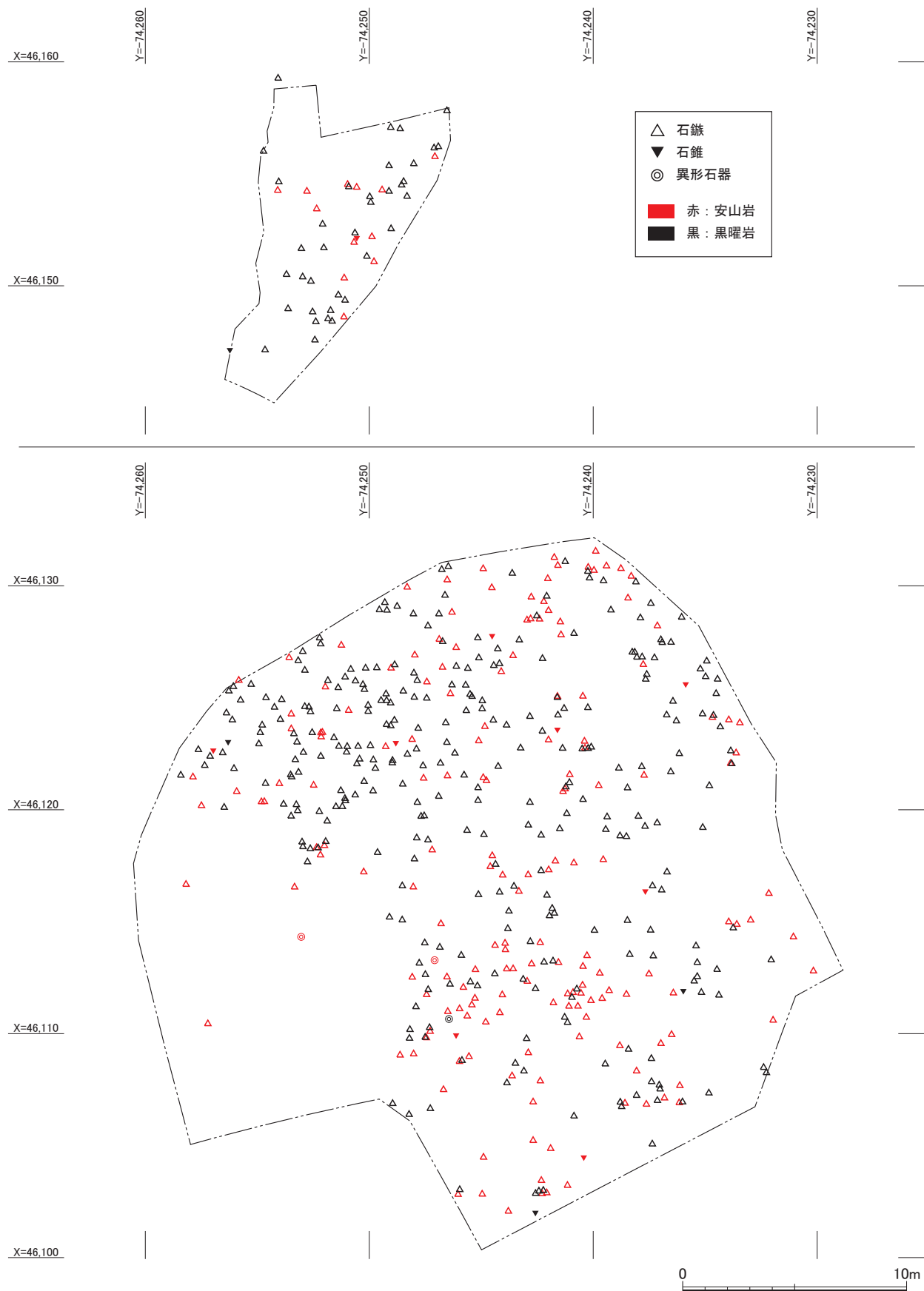


図 89 1B 区縄文時代定形石器の平面分布 1 (1/250)

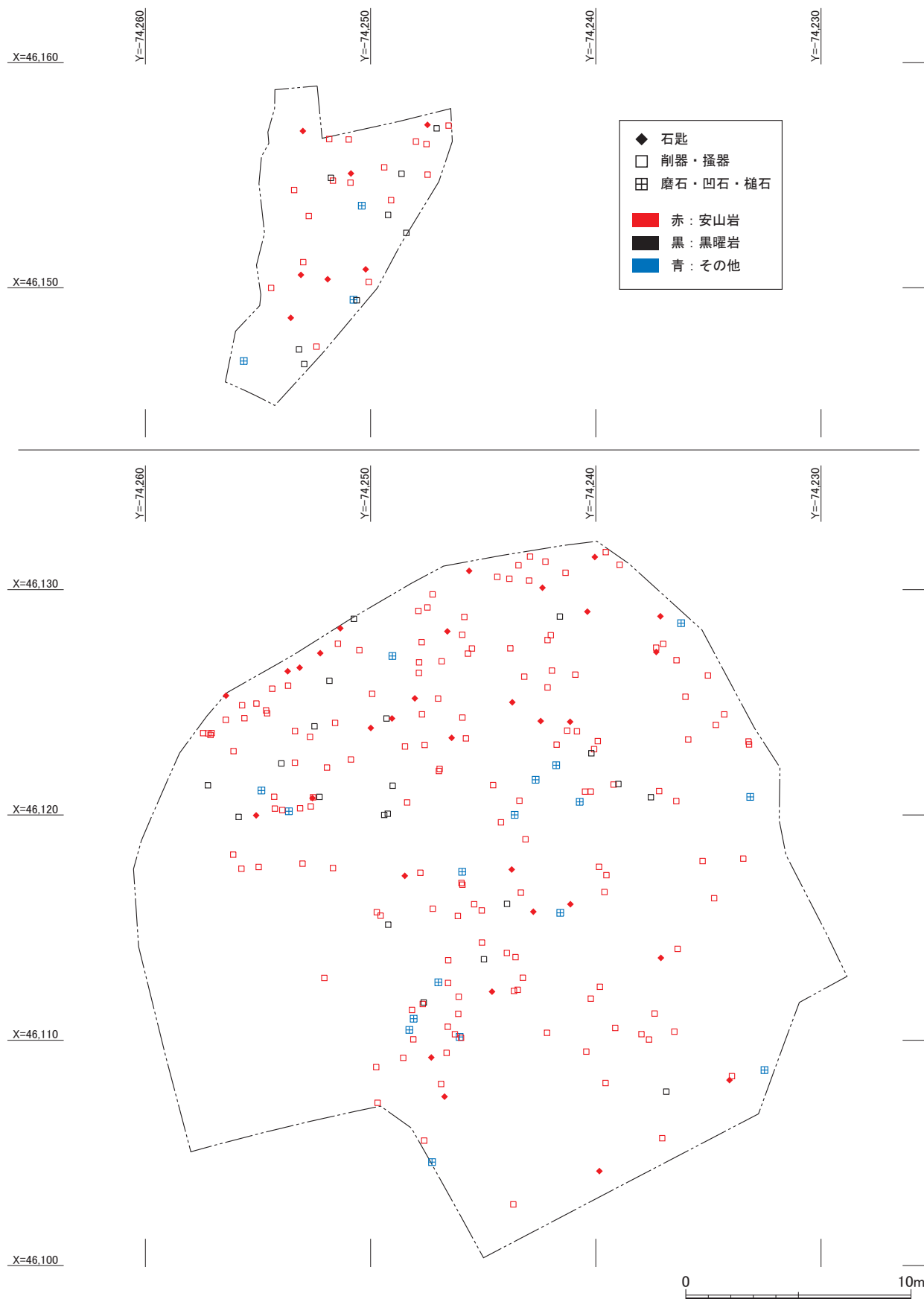


図 90 1B 区縄文時代定形石器の平面分布 2 (1/250)

329 は側縁を鋸歯状に作り出している。調整は丁寧なものがほとんどであるが、素材面を残すものもある。360～371 は平面が細長い二等辺三角形、基部が凹基のもので、鋤形鏃に近い形態のものが多い。365 は素材面を残しており、367 は側縁を鋸歯状に作り出す。372・373 は側縁が内湾する平面二等辺三角形、基部は凹基のもので、やや長脚ぎみになる。374・375 も同様の形態になる可能性がある。376～464 は平面が二等辺三角形、基部が凹基のものである。長さは 2.0～2.5cm のものが多い。平面は側縁が直線的なものが大多数であるが、やや内湾するもの、やや膨らむもの、五角形に近いものなどもあり、基部の挟りの深さもさまざまである。調整は丁寧なものがほとんどであるが、素材面を残すものもみられる。460 は未製品の可能性がある。465 は基部が平基のものである。466～476 は製作途中で放棄された石鏃の未製品とみられるが、475 は製品とすべきかもしれない。

477～479 は異形石器で、477 は黒曜岩製、478・479 は無斑晶質安山岩製である。調整剥離はやや雑で、素材面などが残っている。

480～484 は石錐で、いずれも縁部のみに調整加工を施して錐部を作り出しており、大きさはさまざまである。

485～495 は縦型の石匙である。縁部に主に片面から調整加工を施して刃部を作出しており、大きさ、つまみの形状や作り出しの程度はまちまちである。497 は縦型とも横型ともとれる石匙である。498～505 は横型の石匙で、刃部は調整加工を片面から施すものと両面から施すものがみられる。大きさや全体的な形状、つまみの作り出しの程度からいくつかの形態に区分できる。

506～510 は黒曜岩製の削器で、調整加工の程度はさまざまである。508・509 は石鏃未製品の可能性がある。511～534 は無斑晶質安山岩の大小の剥片を用いて刃部のみに調整を施した削器で、片面から調整加工を施すものが多いが、両面から施すものもみられ、調整の程度はさまざまである。511～513 はつまみを意識している可能性があり、石匙とすべきかもしれない。535 は無斑晶質安山岩の残核を利用した削器で、536・537 は無斑晶質安山岩製の搔器である。

538～543 は黒曜岩製の石核で、538・539 は打面転移を頻繁に繰り返した小型の残核である。544～551 は無斑晶質安山岩製の石核である。

552 は黒曜岩製の細石刃で、微細剥離痕がみられる。

礫石器（図 106・107）

553 は槌石で、一側縁に敲打痕が顕著にみられ、打製石器の製作に用いられたものと考えられる。554・555 は凹石で、554 は敲石として、555 は磨石・敲石兼用として使用されている。556～562 は磨石で、両面に使用によるものと思われる磨滅痕がみられ、敲石としても使用されたものがある。

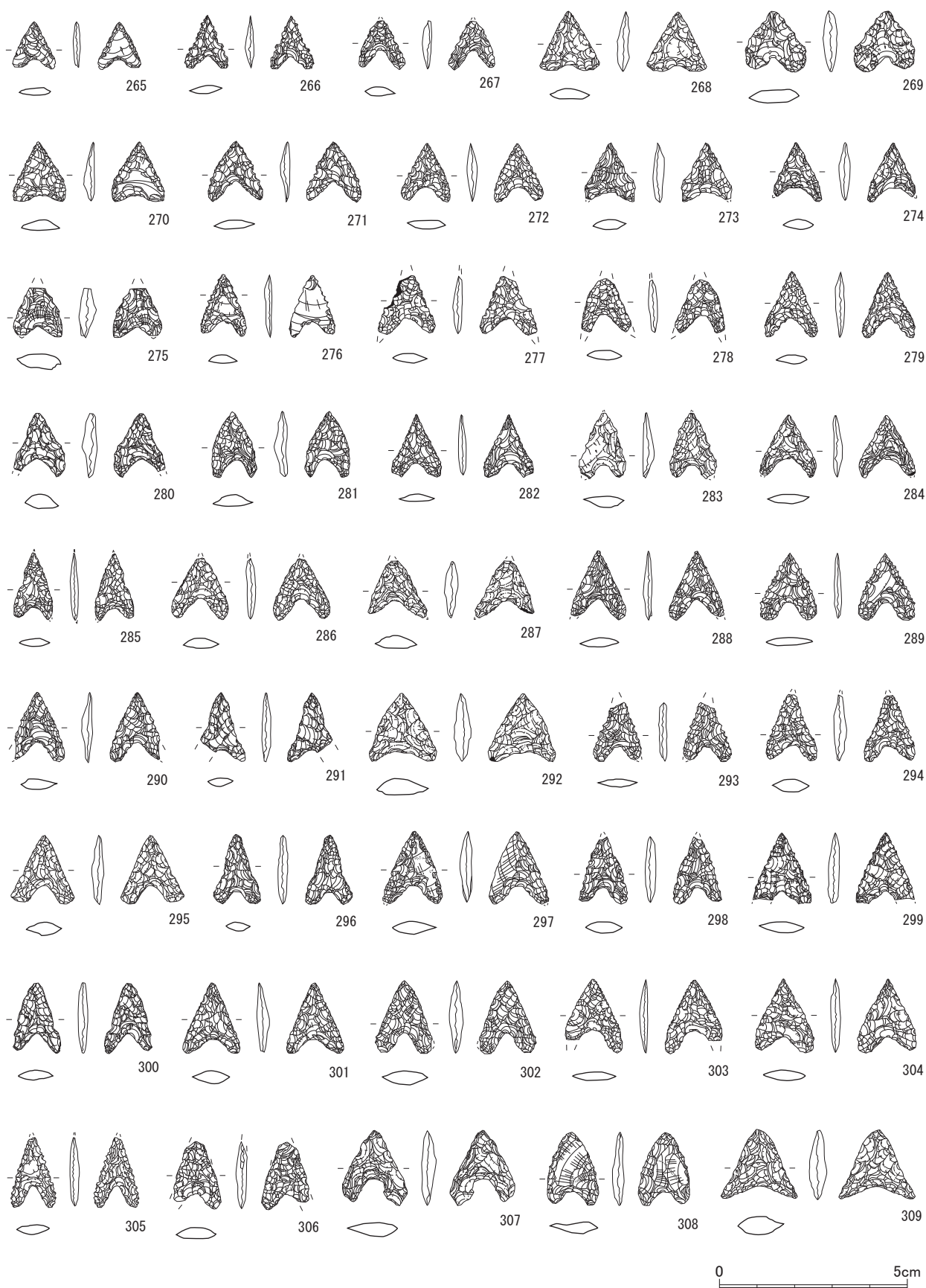


図 91 1B 区出土縄文時代の石器 1 (2/3)

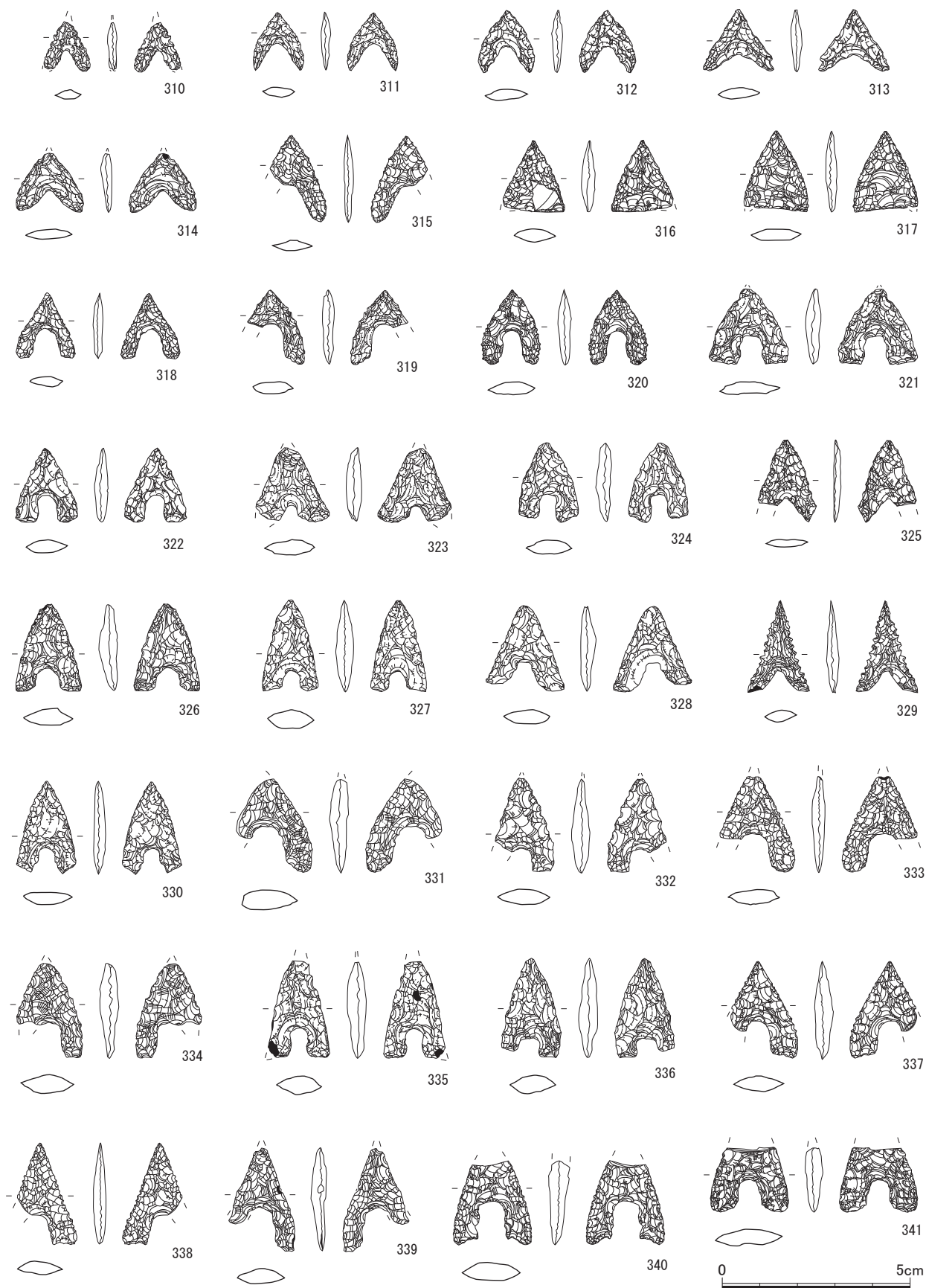


図 92 1B 区出土縄文時代の石器 2 (2/3)

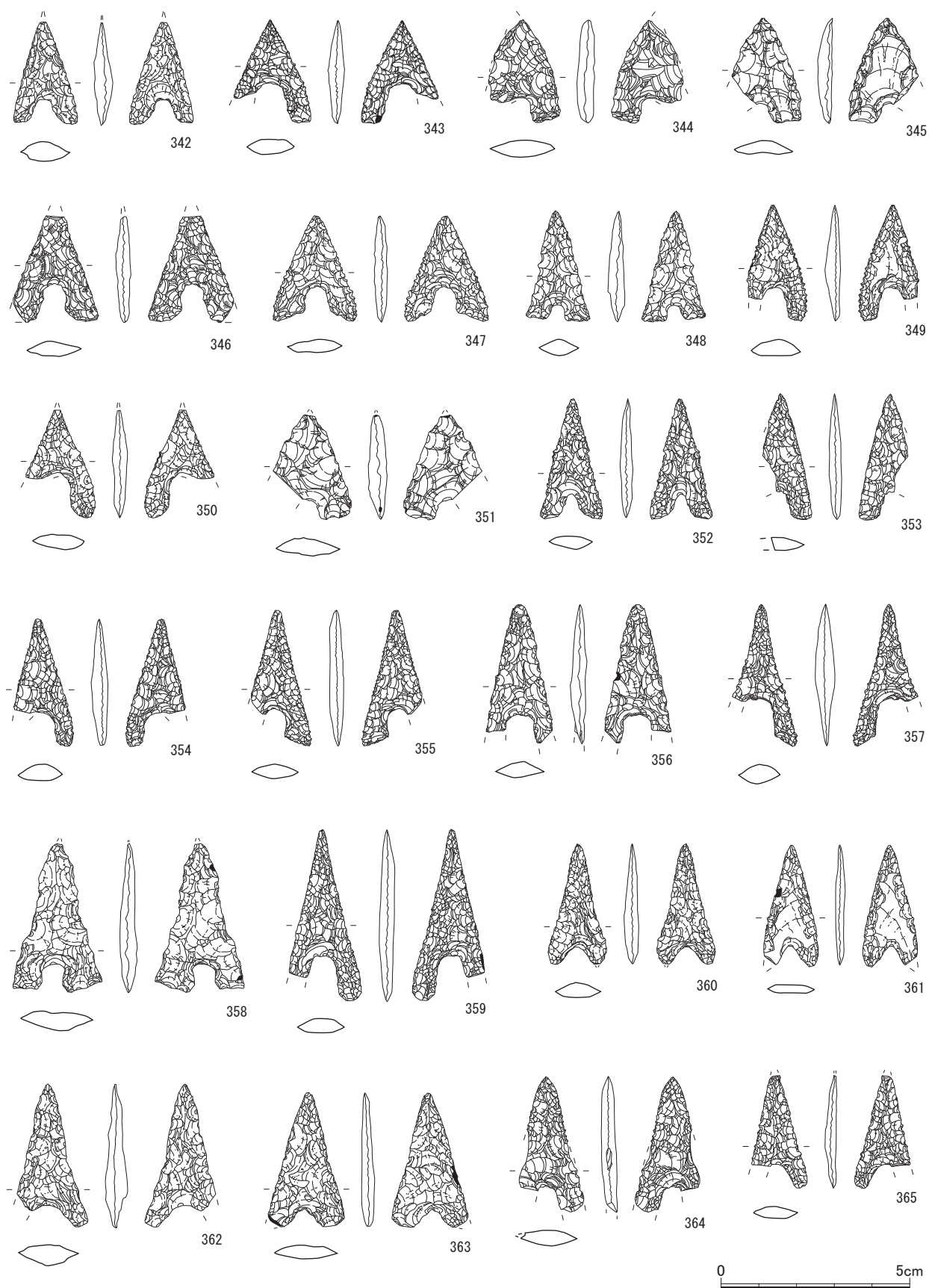


図 93 1B 区出土縄文時代の石器 3 (2/3)

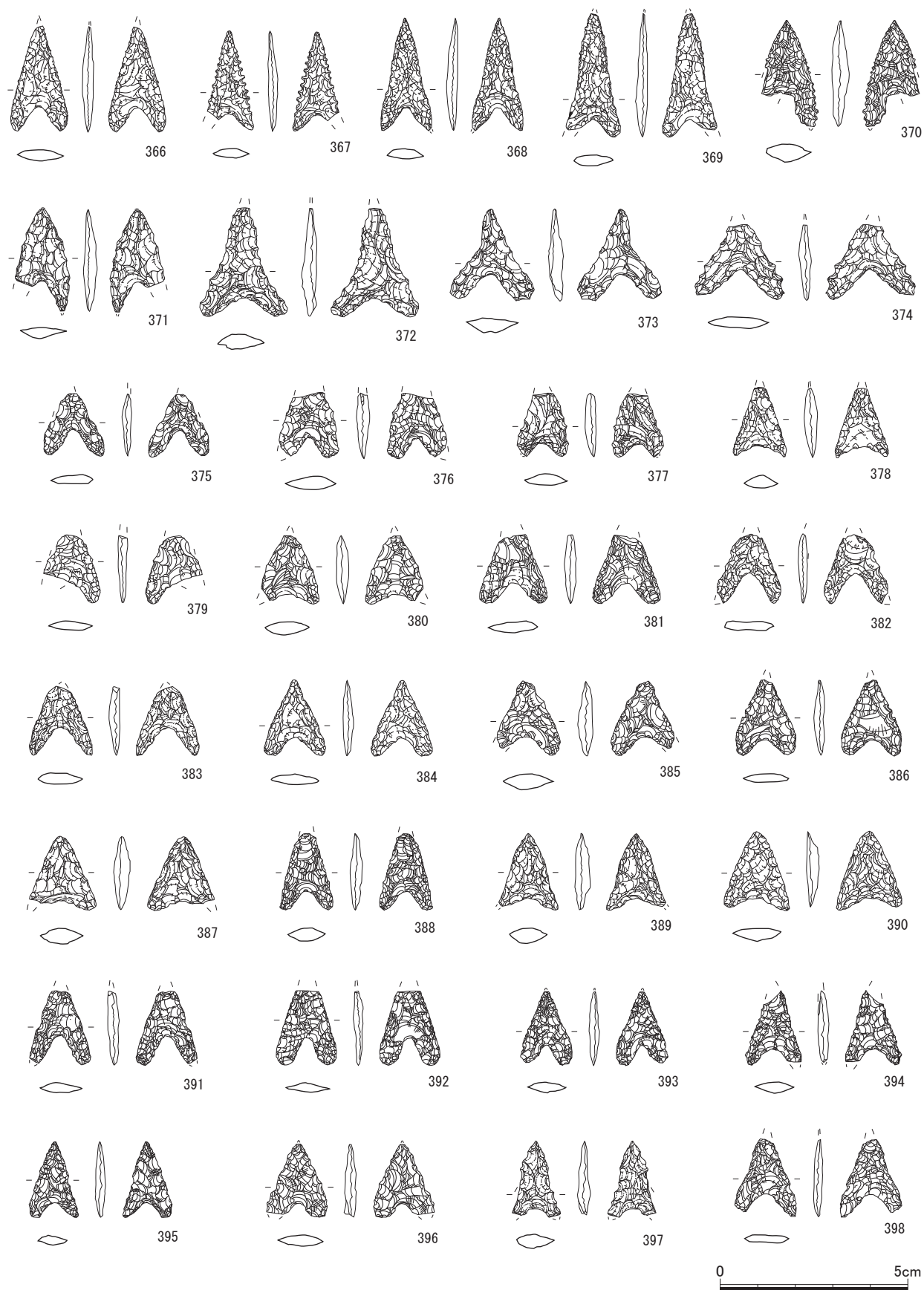


図 94 1B 区出土縄文時代の石器 4 (2/3)

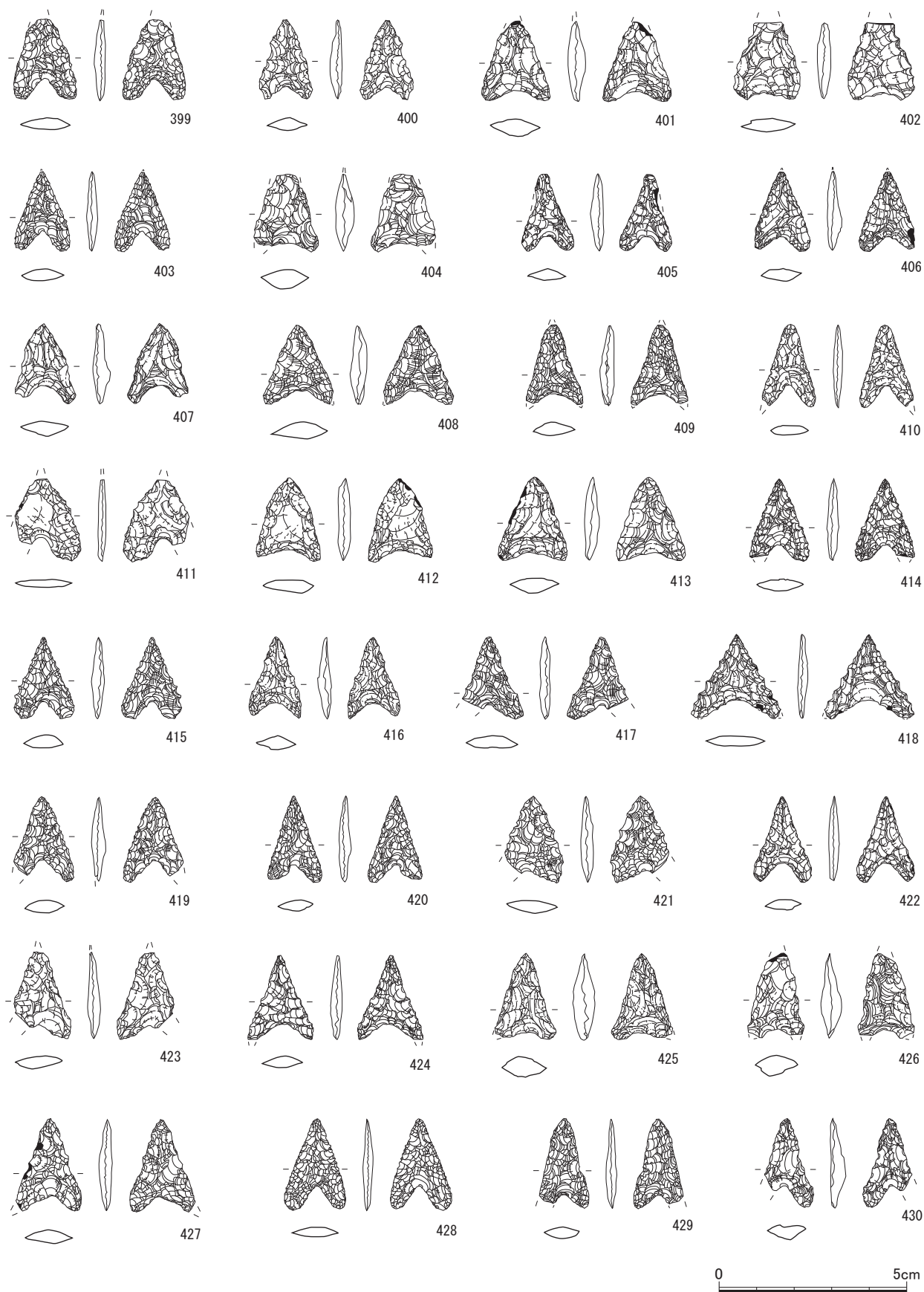


図 95 1B 区出土縄文時代の石器 5 (2/3)

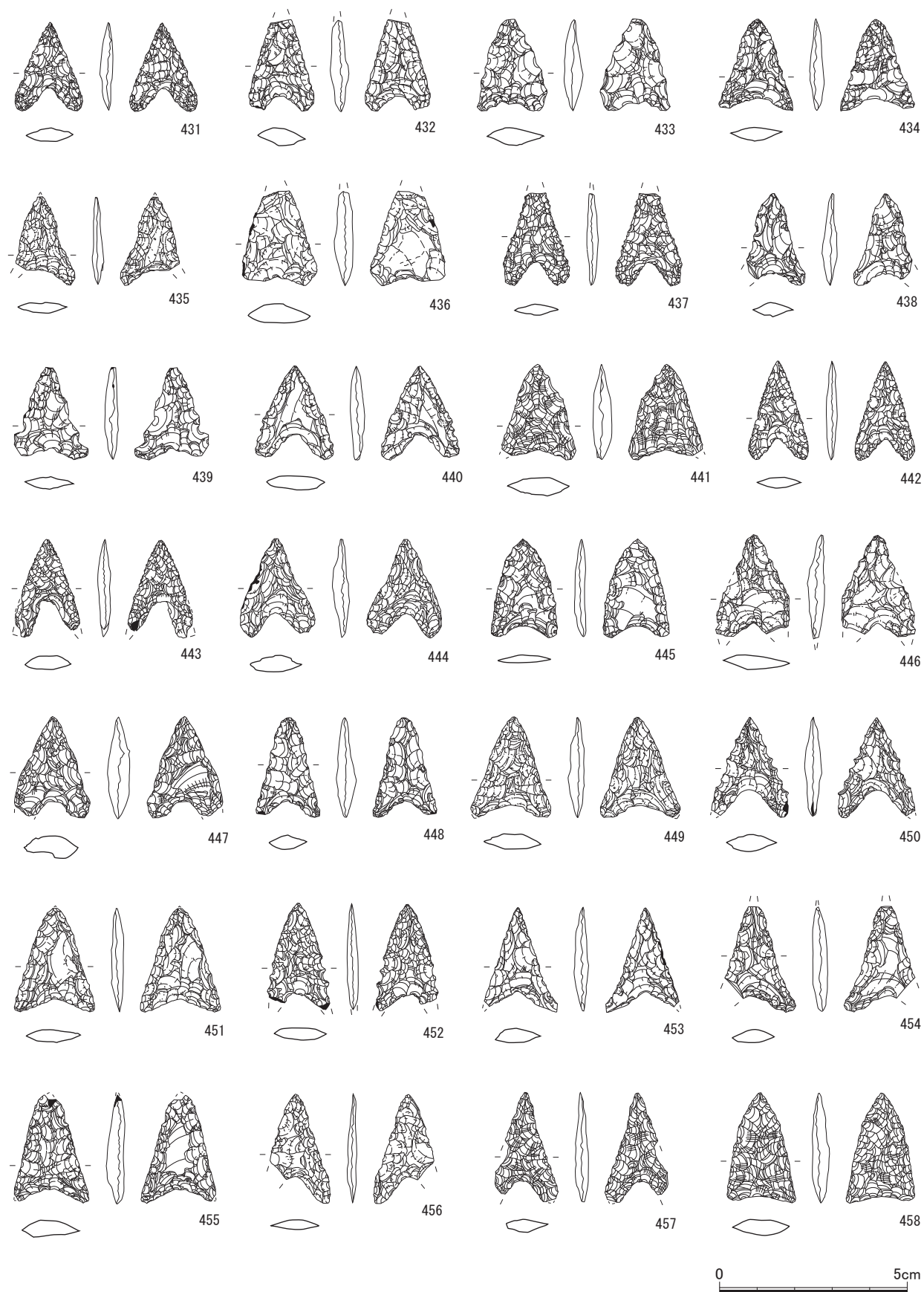


図 96 1B 区出土縄文時代の石器 6 (2/3)

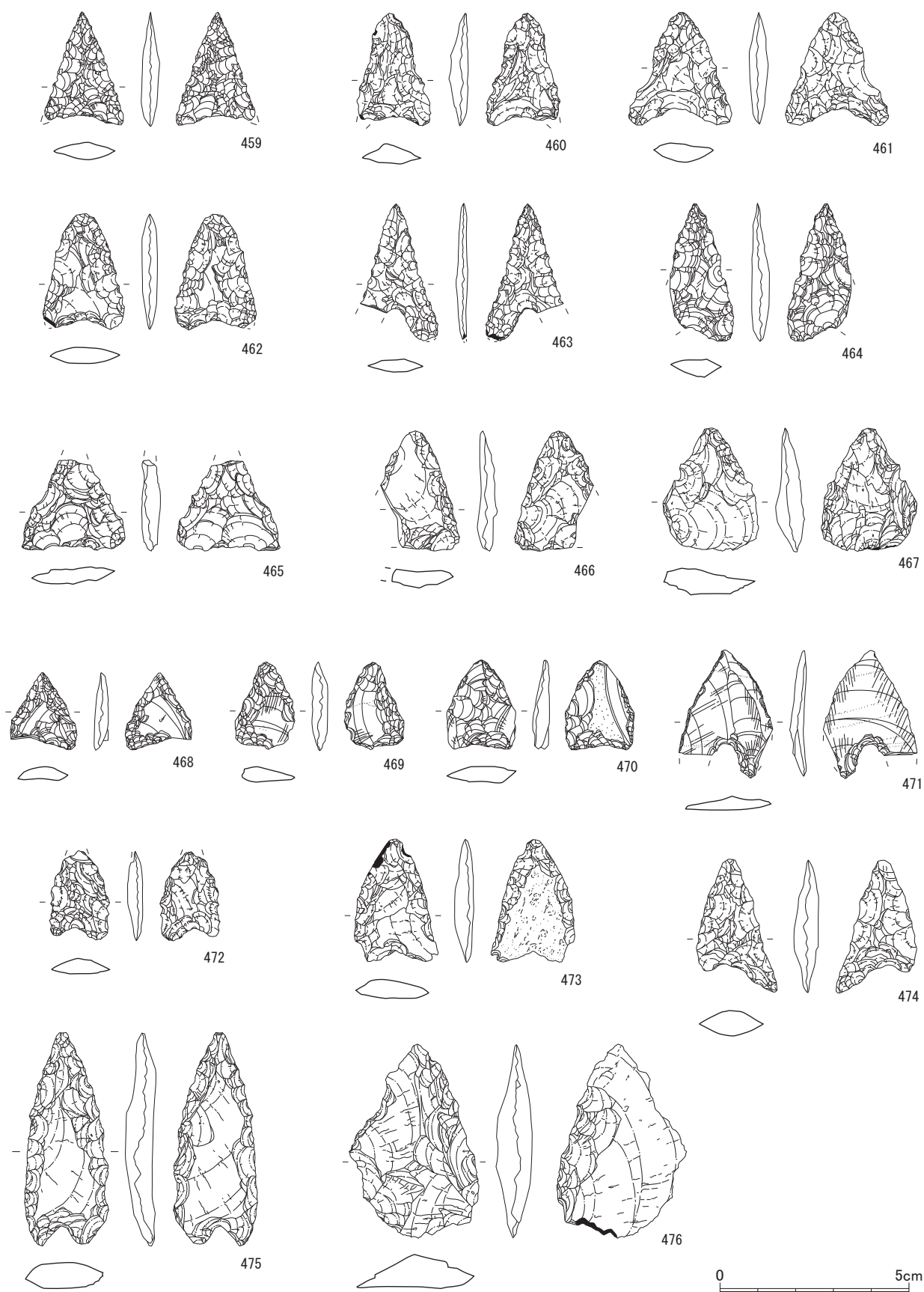


図 97 1B 区出土縄文時代の石器 7 (2/3)

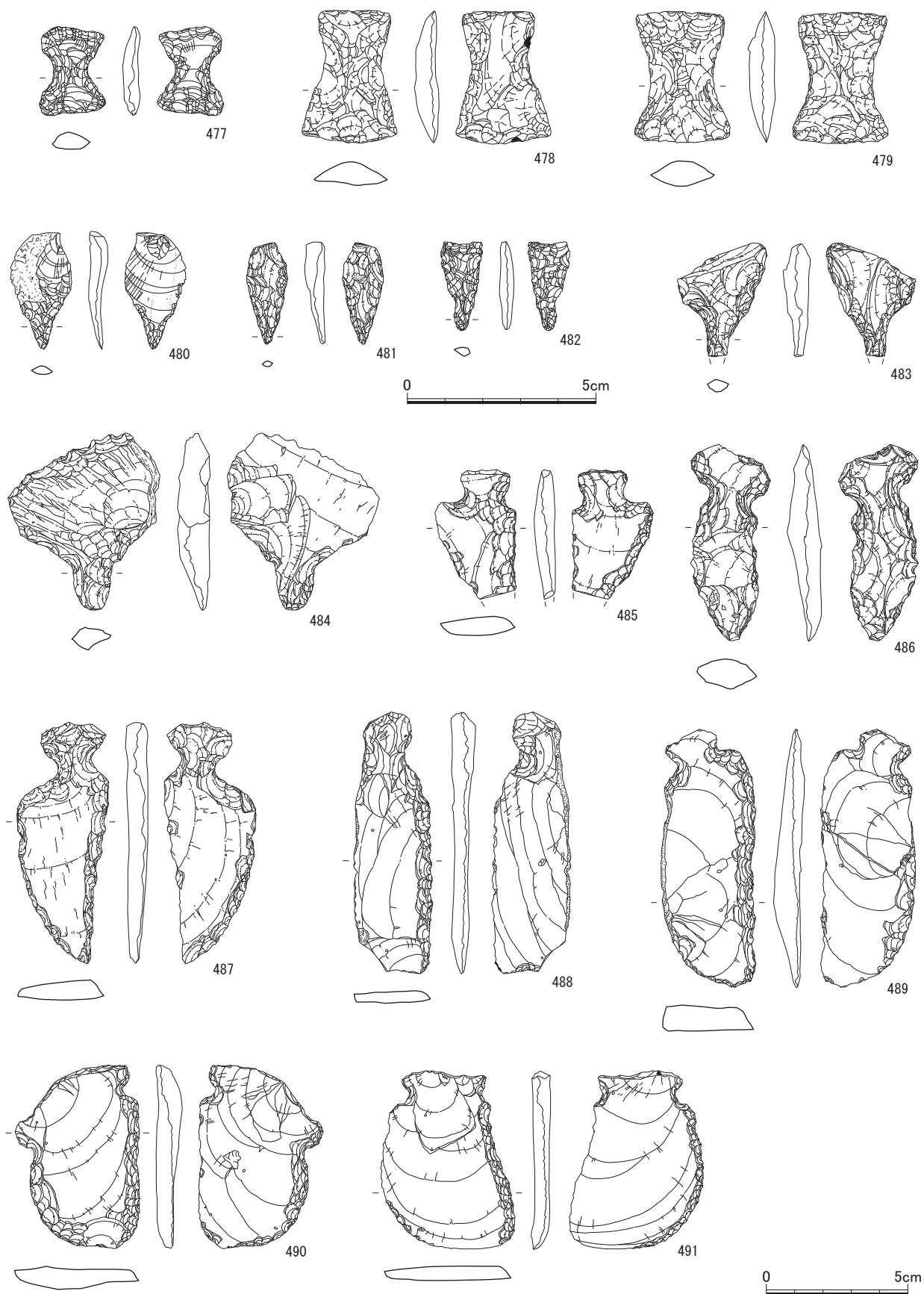


図 98 1B区出土縄文時代の石器8 (477～482は2/3、483～491は1/2)

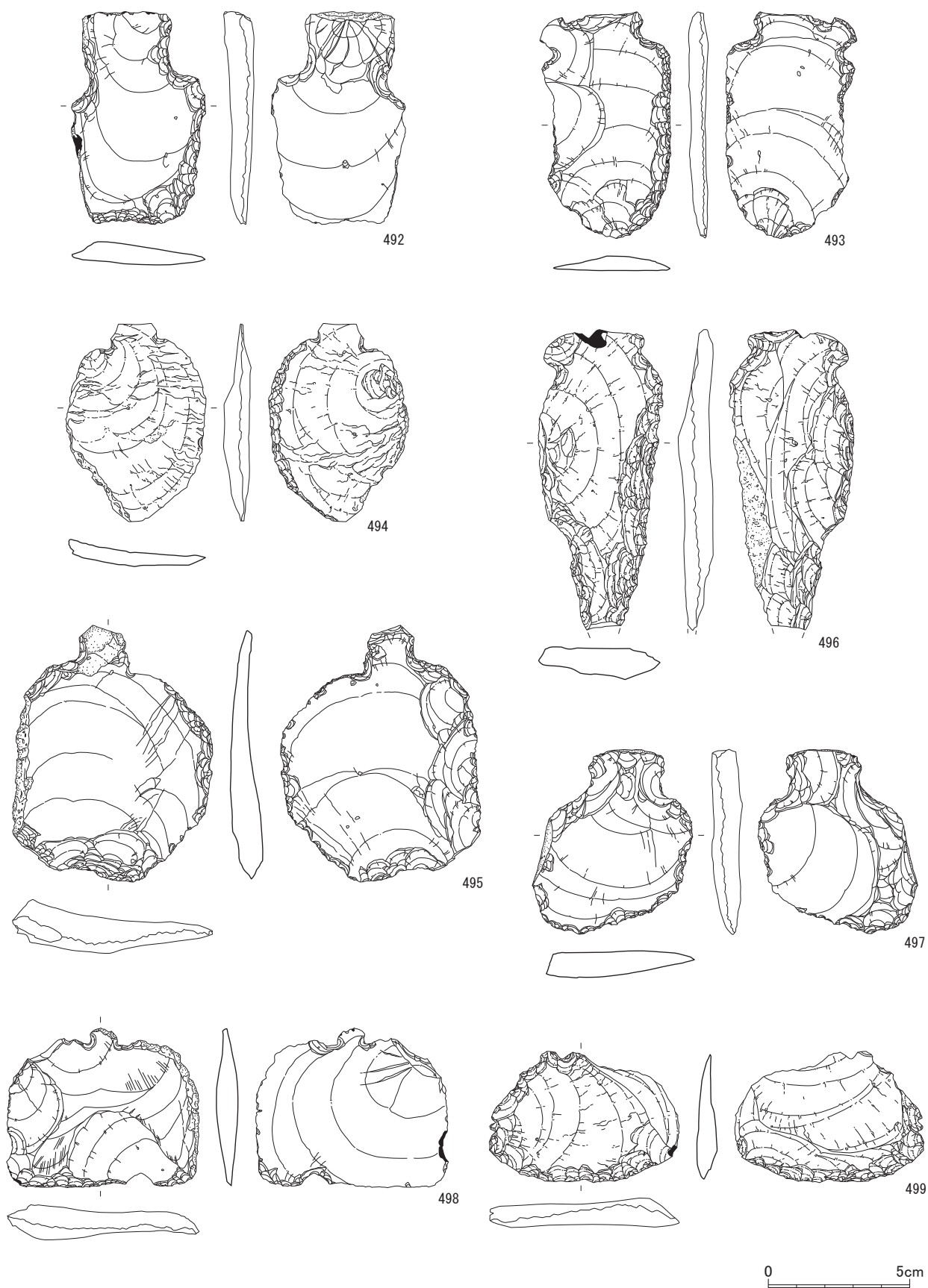


図 99 1B 区出土縄文時代の石器 9 (1/2)

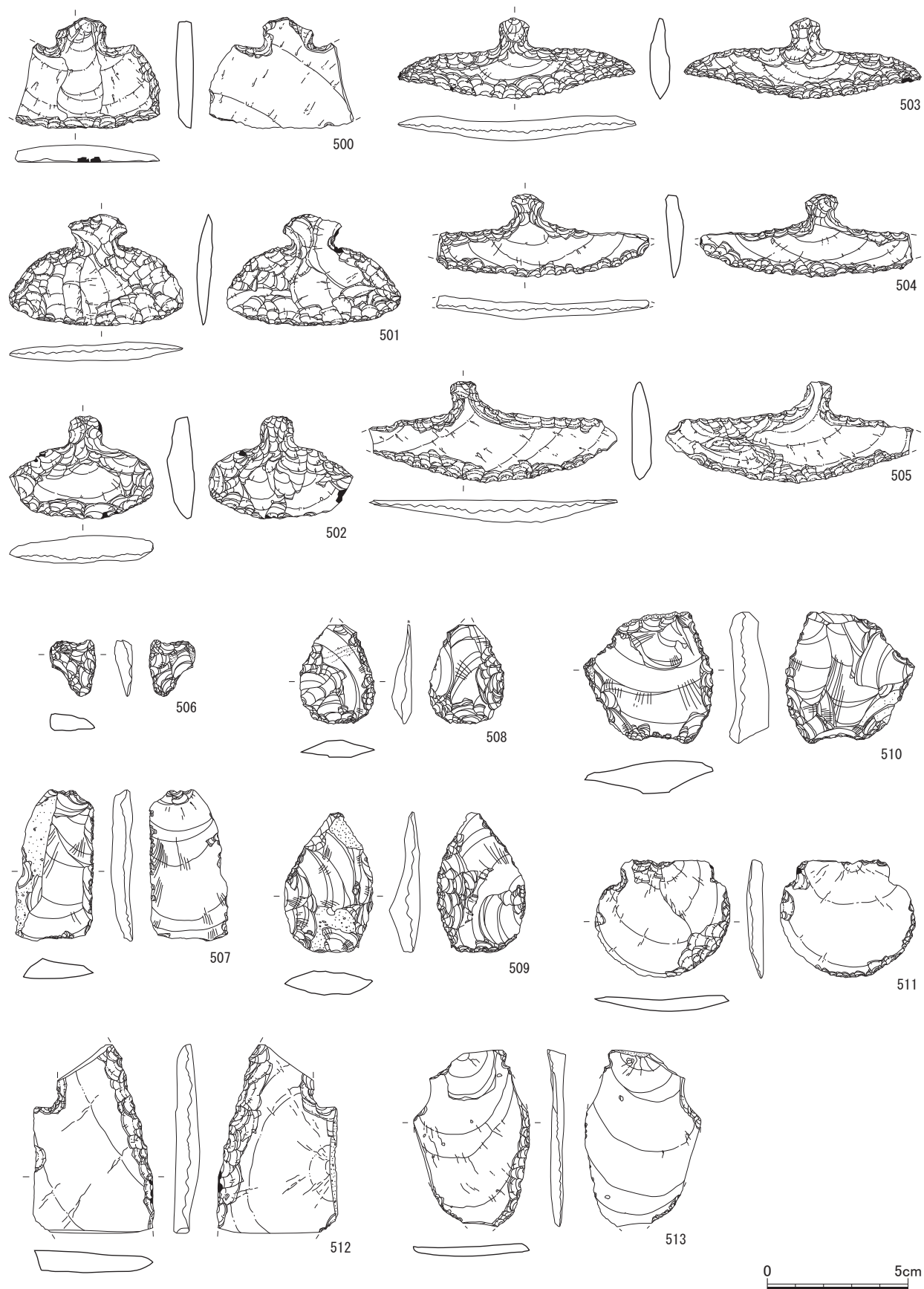


図 100 1B 区出土縄文時代の石器 10 (1/2)

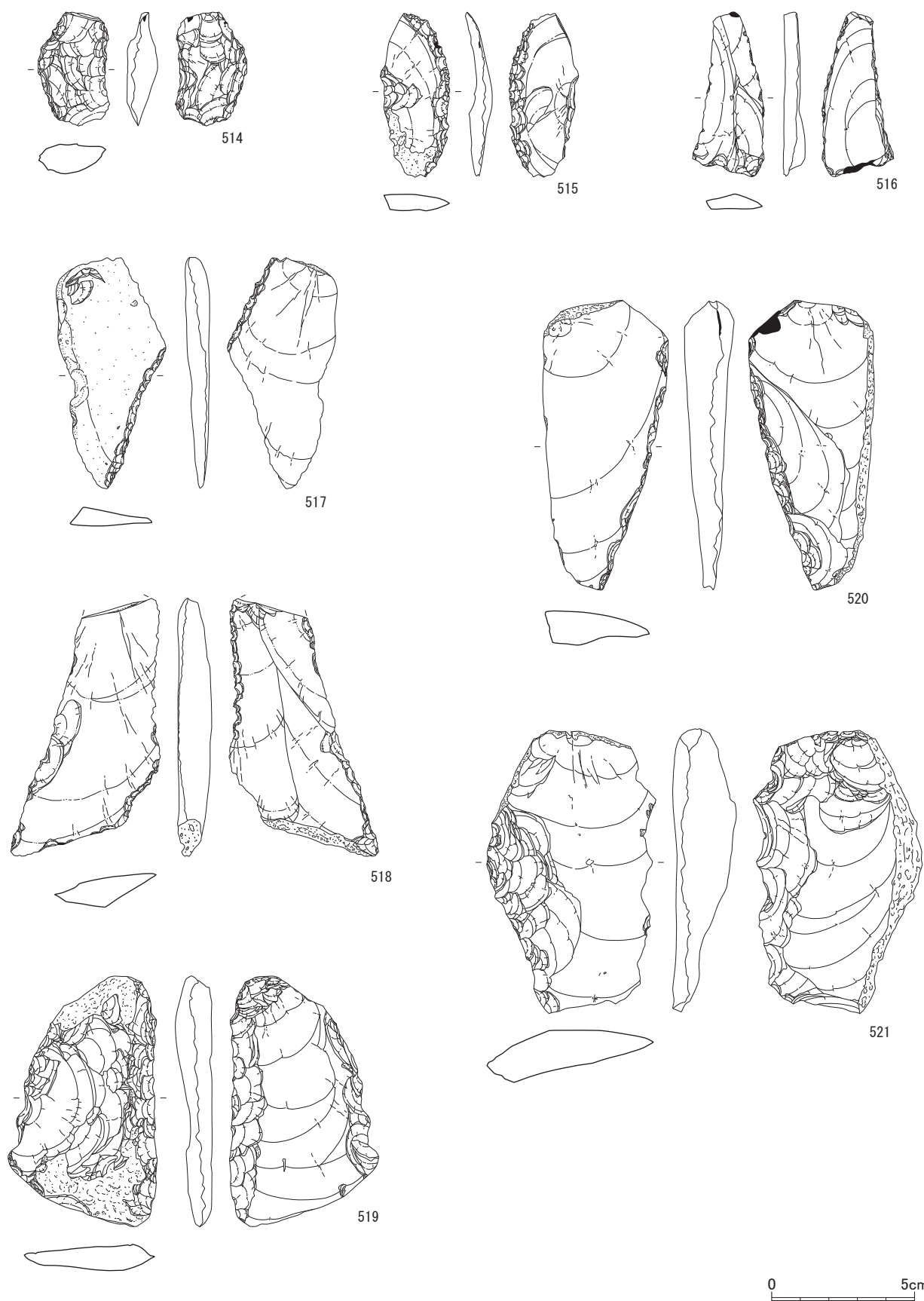


図 101 1B 区出土縄文時代の石器 11 (1/2)

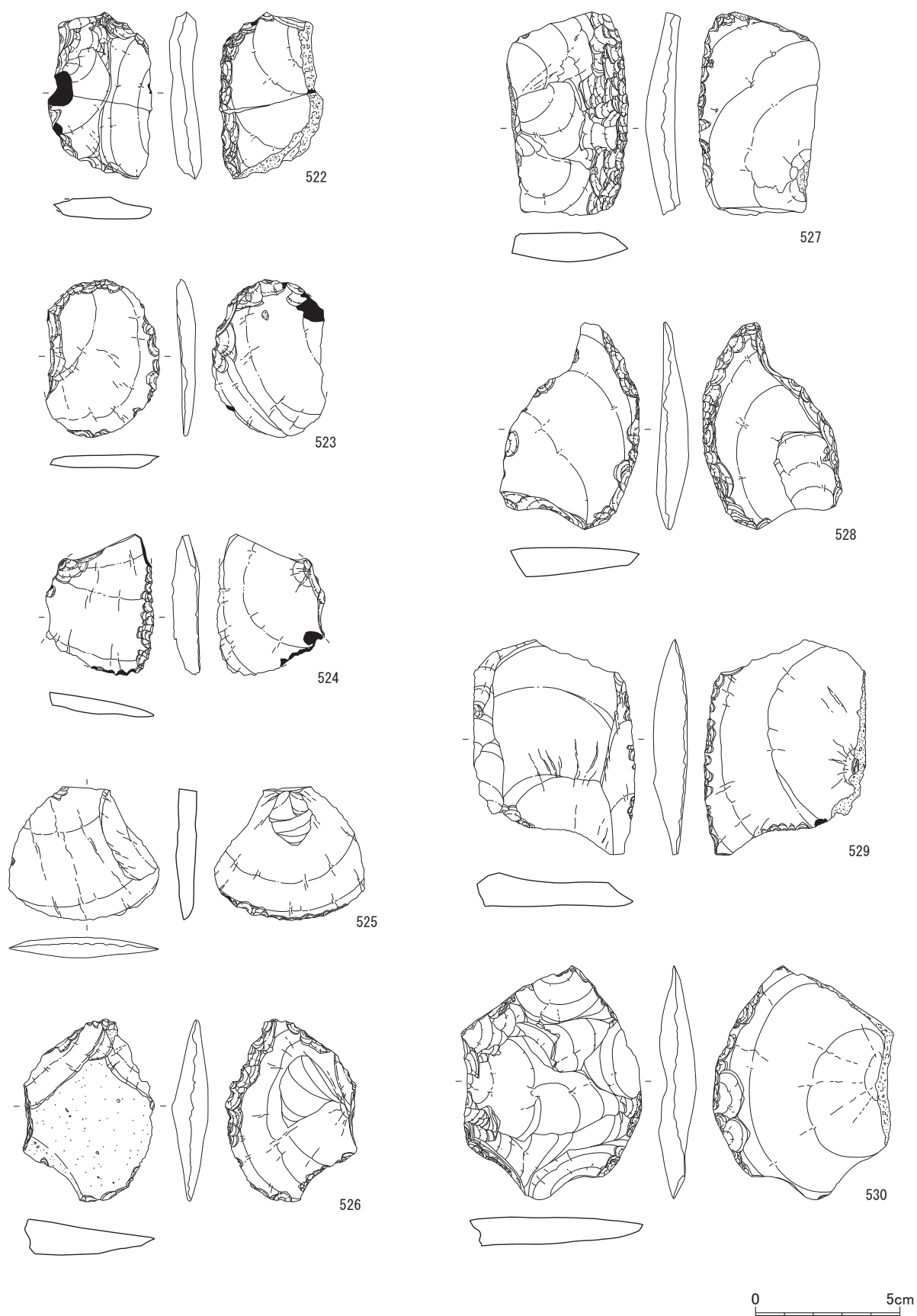


図 102 1B 区出土縄文時代の石器 12 (1/2)

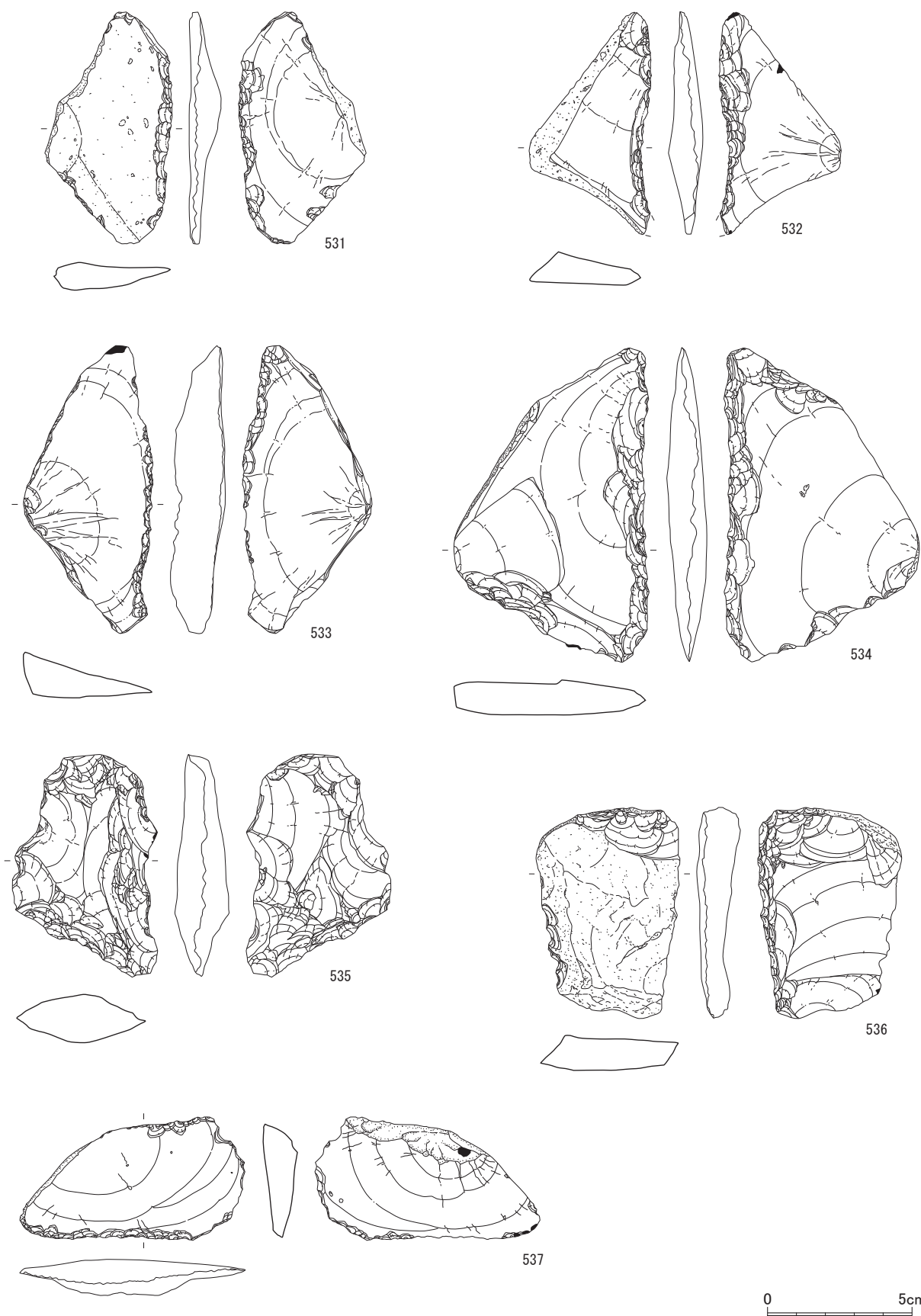


図 103 1B 区出土縄文時代の石器 13 (1/2)

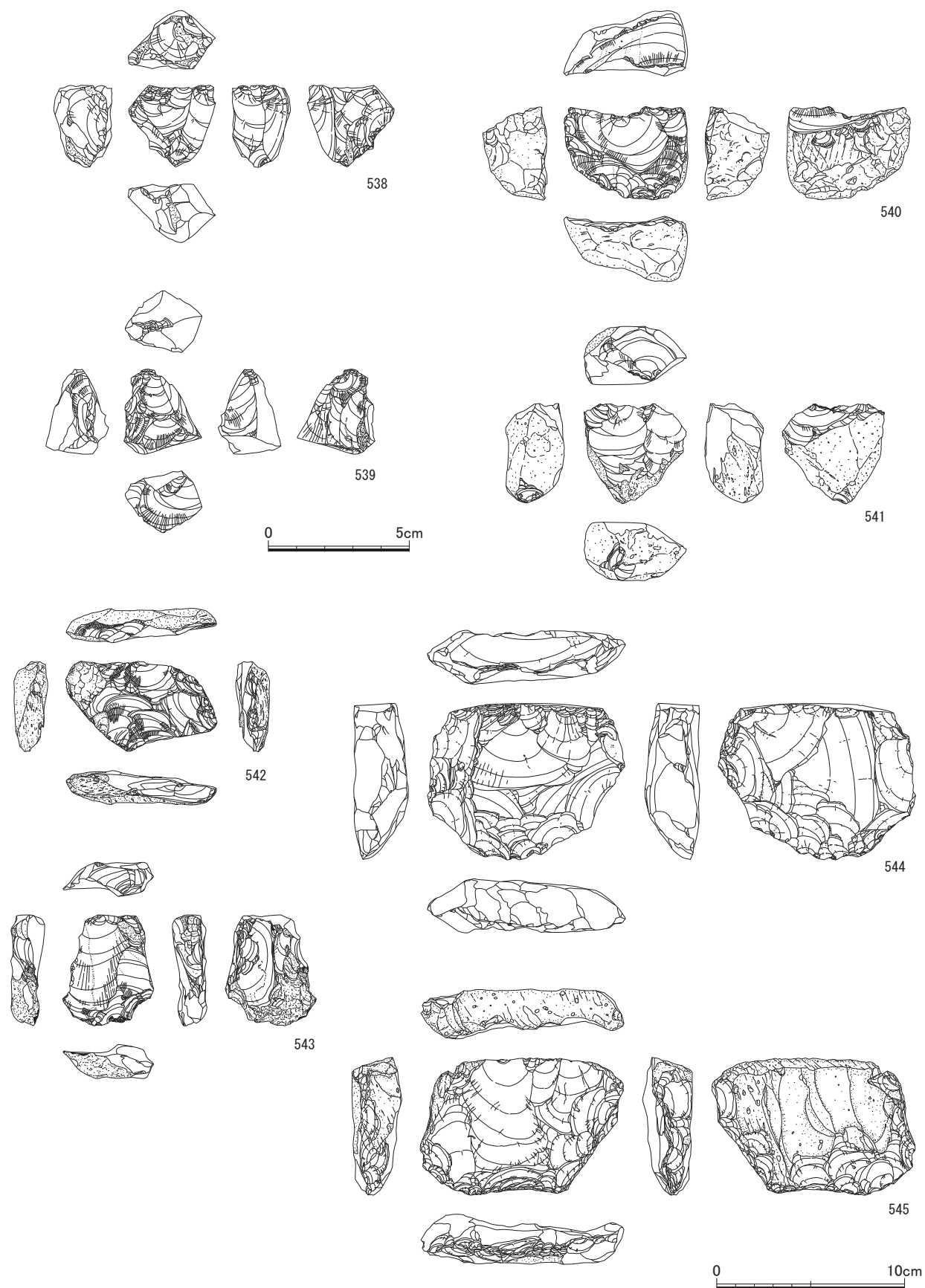


図 104 1B 区出土縄文時代の石器 14 (538～540 は 1/2、541～545 は 1/3)

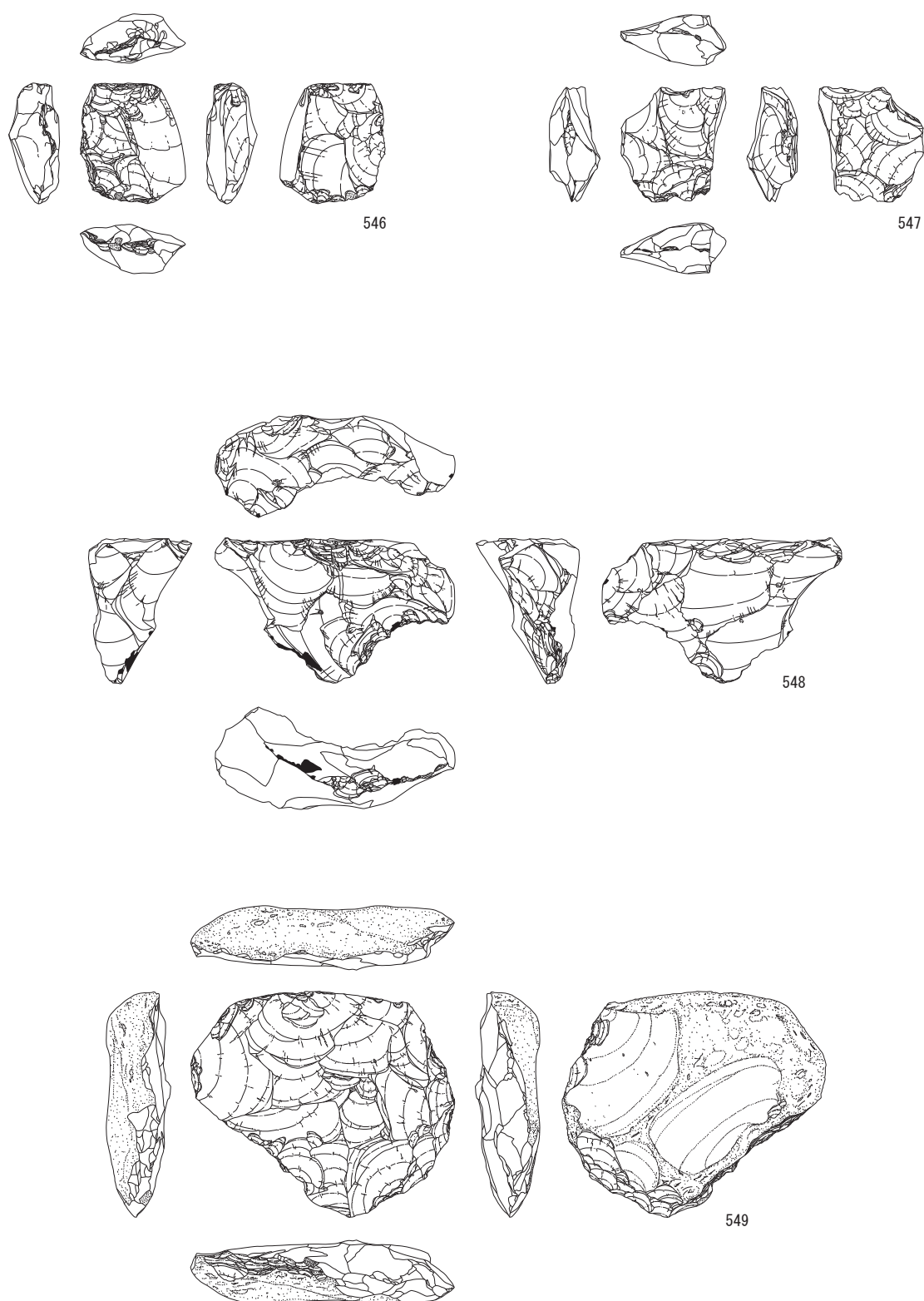


図 105 1B 区出土縄文時代の石器 15 (1/3)

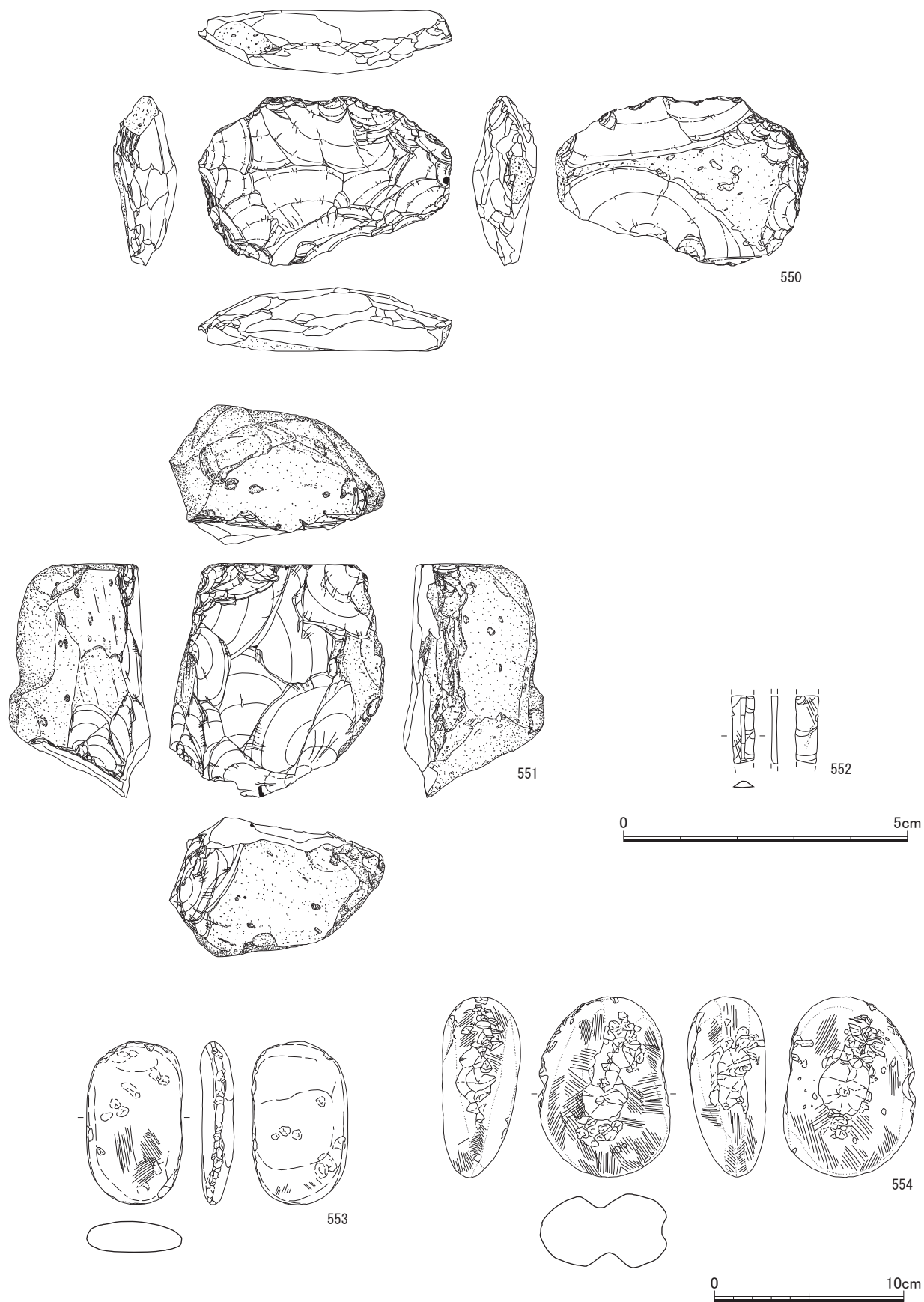


図 106 1B 区出土縄文時代の石器 16 (552 は 1/1、他 1/3)

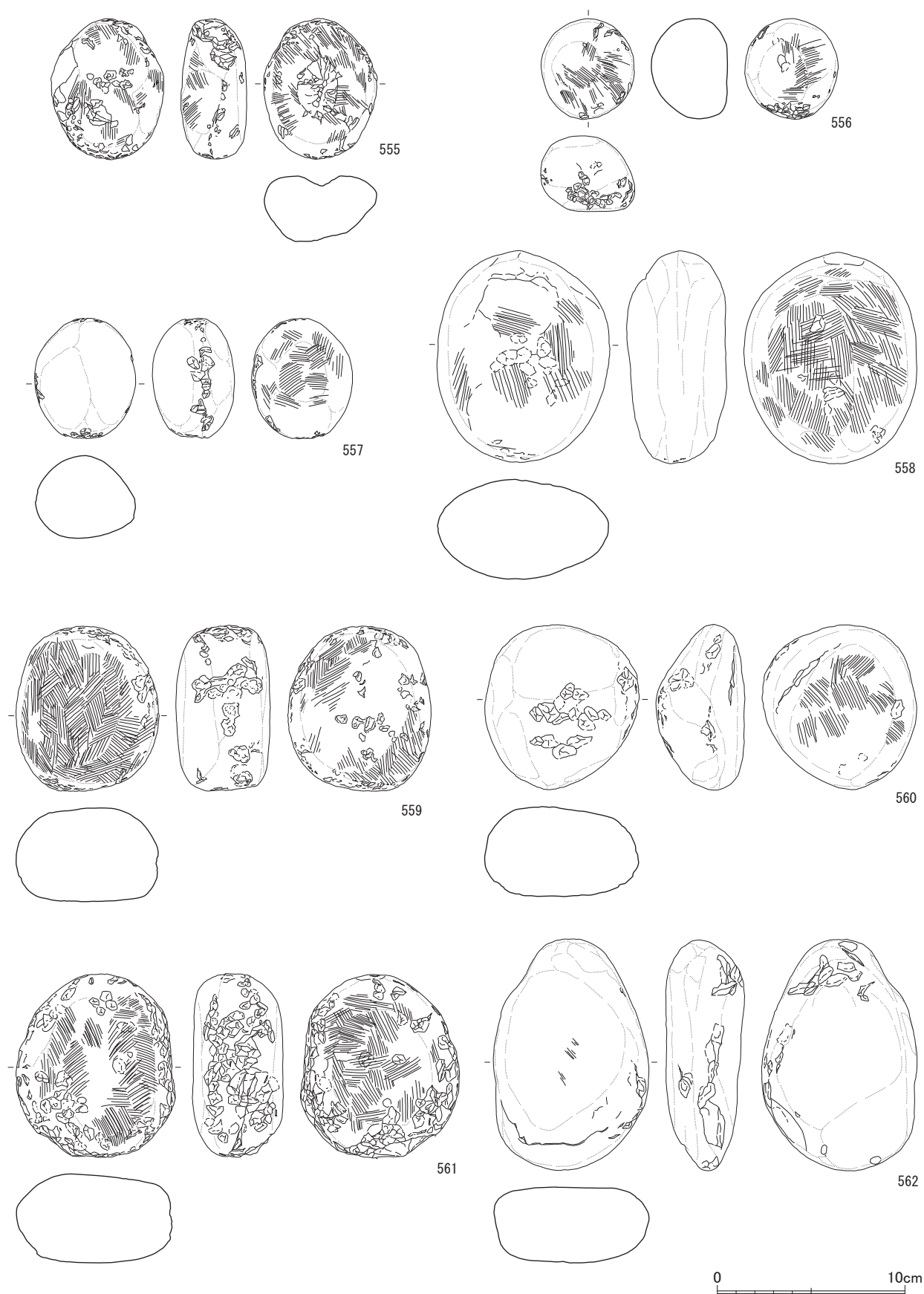


図 107 1B 区出土縄文時代の石器 17 (1/3)

表9 九郎遺跡 1B 区縄文時代の出土土器

挿図・番号 登録番号	出土位置	種別 器種	寸法 cm			色調	備考	写真図版 写真登録番号
			口径	底径	器高			
図 80-167 10001640	6 層下位 7 層	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：にぶい黄橙・黒褐 内：にぶい黄橙・褐灰	外面煤付着	写真図版 32-167 20102852・2853
図 80-168 10001638	6 層下位	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：黒褐 内：にぶい黄橙・褐灰	外面煤付着	写真図版 32-168 20102833・2834
図 80-169 10001666	6 層上位 7 層	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：橙 内：にぶい橙		写真図版 32-169 20103749・3750
図 80-170 10001637	6 層下位	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：黒褐 内：にぶい黄橙・灰黄褐	外面煤付着	写真図版 32-170 20102831・2832
図 80-171 10001636	6 層上位	縄文土器 深鉢	-	-	-	褐灰		写真図版 32-171 20102830
図 80-172 10001635	7 層	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：褐灰 内：にぶい黄褐・褐灰	外面煤付着	写真図版 32-172 20102829
図 80-173 10001633	6 層 上位・下位	縄文土器 深鉢	25.0*	-	-	にぶい黄橙・浅黄	外面煤付着	写真図版 32-173 20102858
図 80-174 10001634	6 層下位 7 層	縄文土器 深鉢	33.8*	-	-	外：橙・黒褐 内：橙・黒	内面炭化物付着	写真図版 32-174 20102856・2857
図 80-175 10001702	6 層下位 7 層	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：にぶい黄橙 内：灰黄褐	外面煤付着	写真図版 32-175 20103755 ～ 3758
図 80-176 10001665	6 層	縄文土器 深鉢	-	-	-	にぶい黄橙	外面煤付着	写真図版 32-176 20102871
図 80-177 10001639	6 層上位	縄文土器 深鉢	-	-	-	にぶい黄橙	外面煤付着	写真図版 32-177 20102835
図 81-178 10001699	5 層 6 層上位	縄文土器 深鉢	30.0*	-	-	外：褐灰 内：灰褐・にぶい黄橙	外面煤付着	写真図版 33-178 20102902・2903
図 81-179 10001669	6 層上位	縄文土器 深鉢	-	-	-	にぶい黄橙	外面煤付着	写真図版 33-179 20103754
図 81-180 10001667	6 層下位	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：橙・黒褐 内：橙		写真図版 33-180 20102872・2873
図 81-181 10001621	6 層	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：灰黄 内：浅黄		写真図版 33-181 20102819・2820
図 81-182 10001616	6 層下位 7 層	縄文土器 深鉢	24.8*	-	-	外：にぶい黄橙・暗褐 内：浅黄橙・黒		写真図版 33-182 20102848
図 81-183 10001617	6 層 上位・下位	縄文土器 深鉢	24.2*	-	-	外：にぶい黄・褐灰 内：灰黄・黒褐		写真図版 33-183 20102845 ～ 2847
図 81-184 10002425	7 層	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：にぶい橙 内：にぶい褐・灰褐		写真図版 33-184 20102931
図 81-185 10002424	6・7 層	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：灰褐・橙 内：灰黄褐		写真図版 33-185 20102930
図 82-186 10001625	6 層上位	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：暗灰黄 内：にぶい橙	外面煤付着	写真図版 33-186 20102823
図 82-187 10001626	6 層上位	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：にぶい褐・褐灰 内：褐灰	外面煤付着	写真図版 33-187 20102824
図 82-188 10001697	6 層 上位・下位	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：にぶい褐 内：にぶい黄褐・黒褐	外面煤付着	写真図版 33-188 20102914
図 82-189 10001631	6 層上位	縄文土器 深鉢	-	-	-	にぶい黄橙		写真図版 33-189 20102827
図 82-190 10001629	7 層	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：浅黄 内：にぶい黄		写真図版 33-190 20102825
図 82-191 10001630	6 層上位	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：橙 内：にぶい黄橙		写真図版 33-191 20102826
図 82-192 10001646	6 ～ 7 層	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：橙 内：明黄褐		写真図版 33-192 20102841
図 82-193 10001642	6 層	縄文土器 深鉢	-	13.8*	-	橙		写真図版 33-193 20102837
図 83-194 10001660	6 層 上位・下位	縄文土器 深鉢	28.4*	-	-	外：褐灰・灰黄褐 内：灰黄褐	外面煤付着	写真図版 34-194 20102911
図 83-195 10001664	6 層 上位・下位	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：明赤褐 内：橙・黄橙		写真図版 34-195 20102870
図 83-196 10001663	6 層 上位・下位	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：明赤褐 内：にぶい赤褐・にぶい褐		写真図版 34-196 20102869
図 83-197 10001655	6 層 上位・下位	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：灰褐 内：橙	外面煤付着	写真図版 34-197 20102863
図 83-198 10001654	6 層 上位・下位	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：灰褐 内：にぶい褐・灰黄褐	外面煤付着	写真図版 34-198 20102862
図 83-199 10001656	6 層上位	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：灰褐 内：にぶい褐	外面煤付着	写真図版 34-199 20102864

表9 九郎遺跡 1B区縄文時代の出土土器

挿図・番号 登録番号	出土位置	種別 器種	寸法 cm			色調	備考	写真図版 写真登録番号
			口径	底径	器高			
図 83-200 10001661	6 層上位	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：橙・にぶい黄褐 内：灰黄褐		写真図版 34-200 20102867
図 83-201 10001632	7 層	縄文土器 深鉢	-	-	-	にぶい黄橙		写真図版 34-201 20102828
図 83-202 10001658	6 層上位	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：にぶい黄橙 内：灰褐	外面煤付着	写真図版 34-202 20102866
図 83-203 10001651	6 層下位	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：橙・黒褐 内：橙		写真図版 34-203 20102860・2861
図 83-204 10001652	5 層 6 層上位	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：にぶい黄橙 内：にぶい黄褐・灰黄褐		写真図版 34-204 20102915
図 83-205 10001649	6 層上位	縄文土器 深鉢	-	-	-	灰黄褐		写真図版 34-205 20102843
図 83-206 10001648	6 層上位	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：黒褐・灰黄褐 内：黒褐		写真図版 34-206 20102842
図 83-207 10001657	6 層下位	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：橙・にぶい褐 内：黒褐		写真図版 34-207 20102865
図 83-208 10001662	5 層	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：橙 内：橙・にぶい褐		写真図版 34-208 20102868
図 83-209 10001650	6 層上位	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：灰黄褐 内：灰黄褐・明黄褐		写真図版 34-209 20102844
図 83-210 10001647	6 層 上位・下位	縄文土器 深鉢	-	-	-	黒褐・にぶい黄橙		写真図版 34-210 20102855
図 83-211 10001698	5 層	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：にぶい赤褐 内：にぶい褐		写真図版 34-211 20102901
図 84-212 10001700	6 層上位	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：灰黄褐・褐灰 内：にぶい黄橙	外面煤付着	写真図版 34-212 20102905・2907
図 84-213 10001677	6 層	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：にぶい橙 内：にぶい黄橙		写真図版 34-213 20102882
図 84-214 10001705	6 層上位 7 層	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：にぶい褐・黒褐 内：にぶい黄橙		写真図版 34-214 20102918
図 84-215 10001706	6 層 上位・下位	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：にぶい褐・黒褐 内：にぶい黄橙	外面煤付着	写真図版 34-215 20102919
図 84-216 10001670	5 層	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：にぶい黄橙 内：灰黄橙	外面煤付着	写真図版 34-216 20102875
図 84-217 10001675	6 層上位	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：明赤褐・黒褐 内：橙		写真図版 34-217 20102880
図 84-218 10001673	5 層	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：にぶい黄褐 内：にぶい黄橙	外面煤付着	写真図版 34-218 20102878
図 84-219 10001672	6 層上位	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：灰褐 内：にぶい黄橙		写真図版 35-219 20102877
図 84-220 10001695	5・6 層	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：橙・灰黄褐 内：にぶい黄橙	外面煤付着	写真図版 35-220 20102899
図 84-221 10001696	6 層上位	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：にぶい黄橙 内：にぶい黄褐	外面煤付着	写真図版 35-221 20102900
図 84-222 10001701	6 層上位	縄文土器 深鉢	-	-	-	にぶい黄褐		写真図版 35-222 20102909
図 84-223 10001678	6 層	縄文土器 深鉢	-	-	-	にぶい黄橙		写真図版 35-223 20102883
図 84-224 10001680	5・6 層	縄文土器 深鉢	-	-	-	明黄褐・褐灰	外面煤付着	写真図版 35-224 20102912
図 84-225 10001679	5 層	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：黄灰 内：黒褐	外面煤付着	写真図版 35-225 20102884
図 84-226 10001681	6 層上位	縄文土器 深鉢	-	-	-	にぶい黄橙	外面煤付着	写真図版 35-226 20102885
図 84-227 10001689	6 層上位	縄文土器 深鉢	-	-	-	灰黄褐		写真図版 35-227 20102893
図 84-228 10001692	6 層 上位・下位	縄文土器 深鉢	-	-	-	褐灰	外面煤付着	写真図版 35-228 20102896
図 84-229 10001693	6 層上位	縄文土器 深鉢	-	-	-	褐灰		写真図版 35-229 20102897
図 84-230 10001683	5 層	縄文土器 深鉢	-	-	-	黒褐	外面煤付着	写真図版 35-230 20102887
図 84-231 10001682	6 層 上位・下位	縄文土器 深鉢	-	-	-	にぶい黄橙	外面煤付着	写真図版 35-231 20102886
図 84-232 10001691	6 層上位	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：橙・黒褐 内：橙・灰褐	外面煤付着	写真図版 35-232 20102895

表9 九郎遺跡 1B 区縄文時代の出土土器

挿図・番号 登録番号	出土位置	種別 器種	寸法 cm			色調	備考	写真図版 写真登録番号
			口径	底径	器高			
図 84-233 10001676	6 層下位	縄文土器 深鉢	-	-	-	にぶい黄橙		写真図版 35-233 20102881
図 85-234 10001703	5～6 層	縄文土器 深鉢	-	-	-	にぶい黄褐		写真図版 35-234 20102917
図 85-235 10001685	6 層上位	縄文土器 深鉢	-	-	-	褐灰・黒褐	外面煤付着	写真図版 35-235 20102889
図 85-236 10001688	6 層下位	縄文土器 深鉢	-	-	-	黒褐	外面煤付着	写真図版 35-236 20102892
図 85-237 10001686	5・6 層	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：褐灰・にぶい黄褐 内：灰褐・にぶい黄褐	外面煤付着	写真図版 35-237 20102890
図 85-238 10001687	6 層上位	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：黒褐 内：橙	外面煤付着	写真図版 35-238 20102891
図 85-239 10001671	5 層	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：橙 内：にぶい黄橙	外面煤付着	写真図版 35-239 20102876
図 85-240 10001704	6 層上位	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：灰黄褐 内：にぶい黄褐・褐灰	外面煤付着	写真図版 35-240 20102928
図 85-241 10001674	6 層下位	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：褐灰・黒褐 内：にぶい黄褐		写真図版 35-241 20102879
図 85-242 10001694	6 層上位	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：にぶい橙・黒褐 内：橙	外面煤付着	写真図版 35-242 20102898
図 85-243 10001684	5・6 層	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：にぶい黄橙 内：灰黄褐	外面煤付着	写真図版 35-243 20102888
図 85-244 10001623	6 層上位	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：灰黄褐 内：灰黄・暗灰黄	外面煤付着	写真図版 35-244 20102821
図 85-245 10001622	6 層上位	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：にぶい黄橙 内：灰黄	外面煤付着	写真図版 35-245 20102850
図 85-246 10001707	6 層 上位・下位	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：褐灰・黒褐 内：にぶい褐・褐灰	外面煤付着	写真図版 36-246 20102929
図 85-247 10001619	6 層	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：にぶい橙 内：にぶい黄橙		写真図版 36-247 20102849
図 85-248 10001620	5 層 6 層上位	縄文土器 深鉢	-	-	-	にぶい黄橙		写真図版 36-248 20102818
図 85-249 10001628	6 層 上位・下位	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：褐灰 内：にぶい黄橙	外面煤付着	写真図版 36-249 20102851
図 86-250 10002428	6 層上位	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：橙・にぶい黄橙 内：橙		写真図版 36-250 20102923
図 86-251 10002427	5 層	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：にぶい橙 内：にぶい黄橙・灰黄褐		写真図版 36-251 20102922
図 86-252 10002426	6 層上位	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：黒褐 内：にぶい褐	外面煤付着	写真図版 36-252 20102920・2921
図 86-253 10002429	5 層 6 層上位	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：灰褐・橙 内：橙・灰黄褐	外面煤付着	写真図版 36-253 20102924～2927
図 87-254 10001618	5 層 6 層	縄文土器 深鉢	23.4*	-	-	にぶい黄橙	外面煤付着	写真図版 36-254 20102859
図 87-255 10001659	6 層 上位・下位	縄文土器 深鉢	24.2*	-	-	外：橙・黒褐 内：黒褐・明赤褐		写真図版 36-255 20102916
図 87-256 10001653	6 層 上位・下位	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：橙 内：にぶい橙・にぶい褐	外面煤付着	写真図版 36-256 20102910
図 87-257 10001624	5 層	縄文土器 深鉢	-	-	-	にぶい褐・褐		写真図版 36-257 20102822
図 87-258 10001627	6 層 上位・下位	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：褐灰 内：橙		写真図版 36-258 20102854
図 87-259 10001668	6 層下位	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：橙 内：にぶい黄橙		写真図版 36-259 20102874
図 87-260 10001645	6 層上位	縄文土器 深鉢	-	5.8*	-	橙		写真図版 36-260 20102840
図 87-261 10001690	6 層下位	縄文土器 深鉢	-	-	-	褐灰		写真図版 36-261 20102894
図 87-262 10001643	5 層	縄文土器 深鉢	-	-	-	橙		写真図版 36-262 20102838
図 87-263 10001641	6 層下位	縄文土器 深鉢	-	9.8*	-	外：黄橙 内：にぶい黄橙		写真図版 36-263 20102836
図 87-264 10001644	6 層上位	縄文土器 深鉢	-	12.4*	-	外：にぶい橙 内：にぶい黄橙・褐灰		写真図版 36-264 20102839

表 10 九郎遺跡 1B 区縄文時代の出土石器

挿図・番号 登録番号	出土位置	種別 器種	寸法 cm			重量 g	石材	備考	写真図版 写真登録番号
			長さ	幅	厚さ				
図 91-265 10000322	6 層	打製石器 石鏃	1.3	1.1	0.2	0.1	黒曜岩	完形	写真図版 37-265 20102999
図 91-266 10000416	5 層	打製石器 石鏃	1.4	1.1	0.2	0.2	黒曜岩	完形	写真図版 37-266 20103092
図 91-267 10000456	6 層上位	打製石器 石鏃	1.3	1.2	0.2	0.2	黒曜岩	先端部欠損	写真図版 37-267 20103131
図 91-268 10000321	6 層	打製石器 石鏃	1.6	1.6	0.3	0.6	無斑品質安山岩	完形	写真図版 37-268 20102997・2998
図 91-269 10000397	6 層下位	打製石器 石鏃	1.6	1.6	0.4	0.8	黒曜岩	完形	写真図版 37-269 20103073
図 91-270 10000330	6 層上位	打製石器 石鏃	1.6	1.4	0.3	0.4	黒曜岩	完形	写真図版 37-270 20103007
図 91-271 10000333	6 層上位	打製石器 石鏃	1.6	1.5	0.3	0.4	黒曜岩	完形	写真図版 37-271 20103010
図 91-272 10000350	6 層上位	打製石器 石鏃	1.6	1.3	0.3	0.4	無斑品質安山岩	完形	写真図版 37-272 20103027
図 91-273 10000355	6 層上位	打製石器 石鏃	1.6	1.3	0.3	0.4	黒曜岩	片脚部欠損	写真図版 37-273 20103761
図 91-274 10000414	5 層	打製石器 石鏃	1.6	1.3	0.3	0.4	無斑品質安山岩	片脚部欠損	写真図版 37-274 20103090
図 91-275 10000447	6 層下位	打製石器 石鏃	1.3	1.3	0.4	0.6	黒曜岩	先端部・片脚部欠損	写真図版 37-275 20103122
図 91-276 10000281	5 層	打製石器 石鏃	1.7	1.2	0.2	0.4	黒曜岩	完形	写真図版 37-276 20102957
図 91-277 10000283	5 層	打製石器 石鏃	1.6	1.5	0.3	0.4	黒曜岩	先端部・片脚部欠損	写真図版 37-277 20102959
図 91-278 10000297	5 層	打製石器 石鏃	1.4	1.3	0.2	0.4	黒曜岩	先端部・両脚部欠損	写真図版 37-278 20102973
図 91-279 10000311	5～6 層	打製石器 石鏃	1.7	1.4	0.2	0.4	黒曜岩	完形	写真図版 37-279 20102987
図 91-280 10000372	6 層下位	打製石器 石鏃	1.7	1.4	0.4	0.6	黒曜岩	片脚部欠損	写真図版 37-280 20103048
図 91-281 10000415	5 層	打製石器 石鏃	1.7	1.2	0.4	0.6	黒曜岩	完形	写真図版 37-281 20103091
図 91-282 10000419	6 層上位	打製石器 石鏃	1.7	1.3	0.2	0.4	黒曜岩	完形	写真図版 37-282 20103095
図 91-283 10000445	6 層上位	打製石器 石鏃	1.7	1.3	0.3	0.4	無斑品質安山岩	先端部・片脚部欠損	写真図版 37-283 20103120
図 91-284 10000458	6 層上位	打製石器 石鏃	1.7	1.5	0.2	0.4	無斑品質安山岩	片脚部欠損	写真図版 37-284 20103133
図 91-285 10000288	5 層	打製石器 石鏃	1.8	1.0	0.2	0.4	黒曜岩	ほぼ完形	写真図版 37-285 20102964
図 91-286 10000295	5 層	打製石器 石鏃	1.6	1.5	0.3	0.4	黒曜岩	先端部欠損	写真図版 37-286 20102971
図 91-287 10000450	6 層下位	打製石器 石鏃	1.5	1.6	0.3	0.5	無斑品質安山岩	先端部・片脚部欠損	写真図版 37-287 20103125
図 91-288 10000334	6 層上位	打製石器 石鏃	1.8	1.5	0.2	0.3	黒曜岩	片脚部欠損	写真図版 37-288 20103011
図 91-289 10000352	6 層上位	打製石器 石鏃	1.8	1.5	0.2	0.4	黒曜岩	完形	写真図版 37-289 20103029
図 91-290 10000356	6 層上位	打製石器 石鏃	1.8	1.3	0.3	0.5	黒曜岩	片脚部一部欠損	写真図版 37-290 20103032
図 91-291 10000405	5 層	打製石器 石鏃	1.8	1.2	0.2	0.2	黒曜岩	片脚部欠損	写真図版 37-291 20103081
図 91-292 10000429	6 層上位	打製石器 石鏃	1.8	1.8	0.5	1.0	無斑品質安山岩	片脚部欠損	写真図版 37-292 20103105
図 91-293 10000432	6 層下位	打製石器 石鏃	1.6	1.3	0.2	0.2	黒曜岩	先端部・片脚部欠損	写真図版 37-293 20103107
図 91-294 10000316	6 層	打製石器 石鏃	1.8	1.4	0.3	0.4	黒曜岩	先端部欠損	写真図版 37-294 20102992
図 91-295 10000348	6 層上位	打製石器 石鏃	1.8	1.7	0.3	0.6	無斑品質安山岩	完形	写真図版 37-295 20103025
図 91-296 10000325	6 層上位	打製石器 石鏃	1.9	1.3	0.3	0.4	黒曜岩	完形	写真図版 37-296 20103002
図 91-297 10000337	6 層上位	打製石器 石鏃	1.9	1.6	0.3	0.6	黒曜岩	片脚部欠損	写真図版 37-297 20103014
図 91-298 10000354	6 層上位	打製石器 石鏃	1.8	1.3	0.3	0.5	黒曜岩	先端部欠損	写真図版 37-298 20103031

表 10 九郎遺跡 1B 区縄文時代の出土石器

挿図・番号 登録番号	出土位置	種別 器種	寸法 cm			重量 g	石材	備考	写真図版 写真登録番号
			長さ	幅	厚さ				
図 91-299 10000368	6 層上位	打製石器 石鏃	1.9	1.6	0.3	0.6	黒曜岩	片脚部欠損	写真図版 37-299 20103044
図 91-300 10000373	6 層下位	打製石器 石鏃	1.9	1.3	0.3	0.4	黒曜岩	完形	写真図版 37-300 20103049
図 91-301 10000422	5 層	打製石器 石鏃	1.9	1.5	0.3	0.6	黒曜岩	完形	写真図版 37-301 20103098
図 91-302 10000437	6 層上位	打製石器 石鏃	1.9	1.5	0.4	0.6	黒曜岩	片脚部欠損	写真図版 37-302 20103112
図 91-303 10000290	5 層	打製石器 石鏃	2.0	1.5	0.2	0.4	黒曜岩	片脚部欠損	写真図版 37-303 20102966
図 91-304 10000394	6 層	打製石器 石鏃	2.0	1.6	0.3	0.6	黒曜岩	完形	写真図版 37-304 20103070
図 91-305 10000345	6 層	打製石器 石鏃	1.9	1.2	0.3	0.4	無斑品質安山岩	先端部欠損	写真図版 37-305 20103022
図 91-306 10000301	5 層	打製石器 石鏃	1.8	1.3	0.3	0.6	黒曜岩	先端部・片脚部欠損	写真図版 37-306 20102977
図 91-307 10000459	6 層下位	打製石器 石鏃	2.0	1.7	0.4	1.0	無斑品質安山岩	完形	写真図版 37-307 20103134
図 91-308 10000436	6 層上位	打製石器 石鏃	2.0	1.4	0.3	0.6	黒曜岩	完形	写真図版 37-308 20103111
図 91-309 10000323	6 層	打製石器 石鏃	1.8	2.0	0.5	1.0	無斑品質安山岩	完形	写真図版 37-309 20103000
図 92-310 10000300	5 層	打製石器 石鏃	1.3	1.2	0.2	0.2	黒曜岩	先端部・片脚部欠損	写真図版 37-310 20102976
図 92-311 10000425	6 層上位	打製石器 石鏃	1.5	1.3	0.2	0.3	無斑品質安山岩	完形	写真図版 37-311 20103101
図 92-312 10000402	5 層	打製石器 石鏃	1.6	1.5	0.3	0.4	無斑品質安山岩	完形	写真図版 37-312 20103078
図 92-313 10000401	7 層	打製石器 石鏃	1.7	1.9	0.3	0.5	無斑品質安山岩	完形	写真図版 37-313 20103077
図 92-314 10000423	5 層	打製石器 石鏃	1.6	1.8	0.3	0.8	無斑品質安山岩	先端部欠損	写真図版 37-314 20103099
図 92-315 10000306	5～6 層	打製石器 石鏃	2.3	1.5	0.2	0.5	黒曜岩	片脚部欠損	写真図版 37-315 20102982
図 92-316 10000376	SX1110	打製石器 石鏃	1.9	1.6	0.4	0.8	黒曜岩	片脚部欠損	写真図版 37-316 20103052
図 92-317 10000420	5 層	打製石器 石鏃	2.7	1.7	0.3	1.0	黒曜岩	片脚部欠損	写真図版 37-317 20103096
図 92-318 10000285	5 層	打製石器 石鏃	1.7	1.6	0.3	0.4	黒曜岩	完形	写真図版 37-318 20102961
図 92-319 10000443	6 層下位	打製石器 石鏃	2.0	1.5	0.3	0.6	無斑品質安山岩	片脚部欠損	写真図版 37-319 20103118
図 92-320 10000408	7 層	打製石器 石鏃	2.0	1.6	0.4	0.8	黒曜岩	完形	写真図版 37-320 20103084
図 92-321 10000338	6 層上位	打製石器 石鏃	2.0	2.1	0.4	1.2	無斑品質安山岩	先端部欠損	写真図版 37-321 20103015
図 92-322 10000378	5 層	打製石器 石鏃	2.0	1.0	0.3	0.8	無斑品質安山岩	完形	写真図版 37-322 20103054
図 92-323 10000442	6 層下位	打製石器 石鏃	2.0	1.9	0.4	1.2	無斑品質安山岩	先端部・片脚部欠損	写真図版 37-323 20103117
図 92-324 10000346	SX1104	打製石器 石鏃	2.1	1.6	0.4	1.1	無斑品質安山岩	完形	写真図版 37-324 20103023
図 92-325 10000387	6 層上位	打製石器 石鏃	2.2	1.6	0.2	0.6	黒曜岩	片脚部欠損	写真図版 37-325 20103063
図 92-326 10000407	7 層	打製石器 石鏃	1.3	1.7	0.5	1.4	無斑品質安山岩	完形	写真図版 37-326 20103083
図 92-327 10000313	6 層上位	打製石器 石鏃	2.4	1.5	0.5	1.3	無斑品質安山岩	完形	写真図版 37-327 20102989
図 92-328 10000296	5 層	打製石器 石鏃	2.3	2.1	0.4	1.2	無斑品質安山岩	完形	写真図版 37-328 20102972
図 92-329 10000339	6 層上位	打製石器 石鏃	2.4	1.6	0.3	0.6	無斑品質安山岩	ほぼ完形	写真図版 37-329 20103016
図 92-330 10000302	5 層	打製石器 石鏃	2.5	1.6	0.3	1.0	無斑品質安山岩	完形	写真図版 37-330 20102978
図 92-331 10000424	6 層上位	打製石器 石鏃	2.5	2.0	0.5	1.6	黒曜岩	先端から片脚部欠損	写真図版 37-331 20103100
図 92-332 10000314	6 層上位	打製石器 石鏃	2.5	1.6	0.5	1.2	黒曜岩	先端部・片脚部欠損	写真図版 37-332 20102990

表 10 九郎遺跡 1B 区縄文時代の出土石器

挿図・番号 登録番号	出土位置	種別 器種	寸法 cm			重量 g	石材	備考	写真図版 写真登録番号
			長さ	幅	厚さ				
図 92-333 10000390	6 層下位	打製石器 石鏃	2.5	2.0	0.4	1.2	黒曜岩	先端部・片脚部欠損	写真図版 37-333 20103066
図 92-334 10000439	6 層上位	打製石器 石鏃	2.5	1.8	0.5	1.2	黒曜岩	先端部・片脚部欠損	写真図版 37-334 20103114
図 92-335 10000293	5 層	打製石器 石鏃	2.6	1.6	0.5	1.8	無斑品質安山岩	先端部・片脚部欠損	写真図版 37-335 20102969
図 92-336 10000342	6 層上位	打製石器 石鏃	2.6	1.6	0.5	1.8	無斑品質安山岩	完形	写真図版 37-336 20103019
図 92-337 10000366	6 層下位	打製石器 石鏃	2.6	1.8	0.5	1.2	黒曜岩	片脚部欠損	写真図版 38-337 20103042
図 92-338 10000389	6 層下位	打製石器 石鏃	2.7	1.6	0.3	1.0	黒曜岩	片脚部欠損	写真図版 38-338 20103065
図 92-339 10000457	6 層上位	打製石器 石鏃	2.7	1.8	0.4	1.1	黒曜岩	先端部・片脚部欠損	写真図版 38-339 20103132
図 92-340 10000374	6 層下位	打製石器 石鏃	2.2	2.1	0.6	1.6	黒曜岩	先端部欠損	写真図版 38-340 20103050
図 92-341 10000411	6 層下位	打製石器 石鏃	1.7	2.1	0.5	1.4	黒曜岩	先端部欠損	写真図版 38-341 20103087
図 93-342 10000393	6 層	打製石器 石鏃	2.7	1.7	0.5	1.4	無斑品質安山岩	先端部欠損	写真図版 38-342 20103069
図 93-343 10000403	7 層	打製石器 石鏃	2.7	2.1	0.5	1.2	黒曜岩	片脚部欠損	写真図版 38-343 20103079
図 93-344 10000454	6 層上位	打製石器 石鏃	2.7	1.9	0.5	2.0	黒曜岩	先端部・片脚部欠損	写真図版 38-344 20103129
図 93-345 10000384	6 層上位	打製石器 石鏃	2.8	1.8	0.4	1.6	無斑品質安山岩	片脚部欠損	写真図版 38-345 20103060
図 93-346 10000324	6 層上位	打製石器 石鏃	2.8	2.3	0.4	1.6	黒曜岩	先端部・片脚部欠損	写真図版 38-346 20103001
図 93-347 10000344	6 層上位	打製石器 石鏃	2.8	2.2	0.3	1.5	無斑品質安山岩	完形	写真図版 38-347 20103021
図 93-348 10000317	6 層上位	打製石器 石鏃	2.9	1.7	0.4	1.3	無斑品質安山岩	完形	写真図版 38-348 20102993
図 93-349 10000260	7 層	打製石器 石鏃	3.1	1.6	0.4	1.4	無斑品質安山岩	片脚部欠損	写真図版 38-349 20103153
図 93-350 10000396	6 層下位	打製石器 石鏃	2.9	1.8	0.4	1.2	無斑品質安山岩	先端部・片脚部欠損	写真図版 38-350 20103072
図 93-351 10000386	6 層下位	打製石器 石鏃	2.8	2.1	0.5	2.2	無斑品質安山岩	先端部・片脚部欠損	写真図版 38-351 20103062
図 93-352 10000267	6 層下位	打製石器 石鏃	3.2	1.6	0.3	1.2	黒曜岩	完形	写真図版 38-352 20103161
図 93-353 10000275	7 層	打製石器 石鏃	3.3	1.3	0.3	1.0	黒曜岩	片脚部欠損	写真図版 38-353 20103169
図 93-354 10000271	7 層	打製石器 石鏃	3.4	1.6	0.4	1.4	黒曜岩	片脚部欠損	写真図版 38-354 20103165
図 93-355 10000264	7 層	打製石器 石鏃	3.6	1.6	0.4	1.2	黒曜岩	片脚部欠損	写真図版 38-355 20103157
図 93-356 10000259	6 層上位	打製石器 石鏃	3.7	1.7	0.4	1.8	黒曜岩	両脚部欠損	写真図版 38-356 20103152
図 93-357 10000258	6 層上位	打製石器 石鏃	3.8	1.7	0.5	1.2	黒曜岩	片脚部欠損	写真図版 38-357 20103151
図 93-358 10000263	6 層下位	打製石器 石鏃	3.9	2.4	0.5	2.4	無斑品質安山岩	先端部欠損	写真図版 38-358 20103156
図 93-359 10000268	6 層下位	打製石器 石鏃	4.6	1.9	0.4	2.0	黒曜岩	片脚部欠損	写真図版 38-359 20103162
図 93-360 10000265	6 層下位	打製石器 石鏃	3.2	1.6	0.4	1.2	無斑品質安山岩	ほぼ完形	写真図版 38-360 20103158・3159
図 93-361 10000266	6 層下位	打製石器 石鏃	3.2	1.4	0.2	1.2	無斑品質安山岩	片脚部欠損	写真図版 38-361 20103160
図 93-362 10000270	6 層下位	打製石器 石鏃	3.8	1.9	0.5	2.2	無斑品質安山岩	片脚部欠損	写真図版 38-362 20103164
図 93-363 10000272	5 層	打製石器 石鏃	3.6	1.5	0.4	2.0	無斑品質安山岩	片脚部欠損	写真図版 38-363 20103166
図 93-364 10000262	6 層下位	打製石器 石鏃	3.6	1.7	0.4	1.8	黒曜岩	両脚部・縁部欠損	写真図版 38-364 20103155
図 93-365 10000261	6 層上位	打製石器 石鏃	3.0	1.5	0.3	1.0	黒曜岩	先端部・片脚部欠損	写真図版 38-365 20103154
図 94-366 10000291	5 層	打製石器 石鏃	2.8	1.5	0.3	1.0	無斑品質安山岩	完形	写真図版 38-366 20102967

表 10 九郎遺跡 1B 区縄文時代の出土石器

挿図・番号 登録番号	出土位置	種別 器種	寸法 cm			重量 g	石材	備考	写真図版 写真登録番号
			長さ	幅	厚さ				
図 94-367 10000304	5 層	打製石器 石鏃	2.6	1.2	0.2	0.6	無斑品質安山岩	片脚部欠損	写真図版 38-367 20102980
図 94-368 10000255	5 層	打製石器 石鏃	3.0	1.3	0.3	0.8	無斑品質安山岩	ほぼ完形	写真図版 38-368 20103148
図 94-369 10000256	5 層	打製石器 石鏃	3.3	1.4	0.3	1.0	無斑品質安山岩	先端部・片脚部欠損	写真図版 38-369 20103149
図 94-370 10000446	6 層下位	打製石器 石鏃	2.8	1.5	0.5	1.2	黒曜岩	両脚部欠損	写真図版 38-370 20103121
図 94-371 10000421	5 層	打製石器 石鏃	2.7	1.5	0.4	1.0	無斑品質安山岩	先端部・片脚部欠損	写真図版 38-371 20103097
図 94-372 10000341	6 層上位	打製石器 石鏃	2.9	2.3	0.4	1.4	無斑品質安山岩	先端部欠損	写真図版 38-372 20103018
図 94-373 10000382	6 層上位	打製石器 石鏃	2.3	2.4	0.4	1.0	無斑品質安山岩	完形	写真図版 38-373 20103058
図 94-374 10000418	6 層上位	打製石器 石鏃	2.0	2.4	0.4	1.0	無斑品質安山岩	先端部欠損	写真図版 38-374 20103094
図 94-375 10000299	5 層	打製石器 石鏃	1.7	1.6	0.3	0.6	黒曜岩	先端から片縁辺部欠損	写真図版 38-375 20102975
図 94-376 10000310	5～6 層	打製石器 石鏃	1.7	1.6	0.4	0.8	黒曜岩	先端部・片脚部欠損	写真図版 39-376 20102986
図 94-377 10000451	6 層下位	打製石器 石鏃	1.7	1.4	0.3	0.6	無斑品質安山岩	先端部欠損	写真図版 39-377 20103126
図 94-378 10000284	5 層	打製石器 石鏃	1.8	1.4	0.3	0.6	無斑品質安山岩	先端部欠損	写真図版 39-378 20102960
図 94-379 10000298	5 層	打製石器 石鏃	1.8	1.5	0.3	0.6	黒曜岩	先端部・片脚部欠損	写真図版 39-379 20102974
図 94-380 10000353	6 層上位	打製石器 石鏃	1.8	1.5	0.3	0.9	黒曜岩	先端部・片脚部欠損	写真図版 39-380 20103030
図 94-381 10000360	6 層上位	打製石器 石鏃	1.8	1.8	0.3	0.8	無斑品質安山岩	先端部欠損	写真図版 39-381 20103036
図 94-382 10000391	6 層下位	打製石器 石鏃	1.8	1.7	0.2	0.6	無斑品質安山岩	先端部・片脚部欠損	写真図版 39-382 20103067
図 94-383 10000438	6 層上位	打製石器 石鏃	1.8	1.7	0.3	0.6	無斑品質安山岩	先端部欠損	写真図版 39-383 20103113
図 94-384 10000305	5～6 層	打製石器 石鏃	2.0	1.6	0.3	0.6	無斑品質安山岩	完形	写真図版 39-384 20102981
図 94-385 10000315	6 層上位	打製石器 石鏃	2.0	1.7	0.4	0.9	黒曜岩	片脚部欠損	写真図版 39-385 20102991
図 94-386 10000327	P1101	打製石器 石鏃	2.0	1.6	0.3	0.7	黒曜岩	先端部・片脚部欠損	写真図版 39-386 20103004
図 94-387 10000329	5 層	打製石器 石鏃	2.0	1.8	0.4	1.0	無斑品質安山岩	片脚部欠損	写真図版 39-387 20103006
図 94-388 10000340	6 層上位	打製石器 石鏃	2.0	1.4	0.3	0.6	黒曜岩	先端部欠損	写真図版 39-388 20103017
図 94-389 10000343	6 層上位	打製石器 石鏃	2.0	1.6	0.4	0.8	無斑品質安山岩	片脚部欠損	写真図版 39-389 20103020
図 94-390 10000349	6 層上位	打製石器 石鏃	2.1	1.7	0.3	1.0	無斑品質安山岩	完形	写真図版 39-390 20103026
図 94-391 10000361	6 層上位	打製石器 石鏃	2.0	1.7	0.3	0.7	黒曜岩	先端部・片脚部欠損	写真図版 39-391 20103037
図 94-392 10000364	6 層上位	打製石器 石鏃	2.0	1.6	0.3	0.6	黒曜岩	先端部欠損	写真図版 39-392 20103040
図 94-393 10000369	6 層下位	打製石器 石鏃	2.0	1.4	0.3	0.5	黒曜岩	先端部欠損	写真図版 39-393 20103045
図 94-394 10000371	5 層	打製石器 石鏃	2.0	1.5	0.3	0.6	黒曜岩	先端部・片脚部欠損	写真図版 39-394 20103047
図 94-395 10000406	7 層	打製石器 石鏃	2.0	1.3	0.3	0.4	黒曜岩	完形	写真図版 39-395 20103082
図 94-396 10000428	6 層上位	打製石器 石鏃	2.0	1.6	0.3	0.6	黒曜岩	先端部・片脚部欠損	写真図版 39-396 20103104
図 94-397 10000448	6 層上位	打製石器 石鏃	2.0	1.3	0.3	0.5	無斑品質安山岩	両脚部欠損	写真図版 39-397 20103123
図 94-398 10000280	5 層	打製石器 石鏃	2.1	1.6	0.2	0.6	黒曜岩	先端部・片脚部欠損	写真図版 39-398 20102956
図 95-399 10000309	6 層	打製石器 石鏃	2.1	1.7	0.3	1.0	黒曜岩	先端部欠損	写真図版 39-399 20102985
図 95-400 10000319	6 層	打製石器 石鏃	2.1	1.4	0.3	0.6	無斑品質安山岩	完形	写真図版 39-400 20102995

表 10 九郎遺跡 1B 区縄文時代の出土石器

挿図・番号 登録番号	出土位置	種別 器種	寸法 cm			重量 g	石材	備考	写真図版 写真登録番号
			長さ	幅	厚さ				
図 95-401 10000326	6 層上位	打製石器 石鏃	2.1	1.8	0.5	1.4	無斑品質安山岩	先端部欠損	写真図版 39-401 20103003
図 95-402 10000332	6 層上位	打製石器 石鏃	2.1	1.8	0.4	1.2	無斑品質安山岩	先端部欠損	写真図版 39-402 20103009
図 95-403 10000357	6 層上位	打製石器 石鏃	2.1	1.4	0.3	0.6	黒曜岩	先端部欠損	写真図版 39-403 20103033
図 95-404 10000359	6 層上位	打製石器 石鏃	2.1	1.7	0.5	1.4	黒曜岩	先端部・片脚部欠損	写真図版 39-404 20103035
図 95-405 10000365	6 層上位	打製石器 石鏃	2.1	1.4	0.4	0.6	黒曜岩	ほぼ完形	写真図版 39-405 20103041
図 95-406 10000409	5 層	打製石器 石鏃	2.1	1.5	0.4	0.8	無斑品質安山岩	先端部欠損	写真図版 39-406 20103085
図 95-407 10000417	6 層下位	打製石器 石鏃	2.1	1.6	0.5	1.0	無斑品質安山岩	完形	写真図版 39-407 20103093
図 95-408 10000431	6 層下位	打製石器 石鏃	2.1	1.9	0.4	1.2	黒曜岩	片脚部欠損	写真図版 39-408 20103108
図 95-409 10000449	6 層下位	打製石器 石鏃	2.1	1.5	0.4	0.8	黒曜岩	先端部・両脚部欠損	写真図版 39-409 20103124
図 95-410 10000286	5 層	打製石器 石鏃	2.2	1.4	0.3	0.6	無斑品質安山岩	片脚部欠損	写真図版 39-410 20102962
図 95-411 10000303	6 層	打製石器 石鏃	2.2	1.8	0.2	1.0	無斑品質安山岩	先端部・片脚部欠損	写真図版 39-411 20102979
図 95-412 10000307	5～6 層	打製石器 石鏃	2.2	1.7	0.3	1.2	無斑品質安山岩	完形	写真図版 39-412 20102983
図 95-413 10000358	6 層上位	打製石器 石鏃	2.2	1.8	0.4	1.2	無斑品質安山岩	縁辺部一部欠損	写真図版 39-413 20103034
図 95-414 10000380	6 層下位	打製石器 石鏃	2.2	1.6	0.3	0.6	黒曜岩	片脚部欠損	写真図版 39-414 20103056
図 95-415 10000426	6 層上位	打製石器 石鏃	2.2	1.6	0.4	0.8	黒曜岩	完形	写真図版 39-415 20103102
図 95-416 10000430	6 層上位	打製石器 石鏃	2.2	1.4	0.3	0.6	無斑品質安山岩	完形	写真図版 39-416 20103106
図 95-417 10000435	6 層上位	打製石器 石鏃	2.2	1.6	0.3	0.6	黒曜岩	片脚部欠損	写真図版 39-417 20103110
図 95-418 10000460	2 層	打製石器 石鏃	2.2	2.4	0.3	1.0	無斑品質安山岩	両脚部欠損	写真図版 39-418 20103135
図 95-419 10000318	6 層上位	打製石器 石鏃	2.3	1.6	0.4	0.7	黒曜岩	片脚部欠損	写真図版 39-419 20102994
図 95-420 10000347	4～5 層	打製石器 石鏃	2.3	1.4	0.3	0.6	黒曜岩	完形	写真図版 39-420 20103024
図 95-421 10000351	6 層	打製石器 石鏃	2.3	1.6	0.3	0.9	黒曜岩	片脚部欠損	写真図版 39-421 20103028
図 95-422 10000375	6 層上位	打製石器 石鏃	1.3	1.6	0.3	0.6	無斑品質安山岩	完形	写真図版 39-422 20103051
図 95-423 10000395	6 層下位	打製石器 石鏃	2.3	1.5	0.3	1.0	無斑品質安山岩	先端部・片脚部欠損	写真図版 39-423 20103071
図 95-424 10000404	5 層	打製石器 石鏃	2.8	1.7	0.3	0.6	黒曜岩	片脚部欠損	写真図版 39-424 20103080
図 95-425 10000440	6 層上位	打製石器 石鏃	2.3	1.6	0.6	1.4	無斑品質安山岩	片脚部欠損	写真図版 39-425 20103115
図 95-426 10000455	6 層上位	打製石器 石鏃	2.3	1.5	0.5	1.2	無斑品質安山岩	先端部・両脚部欠損	写真図版 39-426 20103130
図 95-427 10000292	5 層	打製石器 石鏃	2.4	1.7	0.3	1.0	黒曜岩	ほぼ完形	写真図版 39-427 20102968
図 95-428 10000312	6 層	打製石器 石鏃	2.4	1.6	0.2	0.7	黒曜岩	完形	写真図版 39-428 20102988
図 95-429 10000335	6 層上位	打製石器 石鏃	2.4	1.3	0.3	0.6	黒曜岩	片脚部欠損	写真図版 39-429 20103012
図 95-430 10000362	6 層上位	打製石器 石鏃	2.4	1.3	0.4	0.7	黒曜岩	片脚部欠損	写真図版 40-430 20103038
図 96-431 10000363	6 層上位	打製石器 石鏃	2.4	1.8	0.4	0.8	黒曜岩	完形	写真図版 40-431 20103039
図 96-432 10000377	6 層下位	打製石器 石鏃	2.4	1.7	0.5	1.4	無斑品質安山岩	先端部欠損	写真図版 40-432 20103053
図 96-433 10000381	6 層上位	打製石器 石鏃	2.4	1.9	0.5	1.8	無斑品質安山岩	完形	写真図版 40-433 20103057
図 96-434 10000385	5 層	打製石器 石鏃	2.4	2.0	0.5	1.3	黒曜岩	完形	写真図版 40-434 20103061

表 10 九郎遺跡 1B 区縄文時代の出土石器

挿図・番号 登録番号	出土位置	種別 器種	寸法 cm			重量 g	石材	備考	写真図版 写真登録番号
			長さ	幅	厚さ				
図 96-435 10000434	6 層上位	打製石器 石鏃	2.4	1.6	0.3	0.6	無斑品質安山岩	先端部・片脚部欠損	写真図版 40-435 20103109
図 96-436 10000282	5 層	打製石器 石鏃	2.5	2.0	0.5	2.2	無斑品質安山岩	先端部欠損	写真図版 40-436 20102958
図 96-437 10000328	5 層	打製石器 石鏃	2.5	1.8	0.3	1.0	黒曜岩	先端部欠損	写真図版 40-437 20103005
図 96-438 10000370	4～5 層	打製石器 石鏃	2.5	1.6	0.4	1.1	無斑品質安山岩	片脚部欠損	写真図版 40-438 20103046
図 96-439 10000383	6 層下位	打製石器 石鏃	2.5	2.0	0.4	1.2	無斑品質安山岩	完形	写真図版 40-439 20103059
図 96-440 10000400	6 層下位	打製石器 石鏃	2.5	2.1	0.4	1.4	無斑品質安山岩	完形	写真図版 40-440 20103076
図 96-441 10000444	6 層上位	打製石器 石鏃	2.5	2.0	0.5	1.8	黒曜岩	片脚部欠損	写真図版 40-441 20103119
図 96-442 10000289	5 層	打製石器 石鏃	2.6	1.6	0.3	0.8	黒曜岩	完形	写真図版 40-442 20102965
図 96-443 10000308	5～6 層	打製石器 石鏃	2.6	1.7	0.3	1.1	黒曜岩	両脚部欠損	写真図版 40-443 20102984
図 96-444 10000320	6 層上位	打製石器 石鏃	2.6	2.0	0.4	1.4	無斑品質安山岩	完形	写真図版 40-444 20102996
図 96-445 10000412	6 層下位	打製石器 石鏃	2.6	1.8	0.3	1.4	無斑品質安山岩	完形	写真図版 40-445 20103088
図 96-446 10000331	6 層	打製石器 石鏃	2.7	2.0	0.5	1.8	無斑品質安山岩	両脚部欠損	写真図版 40-446 20103008
図 96-447 10000336	6 層上位	打製石器 石鏃	2.7	2.0	0.6	2.2	黒曜岩	片脚部欠損	写真図版 40-447 20103013
図 96-448 10000379	5 層	打製石器 石鏃	2.7	1.7	0.5	1.4	無斑品質安山岩	片脚部欠損	写真図版 40-448 20103055
図 96-449 10000433	6 層下位	打製石器 石鏃	2.7	2.1	0.4	1.6	無斑品質安山岩	片脚部欠損	写真図版 40-449 20103762
図 96-450 10000452	6 層下位	打製石器 石鏃	2.7	2.0	0.4	1.5	無斑品質安山岩	片脚部欠損	写真図版 40-450 20103127
図 96-451 10000453	6 層下位	打製石器 石鏃	2.7	2.1	0.3	1.8	無斑品質安山岩	先端部欠損	写真図版 40-451 20103128
図 96-452 10000287	5 層	打製石器 石鏃	2.8	1.7	0.3	1.2	黒曜岩	両脚部欠損	写真図版 40-452 20102963
図 96-453 10000399	6 層下位	打製石器 石鏃	2.8	2.0	0.4	1.2	無斑品質安山岩	片脚部欠損	写真図版 40-453 20103075
図 96-454 10000413	6 層下位	打製石器 石鏃	2.8	1.9	0.4	1.6	無斑品質安山岩	先端部・片脚部欠損	写真図版 40-454 20103089
図 96-455 10000367	6 層下位	打製石器 石鏃	2.9	2.0	0.5	2.0	黒曜岩	先端部・片脚部欠損	写真図版 40-455 20103043
図 96-456 10000388	6 層上位	打製石器 石鏃	2.9	1.6	0.2	0.8	無斑品質安山岩	片脚部欠損	写真図版 40-456 20103064
図 96-457 10000441	6 層下位	打製石器 石鏃	2.9	1.7	0.4	1.0	黒曜岩	両脚部欠損	写真図版 40-457 20103116
図 96-458 10000427	6 層上位	打製石器 石鏃	2.9	1.8	0.4	2.0	黒曜岩	完形	写真図版 40-458 20103103
図 97-459 10000392	6 層	打製石器 石鏃	3.0	2.1	0.5	1.8	黒曜岩	片脚部欠損	写真図版 40-459 20103068
図 97-460 10000253	5 層	打製石器 石鏃	3.0	2.0	0.5	2.4	無斑品質安山岩	片脚部欠損	写真図版 40-460 20103146
図 97-461 10000276	6 層上位	打製石器 石鏃	3.0	2.7	0.5	2.6	無斑品質安山岩	完形	写真図版 40-461 20103170
図 97-462 10000273	6 層上位	打製石器 石鏃	3.1	2.1	0.4	2.8	無斑品質安山岩	片脚部欠損	写真図版 40-462 20103167
図 97-463 10000257	6 層上位	打製石器 石鏃	3.6	2.0	0.3	1.4	無斑品質安山岩	両脚部欠損	写真図版 40-463 20103150
図 97-464 10000254	5 層	打製石器 石鏃	3.6	1.7	0.5	2.4	黒曜岩	片脚部欠損	写真図版 40-464 20103147
図 97-465 10000398	6 層下位	打製石器 石鏃	2.4	2.7	0.5	3.2	無斑品質安山岩	先端部欠損	写真図版 40-465 20103074
図 97-466 10000269	6 層上位	打製石器 石鏃	3.2	2.1	0.4	2.8	無斑品質安山岩	一部欠損 未製品	写真図版 41-466 20103163
図 97-467 10000469	6 層上位	打製石器 石鏃	3.3	2.5	0.7	4.4	無斑品質安山岩	一部欠損 未製品	写真図版 41-467 20103141
図 97-468 10000462	7 層	打製石器 石鏃	2.0	1.8	0.4	1.2	黒曜岩	完形 未製品	写真図版 40-468 20103137

表 10 九郎遺跡 1B 区縄文時代の出土石器

挿図・番号 登録番号	出土位置	種別 器種	寸法 cm			重量 g	石材	備考	写真図版 写真登録番号
			長さ	幅	厚さ				
図 97-469 10000471	5 層	打製石器 石鏃	2.3	1.6	0.4	1.4	黒曜岩	完形 未製品	写真図版 40-469 20103143
図 97-470 10000461	6 層	打製石器 石鏃	2.4	1.8	0.5	2.0	黒曜岩	完形 未製品	写真図版 40-470 20103136
図 97-471 10000470	6 層下位	打製石器 石鏃	3.4	2.5	0.4	2.0	黒曜岩	両脚部欠損 未製品	写真図版 40-471 20103142
図 97-472 10000294	5 層	打製石器 石鏃	2.3	1.6	0.4	1.4	無斑品質安山岩	先端部欠損 未製品	写真図版 40-472 20102970
図 97-473 10000274	6 層上位	打製石器 石鏃	3.2	2.2	0.5	3.2	無斑品質安山岩	完形 未製品	写真図版 41-473 20103168
図 97-474 10000277	6 層上位	打製石器 石鏃	3.5	2.1	0.7	3.2	無斑品質安山岩	片脚部欠損 未製品	写真図版 41-474 20103171
図 97-475 10000466	5～6 層	打製石器 石鏃	5.7	2.2	0.7	8.4	無斑品質安山岩	完形 未製品力	写真図版 41-475 20103186
図 97-476 10000467	6 層上位	打製石器 石鏃	5.1	3.4	0.9	10.8	無斑品質安山岩	一部欠損 未製品	写真図版 41-476 20103187
図 98-477 10000465	6 層上位	打製石器 異形石器	2.4	1.8	0.5	1.8	黒曜岩	完形	写真図版 41-477 20103140
図 98-478 10000278	6 層下位	打製石器 異形石器	3.5	2.5	0.6	5.6	無斑品質安山岩	完形	写真図版 41-478 20103172
図 98-479 10000279	5 層	打製石器 異形石器	3.5	2.5	0.7	6.4	無斑品質安山岩	完形	写真図版 41-479 20103173
図 98-480 10000473	6 層上位	打製石器 石鏃	3.1	1.6	0.5	1.4	黒曜岩	完形	写真図版 41-480 20103144
図 98-481 10000464	6 層上位	打製石器 石鏃	2.7	1.1	0.6	1.6	無斑品質安山岩	完形	写真図版 41-481 20103139
図 98-482 10000463	5 層	打製石器 石鏃	2.4	1.1	0.5	0.8	黒曜岩	完形	写真図版 41-482 20103138
図 98-483 10000472	5 層	打製石器 石鏃	4.0	3.2	0.9	8.2	無斑品質安山岩	一部欠損	写真図版 41-483 20103145
図 98-484 10000468	6 層下位	打製石器 石鏃	6.3	5.4	1.1	27.8	無斑品質安山岩	完形	写真図版 41-484 20103188
図 98-485 10001474	6 層上位	打製石器 石匙	4.6	2.9	0.8	10.0	無斑品質安山岩	一部欠損	写真図版 41-485 20103184
図 98-486 10001423	5 層	打製石器 石匙	6.9	2.8	1.2	17.2	無斑品質安山岩	完形	写真図版 41-486 20103176
図 98-487 10001439	6 層下位	打製石器 石匙	8.5	3.2	0.8	20.6	無斑品質安山岩	完形	写真図版 41-487 20103226
図 98-488 10001437	6 層下位	打製石器 石匙	9.3	2.8	0.9	19.0	無斑品質安山岩	完形	写真図版 41-488 20103225
図 98-489 10001435	6 層上位	打製石器 石匙	9.1	3.3	1.1	30.2	無斑品質安山岩	完形	写真図版 41-489 20103224
図 98-490 10001430	6 層上位	打製石器 石匙	6.5	4.4	0.9	24.0	無斑品質安山岩	完形	写真図版 41-490 20103199
図 98-491 10001436	6 層上位	打製石器 石匙	6.3	4.7	0.7	21.6	無斑品質安山岩	完形	写真図版 41-491 20103203
図 99-492 10001433	6 層上位	打製石器 石匙	7.5	4.8	1.1	34.8	無斑品質安山岩	完形	写真図版 41-492 20103223
図 99-493 10001429	5～6 層	打製石器 石匙	8.0	4.7	0.7	27.8	無斑品質安山岩	完形	写真図版 41-493 20103222
図 99-494 10001443	6 層上位	打製石器 石匙	7.0	4.9	7.0	21.0	無斑品質安山岩	完形	写真図版 41-494 20103228
図 99-495 10001426	5 層	打製石器 石匙	9.1	7.1	1.9	69.8	無斑品質安山岩	完形	写真図版 41-495 20103221
図 99-496 10001442	6 層上位	打製石器 石匙	10.6	4.4	1.1	48.6	無斑品質安山岩	一部欠損	写真図版 41-496 20103227
図 99-497 10001432	5 層	打製石器 石匙	6.5	5.7	1.1	36.0	無斑品質安山岩	完形	写真図版 41-497 20103201
図 99-498 10001431	6 層上位	打製石器 石匙	5.6	6.8	1.3	37.4	無斑品質安山岩	完形	写真図版 42-498 20103200
図 99-499 10001438	6 層下位	打製石器 石匙	4.6	6.7	1.0	23.8	無斑品質安山岩	完形	写真図版 41-499 20103204
図 100-500 10001440	5 層	打製石器 石匙	2.9	5.1	0.6	14.4	無斑品質安山岩	一部欠損	写真図版 42-500 20103205
図 100-501 10001424	6 層上位	打製石器 石匙	3.9	6.2	0.6	12.8	無斑品質安山岩	ほぼ完形	写真図版 42-501 20103177
図 100-502 10001427	5 層	打製石器 石匙	3.7	5.1	1.0	15.6	無斑品質安山岩	完形	写真図版 42-502 20103197

表 10 九郎遺跡 1B 区縄文時代の出土石器

挿図 - 番号 登録番号	出土位置	種別 器種	寸法 cm			重量 g	石材	備考	写真図版 写真登録番号
			長さ	幅	厚さ				
図 100-503 10001428	6 層	打製石器 石匙	2.9	8.4	0.9	10.8	無斑品質安山岩	完形	写真図版 42-503 20103198
図 100-504 10001434	6 層	打製石器 石匙	3.0	7.5	0.8	9.2	無斑品質安山岩	両端部欠損	写真図版 42-504 20103202
図 100-505 10001441	6 層下位	打製石器 石匙	3.6	8.8	0.8	18.0	無斑品質安山岩	一部欠損	写真図版 42-505 20103206
図 100-506 10001425	6 層	打製石器 削器	2.0	1.6	0.6	1.7	黒曜岩	完形	写真図版 42-506 20103174
図 100-507 10001448	6 層上位	打製石器 削器	5.4	2.8	0.8	11.3	黒曜岩	完形	写真図版 42-507 20103208
図 100-508 10001470	6 層上位	打製石器 削器	3.5	2.7	0.7	4.8	黒曜岩	一部欠損	写真図版 42-508 20103180
図 100-509 10001469	5～6 層	打製石器 削器	5.0	3.1	1.1	10.8	黒曜岩	完形 石鏃未製品力	写真図版 42-509 20103179
図 100-510 10001473	6 層	打製石器 削器	4.7	4.6	1.4	26.4	黒曜岩	完形	写真図版 42-510 20103183
図 100-511 10001471	6 層上位	打製石器 削器	4.2	4.8	0.6	11.4	無斑品質安山岩	完形	写真図版 42-511 20103181
図 100-512 10001454	6 層上位	打製石器 削器	6.7	4.3	0.9	28.4	無斑品質安山岩	一部欠損	写真図版 42-512 20103210
図 100-513 10001459	5 層	打製石器 削器	6.3	4.1	0.7	12.2	無斑品質安山岩	一部欠損	写真図版 42-513 20103212
図 101-514 10001475	6 層下位	打製石器 削器	4.0	2.5	1.1	10.4	無斑品質安山岩	完形	写真図版 42-514 20103185
図 101-515 10001463	5 層	打製石器 削器	5.8	2.4	0.9	8.0	無斑品質安山岩	ほぼ完形	写真図版 42-515 20103214
図 101-516 10001457	6 層上位	打製石器 削器	5.7	2.5	0.8	9.2	無斑品質安山岩	完形	写真図版 42-516 20103211
図 101-517 10001449	6 層上位	打製石器 削器	8.1	3.9	0.9	22.2	無斑品質安山岩	完形	写真図版 42-517 20103232
図 101-518 10001446	5～6 層	打製石器 削器	9.0	5.2	1.2	38.9	無斑品質安山岩	一部欠損	写真図版 42-518 20103230
図 101-519 10001452	6 層上位	打製石器 削器	8.8	5.3	1.3	52.0	無斑品質安山岩	完形	写真図版 42-519 20103235
図 101-520 10001467	6 層上位	打製石器 削器	10.1	4.4	1.8	65.7	無斑品質安山岩	完形	写真図版 42-520 20103243
図 101-521 10001462	7 層	打製石器 削器	9.9	5.9	2.2	103.6	無斑品質安山岩	完形	写真図版 42-521 20103240
図 102-522 10001444	5 層	打製石器 削器	5.8	3.6	1.1	21.6	無斑品質安山岩	完形	写真図版 42-522 20103207
図 102-523 10001453	6 層上位	打製石器 削器	5.5	3.9	0.7	14.0	無斑品質安山岩	一部欠損	写真図版 42-523 20103209
図 102-524 10001468	5 層	打製石器 削器	4.9	3.7	1.0	13.5	無斑品質安山岩	一部欠損	写真図版 42-524 20103178
図 102-525 10001472	6 層上位	打製石器 搔器	4.6	5.2	0.7	18.0	無斑品質安山岩	完形	写真図版 42-525 20103182
図 102-526 10001464	6 層上位	打製石器 削器	6.3	4.5	1.3	28.6	無斑品質安山岩	完形	写真図版 42-526 20103215
図 102-527 10001451	6 層上位	打製石器 削器	7.0	4.2	1.2	40.2	無斑品質安山岩	完形	写真図版 42-527 20103234
図 102-528 10001456	6 層上位	打製石器 削器	7.2	4.8	1.1	30.8	無斑品質安山岩	完形	写真図版 42-528 20103237
図 102-529 10001455	6 層下位	打製石器 削器	7.5	5.6	1.2	45.0	無斑品質安山岩	ほぼ完形	写真図版 42-529 20103236
図 102-530 10001458	6 層上位	打製石器 削器	8.1	6.2	1.3	55.8	無斑品質安山岩	完形	写真図版 42-530 20103238
図 103-531 10001450	6 層上位	打製石器 削器	8.0	4.4	1.1	25.4	無斑品質安山岩	完形	写真図版 42-531 20103233
図 103-532 10001465	6 層上位	打製石器 削器	7.7	4.2	1.2	24.4	無斑品質安山岩	ほぼ完形	写真図版 43-532 20103241
図 103-533 10001447	6 層上位	打製石器 削器	10.0	4.5	1.9	47.6	無斑品質安山岩	ほぼ完形	写真図版 43-533 20103231
図 103-534 10001445	5 層	打製石器 削器	10.9	6.7	1.4	91.4	無斑品質安山岩	完形	写真図版 43-534 20103229
図 103-535 10001466	6 層上位	打製石器 削器	7.7	5.0	1.9	55.7	無斑品質安山岩	完形	写真図版 43-535 20103242
図 103-536 10001461	7 層	打製石器 搔器	7.3	5.0	1.5	53.2	無斑品質安山岩	完形	写真図版 43-536 20103239

表 10 九郎遺跡 1B 区縄文時代の出土石器

挿図・番号 登録番号	出土位置	種別 器種	寸法 cm			重量 g	石材	備考	写真図版 写真登録番号
			長さ	幅	厚さ				
図 103-537 10001460	6 層下位	打製石器 搔器	4.3	7.8	1.3	33.5	無斑品質安山岩	完形	写真図版 43-537 20103213
図 104-538 10000485	6 層上位	打製石器 石核	2.9	3.1	2.1	14.4	黒曜岩	完形	写真図版 43-538 20103194
図 104-539 10000487	6 層上位	打製石器 石核	3.0	2.7	2.2	11.6	黒曜岩	完形	写真図版 43-539 20103196
図 104-540 10000486	6 層	打製石器 石核	3.3	4.4	2.3	29.0	黒曜岩	完形	写真図版 43-540 20103195
図 104-541 10000482	6 層上位	打製石器 石核	5.3	5.5	3.1	86.6	黒曜岩	完形	写真図版 43-541 20103193
図 104-542 10000481	5 層	打製石器 石核	4.8	8.0	1.8	58.4	黒曜岩	完形	写真図版 43-542 20103192
図 104-543 10000480	5 層	打製石器 石核	5.9	4.9	1.8	42.2	黒曜岩	完形	写真図版 43-543 20103191
図 104-544 10000477	6 層	打製石器 石核	8.3	10.5	2.9	272.4	無斑品質安山岩	完形	写真図版 43-544 20103218
図 104-545 10000483	6 層下位	打製石器 石核	7.3	10.8	2.7	222.6	無斑品質安山岩	完形	写真図版 43-545 20103219
図 105-546 10000474	5 層	打製石器 石核	5.7	5.0	2.4	64.8	無斑品質安山岩	完形	写真図版 43-546 20103189
図 105-547 10000478	6 層上位	打製石器 石核	5.5	5.0	2.4	58.6	無斑品質安山岩	完形	写真図版 43-547 20103190
図 105-548 10000484	6 層下位	打製石器 石核	6.9	11.4	4.9	227.6	無斑品質安山岩	縁辺部欠損	写真図版 43-548 20103220
図 105-549 10000475	6 層	打製石器 石核	10.7	12.5	3.1	401.2	無斑品質安山岩	完形	写真図版 43-549 20103216
図 106-550 10000476	6 層上位	打製石器 石核	9.0	13.4	3.4	372.2	無斑品質安山岩	完形	写真図版 43-550 20103217
図 106-551 10000479	6 層上位	打製石器 石核	12.4	11.3	7.5	1,140.0	無斑品質安山岩	完形	写真図版 43-551 20103251
図 106-552 10001476	6 層上位	打製石器 細石刃	1.2	0.4	0.1	0.1	黒曜岩	一部欠損	写真図版 41-552 20103175
図 106-553 10002002	6 層上位	礫石器 槌石	8.6	5.1	1.7			完形	写真図版 43-553 20103250
図 106-554 10001796	6 層上位	礫石器 凹石	9.5	7.0	4.1	414.5		完形	写真図版 43-554 20103247
図 107-555 10001794	6 層	礫石器 凹石	7.5	6.0	3.5	220.9		完形	写真図版 43-555 20103245
図 107-556 10001795	6 層	礫石器 磨石	5.4	5.0	4.0	175.6		完形	写真図版 43-556 20103246
図 107-557 10001798	7 層	礫石器 磨石	6.4	5.4	4.4	192.7		完形	写真図版 43-557 20103248
図 107-558 10001797	6 層下位	礫石器 磨石	10.3	9.2	5.3	775.2		完形	写真図版 43-558 20103253・3254
図 107-559 10001793	6 層	礫石器 磨石	8.8	7.6	5.0	542.9		完形	写真図版 43-559 20103244
図 107-560 10002001	6 層上位	礫石器 磨石	8.8	8.2	4.8	447.9		完形	写真図版 43-560 20103249
図 107-561 10001800	6 層下位	礫石器 磨石	9.8	8.5	4.8	693.0		一部欠損	写真図版 43-561 20103256
図 107-562 10001799	6 層上位	礫石器 磨石	12.4	8.3	4.2	686.2		完形	写真図版 43-562 20103255

4) 1C 区縄文時代の遺構と遺物

1C 区では、縄文時代の遺構として集石遺構 1 基を検出し、遺物包含層から縄文時代早期～前期の遺物が出土しており、その中では早期中葉～後葉のものが多い。堆積状況を見ると（図 108）、4 層から 10 層上位までが縄文時代の遺物包含層で、6 層から 9 層にかけては黒色土壌の発達が複数回見られ、河川的作用や土砂崩落などによる急激な堆積とその後の安定による植生回復といった堆積環境の変化が繰り返起こったことがうかがえる。また、4・5 層から喜界アカホヤテフラが検出されたが、4 層から多くの早期の遺物が出土しており、層位的な細分の指標とはなりにくい。

出土土器には、早期中葉の押型文土器、早期後葉～末の平椀式・塞ノ神 B 式・轟 A 式系土器、前期前葉～中葉の轟 B 式・曾畑式系土器などがあり、押型文土器と塞ノ神 B 式系土器が主体を占める。

遺構

1C 区の縄文時代の遺構は、4 層中で検出した集石遺構 1 基である。

SX1119（図 109）

1C 区中央北寄りに位置する。長軸 1.5 m、短軸 1.0 m の範囲に礫が広がる。下部に掘り込み等は確認できなかった。

総礫数 34 点、総重量 14,256.4 g、平均重量 419.3 g である。礫の破損状態は、完形礫 14 点、破損礫 20 点で、破損率は 58.8% である。礫の赤化状態は、赤化完形礫 10 点、割れ面赤化礫 14 点、割れ面非赤化礫 3 点、非赤化礫 7 点である。礫の形状は大部分が角礫で、石質はすべて花崗岩類である。礫の接合例はない。

遺物

1C 区では、縄文時代の遺物包含層から出土した遺物について、集石遺構の可能性のある礫石を含め約 12,000 点の出土位置を 3 次元で記録して取り上げた。内容は、土器と石器が大部分を占める。

土器（図 110・111）

1C 区からは、1・2・4～7・9・10 類土器が出土したが、1・4 類の出土量が多い。

1 類土器（図 112）

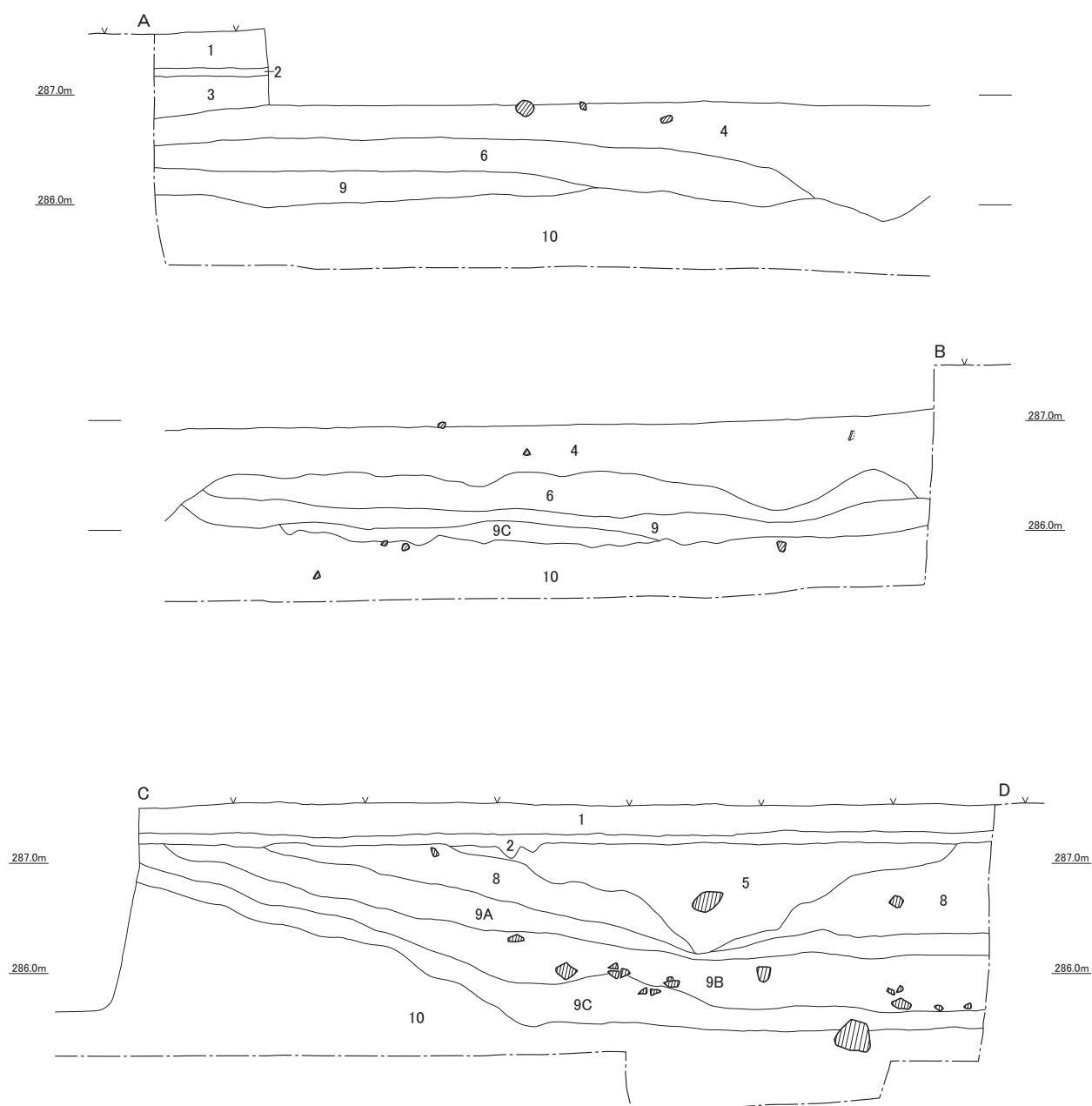
563～566 は横走する楕円押型文が施されたものである。563・564 は同一個体の可能性があり、口縁内面にも押型文が施される。567～570 は口縁外面が無文のもので、567 は粗大な楕円文、568・569 は山形文、570 は原体条痕と楕円文が施される。571～573 は横走する山形押型文、574・575 は斜走する楕円押型文が施される。576～579 はやや粗大な楕円押型文が施されるもので、口縁内面に 576 は楕円文、577 は原体条痕、579 は原体条痕と楕円文が施される。580 は平行する直線が残る原体を押圧しているものと思われ、文様の位置などから 1 類とした。原体は板状のものであろうか。外面胴部下半は燃糸文かもしれない。

2 類土器（図 113）

581 は平椀式系の 2 類で、口縁外面に沈線文と刺突文が施され、口縁端部に刻目をもち、内面の器面調整はナデである。

4 類土器（図 113）

582～603 は塞ノ神 B 式系の 4 類で、器面調整は基本的にナデである。582～584 は口縁部で、沈線文や刺突



1. 表土
2. 表土
3. 中世遺物包含層
4. 明黄褐色土(10YR6/8)、黒褐色土(10YR2/3)ブロック混じり。いずれも粘性有。アカホヤテフラを含む。拳大前後の礫を若干含む。
5. 明黄褐色土(10YR6/8) 4層に比べ、砂礫を多く含む。粘性弱。アカホヤテフラを含む。調査区北部のみに分布。
6. 暗褐色土(10YR3/3) 粘性弱。調査区北端には分布せず。
8. 黒色土(10YR1.7/1) 粘質有。細砂粒を多く含む。調査区北部にのみ分布。
- 9A. 褐色土(7.5YR4/3) 粘性有。調査区北端付近では黄褐色強くなる。細砂粒を若干含む。
- 9B. 黒褐色土(7.5YR3/2) 粘性有。調査区北端付近においては灰黄褐色砂礫土に変化。細砂粒を多く含む。
- 9C. 褐色土(7.5YR4/3) 粘性有。9A・9Bに比べ砂質、10層の細砂質に近づく。調査区北端付近では黄褐色砂礫土に変化。
10. 明黄褐色土(10YR6/6) 細砂質。地点によっては細砂礫を含む粘質土。遺物は上層からのみわずかに出土する。

4層～10層上部は、縄文時代遺物包含層

0 2m

図 108 1C 区の土層 (1/60)

SX1201

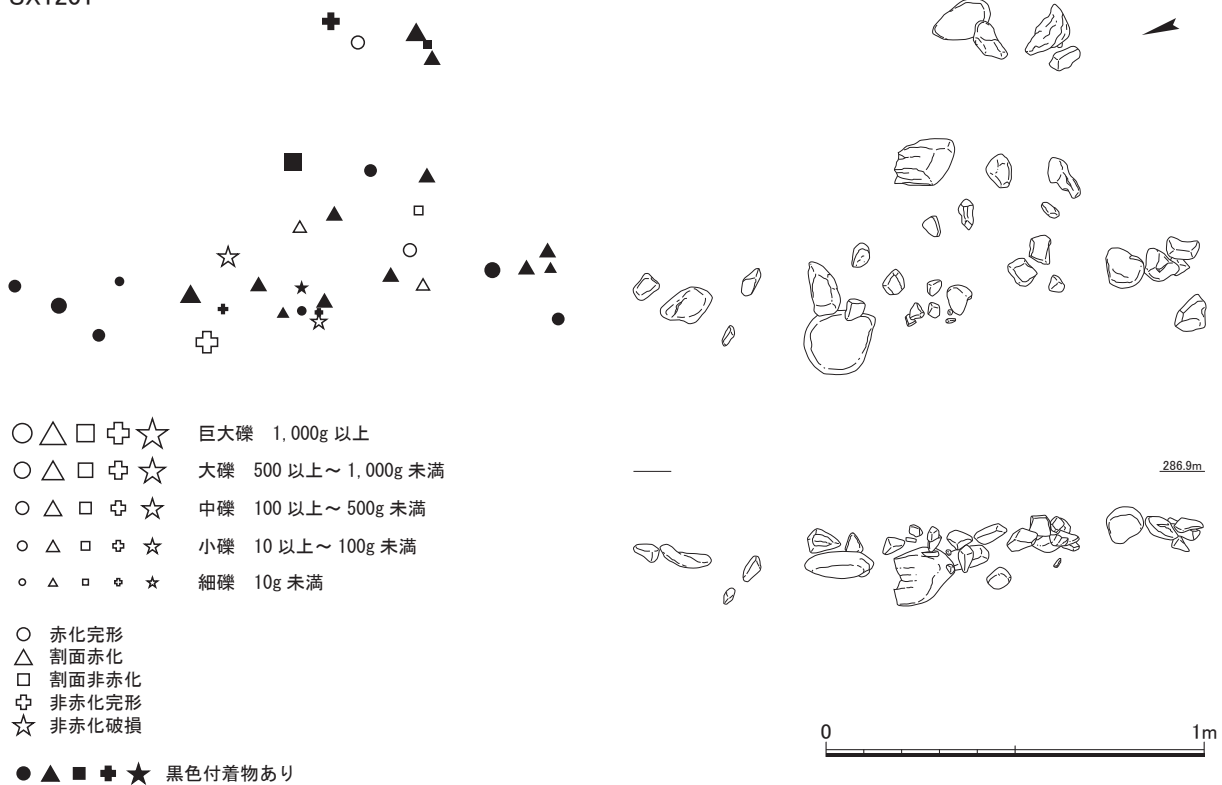


図 109 1C 区縄文時代の遺構 (1/20)

文が施され、口縁端部に刻みをもつ。585～588 は同一個体の可能性があり、貝殻による刺突文と条痕文が施される。589 は押引文と沈線文、590 は押引文が施される。591 は縦位方向と斜位方向の沈線文が雑に施される。592 は波状の条痕文が施され、593 は波状の条痕文と横位・縦位方向の沈線文が施される。594～598 は斜格子状の沈線文が施される。599 は横位方向の沈線文、600 は波状の条痕文、601 は横位方向の条痕文が施される。602・603 は同一個体と思われ、斜格子状の沈線文が雑に施される。604 は底部付近で、器壁の厚さや器面調整などから 4 類とした。

5 類土器 (図 115)

605 は外面に縦位方向の条痕、内面に条痕が残ることから、轟 A 式系の 5 類とした。

6 類土器 (図 115)

606 は轟 B 式系の 6 類で、やや高い突帯を巡らせ、内面の器面調整は条痕のちナデである。

7 類土器 (図 115)

607～614 は曾畑式系の 7 類としたもので、器面調整は基本的にナデである。607 は外面に横位方向、内面に羽状の沈線文が施され、口縁端部に刻みをもち、胎土に滑石を含む。608 は横位・縦位・斜位方向の沈線文が施され、胎土に滑石を含む。609 は斜位方向、610・611 は縦位方向の沈線文が施される。612 は刺突文と沈線文、613 は横位方向の沈線文が施される。614 は口縁外面に横位方向の沈線文が施され、7 類に含めたが、やや新しい時期のものと思われる。

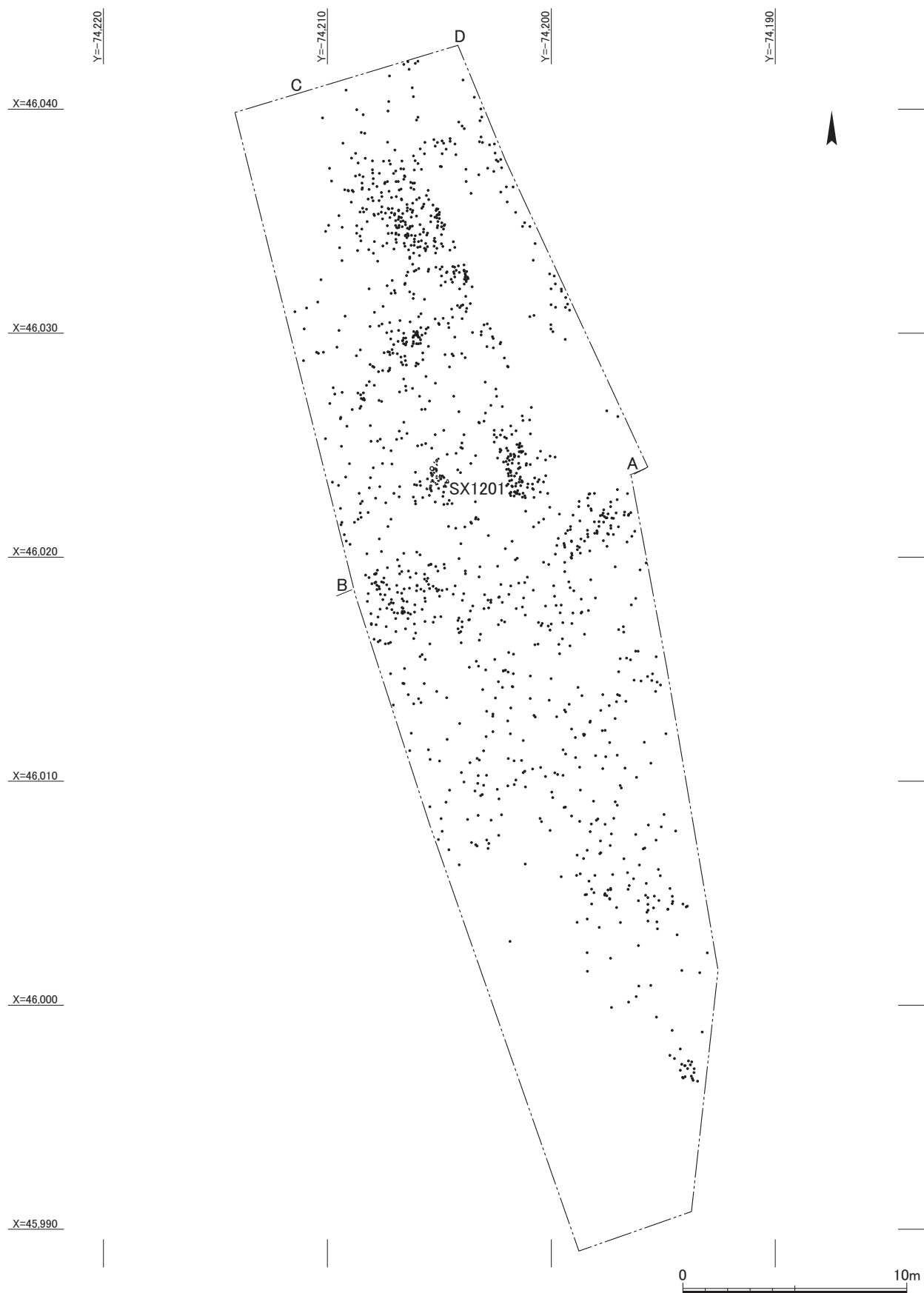


図 110 1C 区縄文時代土器の平面分布 (1/250)

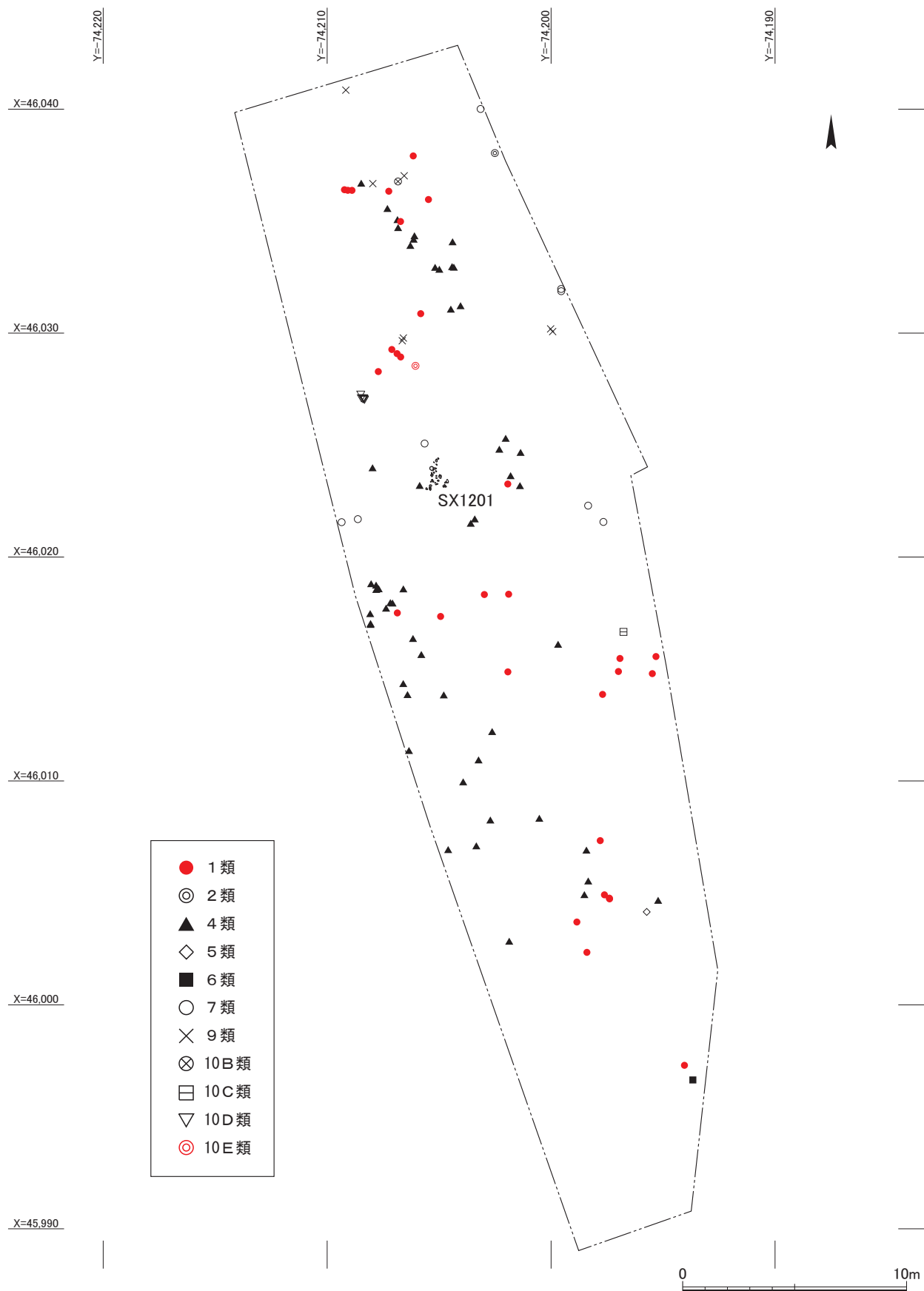


図 111 1C 区縄文時代土器類別の平面分布 (1/250)

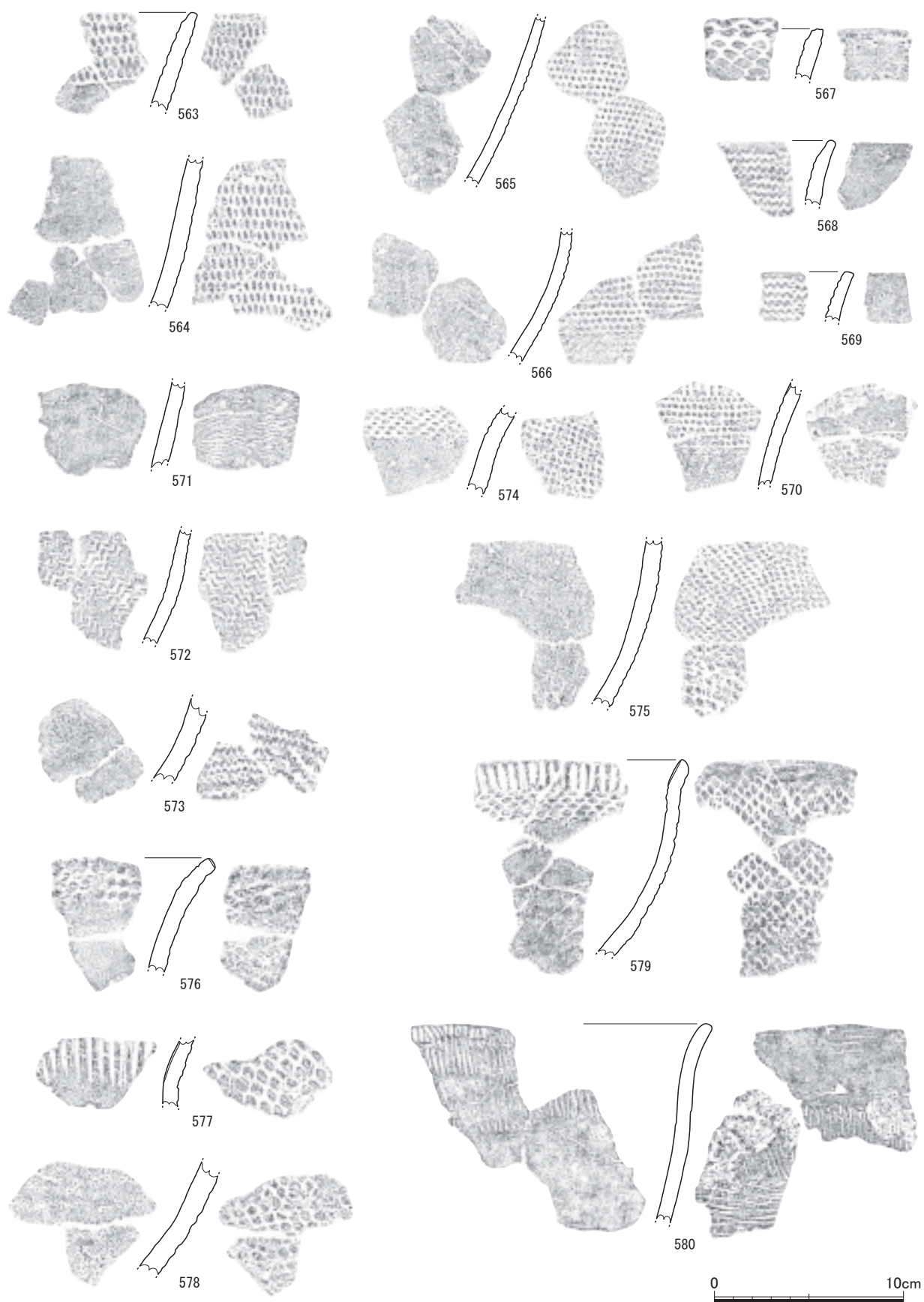


図 112 1C 区出土縄文時代の土器 1 (1/3)

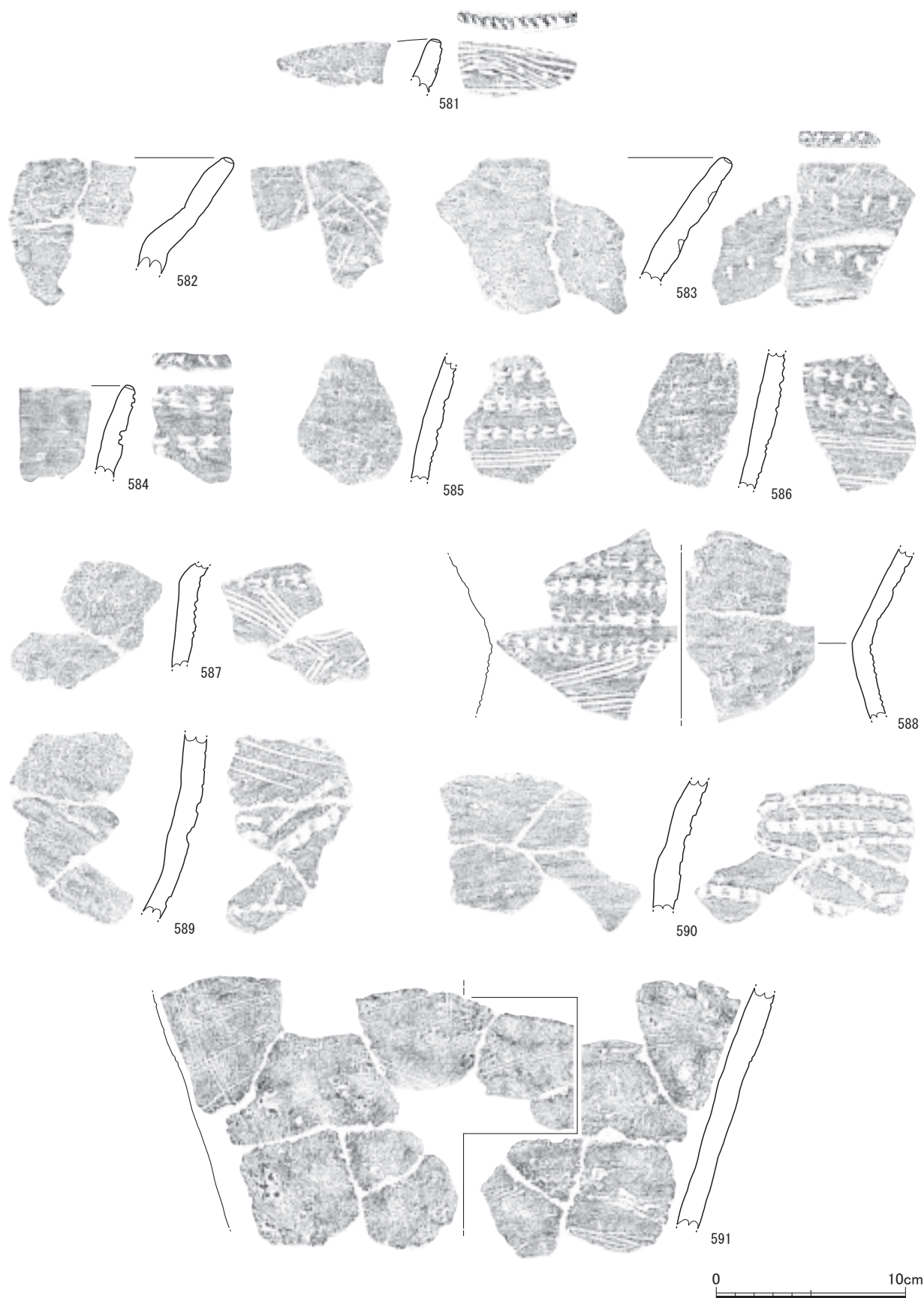


図 113 1C 区出土縄文時代の土器 2 (1/3)

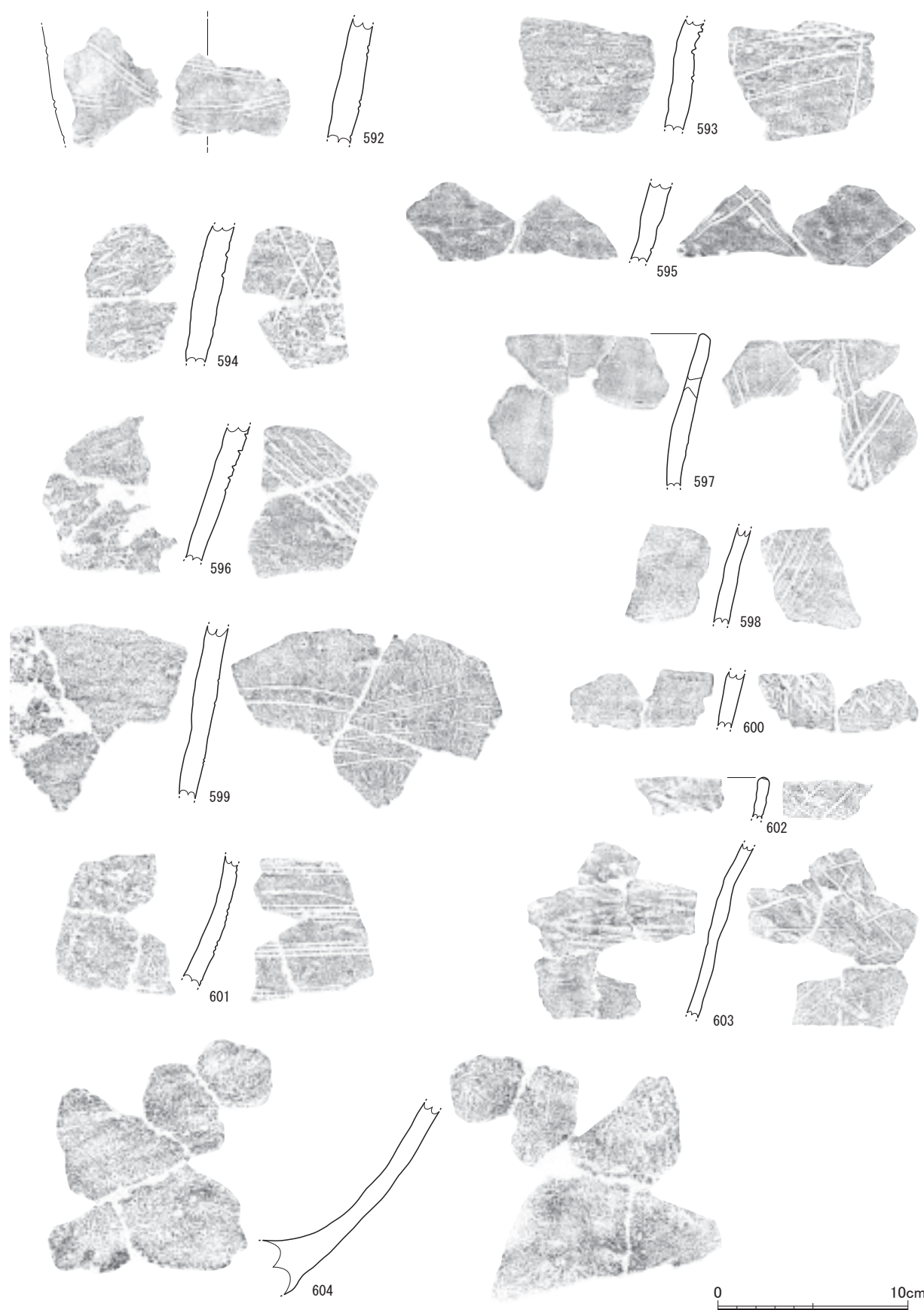


図 114 1C 区出土縄文時代の土器 3 (1/3)

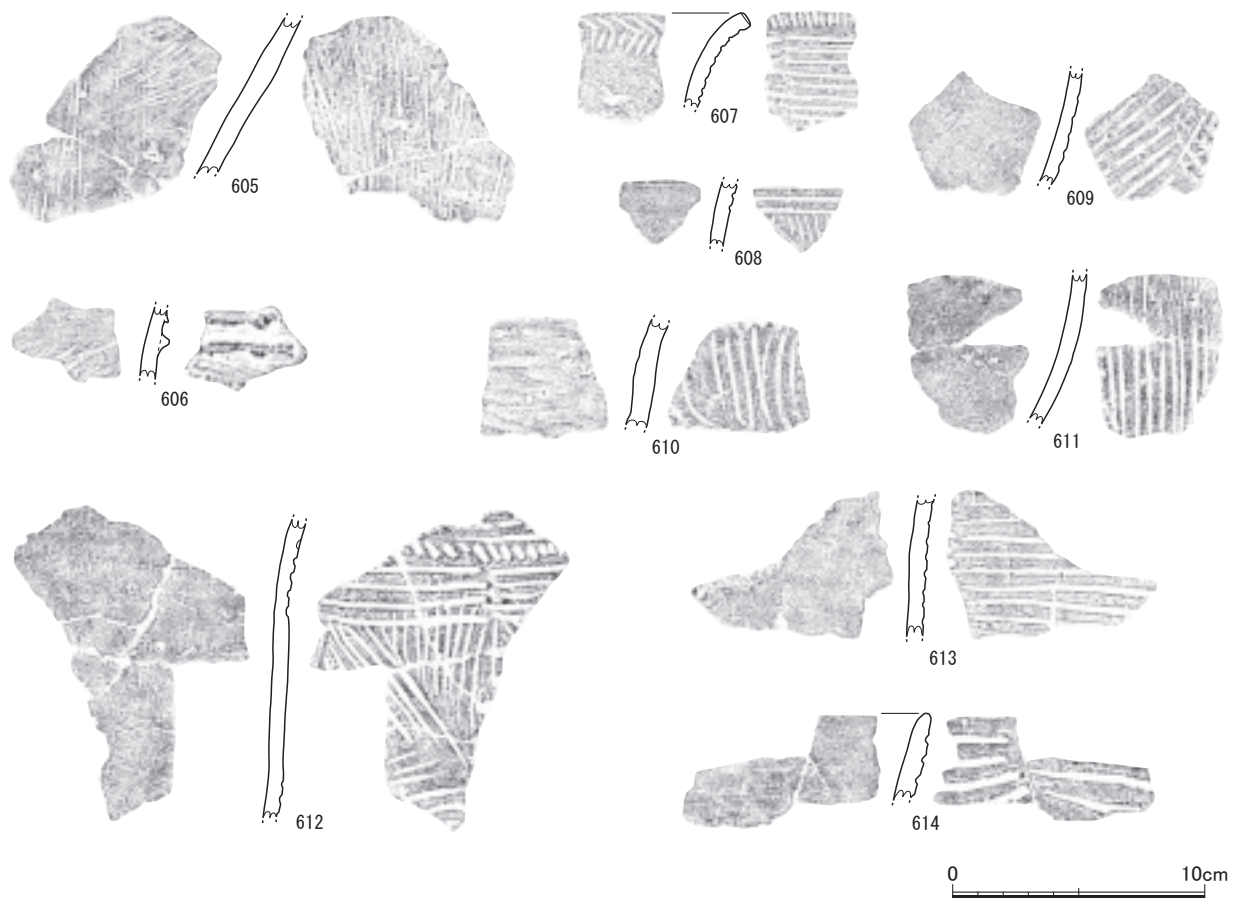


図 115 1C区出土縄文時代の土器 4 (1/3)

9類土器 (図 116)

615～619は無文の9類で、器面調整はナデである。616は波状口縁となる。618はナデが丁寧ではなく、条痕が残るが、9類とした。口縁端部に大きな刻みをもつ。619は残存部が少ないため確実ではないが、口縁端部外面に突帯をもつものと思われ、補修孔とみられる穿孔がある。

10類土器 (図 116)

620は外面に撚糸文と思われる文様が施された10B類で、内面の器面調整はナデである。621は貝殻腹縁による文様が施された10D類で、器面調整は外面がナデ、内面は条痕のちナデである。622は10E類で、ナデののち内外面に縄文を施す。623は内外面の器面調整が条痕の10C類である。

底部 (図 116)

624～626は底部である。いずれも平底で、器面調整はナデである。

石器 (図 117・118)

1C区から出土した石器は、10,222点の出土位置を3次元で計測して取り上げたが、このうち剥片石器とその石核・剥片が10,214点とほとんどを占め、磨製石器・礫石器は8点と非常に少ない。土器からみて、早期中葉～後葉を主体とするものと考えられる。

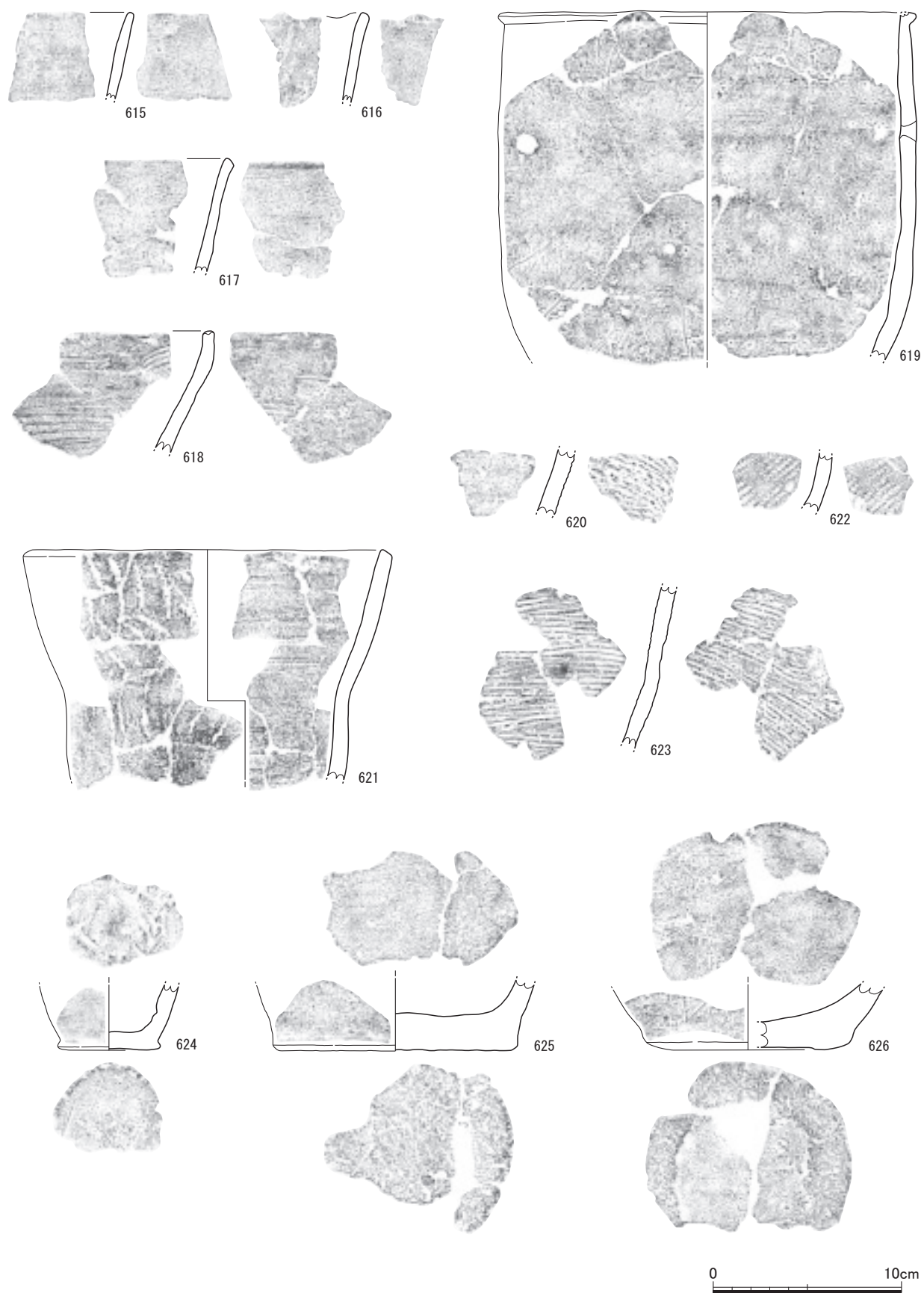


図 116 1C 区出土縄文時代の土器 5 (1/3)

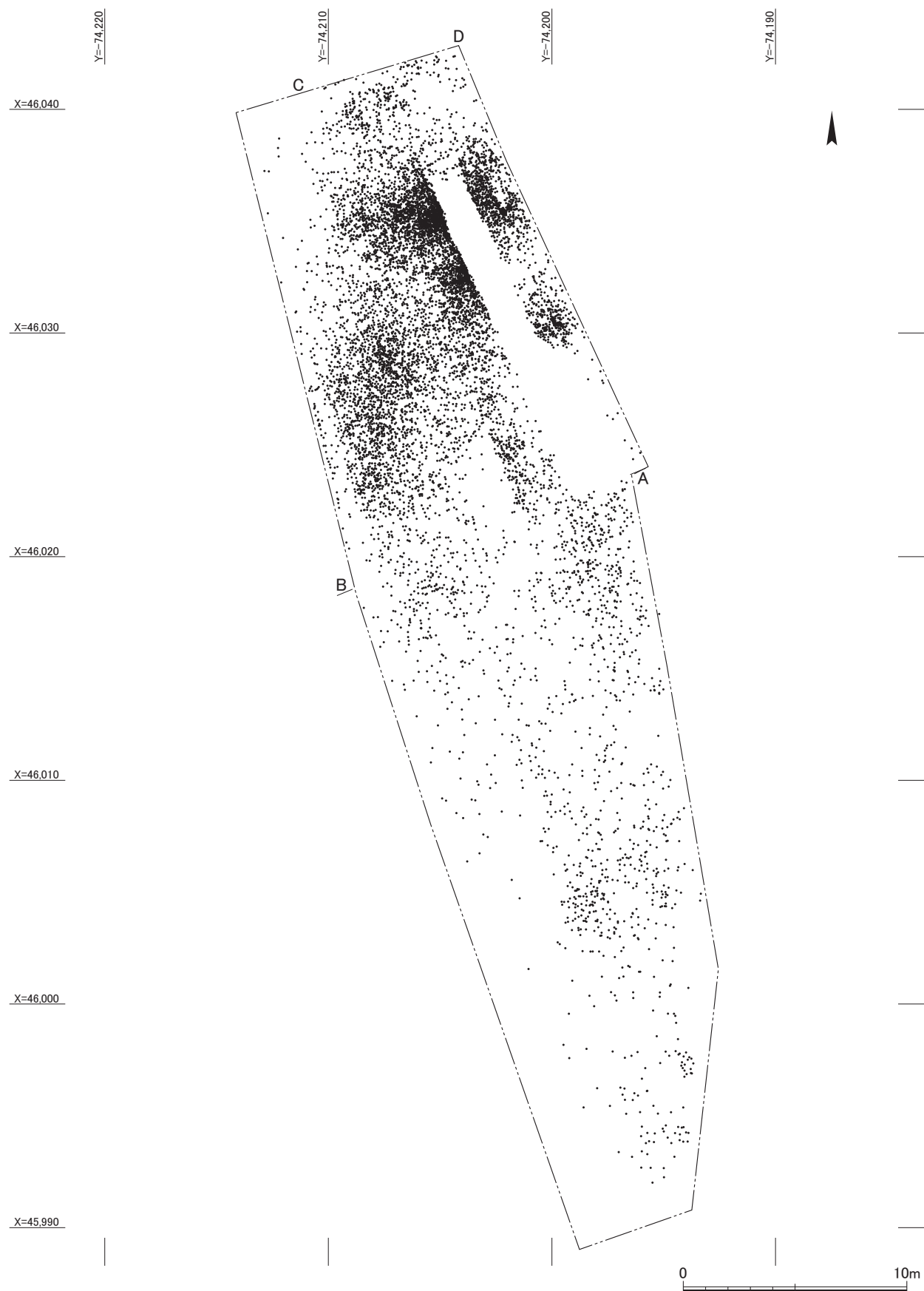


図 117 1C 区縄文時代石器の平面分布 (1/250)

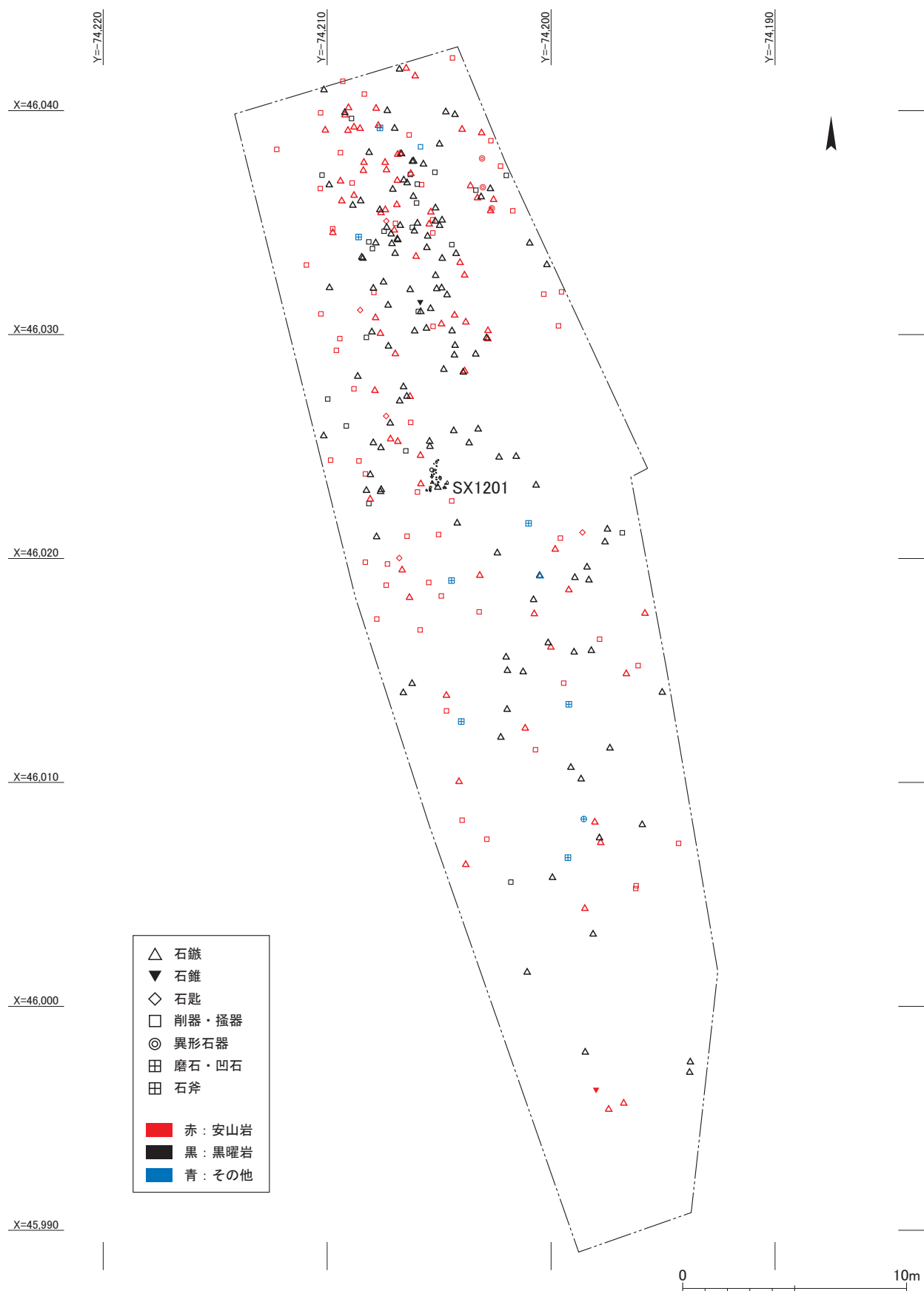


図 118 1C 区縄文時代定形石器の平面分布 (1/250)

剥片石器類を器種・石材別にみると、石鏃が 200 点（うち黒曜岩 127 点、無斑晶質安山岩 72 点、チャート 1 点）、石錐が 2 点（うち黒曜岩 1 点、無斑晶質安山岩 1 点）、石匙が 5 点（無斑晶質安山岩）、削器・搔器が 78 点（うち黒曜岩 21 点、無斑晶質安山岩 56 点、チャート 1 点）、異形石器が 3 点（無斑晶質安山岩）、細石刃が 2 点（黒曜岩）で、石鏃が定形石器の約 7 割を占める。このほか、二次加工剥片・微細剥離痕ある剥片が 81 点（うち黒曜岩 52 点、無斑晶質安山岩 29 点）、剥片が 9,795 点（うち黒曜岩 5,735 点、無斑晶質安山岩 4,059 点、チャート 1 点）、石核が 48 点（うち黒曜岩 37 点、無斑晶質安山岩 11 点）であり、剥片石器類の 9 割以上は剥片・石核類である。剥片石器に用いられた石材は黒曜岩が約 6 割を占め、無斑晶質安山岩が約 4 割で、3 点チャートと思われるものがある。

磨製石器・礫石器は、磨製石斧 1 点、磨石 6 点、凹石 1 点である。

打製石器（図 119～124）

627～892 は石鏃である。627～636 は 2 cm 未満の小型のもので、平面が二等辺三角形、正三角形、五角形、基部は平基、微凹基、凹基のものがある。調整は丁寧なものが多い。637・638 はほぼ全面に研磨が及ぶもので、637 は無斑晶質安山岩、638 は黒曜岩製である。639 は両面に一部研磨がみられる平面が細長い二等辺三角形の石鏃である。640～642 は基部が円基のものである。643～646 は調整加工が縁部にのみ施され、素材面を残すもので、未製品の可能性もあるが、製品とした。647・648 は長脚のものである。649～652 は平面が細長い二等辺三角形のもので、650 はやや長脚気味で、他は微凹基である。651・652 は側縁を鋸歯状に作り出す。653・654 は基部が平基のものである。655～673 は鋏形鏃で、大きさや脚部の形状、基部の挟りの深さなどで細分が可能である。655 は側縁を鋸歯状に作り出し、668 は素材面を残し、未製品の可能性がある。674～691 は平面が二等辺三角形、基部が凹基あるいは微凹基のもので、側縁が直線的なものやや膨らむものがある。679・680・690 は側縁を鋸歯状に作り出している。692 はチャートと思われる石材のもので、基部は平基である。693～696 は製作途中で放棄された未製品であるが、693 は製品の可能性がある。

697 は側縁が膨らみ、挟りも石鏃のものとはやや異なることから異形石器とした。欠損部にも同じような挟りがあったものと推定される。

698～701 はラウンドスクレーパーの類で、黒曜岩製である。702・703 は縦型の石匙で、主に片面からの調整加工で刃部を作出している。704 は図面とは逆に横型の石匙とすべきかもしれない。705・706 は横型の石匙で、両面からの調整加工で刃部を作出している。

707・708・710～720 は無斑晶質安山岩の大小の剥片を用いて刃部にのみ調整加工を施した削器・搔器で、調整剥離の程度はさまざまである。709 はチャートと思われる石材の削器で、両面から調整加工を施して刃部を作出している。

721～724 は黒曜岩製の石核で、721～723 は打面転移を頻繁に繰り返した残核である。725・726 は無斑晶質安山岩製の石核である。

727・728 は黒曜岩製の細石刃で、微細剥離痕がみられる。

磨製石器・礫石器（図 125）

729 は両刃の磨製石斧で、刃部は丁寧に研磨されているが、両側縁は研磨していない。

730 は凹石で、敲石・磨石として使用している。731～733 は磨石で、使用によるものと思われる磨滅痕がみられ、敲石として使われたものもある。

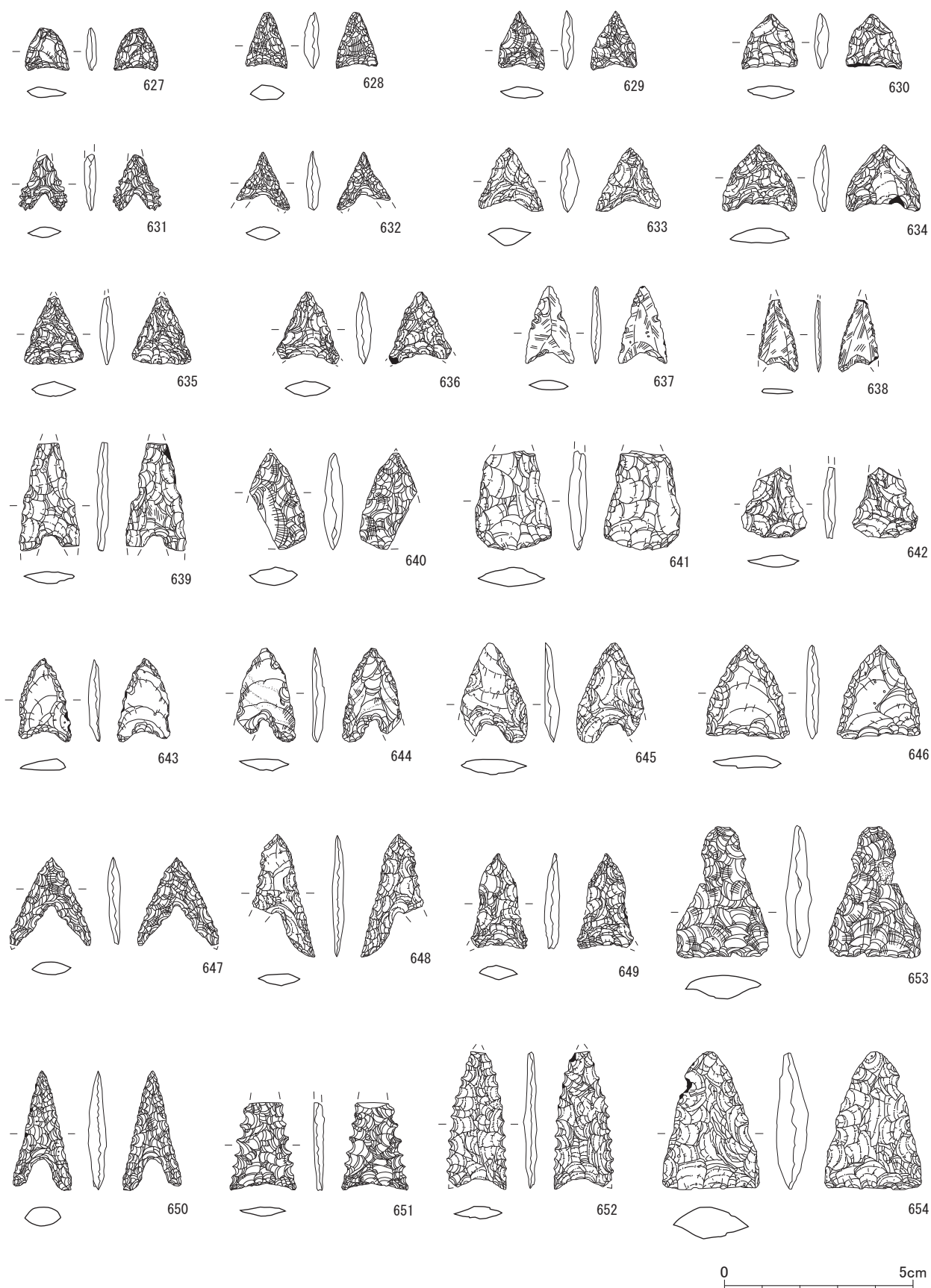


図 119 1C 区出土縄文時代の石器 1 (2/3)

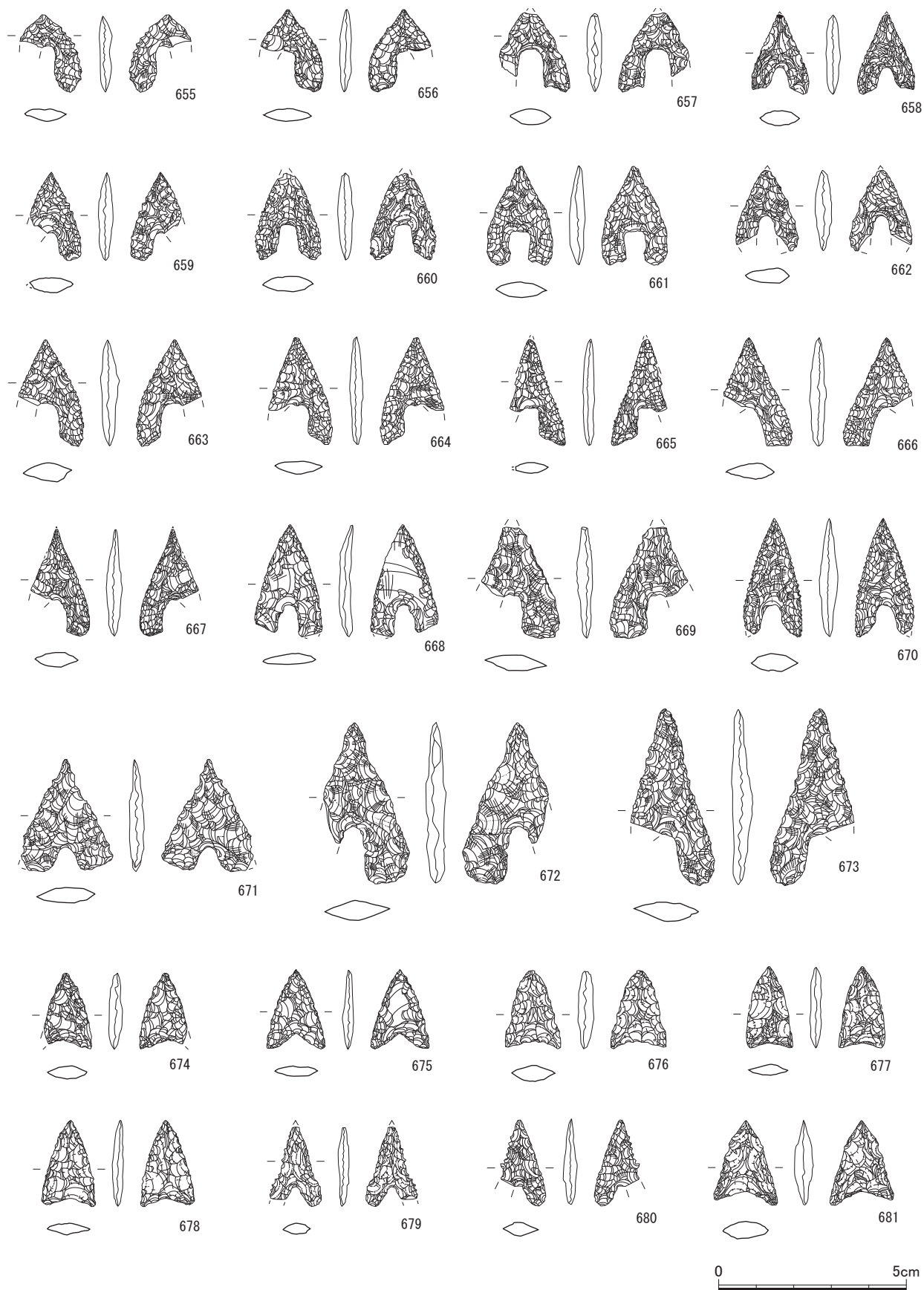


図 120 1C 区出土縄文時代の石器 2 (2/3)

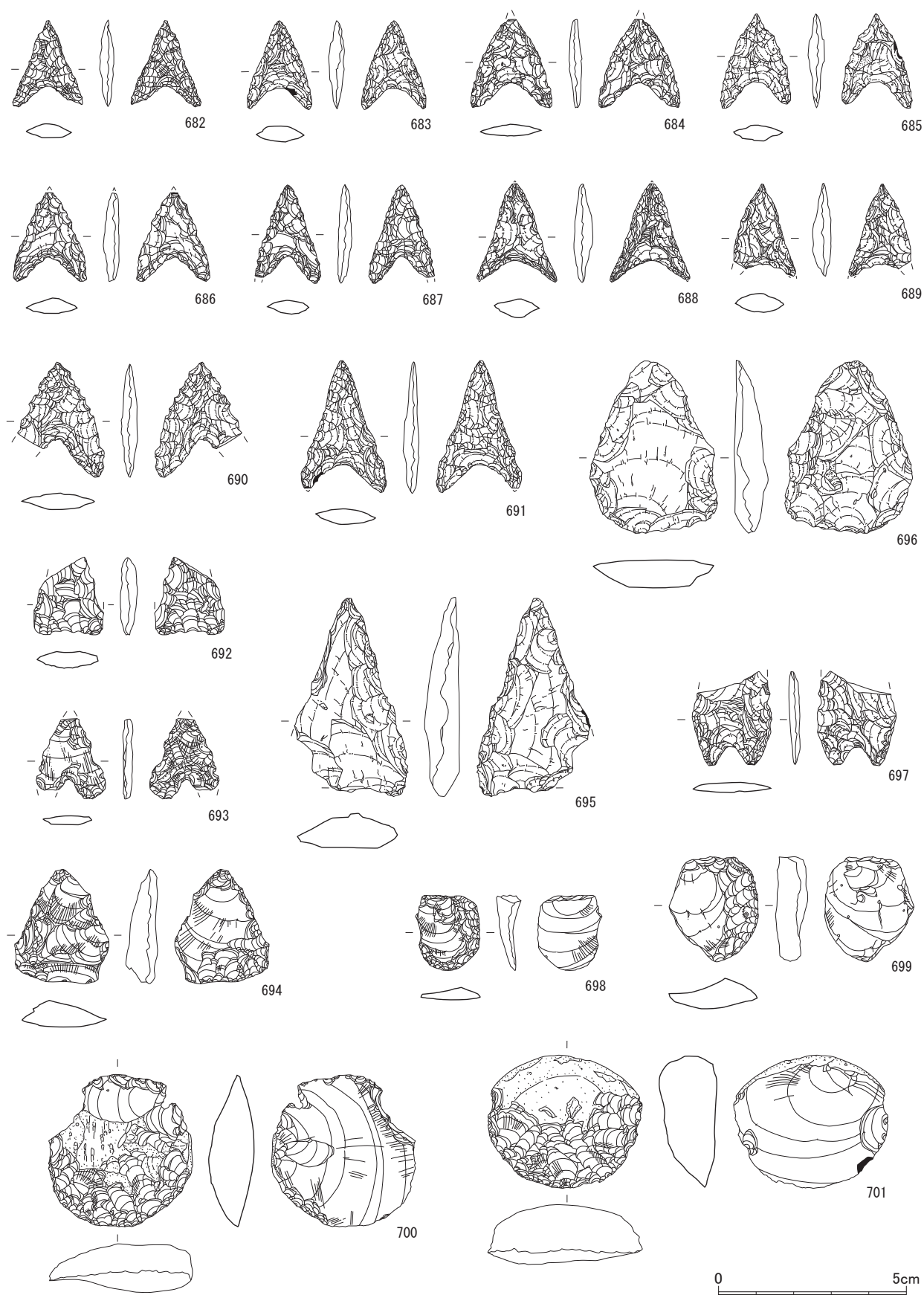


図 121 1C 区出土縄文時代の石器 3 (2/3)

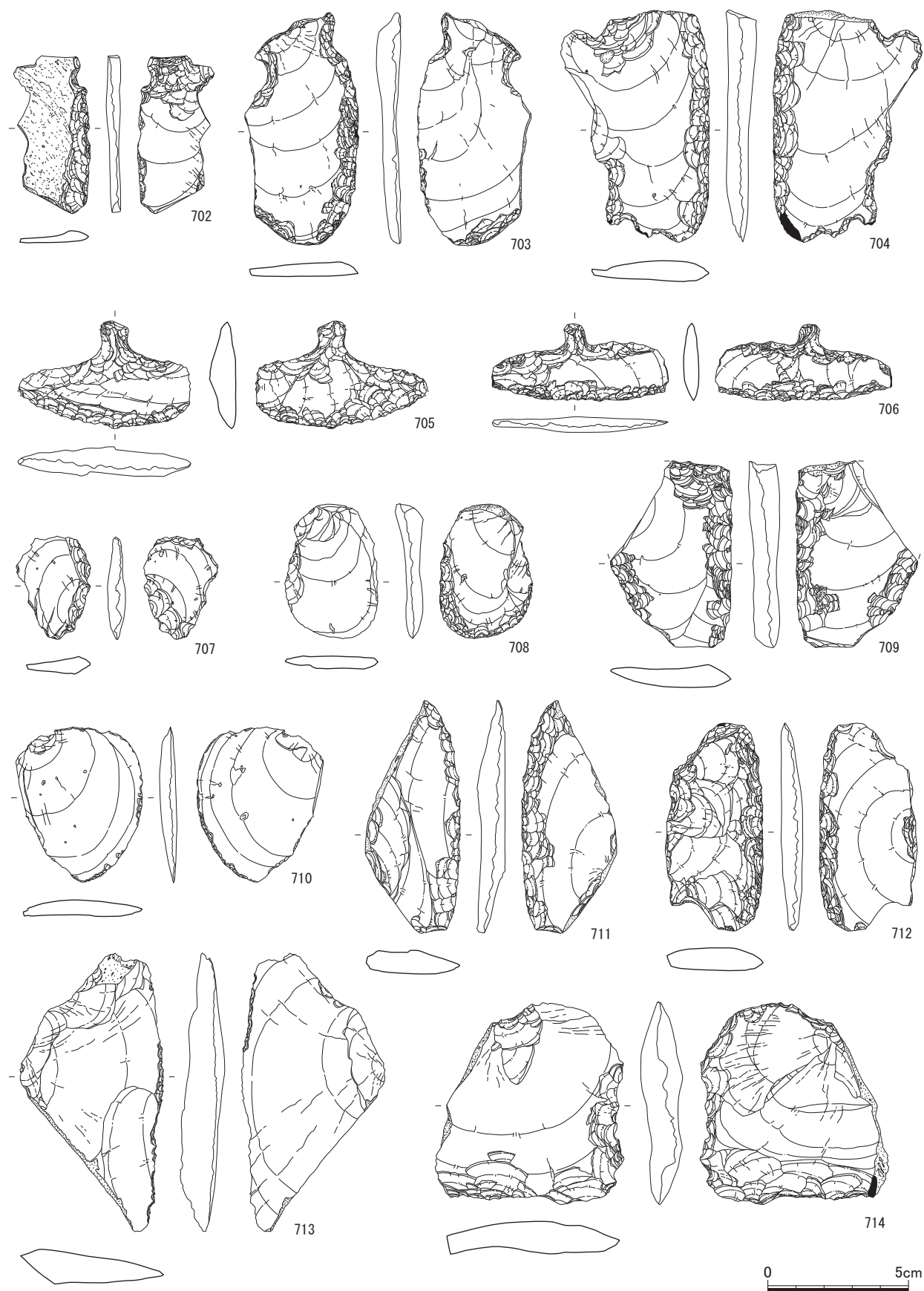


図 122 1C 区出土縄文時代の石器 4 (1/2)

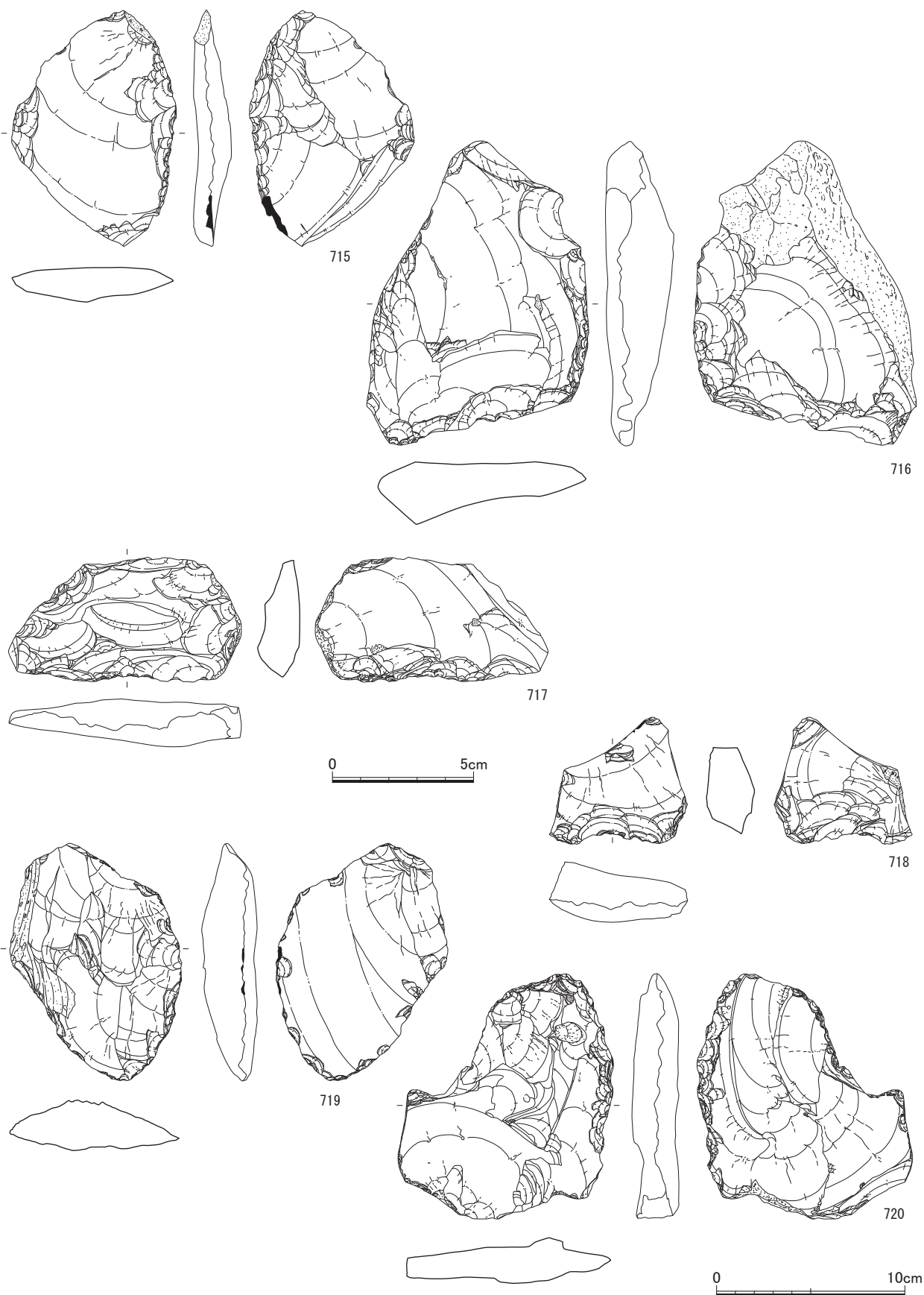


図 123 1C 区出土縄文時代の石器 5 (715～717 は 1/2、718～720 は 1/3)

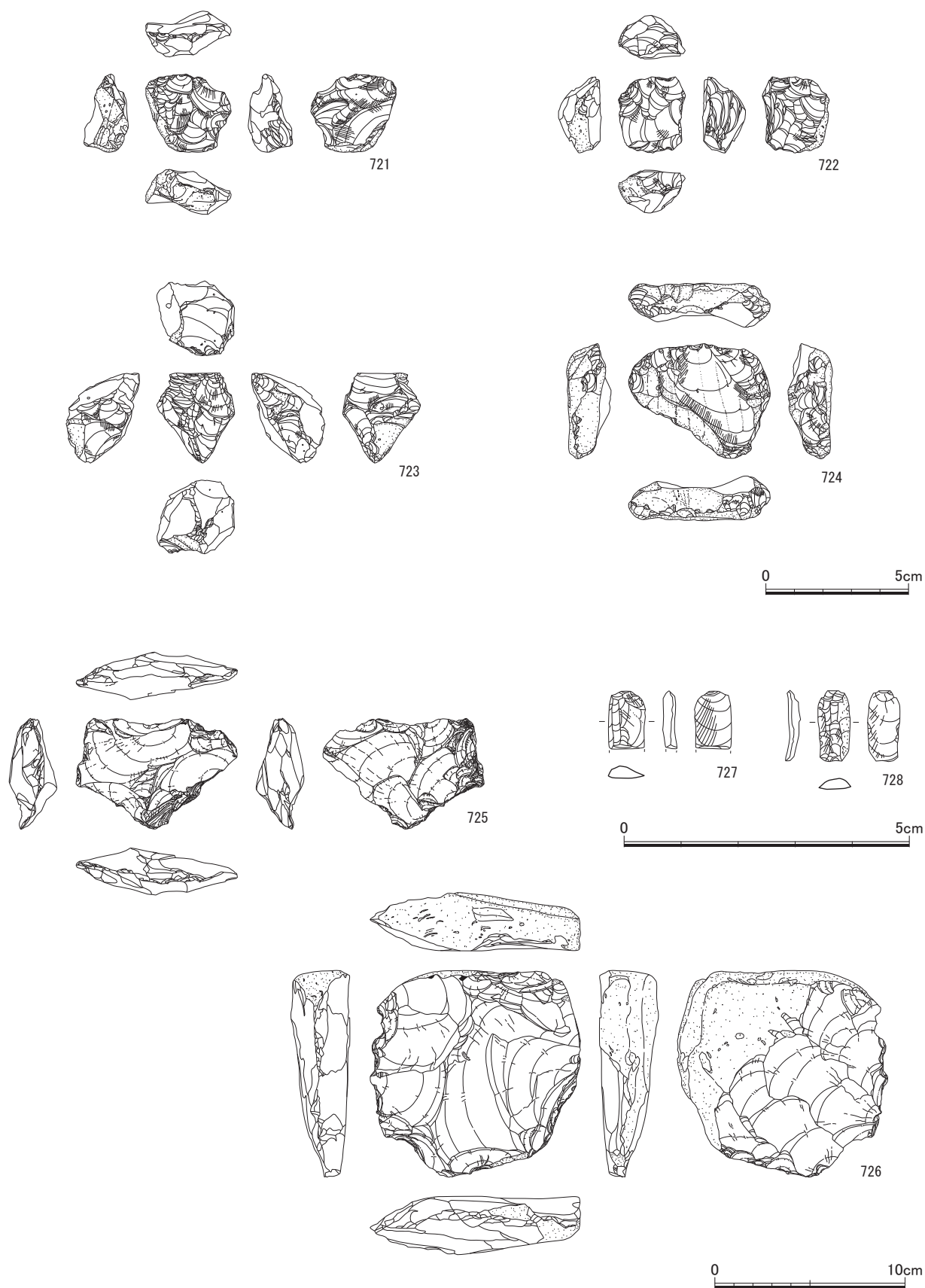


図 124 1C 区出土縄文時代の石器 6 (721～724 は 1/2、725・726 は 1/3、727・728 は 1/1)

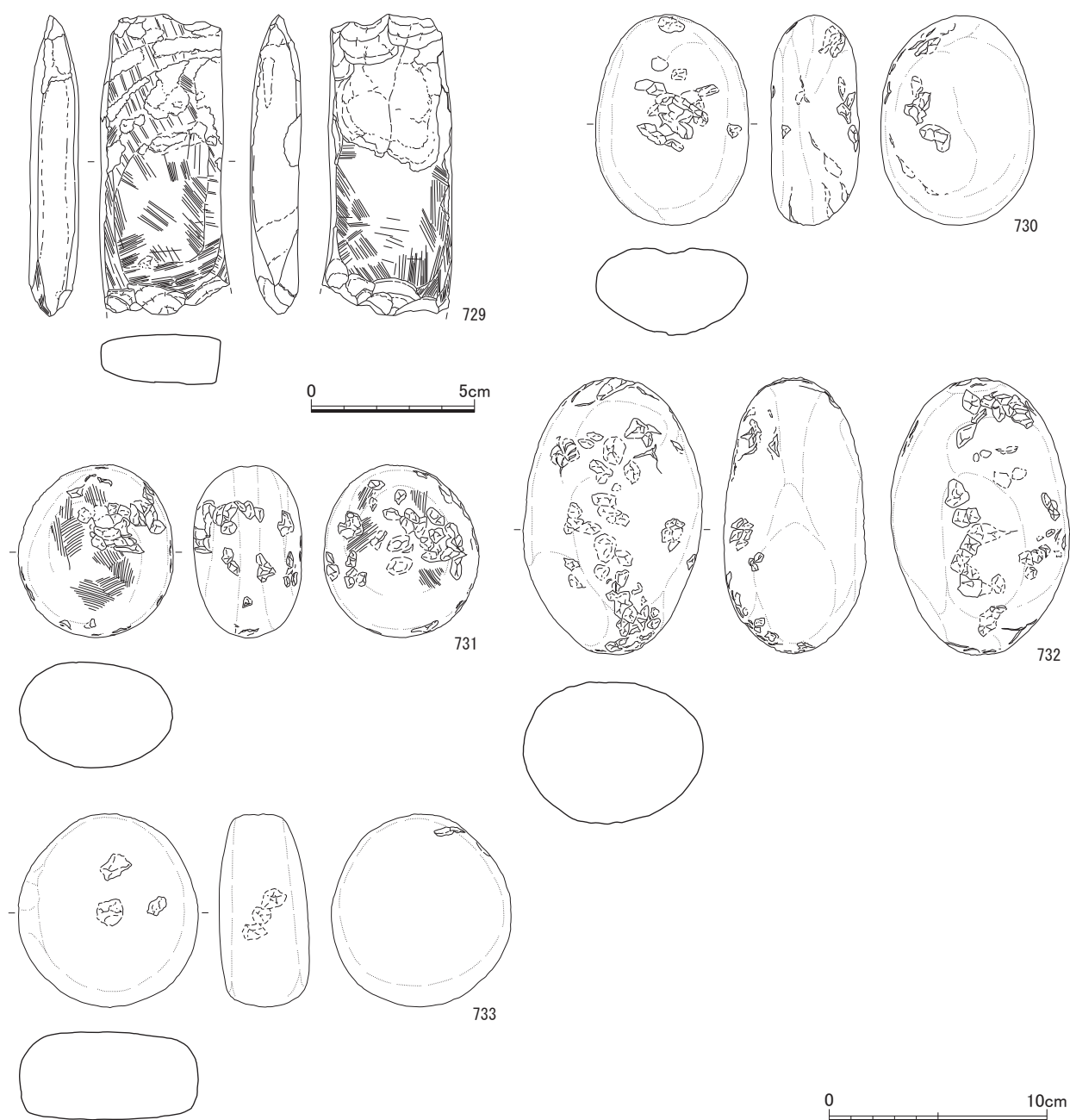


図 125 1C 区出土縄文時代の石器 7 (729 は 1/2、730 ～ 733 は 1/3)

表 11 九郎遺跡 1C 区縄文時代の出土土器

挿図・番号 登録番号	出土位置	種別 器種	寸法 cm			色調	備考	写真図版 写真登録番号
			口径	底径	器高			
図 112-563 10001766	4・5 層	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：にぶい黄橙 内：灰黄褐		写真図版 46-563 20103430・3431
図 112-564 10001767	5 層	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：にぶい黄橙 内：灰黄褐		写真図版 46-564 20103429
図 112-565 10001759	4 層	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：にぶい橙 内：にぶい黄橙		写真図版 46-565 20103426
図 112-566 10001758	4 層	縄文土器 深鉢	-	-	-	にぶい橙		写真図版 46-566 20103425
図 112-567 10001770	4 層	縄文土器 深鉢	-	-	-	にぶい黄褐		写真図版 46-567 20103395・3396
図 112-568 10001771	4 層	縄文土器 深鉢	-	-	-	にぶい黄橙		写真図版 46-568 20103397・3398
図 112-569 10001769	4 層	縄文土器 深鉢	-	-	-	灰黄褐		写真図版 46-569 20103393・3394
図 112-570 10001762	4・6 層	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：にぶい黄橙 内：灰黄褐		写真図版 46-570 20103384・3385
図 112-571 10001765	4 層	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：にぶい褐 内：褐灰		写真図版 46-571 20103390
図 112-572 10001760	4 層	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：にぶい橙 内：にぶい黄褐		写真図版 46-572 20103427・3428
図 112-573 10001755	4・5 層	縄文土器 深鉢	-	-	-	にぶい褐		写真図版 46-573 20103383
図 112-574 10001763	4 層	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：灰黄褐 内：にぶい黄橙		写真図版 46-574 20103386・3387
図 112-575 10001757	4 層	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：にぶい黄橙 内：灰黄褐	外面一部煤付着	写真図版 46-575 20103424
図 112-576 10001768	4 層	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：にぶい黄橙 内：灰黄褐		写真図版 46-576 20103391・3392
図 112-577 10001764	4 層	縄文土器 深鉢	-	-	-	にぶい赤褐		写真図版 46-577 20103388・3389
図 112-578 10001756	4 層	縄文土器 深鉢	-	-	-	にぶい褐		写真図版 46-578 20103423
図 112-579 10001761	4 層	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：橙 内：にぶい橙・褐灰		
図 112-580 10001731	4 層	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：にぶい黄橙・にぶい黄 内：にぶい黄橙・灰黄褐	外面煤・内面炭化物付着	写真図版 46-580 20103407・3408
図 113-581 10001735	4 層	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：にぶい褐 内：にぶい橙		写真図版 46-581 20103376
図 113-582 10001708	4 層	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：灰褐・黒褐 内：にぶい褐・黒褐	外面煤・内面炭化物付着	写真図版 46-582 20103399
図 113-583 10001753	4 層	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：にぶい褐 内：にぶい黄褐	外面煤付着	写真図版 46-583 20103418
図 113-584 10001750	4 層	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：褐灰 内：灰黄褐	外面煤付着	写真図版 46-584 20103382
図 113-585 10001741	4 層	縄文土器 深鉢	-	-	-	にぶい黄橙	外面煤付着	写真図版 47-585 20103411
図 113-586 10001744	4 層	縄文土器 深鉢	-	-	-	にぶい黄橙	外面煤付着	写真図版 47-586 20103414
図 113-587 10001745	3～4 層	縄文土器 深鉢	-	-	-	にぶい褐	外面煤付着	写真図版 47-587 20103752
図 113-588 10001749	4 層	縄文土器 深鉢	-	-	-	にぶい褐	外面煤付着	写真図版 47-588 20103422
図 113-589 10001751	4 層	縄文土器 深鉢	-	-	-	にぶい褐		写真図版 47-589 20103416
図 113-590 10001752	4 層	縄文土器 深鉢	-	-	-	灰褐		写真図版 47-590 20103417
図 113-591 10001727	4 層	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：橙 内：灰黄褐・橙		写真図版 47-591 20103436
図 114-592 10001726	4 層	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：にぶい橙 内：にぶい黄橙	外面一部煤付着	写真図版 47-592 20103405
図 114-593 10001747	4 層	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：灰黄褐 内：にぶい黄橙	外面煤付着	写真図版 47-593 20103420
図 114-594 10001743	4 層	縄文土器 深鉢	-	-	-	にぶい黄褐		写真図版 47-594 20103413

表 11 九郎遺跡 1C 区縄文時代の出土土器

挿図・番号 登録番号	出土位置	種別 器種	寸法 cm			色調	備考	写真図版 写真登録番号
			口径	底径	器高			
図 114-595 10001748	4 層	縄文土器 深鉢	-	-	-	灰黄褐	外面煤付着	写真図版 47-595 20103421
図 114-596 10001746	4 層	縄文土器 深鉢	-	-	-	灰黄褐		写真図版 47-596 20103415
図 114-597 10001754	4 層	縄文土器 深鉢	-	-	-	にぶい黄橙	外面煤付着	写真図版 47-597 20103419
図 114-598 10001723	4 層	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：にぶい褐 内：灰黄褐		写真図版 47-598 20103372
図 114-599 10001709	4 層	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：赤褐・にぶい褐 内：にぶい黄橙		写真図版 47-599 20103400
図 114-600 10001730	4 層	縄文土器 深鉢	-	-	-	灰黄褐	外面煤付着	写真図版 47-600 20103374
図 114-601 10001742	4・9 層	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：にぶい褐 内：灰黄褐	外面煤付着	写真図版 47-601 20103412
図 114-602 10001728	5 層	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：灰褐 内：黒褐		写真図版 48-602 20103373
図 114-603 10001729	4 層	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：灰黄褐 内：黒褐	外面煤・内面炭化物付着	写真図版 48-603 20103406
図 114-604 10001724	4 層	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：橙 内：黒褐・にぶい橙		写真図版 48-604 20103435
図 115-605 10001725	4 層	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：にぶい褐 内：にぶい赤褐・灰黄褐		写真図版 48-605 20103404
図 115-606 10001716	4 層	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：黄灰・黒褐 内：暗灰黄	外面煤付着	写真図版 48-606 20103368
図 115-607 10001718	4 層	縄文土器 深鉢	-	-	-	にぶい黄褐	滑石を含む 外面煤付着	写真図版 48-607 20103370・3371
図 115-608 10001715	4 層	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：にぶい黄褐 内：にぶい黄橙	滑石を含む 外面煤付着	写真図版 48-608 20103367
図 115-609 10001713	4 層	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：黒褐 内：にぶい黄橙・黒褐		写真図版 48-609 20103366
図 115-610 10001710	4 層	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：灰黄褐 内：にぶい黄橙・灰黄褐	外面煤付着	写真図版 48-610 20103363
図 115-611 10001711	4 層	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：にぶい黄褐 内：黒		写真図版 48-611 20103364
図 115-612 10001720	4 層	縄文土器 深鉢	-	-	-	黒	外面煤付着	写真図版 48-612 20103432
図 115-613 10001717	4 層	縄文土器 深鉢	-	-	-	にぶい黄褐		写真図版 48-613 20103369
図 115-614 10001712	4 層	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：にぶい黄橙・灰黄褐 内：黄灰	外面煤付着	写真図版 48-614 20103365
図 116-615 10001738	9 層	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：灰黄褐 内：黒褐	内面炭化物付着	写真図版 48-615 20103378
図 116-616 10001739	9 層	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：褐灰 内：黒褐		写真図版 48-616 20103379
図 116-617 10001734	5・6 層	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：橙 内：褐灰・橙		写真図版 48-617 20103375
図 116-618 10001719	4 層	縄文土器 深鉢	-	-	-	橙	外面煤付着	写真図版 48-618 20103402
図 116-619 10001737	9 層	縄文土器 深鉢	22.2*	-	-	外：灰黄褐・橙 内：にぶい黄橙・灰黄褐		写真図版 48-619 20103437
図 116-620 10001736	7 層	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：橙 内：にぶい褐		写真図版 48-620 20103377
図 116-621 10001733	4 層	縄文土器 深鉢	18.5*	-	-	外：にぶい赤褐 内：灰褐		写真図版 48-621 20103434
図 116-622 10001740	4 層	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：にぶい赤褐 内：灰褐・橙	外面煤付着	写真図版 48-622 20103380・3381
図 116-623 10001714	4 層	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：にぶい黄褐・黒褐 内：黒褐	外面煤付着	写真図版 48-623 20103401
図 116-624 10001732	4 層	縄文土器 深鉢	-	5.4*	-	外：明赤褐 内：橙		写真図版 48-624 20103747
図 116-625 10001722	3 層	縄文土器 深鉢	-	13.0*	-	外：橙 内：浅黄		写真図版 48-625 20103403
図 116-626 10001721	4 層	縄文土器 深鉢	-	10.8*	-	外：橙 内：橙・にぶい黄橙		写真図版 48-626 20103433

表 12 九郎遺跡 1C 区縄文時代の出土石器

挿図・番号 登録番号	出土位置	種別 器種	寸法 cm			重量 g	石材	備考	写真図版 写真登録番号
			長さ	幅	厚さ				
図 119-627 10001522	4 層	打製石器 石鏃	1.1	1.2	0.3	0.4	黒曜岩	完形	写真図版 49-627 20103293
図 119-628 10001518	10 層	打製石器 石鏃	1.5	1.1	0.4	0.6	黒曜岩	完形	写真図版 49-628 20103289
図 119-629 10001501	9 層	打製石器 石鏃	1.6	1.2	0.3	0.4	黒曜岩	完形	写真図版 49-629 20103272
図 119-630 10001524	9 層	打製石器 石鏃	1.5	1.5	0.4	0.8	無班品質安山岩	ほぼ完形	写真図版 49-630 20103295
図 119-631 10001529	4 層	打製石器 石鏃	1.5	1.3	0.3	0.4	黒曜岩	先端部欠損	写真図版 49-631 20103300
図 119-632 10001513	4 層	打製石器 石鏃	1.5	1.4	0.4	0.4	黒曜岩	片脚部欠損	写真図版 49-632 20103284
図 119-633 10001506	4 層	打製石器 石鏃	1.7	1.7	0.5	0.8	無班品質安山岩	完形	写真図版 49-633 20103277
図 119-634 10001532	9 層	打製石器 石鏃	1.8	2.0	0.4	1.4	無班品質安山岩	完形	写真図版 49-634 20103303
図 119-635 10001527	9 層	打製石器 石鏃	1.2	1.6	0.4	0.8	無班品質安山岩	先端部一部欠損	写真図版 49-635 20103298
図 119-636 10001535	4 層	打製石器 石鏃	1.9	1.7	0.4	1.0	無班品質安山岩	両脚部欠損	写真図版 49-636 20103306
図 119-637 10001559	4 層	打製石器 石鏃	2.1	1.3	0.2	0.6	無班品質安山岩	局部磨製 先端部一部欠損	写真図版 49-637 20103313
図 119-638 10001570	4 層	打製石器 石鏃	1.9	1.0	0.2	0.2	黒曜岩	先端部・片脚部欠損	写真図版 49-638 20103257
図 119-639 10001507	9 層	打製石器 石鏃	1.9	1.6	0.3	1.4	無班品質安山岩	先端部・両脚部欠損	写真図版 49-639 20103278
図 119-640 10001495	4 層	打製石器 石鏃	2.6	1.5	0.5	1.4	黒曜岩	先端部・片脚部欠損	写真図版 49-640 20103266
図 119-641 10001508	9 層	打製石器 石鏃	2.6	2.0	0.5	2.6	無班品質安山岩	先端部欠損	写真図版 49-641 20103279
図 119-642 10001525	9 層	打製石器 石鏃	1.9	1.7	0.3	1.0	無班品質安山岩	先端部欠損	写真図版 49-642 20103296
図 119-643 10001562	4 層	打製石器 石鏃	2.2	1.4	0.3	0.8	無班品質安山岩	完形 未製品力	写真図版 49-643 20103316
図 119-644 10001566	4 層	打製石器 石鏃	2.5	1.6	0.3	1.0	黒曜岩	片脚部欠損 未製品力	写真図版 49-644 20103318
図 119-645 10001496	4 層	打製石器 石鏃	2.6	1.8	0.4	1.4	無班品質安山岩	片脚部欠損 未製品力	写真図版 49-645 20103267
図 119-646 10001567	4 層	打製石器 石鏃	2.5	2.2	0.3	1.8	無班品質安山岩	完形 未製品力	写真図版 49-646 20103319
図 119-647 10001493	4 層	打製石器 石鏃	2.3	2.1	0.3	0.8	黒曜岩	片脚部欠損	写真図版 49-647 20103264
図 119-648 10001483	8 層	打製石器 石鏃	3.2	1.6	0.3	1.0	無班品質安山岩	片脚部欠損	写真図版 49-648 20103326
図 119-649 10001538	4 層	打製石器 石鏃	2.5	1.5	0.4	1.2	無班品質安山岩	片脚部・縁辺部欠損	写真図版 49-649 20103309
図 119-650 10001478	4 層	打製石器 石鏃	3.2	1.5	0.5	1.4	黒曜岩	完形	写真図版 49-650 20103322
図 119-651 10001526	9 層	打製石器 石鏃	2.3	1.7	0.3	1.0	黒曜岩	先端部欠損	写真図版 49-651 20103297
図 119-652 10001484	4 層	打製石器 石鏃	3.6	1.6	0.3	1.6	無班品質安山岩	先端部・片脚部欠損	写真図版 49-652 20103327
図 119-653 10001488	4 層	打製石器 石鏃	3.5	2.4	0.7	3.8	黒曜岩	完形	写真図版 49-653 20103331
図 119-654 10001486	4 層	打製石器 石鏃	3.7	2.6	0.8	6.4	無班品質安山岩	完形	写真図版 49-654 20103329
図 120-655 10001502	4 層	打製石器 石鏃	2.1	1.7	0.3	0.6	黒曜岩	片脚部欠損	写真図版 49-655 20103273
図 120-656 10001520	4 層	打製石器 石鏃	2.2	1.7	0.3	0.8	黒曜岩	片脚部欠損	写真図版 49-656 20103291
図 120-657 10001489	10 層	打製石器 石鏃	2.1	1.9	0.4	1.0	黒曜岩	先端部・片脚部欠損	写真図版 49-657 20103260
図 120-658 10001537	4 層	打製石器 石鏃	2.1	1.5	0.4	0.8	無班品質安山岩	先端部欠損	写真図版 49-658 20103308

表 12 九郎遺跡 1C 区縄文時代の出土石器

挿図 - 番号 登録番号	出土位置	種別 器種	寸法 cm			重量 g	石材	備考	写真図版 写真登録番号
			長さ	幅	厚さ				
図 120-659 10001515	6 層	打製石器 石鏃	2.3	1.4	0.4	0.8	黒曜岩	片脚部欠損	写真図版 49-659 20103286
図 120-660 10001531	4 層	打製石器 石鏃	2.3	1.7	0.4	1.2	無班品質安山岩	先端部欠損	写真図版 49-660 20103302
図 120-661 10001503	4 層	打製石器 石鏃	2.6	1.7	0.4	1.2	黒曜岩	完形	写真図版 49-661 20103274
図 120-662 10001491	5 層	打製石器 石鏃	2.1	1.7	0.4	1.0	黒曜岩	先端部・両脚部欠損	写真図版 49-662 20103262
図 120-663 10001490	5 層	打製石器 石鏃	2.8	1.7	0.5	1.2	黒曜岩	片脚部欠損	写真図版 49-663 20103261
図 120-664 10001516	5 層	打製石器 石鏃	2.9	1.7	0.3	1.0	黒曜岩	片脚部欠損	写真図版 49-664 20103287
図 120-665 10001521	8 層	打製石器 石鏃	2.8	1.5	0.3	0.8	黒曜岩	先端部・片脚部欠損	写真図版 49-665 20103292
図 120-666 10001514	6 層	打製石器 石鏃	2.9	1.8	0.4	1.2	黒曜岩	片脚部欠損	写真図版 49-666 20103285
図 120-667 10001539	4 層	打製石器 石鏃	2.8	1.6	0.4	1.0	黒曜岩	片脚部欠損	写真図版 49-667 20103310
図 120-668 10001511	5 層	打製石器 石鏃	3.0	1.8	0.4	1.2	黒曜岩	片脚部欠損	写真図版 49-668 20103282
図 120-669 10001497	4・9 層	打製石器 石鏃	3.0	2.1	0.4	1.6	黒曜岩	先端部・片脚部欠損	写真図版 49-669 20103268
図 120-670 10001485	4 層	打製石器 石鏃	3.2	1.6	0.5	1.5	黒曜岩	片脚部欠損	写真図版 49-670 20103328
図 120-671 10001492	4・9 層	打製石器 石鏃	3.0	2.4	0.4	2.0	黒曜岩	片脚部欠損	写真図版 49-671 20103263
図 120-672 10001481	5・6 層	打製石器 石鏃	4.3	2.3	0.5	2.7	黒曜岩	片脚部欠損	写真図版 49-672 20103324
図 120-673 10001482	5 層	打製石器 石鏃	4.7	2.2	0.5	2.7	黒曜岩	片脚部欠損	写真図版 49-673 20103325
図 120-674 10001523	8 層	打製石器 石鏃	2.0	1.3	0.4	0.8	黒曜岩	片脚部欠損	写真図版 50-674 20103294
図 120-675 10001512	5 層	打製石器 石鏃	2.1	1.6	0.3	0.6	黒曜岩	完形	写真図版 50-675 20103283
図 120-676 10001517	9 層	打製石器 石鏃	2.1	1.5	0.4	1.0	無班品質安山岩	完形	写真図版 50-676 20103288
図 120-677 10001533	10 層	打製石器 石鏃	2.2	1.2	0.3	0.8	無班品質安山岩	縁辺部一部欠損	写真図版 50-677 20103304
図 120-678 10001519	9 層	打製石器 石鏃	2.3	1.4	0.3	0.8	無班品質安山岩	完形	写真図版 50-678 20103290
図 120-679 10001505	4 層	打製石器 石鏃	2.1	1.4	0.3	0.6	無班品質安山岩	先端部・片脚部欠損	写真図版 50-679 20103276
図 120-680 10001499	4 層	打製石器 石鏃	2.3	1.2	0.3	0.6	黒曜岩	片脚部欠損	写真図版 50-680 20103270
図 120-681 10001528	4 層	打製石器 石鏃	2.3	1.7	0.5	1.2	無班品質安山岩	完形	写真図版 50-681 20103299
図 121-682 10001498	4 層	打製石器 石鏃	2.3	1.9	0.4	0.8	黒曜岩	完形	写真図版 50-682 20103269
図 121-683 10001500	4 層	打製石器 石鏃	2.3	1.7	0.4	1.2	無班品質安山岩	完形	写真図版 50-683 20103271
図 121-684 10001540	4 層	打製石器 石鏃	2.4	2.2	0.3	1.2	無班品質安山岩	先端部欠損	写真図版 50-684 20103311
図 121-685 10001504	4 層	打製石器 石鏃	2.5	1.9	0.4	1.2	無班品質安山岩	完形	写真図版 50-685 20103275
図 121-686 10001509	5 層	打製石器 石鏃	2.4	2.0	0.4	1.2	無班品質安山岩	先端部欠損	写真図版 50-686 20103280
図 121-687 10001510	4 層	打製石器 石鏃	2.6	1.8	0.4	1.0	黒曜岩	先端部・片脚部欠損	写真図版 50-687 20103281
図 121-688 10001530	4 層	打製石器 石鏃	2.6	2.1	0.5	1.4	無班品質安山岩	先端部欠損	写真図版 50-688 20103301
図 121-689 10001534	4 層	打製石器 石鏃	2.5	1.6	0.5	1.6	無班品質安山岩	両脚部欠損	写真図版 50-689 20103305
図 121-690 10001477	4 層	打製石器 石鏃	3.0	2.3	0.4	2.0	無班品質安山岩	片脚部欠損	写真図版 50-690 20103321

表 12 九郎遺跡 1C 区縄文時代の出土石器

挿図 - 番号 登録番号	出土位置	種別 器種	寸法 cm			重量 g	石材	備考	写真図版 写真登録番号
			長さ	幅	厚さ				
図 121-691 10001480	4 層	打製石器 石鏃	3.5	2.3	0.4	1.7	無班品質安山岩	片脚部欠損	写真図版 50-691 20103323
図 121-692 10001536	4 層	打製石器 石鏃	2.1	1.9	0.4	1.8	チャート	先端部欠損	写真図版 50-692 20103307
図 121-693 10001494	4 層	打製石器 石鏃	2.1	1.8	0.2	0.9	黒曜岩	先端部・片脚部欠損 未製品	写真図版 50-693 20103265
図 121-694 10001568	4 層	打製石器 石鏃	3.0	2.5	0.8	4.8	黒曜岩	完形 未製品	写真図版 50-694 20103320
図 121-695 10001479	9 層	打製石器 石鏃	5.3	3.0	0.9	11.4	無班品質安山岩	片脚部欠損 未製品	写真図版 50-695 20103340
図 121-696 10001487	6 層	打製石器 石鏃	4.6	3.4	0.9	12.4	無班品質安山岩	完形 未製品	写真図版 50-696 20103330
図 121-697 10001541	9 層	打製石器 異形石器	2.5	2.1	0.3	1.6	無班品質安山岩	先端部欠損	写真図版 50-697 20103312
図 121-698 10001560	7 層	打製石器 削器	2.0	1.7	0.6	1.4	黒曜岩	完形	写真図版 50-698 20103314
図 121-699 10001564	9 層	打製石器 搔器	2.8	2.4	0.8	4.8	黒曜岩	完形	写真図版 50-699 20103317
図 121-700 10001569	9 層	打製石器 搔器	4.1	3.8	1.3	17.2	黒曜岩	完形	写真図版 50-700 20103334
図 121-701 10001565	9 層	打製石器 搔器	3.5	4.1	1.6	24.4	黒曜岩	完形	写真図版 50-701 20103333
図 122-702 10001544	4 層	打製石器 石匙	6.6	2.7	0.5	7.4	無班品質安山岩	完形	写真図版 50-702 20103341
図 122-703 10001543	4 層	打製石器 石匙	8.2	4.0	0.9	26.4	無班品質安山岩	完形	写真図版 50-703 20103347
図 122-704 10001550	4 層	打製石器 石匙	8.3	5.3	1.1	38.0	無班品質安山岩	完形	写真図版 50-704 20103350
図 122-705 10001557	4 層	打製石器 石匙	3.8	6.1	0.9	16.8	無班品質安山岩	ほぼ完形	写真図版 50-705 20103339
図 122-706 10001548	4 層	打製石器 石匙	2.8	6.2	0.5	7.8	無班品質安山岩	完形	写真図版 50-706 20103343
図 122-707 10001561	4 層	打製石器 削器	3.7	2.6	0.6	4.8	無班品質安山岩	完形	写真図版 50-707 20103315
図 122-708 10001563	10 層	打製石器 削器	4.8	3.3	1.0	10.4	無班品質安山岩	完形	写真図版 50-708 20103332
図 122-709 10001547	9 層	打製石器 削器	6.6	4.3	1.1	29.8	チャート	一部欠損	写真図版 50-709 20103342
図 122-710 10001551	10 層	打製石器 削器	5.5	4.5	0.6	14.2	無班品質安山岩	完形	写真図版 50-710 20103344
図 122-711 10001553	10 層	打製石器 削器	8.3	3.4	1.0	24.4	無班品質安山岩	完形	写真図版 50-711 20103351
図 122-712 10001542	4 層	打製石器 削器	7.4	3.5	0.8	23.2	無班品質安山岩	完形	写真図版 50-712 20103346
図 122-713 10001552	4 層	打製石器 削器	9.9	5.1	1.6	50.6	無班品質安山岩	完形	写真図版 50-713 20103355
図 122-714 10001546	9 層	打製石器 削器	7.2	6.7	1.5	76.0	無班品質安山岩	ほぼ完形	写真図版 51-714 20103349
図 123-715 10001558	9 層	打製石器 削器	8.3	5.8	1.4	53.2	無班品質安山岩	一部欠損	写真図版 51-715 20103352
図 123-716 10001549	4 層	打製石器 削器	10.8	7.9	2.4	168.8	無班品質安山岩	完形	写真図版 51-716 20103354
図 123-717 10001556	4 層	打製石器 搔器	4.4	8.2	1.7	59.4	無班品質安山岩	完形	写真図版 51-717 20103345
図 123-718 10001545	9 層	打製石器 搔器	6.7	7.3	3.2	119.0	無班品質安山岩	完形	写真図版 51-718 20103348
図 123-719 10001554	4 層	打製石器 削器	12.6	9.1	3.0	302.4	無班品質安山岩	ほぼ完形	写真図版 51-719 20103356
図 123-720 10001555	4 層	打製石器 削器	13.0	11.4	2.5	317.0	無班品質安山岩	完形	写真図版 51-720 20103357
図 124-721 10001576	5 層	打製石器 石核	2.7	3.0	1.6	9.2	黒曜岩	完形	写真図版 51-721 20103336
図 124-722 10001578	5 層	打製石器 石核	2.7	2.4	1.5	8.6	黒曜岩	完形	写真図版 51-722 20103338

表 12 九郎遺跡 1C 区縄文時代の出土石器

挿図 - 番号 登録番号	出土位置	種別 器種	寸法 cm			重量 g	石材	備考	写真図版 写真登録番号
			長さ	幅	厚さ				
図 124-723 10001577	4 層	打製石器 石核	3.2	2.7	2.6	16.0	黒曜岩	完形	写真図版 51-723 20103337
図 124-724 10001575	4 層	打製石器 石核	4.0	5.0	1.6	25.4	黒曜岩	完形	写真図版 51-724 20103335
図 124-725 10001573	4 層	打製石器 石核	5.8	8.5	2.5	71.6	無班品質安山岩	完形	写真図版 51-725 20103353
図 124-726 10001574	4 層	打製石器 石核	10.9	11.1	3.1	392.6	無班品質安山岩	完形	写真図版 51-726 20103358
図 124-727 10001572	4 層	打製石器 細石刃	1.1	0.7	0.2	0.2	黒曜岩	一部欠損	写真図版 51-727 20103259
図 124-728 10001571	4 層	打製石器 細石刃	1.3	0.6	0.2	0.2	黒曜岩	完形	写真図版 51-728 20103258
図 125-729 10002011	4 層	磨製石器 石斧	9.2+	4.0	1.5				写真図版 51-729 20103753
図 125-730 10002006	4 層	礫石器 凹石	9.7	7.0	4.0	373.0		完形	写真図版 51-730 20103362
図 125-731 10002003	8 層	礫石器 磨石	7.9	7.1	5.0	374.8		完形	写真図版 51-731 20103359
図 125-732 10002005	4 層	礫石器 敲石	12.2	8.2	6.5	881.8		完形	写真図版 51-732 20103361
図 125-733 10002004	4 層	礫石器 磨石	8.9	8.2	4.1	540.9		完形	写真図版 51-733 20103360

5) 1 区中世～近世の遺物

1 区では、縄文時代遺物包含層の上位の堆積層などから、中世～近世の遺物が出土したが、遺構などは確認できなかった。中世前期から近世後期までのものが散見される。

中世の遺物 (図 126)

734 は白磁森田 E 群の皿である。735・736 は竜泉窯系青磁碗で、736 は II bc 類である。737 は青花皿で、小野 B1 群である。738 は防長系の瓦質土器足鍋で、739 は防長系の瓦質土器播鉢と思われる。740・741 は底部糸切の土師器杯で、741 には板状圧痕がみられる。

近世の遺物 (図 126)

近世の陶磁器はいずれも肥前産とみられ、16 世紀末～17 世紀前半のものが比較的多い。742～744 は陶器碗で、742・743 は灰釉、744 は銅緑釉が施される。743 の内面には白象嵌に似た装飾がみられる。745～747 は陶器皿で、745 は胎土目跡、746 は砂目跡が残る。748 は陶器蓋で、灰釉が施される。749 は陶器水差の可能性があり、鉄釉が施される。750 は陶器小壺で、灰釉が施される。751・752 は染付磁器碗である。

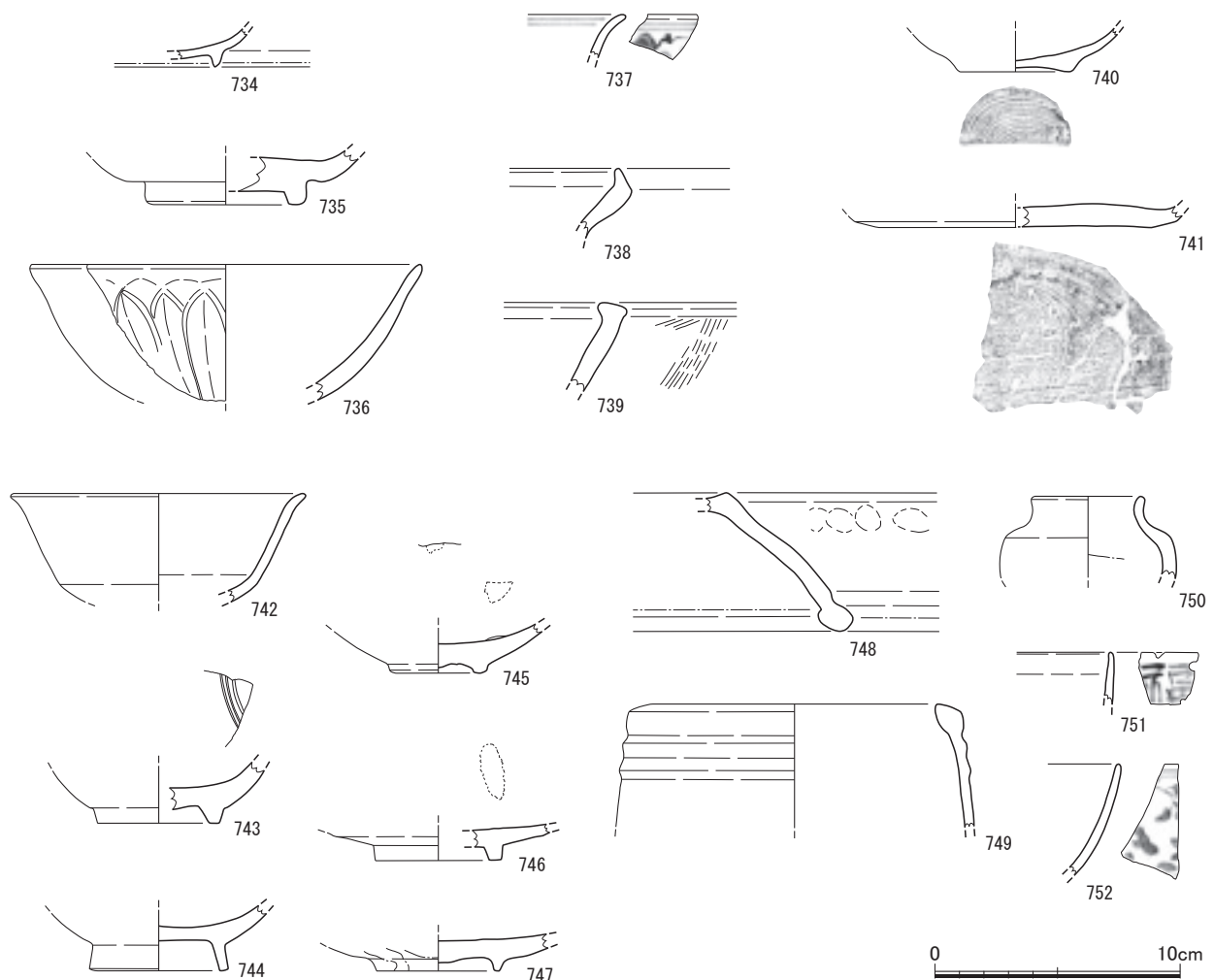


図 126 1 区出土中世～近世の遺物 (1/3)

表 13 九郎遺跡1区中世～近世の出土遺物

挿図 - 番号 登録番号	出土位置	種別 器種	寸法 cm			色調	備考	写真図版 写真登録番号
			口径	底径	器高			
図 126-734 10002146	1B区 4層	白磁 皿	-	-	-	胎土：灰白	森田 E 群	写真図版 51-734 20102937
図 126-735 10002147	1B区 2層	青磁 碗	-	6.5*	-	胎土：灰白	竜泉窯系	写真図版 51-735 20102938
図 126-736 98000965	1A区 7層	青磁 碗	15.8*	-	-	胎土：灰白	竜泉窯系碗Ⅱ bc 類	写真図版 51-736 20102709
図 126-737 10002144	1B区 3層	青花 皿	-	-	-	胎土：灰白	小野 B1 群	写真図版 51-737 20102935
図 126-738 10002154	1B区 2層	瓦質土器 足鍋	-	-	-	灰黄	防長系	写真図版 51-738 20102949
図 126-739 10002155	1B区 3層	瓦質土器 播鉢	-	-	-	外：灰 内：黄灰	防長系	写真図版 51-739 20102950
図 126-740 10002158	1B区 2層	土師器 杯	-	4.6*	-	にぶい黄橙	底部糸切	写真図版 51-740 20102954
図 126-741 10002159	1B区 5層	土師器 杯	-	11.1*	-	外：にぶい黄橙 内：にぶい橙	底部糸切 板状圧痕	写真図版 51-741 20102955
図 126-742 10002142	1B区 2層	陶器 碗	12.0*	-	-	胎土：灰白	内野山窯 17c 前半	写真図版 51-742 20102932
図 126-743 10002149	1B区 1層	陶器 碗	-	5.0*	-	胎土：灰褐	肥前 17c 後半	写真図版 51-743 20102940・2941
図 126-744 10002148	1B区 2層	陶器 碗	-	5.6*	-	胎土：灰白	肥前 17c 末～18c	写真図版 51-744 20102939
図 126-745 10002150	1B区 1層	陶器 皿	-	3.8*	-	胎土：にぶい橙	肥前 1590～1610 年代	写真図版 51-745 20102942・2943
図 126-746 10002151	1B区 2層	陶器 皿	-	5.2*	-	胎土：にぶい黄橙	肥前 1610～1650 年代	写真図版 51-746 20102944・2945
図 126-747 10002156	1B区 2層	陶器 皿	-	5.0*	-	胎土：灰	肥前力	写真図版 51-747 20102951・2952
図 126-748 10002153	1B区 2層	陶器 蓋	-	-	-	胎土：灰黄褐	肥前 1580～1590 年代	写真図版 51-748 20102947・2948
図 126-749 10002152	1B区 2層	陶器 水指力	11.6*	-	-	胎土：にぶい黄橙	肥前力 17c	写真図版 51-749 20102946
図 126-750 10002157	1B区 2層	陶器 壺	4.6*	-	-	胎土：にぶい橙	肥前 17c	写真図版 51-750 20102953
図 126-751 10002145	1B区 3層	染付磁器 碗	-	-	-	胎土：灰白	肥前 1630～1650 年代	写真図版 51-751 20102936
図 126-752 10002143	1B区 4層	染付磁器 碗	-	-	-	胎土：灰白	肥前 17c 中頃～末	写真図版 51-752 20102934

3 2 区の遺構と遺物

1) 2 区の概要

2 区は、栗並川左岸の標高 285 ～ 292 m の小規模な河岸段丘上に位置し（図 127）、調査区北東側約 150 m で栗並川は神水川に合流する。本調査開始時点で既に調査対象地区内の付替国道の橋脚工事が終了しており、調査に制約があった。また、確認調査の結果から b 区とした部分を中心に縄文時代の遺物包含層が存在することが予想されていたが、数ヶ所試掘坑を設定して掘り下げたが確認できなかった。そのため、遺構などが確認された試掘坑を拡張して、調査可能な部分について調査を行った。

拡張した調査区は、調査対象地区北側の標高約 288 m の旧水田面を a 区、隣接する標高約 287 m の旧宅地部分を b 区、調査対象地区南端の標高約 292 m の旧水田面を c 区とした。

調査の結果、遺構として 2a 区で石積と造成面、2c 区で掘立柱建物などを確認した。遺物は、縄文時代の石器、古代と思われる土師器、中世～近世の陶磁器・土器類などが出土した。

2) 2a・b 区の遺構と遺物

2a 区では、遺構として近世と考えられる石積の痕跡と戦国期の可能性がある造成面を確認した（図 128）。遺構面は、堆積状況と出土遺物から近世以降の水田面（1 面）、近世の石積を伴う水田面（2 面）、造成面（3 面）と判断した。3 面以下は自然の堆積層で、同安窯系青磁碗、土師器杯・小皿・鍋Ⅲ a 類、瓦質土器搗鉢・蓋、滑石製石鍋などが出土した。

2b 区では、遺構は確認できなかったが、中世以前の遺物包含層（6 層以下）があり、竜泉窯系青磁碗Ⅰ類、土師器甕などが出土しており、その上層にも中世の遺物が含まれる。周辺の状況も含めてみると、2b 区も中世から開発がおこなわれていた可能性が高い。

石積（図 131）

2a 区で検出された石積は、調査区南端に SX2003、その北側に SX2004、さらにその北側に SX2005 である。石積の方向などから、SX2004・2005 が一連のもので、SX2003 はこれよりも新しいものと判断している。2 面に伴うものは SX2004・2005 で、調査区北端に確認された石材も一連のものであるかもしれない。いずれの石積も本来の状態をとどめていないが、SX2005 の残存状況の良好な部分からみると、0.2 ～ 0.8 m の大きさの石材を乱雑に積みあげたものと考えられる。これらの石積は水田の造成に伴うものであろう。

造成面（図 128）

2a 区南端で確認された面で、褐色系統の粘土や粘質土など（図 130：2a 区南壁土層 8 ～ 12 層）を用いて貼床状に造成しており、2a 区南側に広がっているものと推測される。この造成面で遺構は確認できなかったが、造成土中から竜泉窯系青磁碗Ⅱ類、土師器杯、瓦質土器鍋・足鍋が出土した。層位的な関係と合わせると、戦国時代の造成面の可能性がある。

2a 区出土遺物（図 132）

753 は口禿の白磁皿Ⅸ類、754 は白磁森田 E 群の皿である。755 は竜泉窯系青磁碗で、線描蓮弁文が施される上田 B Ⅱ類である。756 は青花皿で、高台内に「大明年造」の字款が描かれ、小野 B2 群とみられる。757 は底部糸切の土師器杯で、3 面造成土中から出土した。578 は底部糸切の土師器小皿である。759 は東播諸窯とみられる須恵器系陶器捏鉢である。760 は防長系の瓦質土器足鍋で、外面に煤が付着している。

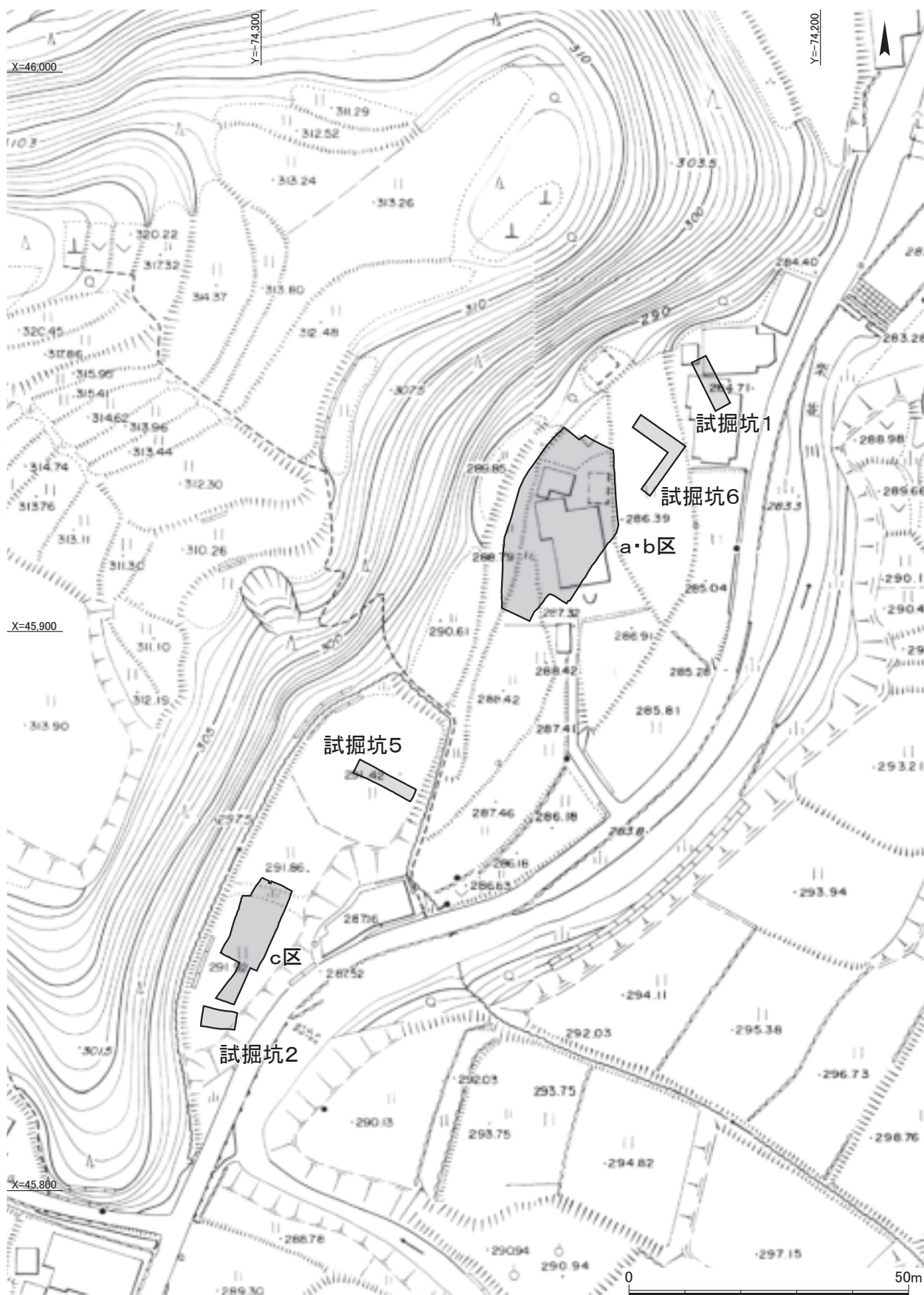


図 127 2 区の調査範囲 (1/1,000)



図 128 2a・b 区遺構の分布 (1/200)



図 129 2a・b 区の完掘状況 (1/200)

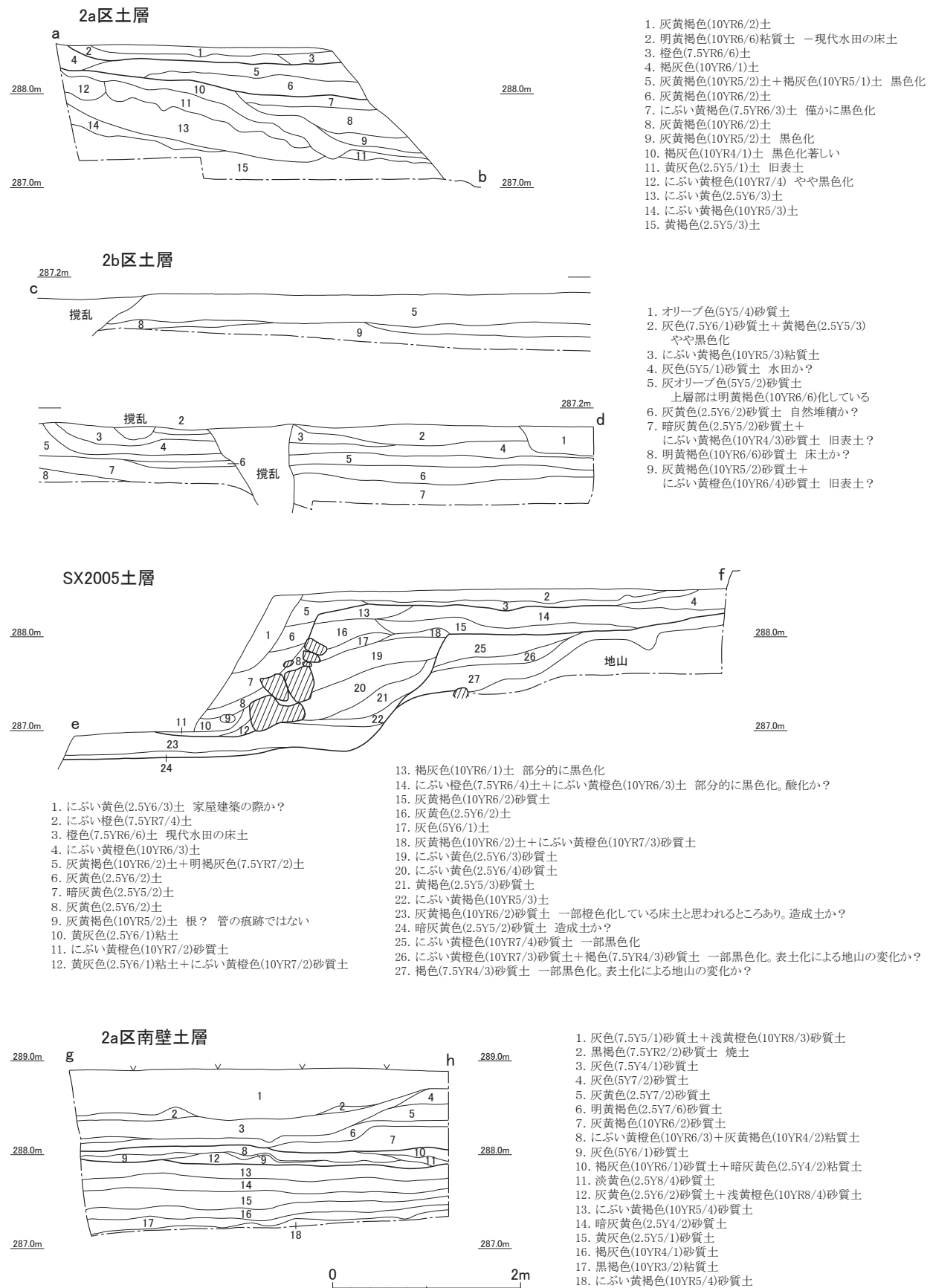


図 130 2a・b 区の土層 (1/60)

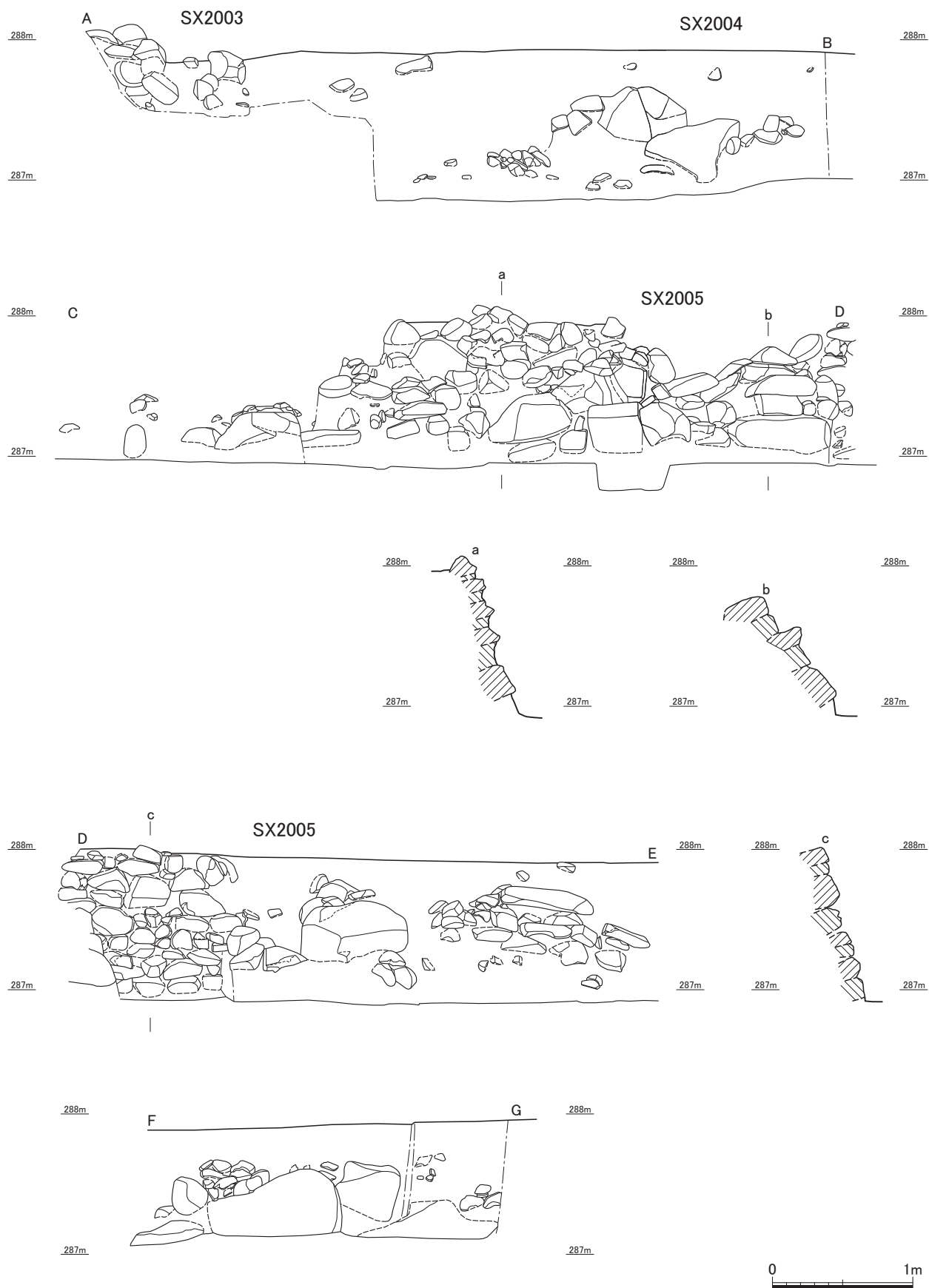


図 131 2a 区の遺構 (1/60)

761 は肥前陶器皿、762 は肥前白磁紅皿である。763 は肥前磁器で、口縁部から外面に鉄釉が掛けられる。764 は肥前染付磁器碗、765 は肥前染付磁器皿である。

2b 区出土遺物（図 132）

766・767 は土師器甕で、同一個体と思われ、甕の可能性もある。この周辺では出土例が少ない古代のものと考えられる。768 は竜泉窯系青磁碗で、内面に片彫蓮花文を有する I 2 類である。769 は竜泉窯系青磁皿で、釉が厚く施される。770・771 は青花皿で、高台が付き端反形の小野 B1 群である。772 は底部糸切の土師器小皿、773 は瓦質土器鍋である。774 は肥前染付磁器小杯で、外面に蘭が描かれる。

3) 2c 区の遺構と遺物

2c 区では、遺構として近世後期の掘立柱建物 1 棟と石組溝の痕跡と思われる遺構 1 基などを確認した（図 133）。当初、縄文時代の遺物包含層を確認するため、試掘坑を設定した際、近世の遺構面を詳しく検討することなく掘り下げたため、一部遺構が確認できない部分がある。近世の検出面から下位に遺物包含層などは認められなかった。遺物は、中世の白磁・青磁・青花、肥前陶磁器、土師器、瓦質土器などが出土した。

石組溝

SX2001（図 134）

2c 区北部に位置する。後世の攪乱などが著しいため、本来の状態をとどめていないが、一部に石材が列をなす部分がみられるので、東西方向の石組溝と判断した。主軸はやや異なるが、SB2002 と関連するものであろう。調査前の地形図をみると、SX2001 の部分がやや凹んでおり、また現代の排水管が埋設されていたことから、現代まで排水の場所であったようである。遺物は、肥前陶器皿・瓶・火入・播鉢、肥前染付磁器碗・火入、土師器杯・小皿、瓦質土器鍋・茶釜が出土した。

SX2001 出土遺物（図 136）

775 は肥前陶器瓶で、鉄釉が施される。776 は肥前陶器皿で、灰釉が施され、内面見込みを蛇の目釉剥ぎしている。777 は肥前染付磁器碗で、外面にコンニャク印判による文様が施される。778 は肥前染付磁器で、火入と思われる。太鼓を模しており、外面胴部中央は釉が施されておらず、蛇の目凹形高台である。779 は瓦質土器鍋で、外耳をもつ IV a 類である。

掘立柱建物

SB2002（図 135）

主軸を N27° W にとる南北棟の掘立柱建物である。梁行 1 間（3.02 m）で、桁行 3 間（5.22 m）は確実であるが、試掘坑の部分に柱穴が存在したようであり、4 間になる可能性が高い。桁行柱間は 1.4～2.1 m で、建物を構成する柱穴は長軸 1.0～1.3 m、短軸 0.7～1.2 m の隅丸長方形基調である。やや不確実ではあるが、径 0.2～0.35 m の柱痕跡が確認される。遺物は、肥前陶器皿・鉢、肥前磁器碗、土師器小皿・焙烙、瓦質土器皿・鍋・茶釜・播鉢、中世の青花碗が出土した。

SB2002 出土遺物（図 136）

792 は肥前陶器皿である。793 は肥前磁器碗で、口縁部から外面に青磁釉が掛けられる。794 は底部糸切、795 は底部糸切と思われる土師器小皿である。796 は磁器紅皿を模倣した瓦質土器皿で、口縁部に油煤が付着する。797～799 は瓦質土器で、797 は播鉢、798 は鍋、799 は茶釜である。800 は土師器焙烙と思われる。

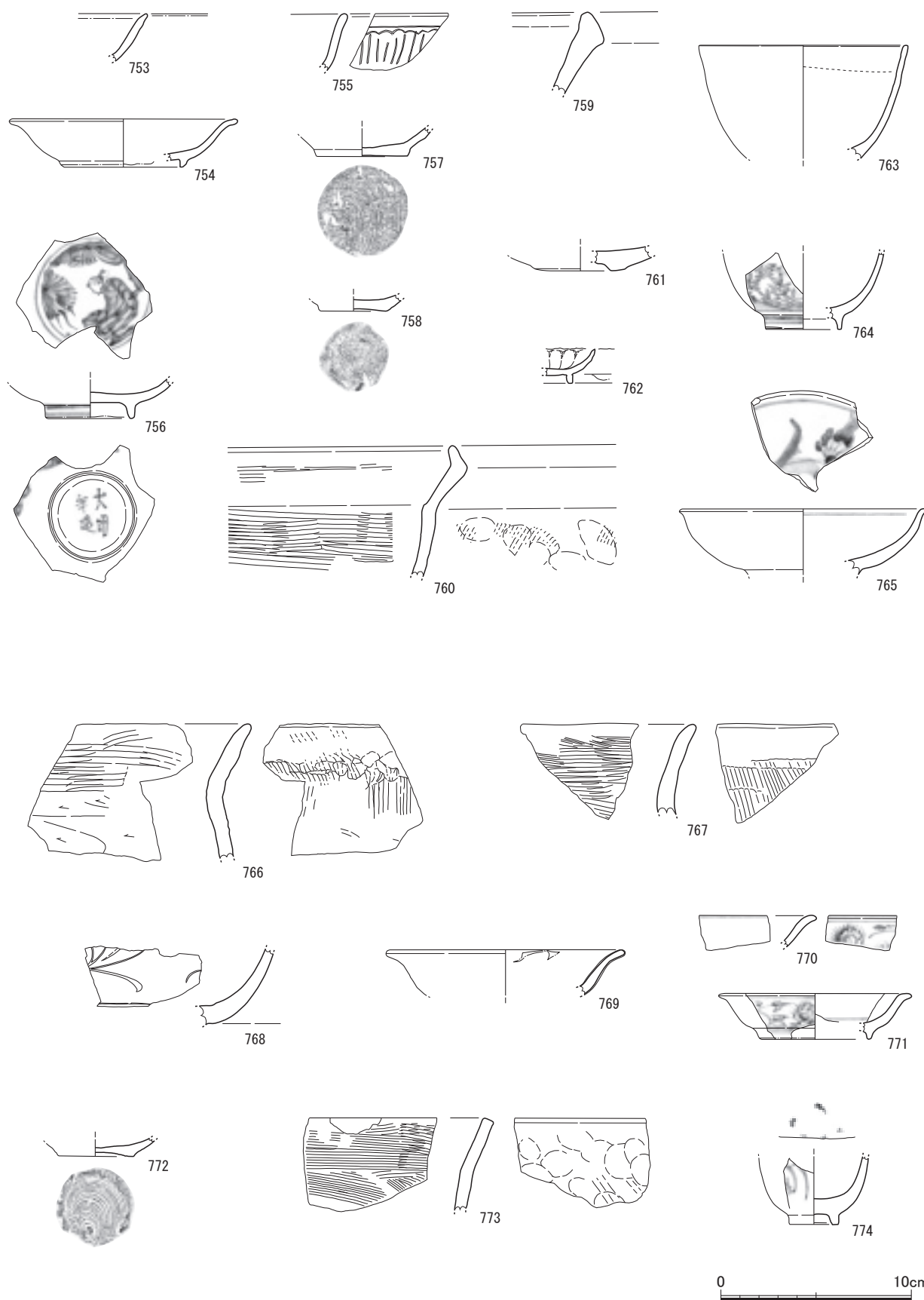


図 132 2a・b 区出土の遺物 (1/3)



図 133 2c 区遺構の分布 (1/150)

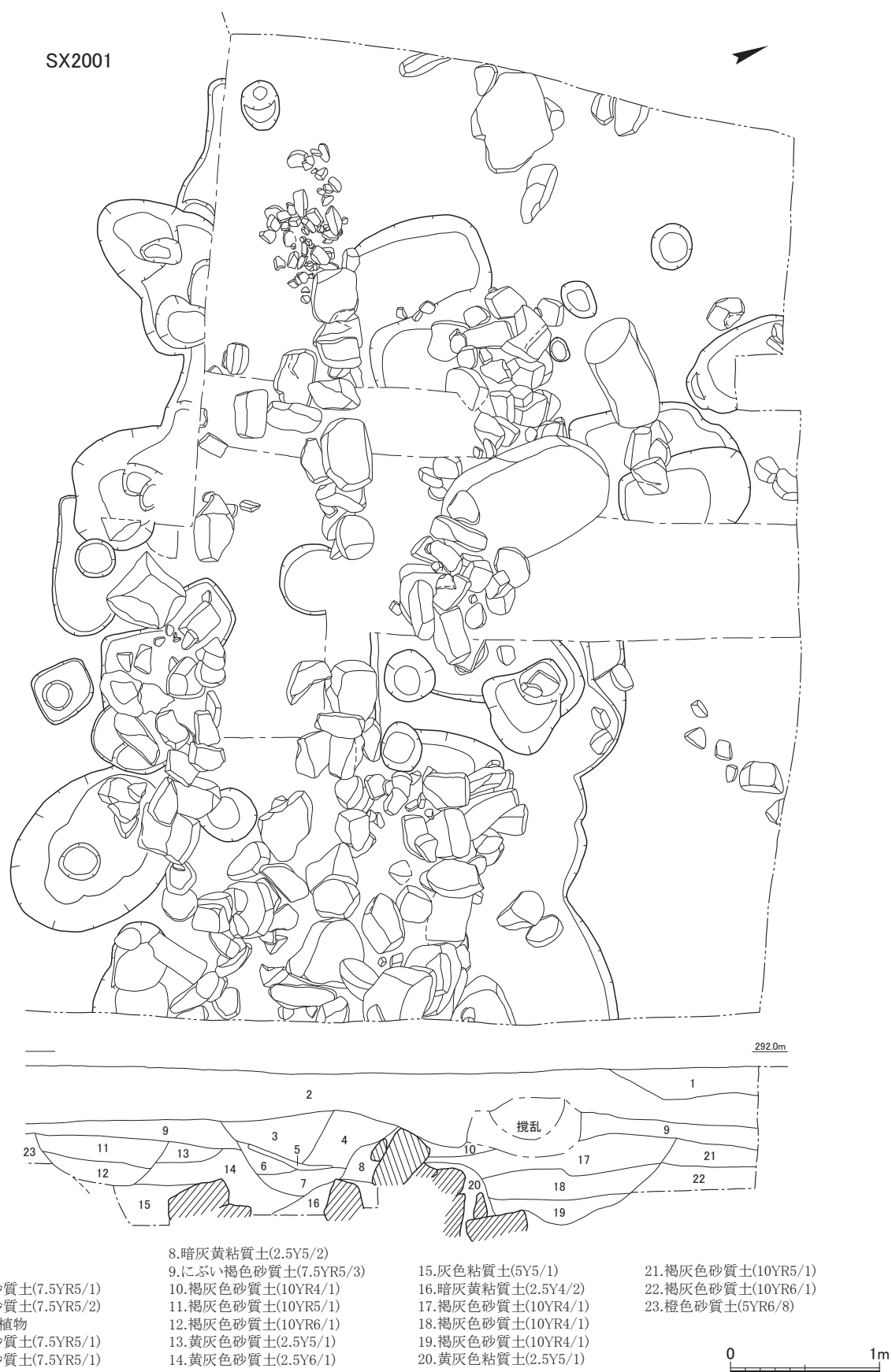


図 134 2c 区の遺構 1 (1/40)

2c 区出土遺物 (図 136・137)

780～791 は SX2001 周辺から出土した。780 は肥前陶器溝縁皿で、灰釉が施される。781 は肥前陶器鉢で、内面に鉄絵を施す。782・783 は肥前染付磁器碗で、782 は腰が張り高台の低い丸碗、783 は波佐見系の丸碗である。784 は肥前青磁染付碗で、内面見込みに五弁花文のコンニャク印判が施される。785 は肥前色絵磁器碗で、内面見込みを蛇の目釉剥ぎしたのち、色絵を施す。786 は防長系の瓦質土器播鉢、787 は青花碗、788 は底部糸切の土師器小皿である。789 は瓦質土器播鉢で、内面に使用による磨滅痕がみられる。790 は瓦質土器鉢と思われ、791 は瓦質土器鍋である。

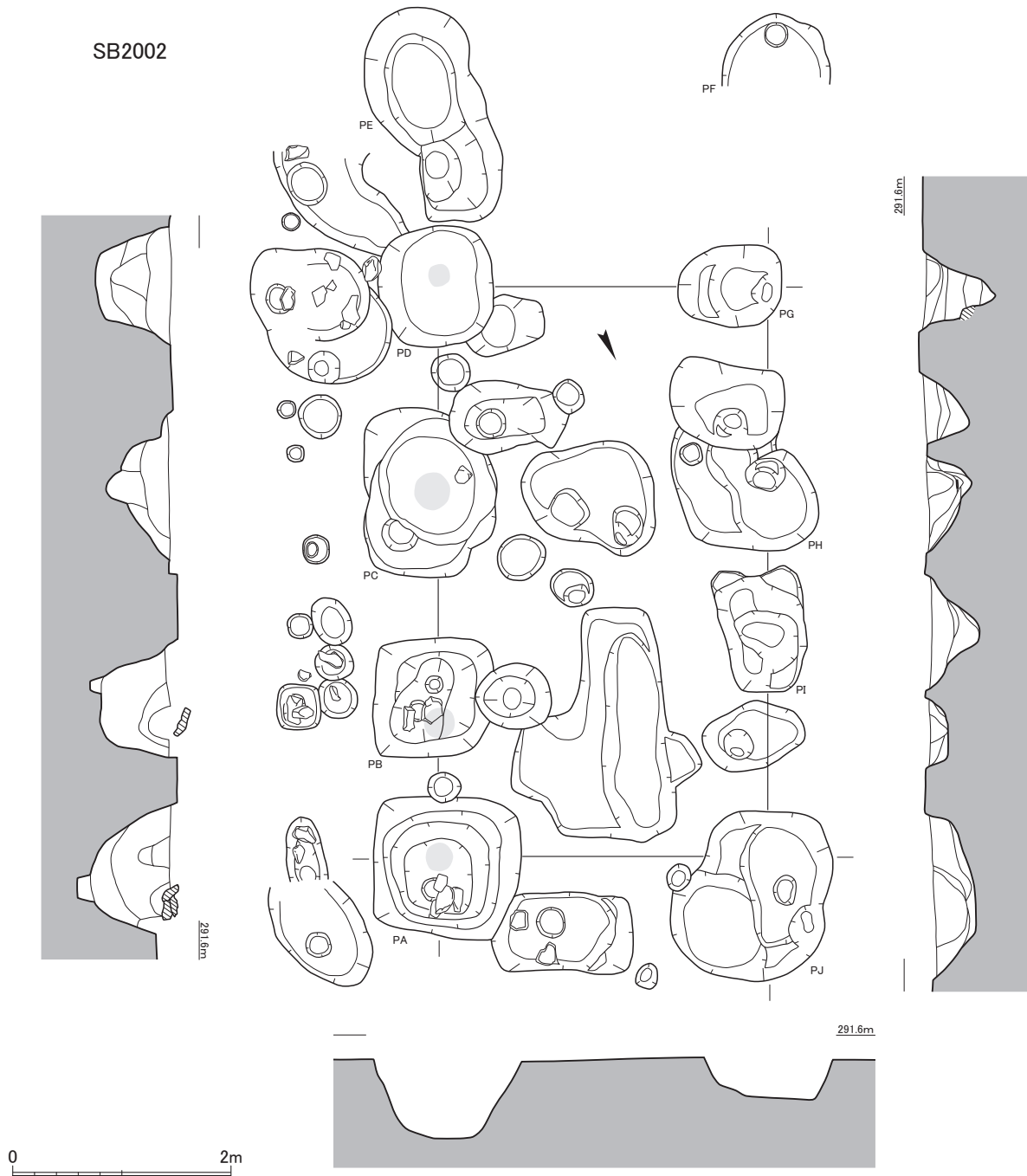
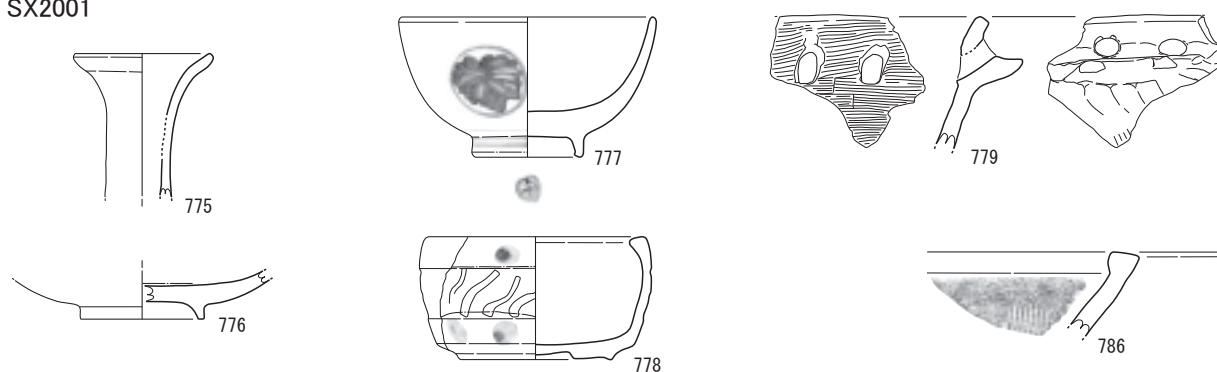
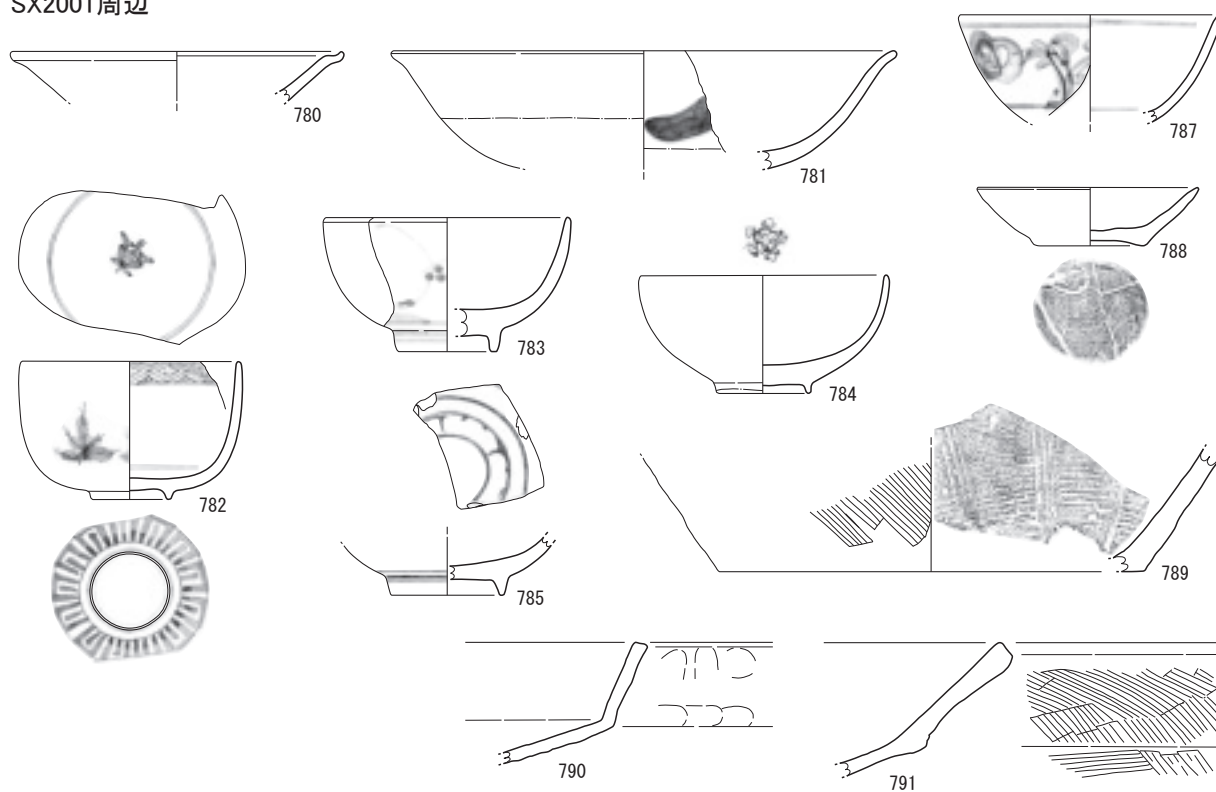


図 135 2c 区の遺構 2 (1/60)

SX2001



SX2001周辺



SB2002

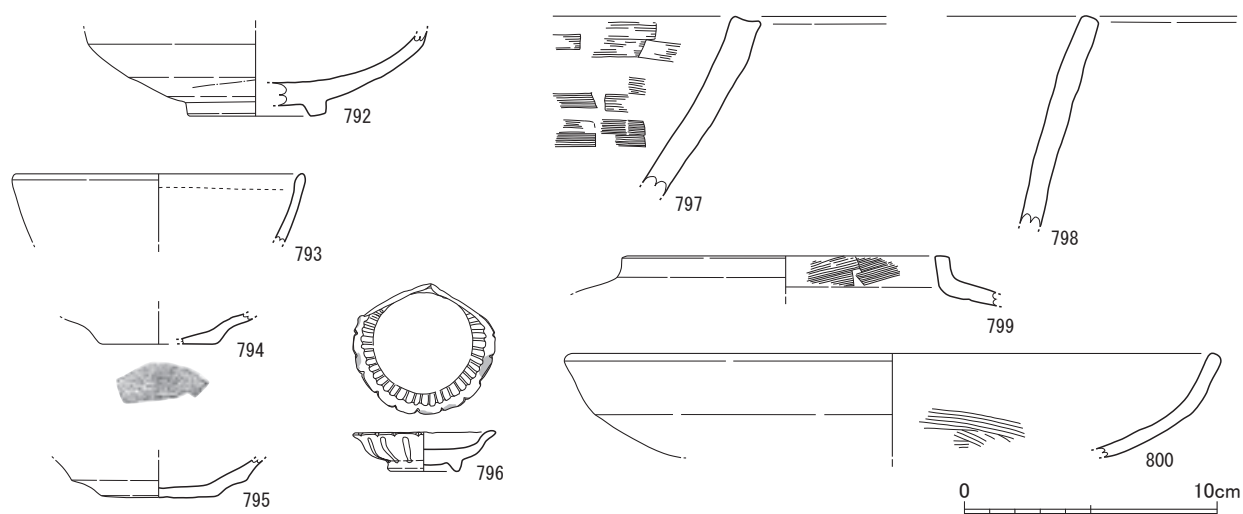


図 136 2c 区出土の遺物 1 (1/3)

801～807 は小穴から出土した遺物で、図中と表に出土位置を示している。801 は中世前期の白磁碗で、玉縁口縁である。802 は底部糸切の土師器杯である。803 は肥前陶器皿で、多久市唐人古場窯の製品とみられる。804 は底部糸切の土師器杯で、内面見込みに螺旋状の調整痕を残す。805 は底部糸切の土師器杯である。806 は肥前染付磁器碗、807 は瓦質土器鍋である。

808～818 は遺構外からの出土遺物である。808・809 は竜泉窯系青磁碗で、808 は外面無文のⅠ類、809 は上田Ⅴ類である。810・811 は青花皿で、810 が小野Ⅱ群、811 が小野Ⅲ群である。812・813 は鉄釉が施された肥前陶器碗で、812 は高台内に靱殻痕が残る。814 は肥前産と思われる陶器皿である。815 は肥前陶器皿で、胎土目跡が残る。816 は肥前陶器皿で、唐人古場窯の製品とみられる。817 は玉縁状の口縁をもつ土師器鍋Ⅲa類である。818 は土師器鉢とすべきものであろうか。

819・820 は2c区南側の試掘坑2から出土した。819 は防長系の瓦質土器足鍋の脚部、820 は青花碗である。

4) 2区その他の遺構と遺物

試掘坑5では、石材が列をなすSX2006を検出した(図138)。調査区を拡張していないので、性格は不明であ

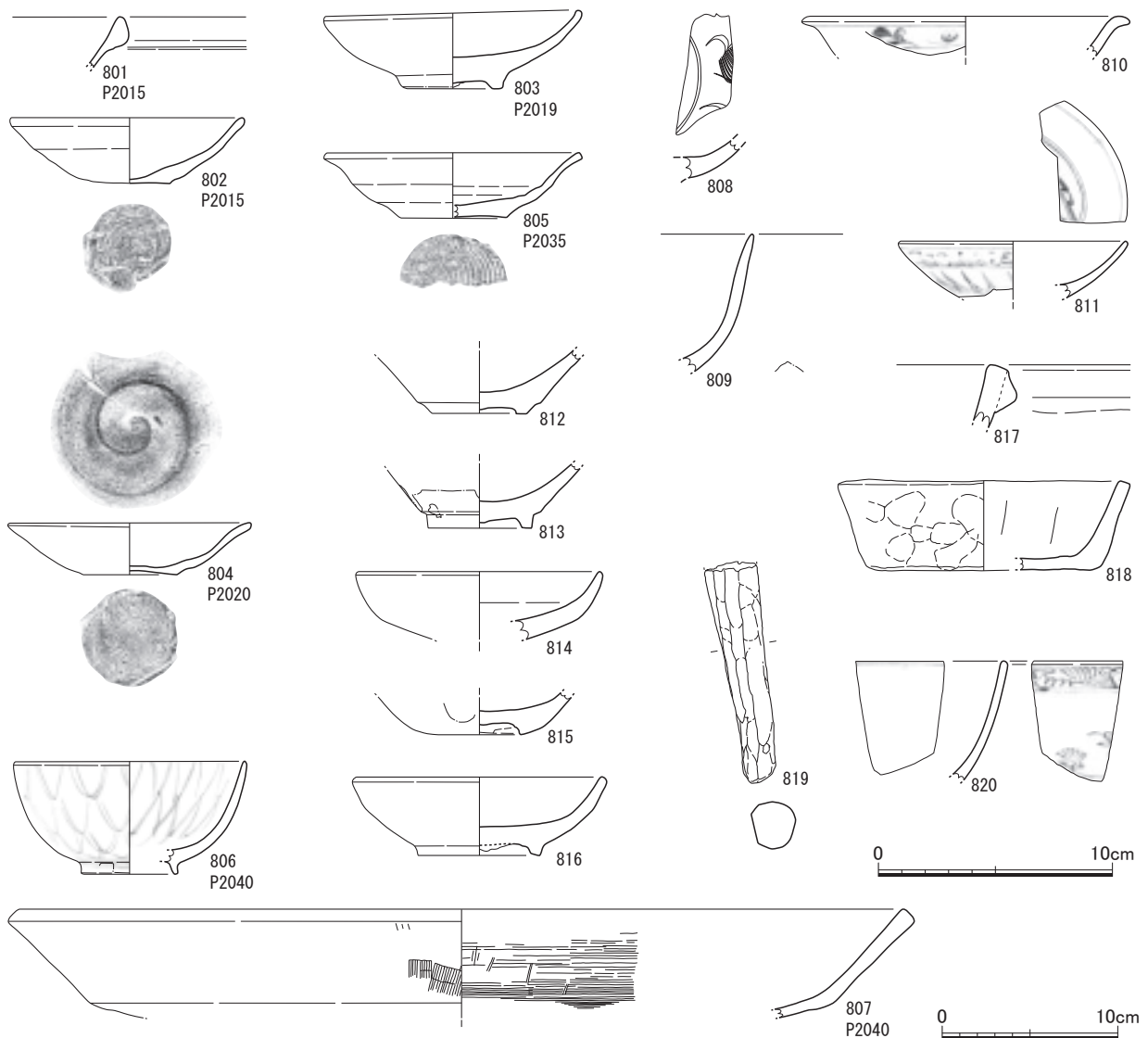
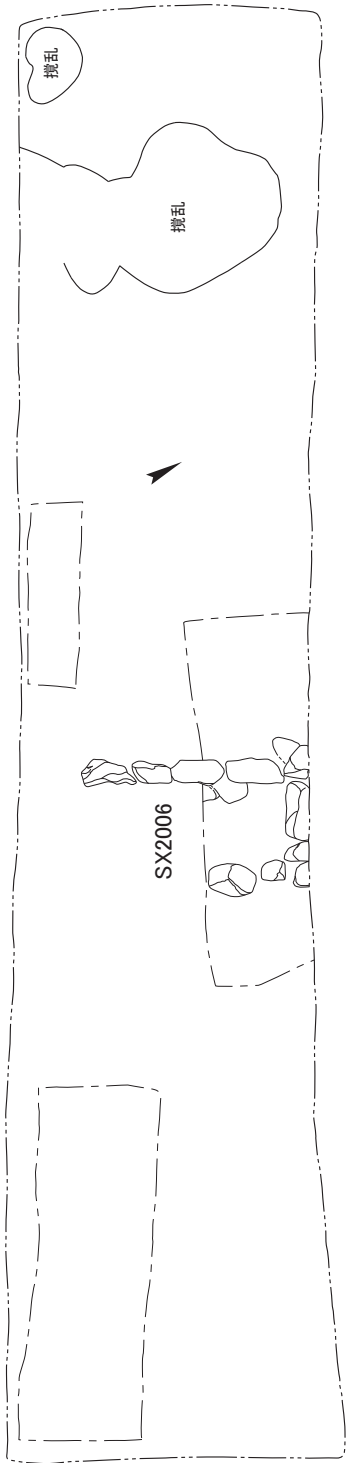
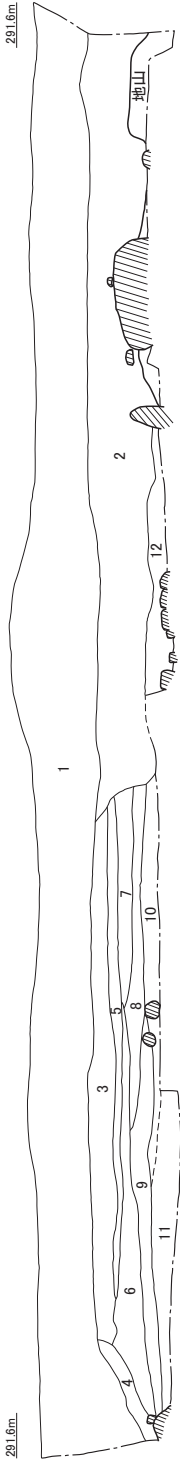


図 137 2c区出土の遺物 2 (1/3)

試掘坑5

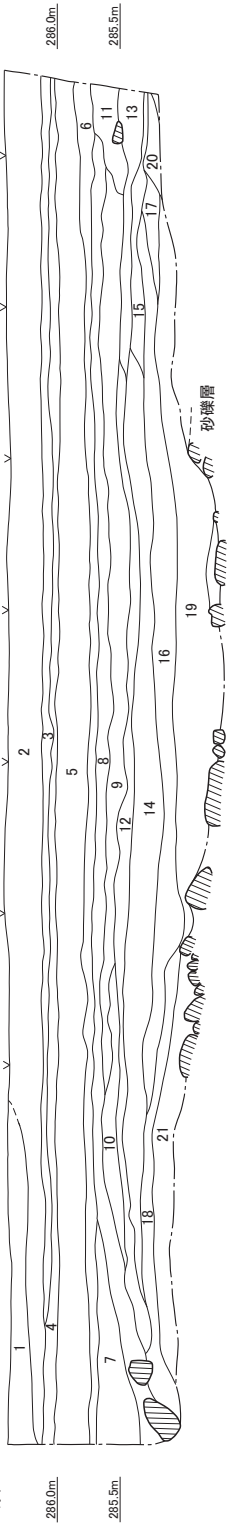


試掘坑5土層



1. 造成土 - 橋脚工事の際
2. 攪乱 - 橋脚工事の際
3. にぶい、褐色(7.5YR7/4)砂質土 + 灰褐色(7.5YR6/2)砂質土 - 造成土?
4. 灰黄褐色(10YR5/2)土 - 旧表土?
5. にぶい、褐色(7.5YR6/4)粘質土(砂を含む) - 水田床土?
6. にぶい、褐色(7.5YR5/3)粘質土
7. 灰黄褐色(10YR5/2)砂質土 + 暗褐色(7.5YR3/3)土
8. 灰黄褐色(10YR4/2)砂質土(炭化物、にぶい、褐色粘土を含む)
9. 灰黄褐色(10YR4/2)砂質土
10. にぶい、黄褐色(10YR5/3)砂質土(灰白色砂礫を含む)
11. にぶい、黄褐色(10YR5/3)砂質土(灰白色砂礫を含む)
12. にぶい、黄褐色(10YR4/3)砂質土

試掘坑6南東壁面土層



1. 真砂土 - 橋脚建設時の造成土
2. 灰(7.5Y5/1)土 - 表土
3. 黄褐色(2.5Y5/3)土
4. にぶい、褐色(7.5Y6/4)～にぶい、黄褐色(10YR6/4)土
5. 灰黄褐色(10YR5/2)砂質土
6. 褐色(7.5Y6/6)砂質土
7. 黄灰色(2.5Y6/1～5/1)砂質土(砂を含む)
8. にぶい、黄褐色(10YR5/3)砂質土(砂を少し含む)
9. 褐灰色(10YR6/1)砂質土(砂を少し含む)
10. 灰黄褐色(10YR6/2)砂質土 + 明黄褐色(10YR7/6)砂
11. 褐灰色(10YR5/1)砂質土(砂を少し含む)
12. 褐灰色(10YR5/1)砂質土 + にぶい、黄褐色(10YR5/3)砂質土(明黄褐色砂質土を含む)
13. 灰黄色(2.5Y6/2)砂質土(明黄褐色砂質土を含む)
14. 砂礫層
15. 砂 + 灰黄褐色(10YR5/2)砂質土(礫を含む)
16. 灰黄褐色(10YR5/2)砂質土(砂を含む)
17. 砂礫 + 灰褐色(7.5YR4/2)砂質土
18. 灰黄褐色(10YR5/2)～褐灰色(10YR5/1)砂質土(砂を少し含む)
19. 灰(8Y5/1)土(やや粘質あり) + 砂
20. 灰(8Y5/1)砂質土(砂を含む)
21. 灰白色(10YR7/1)砂

図 138 試掘坑5・6 (1/60)

るが、造成の際に土留めのために置かれたものの可能性がある。試掘坑などからは、中世～近世の遺物が出土している。また、2区からは縄文時代の石器も出土した。

試掘坑他出土遺物（図 139）

821～829は試掘坑5から出土した。821は青花皿、822は青花碗である。823は肥前陶器皿で、唐人古場窯の製品とみられる。824は肥前陶器皿で、藁灰釉が施される。825は肥前陶器甕で、灰釉が施される。826は須恵器系陶器播鉢で、内面に使用による磨滅が顕著にみられる。827は底部糸切の土師器小皿、828は防長系の瓦質土器足鍋の脚部、829は瓦質土器鍋である。

830は試掘坑6出土の同安窯系青磁碗、831は表面採集の白磁森田E群の皿である。

石器（図 139）

832・833は平面が直線的な側縁の二等辺三角形、基部が凹基の石鏃である。834は黒曜岩の縦長剥片を用いて、片面から調整加工を施して刃部を作出した削器である。835は打面転移を頻繁に繰り返した黒曜岩の残核である。

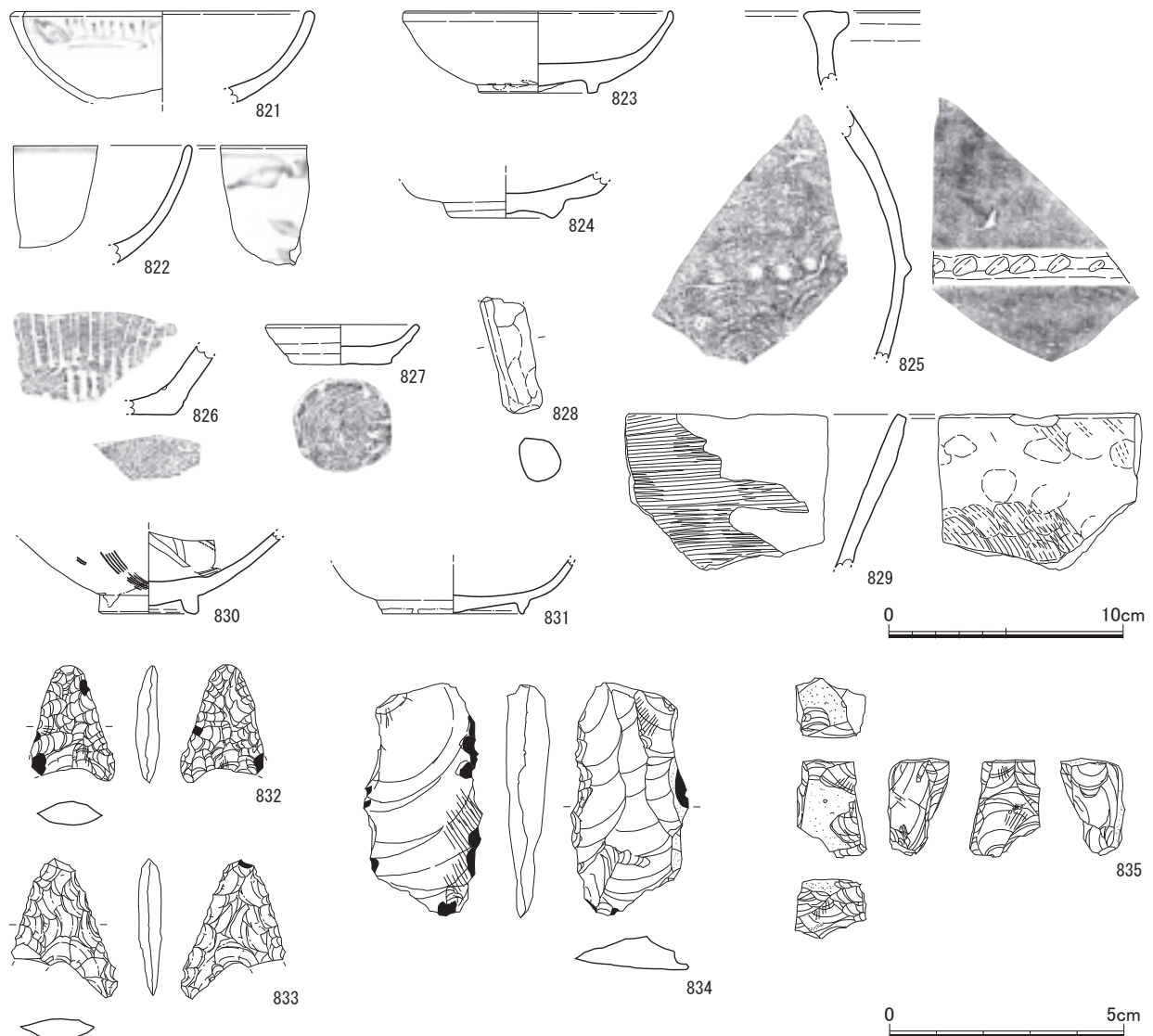


図 139 2区出土の遺物（1/3・2/3）

表 14 九郎遺跡 2 区の出土遺物

挿図 - 番号 登録番号	出土位置	種別 器種	寸法 cm			色調	備考	写真図版 写真登録番号
			口径	底径	器高			
図 132-753 10000124	2a 区 3 面下層	白磁 皿	-	-	-	胎土：灰白	I 類	写真図版 56-753 20103451
図 132-754 10000123	2a 区 1-3 面	白磁 皿	12.0*	6.3*	2.5	胎土：灰白	森田 E 群	写真図版 56-754 20103450
図 132-755 10000128	2a 区 1-2 面	青磁 碗	-	-	-	胎土：灰白	竜泉窯系 上田 B II 類	写真図版 56-755 20103454
図 132-756 10000117	2a 区 1-2 面	青花 皿	-	4.6	-	胎土：灰白	小野 B2 群	写真図版 56-756 20103442・3443
図 132-757 10000121	2a 区 3 面内	土師器 杯		4.8	-	にぶい黄橙	底部糸切	写真図版 56-757 20103448
図 132-758 10000122	2a 区 3 面	土師器 小皿		3.5	-	にぶい黄橙	底部糸切	写真図版 56-758 20103449
図 132-759 10000127	2a 区	須恵器系陶器 捏鉢	-	-	-	灰	東播諸窯系	写真図版 56-759 20103453
図 132-760 10000126	2a 区 3-4 面上層	瓦質土器 足鍋	-	-	-	外：黒 内：黄灰褐	防長系	写真図版 56-760 20103505
図 132-761 10000120	2a 区 表採	陶器 皿		4.7*	-	胎土：にぶい橙	肥前 1590 ～ 1610 年代	写真図版 56-761 20103446・3447
図 132-762 10000129	2a 区 1-2 面	白磁 紅皿	-	-	-	胎土：灰	肥前 18c（前半）	写真図版 56-762 20103455
図 132-763 10000125	2a 区 1-3 面	磁器 碗	11.0*	-	-	胎土：灰白	肥前 1630 ～ 1640 年代	写真図版 56-763 20103452
図 132-764 10000119	2a 区 1 面	染付磁器 碗	-	4.0*	-	胎土：灰白	肥前 17c 末～ 18c 初	写真図版 56-764 20103445
図 132-765 10000118	2a 区	染付磁器 皿	13.0*	-	-	胎土：灰白	肥前 17c（初期力）	写真図版 56-765 20103444
図 132-766 10000132	2b 区 7 層	土師器 甕	-	-	-	外：にぶい橙 内：橙		写真図版 56-766 20103506
図 132-767 10000133	2b 区 7 層	土師器 甕	-	-	-	外：にぶい黄橙 内：にぶい橙		写真図版 56-767 20103458
図 132-768 10000131	2b 区 5 層	青磁 碗	-	-	-	胎土：灰	竜泉窯系 I 2 類	写真図版 56-768 20103457
図 132-769 10000130	2b 区 5 層	青磁 皿	12.6*	-	-	胎土：灰白	竜泉窯系	写真図版 56-769 20103456
図 132-770 10000135	2b 区 5・6 層	青花 皿	-	-	-	胎土：白	小野 B1 群	写真図版 56-770 20103459
図 132-771 10000134	2b 区 5 層	青花 皿	10.2*	5.9*	2.4	胎土：白	小野 B1 群	写真図版 56-771 20103460
図 132-772 10000137	2b 区 5 層	土師器 小皿	-	4.0	-	淡黄	底部糸切	写真図版 56-772 20103461
図 132-773 10000138	2b 区 5 層	瓦質土器 鍋	-	-	-	灰黄褐	外面煤付着	写真図版 56-773 20103462
図 132-774 10000136	2b 区 1 面	染付磁器 小杯	-	2.6	-	胎土：白	肥前 1630 ～ 1640 年代	写真図版 56-774 20103519
図 136-775 10000155	2c 区 SX2001	陶器 瓶	5.5	-	-	胎土：橙	肥前（内野山力） 17c 末～ 18c 前半	写真図版 56-775 20103476
図 136-776 10000153	2c 区 SX2001	陶器 皿	-	4.9*	-	胎土：灰白	肥前 17c 中頃～後半	写真図版 56-776 20103521
図 136-777 10000152	2c 区 SX2001	染付磁器 碗	10.2*	4.4	5.6	胎土：白	波佐見系 18c 中頃～後半	写真図版 56-777 20103520
図 136-778 10000154	2c 区 SX2001	染付磁器 火入力	8.7*	6.0*	4.9	胎土：白	肥前 18c 後半 太鼓形	写真図版 56-778 20103522
図 136-779 10000156	2c 区 SX2001	瓦質土器 鍋	-	-	-	にぶい黄橙・黄灰	外面煤付着	写真図版 56-779 20103477
図 136-780 10000161	2c 区 SX2001 周辺	陶器 皿	13.2*	-	-	胎土：灰白	肥前 1610 ～ 1630 年代	写真図版 56-780 20103480

表 14 九郎遺跡 2 区の出土遺物

挿図 - 番号 登録番号	出土位置	種別 器種	寸法 cm			色調	備考	写真図版 写真登録番号
			口径	底径	器高			
図 136-781 10000164	2c 区 SX2001 周辺	陶器 鉢	20.0*	-	-	胎土：淡橙	肥前 17c 末～18c 前半	写真図版 56-781 20103508
図 136-782 10000170	2c 区 SX2001 周辺	染付磁器 碗	8.8*	3.2	5.5	胎土：白	有田 18c 中頃～後半	写真図版 56-782 20103524
図 136-783 10000169	2c 区 SX2001 周辺	染付磁器 碗	9.8*	4.0*	5.4	胎土：灰白	波佐見系 18c 後半	写真図版 56-783 20103523
図 136-784 10000165	2c 区 SX2001 周辺	青磁染付 碗	9.9	3.8	4.7	胎土：灰白	肥前（広瀬向窯力） 18c 後半～19c 初	写真図版 56-784 20103528
図 136-785 10000162	2c 区 SX2001 周辺	色絵磁器 碗	-	4.6*	-	胎土：灰白	肥前 18c 前半～中頃	写真図版 56-785 20103481
図 136-786 10000163	2c 区 SX2001 周辺	瓦質土器 播鉢	-	-	-	灰	防長系	写真図版 56-786 20103483
図 136-787 10000168	2c 区 SX2001 周辺	青花 碗	10.4*	-	-	胎土：灰白	景德鎮系 16c 後半～17c 初	写真図版 56-787 20103485
図 136-788 10000171	2c 区 SX2001 周辺	土師器 小皿	8.8*	4.4	2.3	浅黄橙	底部糸切	写真図版 56-788 20103529
図 136-789 10000159	2c 区 SX2001 周辺	瓦質土器 播鉢	-	16.8*	-	灰		写真図版 56-789 20103478
図 136-790 10000160	2c 区 SX2001 周辺	瓦質土器 鉢力	-	-	-	灰		写真図版 56-790 20103479
図 136-791 10000166	2c 区 SX2001 周辺	瓦質土器 鍋	-	-	-	にぶい黄橙		写真図版 56-791 20103517
図 136-792 10000173	2c 区 SB2002 PC	陶器 皿	-	5.5	-	胎土：白	肥前 17c 初	写真図版 57-792 20103509
図 136-793 10000179	2c 区 SB2002 PD	磁器 碗	11.6*	-	-	胎土：灰白	肥前 17c 中頃	写真図版 57-793 20103492
図 136-794 10000178	2c 区 SB2002 PA	土師器 小皿	-	4.7*	-	橙	底部糸切	写真図版 57-794 20103491
図 136-795 10000175	2c 区 SB2002 PD	土師器 小皿	-	4.6*	-	浅黄橙		写真図版 57-795 20103489
図 136-796 10000174	2c 区 SB2002 PJ	瓦質土器 皿	5.6	2.9	1.5	浅黄・灰白	磁器紅皿の模倣	写真図版 57-796 20103487・3488
図 136-797 10000177	2c 区 SB2002 PB	瓦質土器 播鉢	-	-	-	橙・にぶい黄橙		写真図版 57-797 20103510
図 136-798 10000181	2c 区 SB2002 PA	瓦質土器 鍋	-	-	-	灰黄		写真図版 57-798 20103511
図 136-799 10000180	2c 区 SB2002 PA	瓦質土器 茶釜	13.0*	-	-	灰		写真図版 57-799 20103493
図 136-800 10000176	2c 区 SB2002 PJ	土師器 焙烙力	26.0*	-	-	にぶい黄橙・にぶい黄		写真図版 57-800 20103490
図 137-801 10000194	2c 区 P2015	白磁 碗	-	-	-	胎土：灰白		写真図版 57-801 20103502
図 137-802 10000186	2c 区 P2015	土師器 杯	10.1*	3.5	2.8	にぶい橙	底部糸切	写真図版 57-802 20103530
図 137-803 10000185	2c 区 P2019	陶器 皿	11.0*	4.3	3.2	胎土：灰	唐人古場窯 1590～1600 年代	写真図版 57-803 20103512
図 137-804 10000189	2c 区 P2020	土師器 杯	10.4	4.0	2.6	浅黄橙・にぶい黄橙	底部糸切	写真図版 57-804 20103531
図 137-805 10000187	2c 区 P2035	土師器 杯	11.0*	4.6*	2.8	外：にぶい黄橙 内：褐灰	底部糸切	写真図版 57-805 20103496
図 137-806 10000188	2c 区 P2040	染付磁器 碗	10.0*	4.2*	4.8	胎土：白	肥前（志田力） 18c 前半～中頃	写真図版 57-806 20103514
図 137-807 10000197	2c 区 P2040	瓦質土器 鍋	51.6*	-	-	灰白・灰黄		写真図版 57-807 20103518
図 137-808 10000196	2c 区 S ト	青磁 碗	-	-	-	胎土：灰白	竜泉窯系 I 類	写真図版 57-808 20103504

表 14 九郎遺跡 2 区の出土遺物

挿図・番号 登録番号	出土位置	種別 器種	寸法 cm			色調	備考	写真図版 写真登録番号
			口径	底径	器高			
図 137-809 10000192	2c 区 S ト	青花 碗	-	-	-	胎土：白	竜泉窯系 上田 E 類	写真図版 57-809 20103500
図 137-810 10000191	2c 区 表土	青花 皿	14.0*	-	-	胎土：白	景德鎮窯系 小野 B1 群	写真図版 57-810 20103499
図 137-811 10000190	2c 区 表土	青花 皿	9.8*	-	-	胎土：灰白	景德鎮窯系 小野 C 群	写真図版 57-811 20103498
図 137-812 10000195	2c 区 3 層	陶器 皿	10.6*	-	-	胎土：灰白	肥前 16c 末～17c 初	写真図版 57-812 20103503
図 137-813 10000182	2c 区 表土	陶器 碗	-	4.0	-	胎土：にぶい黄橙	肥前 17c 前半	写真図版 57-813 20103525
図 137-814 10000184	2c 区 表土	陶器 碗	-	4.5	-	胎土：灰	肥前 16c 末～17c 初	写真図版 57-814 20103526
図 137-815 10000183	2c 区 表土	陶器 皿	-	3.5	-	胎土：にぶい黄橙	肥前 1590～1610 年代	写真図版 57-815 20103494・3495
図 137-816 10000172	2c 区 3 層	陶器 皿	10.9*	5.2*	3.4	胎土：黄灰	唐人古場窯 1590～1600 年代	写真図版 57-816 20103486
図 137-817 10000193	2c 区 4 層	土師器 鍋	-	-	-	橙	鍋Ⅲ a 類	写真図版 57-817 20103501
図 137-818 10000198	2c 区 3 層	土師器 鉢力	12.4*	10.0*	3.8	外：にぶい黄橙 内：灰黄		写真図版 57-818 20103532
図 137-819 10000148	試掘坑 2	瓦質土器 足鍋	-	-	-	灰・灰白	防長系	写真図版 57-819 20103507
図 137-820 10000151	試掘坑 2	青花 碗	-	-	-	胎土：灰白		写真図版 57-820 20103475
図 139-821 10000142	試掘坑 5	青花 皿	13.0*	-	-	胎土：灰白	福建系 16c 末～17c 初	写真図版 57-821 20103466
図 139-822 10000143	試掘坑 5	青花 碗	-	-	-	胎土：灰白	福建系 16c 末～17c 初	写真図版 57-822 20103467
図 139-823 10000145	試掘坑 5	陶器 皿	11.6*	5.0*	3.5	胎土：灰	唐人古場窯 1590～1600 年代	写真図版 57-823 20103470
図 139-824 10000144	試掘坑 5	陶器 皿	-	4.5	-	胎土：にぶい黄橙	岸岳系 1580～1590 年代 薬灰釉	写真図版 57-824 20103469
図 139-825 10000146	試掘坑 5	陶器 甗	-	-	-	胎土：褐灰	肥前 16c 末～17c 初	写真図版 57-825 20103471・3516
図 139-826 10000139	試掘坑 5 1 層	須恵器系陶器 播鉢	-	-	-	灰		写真図版 57-826 20103463
図 139-827 10000140	試掘坑 5	土師器 小皿	6.5*	4.0	1.7	浅黄橙	底部糸切	写真図版 57-827 20103464
図 139-828 10000147	試掘坑 5	瓦質土器 足鍋	-	-	-	にぶい黄橙	防長系	写真図版 57-828 20103472
図 139-829 10000141	試掘坑 5 12 層	土師器 鍋	-	-	-	にぶい橙		写真図版 57-829 20103465
図 139-830 10000150	試掘坑 6 19 層	青磁 碗	-	4.0	-	胎土：灰白	同安窯系	写真図版 57-830 20103474・3764
図 139-831 10000149	表採	白磁 皿	-	6.0*	-	胎土：灰白	森田 E 群	写真図版 57-831 20103473
図 139-832 08000274	2b 区 7 層	打製石器 石鏃	長 2.5	幅 1.8	厚 0.5		黒曜岩 重量 1.8g	写真図版 57-832 20103439
図 139-833 08000273	2c 区 表土	打製石器 石鏃	長 3.0	幅 2.2	厚 0.5		無斑晶質安山岩 重量 2.2g	写真図版 57-833 20103438
図 139-834 08000275	2a 区 3-4 面上層	打製石器 削器	長 5.0	幅 2.5	厚 0.9		黒曜岩 重量 9.8g	写真図版 57-834 20103440
図 139-835 08000276	2c 区 S ト	打製石器 石核	長 2.1	幅 1.4	厚 1.3		黒曜岩 重量 4.0g	写真図版 57-835 20103441

4 3 区の遺構と遺物

1) 3 区の概要

3 区は、大串川右岸の標高 298 ～ 301 m のおよそ北東に向かって低くなる緩斜面上に位置する（図 140）。調査の結果、中世前期と近世の集落跡を確認し、縄文時代・中世～近世の遺物が出土した。調査区内には、中世の検出面上層に近世の整地に伴うと考えられる層（1～3 層）が広く分布しており、この層から縄文時代・中世の遺物が混在して出土している。したがって、中世以前の遺構や遺物包含層については、部分的あるいは全面的に削平を受けている可能性が高い。

調査にあたって、九郎遺跡全体を覆うように 10 m ごとに区画を設定して、南北方向と東西方向にそれぞれ名称を付け、それを組み合わせて区画名とし、遺物の取り上げなどに使用した。なお、全体の区画を設定する前に中世の鍛冶関連遺構や掘立柱建物が検出された標高 298.35 m の水田面を D 区として遺物を取り上げている。

2) 3 区縄文時代の遺物

3 区では、近世の造成土などから縄文時代の土器・石器が出土した。縄文時代の遺構や遺物包含層は確認できなかったが、遺物の出土量からみて、3 区内あるいは隣接する地区に遺跡が存在した可能性が高い。早期から前期のものが多く、後期のものとみられる剥片鏃が 1 点ある。

土器（図 141）

836～839 は押型文土器で、縦走あるいは斜走する楕円文が施される。840 は押型文土器の底部付近と思われる。841 は粗い条痕が内外面に施されている。842～844 は轟 A 式系のもので、外面に 842・843 は斜位方向の条痕文、844 は斜格子状の沈線文が施される。845・846 は轟式系のもので、846 は外面にナデののち斜格子状の条痕文が施されている可能性があり、内面は沈線状になる条痕である。847～850 は轟 B 式系のものである。847・848 は同一個体の可能性があり、ミミズバレ状の突帯が巡る。849 はミミズバレ状の突帯が巡り、口縁端部に刻みをもつ。850 はやや高い突帯が巡る。851 は底部付近で、器面調整は外面が条痕のちナデ、内面がナデである。

石器（図 142・143）

852～885 は石鏃である。852～856 は 2 cm 未満の小型のものである。855 は両面に研磨を施している。857～859 は脚部側縁が膨らみを持ち、平面五角形に近いものである。860 は石槍状の石鏃で、基部は微凹基である。861～866 は長脚のもので、864 は側縁を鋸歯状に作り出す。867～870 は鍬形鏃で、大きさに大小 2 種類みられる。871～880 は平面が二等辺三角形、基部が凹基のもので、側縁は直線的なものが多いが、内湾するものもある。880 は未製品の可能性がある。881・882 は基部が平基に近いもの、883・884 は長さ 3 cm を超える大型のものである。885 は鈴桶技法によるものと思われる石刃素材の剥片鏃である。

886 は黒曜岩製の石錐で、両面調整を施している。887 は無斑晶質安山岩製の石錐で、縁部にのみ調整加工を施して錐部を作出している。

888・889 は横型の石匙で、888 は縁部に比較的丁寧に調整加工を施して刃部とつまみを作り出しているが、889 はやや雑な調整加工である。

890 は黒曜岩の縦長剥片を用いた削器である。891～896 は無斑晶質安山岩の大小の剥片を用いて刃部にのみ調整加工を施した削器で、調整剥離の程度はさまざまである。



図 140 九郎遺跡 3 区の位置 (1/2,000)

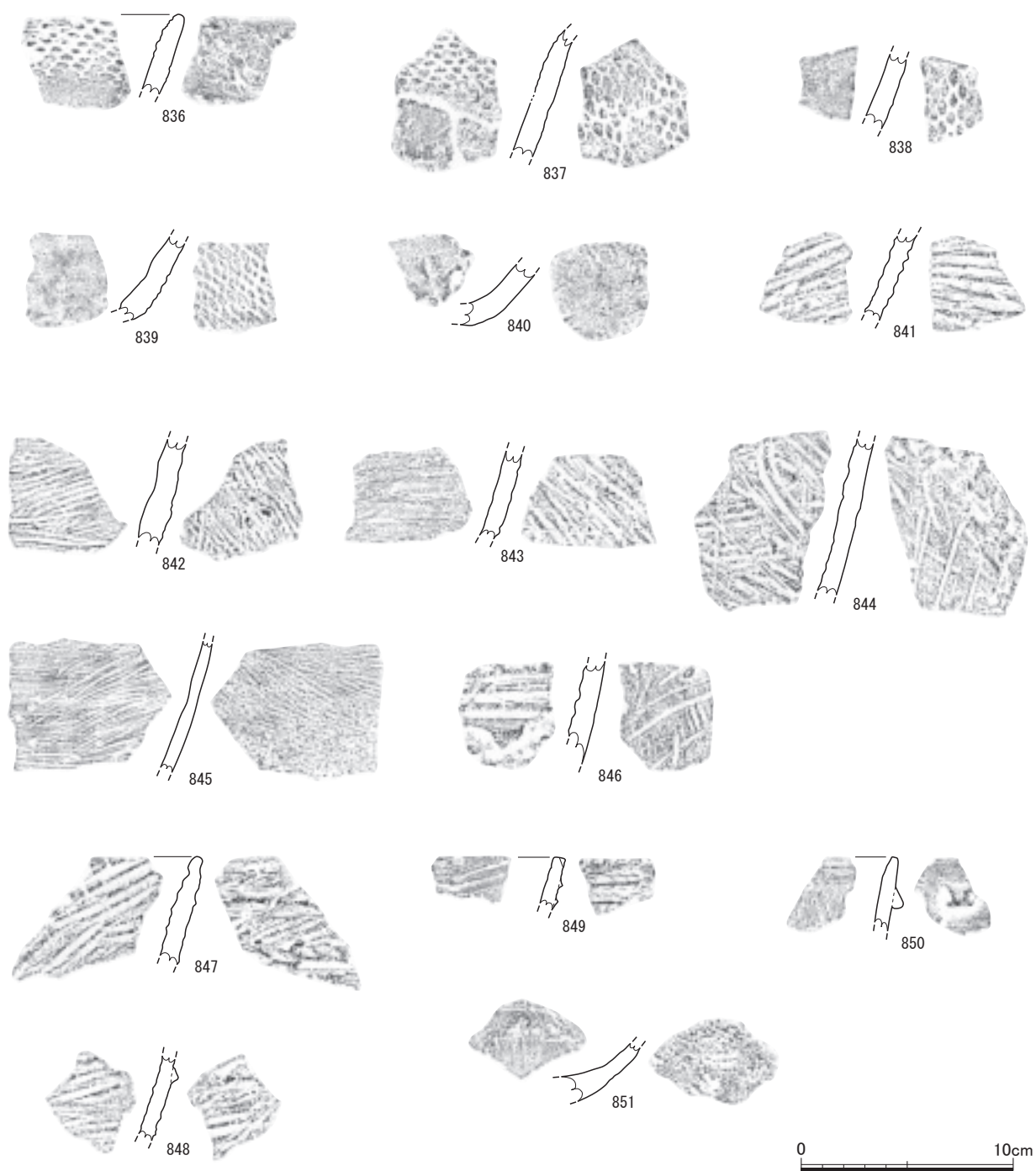


図 141 3 区出土縄文時代の土器 (1/3)

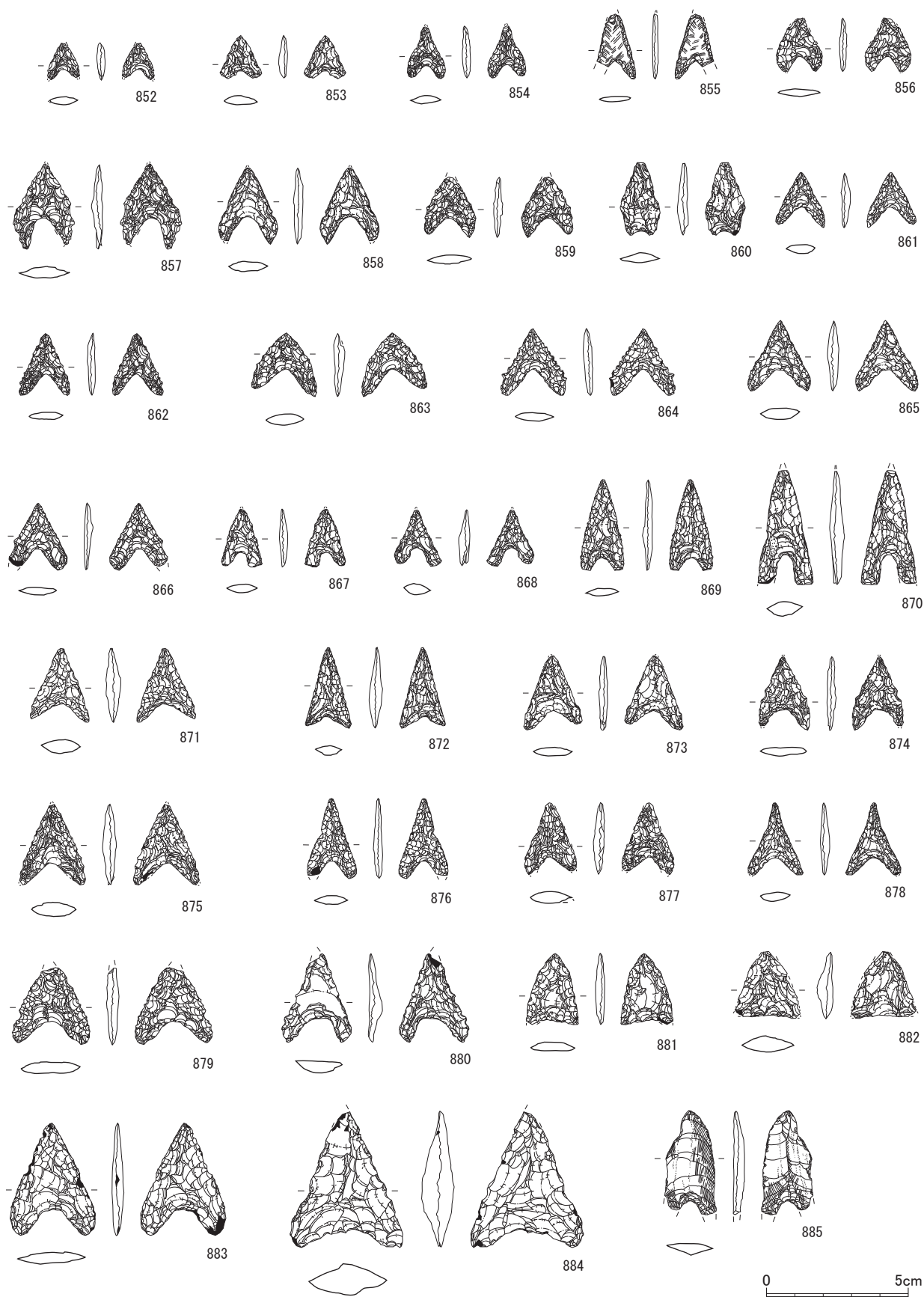


図 142 3区出土縄文時代の石器1 (1/2)

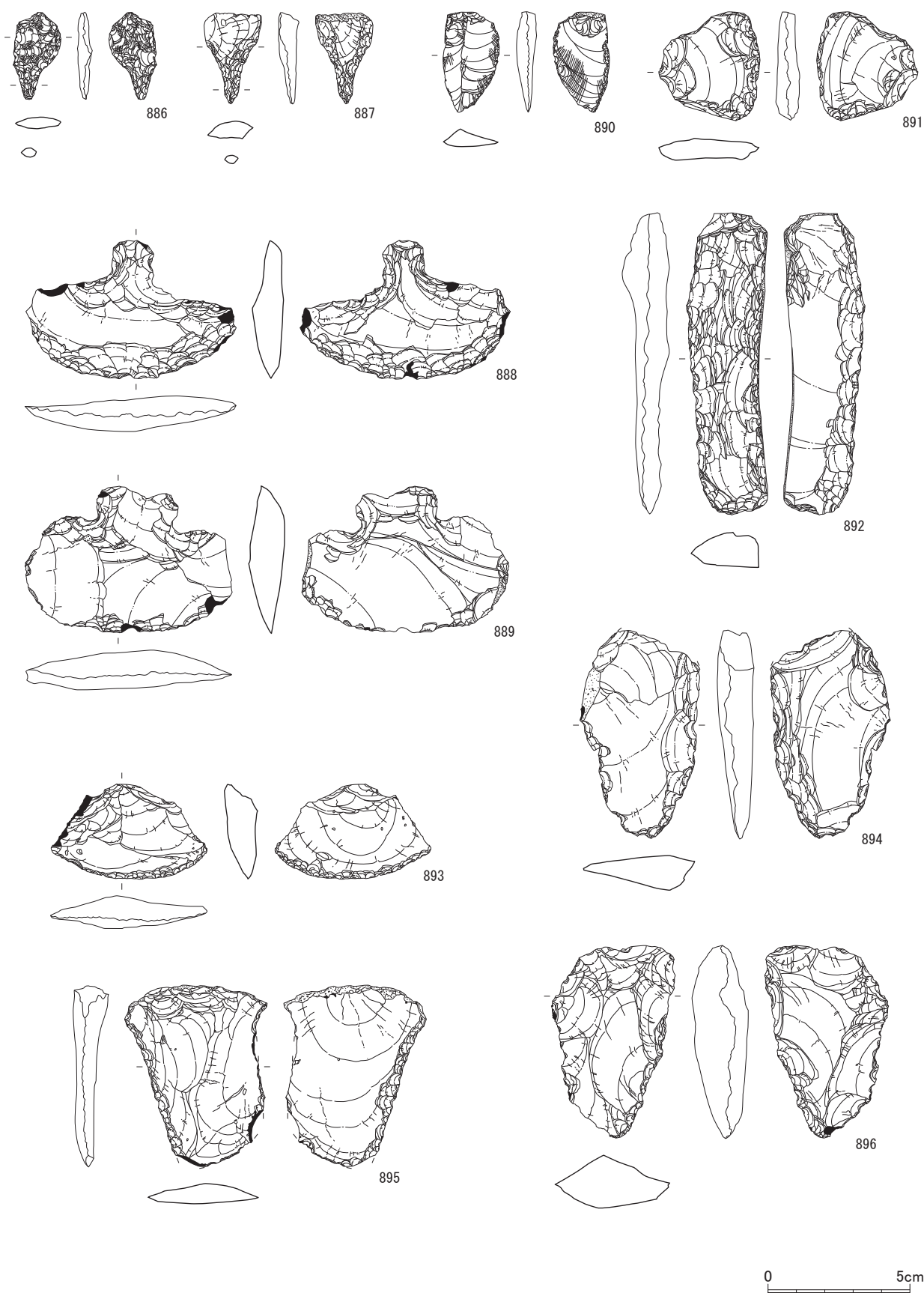


図 143 3区出土縄文時代の石器 2 (1/2)

表 15 九郎遺跡 3区縄文時代の出土土器

挿図・番号 登録番号	出土位置	種別 器種	寸法 cm			色調	備考	写真図版 写真登録番号
			口径	底径	器高			
図 141-836 10000101	32tr 3層	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：褐 内：橙	外面煤付着	写真図版 64-836 20103659・3660
図 141-837 10000102	32tr 3層	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：明褐 内：にぶい橙・にぶい黄橙	外面煤付着	写真図版 64-837 20103661・3662
図 141-838 10000107	AK50 区画	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：褐 内：橙	外面煤付着	写真図版 64-838 20103667
図 141-839 10000114	AG49 区画	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：明赤褐 内：橙		写真図版 64-839 20103675
図 141-840 10000115	AJ50 区画	縄文土器 深鉢	-	-	-	橙		写真図版 64-840 20103676
図 141-841 10000112	AL49 区画	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：明赤褐 内：にぶい橙	外面煤付着	写真図版 64-841 20103673
図 141-842 10000106	P3016	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：橙・にぶい黄橙 内：橙	外面煤付着	写真図版 64-842 20103666
図 141-843 10000113	AJ49 区画	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：明赤褐 内：橙・灰褐		写真図版 64-843 20103674
図 141-844 10000116	AH51 区画	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：明赤褐 内：黒褐	外面煤付着	写真図版 64-844 20103678
図 141-845 10000110	AI48 区画	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：明赤褐 内：暗赤褐	外面煤付着	写真図版 64-845 20103677
図 141-846 10000109	AI47 区画	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：橙・灰褐 内：明赤褐		写真図版 64-846 20103670・3671
図 141-847 10000103	32tr 1層	縄文土器 深鉢	-	-	-	にぶい橙	外面煤付着	写真図版 64-847 20103663
図 141-848 10000108	32tr 1層	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：橙 内：橙・にぶい褐	外面煤付着	写真図版 64-848 20103668
図 141-849 10000104	AK48 区画	縄文土器 深鉢	-	-	-	褐	外面煤付着	写真図版 64-849 20103664
図 141-850 10000105	SK3027	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：にぶい橙 内：褐	外面煤付着	写真図版 64-850 20103665
図 141-851 10000111	SK3030	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：にぶい褐 内：灰黄褐・にぶい黄橙		写真図版 64-851 20103672

表 16 九郎遺跡 3区縄文時代の出土石器

挿図・番号 登録番号	出土位置	種別 器種	寸法 cm			重量 g	石材	備考	写真図版 写真登録番号
			長さ	幅	厚さ				
図 142-852 10000219	AK48 区画	打製石器 石鏃	1.3	1.1	0.3	0.4	黒曜岩	先端部・両脚部欠損	写真図版 64-852 20103702
図 142-853 10000222	D 区	打製石器 石鏃	1.5	1.5	0.3	0.6	無斑品質安山岩	完形	写真図版 64-853 20103705
図 142-854 10000223	D 区	打製石器 石鏃	1.8	1.3	0.3	0.6	黒曜岩	先端部一部欠損	写真図版 64-854 20103706
図 142-855 10000249	AG50 区画	打製石器 石鏃	2.3	1.4	0.2	0.6	黒曜岩	先端部・片脚部欠損	写真図版 64-855 20103725
図 142-856 10000221	AE53 区画	打製石器 石鏃	1.9	1.6	0.3	0.6	黒曜岩	先端部・片脚部欠損	写真図版 64-856 20103704
図 142-857 10000220	AK47 区画	打製石器 石鏃	3.0	2.2	0.4	1.6	黒曜岩	先端部・片脚部一部欠損	写真図版 64-857 20103703
図 142-858 10000227	D 区	打製石器 石鏃	2.7	2.1	0.3	1.2	無斑品質安山岩	先端部・片脚部欠損	写真図版 64-858 20103710
図 142-859 10000216	AJ50 区画	打製石器 石鏃	2.1	1.8	0.3	0.8	黒曜岩	先端部欠損	写真図版 64-859 20103699
図 142-860 10000213	AF52 区画	打製石器 石鏃	2.6	1.4	0.4	1.0	無斑品質安山岩	先端部一部欠損	写真図版 64-860 20103696
図 142-861 10000235	AJ51 区画	打製石器 石鏃	1.9	1.7	0.3	0.6	無斑品質安山岩	完形	写真図版 64-861 20103718
図 142-862 10000224	D 区	打製石器 石鏃	2.2	1.8	0.3	0.8	黒曜岩	完形	写真図版 64-862 20103707
図 142-863 10000226	D 区	打製石器 石鏃	2.2	2.3	0.4	1.2	黒曜岩	裏面一部欠損	写真図版 64-863 20103709
図 142-864 10000237	AL48 区画	打製石器 石鏃	2.3	2.3	0.3	0.8	無斑品質安山岩	完形	写真図版 64-864 20103720
図 142-865 10000231	AH49 区画	打製石器 石鏃	2.5	2.2	0.4	1.4	無斑品質安山岩	完形	写真図版 64-865 20103714

表 16 九郎遺跡 3 区縄文時代の出土石器

挿図・番号 登録番号	出土位置	種別 器種	寸法 cm			重量 g	石材	備考	写真図版 写真登録番号
			長さ	幅	厚さ				
図 142-866 10000232	AI48 区画	打製石器 石鏃	2.3	2.1	0.3	1.0	黒曜岩	片脚部欠損	写真図版 64-866 20103715
図 142-867 10000228	AG49 区画	打製石器 石鏃	2.0	1.4	0.3	0.6	無斑品質安山岩	先端部欠損	写真図版 64-867 20103711
図 142-868 10000233	AI49 区画	打製石器 石鏃	2.0	1.7	0.4	0.6	黒曜岩	先頭部欠損	写真図版 64-868 20103716
図 142-869 10000208	SK3030	打製石器 石鏃	3.2	1.5	0.4	1.2	無斑品質安山岩	完形	写真図版 64-869 20103729
図 142-870 10000211	AE51 区画	打製石器 石鏃	4.1	3.9	0.5	2.8	無斑品質安山岩	先端部・片脚部一部欠損	写真図版 64-870 20103731
図 142-871 10000234	AJ50 区画	打製石器 石鏃	2.6	2.1	0.5	1.6	無斑品質安山岩	完形	写真図版 64-871 20103717
図 142-872 10000230	AG52 区画	打製石器 石鏃	2.9	1.6	0.5	1.2	無斑品質安山岩	完形	写真図版 64-872 20103713
図 142-873 10000215	AJ50 区画	打製石器 石鏃	2.6	2.1	0.3	1.2	無斑品質安山岩	先端部・片脚部一部欠損	写真図版 64-873 20103698
図 142-874 10000214	AJ50 区画	打製石器 石鏃	2.6	1.8	0.3	1.2	無斑品質安山岩	先端部・片脚部一部欠損	写真図版 64-874 20103697
図 142-875 10000225	D 区	打製石器 石鏃	2.8	2.3	0.5	2.0	無斑品質安山岩	先端部・片脚部一部欠損	写真図版 64-875 20103708
図 142-876 10000239	表採	打製石器 石鏃	2.8	1.7	0.3	1.0	無斑品質安山岩	片脚部欠損	写真図版 64-876 20103722
図 142-877 10000217	AK48 区画	打製石器 石鏃	2.5	1.8	0.4	1.2	黒曜岩	先端部・両脚部欠損	写真図版 64-877 20103700
図 142-878 10000229	AG51 区画	打製石器 石鏃	2.6	2.0	0.3	1.0	無斑品質安山岩	片脚部欠損	写真図版 64-878 20103712
図 142-879 10000236	AK48 区画	打製石器 石鏃	2.7	2.7	0.4	2.2	黒曜岩	先頭部欠損	写真図版 64-879 20103719
図 142-880 10000209	AK47 区画	打製石器 石鏃	3.1	2.4	0.5	1.8	無斑品質安山岩	先端部欠損	写真図版 64-880 20103730
図 142-881 10000238	AL48 区画	打製石器 石鏃	2.5	1.8	0.3	1.6	無斑品質安山岩	片脚部欠損	写真図版 64-881 20103721
図 142-882 10000218	AK48 区画	打製石器 石鏃	2.4	2.3	0.6	2.0	無斑品質安山岩	先端部・両脚部・縁辺部欠損	写真図版 64-882 20103701
図 142-883 10000210	D 区	打製石器 石鏃	4.0	3.0	4.0	4.0	無斑品質安山岩	縁辺部一部欠損	写真図版 64-883 20103732
図 142-884 10000212	AF50 区画	打製石器 石鏃	4.8	4.0	1.1		無斑品質安山岩	縁辺部一部欠損	写真図版 64-884 20103733
図 142-885 10000248	10tr	打製石器 石鏃	3.7	1.8	0.4	2.2	黒曜岩	両脚部欠損	写真図版 64-885 20103724
図 143-886 10000240	AK48 区画	打製石器 石鏃	3.1	1.7	0.5	2.0	黒曜岩	完形	写真図版 64-886 20103723
図 143-887 10000250	D 区	打製石器 石鏃	3.2	2.0	0.7	3.4	無斑品質安山岩	完形	写真図版 64-887 20103726
図 143-888 10000242	D 区	打製石器 石匙	4.9	7.4	1.3	32.8	無斑品質安山岩	一部欠損	写真図版 64-888 20103735
図 143-889 10000241	AK47 区画	打製石器 石匙	5.2	7.3	1.4	40.4	無斑品質安山岩	一部欠損	写真図版 64-889 20103734
図 143-890 10000252	AI52 区画	打製石器 削器	3.5	2.0	0.7	3.6	黒曜岩	完形	写真図版 64-890 20103728
図 143-891 10000251	AF50 区画	打製石器 削器	3.8	3.6	0.8	11.8	無斑品質安山岩	完形	写真図版 64-891 20103727
図 143-892 10000244	AG50 区画	打製石器 削器	10.6	2.9	1.7	46.8	無斑品質安山岩	完形	写真図版 64-892 20103738
図 143-893 10000247	AJ50 区画	打製石器 削器	3.3	5.5	1.2	15.6	無斑品質安山岩	完形	写真図版 64-893 20103736
図 143-894 10000243	D 区	打製石器 削器	6.3	4.2	1.3	37.6	無斑品質安山岩	一部欠損	写真図版 64-894 20103737
図 143-895 10000245	AI48 区画	打製石器 削器	6.4	5.0	1.2	28.8	無斑品質安山岩	完形	写真図版 64-895 20103739
図 143-896 10000246	AI52 区画	打製石器 削器	6.8	4.3	2.0	47.6	無斑品質安山岩	完形	写真図版 64-896 20103740



図 144 3区中世～近世遺構の分布 (1/800)



図 145 3 区中世～近世遺構の分布詳細 1 (1/300)



図 146 3区中世～近世遺構の分布詳細2 (1/300)



図 147 3区中世～近世遺構の分布詳細3 (1/300)



図 148 3区中世～近世遺構の分布詳細4 (1/300)

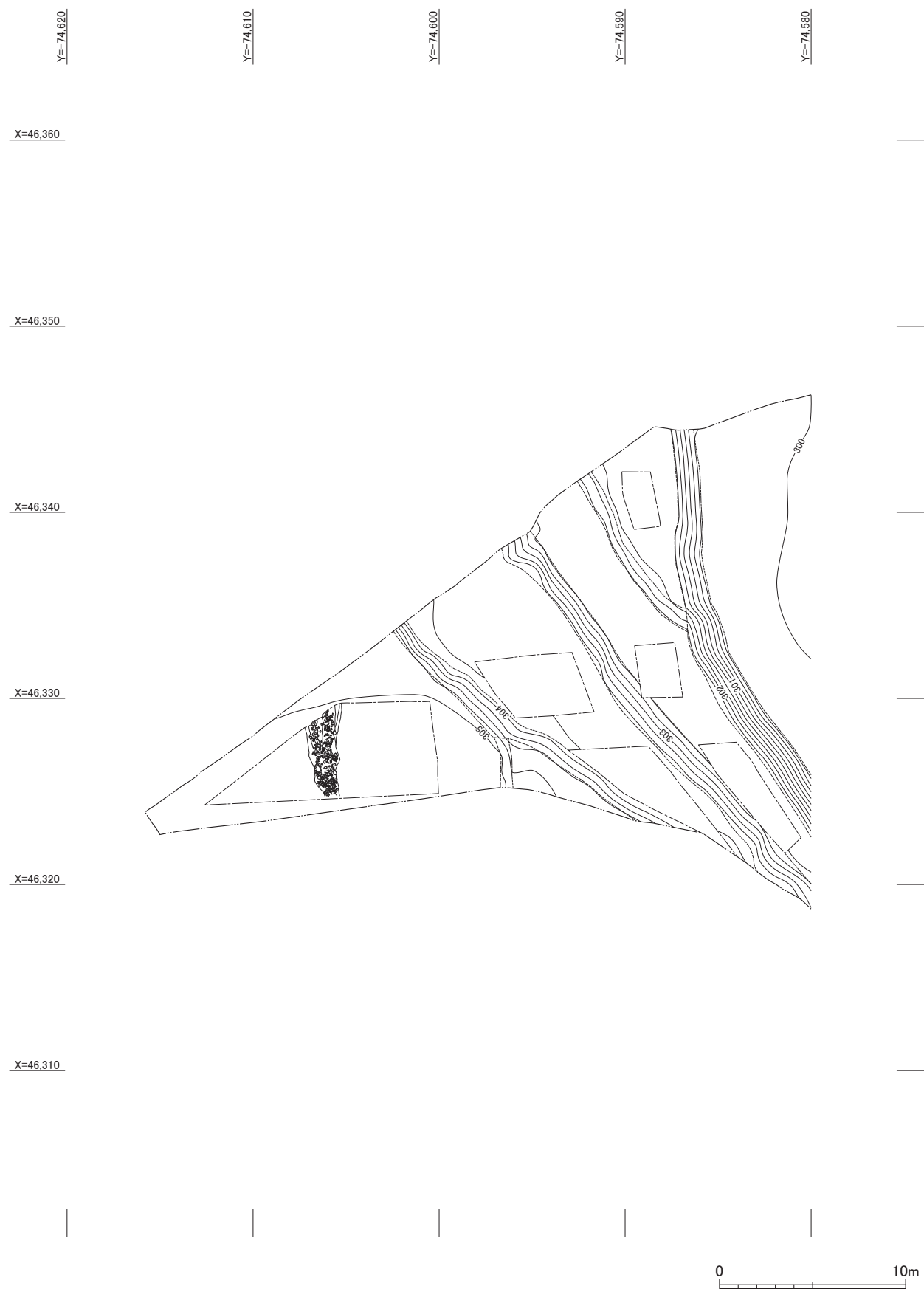


図 149 3区中世～近世遺構の分布詳細 5 (1/300)

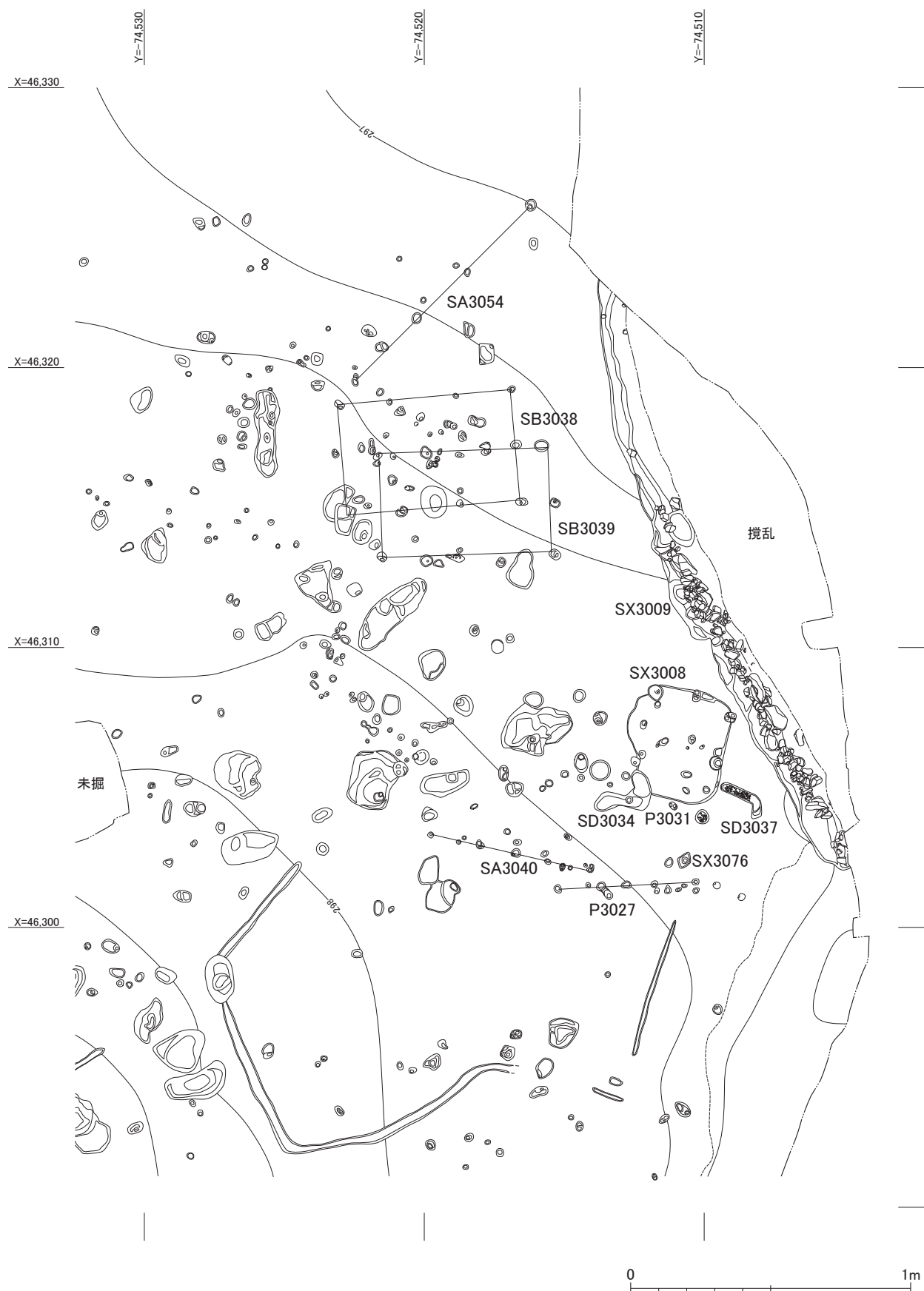


図 150 3区中世～近世遺構の分布詳細6 (1/200)

3) 3 区中世の遺構と遺物

3 区で確認された中世の遺構分布は、東部に鍛冶関連遺構、掘立柱建物 2 棟、柵列 3 条が集中しており、西部には土坑墓と掘立柱建物が 1 基ずつあるのみで、密度が薄い。遺構は中世前期のものがほとんどであるが、遺物には 16 世紀代を中心に中世後期に降るものも出土している。

鍛冶関連遺構

鍛冶関連遺構として報告するのは、竪穴遺構の SX3008 と炉跡と考えられる SX3076 である。二つの遺構は近接しており、この周辺からは鉄滓などの鍛冶が行われたことを示す遺物が出土した。遺構・遺物の状況などから、中世前期に集落近辺で鍛錬鍛冶が小規模に行われていたことが推測される。

SX3008 (図 151・152)

3 区東部に位置する竪穴遺構である。長軸 4.04 m、短軸 3.52 m、深さ 0.26 m の平面隅丸方形であるが、西辺が外側に大きく張り出している。北東・北西隅に竪穴遺構に伴うと考えられる柱穴があり、詳細な検討をしていないが、覆屋を架けた半地下式の構造であったと考えられる。埋土には炭、炭化物、焼土が含まれ、遺構中央から西部にかけて明黄褐色や赤褐色の硬化した焼土塊の広がりが見られる。床面中央部には硬化した部分があり、東辺ほぼ中央には階段状の段が設けられている。床面で検出した 2 基の小穴 (P3029・3030) には、掘形周囲に硬くしまった部分が見られるが、その性格は不明である。東壁面の東南隅近くには暗渠となって外側に続く排水溝 (SD3037) があり、溝は長さ 1.56 m の部分で南に折れ曲がり、深さは約 0.39 m で、底面には 0.1 m 以下の小礫を敷き詰めている。南西隅に位置する SD3034 も底面の小礫は確認できなかったものの、SD3037 と同様の形状であり、排水溝であった可能性がある。鍛冶関連遺物としては、鉄滓、粒状滓、鍛造剥片、砂鉄、金床石の可能性のある平坦面をもつ花崗岩礫などが出土し、他の出土遺物として土師器杯・小皿 (糸切)、瓦器片、白磁碗、竜泉窯系青磁碗、須恵器系陶器捏鉢、砥石がある。

SX3008 出土遺物 (図 156)

897 は白磁碗の底部、898 は竜泉窯系青磁碗 II bc 類の口縁部である。899 は東播磨諸窯とみられる須恵器系陶器捏鉢の口縁部である。900 は底部糸切の土師器小皿で、底部に板状圧痕が見られる。

SX3076 (図 152)

3 区東部に位置し、SX3008 から約 2 m 南に離れている。小穴である P3006 と重複するが、SX3076 がより新しい別々の遺構と判断した。長軸 0.39 m、短軸 0.31 m、深さ 0.2 m で、平面が楕円形、底面が碗形をなす浅い掘り込みに焼土と炭が堆積していた。上部の炭層から鞆羽口、鉄滓、炉壁と思われるものが出土しており、鍛冶炉と考えられる。

SX3076 出土遺物 (図 156)

909 は土製の鞆羽口で、鉄滓が付着している。

鍛冶関連遺物 (図 156)

910 は碗形鍛冶滓で、911 は碗形滓の可能性はある。いずれも SX3008 付近から出土した。912 は板状の鉄片であるが、P3006 下層から出土しており、鍛冶に直接関連するかは不明である。

掘立柱建物

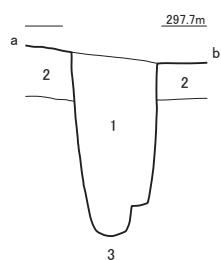
掘立柱建物として報告するのは以下の 3 棟で、いずれも現地で確認したものである。発掘作業中は 3 棟以外にも



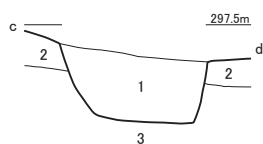
図 151 3区中世の鍛冶関連遺構 1 (1/30)



P3029

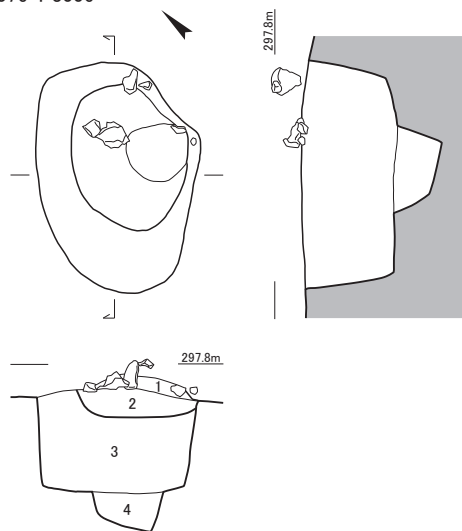


P3030



1. 褐灰色(10YR4/1)粘質土 黄褐色粘土を含む。
2. 暗褐色(10YR3/3)粘質土 褐色粘質土塊を含む。
炭・砂礫を少し含む。硬くしまる
3. 明灰黄色(2.5Y7/2)粘質土

SX3076・P3006



SX3076土層

1. 黒褐色(5YR3/1)炭層 鉄滓附着炉壁・軸片を含む。
2. 橙色(5YR6/8)焼土層 黄褐色粘質土塊～5mm、炭を含む。

P3006土層

3. 暗褐色(7.5YR3/3)粘質土 鍛冶滓出土(本来2層に伴った可能性もある。)
4. 暗灰色(N3/)粘質土 褐色粘土塊(大)～2cmを含む。



図 152 3区中世の鍛冶関連遺構 2 (1/20・1/40)

掘立柱建物として検討したものもあるが、整理作業の段階で確実性に乏しいと判断した。SB3038・3039は調査区東部に位置し、平面的に重複していることから、建て替えたものと考えられる。柱穴からの出土遺物や周辺の遺構の状況から中世前期のものと推定される。SB3050は調査区西部に位置し、埋土の状況などから中世のものと判断した。

SB3038 (図 153)

3区東部に位置する掘立柱建物で、主軸をN85°Eにとる東西棟の側柱建物である。SB3039と平面的に重複するが、柱穴は重複しない。梁行2間(3.96 m)×桁行3間(6.2 m)で、床面積は22.5㎡、梁行柱間は1.6～2.36 m、桁行柱間は1.9～2.35 mである。建物を構成する柱穴は径0.2～0.4 mの円形基調で、径0.1～0.15 mの柱痕跡を確認した。遺物は土師器小片、須恵器系陶器捏鉢が出土した。

SB3038 出土遺物 (図 156)

901は東播諸窯とみられる須恵器系陶器捏鉢の口縁部である。

SB3039 (図 153)

3区東部に位置する掘立柱建物で、主軸をN88°Eにとる東西棟の側柱建物である。SB3038と平面的に重複するが、柱穴は重複しない。梁行2間(3.72 m)×桁行3間(6.04 m)で、床面積は24.6㎡、梁行柱間は1.85～1.87 m、桁行柱間は1.6～2.6 mである。建物を構成する柱穴は径0.3～0.5 mの円形基調で、径0.1～0.15 mの柱痕跡を確認した。遺物は出土しなかった。

SB3050 (図 154)

3区中央西寄りに位置する掘立柱建物で、主軸をN73°Eにとる東西棟の側柱建物である。梁行1間(1.98 m)×桁行2間(4.16 m)で、床面積は8.2㎡、桁行柱間は2.0～2.1 mである。建物を構成する柱穴は径0.2～0.5 mの円形基調である。遺物は出土しなかった。

柵列

柵列として報告するのは以下の3条で、SA3054は現地で確認したものであるが、それ以外は整理作業の段階で再検討して認定したものである。SA3040・3077はSX3008に近く、有機的な関連をもつことが考えられる。

SA3040 (図 154)

3区東部に位置する柵列で、4間分の柱穴がN77°Wの東西方向に5.8 mの長さで列をなす。柱間は1.15～1.74 m、柱穴は0.2～0.3 mの円形基調である。遺物は出土しなかった。

SA3054 (図 154)

3区東部に位置する柵列で、3間分の柱穴がN45°Eの北東－南西方向に8.8 mの長さで列をなす。柱間は2.4～3.16 m、柱穴は0.3～0.4 mの円形基調である。遺物は出土しなかった。

SA3077 (図 154)

3区東部に位置する柵列で、4間分の柱穴がN87°Eの東西方向に4.9 mの長さで列をなす。柱間は0.9～1.52 m、柱穴は0.2～0.3 mの円形基調である。遺物は出土しなかった。

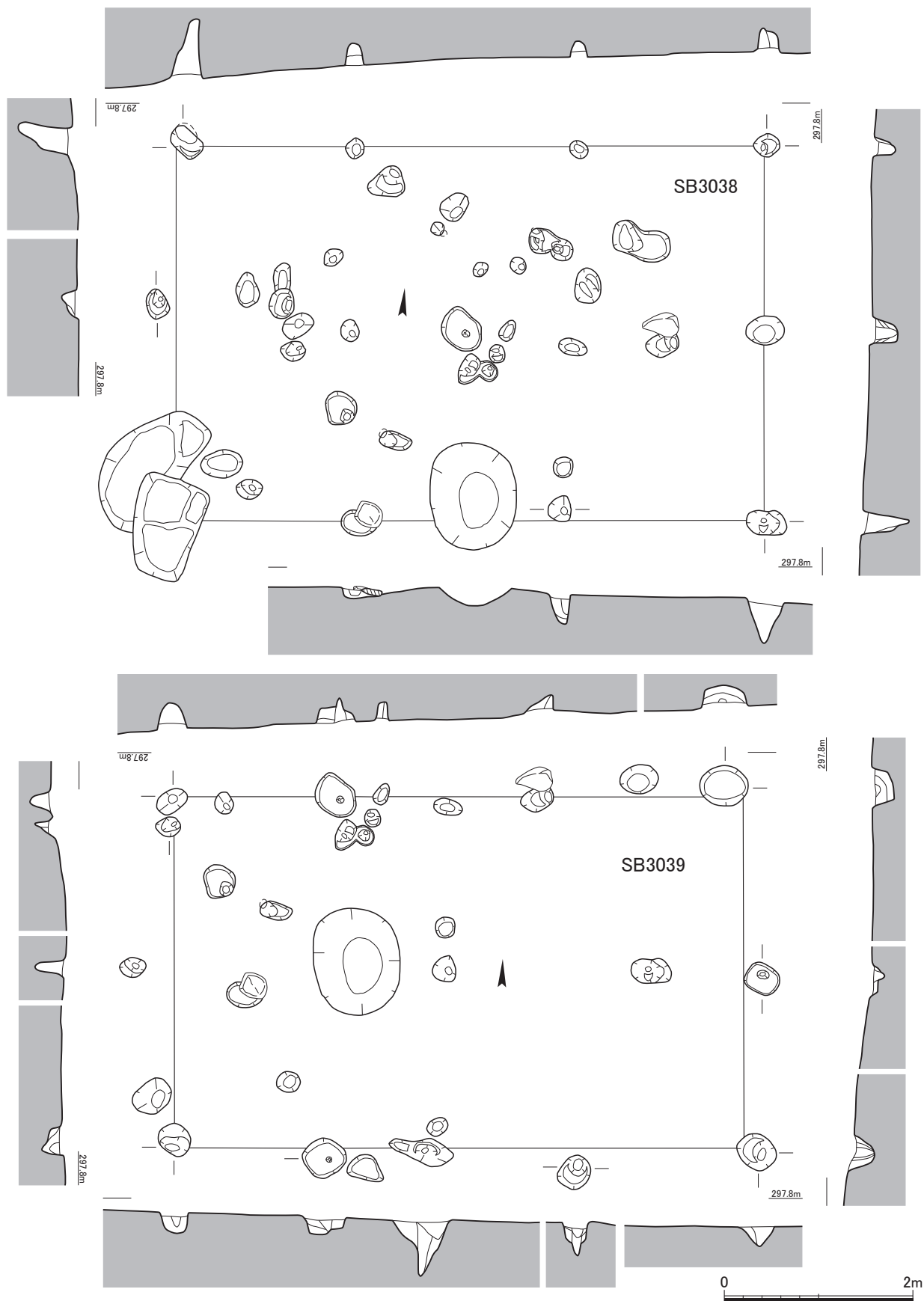


図 153 3 区中世の掘立柱建物 (1/60)

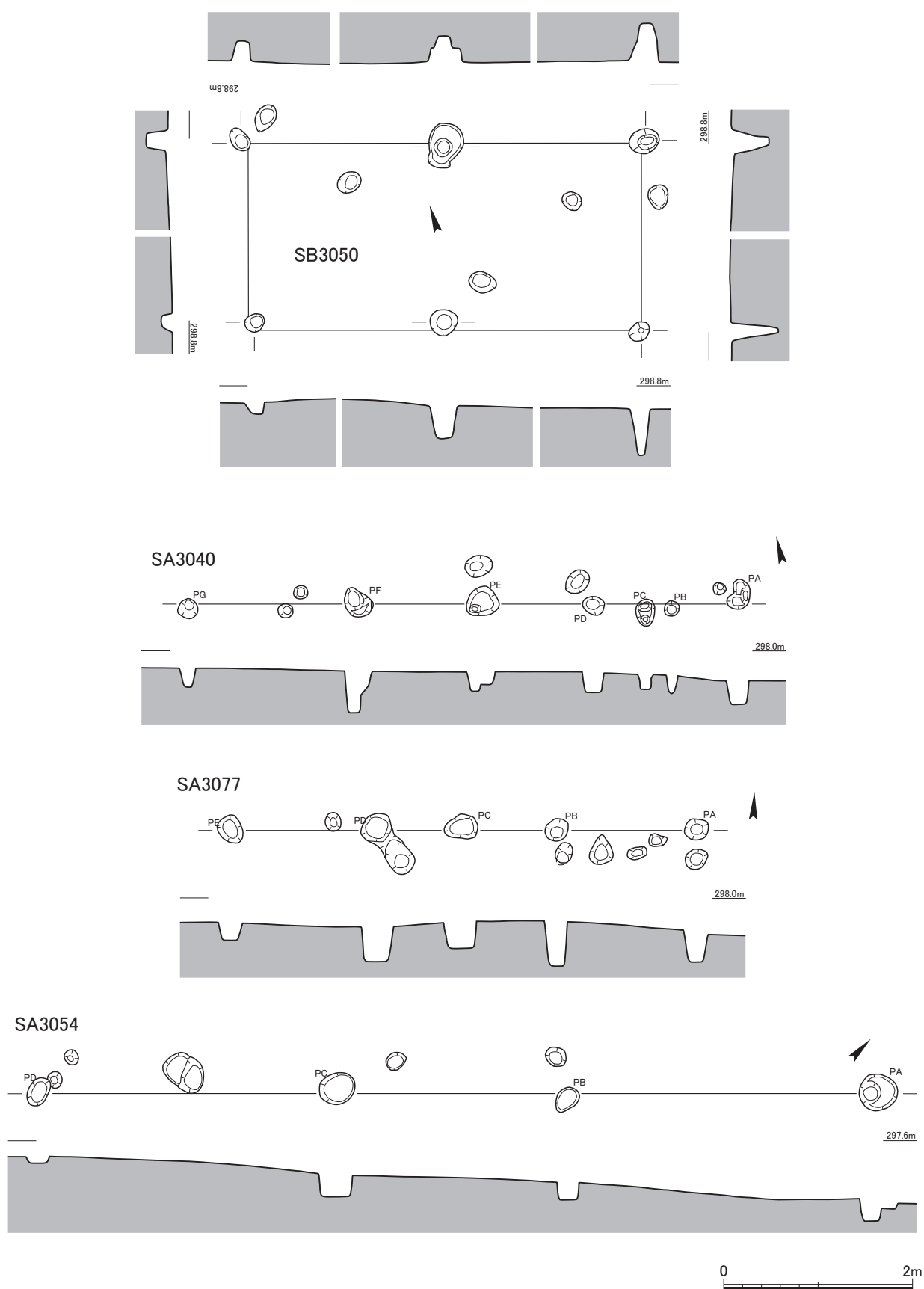


図 154 3区中世の掘立柱建物・柵列 (1/60)

土坑墓

土坑墓として報告するのは SX3001 の 1 基である。鍛冶関連遺構や掘立柱建物などが集中して分布する区域とは離れた調査区西部に位置する。

SX3001 (図 155)

3区西部に単独で位置する。長軸 1.64 m、短軸 1.38 m、深さ 0.2～0.3 m で、平面は隅丸長方形である。土層観察では木棺の痕跡は確認されなかった。副葬品とみられる中国磁器 6 点が北隅でまとまって出土した。鎬蓮弁文の青磁碗 2 点、草花文を施す白磁皿 2 点と口禿の白磁皿 2 点で、白磁皿は同種のをそれぞれ重ねた状態で、正

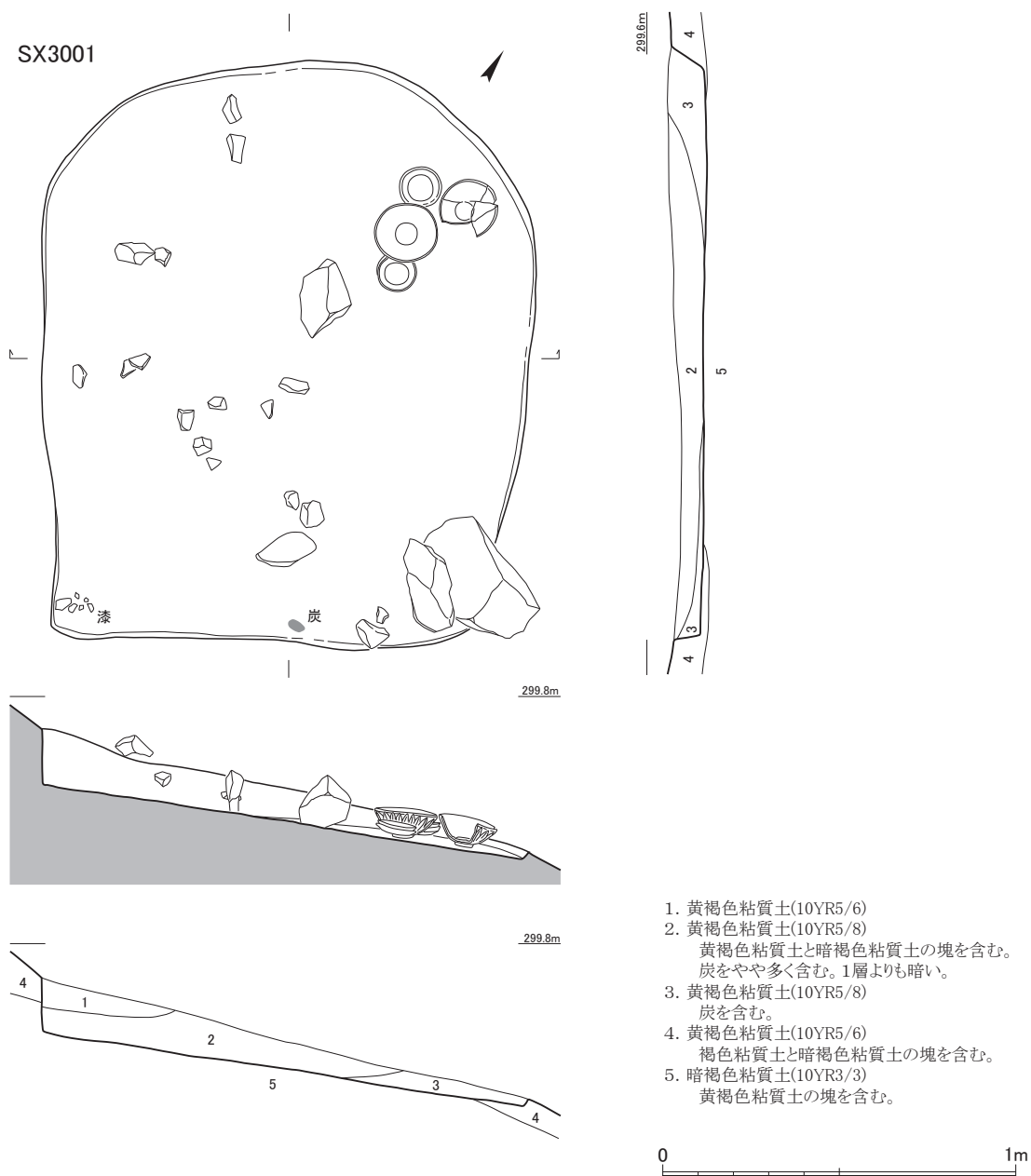


図 155 3区中世の土坑墓 (1/20)

置並列されていた。南隅の上面から漆製品が出土したが、炭化した木片と朱漆の塗膜がわずかに残るのみである。

SX3001 出土遺物（図 156）

903・904 は外面鎬蓮弁文の竜泉窯系青磁碗で、903 は内面見込みに草花文の印刻があるⅡc類、904 はⅡb類である。905・906 は口縁端部が口禿になった白磁皿Ⅸ類である。907・908 は白磁皿Ⅷ類で、内面見込みに草花文の凹印を施している。907 の底面には花押の可能性がある墨書がある。

小穴出土遺物（図 156）

902 は P3031 出土の底部糸切の土師器杯で、底部に板状圧痕がみられる。

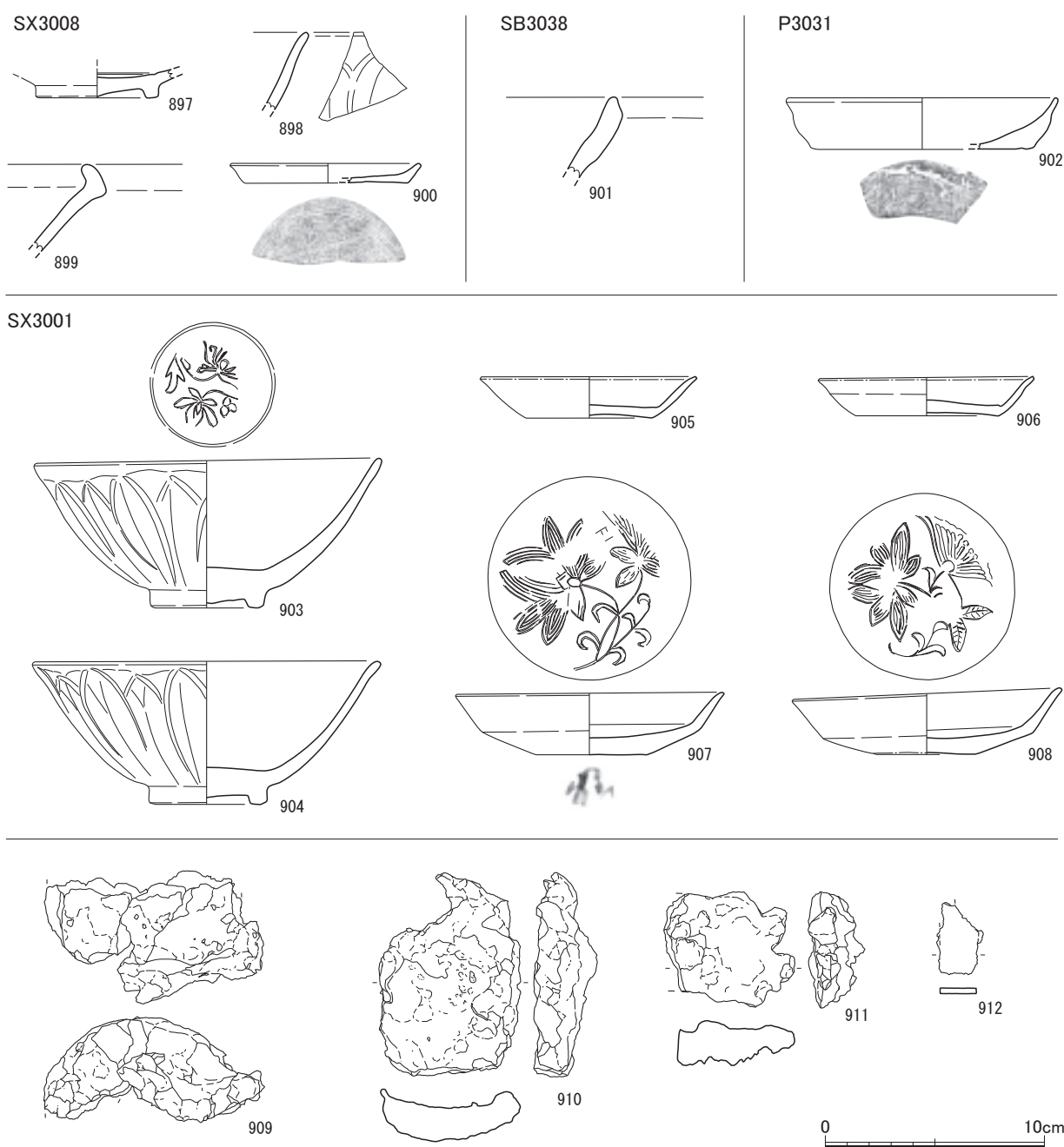


図 156 3区出土中世の遺物 1 (1/3)

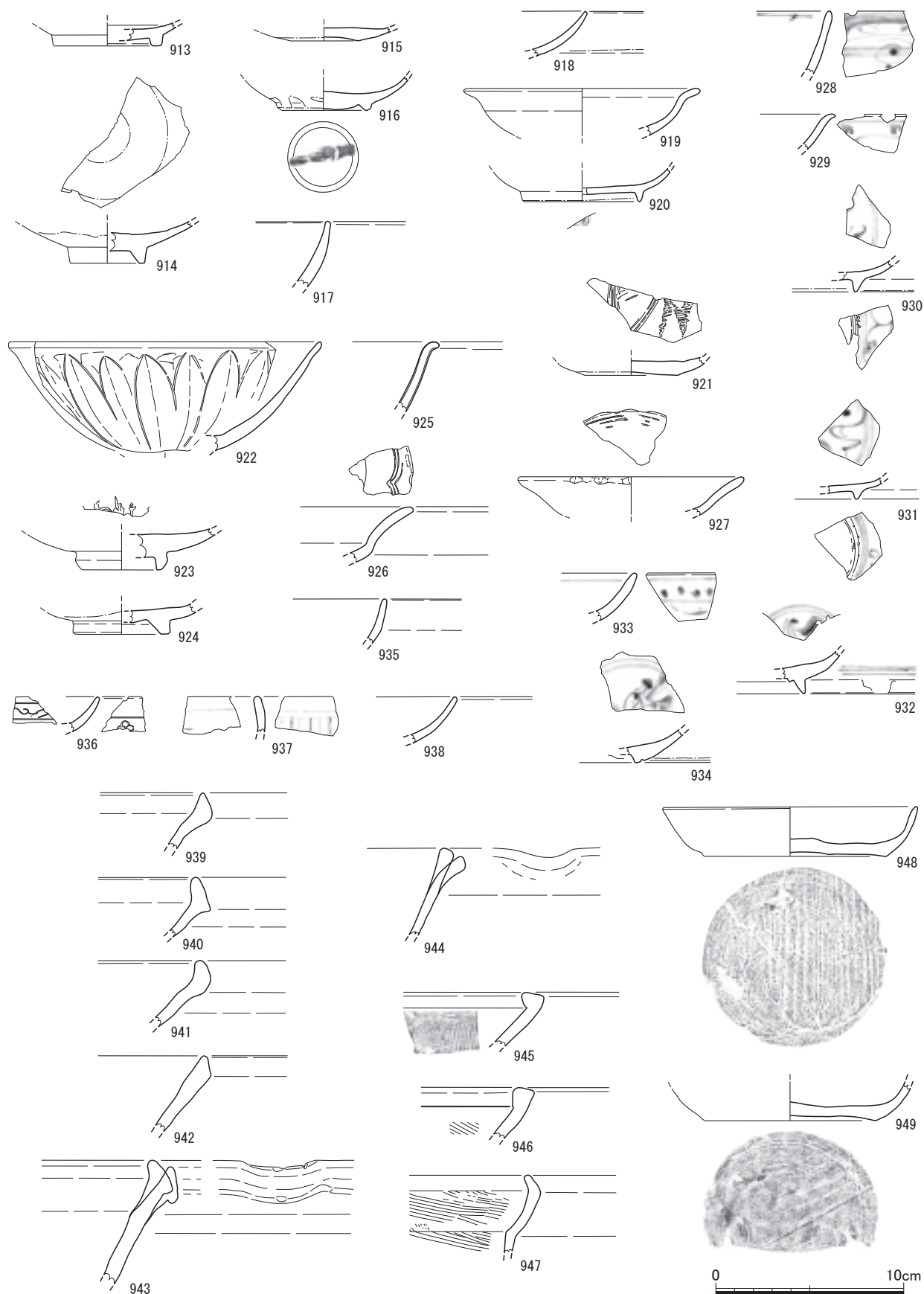


図 157 3区出土中世の遺物 2 (1/3)

遺構外出土遺物（図 157）

913～920 は白磁である。913 は碗で、内面見込みに圈線があり、Ⅸ類の可能性はある。914 は碗で、内面見込みの釉を輪状に掻き取るⅧ類である。915・916 は皿で、916 の高台内には漆が帯状に付着している。917 は碗で、青磁の可能性はある。918 は森田 D 群の杯、919・920 は森田 E 群の皿で、920 の高台内には染付文様が描かれる。921 は同安窯系青磁皿で、図示していないが墨書がみられる。922～927 は竜泉窯系青磁である。922 は外面鎬蓮弁文の碗Ⅱ bc 類、923・924 は碗底部である。925 は口縁部が外反する碗上田 D 類で、釉が厚く施される。926・927 は稜花皿である。928～934 は青花である。928 は碗、929～932 は小野 B 群の皿、933・934 は小野 C 群の皿である。935 は黒釉磁器の天目碗である。

936・937 は朝鮮半島産の象嵌青磁で、936 は白象嵌、937 は白象嵌と黒象嵌が施される。938 は朝鮮王朝期の灰青陶器皿である。

939～944 は東播諸窯とみられる須恵器系陶器捏鉢である。945～947 は防長系の瓦質土器で、945・946 は搦鉢、947 は足鍋である。948・949 は SX3009 出土の底部糸切の土師器杯で、底部に板状圧痕がみられる。SX3009 は近世の遺構であるが、SX3008 に近い位置から出土しており、本来 SX3008 に伴うものであったかもしれない。

表 17 九郎遺跡 3 区中世の出土遺物

挿図 - 番号 登録番号	出土位置	種別 器種	寸法 cm			色調	備考	写真図版 写真登録番号
			口径	底径	器高			
図 156-897 10001345	SX3008	白磁 碗	-	5.6*	-	胎土：灰白		写真図版 65-897 20103588・3589
図 156-898 10001343	SX3008	青磁 碗	-	-	-	胎土：灰白	竜泉窯系碗Ⅱ bc 類	写真図版 65-898 20103585
図 156-899 10001347	SX3008	須恵器系陶器 捏鉢	-	-	-	灰	東播諸窯系	写真図版 65-899 20103591
図 156-900 10001342	SX3008	土師器 小皿	8.7	7.4	0.9	橙	底部糸切 板状圧痕	写真図版 65-900 20103584
図 156-901 10001378	SB3038 PB	須恵器系陶器 捏鉢	-	-	-	外：黄灰・灰 内：黄灰	東播諸窯系	写真図版 65-901 20103625
図 156-902 10001379	P3031	土師器 杯	12.4*	10.2*	2.3	外：橙・にぶい橙 内：橙	底部糸切 板状圧痕	写真図版 65-902 20103626
図 156-903 10001334	SX3001	青磁 碗	15.8	5.2	6.8	胎土：黄灰	竜泉窯系碗Ⅱ c 類	写真図版 65-903 20103533
図 156-904 10001335	SX3001	青磁 碗	15.9	5.6	6.6	胎土：灰白	竜泉窯系碗Ⅱ b 類	写真図版 65-904 20103534
図 156-905 10001338	SX3001	白磁 皿	10.0	5.8	1.9	胎土：灰白	皿Ⅸ類	写真図版 65-905 20103537
図 156-906 10001339	SX3001	白磁 皿	9.9	6.5	1.8	胎土：灰白	皿Ⅸ類	写真図版 65-906 20103538
図 156-907 10001336	SX3001	白磁 皿	12.3	5.1	2.9	胎土：灰白	皿Ⅷ 2 類	写真図版 65-907 20103685・3686
図 156-908 10001337	SX3001	白磁 皿	12.3	4.6	3.0	胎土：灰白	皿Ⅷ 2 類	写真図版 65-908 20103536・3687
図 156-909 10002015	P3006	土製品 鞆羽口	長 6.1	幅 10.0	-	にぶい橙・黒褐		写真図版 65-909 20103684
図 156-910 10002013	AK48 区画	鉍滓 鉄滓	長 9.3	幅 6.5	厚 2.9		重量 177.8g 碗形鍛冶滓	写真図版 65-910 20103682・3683
図 156-911 10002012	D 区	鉍滓 鉄滓	長 5.3	幅 6.0	厚 2.6		重量 73.5g 碗形鍛冶滓力	写真図版 65-911 20103657・3658
図 156-912 10002014	P3006	鉄製品 不明鉄片	長 3.2	幅 1.8	厚 0.3		重量 5.1g	写真図版 65-912 20103656
図 157-913 10001806	AG51 区画	白磁 碗	-	5.7*	-	胎土：灰白	碗Ⅸ類力	写真図版 65-913 20103652・3653
図 157-914 10001805	表採	白磁 碗	-	4.0*	-	胎土：灰白	碗Ⅷ類	写真図版 65-914 20103650・3651
図 157-915 10001807	表採	白磁 皿	-	3.6*	-	胎土：灰白		写真図版 65-915 20103655
図 157-916 10001804	AF・AG50 区画	白磁 皿	-	5.0	-	胎土：灰白	皿Ⅶ類力 底部漆付着	写真図版 65-916 20103680

表 17 九郎遺跡 3 区中世の出土遺物

挿図・番号 登録番号	出土位置	種別 器種	寸法 cm			色調	備考	写真図版 写真登録番号
			口径	底径	器高			
図 157-917 10001801	AE53 区画	白磁 碗	-	-	-	胎土：灰白		写真図版 65-917 20103647
図 157-918 10001802	AK48 区画	白磁 皿	-	-	-	胎土：灰白	森田 D 群	写真図版 65-918 20103648
図 157-919 10001803	31tr 1 層	白磁 皿	12.6*	-	-	胎土：灰白	森田 E 群	写真図版 65-919 20103649
図 157-920 10001371	20tr 1 層	白磁 皿	-	6.2*	-	胎土：灰白		写真図版 65-920 20103619
図 157-921 10001396	AE51 区画	青磁 皿	-	4.9*	-	胎土：灰白	同安窯系	写真図版 65-921 20103609
図 157-922 10001383	AJ51 区画	青磁 碗	16.7*	-	-	胎土：灰白	竜泉窯系碗Ⅱ bc 類	写真図版 65-922 20103689
図 157-923 10001381	AG50 区画	青磁 碗	-	4.2*	-	胎土：灰白	竜泉窯系	写真図版 65-923 20103594
図 157-924 10001397	31tr	青磁 碗	-	5.2*	-	胎土：灰白	竜泉窯系	写真図版 65-924 20103611
図 157-925 10001382	試掘坑 10 1 層	青磁 碗	-	-	-	胎土：灰白	竜泉窯系碗上田 D 類	写真図版 65-925 20103595
図 157-926 10001385	AH53 区画	青磁 稜花皿	-	-	-	胎土：灰白	竜泉窯系	写真図版 65-926 20103597
図 157-927 10001384	表採	青磁 稜花皿	12.0*	-	-	胎土：灰	竜泉窯系	写真図版 65-927 20103596
図 157-928 10001373	20tr 1 層	青花 碗	-	-	-	胎土：灰白		写真図版 65-928 20103622
図 157-929 10001367	AL48 区画	青花 皿	-	-	-	胎土：灰白	景德鎮窯系 小野 B1 群	写真図版 65-929 20103613
図 157-930 10001368	AH52 区画	青花 皿	-	-	-	胎土：灰白	小野 B 群	写真図版 65-930 20103614・3615
図 157-931 10001372	AG49 区画	青花 皿	-	-	-	胎土：灰白	小野 B 群	写真図版 65-931 20103620・3621
図 157-932 10001369	AF52 区画	青花 皿	-	-	-	胎土：灰白	小野 B 群	写真図版 65-932 20103616
図 157-933 10001374	22tr	青花 皿	-	-	-	胎土：灰白	小野 C 群	写真図版 65-933 20103623
図 157-934 10001370	AE・AF50 区画	青花 皿	-	-	-	胎土：灰白	小野 C 群	写真図版 65-934 20103618
図 157-935 10001422	AK48 区画	黒釉磁器 碗	-	-	-	胎土：灰白	中国 天目	写真図版 65-935 20103646
図 157-936 10001386	AK48 区画	青磁 皿	-	-	-	胎土：黄灰	高麗象嵌青磁	写真図版 65-936 20103598・3599
図 157-937 10001387	31tr 1 層	青磁 杯力	-	-	-	胎土：黄灰	高麗象嵌青磁	写真図版 65-937 20103600・3601
図 157-938 10001421	20tr	陶器 皿	-	-	-	胎土：灰黄	朝鮮王朝期 灰青陶器	写真図版 65-938 20103644
図 157-939 10001412	AK48 区画	須恵器系陶器 捏鉢	-	-	-	灰	東播諸窯系	写真図版 65-939 20103636
図 157-940 10001413	AK48 区画	須恵器系陶器 捏鉢	-	-	-	灰	東播諸窯系	写真図版 65-940 20103637
図 157-941 10001414	AH53 区画	須恵器系陶器 捏鉢	-	-	-	灰	東播諸窯系	写真図版 65-941 20103638
図 157-942 10001415	AH52 区画	須恵器系陶器 捏鉢	-	-	-	灰	東播諸窯系	写真図版 65-942 20103639
図 157-943 10001419	AF52 区画	須恵器系陶器 捏鉢	-	-	-	灰	東播諸窯系	写真図版 65-943 20103679
図 157-944 10001420	AF51 区画	須恵器系陶器 捏鉢	-	-	-	灰	東播諸窯系	写真図版 65-944 20103643
図 157-945 10001418	AK48 区画	瓦質土器 擂鉢	-	-	-	外：淡赤橙 内：淡赤橙・浅黄橙	防長系	写真図版 65-945 20103642
図 157-946 10001416	AF52 区画	瓦質土器 擂鉢	-	-	-	灰	防長系	写真図版 65-946 20103640
図 157-947 10001417	AJ50 区画	瓦質土器 足鍋	-	-	-	外：灰黄 内：灰白	防長系	写真図版 65-947 20103641
図 157-948 10001340	SD3009	土師器 杯	13.6	9.7	2.7	浅黄橙	底部糸切 板状圧痕	写真図版 65-948 20103539
図 157-949 10001341	SD3009	土師器 杯	-	9.1	-	にぶい黄橙	底部糸切 板状圧痕	写真図版 65-949 20103681

4) 3区近世の遺構と遺物

近世の遺構は3区南部で多く検出され、護岸状遺構、石列、溝、土坑などがある。現地では掘立柱建物について検討しているが、確実ではないため、報告していない。多くの遺構は水田・畑経営に伴う遺構とみられ、明確な建物などが確認できないことと合わせ、集落の縁辺部にあたるものと思われる。ここでは、遺構として護岸状遺構、廃棄土坑、便所跡と思われる遺構を報告し、時期が比較的限定できる遺構出土遺物についても述べる。

SX3009 (図 158)

3区東部に位置する。南北方向の段落ち際に0.2～1.1 mの大きさの石材(花崗岩)を長さ11 m程に渡って乱雑に積み上げた護岸状の遺構である。近世遺構群の東端を区切るものと考えられる。なお、現地ではSDの分類記号を付していたが、報告書作成段階でSXに改めている。遺物は肥前陶器皿、肥前染付磁器碗、中世の竜泉窯系青磁碗、青花皿、灰青陶器皿、土師器杯などが出土した。

SX3009 出土遺物 (図 162)

1007は朝鮮王朝期の灰青陶器皿の底部で、目跡が内外面に残る。1008は肥前染付磁器碗である。

SK3005 (図 158)

3区東南部に位置する。北東部分が削平されているが、長軸5.4 m以上、短軸4 m以上の大型の土坑で、南西部を更に長軸3.7 m、短軸2.2 mの平面不整楕円形に掘り込んでおり、深さ0.42 mである。遺物は、18世紀後半～19世紀初頭の肥前陶磁器が多数出土しており、他に土師器焙烙、瓦質土器鍋・火鉢などがある。

SK3005 出土遺物 (図 159・160)

950～952は肥前陶器碗で、952は内面見込みを蛇の目釉剥ぎしている。953は刷毛目文様の肥前陶器鉢で、内面見込みに目跡が輪状に残る。954・955は肥前陶器蓋で、954は外面に鉄絵を施す。956・957は肥前陶器摺鉢で、全面に施釉するタイプである。

958は肥前染付磁器蓋である。959～961は肥前染付磁器小碗で、960・961は小広東形である。962・963はセットとなる可能性が高い肥前染付磁器蓋・碗で、963の碗は広東形である。964・965は肥前青磁染付で、964は蓋、965は筒形碗である。966～975は肥前染付磁器碗である。966・969～971は丸碗で、966は内面見込みを蛇の目釉剥ぎしている。967・968は小広東形、971～975は腰が張り高台の低い丸碗である。976は肥前染付磁器蓋で、「白山町 人參三藏圓 玉屋製」と読める。977・978は肥前染付磁器瓶である。979～982は肥前染付磁器皿で、980は内面見込みを蛇の目釉剥ぎし、981・982は内面見込みにコンニャク印判による五弁花文を施す。

983～986は瓦質土器である。983は鍋、984は火鉢と思われ、外面はミガキである。985は鉢とすべきものである。986は火鉢で、外面に印刻文が施される。987は土師器焙烙の把手である。

SX3033 (図 158)

3区南東部に位置する。長軸2.41 m、短軸1.37 m、深さ0.47 mの平面隅丸長方形の掘形に、木桶の痕跡と思われる木片が2個並列して残るもので、形態から便所の可能性が高い。遺物は肥前陶器鉢、肥前染付磁器碗・鉢などが出土した。

SX3033 出土遺物 (図 163)

1009は肥前染付磁器鉢である。

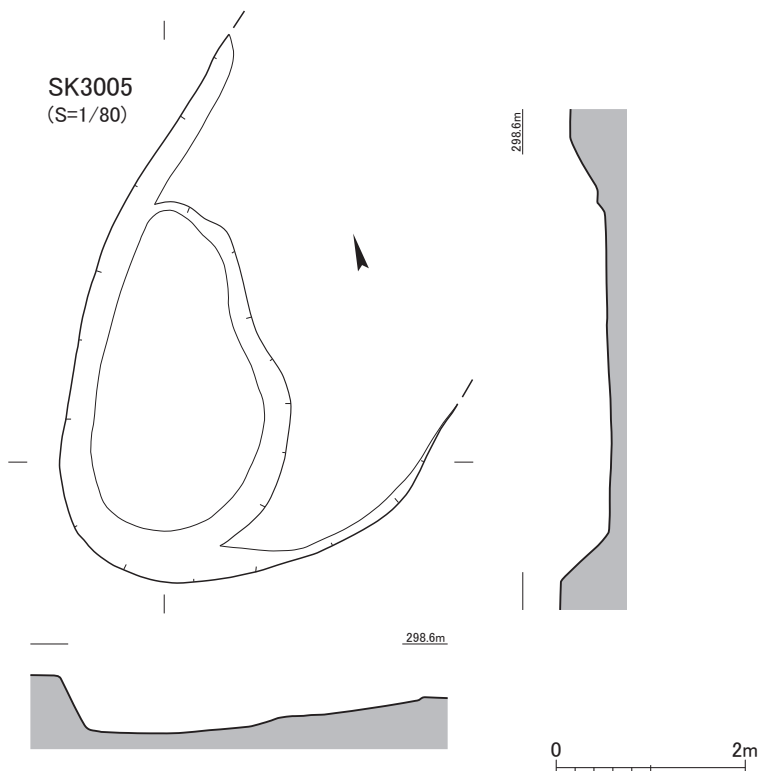
SD3007 出土遺物 (図 161・162)

SD3007は3区南東部に位置する溝状の遺構で(図 146)、18世紀前半を中心とする肥前陶磁器が多数出土して

SD3009
(S=1/80)



SK3005
(S=1/80)



SX3033
(S=1/40)

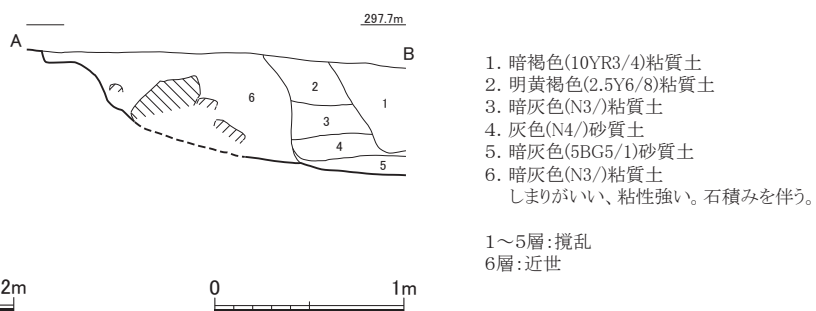
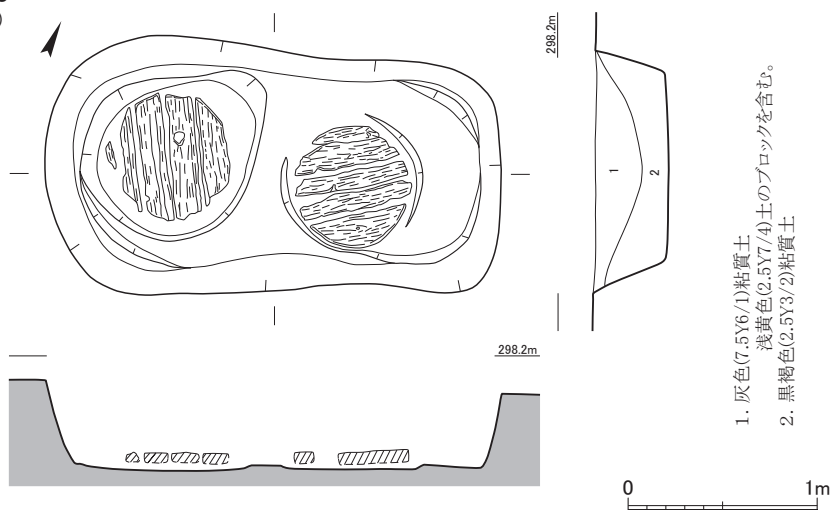


図 158 3区近世の遺構 (1/40・1/80)

いる。

988～999は肥前陶器である。988は小碗で、鉄釉が施される。989～993は碗で、989は京焼風陶器、990は外面銅緑釉、内面透明釉に掛け分けたもの、991は刷毛目文様と赤絵を施したもので、991～993は内面見込みを蛇の目釉剥ぎしている。994は皿で、内面見込みを蛇の目釉剥ぎしている。995は内面刷毛目文様の皿で、高台部は無釉である。996は刷毛目文様の鉢で、内面見込みを蛇の目釉剥ぎしている。997は内面刷毛目文様の鉢で、口縁部に鉄釉を流し掛けている。998・999は播鉢で、998は口縁部のみに施釉するもの、999は高台が付き全面に施釉するものである。

1000～1003は肥前染付磁器の丸形碗で、1001は内面見込みを蛇の目釉剥ぎしている。1004は肥前青磁火入で、内面は無釉である。

1005・1006は瓦質土器鍋で、1006は外面に把手が付くもので、焙烙とすべきものかもしれない。

その他の出土遺物（図163）

1010～1027は検出面などから出土したもので、出土位置は表中に示している。

1010～1017は肥前陶器皿であるが、1017は産地が異なる可能性がある。1012は多久市唐人古場窯の製品と思われ、1016は溝縁皿で、1017は内面に目跡が残る。1018は肥前陶器壺である。

1019は肥前色絵磁器皿で、内面見込みを蛇の目釉剥ぎしたのち、色絵を施している。1020・1021は肥前染付磁器皿で、1021は高台内にハリ支えの痕跡が残る。

1022～1026は滑石製品である。1022は把手が付く鍋形、1023は棒状、1024は歯車形、1025は分銅形、1026は小判形であるが、それぞれ用途は不明である。1027は石臼である。

SK3005

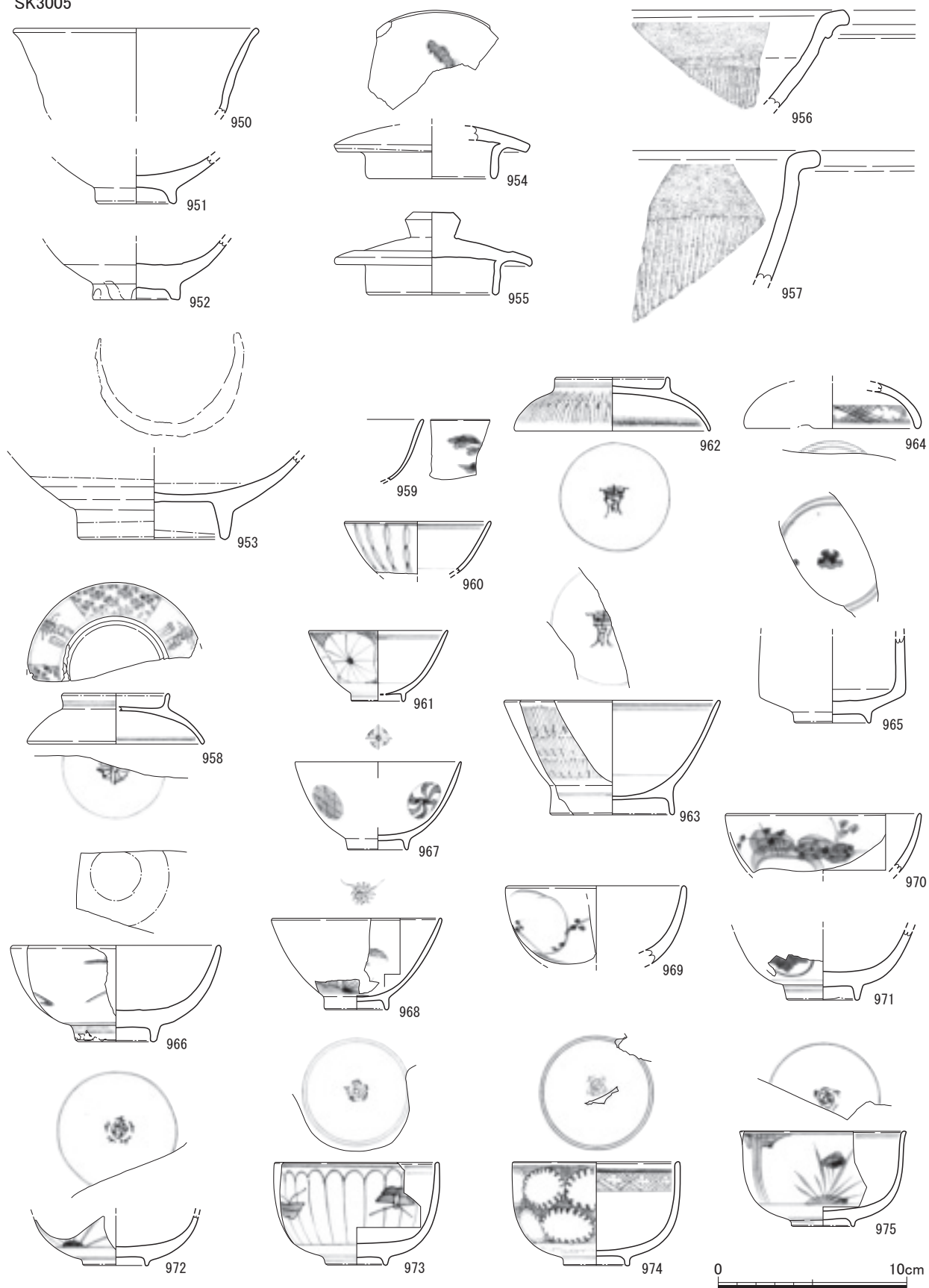


図 159 3 区出土近世の遺物 1 (1/3)

SK3005

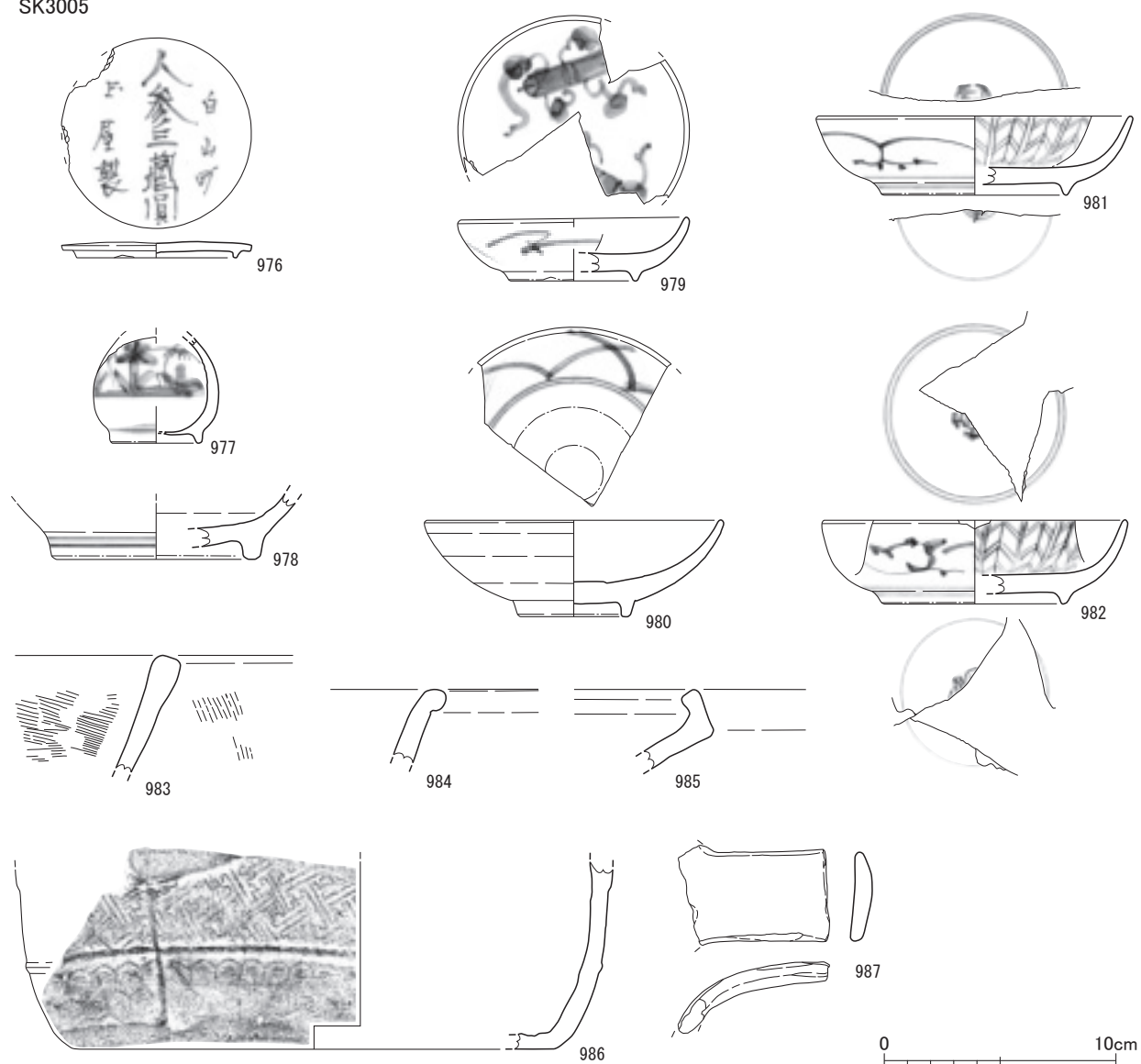


図 160 3区出土近世の遺物 2 (1/3)

SD3007

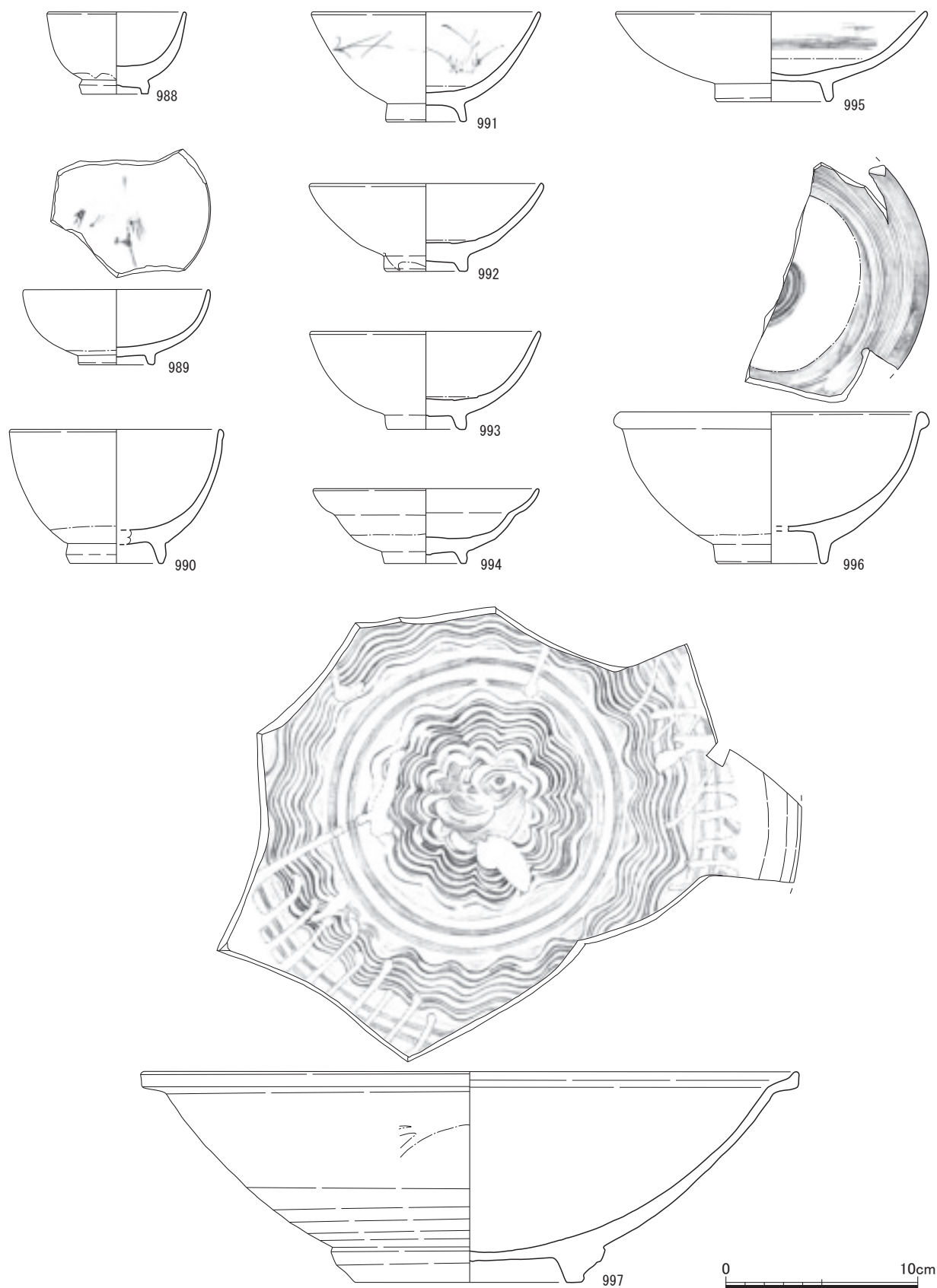


図 161 3 区出土近世の遺物 3 (1/3)

SD3007

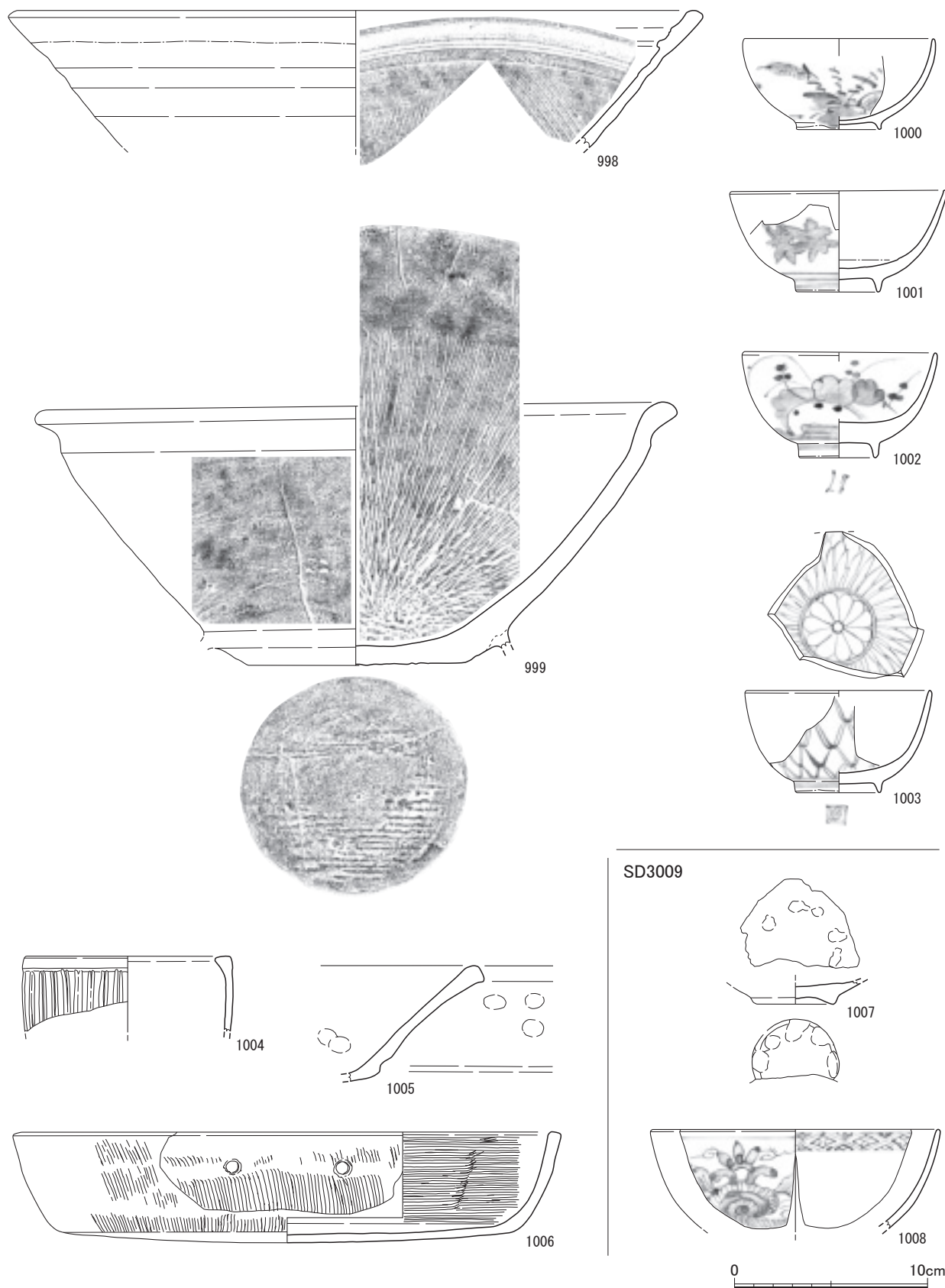


図 162 3区出土近世の遺物 4 (1/3)

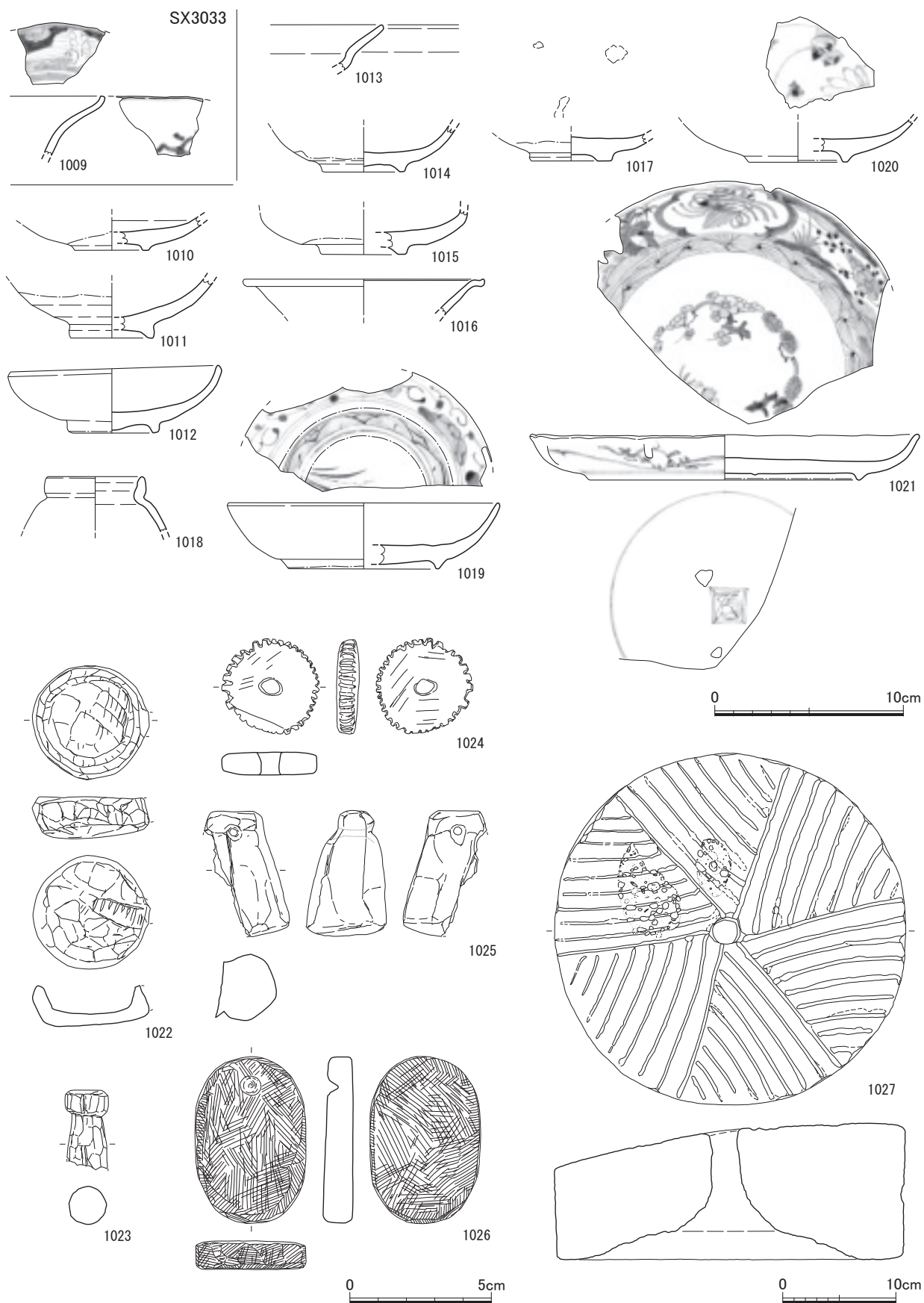


図 163 3区出土近世の遺物 5、石製品 (1009～1021 は 1/3、1022～1026 は 1/2、1027 は 1/5)

表 18 九郎遺跡 3 区近世の出土遺物

挿図 - 番号 登録番号	出土位置	種別 器種	寸法 cm			色調	備考	写真図版 写真登録番号
			口径	底径	器高			
図 159-950 10001410	SK3005	陶器 碗	13.0*	-	-	胎土：灰白	肥前 17c	写真図版 66-950 20103583
図 159-951 10001402	SK3005	陶器 碗	-	4.3*	-	胎土：灰白	肥前 17c 後半	写真図版 66-951 20103551
図 159-952 10001411	SK3005	陶器 碗	-	4.6*	-	胎土：灰白	肥前 17c 末～18c 前半	写真図版 66-952 20103554
図 159-953 10001408	SK3005	陶器 鉢	-	7.7*	-	胎土：橙	肥前 17c 末～18c 前半	写真図版 66-953 20103552
図 159-954 10001401	SK3005	陶器 蓋	7.0*	-	-	胎土：褐灰	肥前 18c 前半	写真図版 66-954 20103578
図 159-955 10001409	SK3005	陶器 蓋	6.9	3.0	4.4	胎土：にぶい赤褐	肥前 18c 後半～19c 前半	写真図版 66-955 20103553
図 159-956 10001399	SK3005	陶器 播鉢	-	-	-	胎土：灰白	肥前 18c ～	写真図版 66-956 20103577
図 159-957 10001400	SK3005	陶器 播鉢	-	-	-	胎土：橙	肥前 18c ～	写真図版 66-957 20103693
図 159-958 10001828	SK3005	染付磁器 蓋	9.4*	5.8*	2.7	胎土：灰白	肥前 1780 ～ 1810 年代	写真図版 66-958 20103573
図 159-959 10001812	SK3005	染付磁器 小碗	-	-	-	胎土：灰白	肥前	写真図版 66-959 20103628
図 159-960 10001816	SK3005	染付磁器 小碗	7.8*	-	-	胎土：灰白	肥前 18c 後半～19c 初	写真図版 66-960 20103629
図 159-961 10001813	SK3005	染付磁器 小碗	7.4*	2.8*	3.8	胎土：灰白	肥前 18c 後半	写真図版 66-961 20103557
図 159-962 10001832	SK3005	染付磁器 蓋	10.4	6.1	2.9	胎土：灰白	肥前 1780 ～ 1810 年代	写真図版 66-962 20103565
図 159-963 10001811	SK3005	染付磁器 碗	11.5*	6.6*	6.1	胎土：灰白	肥前 1780 ～ 1810 年代	写真図版 66-963 20103556
図 159-964 10001809	SK3005	青磁染付 蓋	9.4*	-	-	胎土：灰白	肥前 18c 後半	写真図版 66-964 20103627
図 159-965 10001825	SK3005	青磁染付 碗	-	4.1	-	胎土：灰白・にぶい黄橙	肥前 18c 後半	写真図版 66-965 20103564
図 159-966 10001818	SK3005	染付磁器 碗	11.2*	4.4*	5.1	胎土：灰白	肥前 18c 中頃～後半	写真図版 66-966 20103560
図 159-967 10001814	SK3005	染付磁器 碗	8.8	3.2	4.7	胎土：灰白	肥前 1780 ～ 1810 年代	写真図版 66-967 20103558
図 159-968 10001815	SK3005	染付磁器 碗	9.1*	3.4	4.9	胎土：灰白	肥前 18c 後半～19c 初	写真図版 66-968 20103559
図 159-969 10001823	SK3005	染付磁器 碗	9.6*	-	-	胎土：灰白	肥前 18c 中頃～後半	写真図版 66-969 20103632
図 159-970 10001822	SK3005	染付磁器 碗	10.4*	-	-	胎土：灰白	肥前（波佐見力） 18c 前半～中頃	写真図版 66-970 20103631
図 159-971 10001824	SK3005	染付磁器 碗	-	3.9	-	胎土：灰黄褐	肥前 18c 中頃～後半	写真図版 66-971 20103633
図 159-972 10001827	SK3005	染付磁器 碗	-	3.5	-	胎土：灰白	肥前 18c 後半	写真図版 66-972 20103634
図 159-973 10001819	SK3005	染付磁器 碗	8.8*	3.3	5.5	胎土：灰白	肥前 18c 後半	写真図版 66-973 20103561
図 159-974 10001820	SK3005	染付磁器 碗	8.9	3.5	5.5	胎土：灰白	肥前 18c 後半	写真図版 66-974 20103562
図 159-975 10001821	SK3005	染付磁器 碗	8.9*	3.4*	5.1	胎土：灰白	肥前 1780 ～ 1810 年代	写真図版 66-975 20103563
図 160-976 10001808	SK3005	染付磁器 蓋	6.9	-	0.6	胎土：灰白	肥前 19c 前半	写真図版 66-976 20103763
図 160-977 10001810	SK3005	染付磁器 瓶	-	4.0	-	胎土：灰白	肥前 19c	写真図版 66-977 20103555

表 18 九郎遺跡 3 区近世の出土遺物

挿図・番号 登録番号	出土位置	種別 器種	寸法 cm			色調	備考	写真図版 写真登録番号
			口径	底径	器高			
図 160-978 10001817	SK3005	染付磁器 瓶	-	9.0*	-	胎土：灰白	肥前 18c 末～19c	写真図版 66-978 20103630
図 160-979 10001829	SK3005	染付磁器 皿	10.0	5.6	2.7	胎土：灰白	波佐見系 18c 前半	写真図版 66-979 20103574
図 160-980 10001826	SK3005	染付磁器 皿	12.9*	4.9*	4.2	胎土：灰白	波佐見系 18c 後半	写真図版 66-980 20103570
図 160-981 10001831	SK3005	染付磁器 皿	13.7*	8.1*	3.4	胎土：灰白	肥前 1780～1810 年代	写真図版 66-981 20103572
図 160-982 10001830	SK3005	染付磁器 皿	13.2*	7.9	3.6	胎土：灰白	肥前 1780～1810 年代	写真図版 66-982 20103571
図 160-983 10001406	SK3005	瓦質土器 鍋	-	-	-	灰白	外面煤付着	写真図版 66-983 20103582
図 160-984 10001405	SK3005	瓦質土器 火鉢	-	-	-	外：黄灰 内：褐灰		写真図版 66-984 20103581
図 160-985 10001404	SK3005	瓦質土器 鉢力	-	-	-	外：灰黄 内：灰白		写真図版 66-985 20103580
図 160-986 10001407	SK3005	瓦質土器 火鉢	-	21.0*	-	外：灰 内：黄灰		写真図版 66-986 20103694
図 160-987 10001403	SK3005	土師器 焙烙	-	-	-	にぶい橙		写真図版 66-987 20103579
図 161-988 10001360	SD3007	陶器 小碗	7.3*	3.5	4.3	胎土：灰白	内野山窯 17c 末～18c 前半	写真図版 66-988 20103547
図 161-989 10001357	SD3007	陶器 碗	9.8*	4.0	4.9	胎土：淡黄	肥前 17c 末～18c 前半	写真図版 66-989 20103567
図 161-990 10001356	SD3007	陶器 碗	11.2*	4.9*	7.0	胎土：灰白	内野山窯 17c 末～18c 前半	写真図版 66-990 20103544
図 161-991 10001361	SD3007	陶器 碗	12.0*	4.2*	5.8	胎土：淡黄	肥前（志田力） 18c 前半	写真図版 66-991 20103548
図 161-992 10001358	SD3007	陶器 碗	12.3*	4.3	4.6	胎土：灰白	内野山窯 17c 末～18c 前半	写真図版 66-992 20103545
図 161-993 10001362	SD3007	陶器 碗	12.1*	4.1	5.1	胎土：淡黄	内野山窯 17c 末～18c 前半	写真図版 66-993 20103549
図 161-994 10001359	SD3007	陶器 皿	11.8*	4.3	4.9	胎土：灰白	内野山窯 17c 末～18c 前半	写真図版 66-994 20103546
図 161-995 10001364	SD3007	陶器 皿	16.2*	6.2	4.7	胎土：浅黄	肥前 17c 末～18c 前半	写真図版 66-995 20103550
図 161-996 10001363	SD3007	陶器 鉢	16.4*	5.8*	7.9	胎土：橙	肥前 17c 末～18c 前半	写真図版 67-996 20103568
図 161-997 10001365	SD3007	陶器 鉢	34.3*	12.0	11.0	胎土：にぶい赤褐	肥前 17c 末～18c 前半	写真図版 67-997 20103575
図 162-998 10001355	SD3007	陶器 播鉢	36.1*	-	-	胎土：灰赤	肥前 17c 後半	写真図版 67-998 20103688
図 162-999 10001366	SD3007	陶器 播鉢	33.2	-	13.6*	胎土：にぶい赤褐	肥前（志田） 18c 前半	写真図版 67-999 20103576
図 162-1000 10001354	SD3007	染付磁器 碗	10.0*	4.4	4.7	胎土：灰白	肥前 18c 前半	写真図版 67-1000 20103543
図 162-1001 10001348	SD3007	染付磁器 碗	11.3*	4.4	5.3	胎土：灰白	肥前 18c 前半～中頃	写真図版 67-1001 20103540
図 162-1002 10001349	SD3007	染付磁器 碗	10.1*	4.1*	5.5	胎土：灰白	波佐見系 18c 前半～中頃	写真図版 67-1002 20103541
図 162-1003 10001350	SD3007	染付磁器 碗	9.7*	4.5	5.3	胎土：灰白	肥前 18c 前半～中頃	写真図版 67-1003 20103542
図 162-1004 10001351	SD3007	青磁 火入	10.7*	-	-	胎土：灰白	肥前（波佐見力） 17c 末～18c 前半	写真図版 67-1004 20103592
図 162-1005 10001353	SD3007	瓦質土器 鍋	-	-	-	外：黒 内：灰黄	外面煤付着	写真図版 67-1005 20103695

表 18 九郎遺跡 3 区近世の出土遺物

挿図・番号 登録番号	出土位置	種別 器種	寸法 cm			色調	備考	写真図版 写真登録番号
			口径	底径	器高			
図 162-1006 10001352	SD3007	瓦質土器 鍋	28.3*	23.5*	5.8	灰黄褐	外面煤付着	写真図版 67-1006 20103566
図 162-1007 10001344	SD3009	陶器 皿	-	3.9	-	胎土：灰白	朝鮮王朝期 灰青陶器	写真図版 67-1007 20103586・3587
図 162-1008 10001346	SD3009	染付磁器 碗	14.8*	-	-	胎土：灰白	肥前 18c 後半	写真図版 67-1008 20103590
図 163-1009 10001377	SX3033	染付磁器 鉢	-	-	-	胎土：灰白	肥前 19c 前半	写真図版 67-1009 20103624
図 163-1010 10001394	AE53 区画	陶器 皿	-	3.9*	-	胎土：灰白	肥前（山瀬窯力） 16c 末	写真図版 67-1010 20103607
図 163-1011 10001392	AE53 区画	陶器 皿	-	4.6*	-	胎土：にぶい黄橙	肥前（山瀬窯力） 16c 末	写真図版 67-1011 20103605
図 163-1012 10001390	AL48 区画	陶器 皿	11.4	4.8	3.6	胎土：黄灰	唐人古場窯 1590～1600 年代	写真図版 67-1012 20103690
図 163-1013 10001388	31tr 1 層	陶器 皿	-	-	-	胎土：明赤褐	肥前 16c 末～17c 初	写真図版 67-1013 20103602
図 163-1014 10001391	31tr 1 層	陶器 皿	-	4.5*	-	胎土：にぶい橙	肥前 16c 末～17c 初	写真図版 67-1014 20103604
図 163-1015 10001393	31tr 1 層	陶器 皿	-	4.6*	-	胎土：にぶい黄橙	肥前 16c 末～17c 初	写真図版 67-1015 20103606
図 163-1016 10001389	1tr	陶器 皿	12.8*	-	-	胎土：灰白	肥前 1610～1630 年代	写真図版 67-1016 20103603
図 163-1017 10001395	AE53 区画	陶器 皿	-	4.5	-	胎土：灰白	肥前力	写真図版 67-1017 20103608
図 163-1018 10001398	AE51 区画	陶器 壺	5.2*	-	-	胎土：にぶい橙	肥前 16c 末～17c 初	写真図版 67-1018 20103612
図 163-1019 10001376	AH46 区画	色絵磁器 皿	14.4*	8.0*	3.5	胎土：灰白	肥前 18c 前半～中頃	写真図版 67-1019 20103569
図 163-1020 10001380	AG50 区画	染付磁器 皿	-	5.3*	-	胎土：灰白	肥前 17c	写真図版 67-1020 20103593
図 163-1021 10001375	AH46 区画	染付磁器 皿	20.7*	14.6*	2.4	胎土：灰白	肥前（有田力） 18c 中頃	写真図版 67-1021 20103691・3692
図 163-1022 08000278	AF52 区画	石製品 不明	長 4.2	幅 4.0	厚 1.5		滑石製 重量 22.2g	写真図版 67-1022 20103742・3743
図 163-1023 08000277	AE53 区画	石製品 不明	長 2.8	幅 1.5	-		滑石製 重量 8.9g	写真図版 67-1023 20103741
図 163-1024 08000280	AE50 区画	石製品 不明	径 3.5	孔径 0.7	厚 0.8		滑石製 重量 15.2g	写真図版 67-1024 20103745
図 163-1025 08000279	AH53 区画	石製品 不明	長 4.5	幅 3.0	厚 2.8		滑石製 重量 35.6g	写真図版 67-1025 20103744
図 163-1026 10001773	SD3007	石製品 不明	長 5.9	幅 3.9	厚 1.0		滑石製力 重量 50.2g	写真図版 67-1026 20103746
図 163-1027 10002016	AI46 区画	石製品 石臼	径 31.0	孔径 2.2	厚 12.0			

5 まとめ

九郎遺跡 1～3 区では縄文時代と中世～近世の遺構・遺物などを調査した。今回の調査で重要な成果である 1 区の縄文時代、2・3 区の中世～近世の様相について簡単にまとめておきたい。

1) 1 区縄文時代について

1 区では、縄文時代早期中葉～中期前半の集落跡が確認され、遺構として集石遺構・土坑を検出し、遺物として土器・石器が多数出土した。出土遺物のうち主体となるのは、土器が早期中葉の押型文土器と前期前半の轟 B 式系土器で、石器が狩猟具の石鏃である。

集石遺構については、構成礫の数量や集中度には差があるが、掘り込みをもたないものが大多数である。被熱により赤化した礫が多数を占める状況から、集石炉を構成する礫群であると考えられるが、炉としての原形をとどめている遺構があるかどうかは確認できていない。明確な掘り込みをもつ SX1117・1120 は規模や礫の出土状況からみて、集石炉ではなく、礫を廃棄したものの可能性がある。時期については、早期中葉～前期前半とみられるが、更に絞り込むことは難しい。

押型文土器（1 類）については 1B・1C 区で主に出土し、口縁部が直線的な器形や横走る山形文・楕円文がほとんどであること、楕円文の形状などからみて、稲荷山～早水台式併行期のものが多く、下菅生 B～田村式併行期のものは少ない。口縁外面に無文帯があり、ベルト状施文を思わせるものも一定量みられる。また、9 類とした無文土器は大部分が押型文土器に伴うものと考えられるが、押型文土器に比べ、明らかに出土量は少ない。これは、西北九州地域では北・東九州地域とは異なり、押型文土器に伴う無文土器が量的に極めて少ないという指摘（水ノ江 1998）と符合する様相であり、地域色を表しているものと考えられる。なお、1C 区出土 580 は 1 類に含めたが、類例を含め検討が必要である。

轟 B 式系土器（6 類）については 1A・1B 区で主に出土し、「屈曲形」がほとんどで、「単純形」がごく少量しかないという特徴がある。「屈曲形」には刺突文・押引文・沈線文・突帯文によってさまざまな文様が施されており、器形も全形を知ることができる個体は少ないが、屈曲の程度などはさまざまであり、多様性に富む土器群であるといえる。1A 区出土土器には、鉢形や平面方形をなすものがみられ、器種分化が進んでいたことをうかがわせる。

塞ノ神 B 式系土器（4 類）も 1C 区を中心に比較的まとまって出土した。器壁の厚さや文様構成などから時期幅があり、新しい様相を示す土器も一定量ある。船元式系土器（8 類）は出土量が少ないものの、ある程度器形を知ることができるものがあり、中期前半の貴重な例となる。10 類としたものは詳しく検討していないが、大部分が早期のもので、押型文土器以前の早期前葉のものを含むと思われる。

石器では、石鏃が多数を占め、次いで削器・搔器が多く、石斧や磨石などの磨製石器・礫石器は非常に少ない。削器・搔器を解体具とすると、狩猟を主な生業としていたことが考えられ、このような石器組成の傾向は、九郎遺跡 1 区から約 3 km 南西側に位置する早期中葉～晩期後半各時期の遺構・遺物が確認された西畑瀬遺跡と同様であり、嘉瀬川ダム事業地内で確認される縄文時代のほとんどの遺跡に共通する特徴といえる。石鏃の形態は、平面二等辺三角形で凹基のものと押型文土器に伴うことが多い鋏形鏃が、かなりの比率を占め、長脚のものもみられる。

以上のような遺構・遺物の特徴と竪穴住居など定住をうかがわせる資料がないことなどから、1 区では早期中葉～前期前半にかけて短期間居住して狩猟活動を行う基地であったことが想定される。同じような状況が本書で報告した小ヶ倉遺跡や入道遺跡、また西畑瀬遺跡などでもみられることから、嘉瀬川中流域における縄文時代の遺跡の特徴を示していると考えられる。それぞれの時期で拠点となる集落がどこに存在したのかを含め、より広範囲の遺跡の分析を行うことで、縄文時代の生活の様相を知ることができるものと思われる。

2) 2区中世～近世について

2区の中世前期以前については、明確な遺構は確認できなかったものの、調査区全域で遺物が出土しており、何らかの施設などがあったことが考えられる。遺物からみると、平安時代末期～鎌倉時代の12・13世紀代の遺物が散見され、更に古代と考えられる土師器も出土していることから、脊振山間部では比較的古くから開発が始まっていたことが推測される。

中世後期～近世初頭では、2a区で戦国期に遡る可能性がある造成面が検出され、遺物も16～17世紀初頭のものも多く出土しており、戦国期に大規模な開発があったことをうかがわせる。今回の調査では、建物などの遺構は確認できなかったものの、旧地形などをみると試掘坑5周辺（現橋脚部）に何らかの施設があった可能性が高い。性格などは不明であるが、集落としては非常に狭い地形であること、栗並川を挟んだ東側の山塊に小規模な山城が存在すること、佐賀と唐津・前原方面を結ぶ街道から栗並本村への入口にあたることなどから、栗並本村の防御を固めるための施設があった可能性がある。この点で天文18（1549）年の「肥前国小城郡栗並山之内両門之事」という文献は興味深く、「門」を関所のようなものとすれば、2区で想定される施設と関連があるのかもしれない。

近世では、建物跡や水田にかかわる石積などを確認した。建物は2c区で検出された1棟だけであるが、その北側の平坦面にも広がっていた可能性がある。建物の時期は、周辺から出土した遺物を含めてみると18世紀中頃～後半のものと考えられ、江戸時代後期の絵図「小城郡山内郷」では、この部分が屋敷地とされており、調査結果と符合する。

3) 3区中世～近世について

3区の中世前期では、調査区東部に掘立柱建物や鍛冶関連遺構、西部に土坑墓が位置しており、分布に偏りがあるが、いずれも鎌倉時代の13世紀代を主体とする。

この時期の遺構としては、鍛冶関連遺構と土坑墓が注目される。鍛冶関連遺構は、炉跡と作業場と考えられる竪穴遺構があり、SX3008 竪穴遺構は出土遺物から13世紀代とみられ、SX3076 炉跡もこれに近い時期であろう。周辺から出土したものを含め鍛冶関連遺物が多数あるが、いずれも鍛錬鍛冶に係わるもので、遺構の状況と合わせて、精錬鍛冶は行われていなかったものと推測される。周辺には掘立柱建物があるものの、密度などからみて、集落中心部ではないため、縁辺部で小規模な鍛冶を行っていた可能性が高い。

土坑墓は単独で確認され、掘立柱建物や柵列、鍛冶関連遺構が集中する部分からも離れている。副葬品は中国磁器6点（青磁碗2点・白磁皿4点）と漆製品で、13世紀後半代のものと考えられる。中国磁器を6点も副葬した例は全国的にも稀であり、県内では佐賀市大和町東古賀遺跡で5点以上副葬した墓が5基ある程度である。東古賀遺跡では、青磁碗2点に白磁皿3～5点がセットとなっており、セット関係では共通する部分が多い。このような副葬品の状況から、被葬者は鎌倉時代の在地領主であった可能性がある。

中世後期では、遺構は確認できないが、16世紀代を中心として陶磁器などの遺物が出土した。定量的な分析は行っていないが、印象として14・15世紀代のものが少ないように感じる。大串川を挟んだ西側には14・15世紀代を中心とする屋敷地が確認された大串遺跡1区があり、集落の移動があったかもしれない。

近世では、調査区南部を中心に遺構が確認されるが、土地開発や水田・畑経営に伴う遺構が多い。江戸時代後期の絵図「小城郡山内郷」では、調査区南部に屋敷地の表現が描かれているが、この周辺では廃棄土坑や便所と思われる遺構が確認されており、調査結果と符合するものと考えられる。遺物は17世紀中頃～後半の資料が少ないが、16世紀末～19世紀のものが出土した。このうち、SK3005 出土遺物は18世紀末～19世紀初頭、SD3007 出土遺物は18世紀前半の陶磁器の消費地における様相を示す資料と考えられる。

第 5 章 参考・引用文献

- 上田秀夫（1982）「14 ～ 16 世紀の青磁碗の分類」『貿易陶磁研究』No. 2 日本貿易陶磁研究会
- 小野正敏（1982）「15、16 世紀の染付碗、皿の分類とその年代」『貿易陶磁研究』No. 2 日本貿易陶磁研究会
- 嘉瀬川ダム建設に伴う学術調査委員会（2000）『嘉瀬川ダム建設に伴う学術調査報告書』富士町教育委員会
- 九州近世陶磁学会（2000）『九州陶磁の編年』
- 佐賀県教育委員会（2009）『西畑瀬遺跡 2・大串遺跡』佐賀県文化財調査報告書第 180 集
- 太宰府市教育委員会（2000）『大宰府条坊跡 X V—陶磁器分類編一』太宰府市の文化財第 49 集
- 徳永貞紹（1990）「肥前における中世後期の在地土器」『中近世土器の基礎研究 VI』日本中世土器研究会
- 水ノ江和同（1998）「九州における押型文土器の地域性」『九州の押型文土器』九州縄文研究会
- 森田 勉（1982）「14 ～ 16 世紀の白磁の型式分類と編年」『貿易陶磁研究』No. 2 日本貿易陶磁研究会
- 森本朝子・片山まび（2000）「博多出土の高麗・朝鮮陶磁の分類試案」『博多研究会誌』第 8 号 博多研究会
- 山本信夫（1990）「統計上の土器—歴史時代土師器の編年研究によせて—」『九州上代文化論集』乙益重隆先生古稀記念論文集刊行会